沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書　第 119 集

トリイ通信施設内埋蔵文化財発掘調査報告書

―楚辺親見原遺跡 A ～ D・楚辺徳地原遺跡 B ～ G・渡具知後原遺跡 A
・古堅通地原遺跡 A・大湾親見原遺跡 A・大湾糸蒲原遺跡 A―

令和 7(2025) 年 3 月

沖縄県立埋蔵文化財センター

沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書　第 119 集

トリイ通信施設内埋蔵文化財発掘調査報告書

―楚辺親見原遺跡 A ～ D・楚辺徳地原遺跡 B ～ G・渡具知後原遺跡 A
・古堅通地原遺跡 A・大湾親見原遺跡 A・大湾糸蒲原遺跡 A―

令和 7(2025) 年 3 月

沖縄県立埋蔵文化財センター

序

本報告書は、沖縄県立埋蔵文化財センターが沖縄防衛局より委託を受け、令和元年度から３年度に実施した、嘉手納飛行場以南の土地の返還に係るトリイ通信施設内への移設整備に伴う楚辺親見原遺跡 A から D、楚辺徳地原遺跡 B から G、渡具知後原遺跡 A、古堅通地原遺跡 A、大湾親見原遺跡 A、大湾糸蒲原遺跡 A の発掘調査成果をまとめたものです。

発掘調査により、各遺跡では遺構や谷状地形が確認でき、縄文時代後・晩期から弥生並行期、グスク時代の堆積が確認でき、各時期の遺物も多数出土しました。

その中でも特に、楚辺親見原遺跡 A や楚辺徳地原遺跡 C では、縄文時代晩期から弥生並行期の竪穴住居跡を確認しました。楚辺親見原遺跡 A で確認した竪穴住居跡からは、奄美地域や九州で製作されたと考えられる土器や、県内では採集できない石材で製作された石器が出土しており、そこから奄美や九州との交流があったことが窺えます。

楚辺徳地原遺跡 C・D・F や古堅通地原遺跡 A、大湾親見原遺跡 A、大湾糸蒲原遺跡 A ではグスク時代の掘立柱建物跡が 100 棟以上確認できました。これらの建物跡は、その特徴や出土する遺物の状況から、当時の建物の変遷や時期、生活様式の一端を知ることができました。

本報告書が沖縄の歴史・文化を理解する資料として利用されるとともに、地域における文化財の保存・活用の一助になれば幸いです。

最後となりましたが、現地調査ならびに資料整理にあたり、多大なご協力を賜りました読谷村教育委員会をはじめとした関係機関ならびに関係各位に心から御礼申し上げます。

令和７（2025）年３月

沖縄県立埋蔵文化財センター
所　長　　池田　潤

例　言

1　本報告書は、沖縄防衛局によるトリイ通信施設内のキャンプ瑞慶覧及び、牧港補給地区の一部返還に伴う陸軍関連施設移転事業に際して、楚辺親見原遺跡 A ～ D、楚辺徳地原遺跡 B・C ～ G、渡具知後原遺跡 A、古堅通地原遺跡 A、大湾親見原遺跡 A、大湾糸蒲原遺跡 A の記録保存を目的とした発掘調査及び資料整理の成果をまとめたものである。

2　本発掘調査および資料整理業務は、沖縄防衛局と沖縄県が委託契約を交わし、沖縄県教育庁文化財課の指導のもと、読谷村教育委員会など関係者の協力を得て、沖縄県立埋蔵文化財センターが実施した。

3　現地での発掘調査は令和元～３年度に実施し、資料整理作業・発掘調査報告書作成は令和元～６年度に実施した。

4　本書に掲載した地図データは国土地理院の電子国土 Web システムから配信されたものを使用している。

5　本書に掲載した 1945 年撮影航空写真は、沖縄県公文書館より提供されたものである。

6　本書に掲載した航空写真は国土地理院の地図・空中写真閲覧サービスから配信されたものである。

7　本報告で掲載した緯度、経度、平面直角座標は、すべて世界測地系の第 XV 系である。

8　土色は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色帖」に基づく。

9　本報告書の編集は、当センター埋蔵文化財資料整理員の協力を得て、宮城淳一が行った。執筆は、下記以外は宮城が行った。

第３章 第３節　第１項 遺物の分類と概要：骨製品
…照屋匠美
第３章 第３節 第１項 遺物の分類と概要：石器・石製品・石造物・石材…大堀皓平
第３章 第３節 第２項 ２グスク時代
楚辺徳地原遺跡 C 区…平良和輝
第４章 人骨…屋比久大翔
第５章 自然科学分析…
パリノ・サーヴェイ株式会社

10　本報告書に掲載された写真は、現地調査状況を瀬戸哲也、具志堅清大、照屋匠美、宮城淳一、太田樹也、高原彬浩が撮影した。遺物写真は宮城淳一、具志みどり、平良和輝、主税和賀子、仲里由利、比嘉なおみ、宮城初枝が撮影した。

11　各章で参考・引用した文献一覧は、巻末にまとめた。

12　現地調査で得られた遺物、実測図及び写真等の記録は、全て沖縄県立埋蔵文化財センターに保管している。

目　次

挿図目次

挿表目次

挿図版目次

第１章　発掘調査に至る経緯と経過

第１節　調査に至る経緯

平成 25 年４月に公表された嘉手納飛行場以南の土地の返還 (沖縄統合計画) において、代替移設地の一つとしてトリイ通信施設が対象となったことに伴い、沖縄防衛局から読谷村教育委員会 (以下「村教委」) へ平成 26 年９月５日付で埋蔵文化財の有無について照会があり、村教委は平成 26 年９月 16 日付で試掘調査が必要と回答した。これを受けて沖縄防衛局は平成 27 から 29 年度に試掘調査が実施できるよう沖縄県教育委員会 (以下「県教委」) と村教委に依頼した。その後三者で協議した結果、現場作業は発掘調査を専門的に行う民間会社へ発注し、その指導監理を村教委が行うことになった。ただ、平成 27 年度に関しては、村教委の体制が整わないことから、村教委の要請 (平成 26 年 12 月２日付) を受けて沖縄県立埋蔵文化財センター (以下「県センター」) が実施した。

試掘調査の結果、計画地内に 15 遺跡が分布することが判明した。これに伴い平成 30 年度に沖縄防衛局は早期の工事着工のため、埋蔵文化財の記録保存調査を行うよう村教委及び県教委に求め、協議・調整が行われた。その結果、村教委は最も急を要する楚辺徳地原遺跡Ａ・Ｂの発掘調査を平成 30 年度から令和元年度まで行うこととなった。しかし、それ以外の調査は体制上の理由で困難として県教委に支援を要請し、沖縄県教育庁文化財課（以下「県文化財課」）は、平成 31（令和元）年度以降の発掘調査は県センターが実施することとし、令和元年度は楚辺親見原遺跡 A から C、令和２年度は楚辺徳地原遺跡Ｃ・Ｄ・Ｆ、楚辺親見原遺跡Ｄの記録保存調査を行うことになった。

村教委・県センターの記録保存調査が進む中で、各調査区外にも遺跡が広がる状況が確認され始めていた。その中で、令和元年度から２年度において、楚辺徳地原遺跡Ａ・Ｂと楚辺親見原遺跡Ａ・Ｂの間にも遺構が伸びる可能性が指摘されたため、沖縄防衛局が発掘調査を専門的に行う業者へ現地作業を発注し、村教委が立ち会う範囲確認調査を実施した。その結果、遺構や遺物包含層が確認されたことにより、この部分についても本調査を行うことになった。ちなみに、令和２年度においても楚辺徳地原遺跡Ｃ・Ｄ・Ｆで調査区外に遺構が広がることが確認され、沖縄防衛局に対し建設工事には、その点を留意するよう注意を促している。

令和３年度は、先述の確認調査で確認された楚辺徳地原遺跡Ａと楚辺親見原遺跡 A の追加部分、楚辺徳地原遺跡Ｅ・Ｇ、渡具知後原遺跡Ａ、古堅通地原遺跡Ａ、大湾糸蒲原遺跡Ａ、大湾親見原遺跡Ａ区の本調査に入ることになった。

第２節　調査体制

本報告のトリイ通信施設内の発掘調査は、令和元年度から令和３年度に現地での発掘作業を行い、令和元年度から令和６年度に資料整理・報告書作成を行った。実施体制は以下のとおりである。

事業形態　沖縄防衛局受託事業
事業時期　令和元 (2019) 年度～令和６(2024) 年度
　発掘調査　令和元年度～令和３年度
　資料整理　令和元年度～令和６年度
事業主体　沖縄県教育委員会
　教育長　平敷昭人 (令和元年度)、金城弘昌 (令和２・３年度)、半嶺満 (令和４～６年度)
事業主管　沖縄県教育庁文化財課
　課長　濱口寿夫 (令和元年度)、諸見友重 (令和２・３年度)、瑞慶覧勝利 (令和４～６年度)
　記念物班長　仲座久宜 (令和元～４年度)、新垣力 (令和５・６年度)
　主任専門員　知念隆博 (令和元年度)、大堀皓平 (令和３・４年度)、具志堅清大 (令和５・６年度)
　主任　宮城淳一 (令和２年度)、具志堅清大 (令和４年度)、奥平大貴（令和６年度）
調査所管　沖縄県立埋蔵文化財センター
　所長　城田久嗣 (令和元年)、瑞慶覧勝利 (令和２・３年度)、前田直昭 (令和４・５年度)、池田潤（令和６年度)
　副参事兼調査第２班長　仲座久宜 (令和６年度)
　調査班長　中山晋 (令和元～５年度)
　調査担当　主任専門員　瀬戸哲也 (令和元・２年度)
　　主任　具志堅清大 (令和元～３年度)、宮城淳一 (令和３年度)、照屋匠美 (令和３年度)
　　専門員　照屋匠美 (令和元・２年度)、廣岡凌 (令和元・２年度)、奥平大貴 (令和３年度)
　　専門員 (臨任)　太田樹也 (令和３年度)
　調査補助
　　史跡・埋蔵文化財調査員　國吉ななせ (令和元年度)、高原彬浩 (令和元～３年度)、古堅智恵美 (令和２・３年度)
　整理担当
　　主任専門員　瀬戸哲也 (令和元・２年度)、宮城淳一 (令和５・６年度)
　　主任　具志堅清大 (令和元・２年度)、照屋匠美 (令

和３年度)、宮城淳一 (令和３・４年度)
専門員　照屋匠美 (令和元・２年度)、廣岡凌 (令和元・２年度)
整理協力：主任　亀島慎吾 (令和３・４年度)、主任　奥平大貴 (令和４～６年度)、専門員　屋比久大翔 (令和４～６年度)
整理補助
史跡・埋蔵文化財調査員　島袋桃子 (令和元年度)、平良和輝 (令和元年度)、波照間紗季 (令和元年度)
埋蔵文化財資料整理員　池宮城聡子 (令和元～３年度)、伊禮若菜 (令和元年度)、上田麻紀子 (令和元年度)、狩俣由利 (令和２～６年度)、儀間真章 (令和３年度)、具志みどり (令和３～６年度) 崎原美智子 (令和元・２年度)、島仲美香 (令和２年度)、下地勝恵 (令和２・３年度)、新城京美 (令和元年度)、鈴木友璃子 (令和元年度)、平良和輝 (令和６年度)、主税和賀子 (令和４～６年度)、手嶋永子 (令和元年度)、照屋芳美 (令和元年度)、渡慶次学 (令和元年度)、富山由貴 (令和元年度)、比嘉なおみ (令和元～５年度)、比嘉幸恵 (令和４年度)、宮城初枝 (令和３～５年度)、宮城友香 (令和元年度)

業務委託
発掘調査支援業務委託
株式会社島田組 (令和元年度)
調査員　藤本信幸
調査補助員　知念源和、大城智美
土木施工管理技士　上本力

株式会社イビソク (令和２年度)
調査員　荒川和哉
調査補助員　宗仲航汰
土木施工管理技士　島袋俊之

株式会社イビソク (令和３年度)
調査員　荒川和哉、小村　正之
調査補助員　香山周亮、山中悟朗
土木施工管理技士　悟道雅人

自然科学分析業務委託　パリノ・サーヴェイ株式会社 (令和３～５年度)

調査指導及び協力者 (所属は当時)
上地克也・太田美緒・仲宗根求 (読谷村教育委員会)、宮城弘樹・新里貴之（沖縄国際大学）、丸山真史 (東海大学)、宇佐美賢（沖縄県立博物館・美術館）

第３節　発掘作業の経過

令和元年度から３年度に実施した楚辺親見原遺跡 A から D(調査面積：4,830 ㎡)、楚辺徳地原遺跡 A 及び C から G(調査面積：6,580.5 ㎡)、渡具知後原遺跡 A(調査面積：363 ㎡)、古堅通地原遺跡 A(調査面積：329 ㎡)、大湾親見原遺跡 A(調査面積：106 ㎡)、大湾糸蒲原遺跡 A(調査面積：793.5 ㎡) は、調査期間毎に発掘調査着手に向け、発掘調査支援業務委託の発注や沖縄県赤土等流出防止条例に基づく事業行為通知書の届出等の準備を行った。発掘調査総面積は 13,002 ㎡となり、出土遺物量は遺物収納コンテナ 116 箱であった。

平成 31・令和元年度 (楚辺親見原遺跡 A・B・C)

沖縄県と沖縄防衛局は「トリイ通信施設 (H31) 文化財発掘調査業務委託 (沖縄県)」の契約を５月 31 日付で締結した。調査着手に向け、入域パス取得申請、掘削箇所及び現場事務所設置個所の調整を行い、発掘調査支援業務委託の発注等の準備を実施した。

調査は令和元年 10 月 30 日から令和２年２月 19 日まで実施した。調査着手後に文化財保護法第 99 条第１項の規定による着手の報告 (令和元年 11 月１付埋文第 621 号) を県教委教育長あてに、発掘調査の終了の報告 (令和２年２月 27 日付埋文第 849 号) を県文化財課長あてに行った。また、出土遺物は遺物収納ケース 34 箱となり、令和２年２月 21 日付埋文第 845 号で県文化財課長を経由して嘉手納警察署へ埋蔵文化財発見の通知を行った。

現地調査は発掘調査支援業務として県センター監理のもと株式会社島田組が実施した。以下、調査の進捗について記す。

11 月：楚辺親見原 A・B・C の磁気探査を実施し、完了後にⅠ層・Ⅱ層の重機掘削を C、B、A の順で実施。A 区はⅢ・Ⅳ層を確認し、各層を重機にて掘削した。C 区はⅥ層上面で遺構を検出。

12 月：A 区はⅣ層・Ⅴ層の各層の人力掘削を開始。B 区はⅡ層掘削後、調査区中央部分でⅣ -1 層を、それ以外の部分ではⅥ層を確認し、各層の上面でピットを検出。C 区は遺構検出状況を記録し遺構掘削を開始。

１月：A 区はⅥ層の人力掘削を行い、掘削後にピット及び遺物集積遺構を検出した。遺構掘削を開始。完掘状況を記録後に調査区西壁沿いにサブトレンチを設定し重機による下層確認を実施。B 区は遺構掘削を実施。C 区は完掘状況記録後に埋戻しを行った。

２月：A 区は下層確認後に西壁の記録を行い埋戻しを

行った。B 区は遺構完掘状況の記録後に調査区の中央部分に東西方向のサブトレンチを設定し、重機による下層確認を行った。下層確認後、北壁の記録後埋戻しを行い 19 日に現地調査を終了した。

令和２年度（楚辺親見原遺跡 D､楚辺徳地原遺跡 C･D･F）

沖縄県と沖縄防衛局は「トリイ通信施設 (R 元) 文化財発掘調査業務委託 (沖縄県)」の契約を１月７日付で締結した。調査着手に向け、入域パス取得申請、掘削箇所及び現場事務所設置個所の調整を行い、発掘調査支援業務委託の発注等の準備を実施した。

調査は令和２年５月７日から令和３年３月 18 日まで実施した。調査着手後に文化財保護法第 99 条第１項の規定による着手の報告 (令和２年５月８付埋文第 81 号) を県教委教育長あてに、発掘調査の終了の報告 (令和３年３月 22 日付埋文第 688 号) を県文化財課長あてに行った。また、出土遺物は遺物収納ケース 31 箱となり、令和３年３月 22 日付埋文 689 号で県文化財課長を経由して嘉手納警察署へ埋蔵文化財発見の通知を行った。

現地調査は発掘調査支援業務として県センター監理のもと、株式会社イビソクが実施した。以下、調査の進捗について記す。

５月：楚辺徳地原 C 区の磁気探査及び重機掘削を開始。

６月：県センター職員の入域パスが取得できていないことから現地作業を中断。30 日に県センター職員のパス取得。

７月：９日より現地調査再開。C 区はⅠ・Ⅱ層の重機掘削を実施。楚辺徳地原遺跡 D の磁気探査を実施。

８月：C 区の遺構検出作業を実施。グスク時代のピットを検出。

９月：C 区の遺構検出作業に並行しピットの柱痕等を確認するため２から５㎝の段掘り作業を実施。またグスク時代の土坑や縄文時代晩期から弥生並行期の竪穴住居跡や土坑を検出。

10 月：C 区の遺構掘削を開始。D 区はⅠ・Ⅱ層の重機掘削を実施。D 区の重機掘削完了後に楚辺徳地原遺跡 F の磁気探査及び重機掘削を開始。

11 月：C 区のピットの遺構掘削を完了。D 区は遺構検出作業を実施しピットを確認。検出作業後に柱痕等の確認のために段掘りを実施。F 区は重機掘削を完了し遺構検出作業を開始。

12 月：C 区は竪穴住居跡及び土坑、グスク時代の土坑の掘削を開始。D 区はピットの段掘を終了し遺構検出状況の記録。F 区はピットの段掘り作業を実施し、遺構検出状況を記録した。また、楚辺親見原遺跡 D(以下親 D 区) の磁気探査及びⅠ・Ⅱ層の重機掘削を行った。

１月：C 区は竪穴住居跡及び土坑、グスク時代の土坑の遺構掘削を実施。完掘後に埋戻し。D 区及び F 区は遺構掘削実施。親 D 区は、Ⅲ層上面の遺構検出作業を実施し、ピットを検出した。検出状況を記録後、遺構掘削を開始。

２月：C 区は遺構掘削を完了し埋戻を実施。D 区及び F 区の南壁の堆積状況及び完掘状況記録後に埋戻しを実施。親 D 区はピットの掘削後、Ⅲ層を重機で掘削した。掘削後、Ⅵ層上面でピットを検出し遺構掘削開始。完掘後調査区中央に南北及び東西サブトレンチを設定し、重機による下層確認を行った。その結果 470515・470520・480515 にⅣ層及び V 層を確認したことから、このグリッドの掘削を実施した。

３月：親 D 区の掘削後に埋戻しを実施。18 日に現地作業を終了した。

令和３年度 (楚辺親見原遺跡 A､楚辺徳地原遺跡 B･E･G、大湾糸蒲原遺跡Ａ、大湾親見原遺跡Ａ、古堅通地原遺跡Ａ、渡具知後原遺跡Ａ)

沖縄県と沖縄防衛局は「トリイ通信施設 (R2) 文化財発掘調査業務委託 (その４)」の契約を令和３年３月 31 日付で締結した。調査着手に向け、入域パス取得申請、掘削箇所及び現場事務所設置箇所の調整を行い、発掘調査支援業務委託の発注等の準備を実施した。

現地調査は令和３年８月 30 日から令和４年３月４日まで実施した。調査着手後に文化財保護法第 99 条第１項の規定による着手の報告 (令和３年９月６日付埋文第 342 号) を県教委教育長あてに、発掘調査の終了の報告 (令和４年３月 10 日付埋文第 737 号) を県文化財課長あてに行った。また、出土遺物は遺物収納ケース 48 箱となり、令和４年３月 10 日付埋文 739 号で県文化財課長を経由して嘉手納警察署へ埋蔵文化財発見の通知を行った。

現地調査は発掘調査支援業務として県センター監理のもと、株式会社イビソクが実施した。以下、調査の進捗について記す。

楚辺親見原遺跡Ａ

８月：楚辺親見原遺跡 A(以下楚親 A) 調査の前年度に、村教委による確認調査後に設置された遺構保護のブルーシート等を整備し、遺構検出を開始。

９月：660960 で縄文時代の土坑やグスク時代のピットを、63060・620060 で縄文時代晩期から弥生並行期の竪穴住居跡を検出。遺構掘削を開始。また、650050・650060 で谷状地形Ⅲ層の掘削を開始。

10 月：650050・650060 の迫地堆積のⅢ層を掘削後に、縄文晩期から弥生並行期の竪穴住居跡及び土坑を検出。

11 月：竪穴住居跡の検出作業を実施。遺構は複数基が重なる可能性があることからサブトレンチを設定し堆

積状況を確認した。また、650050・650060 の迫地堆積のⅣ層を掘削を開始。

12 月：670060 の迫地堆積のⅢ層を掘削後、Ⅳ層上面でグスク時代の列状ピット群を検出。グリット西側の調査が完了し、完掘状況の記録後埋戻しを実施。

１月：竪穴住居跡及び土坑の検出状況を記録し、掘削を開始。

２月:竪穴住居跡より獣骨が出土し記録･取上げを行った。遺構は現地保存となったため、サブトレンチの堆積状況を記録し掘削終了とした。

３月：遺構を養生し、埋戻しを実施して調査終了。

楚辺徳地原遺跡 B

10 月：磁気探査及び重機掘削を実施し、グスク時代のピット、円弧状遺構、迫地堆積を確認。遺構掘削及び迫地堆積のⅢ層の掘削を開始。

11 月:遺構掘削及び迫地堆積のⅢ･Ⅳ層の掘削を行い、完掘状況の記録。

12 月：埋戻しを実施し調査終了。

楚辺徳地原遺跡 E

10 月：磁気探査及び重機掘削を開始。Ⅱ層掘削後にグスク時代のピット及び近世・近代の溝状遺構検出。

12 月：遺構掘削を開始。完掘状況記録後、埋戻しを実施し調査終了。

楚辺徳地原遺跡 G

９月：磁気探査及び重機掘削実施。近世・近代の溝状遺構検出。

11 月：遺構掘削を実施。

12 月：遺構断面の記録及び完掘状況を記録後、埋戻しを実施し調査終了。

渡具知後原遺跡 A

10 月:磁気探査及び重機掘削実施。グスク時代のピット及び迫地地形を確認。

11 月：迫地堆積のⅢ・Ⅳ層掘削、遺構掘削を実施。

12 月：完掘状況を記録後、埋戻しを実施し調査終了。

古堅通地原遺跡 A

９月：磁気探査及び重機掘削を実施。

10 月：Ⅱ層掘削後グスク時代のピット及び近世・近代の溝状遺構確認。遺構掘削を開始。

11 月：完掘状況記録後、埋戻しを実施し調査終了。

大湾親見原遺跡 A

１月：磁気探査及び重機掘削を実施。Ⅲ層掘削後グスク時代のピット及び迫地堆積のⅣ層検出。遺構掘削を開始。

２月：遺構完掘状況の記録後、Ⅳ層掘削。完掘状況記録後、埋戻しを実施し調査終了。

大湾糸蒲原遺跡 A

１月：磁気探査及び重機掘削開始。Ⅲ層掘削後グスク時代のピット及び迫地堆積のⅣ層確認。遺構掘削開始。

２月：遺構完掘後状況を記録しⅣ層掘削。完掘状況記録後、埋戻しを実施し調査終了。

第４節　資料整理作業の経過

資料整理作業は令和元年度から６年度に遺物の洗浄、注記、分類、接合、実測、写真撮影等を行った。

これらの作業と並行して、原稿執筆や遺構図等のトレースを進め、発掘現場で撮影した写真と併せて報告書全体のレイアウトを完成させた。その後、一般競争入札により印刷業者と契約を行い、報告書を刊行した。

以下、資料整理作業の進捗について記す。

令和元年度：令和元年度調査遺物の洗浄、注記など基礎的な整理作業を実施した。

令和２年度：令和元年度調査遺物の分類、実測遺物の抜き出し、実測図の作成等を進めた。また、土壌の自然科学分析を行った。

令和３年度：令和元年度調査分の遺物の実測・トレース作業を実施し、令和２年度調査遺物の洗浄・注記・分類･実測遺物の抜き出し、実測図作成等を進めた。

令和４年度:県教委と沖縄防衛局はトリイ通信施設（R4）文化財発掘調査業務委託【資料整理･報告書作成】(沖縄県）の契約を令和４年４月 22 日付けで締結した。令和３年度調査分の遺物の分類、実測遺物の抜き出し、実測図作成を開始し、令和元・２年度調査遺物の実測やトレース、写真撮影を進めた。

令和５年度：県教委と沖縄防衛局はトリイ通信施設（R４補）文化財発掘調査業務委託【資料整理・報告書作成】（沖縄県）の契約を令和５年３月 31 日付けで締結した。令和元年度から２年度の遺構実測図の表現等の調整を実施した。出土遺物は令和３年度の実測図作成やトレース、写真撮影を進めた。

令和６年度：県教委と沖縄防衛局はトリイ通信施設（R６）文化財発掘調査業務委託【資料整理・報告書作成】（沖縄県）の契約を令和６年４月１日付けで締結した。出土遺物の実測、トレース、写真撮影、遺構図の表現の調整を進めた。遺構・遺物実測図や写真、文字原稿は DTP ソフト (Adobe 社　インデザイン) を使用し、報告書のレイアウト作業を行った。

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　遺跡の立地と地理的環境

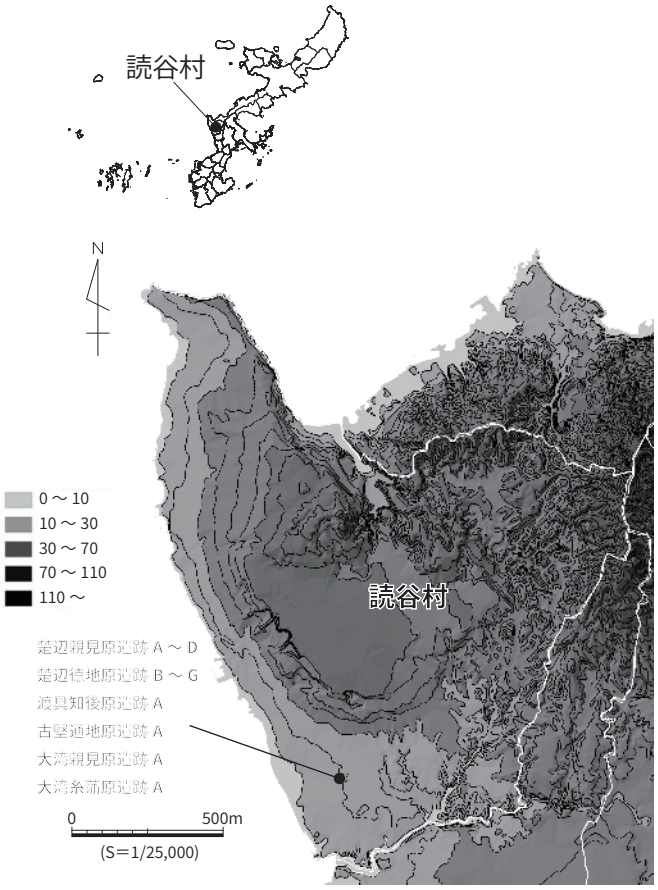
読谷村は、沖縄本島の那覇から北に 28 ㎞の地点にある。北は恩納村、東は沖縄市、南は嘉手納町が隣接し、西は東シナ海に面している。読谷村の総面積は 35.28 ㎢であるが、このうち嘉手納弾薬庫地区（10.67 ㎢）、トリイ通信施設（1.94 ㎢）が所在しており、約 36％が米軍基地となっている。

読谷村の地形環境　読谷村の地形は東西で異なり、東部は名護層からなる読谷山の山頂（海抜 200m）を頂点に、丘陵地や谷底平野が広がっている。また、西部は琉球石灰岩からなる標高約 130m の座喜味城跡のある丘陵を頂点に、周辺には石灰岩台地が広がり、その西側は海岸へ向かって緩やかな段丘状になっている。海岸線は北部の残波岬を除く地点で砂丘が形成され、海にはサンゴ礁のリーフが広がり、沖合には慶良間諸島が確認できる (読谷村教委 1990・2023)。

遺跡の位置　トリイ通信施設は、読谷村の南西部に位置しており、楚辺親見原遺跡や楚辺徳地原遺跡、渡具知後原遺跡、古堅通地原遺跡、大湾親見原遺跡、大湾糸蒲原遺跡は南側の標高 10m から 30m の緩やかな低位段丘上に所在している。

遺跡周辺の地形環境　トリイ通信施設の北側には、かつて旧読谷飛行場が所在した標高約 70m の石灰岩台地が広がっており、また南側には、県内随一の水量を誇る比謝川が流れている。遺跡の所在する低位段丘面の石灰岩の表面には、島尻マージと呼ばれる赤褐色粘土質の土壌が覆っており、石灰岩の下位には名護層相当の古期岩層の分布が確認されている (読谷村教委 1977)。遺跡から約 700m 西側の海岸線には砂丘が形成されおり、国指定史跡である木綿原遺跡が所在している。

図１　沖縄県読谷村の位置図



基盤地図情報基本項目（国土地理院）を加工して作成

図２　読谷村の地形と位置

第２節　歴史的環境

周辺の遺跡　調査対象遺跡の周辺には、縄文時代前期から近代に至る 38 遺跡が確認されており、この地域が古くから生活の場であったことが窺える。

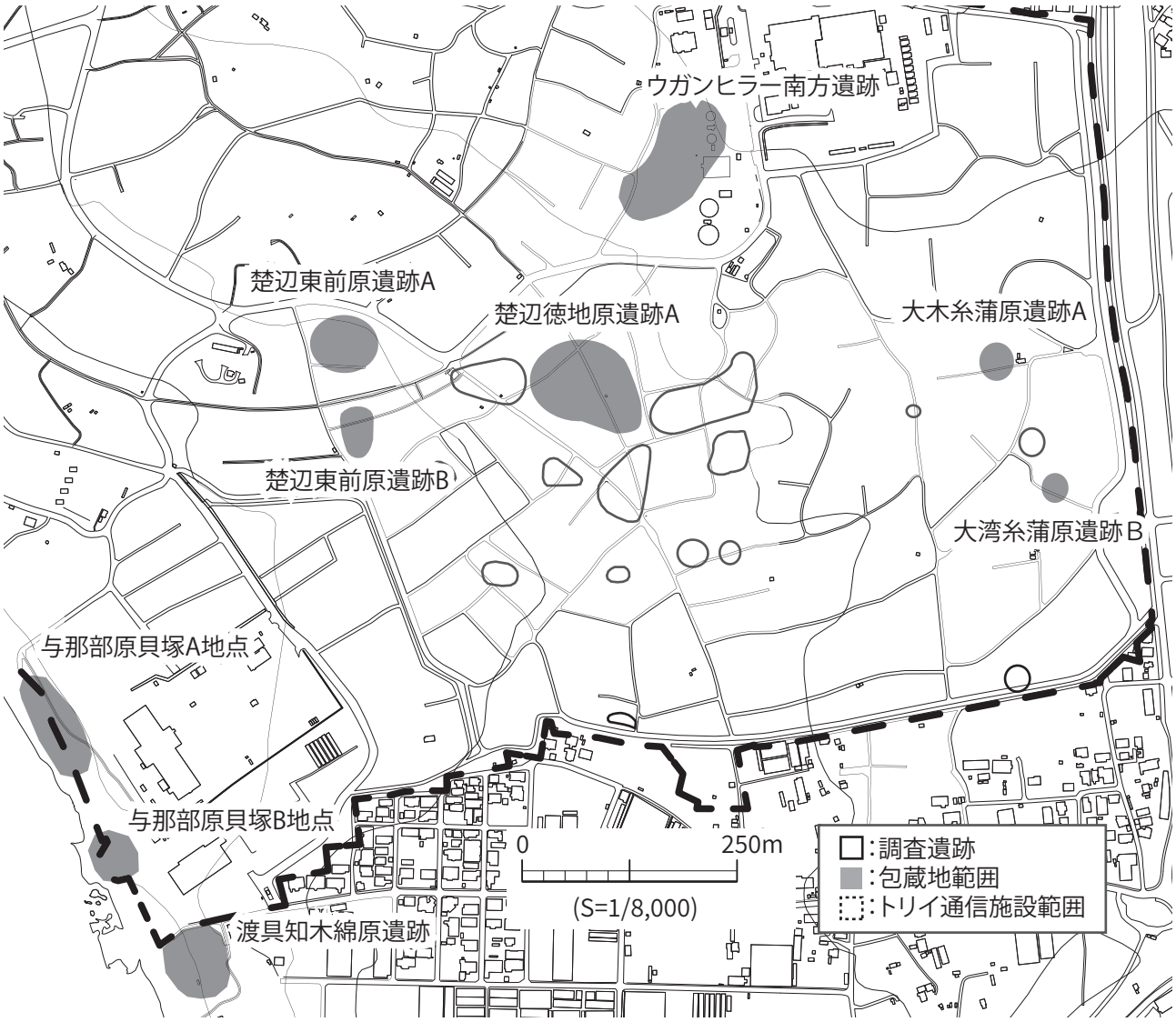
縄文時代の遺跡として、早期の爪形文土器が出土する渡具知東原遺跡や縄文時代後・晩期の溝状遺構が確認された楚辺徳地原遺跡 A・B、弥生平行期の箱型石棺墓が確認された国史跡の木綿原遺跡が所在している。

グスク時代では、掘立柱建物に伴うと考えられるピットが数多く確認されたウガンヒラー北方遺跡やタシーモー北方遺跡が所在しており、これらのピットからは滑石製石鍋や滑石製石鍋を模倣したグスク土器、中国産の玉縁白磁碗が出土している。

近代の遺跡は、楚辺徳地原遺跡 A・B で戦前まで使用されていたと考えられるトロッコレール跡が確認されている。本遺跡は戦前まで稼働していた嘉手納製糖工場にサトウキビを運ぶためのものと考えられ、戦前の航空写真でも確認されている。

歴史事象　字楚辺、字古堅は沖縄最古の歌謡集『おもろさうし』（1623 年頃編纂）に「ねは・あか」「ふるけも」の名で登場し、また字大湾、字渡具知も『琉球国高究帳』（1673 年頃編集）に「戸口村」「湾村」として登場しており、古くとも 17 世紀頃には現在の集落の原形があったと考えられる。これらの村は明治 41 年の町村制の導入により読谷間切が読谷村になったことに伴い、「村」から「字」に移行した。

沖縄戦では、空襲や昭和 20 年 4 月の米軍上陸作戦、戦後はトリイ通信施設に伴う強制接収により、各集落は原形を失っている。一部は昭和 47（1972）年の本土復帰後に返還されているが、多くはトリイ通信施設として現在に至る。



基盤地図情報基本項目（国土地理院）を加工して作成

図３　トリイ通信施設内の周知の埋蔵文化財包蔵地

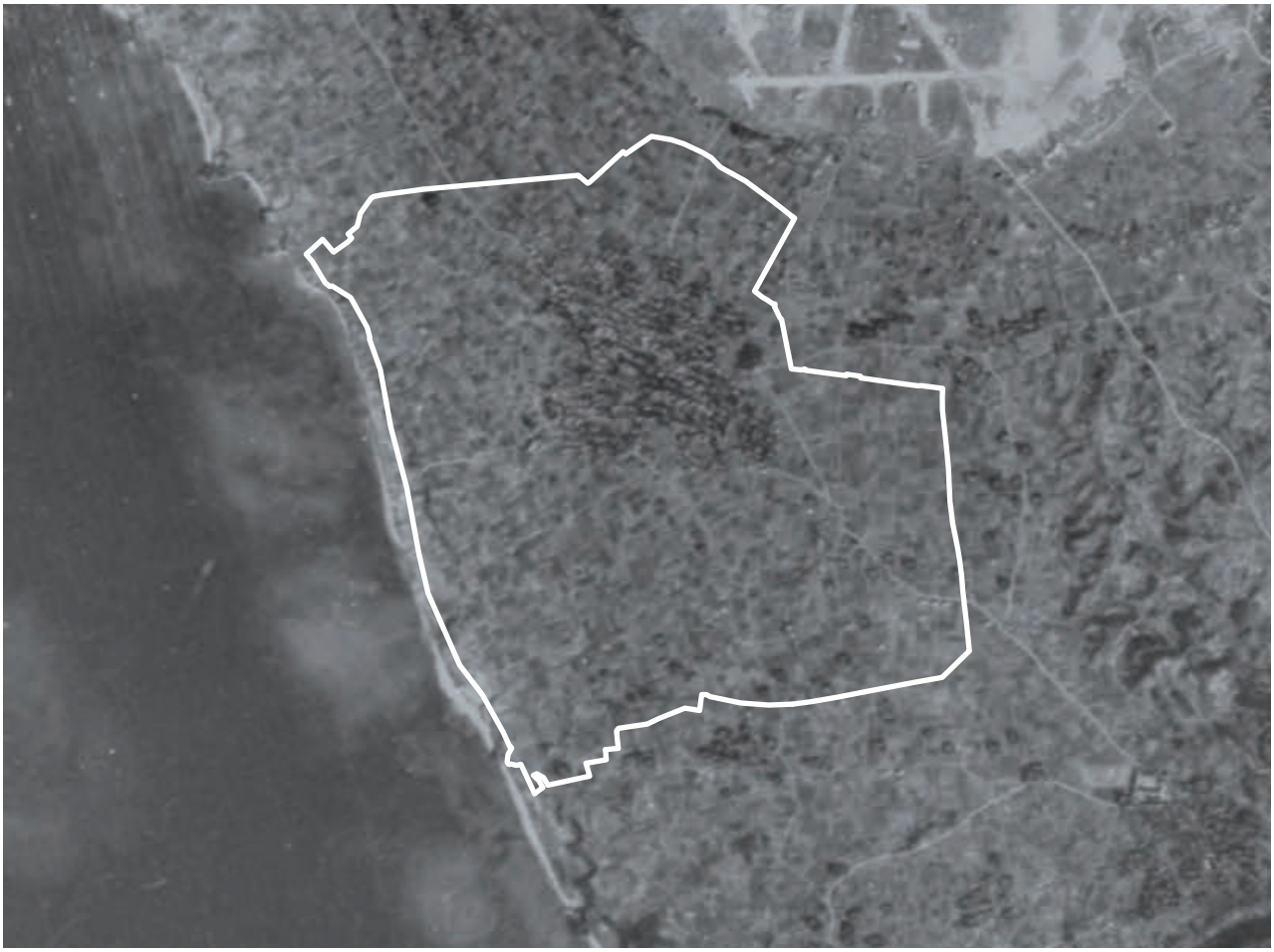


図４　昭和 20 年の航空写真（沖縄県立公文書館所蔵に加筆、白枠内がトリイ通信施設）

図５　昭和 20 年の楚辺・渡具知・古堅・大湾周辺　東より撮影 (沖縄県立公文書館所蔵に加筆、破線内が楚辺集落)

1. 都屋の石切場跡
2. 都屋のティラヌガマ
3. 都屋の砲台跡（アブトゥガマのトーチカ）
4. 楚辺の石切場跡
5. 都屋遺跡
6. 楚辺海岸の砲台跡
7. 赤犬子遺跡
8. 善浜原貝塚
9. 西原遺跡Ｆ
10. 西原遺跡Ｅ
11. 西原遺跡Ｇ
12. 西原遺跡Ｄ
13. 西原遺跡Ｈ
14. 西原遺跡Ｃ
15. 西原遺跡Ａ
16. 西原遺跡Ｂ
17. 西原遺跡Ｉ
18. タシーモー北方遺跡
19. タシーモー南方遺跡
20. イーガ北方遺跡
21. ウガンヒラー北方遺跡
22. ウガンヒラー西方遺跡
23. ウガンヒラー南方遺跡
24. 大木徳武佐宮周辺遺物散布地
25. 下大木原遺跡
26. 楚辺東前原貝塚
27. 与那部原貝塚Ａ地点
28. 与那部原貝塚Ｂ地点
29. 渡具知木綿原遺跡
30. 楚辺東前原遺跡Ａ
31. 楚辺東前原遺跡Ｂ
32. 楚辺徳地原遺跡Ｂ
33. 楚辺徳地原遺跡Ａ
34. 楚辺徳地原遺跡Ｅ
35. 楚辺徳地原遺跡Ｄ
36. 楚辺徳地原遺跡Ｃ
37. 楚辺徳地原遺跡Ｇ
38. 楚辺徳地原遺跡Ｆ
39. 楚辺親見原遺跡Ａ
40. 楚辺親見原遺跡Ｂ
41. 楚辺親見原遺跡Ｄ
42. 楚辺親見原遺跡Ｃ
43. 渡具知後原遺跡Ａ
44. 大木糸蒲原遺跡Ａ
45. 大湾親見原遺跡Ａ
46. 大湾糸蒲原遺跡Ａ
47. 大湾糸蒲原遺跡Ｂ
48. 古堅通地原遺跡Ａ
49. 渡具知貝塚
50. トゥマイグスク
51. 渡具知グスク
52. 渡具知丘陵遺跡
53. 比謝川沿いの特攻艇秘匿壕跡群
54. 比謝川河口遺物散布地
55. 比謝川河口南丘陵遺物散布地
56. 比謝川沿いの特攻艇秘匿壕跡群
57. 渡具知東原遺跡
58. 水釜貝塚
59. 与那久保半洞穴遺跡
60. 水釜の壕
61. 字水釜宇地原の古墓群
62. 嘉手納外耳土器出土地
63. 嘉手納貝塚
64. 嘉手納貝塚東遺跡
65. 字嘉手納西原の古墓群
66. 沖縄県立農林学校、青年師範学校の校門
67. 嘉手納グスク
68. 比謝川沿いの特攻艇秘匿壕跡群
69. メーダグシク
70. ウフグスク
71. 大湾アガリヌウガン遺跡

基盤地図情報基本項目（国土地理院）を加工して作成

図６　周辺の遺跡

第３章　発掘調査の方法と成果

第１節　調査の方法

グリッド設定　楚辺親見原遺跡及び楚辺徳地原遺跡は遺跡の範囲が複数あるため、各遺跡を調査区として設定した。グリッドは各調査区に平面直角座標系を用い、原則として 10m 四方とした。グリッドの表記は座標値を利用し、X 及び Y 座標値の下３桁 (580042) とした。

調査の工程　必要に応じて伐採作業を行い、現況測量・調査区の設定後、磁気探査を行った。磁気探査は表層及び掘削深度 50cm 毎に経層探査を実施した。表土掘削は重機により行い、表土及び近世から近代の遺物包含層まで掘削した。

表土掘削後は、作業員の手作業による遺物包含層掘削と遺構検出を行った。なお、グスク時代及びそれ以前の遺物包含層とその下部にある遺構については、適時サブトレンチの壁面により遺構面を確認・把握し、畦を可能な限り残しながら重機と人力掘削により遺構面まで掘り進め、検出面毎に記録を行った。

検出状況の記録後、遺構掘削は人手による半截あるいは畦を残しながら掘削し、土層堆積状況の記録の後に完掘を行った。遺構調査に合わせて、下層確認のためのトレンチを調査区中央や壁面沿いに設定し、堆積層の確認を行った。

遺構番号　調査区における遺構の番号・記号は『発掘調査のてびき』を参考に便宜的に当てはめ、番号は調査区毎に付した。

基本的に遺構と認定したものに番号を付しているが、後の検討により欠番となったものもある。なお、調査の進捗状況や遺構の情報を把握・共有するために、調査区ごとに遺構台帳を作成し、遺構検出や半截を行った日付、土層の所見、出土遺物などを記載した。

写真撮影　写真撮影はデジタルカメラと 35mm フィルムカメラにより白黒フィルム・カラーリバーサルフィルムで記録した。曇天時やピットの撮影時にはストロボを用いた。高所作業車による調査区全景や主要な遺構の写真撮影時には中判フィルムカメラも用いた。デジタルカメラの撮影時にグレーカードを写し込み RAW 現像処理による補正を施している。

撮影後のデジタル写真は、必要な写真を選別し、年度・調査区・遺構・撮影内容ごとにフォルダ整理を行い、当センターのデータ保管用ＮＡＳへ保存した。フィルム写真は、現像・焼付け後にアルバム整理と台帳作成を行った。なお、本報告書にはデジタルカメラによる写真を使用している。

実測　現場での実測作業については、当センター職員の監理のもと、支援業者である株式会社島田組、株式会社イビソクが行い、現地で確認・指示を行った。平面図作成は測量機器を用いて行い、断面図作成は手実測か人力により行った。効率が良いと考えられる場合は写真測量も実施した。現場で人手により実測した断面図や壁面図等は、原図の確認・修正後にイラストレーターによるトレースを行った。

遺物注記　遺物の注記は、「Ｒ〇トリイ・遺跡・遺構・層名」とした。

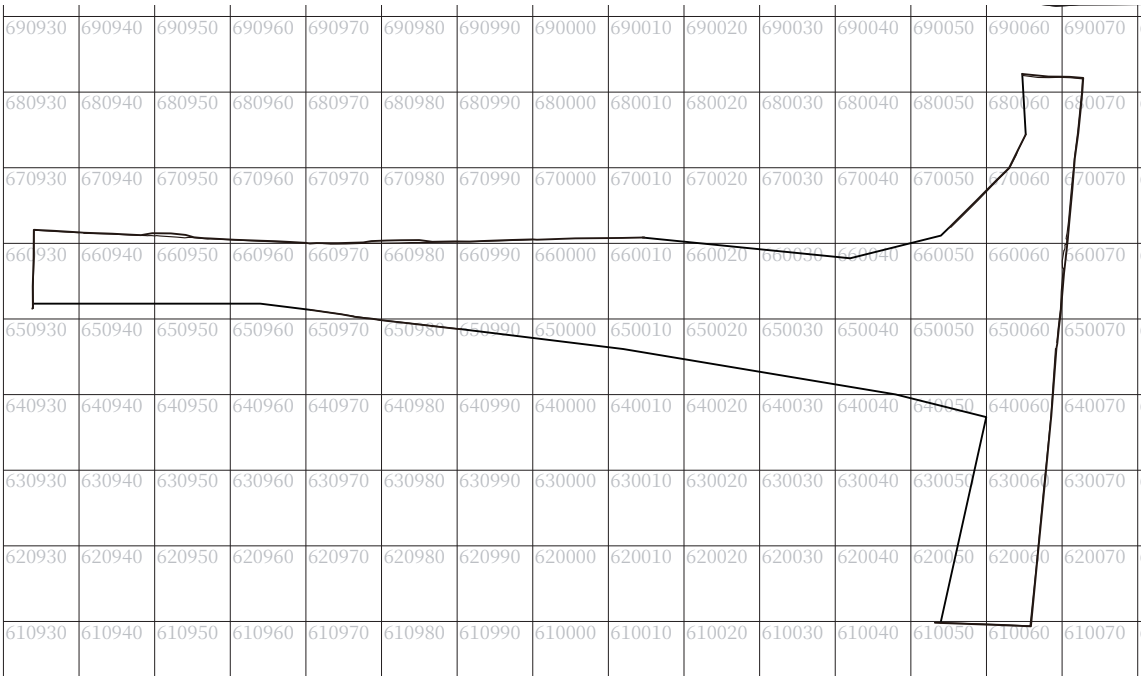
自然科学分析　考古学的手法では得られない科学的なデータを得ることを目的として自然科学分析を行った。

遺構や遺物包含層の年代について検討するため、代表的な遺構や遺物包含層の土壌を現地でサンプリングし、放射性炭素年代測定を実施した。

また、遺構や遺物包含層の埋土に含まれる微細物について、同定・分析作業を行い、遺構の性格や当時の植生など古環境についても検討した。

石器・石材については、材質を確認するため蛍光Ｘ線による成分分析及び産地同定を行った。

調査区全体図 (100 mグリッド)



楚辺親見原遺跡調査区 (10 mグリッド)

図７　グリッド設定図

第２節　基本層序

基本層序は調査時には各遺跡毎で行い、資料整理時に統一した。

調査により各遺跡で軽微な谷地形を確認した。これらはⅡ層掘削後に確認でき、また、遺物包含層 (Ⅲ～Ⅴ層) が堆積していたことから、縄文時代からグスク時代に何らかの形で利用され、その後埋没したと考えられる。

なお、今回統一した各年度の層序対照表を表１に示した。

Ⅰ層：戦後から現代にかけての造成土、表土、撹乱層。

Ⅱ層：褐色 (10YR4/4) 主体のシルト・極細砂。近世から近代の耕作土及び米軍接収前の堆積層と考えられる。各遺跡で確認できるが、接収後の基地造成や耕作の影響を受けて消失しているところもある。沖縄産陶器や本土産陶磁器、中国産陶磁器が出土する。本層掘削後のⅢからⅥ層上面で近世・近代の遺構を検出した。

Ⅲ層：黒褐色土 (7.5YR3/2) 主体のシルト・極細砂層。グスク時代の遺物包含層及び耕作土と考えられる。迫地形や周囲より低い部分で確認することができるが、基本的には戦後の造成や近世以降の耕作により消失した層と考えられる。グスク土器や中国産白磁、カムィヤキが出土した。本層は黒褐色（7.5YR3/2）主体の層とⅣ層由来の黒褐色土のブロックや縄文後晩期や弥生並行期の土器や石器が混じる暗褐色（7.5YR3/3）の２層に細分可能であり、それぞれⅢ - １、Ⅲ - ２層とした。本層掘削後のⅣ層からⅥ層の上面で、グスク時代の遺構を検出した。

Ⅳ層：暗褐色（10YR3/3）のシルト～極細砂が主体。弥生から平安並行期の遺物包含層と考えられる。迫地形で確認できた。本層は弥生から平安並行期の土器や石器などを含む層とⅤ層由来の暗褐色のブロックや縄文後晩期の土器が混じる層の２層に細分可能であり、それぞれⅣ - １層、Ⅳ - ２層とした。本層を掘削後のⅥ層上面で縄文時代晩期から弥生平行期の遺構を検出した。

Ⅴ層：暗褐色土 (10YR3/3) のシルト～極細砂層が主体。縄文時代後晩期の遺物包含層と考えられる。迫地形で確認できた。本層は縄文後晩期や弥生平行期の土器や石器などを含む層とⅥ層由来の暗褐色ブロックが混じる層の２層に細分可能であり、それぞれⅤ - １層、Ⅴ - ２層とした。

Ⅵ層：島尻マージの地山。黄褐色（10YR 5/8）のシルトから極細砂層。基盤の琉球石灰岩に接する箇所や迫地形の部分はより強粘性で黒味が強く、暗褐色（10YR3/1）を呈する。

Ⅶ層　琉球石灰岩岩盤。

表１　各年度　基本層序対照表

層序	時代	主な遺物	R１	R2	R3
Ⅰ層	現代		1	1上	1
Ⅱ層	近世・近代	沖縄産陶器、本土産陶磁器	2	1下	2
Ⅲ-1層	グスク	グスク土器、白磁(Ⅳ類)、滑石製品、カムィヤキ	3	2	3-1,3-2
Ⅲ-2層	グスク	グスク土器、白磁(Ⅳ類)、滑石製品、カムィヤキ	4	3	3-3
Ⅳ-１層	弥生・平安	仲原式・阿波連浦下層式主体、宇佐浜式、奄美系、弥生系	5	4	4-1
Ⅳ-２層	弥生・平安	仲原式・阿波連浦下層式主体、宇佐浜式、奄美系、弥生系	5’	5	4-2
Ⅴ-１層	縄文	室川式・宇佐浜式主体、仲原式	6上		5
Ⅴ-２層	縄文	室川式・宇佐浜式主体、仲原式	6，6下		
Ⅵ層	地山(マージ)		7	6	6
Ⅶ層	岩盤(石灰岩)				7

第３節　遺構と出土遺物

第１項　遺物の分類と概要

トリイ通信施設内の各遺跡の調査では縄文時代後・晩期からグスク時代、近世・近代の遺物が出土した。出土遺物は小破片のものがほとんどであったが、可能な限り分類を行った。各遺物の概要について次に記述する。

縄文時代後・晩期の土器

点刻線文系の荻堂式、肥厚口縁系であるカヤウチバンタ式、室川式、宇佐浜式がある。

荻堂式　頸部外面に叉状工具による横線文、押引文を施すもの（175）が出土している。

カヤウチバンタ式　平口縁で口縁部の断面が歯ブラシ状となるもの（173・176）が出土している。

室川式　口唇上端の平坦を意識して肥厚させるものを室川式とした。口縁部の肥厚は屈折させて疑似肥厚とするもの（179 ～ 182）や幅広い口唇を意識して肥厚させるもの（183 ～ 189・407・526)、口唇部の平坦の意識が弱くなり断面が三角形となるもの（193 ～ 195)、断面が方形となるもの（190・202・203・207・368）がある。また表面がアバタ状となる室川上層式に類似するもの（203）も出土している。有文のものは口唇部や外面に横捺刻文（180・181・184 ～ 187・190・193 ～ 195・202・203・208・209・211・526)、沈線文（191)、斜沈線（177・178・183)、貼り付けによる突帯（206・207)、横捺刻文と沈線を施すもの（192･210）がある。

宇佐浜式　口唇部に平坦面が無くなり、口縁断面が三角形状またはカマボコ状に肥厚させるものを宇佐浜式とした。口縁部断面が三角形となるもの（24・135・137・138・140・149・151・162・167・212 ～ 219・221 ～ 231・237・239 ～ 249・251・252・254・255・257・260・261・263・264・325 ～ 327・353・354・369 ～ 371・408・432 ～ 434・471 ～ 472･474･480･518)、カマボコ状のもの（18･71・139・164・220・233 ～ 236・238・250・258)、三角形が間延びしたもの（２・372・465・473)、がある。有文様のものは横捺刻文（213 ～ 217・220・239)、沈線文（151・212・218・240･264･370)、口縁部に突起が施されるもの（262）がある。

弥生～平安平行期の土器

無文尖底系の仲原式、阿波連浦下層式やくびれ平底系のアカジャンガー式やフェンサ下層式と考えられるものが出土している。また、奄美諸島や九州の土器やその影響を受けたと考えられる土器が出土している。

仲原式　口縁部の肥厚の意識が弱く、口縁部に指頭圧痕が残り口唇部が舌状または平坦に成形されるが徹底されないものを仲原式とした。深鉢や壺、鉢が出土している。深鉢の口縁は外反するものが多いが、直口や頸部が「く」の字状に屈曲するもの（15・275・529・642）がある。外面に有段となるものがあり、口縁部に段を有する宇佐浜式口縁（19・29・88・160・163・170・259・265 ～ 268・270 ～ 272・285・346・352・355・409・435 ～ 437・531・562)、口縁下部や頸部に段を有するカヤウチバンタ式口縁（15・84・102・131・136・269・277 ～ 284・300・336・374・376・411・412・467・492・493・520 ～ 522・563・640・648）がある。有文の資料は少ないが口縁部に横捺刻文を施すもの（285・416）がある。仲原式には阿波連浦下層式の特徴である口唇部を平坦に成形する調整が施されるものがあるが、徹底されず舌状となるものがある（6・15・84・98・115・124・276・282・283・300・337・338・375・376・379・398・412・413・442・443・444・487・499・502・506・529・543 ～ 545・549・552・563・642)。この特徴は宇佐浜式口縁では確認できなかった。壺は長頸で直口口縁（441・507・533・650）となり、口縁部に深鉢のカヤウチバンタ式口縁のように段を有するもの（174）がある。

阿波連浦下層式　口縁部の肥厚がなくなり、口唇部が平坦に成形されるものを阿波連浦下層式とした。深鉢は口頸部が「く」の字状に屈曲するもの（7・54・107・155・384・386・417・495)、屈曲が不明瞭となるもの（10・55・62・383)、屈曲部分に明瞭な稜や段があるもの（384）がある。有文のものは口縁部に横・縦位の１条または２条の横捺刻文（54・114）や沈線を施すもの（99）や、これらを「⊥」状に配置し区画文とするもの（386)、横捺刻文と沈線文を施すもの（113・385）がある。また、口唇部にリボン状の突起をもつもの（387)、胎土や内外面に指頭圧痕が残る仲原式の特徴があるもの（10）がある。

耳　弧状のもの（25・30・43・296 ～ 299・477・491・646)、横位で把手状のもの（4・13・26・126・466・525・546・647)、胴部を１周する１条の突帯となるもの（59・392）がある。これらは仲

原式や阿波連浦下層式に伴うものとみられる。また、縦位のもの（447）やピーナッツ状となるもの（391）も出土しており、奄美系に伴うものと考えられる。

奄美系　奄美地域で製作されたものやその影響を受けたと考えられるものを奄美系とした。出土遺物は龍郷町のウフタⅢ遺跡のものと類似している。（60）は鉢形の胴部で、胎土が砂質で赤褐色となり、ウフタⅢ遺跡で出土するものに胎土が類似する。器形が類似するものは、深鉢で波状口縁となるもので、口唇部を平坦に成形し胴部に横位の耳と、みみずばれ突帯が施されるもの（171）や、縦位の耳で空洞となるもの（31・447）があり、胎土は仲原式や阿波連浦下層式に類似するが器形はウフタⅢ遺跡で出土するものに類似する。

弥生系　九州地域の弥生土器の影響を受けたと考えられるものを弥生系とした。口縁部と胴部に横位の突帯文を施すもの（33・57・76・118・288）、突帯を貼り付け刻目を施すもの（498）が出土している。

弥生土器　弥生土器と考えられるものとして板付式が出土している。板付式は甕形の口縁部で如意状となり、口唇部に刻目を施すもの（397・420）が出土している。外面は水磨を受けており刷毛目等は確認できない。胎土に石英等の砂粒を多く含む。

大洞系　沈線による規則的な施文により沈線の間が凸状の文様となるものを大洞系とした。工字文とみられる文様が確認できるのは（77・422）で、（46・80・289・331・398）はこれに類似する。（58）は沈線文と曲線文を渦巻状に施すもので嘉門貝塚Ｂで類似するのものが出土している。

アカジャンガー式　甕形の口縁部で緩やかに外反し、口唇部に刻みが施されるもの（561）が出土している。

フェンサ下層式　フェンサ下層式と考えられるもの（566・567）は甕形の口縁部で、緩やかな外反となる。文様は頸部を１周するように横位の突帯を有し、口縁部から頸部にかけて数条の縦位の突帯を貼り付け、内部に斜沈線を施す。突帯は断面が楕円または突帯頂部に稜を持つ細いものである。また、底部は小径で厚底となるもの（568）が出土している。

型式不明　（35・47・78・79・421）は沈線間が凸文となるもので大洞系の可能性がある。（47）は口唇部に突起とその下部に縦位の凸文を施す。（116・130・132）は横位の沈線と斜沈線が施される。（75）は口縁部が幅広で薄く肥厚する山形口縁となる。（445）は上部がラッパ状に開く鉢で、口唇部を平坦に成形し口縁部端が膨れることから阿波連浦下層式の可能性がある。

グスク時代の土器

宮城弘樹・具志堅亮によるグスク土器編年（宮城・具志堅 2007、具志堅 2014）の第１・２・３様式が出土している。

第１様式　鍋形、甕形の口縁部が出土しており、鍋形は口唇部を平坦に成形し、口縁部が内湾するものが多く、口縁部に方形の把手をもつもの（461・478・581・594）も出土している。甕形は頸部の屈曲が強く、口唇部が胴部径を超えるもの（555・586）が出土している。

第２様式　甕形が出土しており、口唇部を平坦に成形し、口縁部が内湾し断面が方形のもの（556・558）が出土している。

第３様式　鍋形、甕形が出土している。鍋形は口縁部は内湾し口唇部は舌状となる。鍋形の口縁部が出土しており、胎土は泥質でアバタ状のもの（612 ～ 614）が出土している。

これらのグスク土器には胎土に滑石を混入するもの（464・580・587・595・596・599 ～ 603・671）や胎土には混入しないが器面にのみ確認できるもの（556・569・570）がある。胎土に滑石を混入し型式確認できるものは第１様式の鍋形がある（464・580）。また滑石の混入量は底部に多く、口縁部から胴部には少ない傾向がある。（580・595）は特に顕著で、底部と胴部の粘土帯の接合部分で滑石の混入量に差が確認できる。また、胎土には混入されず、器面にのみ確認できるものは第２様式のもの（558）が出土している。

カムィヤキ

新里亮人による分類記号（新里 2003ab・2018、伊仙町教委 2005）のＡ群とＢ群が出土している。

Ａ群　外面に綾杉状・平行線状、内面に格子状の当具痕が残るもの（598・617）。薄手で硬質となる。

Ｂ群　外面はナデ調整、内面に綾杉状・平行線の当具痕が残るもの（341）がある。

須恵器

中世須恵器と考えられる軟質の陶器で、甕の胴部が出土している。胎土は軟質で灰白色、外面に平行線状や格子状のタタキ目があるものがある。また、内面は円状の当具痕が残るもの（576）と残らないもの（660）がある。

中国産白磁

中国産白磁の分類である大宰府分類（太宰府市教委 2000）及び沖縄分類（ 瀬戸ほか 2007、瀬戸 2014）の分類記号を用いた。

大宰府分類Ⅱ類　玉縁口縁となるもので玉縁は小ぶりとなる（366）。

大宰府分類Ⅳ類　玉縁口縁となるもので、玉縁部分が肉厚となる。釉調は灰白色のもの（333・482・534・535・554・579）、乳白色となるもの（547）がある。

大宰府分類Ⅳ -1 類　高台内面の刳りが浅いもの（536）。

大宰府分類Ⅴ類　釉が胴下半部に施釉されないもので薄手の胴部が出土している（367）。

沖縄分類Ｃ群　金武正紀によりビロースクタイプと呼称されたのもで、胴部が出土している

沖縄分類ＥＯ群　釉に青みを有する碗が出土している（676）。

その他　清代徳化窯系の型造り成形の杯（625）が出土している。

中国産青磁

中国産青磁の分類も沖縄分類の記号を用いた。龍泉窯系青磁はⅤ・Ⅵ類が出土した。

Ⅴ類　底部（638）が出土している。

Ⅴ -1 類　外面にヘラ描の漣弁文が施される碗（690）が出土している。

Ⅵ類　碗は口縁部は無文のものと（483）と高台（334・632・662・663）が出土している。皿は見込に印花文が施されるもの（632）が出土している。

中国産青花

中国産青花は清代のものが出土している。

景徳鎮窯系（630）、徳化窯系（626）、福建・広東産（335・637・681・691）のものが出土している。

その他中国産陶磁器

その他の中国産陶磁器として、褐釉陶器が出土している。殆どが小破片で、沖縄分類の大形壺５類の口縁部（672）が出土している。

本土産陶磁器

本報告では、近世の本土産陶磁器、近代磁器が出土している。

本土産近代磁器　明治～戦中に生産・使用された磁器類で、技法により下記のＡ～Ｆ類に分類した。

Ａ類　型紙摺りによる絵付けで大半が砥部産と考えられ碗が多い。（664）はいわゆる「スンカンマカイ」である。

Ｂ類　銅板転写やゴム判、吹き絵等による絵付け磁器で、ゴム判で松竹梅文を描くもの、緑と紫の吹き墨による施文があり、他に銅板転写で風景、花文、吉祥文字などを描く碗や皿等がある。

Ｃ類　染付のもので、多くは瀬戸・美濃系で竹文を描くものが出土している。

Ｄ類　クロム青磁瀬戸・美濃系で飛び鉋や、ゴム判の亀甲文・鶴文を描くものがある。他に銅板転写や染付を施すものが出土している。

Ｅ類　色絵 型紙の色絵付けを施すものが出土している。

Ｆ類　上記以外のもの二重の圏線を巡らした碗や全体に緑釉を施した国民食器等が出土している。

硬質陶器　外面に唐草文が施される火鉢（693）が出土している。

沖縄産施釉陶器

方言で「上焼（ジョウヤチ）」と称される一群で、碗（628・631・633・673・682・683・689・692）や小碗（624・636・684）を中心に鉢（639）、皿、鍋、瓶、壷、蓋、急須、香炉、火入などが出土している。

沖縄産無釉陶器

方言で「荒焼（アラヤチ）」と称される一群で、鉢、擂鉢、壷（695）、甕などが出土している。

鍛冶関連遺物

鍛冶関連遺物には、羽口が出土している。

羽口　土製の羽口（537 ～ 539）が出土している。

骨製品

（498）はジュゴンの肋骨製と考えられる骨錘で、両端を欠損するが８cm 前後になるタイプと考えられる。骨錘としては小型のため、装飾品の可能性もある。シヌグ堂遺跡や大原貝塚群で類似資料が出土している。

石器・石製品・石造物・石材

今回の調査では、楚辺親見原遺跡からは、打製石鏃（14、37、49、67、101、128、320、361）及びその未成品（38、50、86、100、122、147、343）、スクレイパー（52、87、150、402、425、456、）、ラウンド・スクレイパー（364）、これまで県内に類例のない形状の磨製のドリル（426）、RF（460）、UF（83、321、400、401）、石核（39、61, 68、96、134、148、405）、磨製石斧（39、158、322、343、362、399、423、454、484）及びその未成品（28、66、344）、打製石斧（51、345、363）、敲石磨石類（32、129、424、450、451、452、455、479）、石皿（53、91、365、404、427、457）、台石（22、154、323、458、459）、砥石（64、453）、その他磨面

を有する石器や器種不明、器種不明製品の未成品、粗割片やフレイク（152、428）、チップなどが出土している。

黒色の緻密質安山岩製の打製石鏃（49）は沖縄県内で初出の資料で、沖縄県内で一般的な左右や表裏が対称でない打製石鏃（大堀 2012）であったが、一方で石英製（361）は沖縄島内の石材を利用して高度な押圧剥離技術によって製作されたものが確認されたことから、このような技術をもった人物がこの遺跡内に存在していたことを示唆する。

石核には県内では類例のない大形の黒曜石石核が含まれており（39）、前述の緻密質安山岩とともに注目される資料である。

磨製石斧には大形の製品（423）や身部に着装痕とみられる帯状の変色が認められるもの（362）が確認されている。

滑石製品は分銅状の石製品（349）が出土している。

石材は約 123 kg出土している。岩石の種類ごとの割合からは、細粒砂岩 34%、中粒砂岩 31%でこの２種が主体となっており、他の石材は多種多様ではあるが重量上ではそれぞれ 10%未満である。

楚辺徳地原遺跡では、磨製石斧（496）、敲石磨石類（505、513）、砥石、粗割片、フレイクなどが出土している。

石材は楚辺徳地原遺跡では約 2.5 kg出土しているが、細粒砂岩 31%、中粒砂岩 35%とこの２種が主体となっており、他の石材は多種多様ではあるが重量上ではそれぞれ 10%未満である。この傾向は楚辺親見原遺跡と類似する。

渡具知後原遺跡では、石核（680）、磨製石斧、敲石磨石類（678、679）、器種不明の石器片、フレイクやチップなどが出土している。

石材は約 3.2 kg出土しているが、その内訳は中粒砂岩 46%、千枚岩及び片岩が 23%と他の遺跡と類似した傾向を示している。

古堅通地原遺跡 A では、緑色片岩製の打製石斧（687）、中粒砂岩製の敲石磨石類、石英の粗割片が出土した。

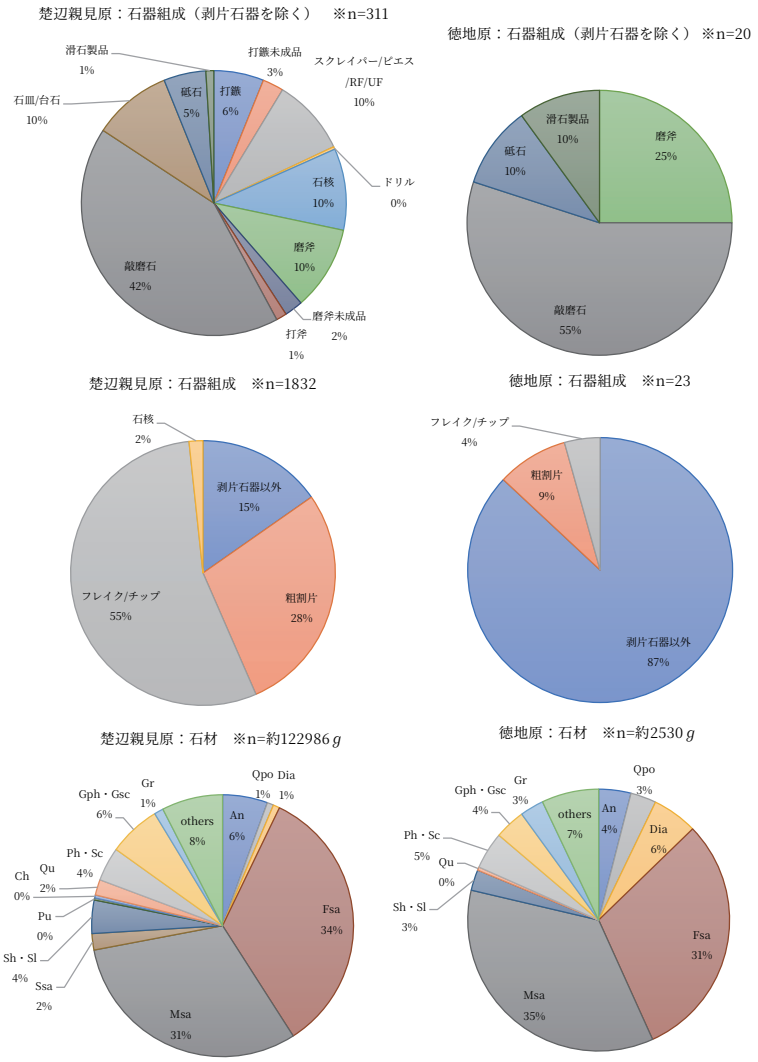
石材は約 1.1 kgが出土しており、その内訳は安山岩 34%、中粒砂岩が 29%とこの２種が主要で、ほかに頁岩・粘板岩 8%、緑色千枚岩及び同片岩が 13%、緑色岩 9%の割合で、安山岩が主体となる点で他の遺跡と異なる傾向となっている。

大湾親見原遺跡 A では緑色岩製の敲石磨石類（688）が出土している。

石材は千枚岩及び片岩の３ g のみである。

大湾糸蒲原遺跡 A では、中粒砂岩製の石皿（697）が出土している。

石材は約 1.8 kgが出土しており、その内訳は中粒砂岩が 81%と大半を占め、ほかに頁岩・粘板岩 18%、石英 2%の割合である。



An：安山岩　Dan：緻密質安山岩　Qpo：石英斑岩　Dia：輝緑岩　Dio：閃緑岩
Gab：はんれい岩　Ob：黒曜石　Fsa：砂粒砂岩　Msa：中流砂岩　Ssa：片状砂岩
Sh・Sl：片岩・粘板岩　Pu：軽石　Ch：チャート　Qu：石英　Ph・Sc：千枚岩
Gph・Gsc：緑色千枚岩・片岩　Gr：緑色岩　other：その他・不明

図８　石器・石材点数組成比グラフ（楚辺親見原遺跡・楚辺徳地原遺跡）

第２項　遺構の種別と概要

１　楚辺親見原遺跡

楚辺親見原遺跡Ａ･Ｂ･Ｃ･Ｄでは、基本層序のⅠ・Ⅱ層、Ⅵ層及びⅧ層が分布し、迫地形でⅢからⅤ層の堆積を確認した。

各調査区では、縄文時代晩期から弥生並行期、グスク時代、近世・近代の遺構を検出した。近世から近代、戦後の基地造成や耕作によりそれ以前の遺物包含層が消失していたことから、遺構はⅠ層及びⅡ層掘削後にⅥ層上面から検出した。迫地形が確認できた部分ではⅢ～Ⅴ層が確認でき、Ⅲ - １層を掘削後にⅢ - ２層上でグスク時代の遺構確認でき、また、Ⅲ -2 層掘削後にⅥ層上面で縄文晩期から弥生平安並行期の遺構を確認した。

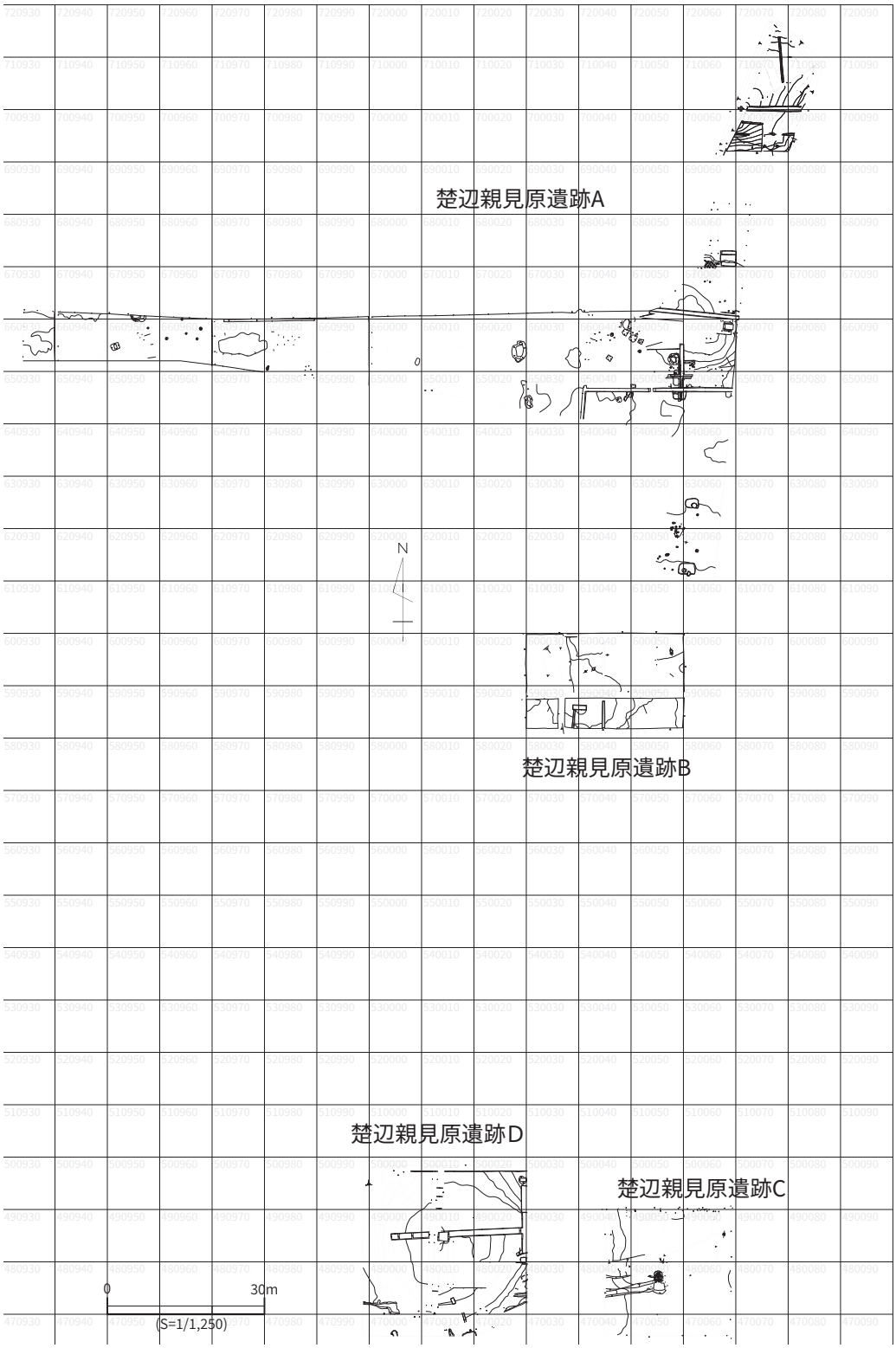


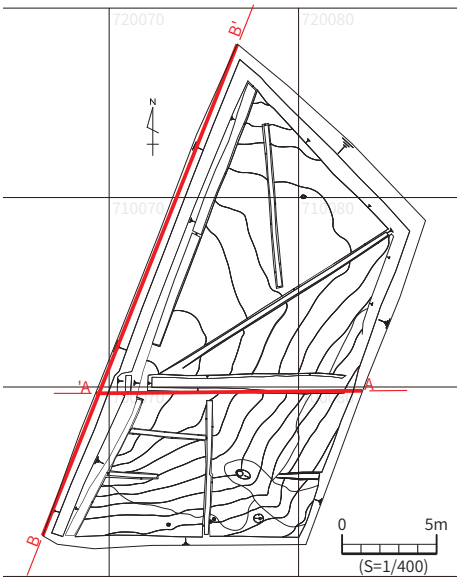
図９　楚辺親見原遺跡調査区配置図

楚辺親見原遺跡Ａ

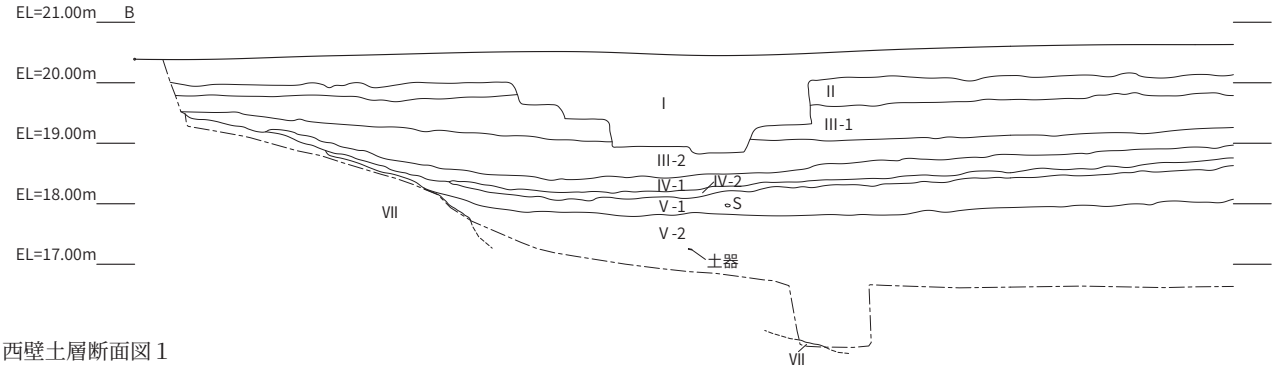
令和元年度の調査では、楚辺親見原遺跡Ａの基本層序のⅠ・Ⅱ層と迫地形でⅢからⅤ層確認した。迫地形は調査区の中央部分で確認でき、 地表より 5.5m までⅤ-2 層が堆積しており、その下でわずかにⅥ層を確認した。

遺構はⅥ層上面で弥生並行期と考えられる土坑とⅢ-2 層の上面でグスク時代と考えれるピットを検出した。

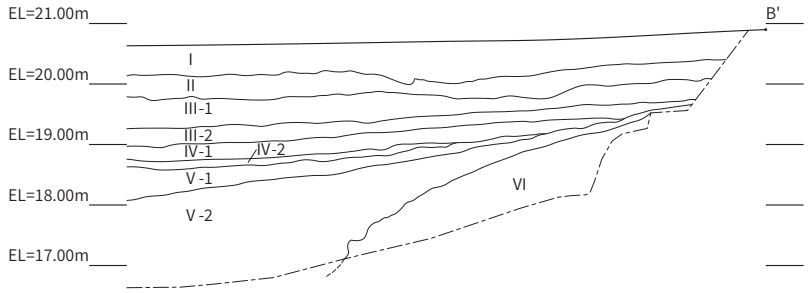
遺物は迫地形から縄文時代後・晩期の室川式や宇佐浜式が主に出土し、弥生平行期の仲原式や阿波連浦下層式等も出土している。



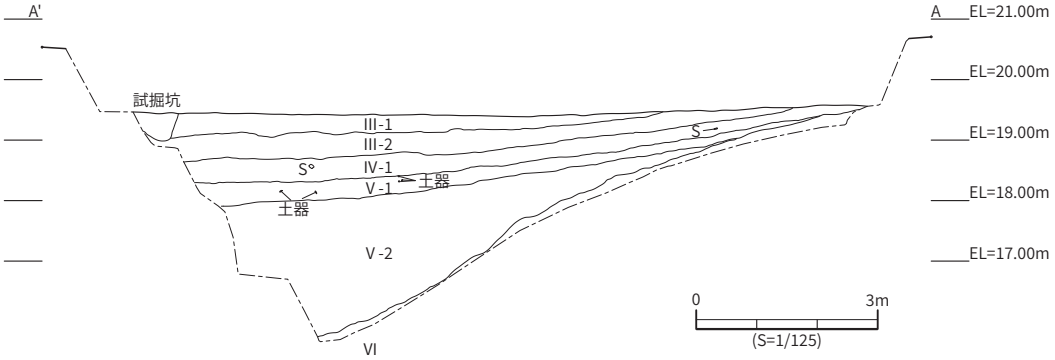
遺構配置図と土層断面の位置



西壁土層断面図１



西壁土層断面図２



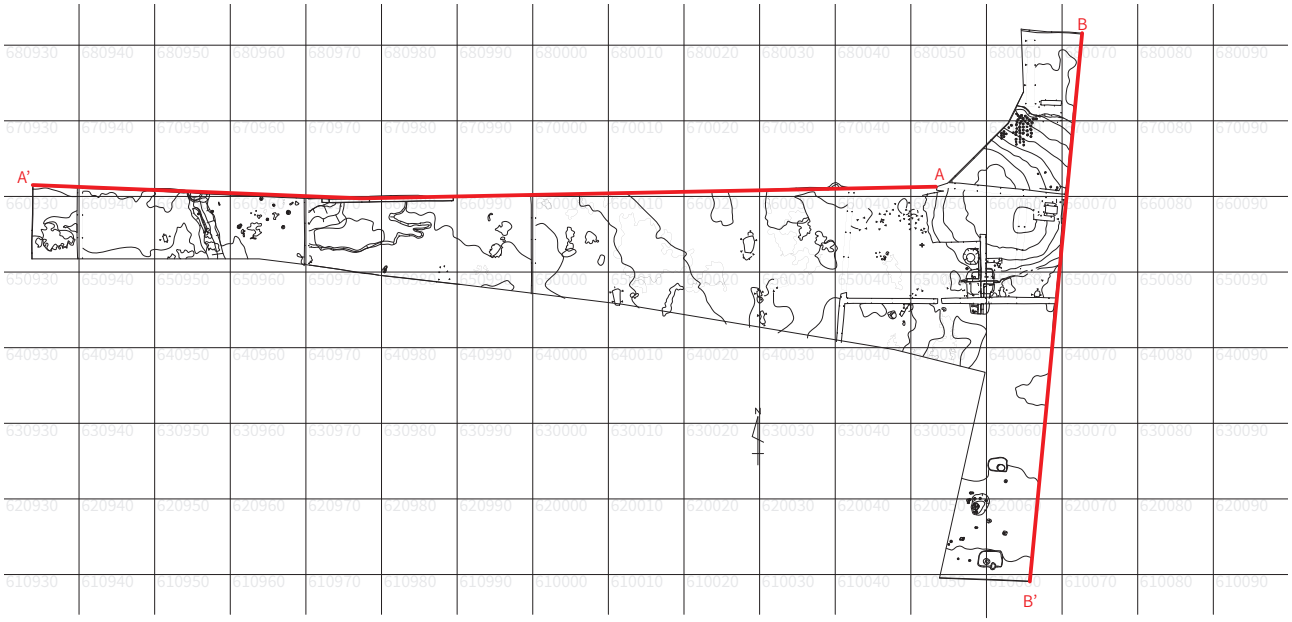
中央サブトレンチ南壁土層断面図

図 10　Ａ区　令和元年度調査区平面・土層断面図

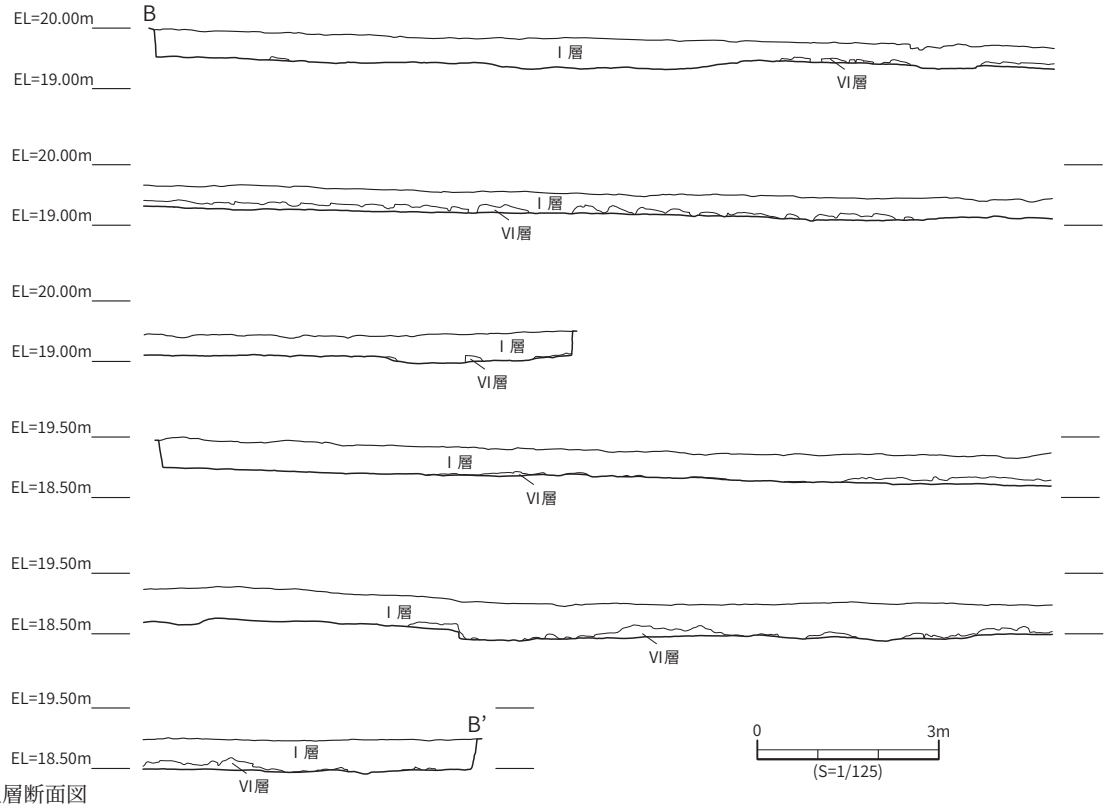
令和３年度の楚辺親見原遺跡Ａの調査では、基本層序のⅠ・Ⅱ層と迫地部分でⅢからⅤ層を確認した。迫地堆積は調査区の東側で確認でき、地表より 1.5 mでⅥ層を確認した。迫地の周辺を取り囲むように岩盤のⅦ層が確認できた。

遺構はⅥ層上面で縄文時代から弥生並行期の竪穴住居跡や土坑、Ⅲ-2 層やⅥ層の上面でグスク時代のピットを検出した。ピットは掘立柱建物跡のプランとなるものや耕作に伴うと考えられる植栽痕とそれらがまとまって構成される列状ピット群等を確認することができた。

遺物は縄文時代後・晩期や弥生並行期、奄美系や弥生系、弥生土器と考えられる土器や石器・石材が遺構や迫地形から出土しており、また迫地形よりグスク土器やカムィヤキ、中国産の陶磁器が出土している。自然遺物は竪穴住居跡から獣骨（イヌ）がまとまって出土しており、グスク時代のピットからは人骨が出土している。

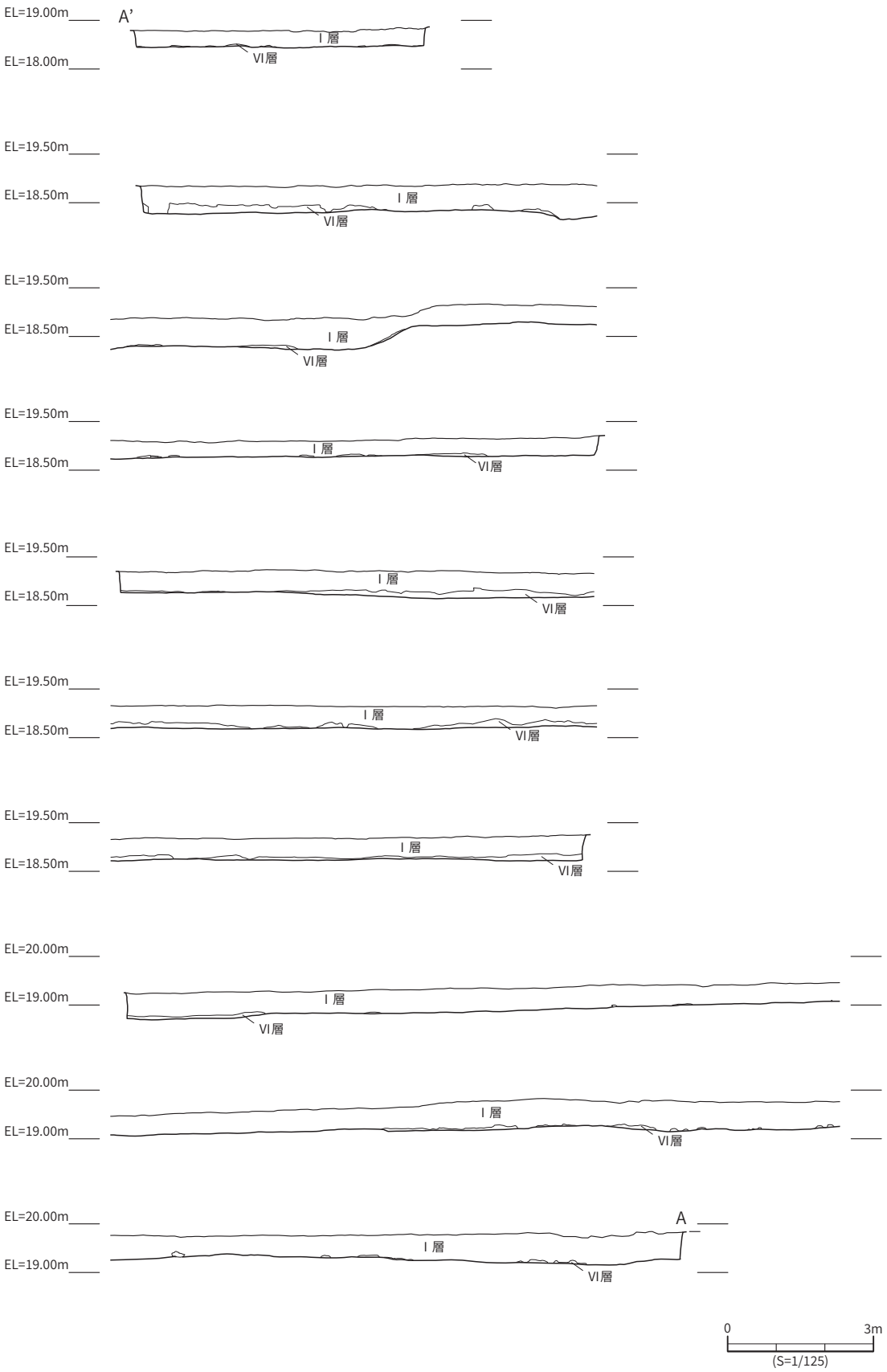


遺構配置図と土層断面の位置



東壁土層断面図

図 11　Ａ区　令和３年度調査区平面・土層断面図



北壁土層断面図

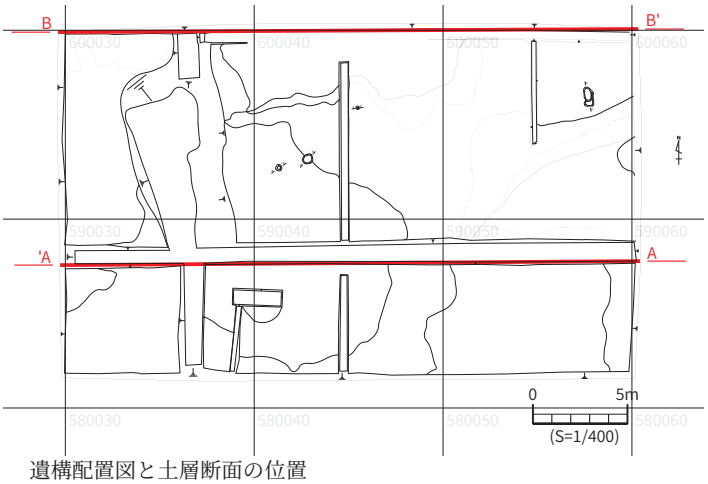
図 12　A 区　令和３年度調査区土層断面図

楚辺親見原遺跡 B

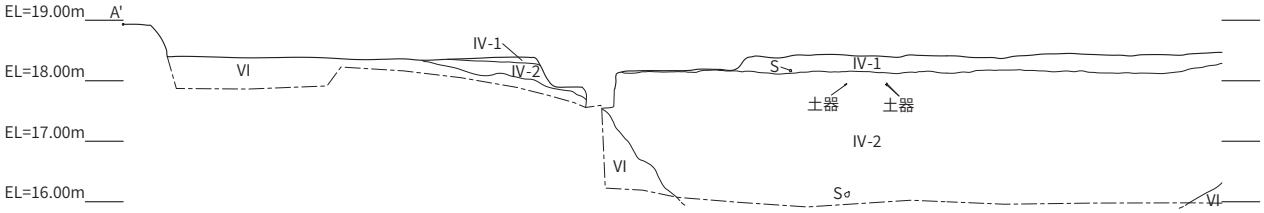
楚辺親見原遺跡 B では、基本層序のⅠからⅢ層を確認し、迫地堆積のⅣ・Ⅴ層を確認した。迫地堆積は調査区の中央部分で確認し、地表から２m でⅥ層を確認した。

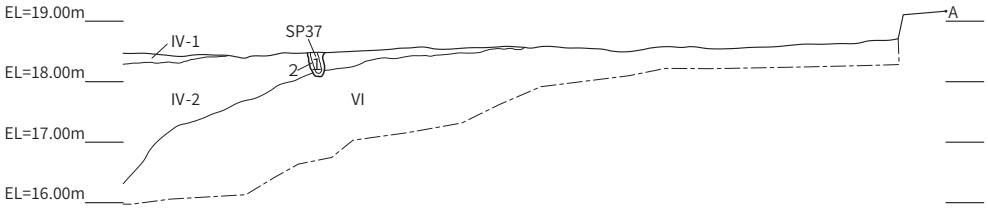
遺構は弥生並行期の土器集中部と土坑を検出した。

遺物は弥生並行期の土器や迫地堆積から縄文時代後・晩期の土器が出土している。

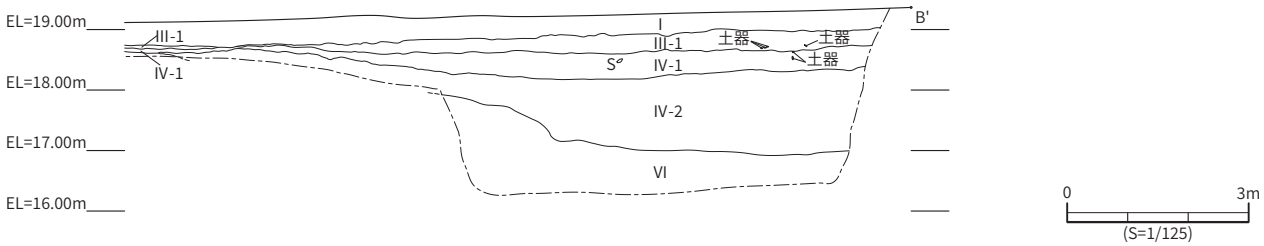


遺構配置図と土層断面の位置





東西サブトレンチ南壁土層断面図



北壁土層断面図

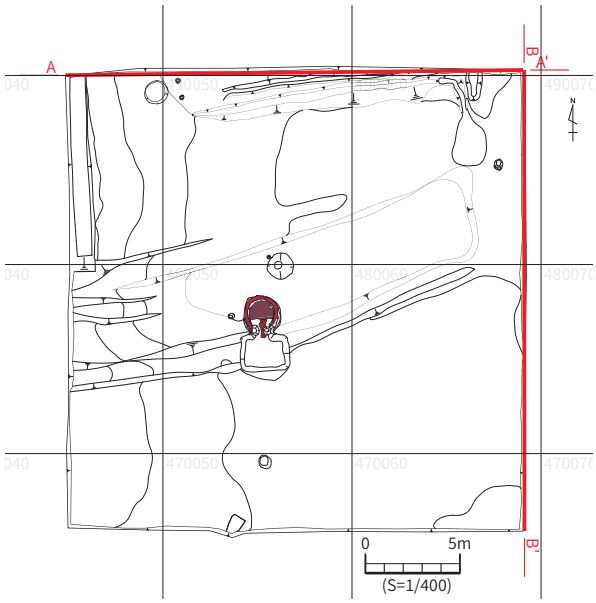
図 13　B 区　平面・土層断面図

楚辺親見原遺跡Ｃ

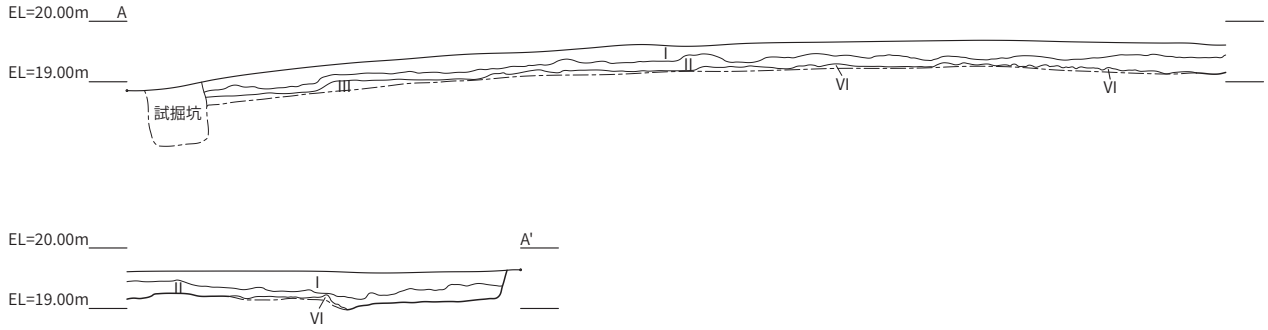
楚辺親見原遺跡Ｃでは、基本層序のⅠ・Ⅱ層を確認した。

遺構は縄文時代晩期の土坑と近代の炉跡を検出した。

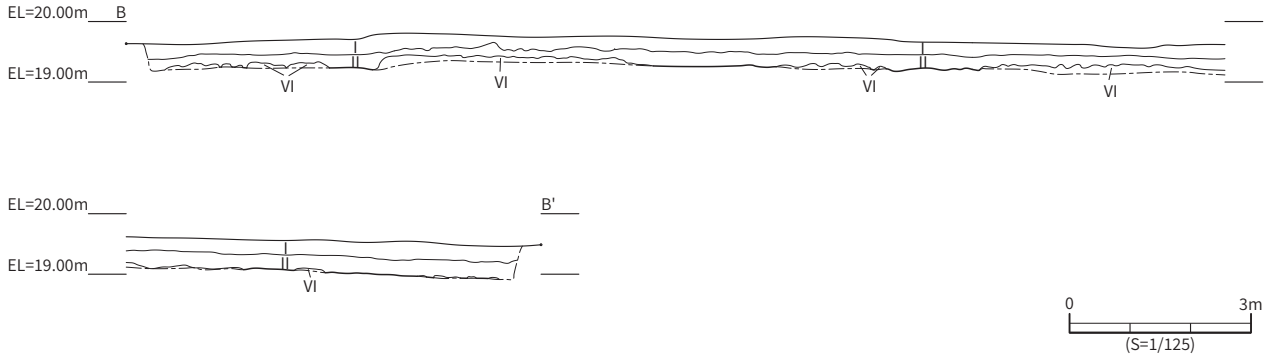
遺物は土坑から縄文時代の土器が出土したが、遺物包含層や近代の遺構からはほとんど出土しなかった。



遺構配置図と土層断面の位置



北壁土層断面図



東壁土層断面図

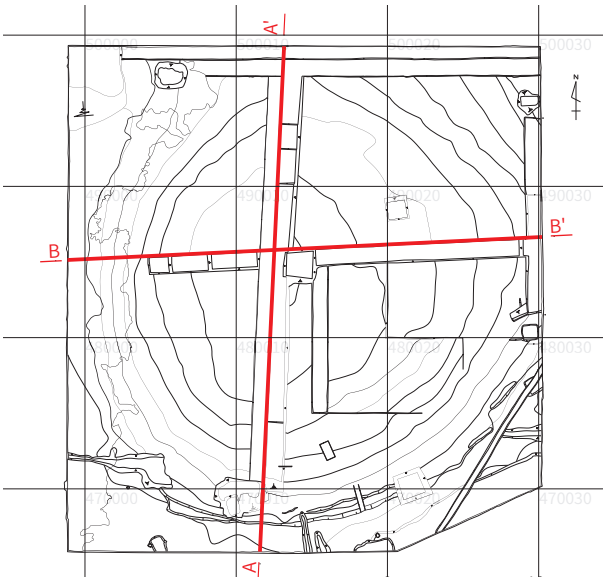
図 14　Ｃ区　平面・土層断面図

楚辺親見原遺跡 D

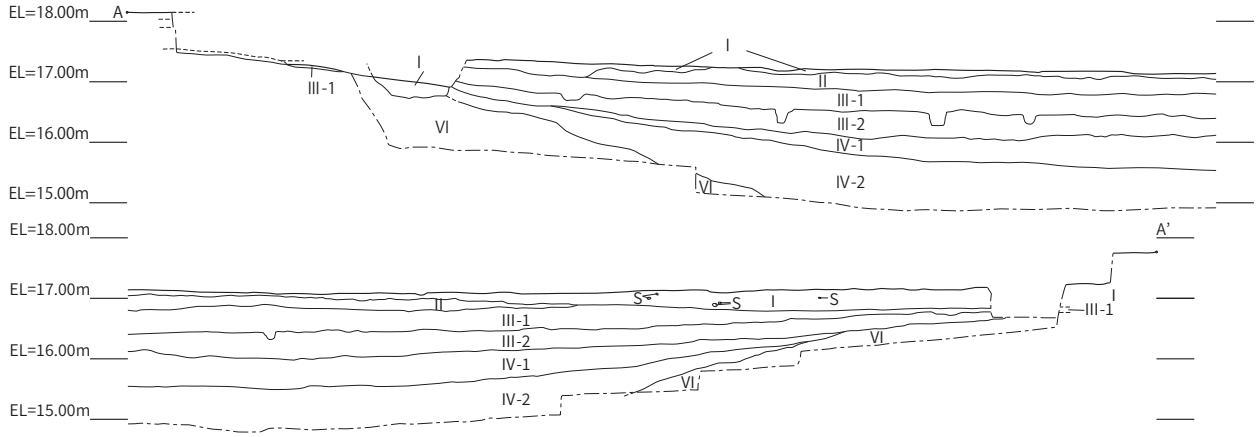
楚辺親見原遺跡 D では基本層序のⅠ・Ⅱ層、迫地堆積のⅢからⅣ層を確認した。迫地堆積は調査区の中央部分が最も深くなっており、地表より６ｍでⅥ層を確認した。また調査区の西側で岩盤であるⅧ層を確認した。

遺構はⅢ -2 層上面でグスク時代のピットを確認したが、プランは確認できなかった。

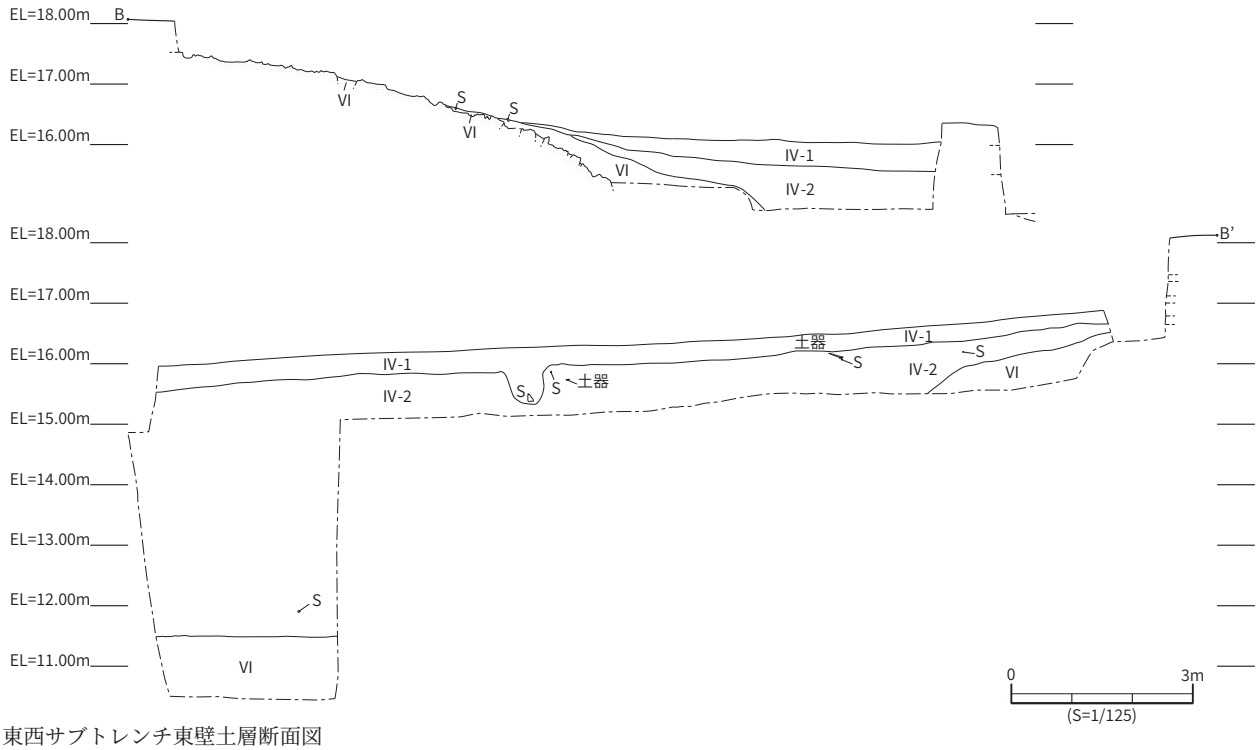
遺物は迫地堆積より縄文時代晩期から弥生並行期の土器が出土している。



遺構配置図と土層断面の位置



南北サブトレンチ北壁土層断面図



東西サブトレンチ東壁土層断面図

図 15　D 区　平面・土層断面図

時期ごとの遺構の概要

先史時代（縄文時代晩期～弥生並行期）

楚辺親見原遺跡Ａでは竪穴遺構６基と土坑７基、遺物集中を１基検出した。遺構はⅠ層又はⅢ-2 層を掘削後、Ⅵ層またはⅦ層上面で検出した。

竪穴住居跡は令和３年度に実施した調査区の東側で検出した。遺構は 660060 を中心に広がる迫地形の周辺及び、その南側で検出した。

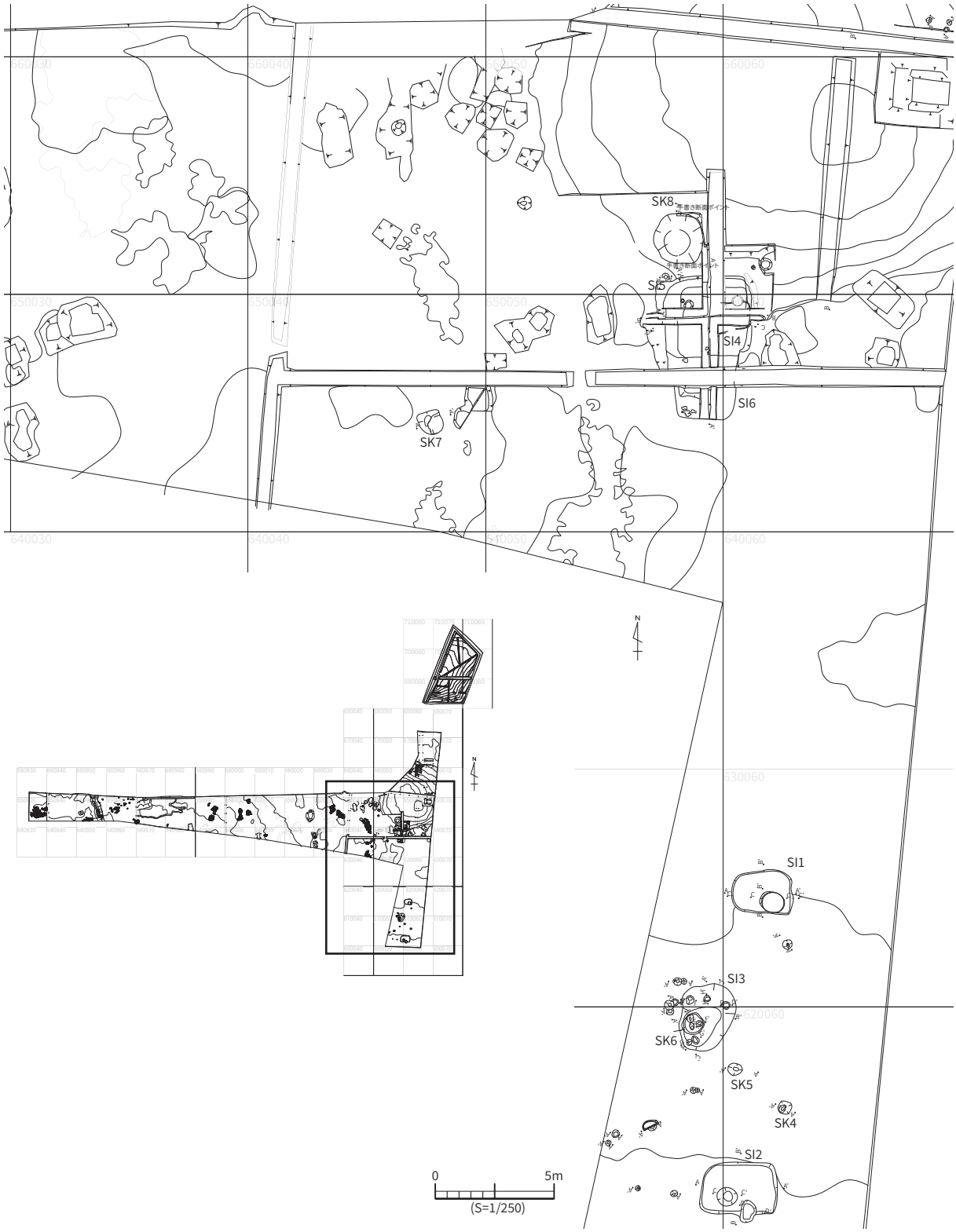


図 16　縄文時代の遺構配置図

SI １は 620060 に位置し、長軸 2.46 m、短軸 1.75 m の隅丸方形で、深さは 0.45m となる。遺構の覆土は黒褐色（10YR2/3）のシルトが主体である。遺構の上部は後世の影響を受けて上部の大部分は削平されている。

住居跡の構築面は９層にあたり、上面が床面となる。遺構の南東部に円形状の掘り込みがあり、深度は 1.2m で断面は下部がやや膨らむフラスコ状となっていることから、貯蔵穴として利用されたと考えられる。

遺物は土器が主体で阿波連浦下層式が最も多く、他に仲原式、宇佐浜式が出土している。仲原式は宇佐浜式口縁 (19) やカヤウチバンタ式口縁 (15) が出土している。阿波連浦下層式は、口縁部が窄まる器形のもの（３・11）がある。（７・10）は胎土や内外面に指頭圧痕が残るなど仲原式の特徴がみられるが、口唇部を平坦に成形しており、その際に余った粘土が口縁端部にみられるほか、口縁下部に不明瞭な「く」の字状に屈曲する特徴から、阿波連浦下層式とした。（10）は「く」の字屈曲部分に沈線を施す。（７）は口縁下部に縦状の耳やその上部に穿孔を施すが、穿孔は焼成前に施されていることから加飾と考えられる。石器は石皿または砥石(23)や台石(22)のほか、安山岩製の打製石鏃（14）が出土している。

遺構は６層で年代測定を実施しており、結果は 2540 ± 25BP となっており出土遺物の年代観と一致する。

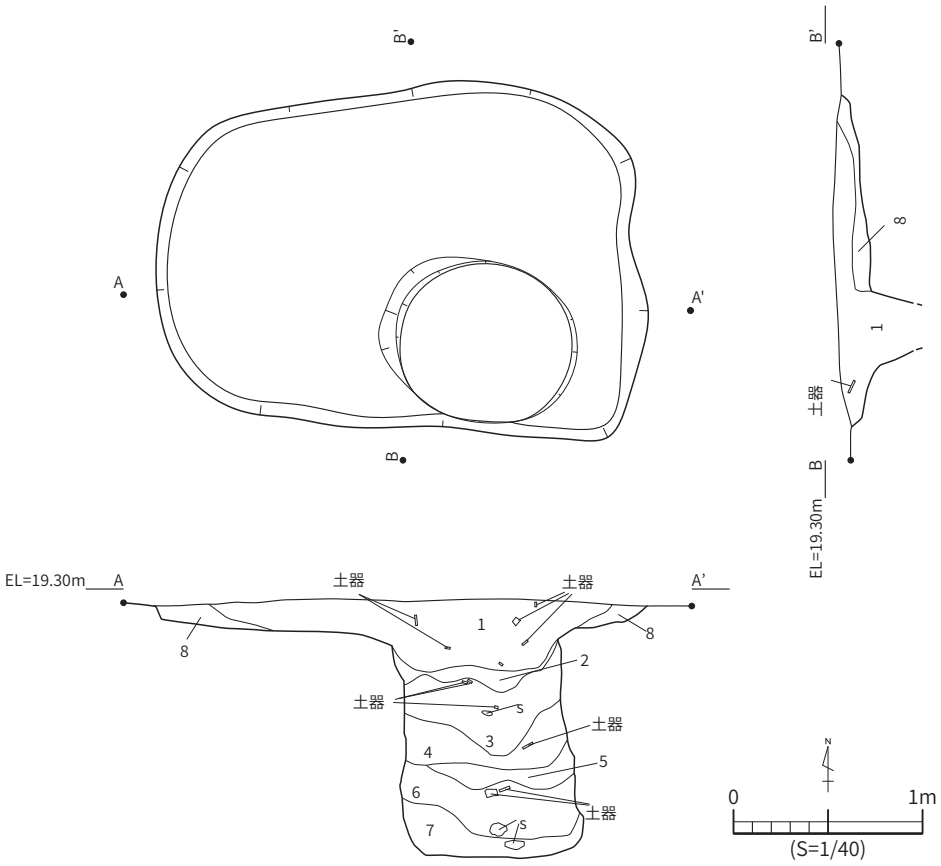


図 17　SI1　遺構平面・土層断面図

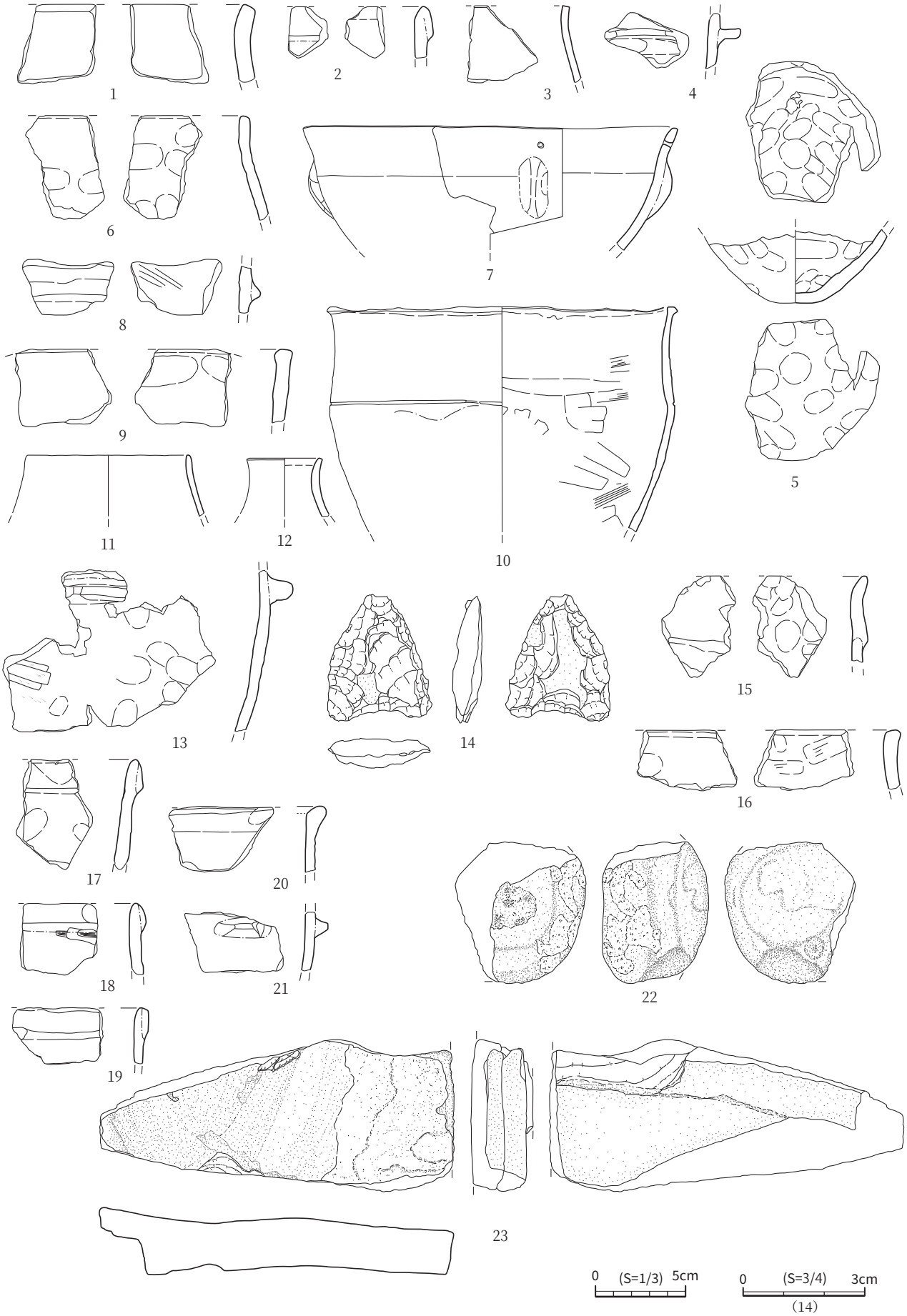

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
0 (S=1/3) 5cm
0 (S=3/4) 3cm
(14)

図 18　SI1　出土遺物

SI2 は 610050 に位置し、長軸 3.2 m、短軸 2.3 mの方形となる。遺構覆土は暗褐色（10YR3/4）のシルト～極細砂が主体。当初は遺構プランが不明瞭であったため、遺物を回収しながら全体を掘り下げた (2 ～ 3 ㎝) ところ、方形プランを検出した。遺構の上部は後世の影響を受けており上部の大部分は削平されている。竪穴住居跡の構築面は１層で、上面に使用面があったとみられる。南西側に遺物が集中して出土した浅い落ち込みとなる２・３層があり、さらに遺構の南側に同様の落ち込みとなる４層を確認した。これらの落ち込みは SI1 と異なり浅く、用途は判然としない。

遺物は土器が主体で、宇佐浜式（24）、仲原式（29）、奄美系（31）、横位の耳を貼り付ける胴部（25・26・30）が出土している。（31）は内部が空洞となる横位の耳で、耳の上下に焼成前に付いたとみられる窪みがある。類似する遺物がウフタⅢ遺跡で出土している。（30）は弧状の耳で薄く、端部はやや上を向く。（27）は緑色片岩製の磨製石斧で、（28）は緑色片岩製の磨製石斧の未製品である。

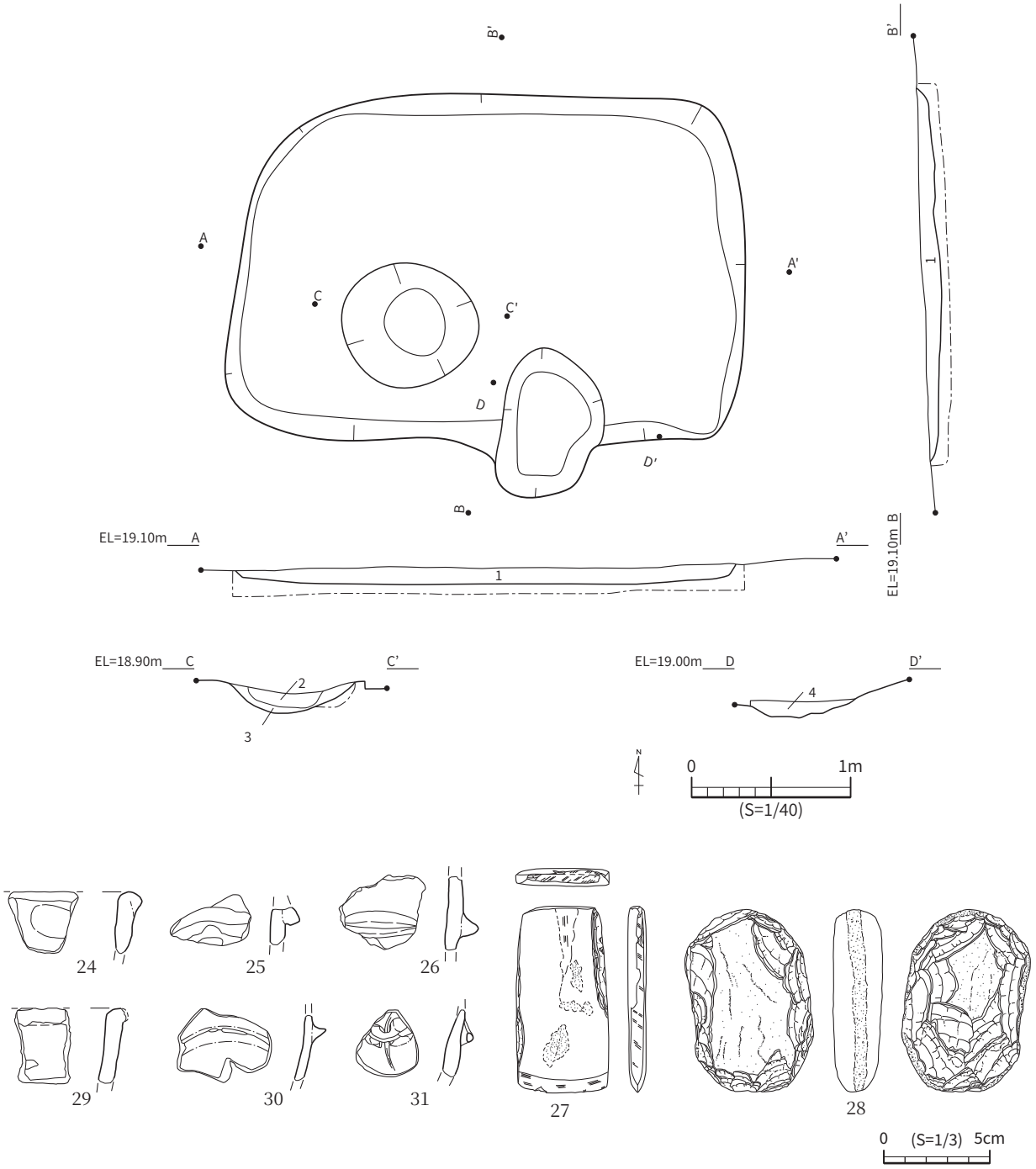


図 19　SI2　遺構平面・土層断面図、出土遺物

SI3 は 620060 に位置し長軸３m、短軸 2.3 mの不定形となる。遺構の覆土は暗褐色(10YR3/4)の極細砂～シルトが主体。当初は複数の土坑が切り合うものと考えていたが、調査後に精査した結果、竪穴住居跡とした。遺構の上部は後世の影響を受けており大部分が削平されている。住居の構築層は３層で、床面からピット７基を検出した。ピットの覆土は暗褐色(10YR3/3)シルト～極細砂が主体。このうち P1 及び P3 で根固め石と考えられるニービや扁平な石材を検出した。P2 の上面でも同様の石材を検出していたが、記録前に取り上げを行ったため記録していない。

遺物は土器が多く出土しているが小破片であったため型式は不明である。石器は(32)の中粒砂岩製の敲磨石が出土している。

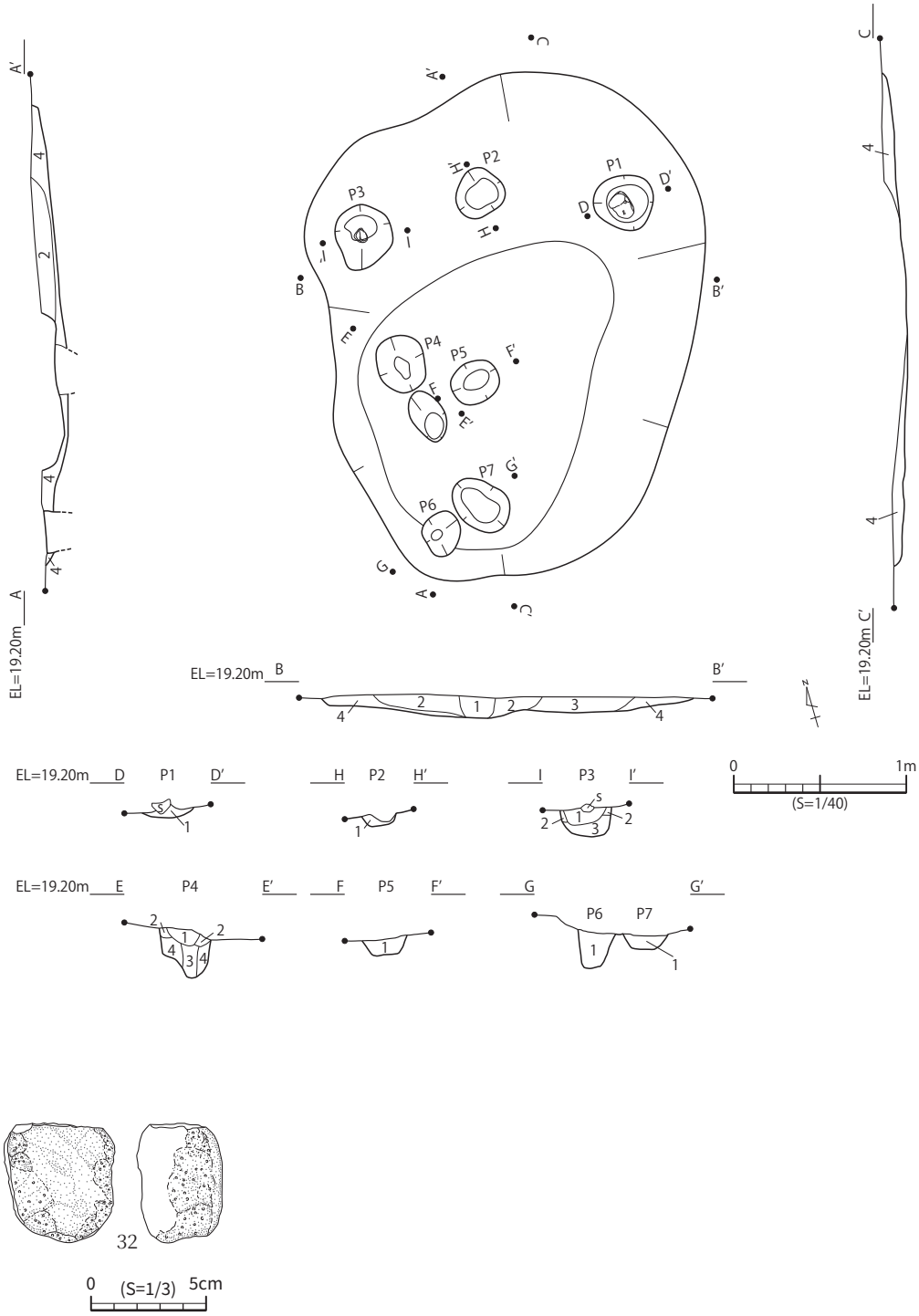


図 20　SI3　遺構平面・土層断面図、出土遺物

SI4・５・６は650060・640050に位置し、Ⅲ-2層掘削後Ⅵ層上面で検出した。当初はプランが不明瞭であったため、サブトレンチを設定し掘削を行った。遺物の出土状況や土層堆積の状況により複数の遺構が確認できたことから、全体を掘り下げた(2～3㎝)ところ、３基のプランを確認した。遺構は上部をグスク時代の耕作等により削平されている。遺構の切り合いはSI4とSI5、SI4とSI6についてはサブトレンチの土層堆積で確認できたが、SI5とSI6については確認できなかった。しかし、全体を掘り下げた際に南西側で前後関係を確認でき、SI6が最も古く、SI5、SI4の順に新しくなることが確認できた。

SI4は長軸３m、短軸２mの方形となる。遺構の覆土は暗褐色土（10YR3/4）のシルト～極細砂が主体。遺構は土層堆積から使用時期が２つあるとみられ、１期が６から８層、２期が２層から５層に分けられる。１期の構築層は７層・８層で、遺物が少なく締りが強い。６層の下面が使用面となり、SI5との境目に遺物が多く出土す

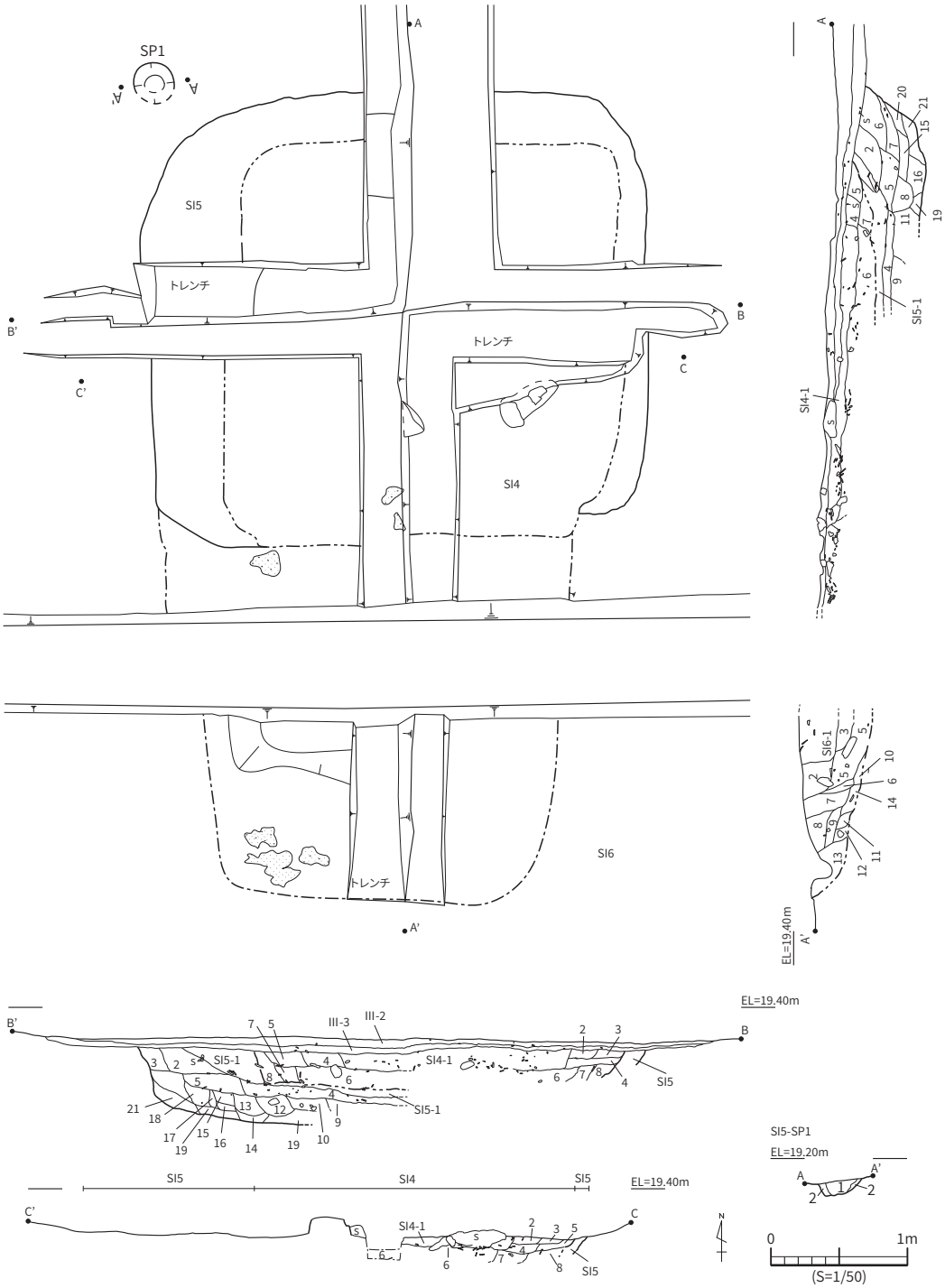


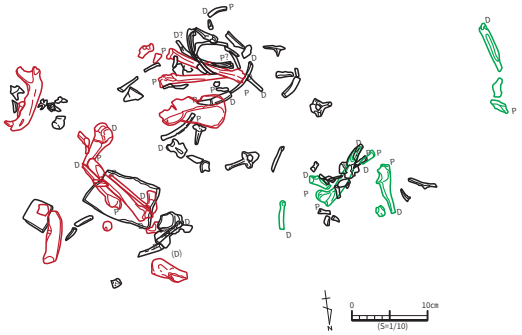
図21　SI4・SI5・SI6　遺構平面・土層断面図

図 22　SI4・SI5・SI6　遺物・獣骨出土状況（赤色が遺物）

る。２期は２から５層が７・８層と同様の堆積であったことから構築層と考えられ、１層下面が使用面となり遺物が６層との境目に沿って多く出土する。

SI5 は長軸 3.6 m、短軸 3.2 mの方形となる。遺構の覆土は暗褐色土(10YR3/4)のシルト～極細砂が主体である。遺構は完掘していないため、床面状況や柱穴等の有無は確認できなかった。サブトレンチの土層堆積の状況から使用時期が少なくとも２つあるとみられるが詳細は不明である。

SI5 の東西サブトレンチの 12 層からは、イヌが頭部を南東へ向け左外側が上を向いた状態で出土した。埋葬姿勢については、左後肢は屈曲するが、骨の多くは解剖学的位置になく分散していることから詳細については不明である。すべての骨にカットマーク等の解体痕は認められないことから、骨が分散したのは、土圧による影響のためだと考えられる。また、四肢骨の骨端は癒合していないことから、比較的若い個体だといえる。



赤が左、緑が右

検出状況オルソ

図 23　SI5　獣骨検出平面図

表２　SI4・SI5・SI6 の獣骨集計表

遺構	分類	部位	残存状況	成長	左右	数	計
SI4 1層	ブダイ科 (イロブダイ)	歯骨	—	—	L	1	1
SI5 9層	イヌ	遊離歯(上顎)	P2/P3	—	L	1	101
			犬歯©	—	R	1	
		下顎骨	下顎体 (C.P4.M2)	—	L	1	
		遊離歯(下顎)	下顎体(P4)	—	R	1	
			M1	—	L	1	
				—	R	1	
		遊離歯	切歯	—	不明	1	
			—	—	不明	1	
				—	不明	1	
		椎骨(環椎)	一部欠損	—	—	1	
		椎骨(頸椎)	椎体	—	—	2	
			破片	—	—	1	
		椎骨(頸椎？)	椎体	—	—	2	
		椎骨(胸椎)	一部欠損	—	—	5	
			椎体	—	—	2	
			棘	—	—	3	
		椎骨(腰椎)	一部欠損	—	—	1	
			椎体	—	—	2	
		椎骨(尾椎)	椎体	—	—	2	
		肋骨	近位端～骨幹部	—	L	2	
					R	2	
			近位部～遠位部	—	L	1	
					R	1	
			近位部～骨幹部	—	L	2	
					不明	1	
			骨幹部	—	R	1	
					不明	7	
			骨幹部～遠位端	—	不明	2	
		肩甲骨	近位部～遠位端	—	L	1	
		上腕骨	近位端～骨幹部	—	R	1	
		橈骨	完形	—	L	1	
		尺骨	近位端～骨幹部	—	L	1	
					R	1	
		寛骨	—	—	L	1	
		大腿骨	近位端～遠位端	—	L	1	
		膝蓋骨？	完形	—	不明	1	
		脛骨	完形	—	L	1	
			骨幹部～遠位端	—	R	1	
		腓骨	近位端～骨幹部	—	L	1	
					R	1	
		中手骨(II)	完形	—	L	1	
		中手骨(III)	近位端～骨幹部	—	R	1	
		中手骨(IV)	完形	—	R	1	
			近位端～骨幹部	—	L	1	
		中足骨	骨幹部～遠位端	—	L	1	
		距骨	完形	—	L	1	
		胸骨	完形	—	不明	1	
		胸骨？	ほぼ完形	—	不明	1	
		中手骨/手根骨	—	—	不明	1	
		中手骨/中足骨	骨幹部～遠位端	—	不明	1	
		手根骨/足根骨	完形	—	不明	2	
		足根骨	—	—	不明	1	
		踵骨	完形	—	L	1	
					R	1	
		指骨(基節骨)	完形	—	不明	7	
		指骨(中節骨)	完形	—	不明	3	
		指骨(末節骨)	完形	—	不明	2	
	カエル	脛腓骨	—	—	不明	1	
	ヘビ	椎骨	—	—	—	7	
	フエフキダイ科 (ヨコシマクロダイ)	歯骨	—	—	不明	1	
	ベラ科	下咽頭骨	—	—	—	1	
	ブダイ科 (ナンヨウブダイ)	下咽頭骨	—	—	不明	1	
	ハリセンボン科	棘	—	—	—	2	
SI6 2層	イノシシ	遊離歯(下顎)	I1/I2	—	不明	1	1

図 24　SI4　出土遺物１

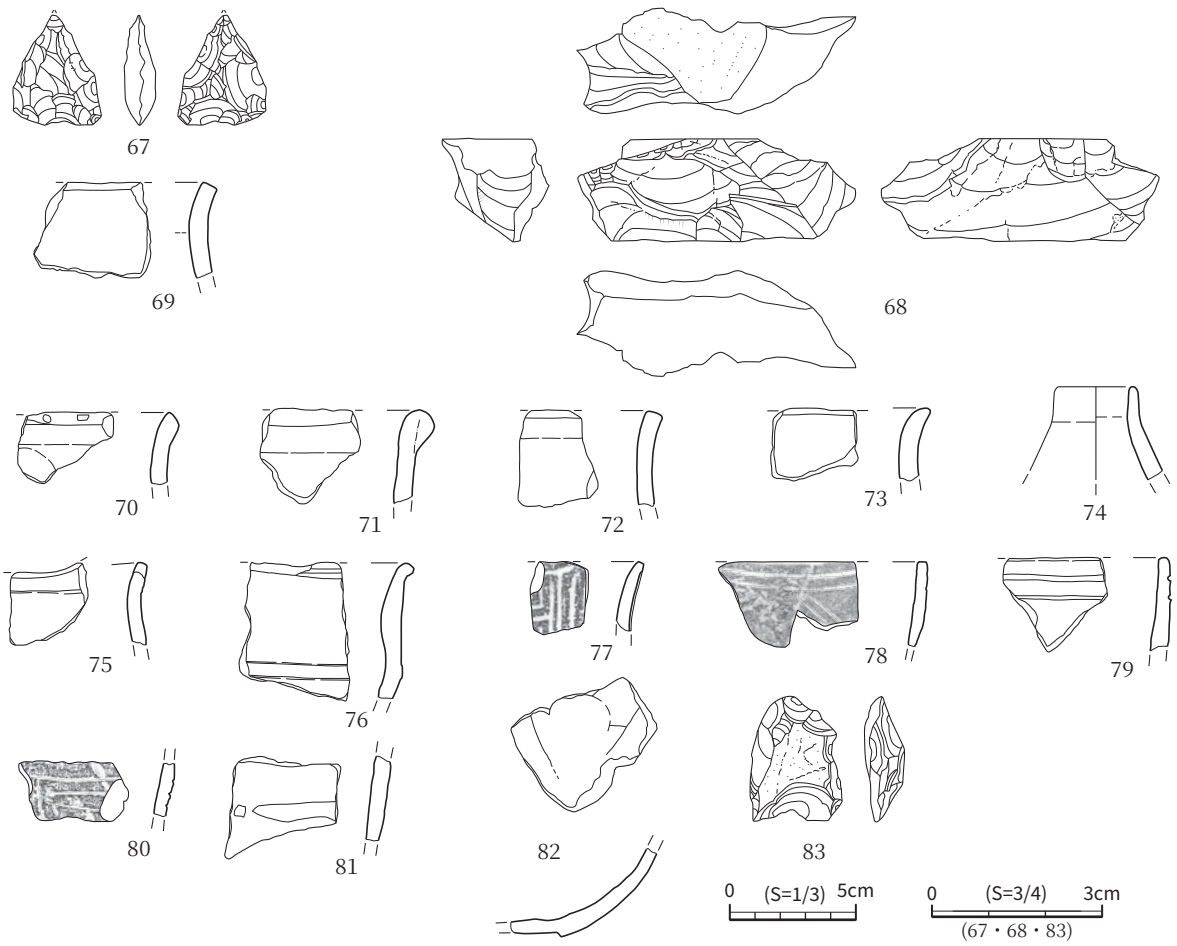


図 25　SI4　出土遺物２

SI6 は調査終了時の計測で東西 2.4 m、南北 2.7 mで長方形となる。遺構覆土は暗褐色（10YR3/4）の極細砂～シルトが主体である。SI6 も完掘していないため、床面状況や柱穴等の有無は確認できなかった。サブトレンチの土層堆積の状況から使用時期が少なくとも２つあるとみられるが詳細は不明である。

遺物は SI4 から阿波連浦下層式（34・41・42・44・54・55・62・69・72）や仲原式（40・73）、が出土しており、また、奄美系（45・48・60）や弥生系（33・57・76）、大洞系（46・58・77・80）の土器や緻密質安山岩製の石鏃（49）、黒曜石の石核（39）といった本島以外の土器や石器・石材、その影響を受けたものが出土している。特に大洞系は SI4 で多く出土している。

SI5 は検出やサブトレンチのみの出土となるが、仲原式（84・88・93）、阿波連浦下層式（85・89・94・95）、奄美系（90）、弥生系（92）が出土している。弥生系の出土が３基の遺構の中では最も多く、特徴的なものとして透かし彫りが施された高台（92）が出土している。また、仲原式はカヤウチバンタ式口縁で、阿波連浦下層式の特徴がみられるもの（84）が出土している

SI 6 からは仲原式（98・102・103・105・106）、阿波連浦下層式（97・99・104・107）、奄美系（108・109）が出土している。仲原式が多く、カヤウチバンタ式口縁のものに特徴がある。胎土は灰色で硬質のものが多く、（102・105）は知名町の友留遺跡出土のものに類似する。また、（105）は外面に白砂のような白色粒が付着している。（106）は浅鉢で宜野湾市のヌバタキ遺跡で出土のものに類似する。（99・104）は胎土は先述の仲原式に類似するが、口唇部を平坦に成形し口唇部に山形の突起を施すことから阿波連浦下層式とした。

図 26 は、サブトレンチから出土し、どの遺構に属するか判別できないもので、口唇部に山形の突起、口縁部に刺突文を施す阿波連浦下層式（113）や、土製品（121）が出土している。

各遺構は年代測定を実施しており SI4 の１層が 1905 ± 25BP、２層が 2500 ± 20BP、SI5 の１層が 2485 ± 25BP、16 層が 2900 ± 20BP、21 層が 2530 ± 25BP、SI6 の２層が 2560 ± 20BP の結果が得られた。

土層堆積や出土遺物、年代測定の結果から前後関係は古い順から SI6・SI5・SI4 となる。

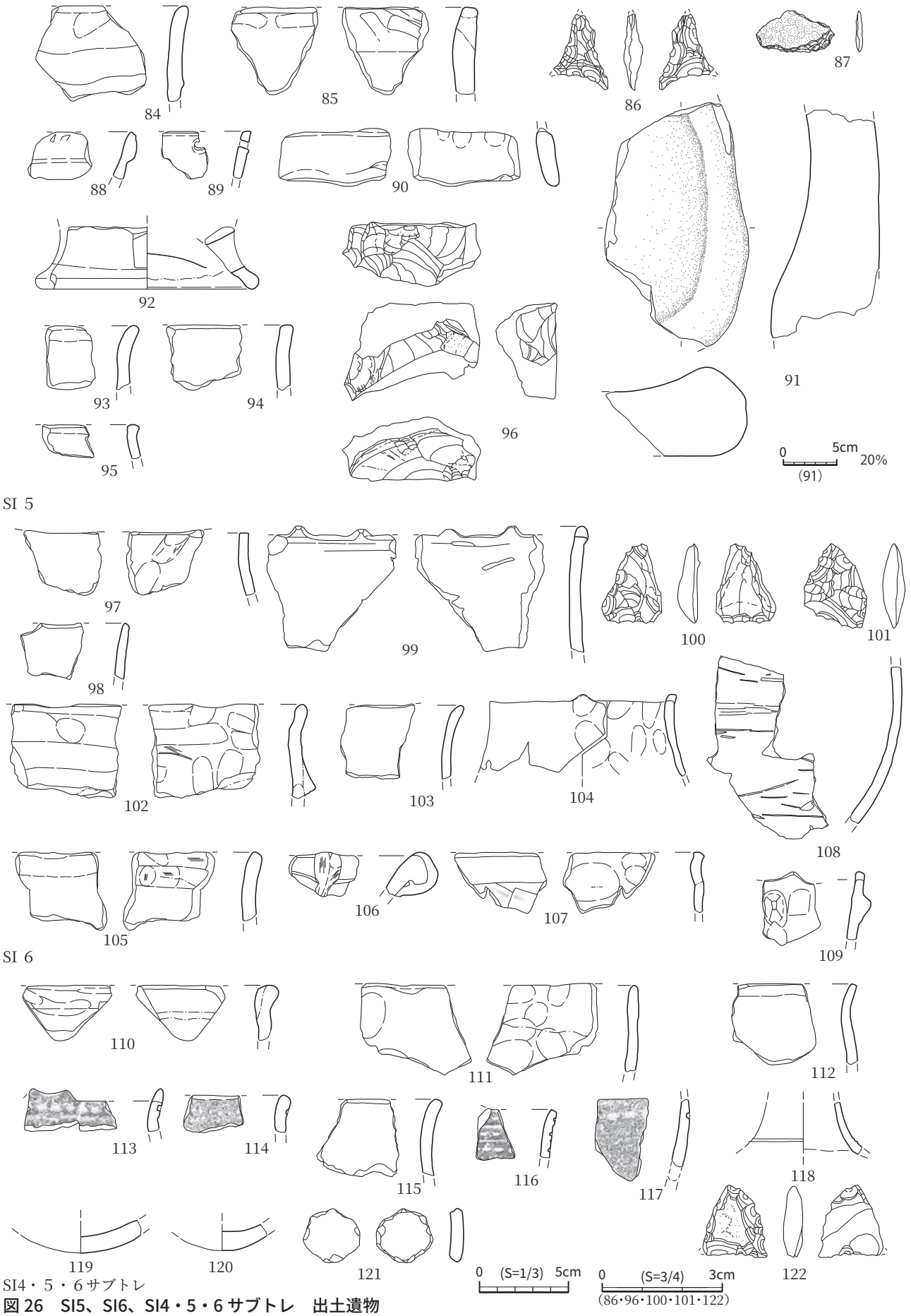


図 26　SI5、SI6、SI4・5・6 サブトレ　出土遺物

土坑は令和元年度の調査で２基、令和３年度の調査で５基を確認した。

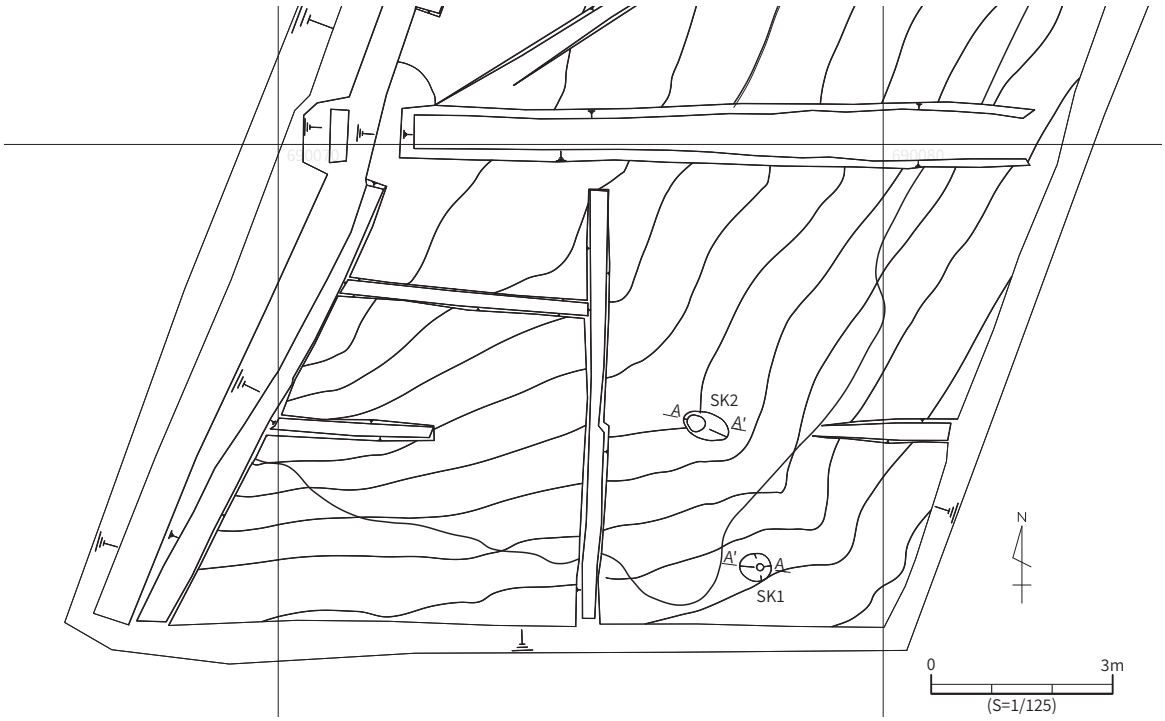
令和元年度の調査では、69070 でⅣ -1 層掘削後に SK1、SK2 を検出した。

SK1 は長軸 0.5㎝、短軸 0.4㎝の円形で、Ⅵ層上面で検出した。遺構覆土は暗褐色（7.5YR3/4）のシルト～極細砂である。

遺物は土器が出土しているが、小破片のため型式は不明である。

SK2 は 69006 に位置しⅥ層上面で検出した。長軸０．８ｍ、短軸 0.4 ｍの円形で、遺構覆土は暗褐色（7.5YR3/4）で極細砂からシルトである。上部を後世の造成等により削平されているため、詳細については確認できなかった。

遺物は土器が出土しており、奄美系の縦耳が施された胴部が出土している。



SK1・SK2　遺構配置図

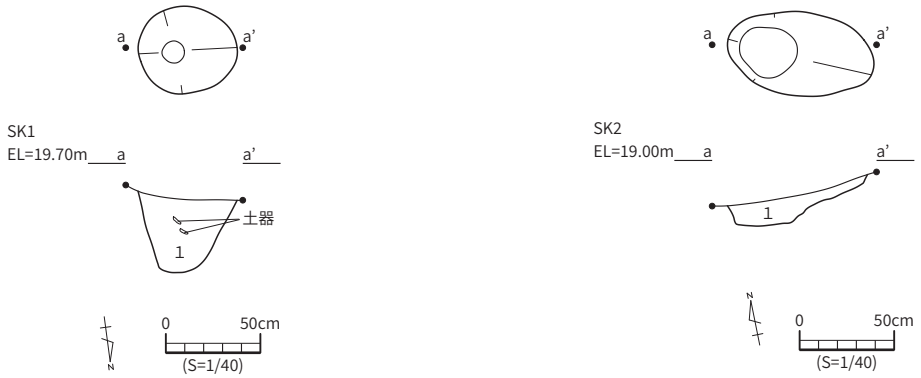


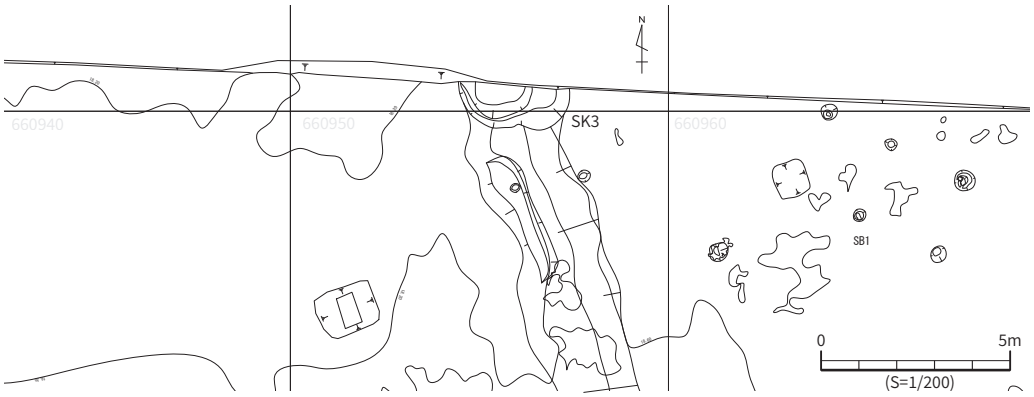
図 27　SK1・SK2 遺構平面・土層断面図

令和３年度の調査では、調査区西側の 660950 でⅠ層掘削後に SK3 を検出した。

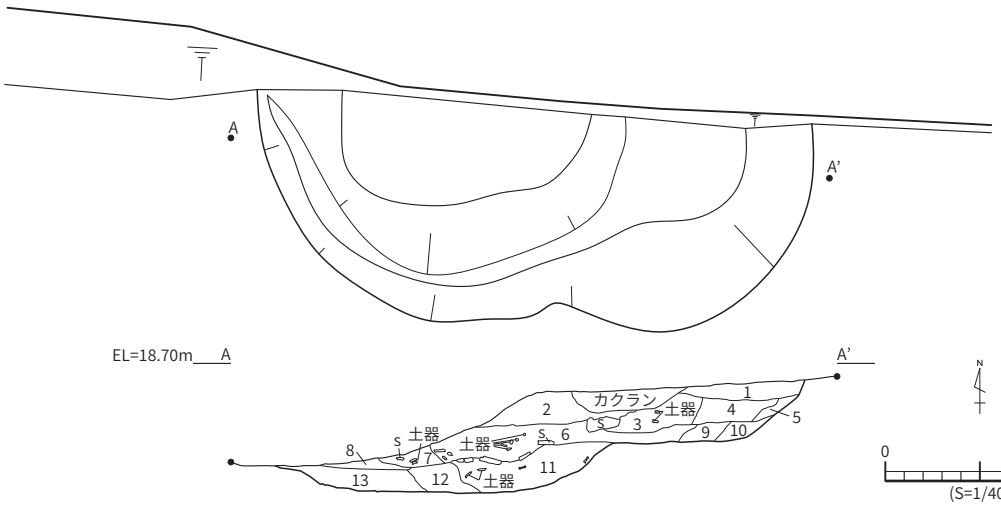
SK3 は調査区の北側に広がっているため、床面の状況等は確認できななかった。調査終了時の計測で東西３m、南北 1.2 mであった。遺構覆土は暗褐色（7.5YR3/4）の極細砂～シルトが主体である。遺構は土層堆積から使用時期が２つあるとみられ、１期が 11 層から 13 層、２期が１層から 10 層に分けられる。この状況は遺構が切り合う、または遺構の使用時期が異なる可能性があるが、詳細については確認することができなかった。

遺物は土器が主体で、仲原式（123・124）と阿波連浦式（125）、丸底の底部（127）等が出土している。（125）は阿波連浦下層式で口唇部の成型や「く」の字状屈曲となる。石器はチャート製の石鏃（128）と中粒砂岩製の敲磨石（129）が出土している。

年代測定を実施しており、12 層が 2505 ± 25BP の値となっており、出土遺物の年代観と一致する。



SK3　遺構配置図



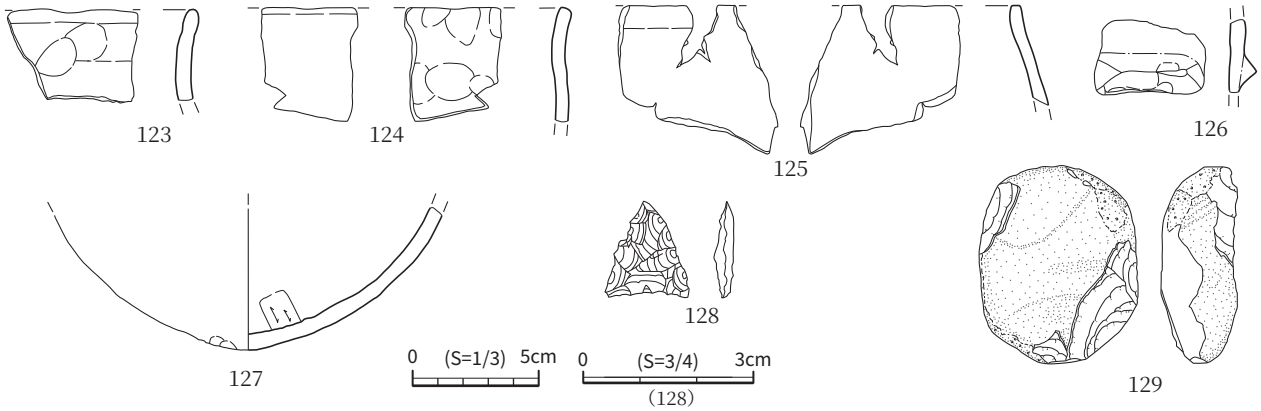


図 28　SK3　遺構平面・土層断面図、出土遺物

SK4、SK5 は調査区南側の 620060 で、SK6 は 20050 でⅡ層掘削後に検出した。また、SK7 は 650040 でⅡ層掘削後に、SK8 は 060050 でⅢ -2 層掘削後にⅣ -1 層上面で検出した。

SK4 はⅥ層上面で検出した。長軸 0.6 m、短軸 0.5 m の不定形をしている。後世の影響を受け上面が削平されている。遺構覆土は暗褐色（10YR3/5）のシルト～極細砂が主体。１層の下に柱痕のような掘り込みが確認できるが詳細は不明である。

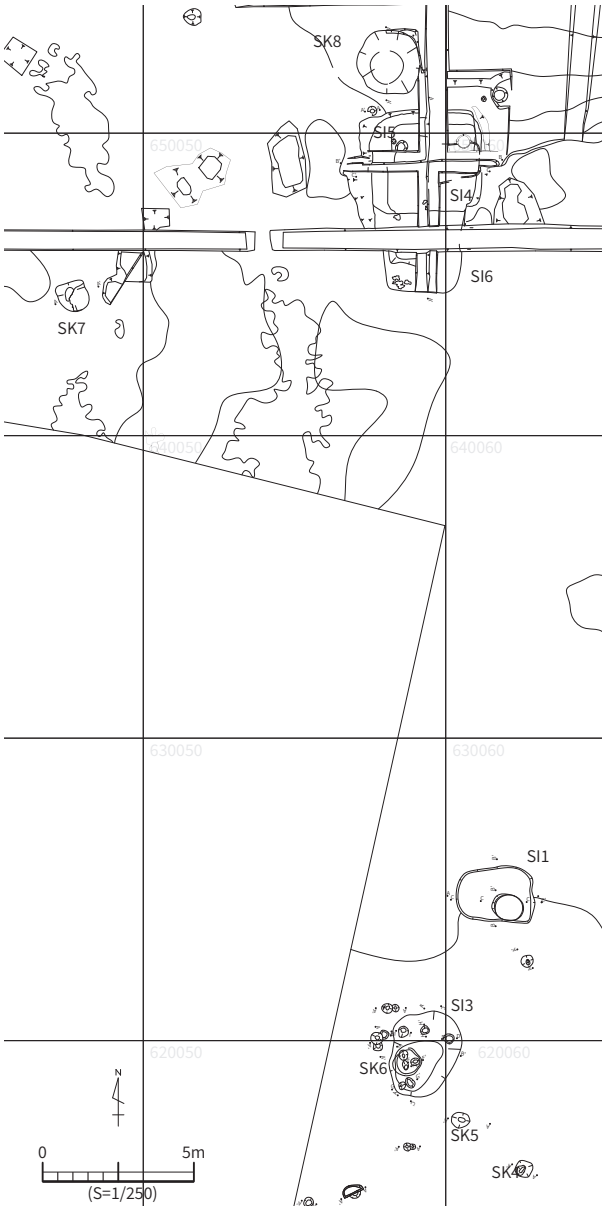
遺物は土器が出土しているが、型式がわかるものは奄美系でその他は小破片のため型式は不明である。

SK ５はⅥ層上面で検出した。長軸 0.6 m、短軸 0.5 mの円形をしている。上面を後世の影響により削平されている。遺構覆土は暗褐色（10YR3/4）のシルト～極細砂が主体。

遺物は小破片のため型式は不明である。

SK6 はⅥ層上面で検出した。長軸 0.9m、短軸 0.8m の円形をしている。上面を後世の影響により削平されている。遺構覆土は暗褐色（10YR3/4）のシルト～極細砂が主体。遺構は SI3 を掘り込んでいる。1 層と 2 層はピットになる可能性がある。3 層は土器片や焼土を多く含む。

遺物は小破片のため型式は不明である。



SK4・SK5・SK6・SK7・SK8　遺構配置図

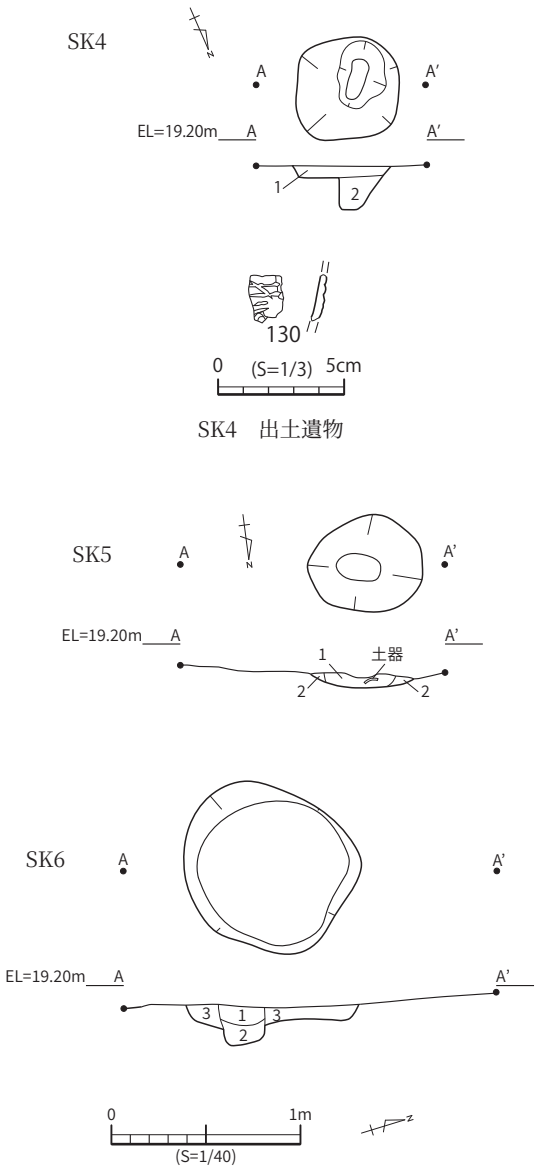


図 29　SK4・SK5・SK6　遺構平面・土層断面図、出土遺物

SK7 はⅥ層及びⅦ層上面で検出した。長軸 1.2 m、短軸１mとなり、地表から 1.5 mでⅥ層を確認した。下部は岩盤を避けるように西側が深くなる。遺構覆土は暗褐色（10YR3/4）のシルト～極細砂が主体。土層堆積は掘り込んだ層や遺物の出土しないレンズ状堆積となる間層が複数確認できた。

遺物は土器が主体で宇佐浜式（135・137 ～ 141）や仲原式（131・133・136）、阿波連浦下層式、奄美系や弥生系が出土している。宇佐浜式は薄手で砂質のものが多い。仲原式はカヤウチバンタ式口縁（133・136）が多く、（136）は口縁下部の段に丸文を施すもので類似のものが龍郷町の手広遺跡から出土している。（142）は仲原式のカヤウチバンタ式口縁の可能性があるが、波状口縁であることや口唇部が平坦に成形されることから当てはまらず型式不明とした。

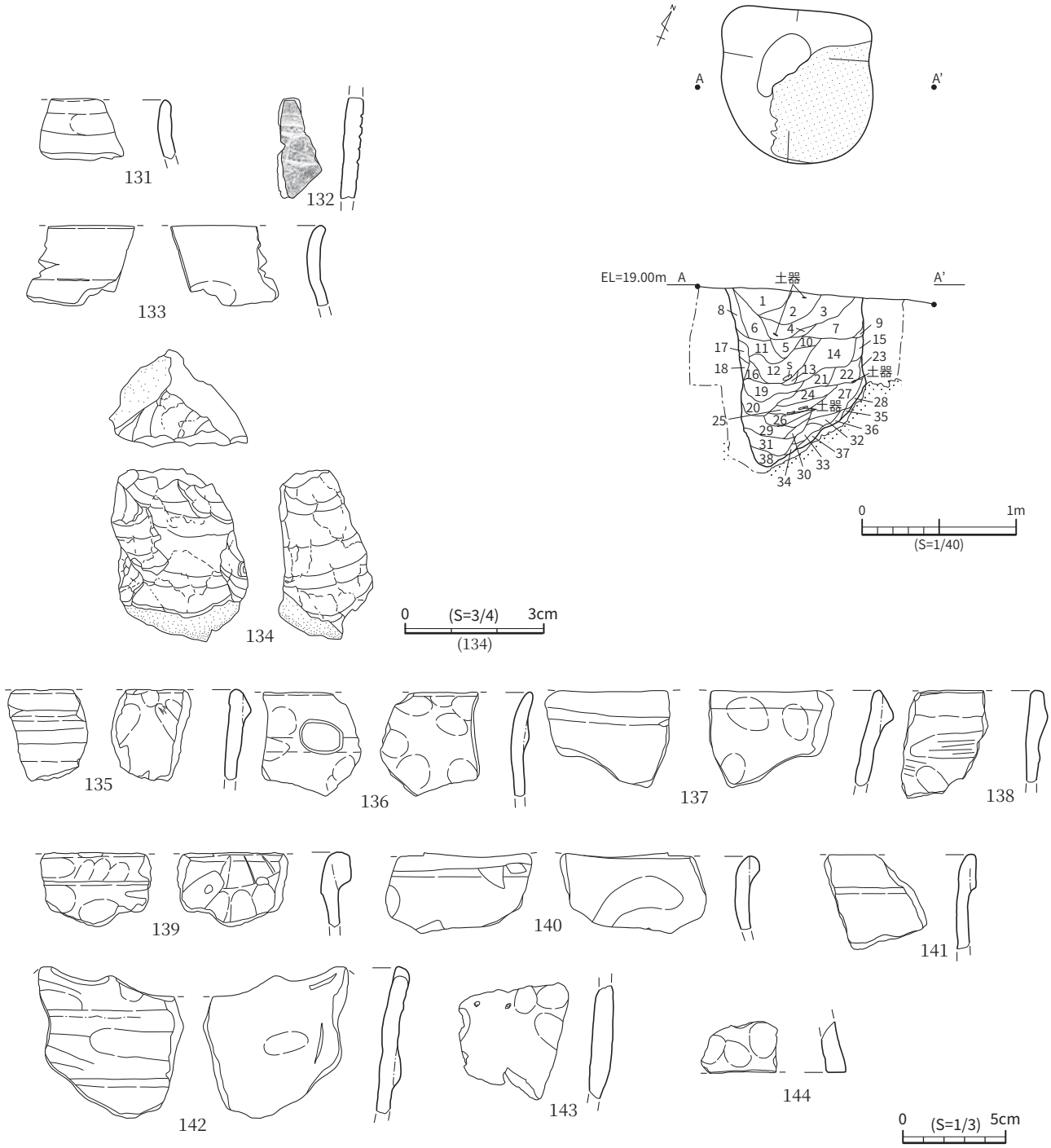


図 30　SK7　遺構平面・土層断面図、出土遺物

SK8 はⅥ層上面で検出した。長軸２m短軸２mの円形となり、地表から３m でⅥ層を確認した。下部は岩盤を避けるように北側が深くなる。18 層はフラスコ状に南に向けて掘り込まれるが、崩落の危険があるため掘削を行わなかった。遺構覆土は暗褐色（10YR3/4）のシルト～極細砂が主体である。土層堆積は１層から８層と９層から 19 層で様相が異なる。上部は７層が焼土面となり、上層に焼土片が集中する。焼土面は厚さ 10 ㎝程あり硬化していた。また下部はＳＫ７同様に掘り込んだ層や、遺物の出土しないレンズ状堆積となる間層が複数確認できた。

遺物は上部では宇佐浜式（149）、くびれ平底の底部（145）や高台（146）が、下部では有文の宇佐浜式（151）が出土している。

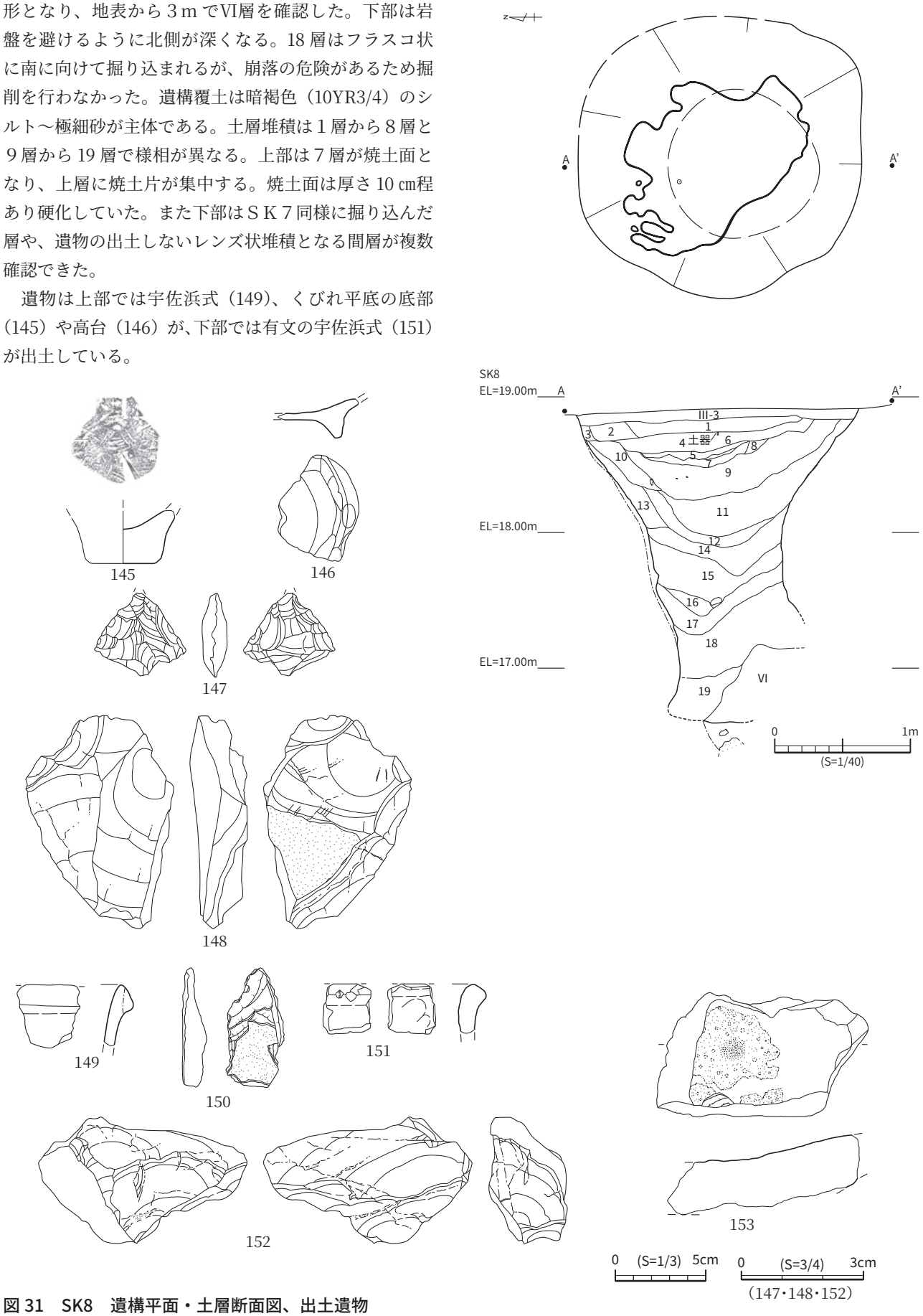


図 31　SK8　遺構平面・土層断面図、出土遺物

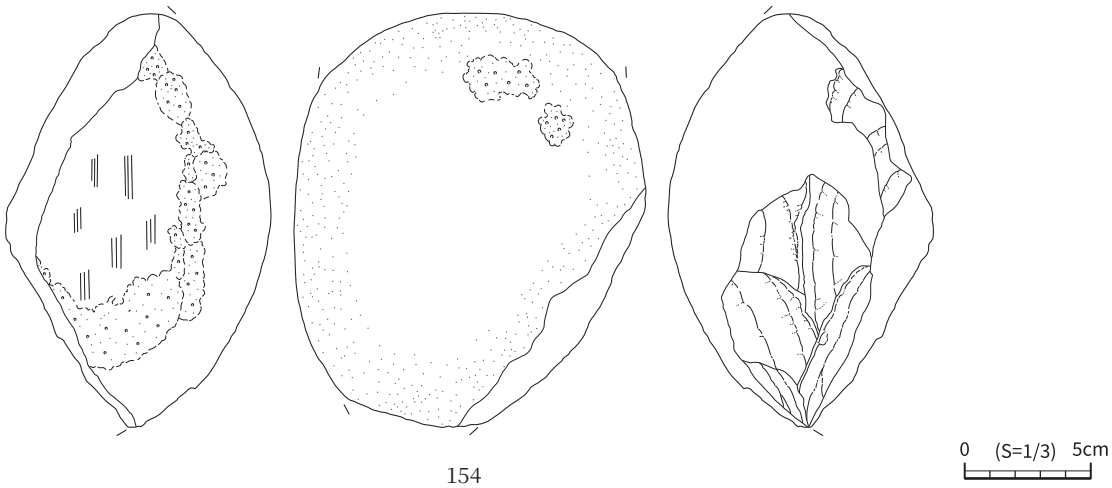
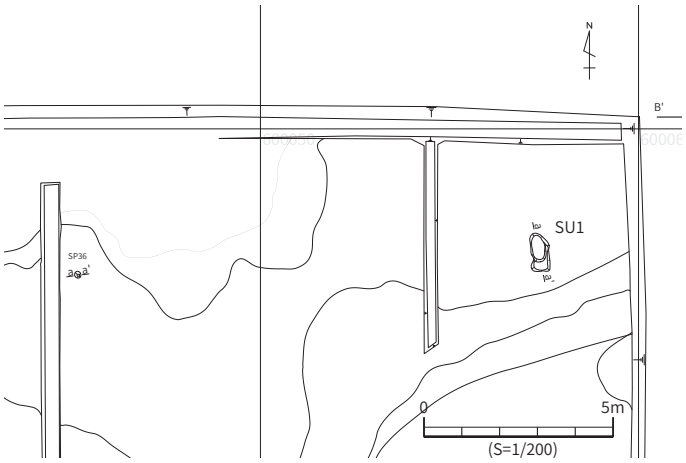
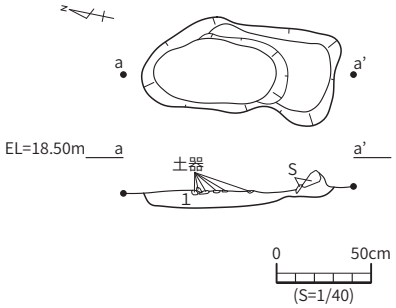


図 32　SK8 出土遺物

B 区では SU1 を検出した。SU1 は 590050 に位置し、Ⅵ層上面で検出した。長軸１m、短軸 0.5m となる。遺構覆土は暗褐色（7.5YR3/3）でシルト～極細砂が主体である。上部が後世の造成等により削平されているため詳細は確認できないが、北側に SI １、SI ２があることから土坑もしくは竪穴住居跡であった可能性がある。遺物は土器が主体で、仲原式や阿波連浦下層式が出土している。阿波連浦下層式（155・156）は内面があまり調整されず指頭圧痕が残るものが出土している、また、（157）は土製品で刻みのような加工がみられる。石器は緑色片岩の磨斧が出土している。



SU1　遺構配置図



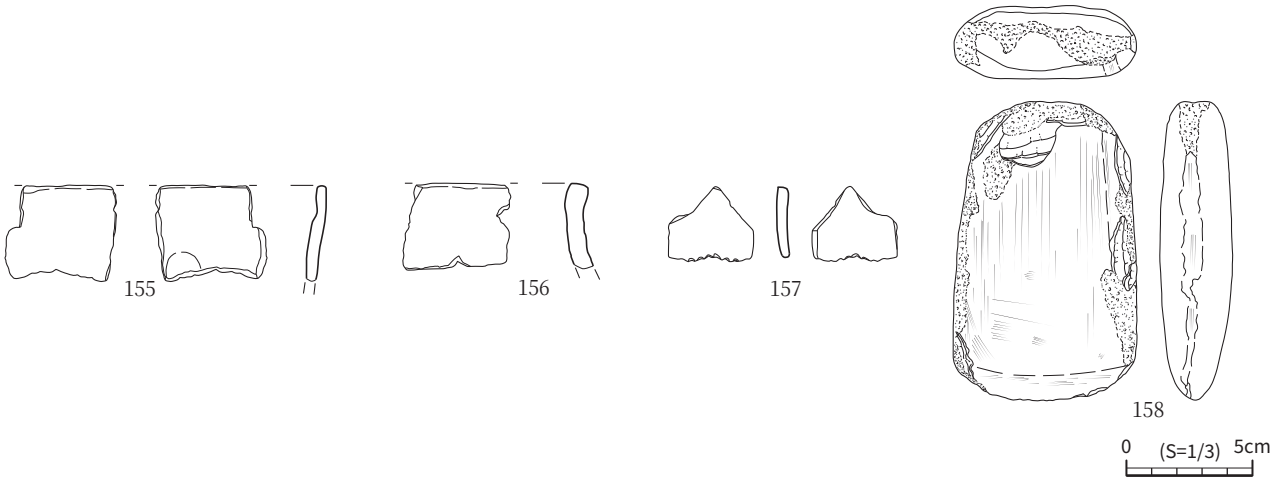


図 33　SU1　遺構平面・土層断面図、出土遺物

C 区ではⅡ層掘削後に SK1、SK2、SK3、SK4 を検出した。

SK1 は 4800040 に位置し、Ⅵ層上面で検出した。遺構は長軸 1.2 m、短軸 1.2 mで、遺構覆土は黒褐色（7.5YR2/2）のシルト～極細砂が主体である。底面平坦で遺構の断面は台形状となる。遺構の西側で同様の覆土を有する SP3 と SP4 を検出したが、SK1 に伴うかは不明である。

遺物は土器が主体で宇佐浜式や仲原式のほか、土製品が出土している。

SK2 は 4700050 に位置し、Ⅵ層上面で検出した。遺構は長軸 1.3 m、短軸 1.3 mで、遺構覆土は暗褐色（10YR3/4）のシルト～極細砂が主体。A 区の SK7 や SK8 のような土坑とみられるが、土層堆積が異なる。また SK1 と同様に遺構の西側で同様の覆土の SP2 を検出したが、SK2 に伴うかは不明である。

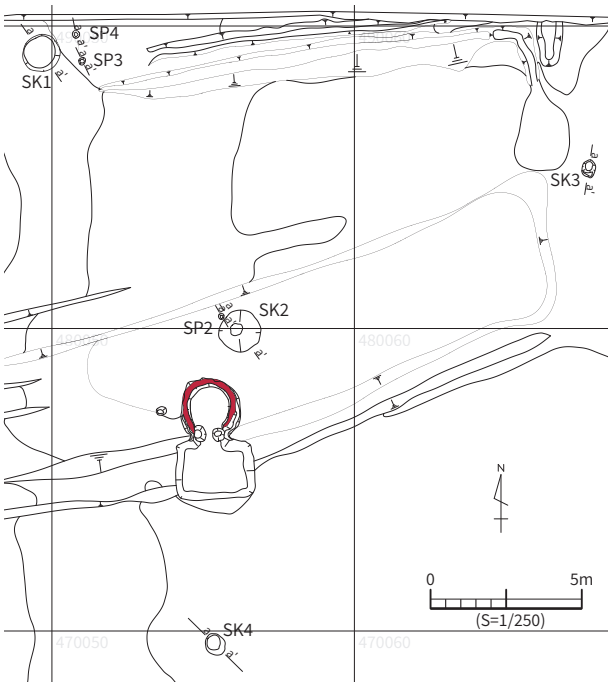
遺物は出土しなかった。

SK3 は 490065 に位置しⅥ層上面で検出した。遺構は長軸 0.4 m、短軸 0.3 mの遺構覆土は暗褐色（10YR3/4）のシルト～極細砂である。

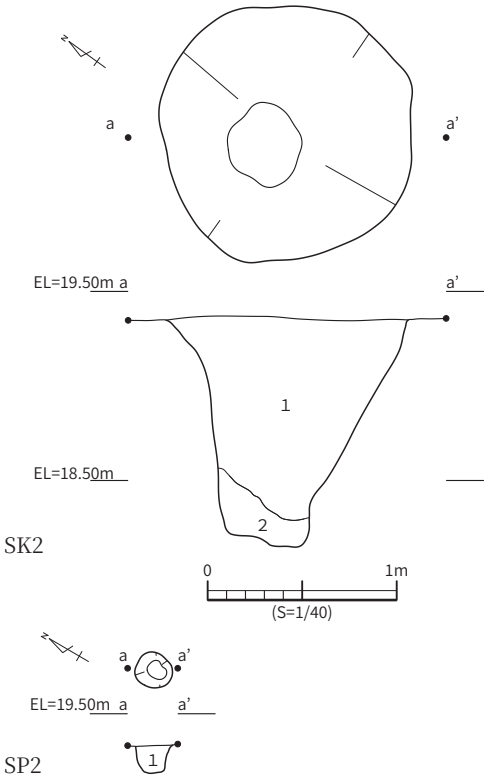
遺物は土器が出土しているが小破片のため型式は不明である。

SK4 は 470055 に位置しⅥ層上面で検出した。遺構は長軸 0.7 m、短軸 0.6 mで、遺構覆土は暗褐色（7.5YR3/3）のシルト～極細砂である。

遺物は出土しなかった。



SK4・SK5・SK6・SK7　遺構配置図



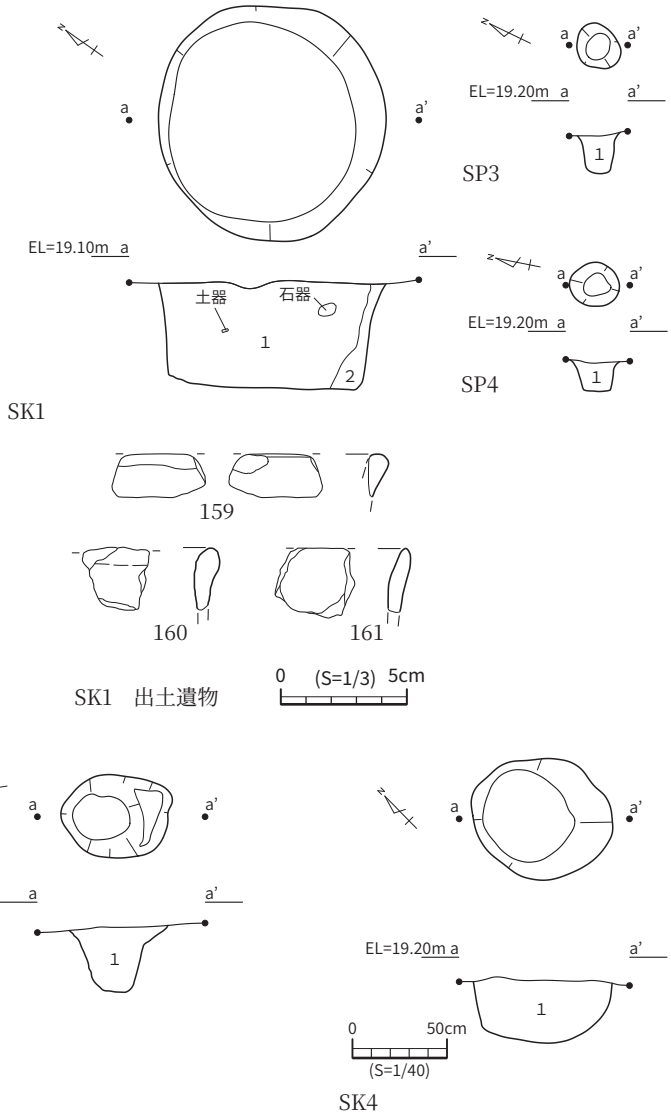
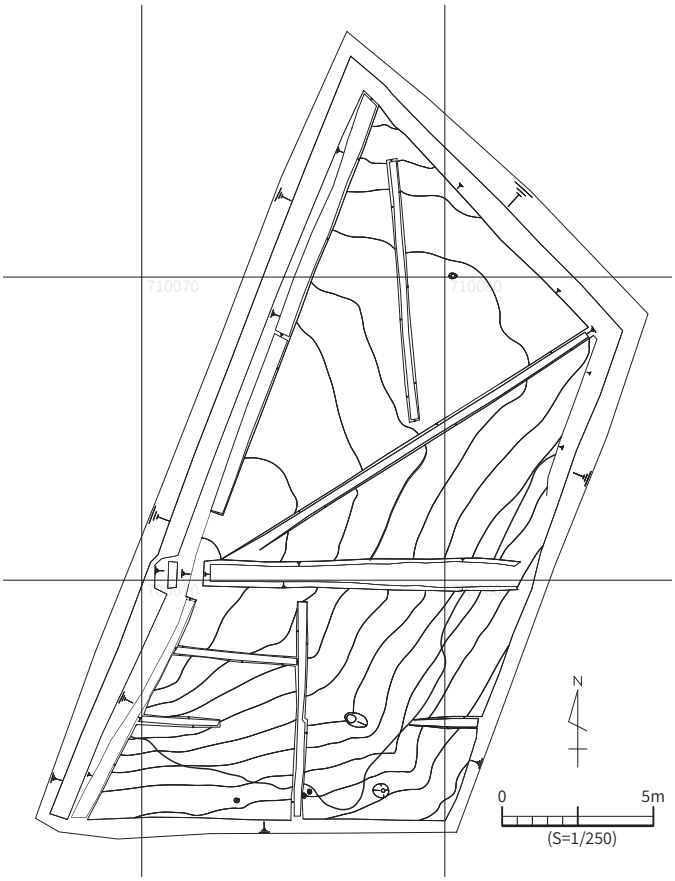


図 34　C 区　SK1・SK2・SK3・SK4・SP2・SP3・SP4　遺構平面・土層断面図、出土遺物

迫地形　迫地形１は、A 区の令和元年度調査区全体で確認でき、調査区の東側から南西に向けて深くなっている。土層堆積は基本層序のⅢからⅤ層が確認でき、Ⅲ -1 層は水平堆積、Ⅳ -1 やⅣ -2 層はレンズ状堆積をしている。Ⅲ層は黒褐色（7.5YR3/2）のシルト～極細砂が主体、Ⅳ層は黒褐色（7.5YR2/2）の粘土～シルト主体、Ⅴ層は暗褐色（10YR3/4）粘土～シルト主体で、Ⅵ層は明褐色（7.5YR5/6）となっている。

遺物は各層から土器、石器・石材が出土している。土器が最も多く出土しており、荻堂式（175）、カヤウチバンタ式（173･176）、室川式（177 ～ 211）、宇佐浜式（162 ～ 164、166 ～ 168、212 ～ 258・260 ～ 264・325 ～ 328）、仲原式（163、169 ～ 170・174・265 ～ 285）、阿波連浦下層式（165・286・287）、くびれ平底（172）、奄美系（171）、弥生系（288）、大洞系（289）が出土している。室川式は口縁部を屈曲させ疑似肥厚させるもの（179 ～ 182）、平坦で幅の広い口唇を意識するもの（183 ～ 189）、口縁断面が方形となるもの（190 ～ 192）、三角形状となるもの（193 ～ 195）、表面がアバタ状となるもの（203）、宇佐浜式は口縁断面が三角形状のもののほか口唇部に突起がつくもの（166・262・263）、突帯を貼り付けるもの（260 ～ 261）などバリエーションが多い。仲原式は口頸部に肥厚や段が無いもの（273 ～ 276）のほか、宇佐浜式口縁（265 ～ 271）とカヤウチバンタ式口縁（277 ～ 284）が出土している。



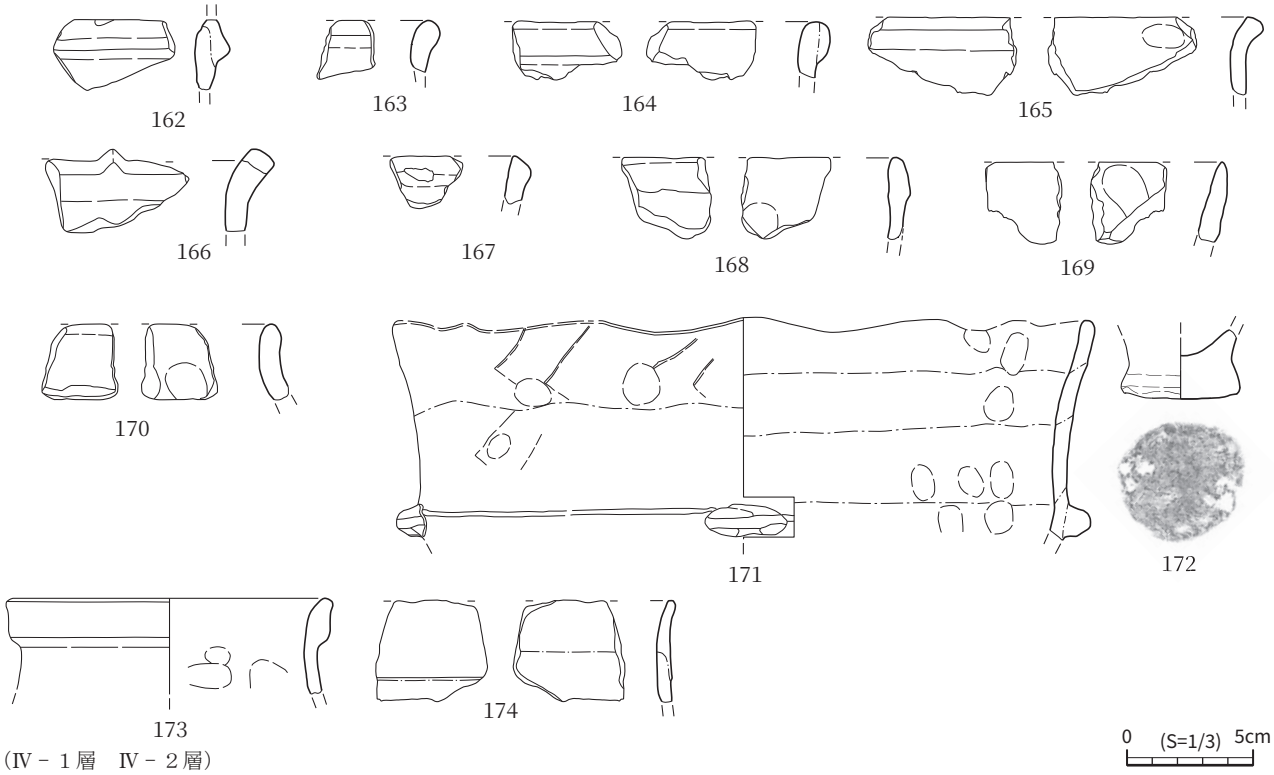
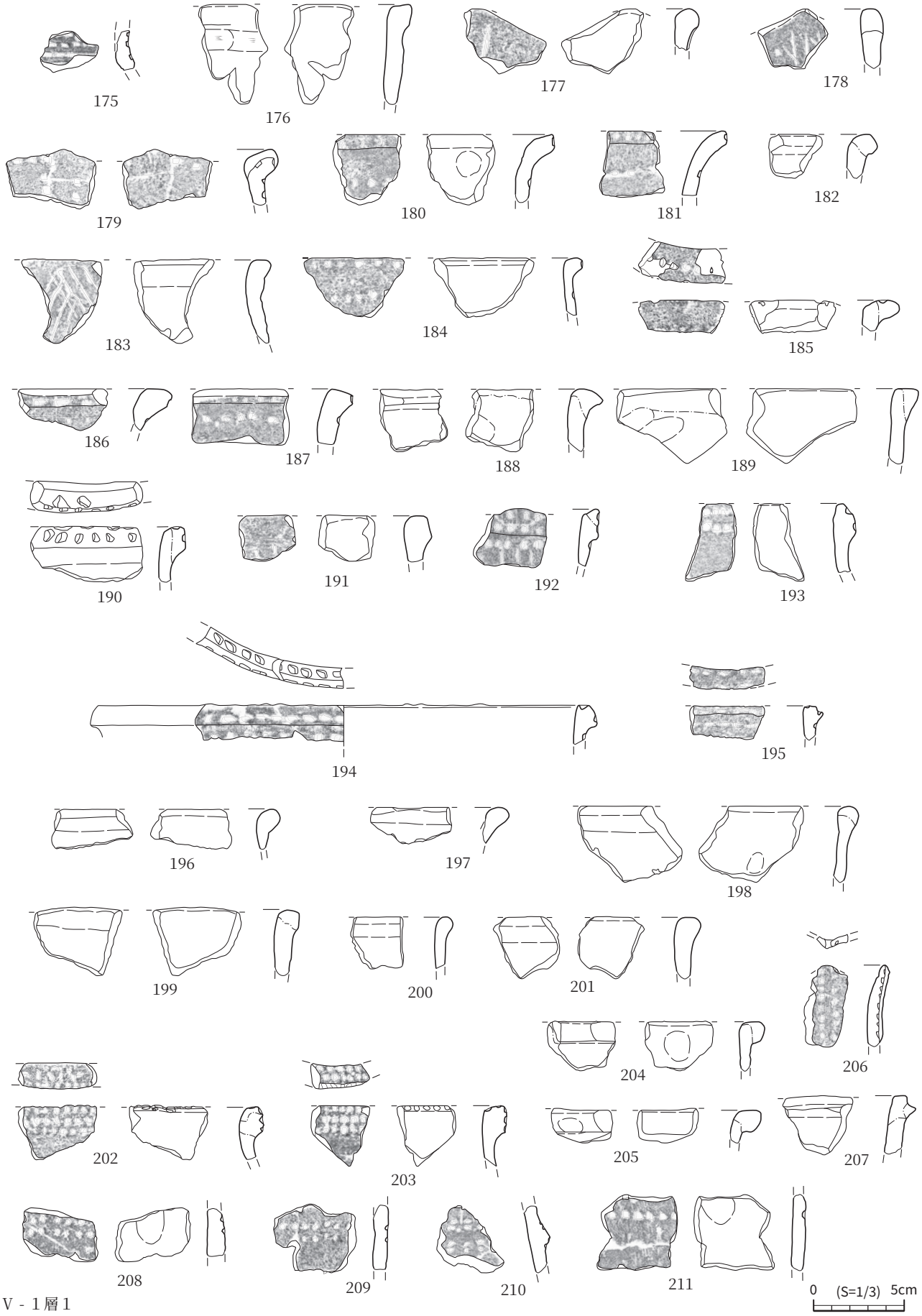
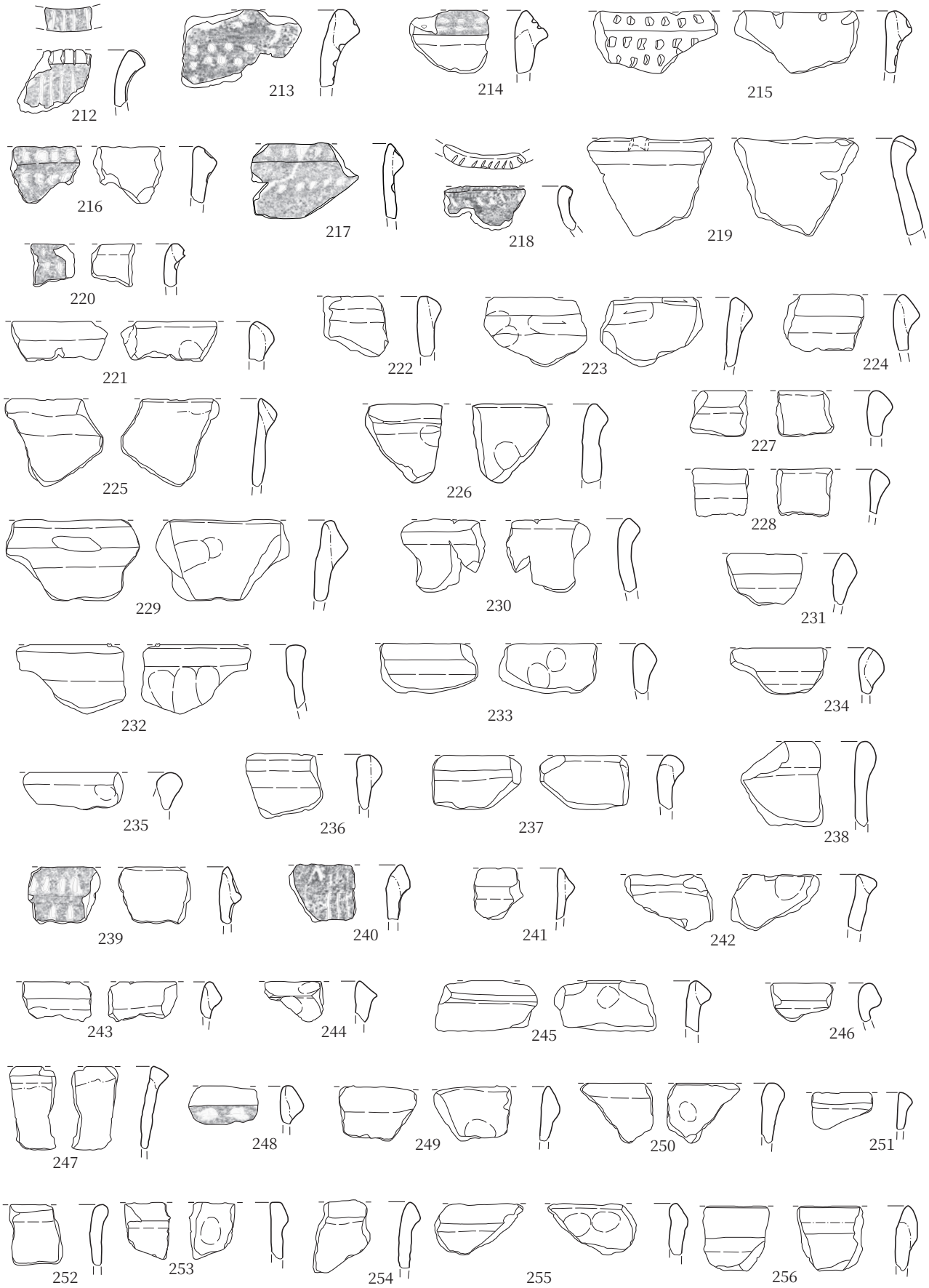


図 35　迫地形１　平面図、出土遺物１



Ⅴ - １層１

図 36　迫地形１　出土遺物２



Ⅴ - １層２

図 37　迫地形１　出土遺物３

石器はチャート製の石鏃（320）、チャート製の剥片石器（321）、緑色岩製の磨製石斧（322）、安山岩製の台石（323）が出土している。

遺物はⅤ層が最も多く出土しており、宇佐浜式、仲原式、室川式の順に多くなる。また、Ⅳ層では仲原式が最も多く、宇佐浜式、阿波連浦下層式の順に多くなる。

Ⅴ - １層３

図 38　迫地形１　出土遺物４

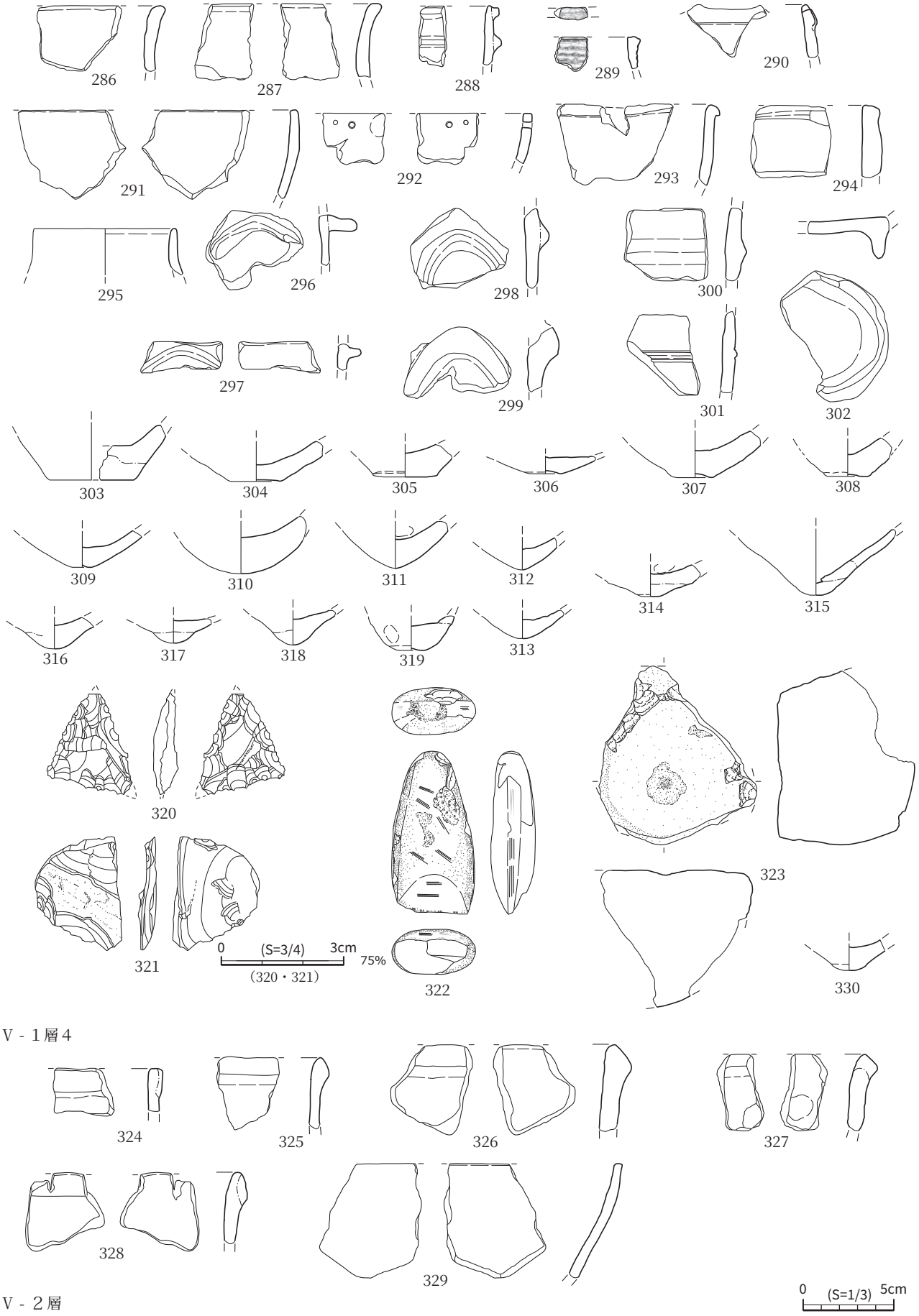


図 39　迫地形１　出土遺物５

迫地形２は 650050、660050、660060。650060 に位置する。円形状に広がり、東西 15 m、南北 21 mとなる。基本層序のⅢ～Ⅴ層が確認でき、Ⅲ層は水平堆積、Ⅳ～Ⅵ層は緩やかなレンズ状に堆積している。Ⅲ層は暗褐色（10YR3/4）のシルト～細砂粒が主体、Ⅳ層は暗褐色（10YR3/3）のシルト～極細砂が主体、Ⅴ層は暗褐色（10YR3/3）のシルト～極細砂が主体となっている。

遺物は土器、土製品、カムィヤキ（341）、中国産磁

Ⅰ層出土遺物

図 40　迫地形２　平面・土層断面図、出土遺物１

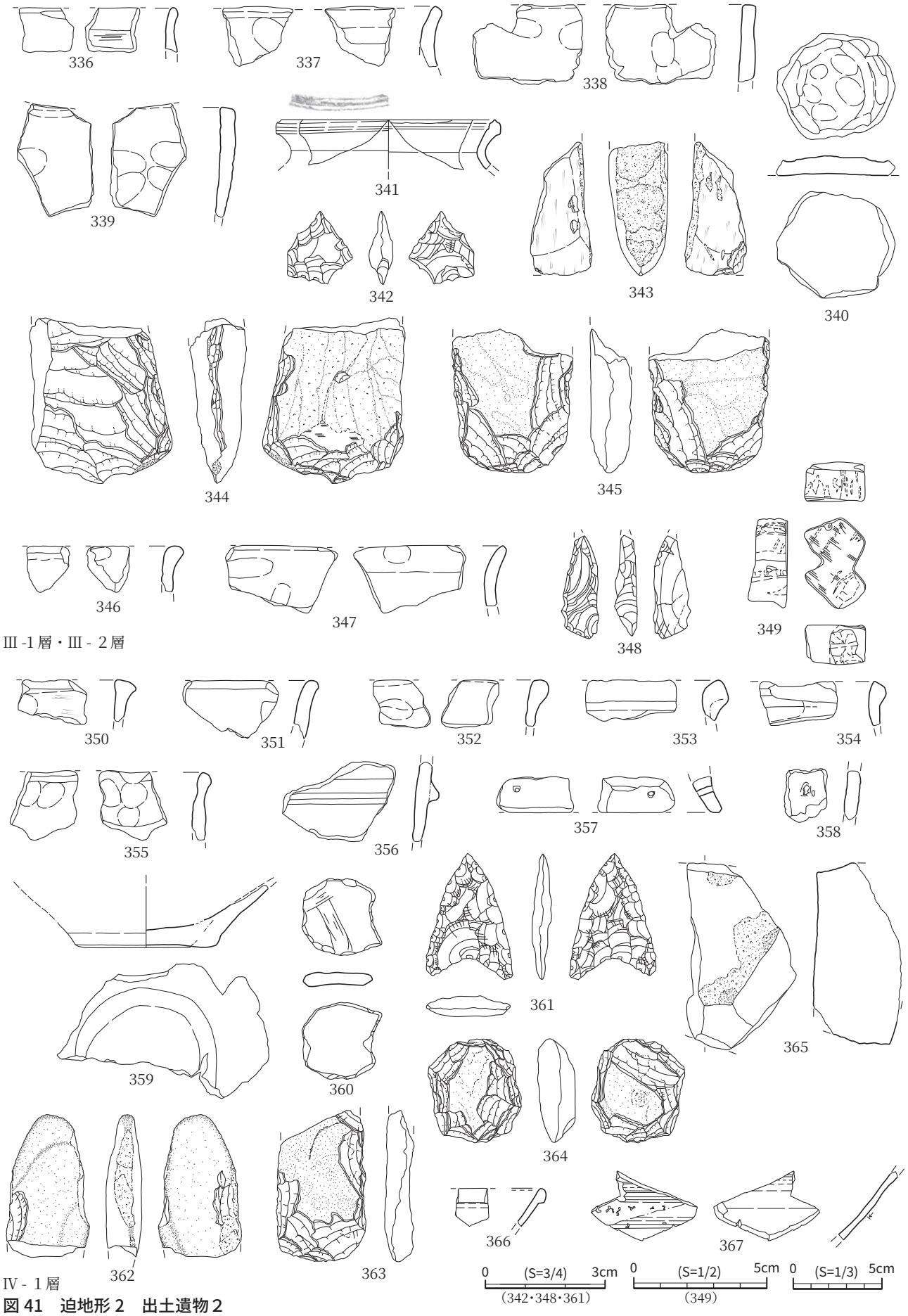
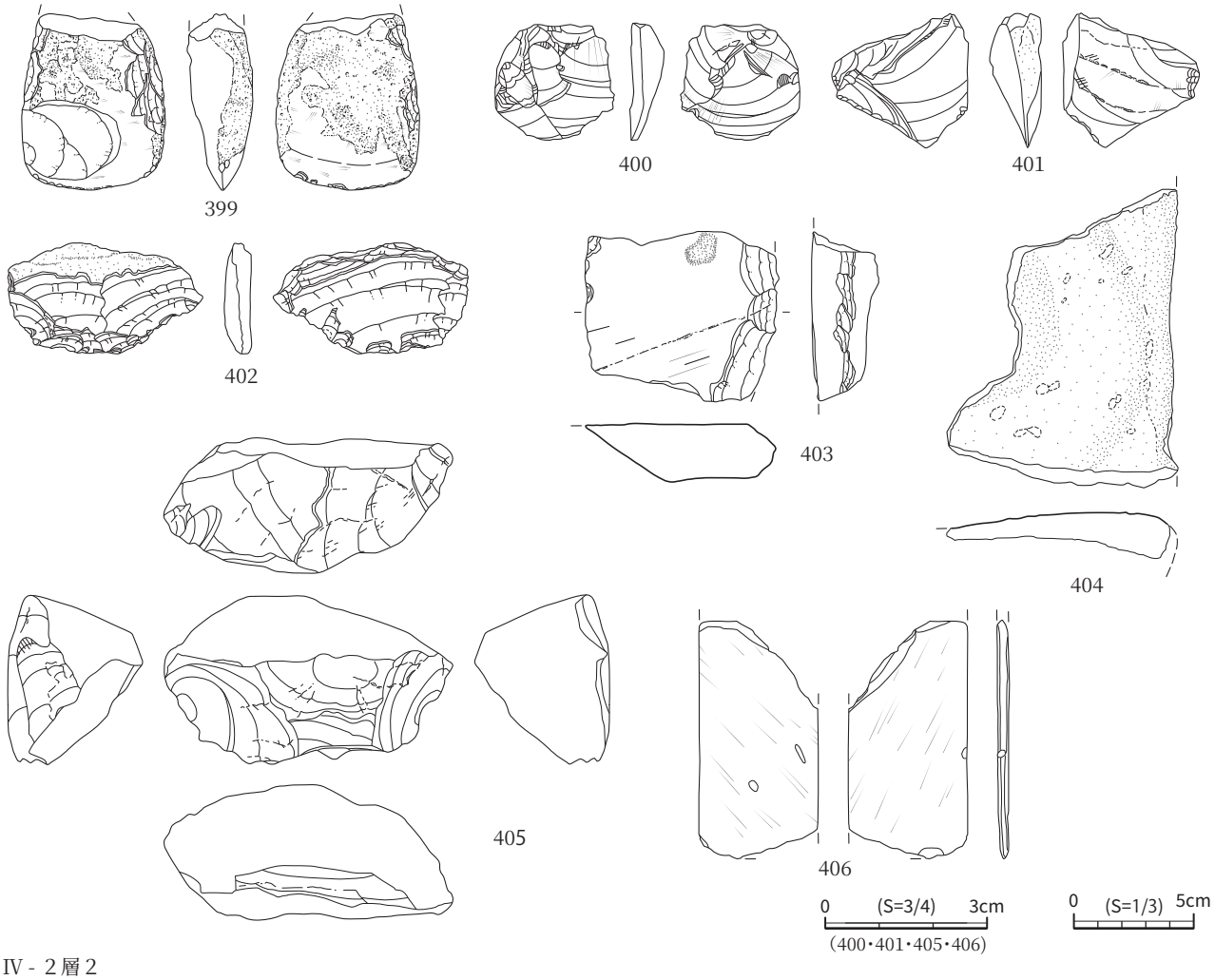


図 41　迫地形２　出土遺物２

Ⅳ - ２層１

図 42　迫地形 2　出土遺物３

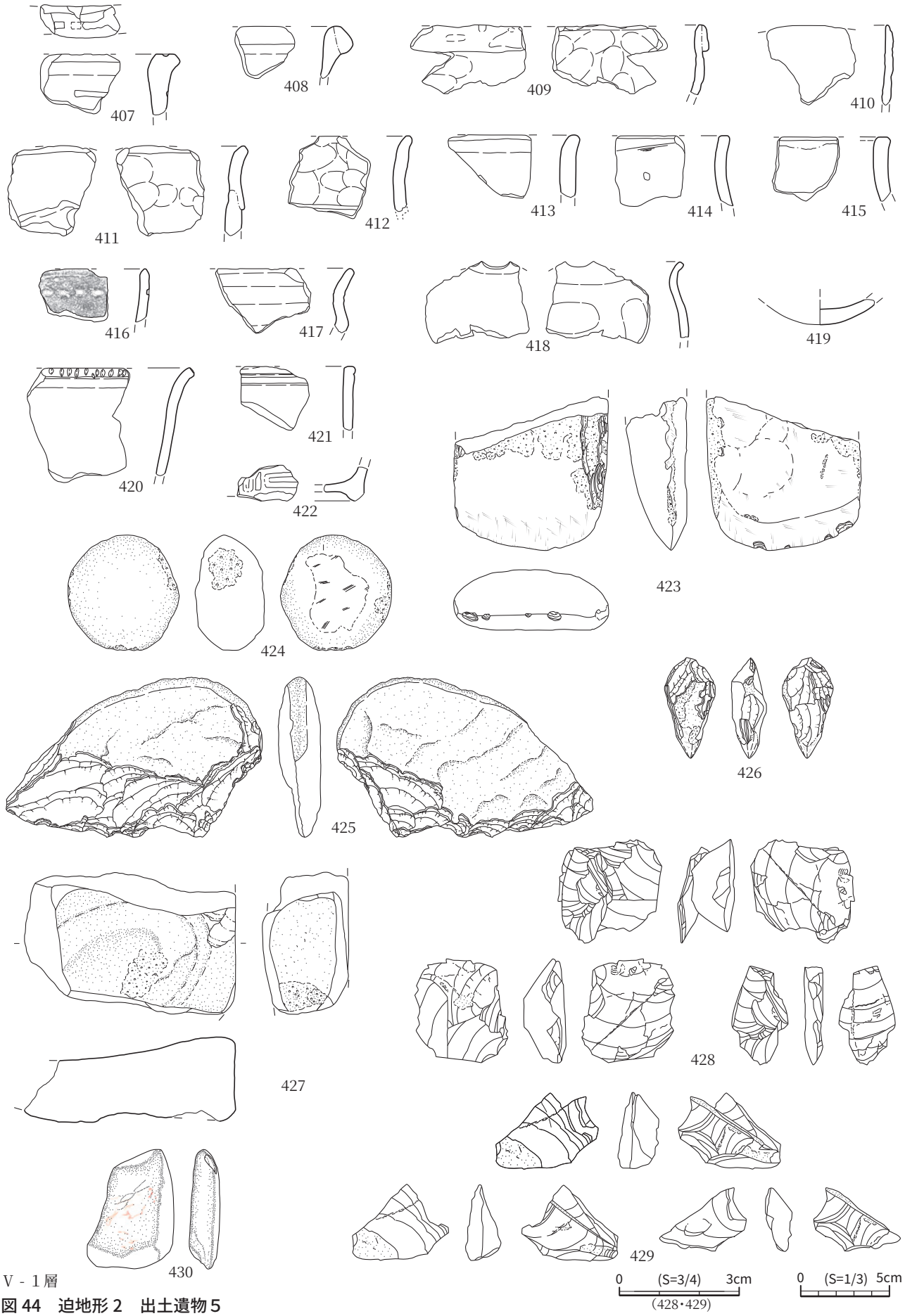


Ⅳ - ２層２

図 43　迫地形２　出土遺物４

器（333 ～ 335）、石器・石製品（349）・石材が出土している。土器が最も多く出土しており、室川式（350・351・368・407）、宇佐浜式（353・354・369 ～ 372・408）、仲原式（336 ～ 338・346・347・352・355・373 ～ 377・379・409 ～ 413・416）、阿波連浦下層式（356・378・381 ～ 387・390・414・415・417・418）、奄美系（359・395・396）、大洞系（398・422）、板付式（397・420）、くびれ平底（340）、が出土している。仲原式は口唇部を平坦に成形するが舌状となるもの（337・338・375・376・412・413）や、口縁下部に横押刻文を施すものがあるなど阿波連浦下層式の特徴を持つものが出土している。また、阿波連浦下層式においても、仲原式の特徴が残るものが出土している。（380・384）はカヤウチバンタ式口縁のように口縁下部に段をもつが口唇部を平坦に成形し、「く」の字状の屈曲となることから阿波連浦下層式とした。有文のものも出土しており、横押刻文を「⊥」字状に配置するもの（386）、口縁部に横捺刻文、その下に沈線を施すもの（385）が出土している。また、口唇部にリボン状突起を貼り付けるもの（387）も出土しており、突起の下に２箇所穿孔される。穿孔は焼成前に行われていることから加飾の可能性がある。弥生土器は板付式（397・420）が出土している。器形や胎土、施文方法が類似するため同一個体とみられる。

遺物はⅣ -2 層で多く出土しておりⅤ -1 層、Ⅳ -1 層の順に多い。仲原式が最も多く出土しており、宇佐浜式、阿波連浦下層式、室川式の順に多い。仲原式はⅤ -1 層とⅣ -2 層で多く出土するが、Ⅳ -1 層では阿波連浦下層式が多くなる。



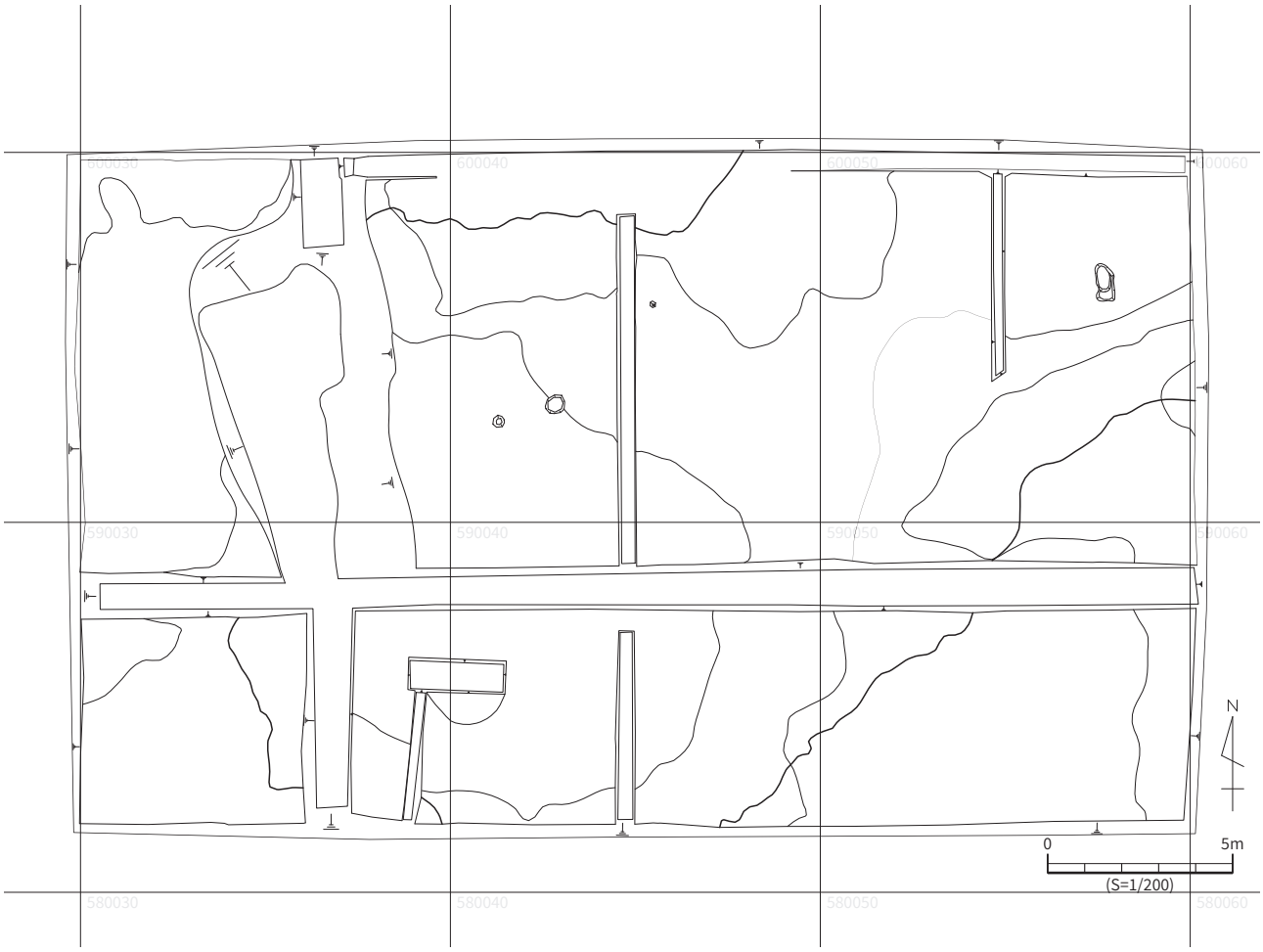
Ⅴ - １層

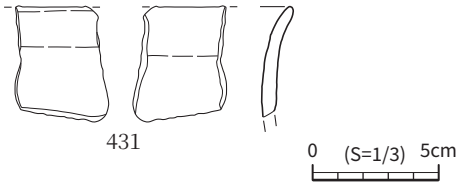
図 44　迫地形 2　出土遺物 5

迫地形３はＢ区の 580040、590040、590050 に位置し、調査区の北東 - 南西に延びている。基本層序のⅢからⅣ･Ⅵ層が確認できた。Ⅲ層はグスク時代の耕作層で、下層の境目は水平となっている。Ⅳ層は 580040 付近から東に向けて急激に落ち込んでおり緩やかなレンズ状に堆積している。Ⅲ層は黒褐色（10YR3/2）の極細砂が主体､Ⅳ層は黒褐色（7.5YR3/2）の極細砂～シルトが主体、Ⅵ層は褐色（7.5YR4/4）となっている。

遺物は主にⅣ層で出土しており、土器と石器が出土している。土器は宇佐浜式（432 ～ 434)、仲原式（435 ～ 444)、阿波連浦下層式が出土している。

仲原式が多く出土しており、口縁部は宇佐浜式口縁（435 ～ 437)が出土しておりカヤウチバンタ式口縁は少なく、口唇部が舌状(431・438 ～ 441)、成形するが舌状となるもの(442 ～ 444)が多い。安山岩製(450)や閃緑岩製(451)、中粒砂岩製(452)、チャート製(455)の敲磨石や緑色片岩製のスクレイパー（456)、輝緑岩製の磨斧(454)等が出土している。





Ⅲ - １層

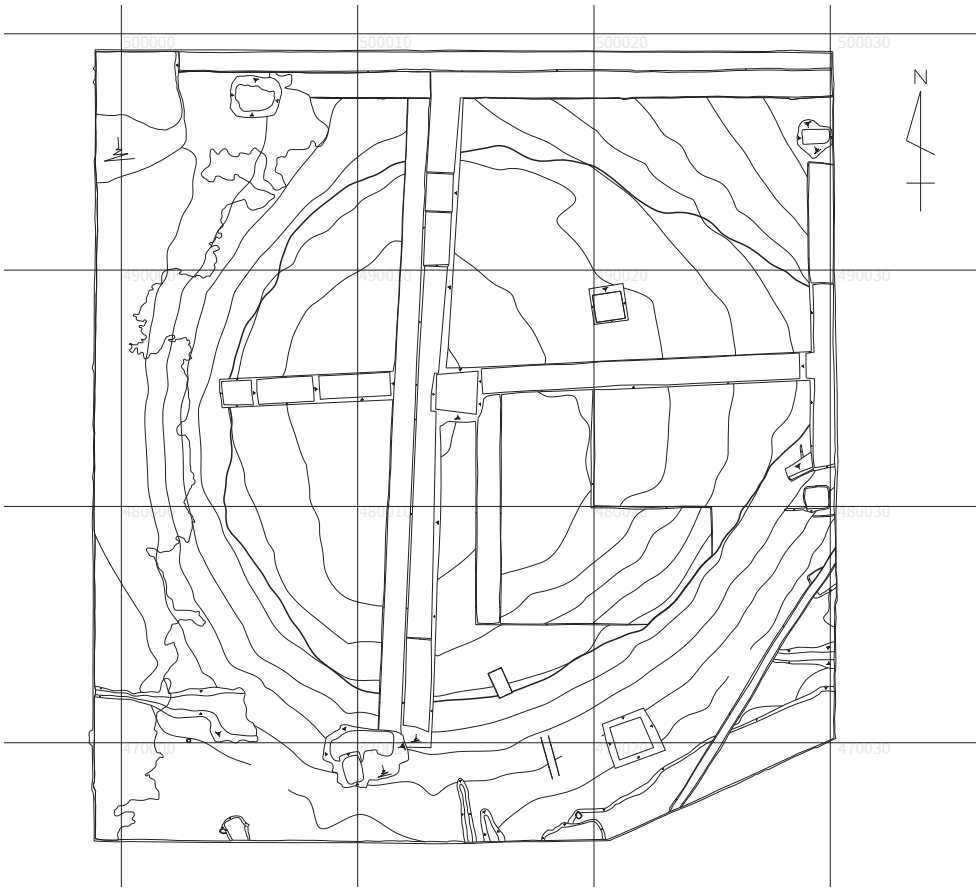
図 45　迫地形３　平面図、出土遺物１

Ⅳ-1 層

図 46　迫地形３　出土遺物２

谷地形４はＤ区に位置し、東西 32 m、南北 30 mの円形となる。基本層序のⅣ・Ⅵ層が確認でき、調査区の中央部分が最も落ち込んでいる。Ⅲ層は水平堆積、Ⅳ層は緩やかなレンズ状に堆積している。Ⅲ層は暗褐色（10YR3/3）極細砂が主体、Ⅳ層は暗褐色（735YR3/3）の粘土～シルトが主体、Ⅵ層は明褐色（7.5YR4/6）となっている。遺物は土器、カムィヤキ、中国産陶磁器、羽口、沖縄産陶器が出土している。土器は宇佐浜式（465・471 ～ 474）、仲原式（475）、阿波連浦下層式（476）、グスク土器が出土している。グスク土器は、第１様式の耳が方形となる鍋形（461・463・478）や第２様式の甕形（464）が出土している。また、くびれ平底の底部（469・470）も出土している。

遺物はⅣ-1 層が最も多く出土しており仲原式、宇佐浜式、室川式の順に多くなる。



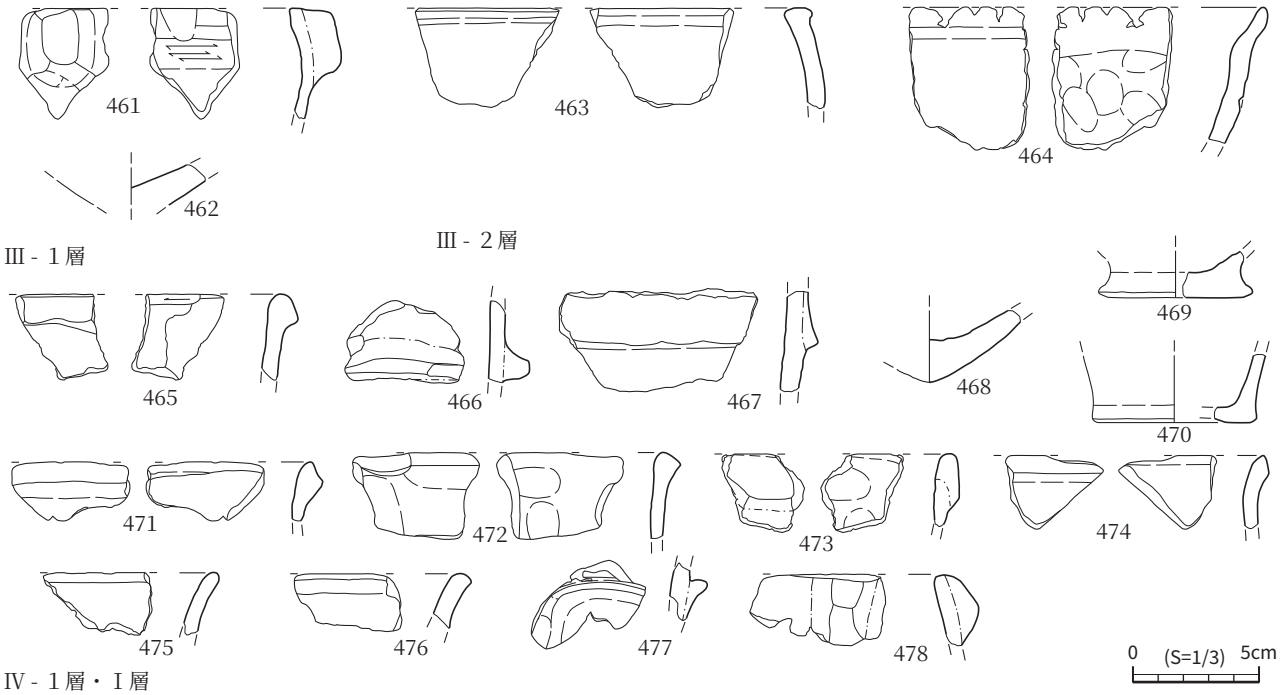


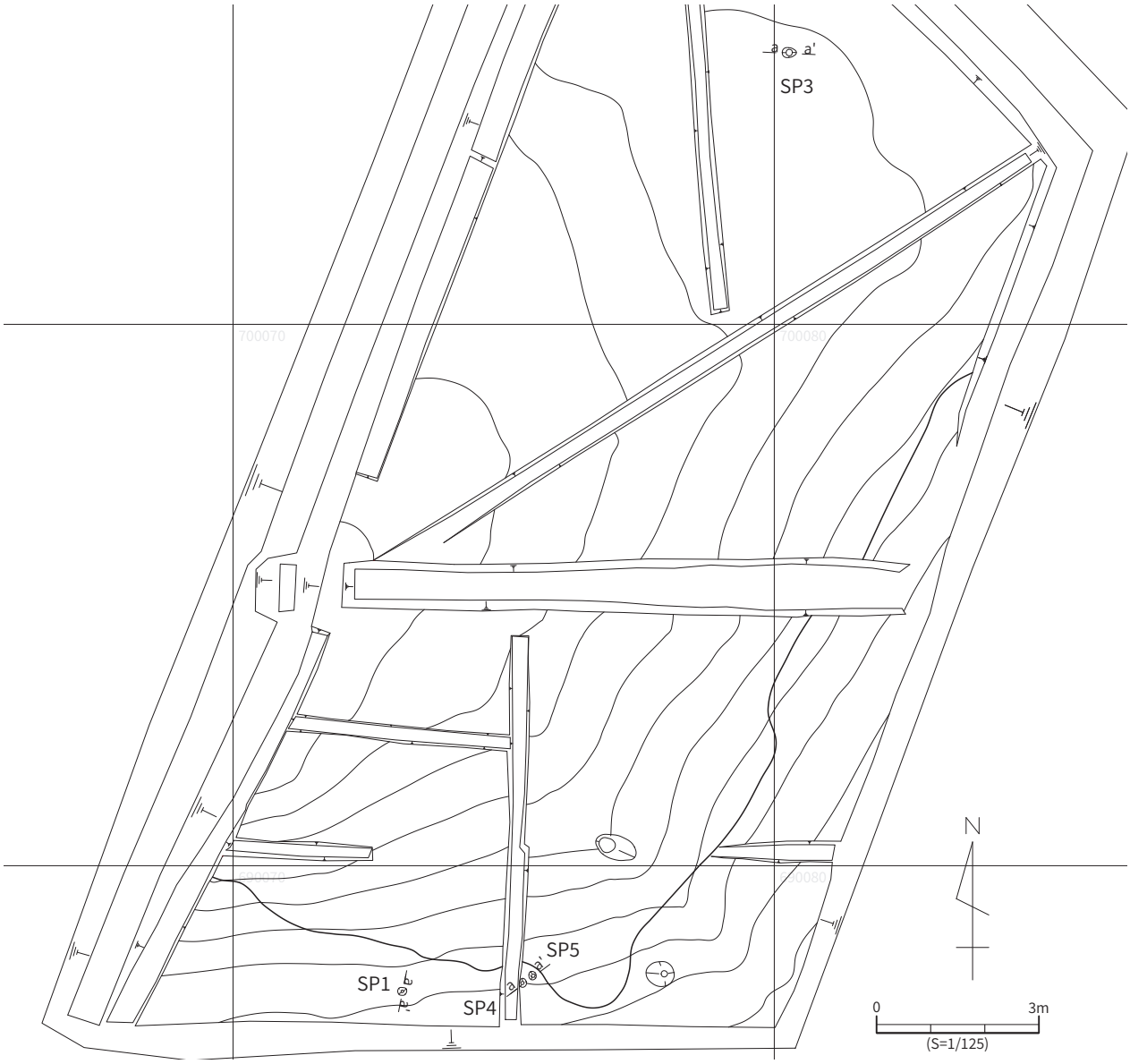
図 47　迫地形４　平面図、出土遺物

グスク時代

令和元年度の楚辺親見原遺跡Ａの調査でピットを４基、令和３年度の調査で掘立柱建物跡のプランに伴うピットや列状ピット群等を確認した。

令和元年度の調査では、Ⅱ層掘削後に690070でSP1、SP4、SP5を、718010でSP3を検出した。

SP1、SP4、SP5はⅣ層上面で検出した。単層で柱痕を確認できず、底面がやや傾斜することから植栽痕の可能性がある。またSP3は柱痕を有するが周辺で他のピットが確認できなかったことから掘立柱建物に伴うものかは不明である。遺構の覆土は暗褐色の極細砂～シルトであり、これらのピットから遺物は出土しなかった。



グスク時代の遺構配置図

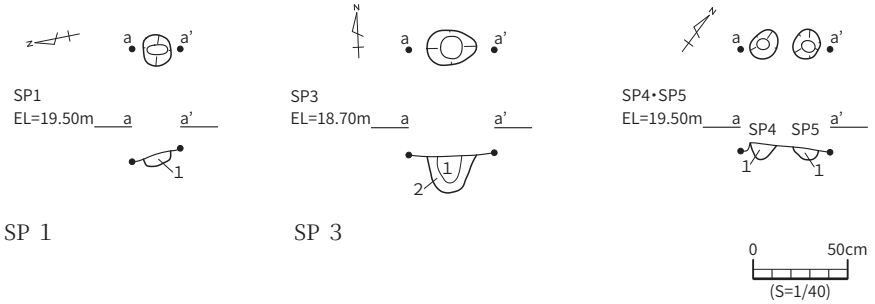
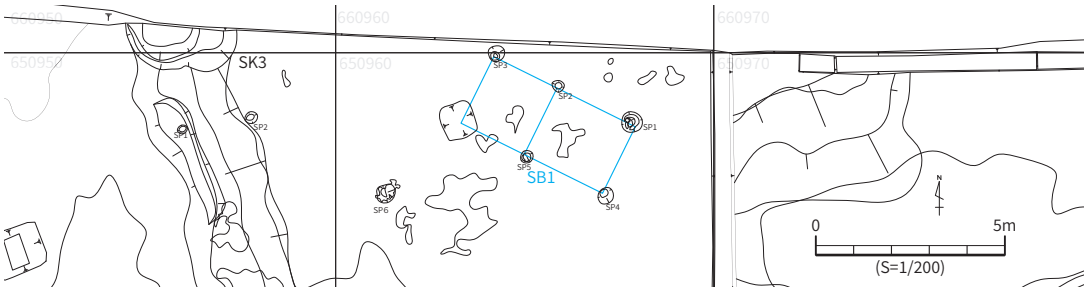
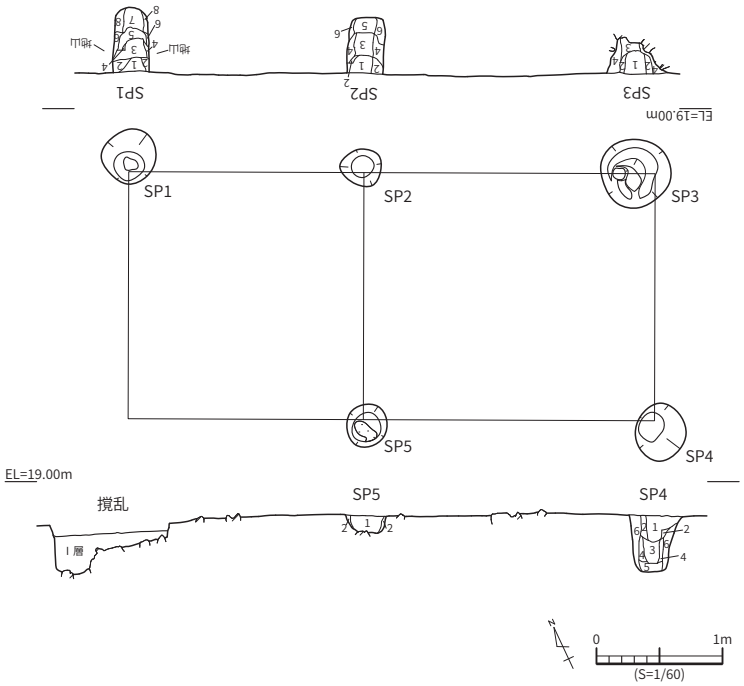


図48　Ａ区　グスク時代の遺構配置・平面・断面図１

SB1 は 650960 に位置し、Ⅱ層掘削後のⅥ層上面で検出した。プランについては分類を行っており、詳細は第３節２に記載する。プラン分類は B2 で、長軸 4.2 m、短軸２mの長方形となり、北西―南東を軸とする。遺物は SP1 から縄文土器３点とグスク土器１点、SP2 から縄文土器及びグスク土器が１点ずつ、SP3 から縄文土器が３点、SP5 から縄文土器が１点出土している。縄文土器については付近に SK3 があることから、これに伴うものと考えられる。

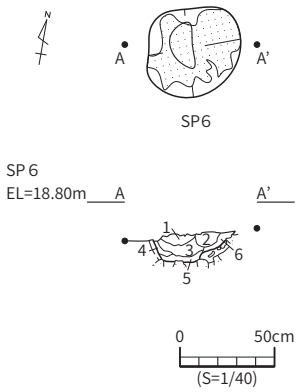


グスク時代の遺構配置図



SB 1

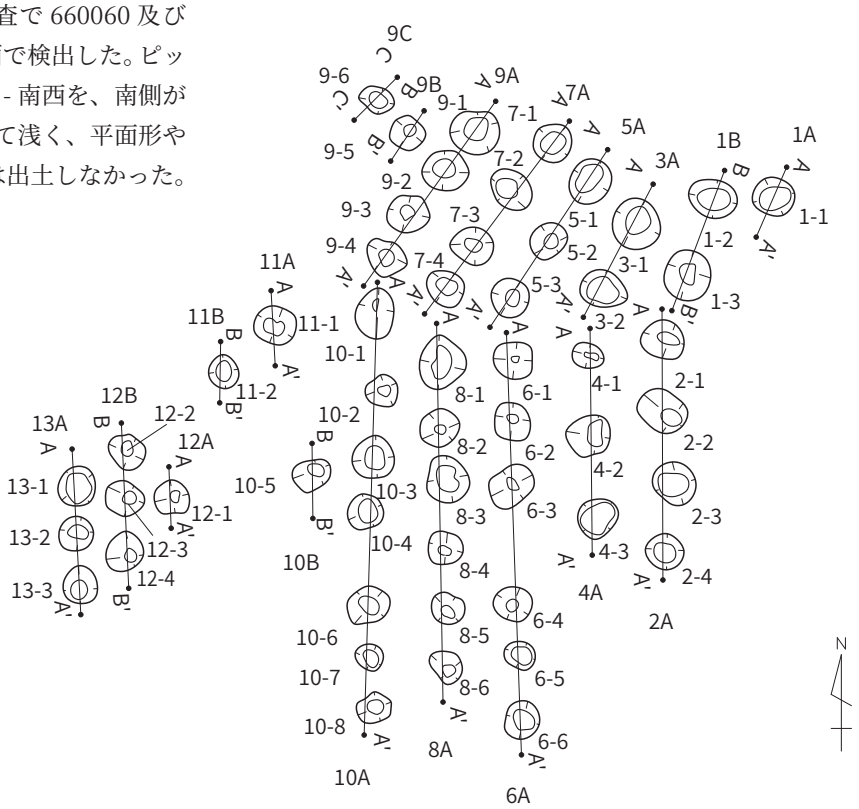
SP6 は 650960 に位置する。SB １の南西側に位置し、Ⅱ層掘削後Ⅵ層上面で検出した。遺構は後世の影響により上面を削平されている。１層からは火熱を受けた人骨が出土しており、詳細については４章に記載する。３層や４層からは炭や焼土が多く出土しており、年代測定を実施したところ３層は 950 ± 25 の値を得た。調査時は獣骨を想定し、廃棄に伴う遺構と考えていたが、取り上げ後精査したところ人骨と判明した。これらの人骨は火葬骨または焼骨であることから２次葬の可能性がある。人工遺物は出土しなかった。



SP 6

図 49　A 区グスク時代の遺構配置・平面・断面図２

列状ピット群は、令和３年度の調査で 660060 及び 670060 でⅢ-1 層を掘削後、Ⅲ-2 層上面で検出した。ピットは２つの軸が確認でき、北側が北東 - 南西を、南側が南 - 北を軸としている。ピットはすべて浅く、平面形や底形は不定形であった。遺構から遺物は出土しなかった。



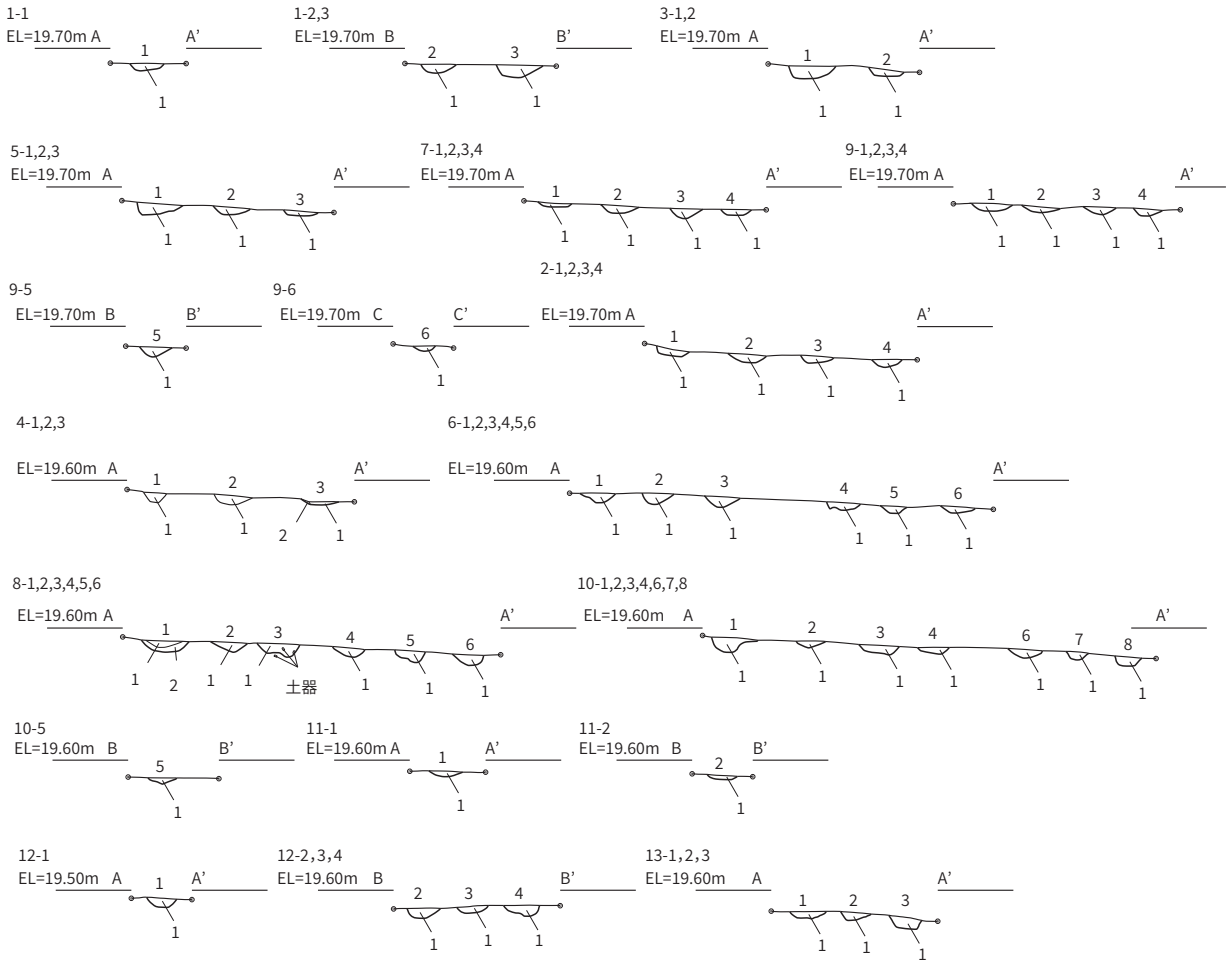


図 50　A 区列状ピット群の遺構平面・断面図

B 区では、VI層上面でピットを 36 基検出した。ピットは単層のものが多く、柱痕を確認できるものが複数あったが明確な掘立柱建物のプランを確認することはできなかった。遺構覆土は黒褐色(7.5YR3/2)の極細砂～シルトが主体で黄色粒や炭、焼土の混入具合、締りで細分した。遺物は土器が出土しているが、小破片のため型式は不明である。柱痕と考えられるピット及び、遺物の出土したピットを図化した。

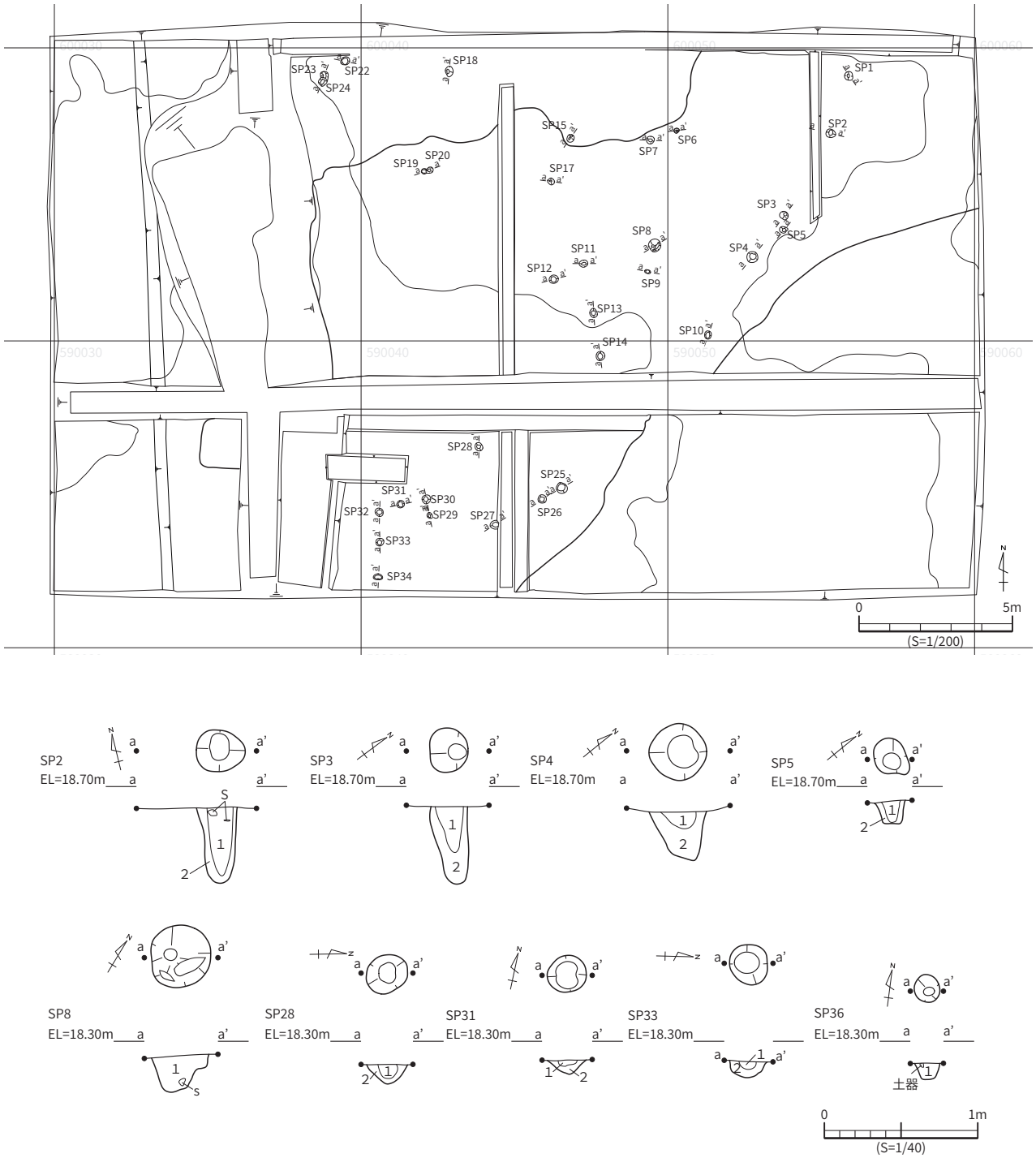


図 51　B 区　グスク時代の遺構平面・断面図

Ｄ区では、Ⅲ-1 層掘削後のⅢ-2 層上面でピットを 47 基検出した。検出したピットは柱痕を確認できるものは無く、平面や底面が不定形で深度も浅く傾斜することから植栽痕と考えられる。遺構覆土は黒褐色(7.5YR3/2)の極細砂～シルトが主体で、遺物はグスク土器が出土している。

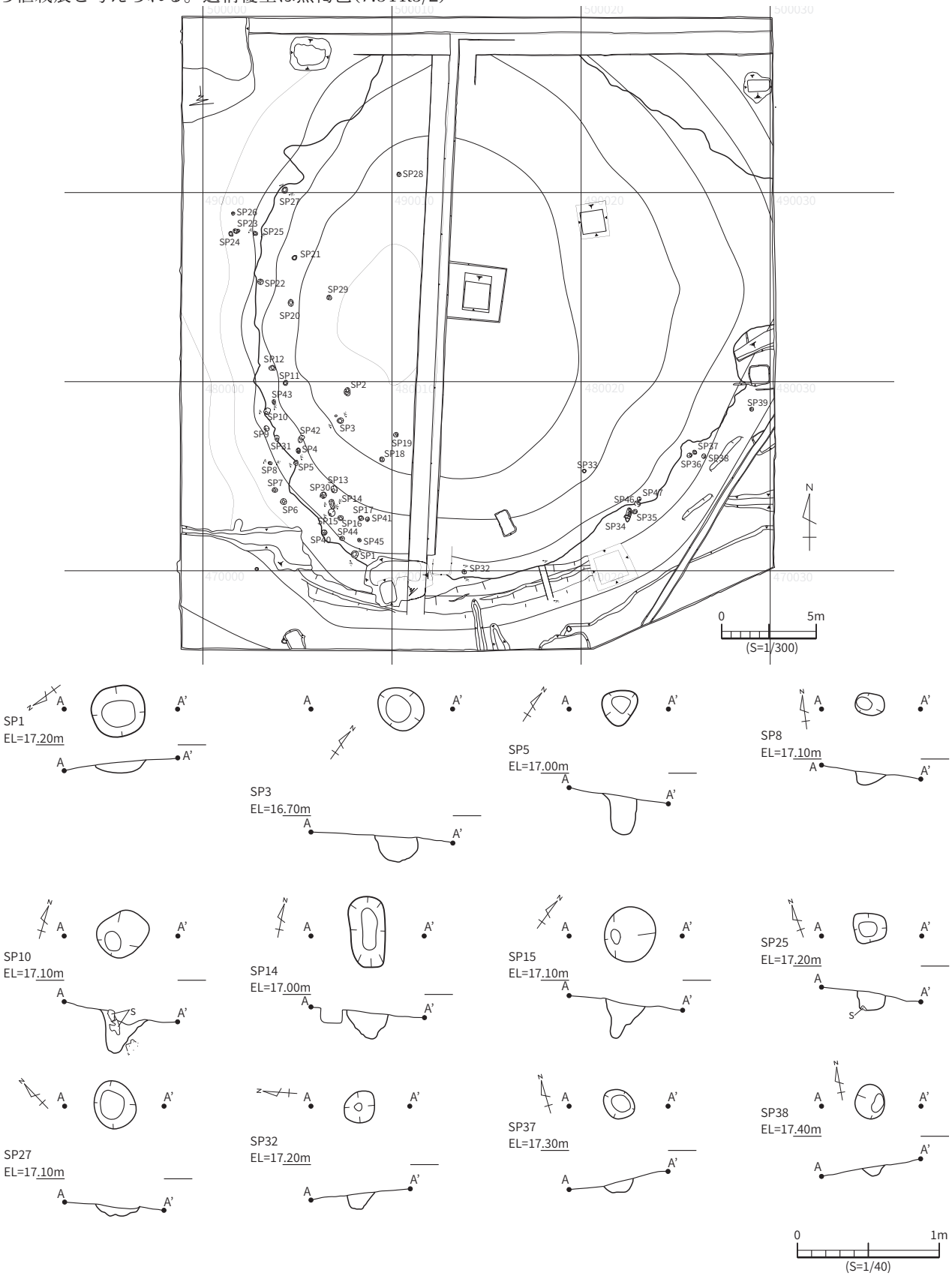


図 52　Ｄ区　グスク時代の遺構平面・断面図

近世・近代

楚辺親見原遺跡Ｃで、近世・近代の窯跡を検出した。SL1は480050でⅠ層掘削後に検出した。遺構の平面形は北側が円形、南側が方形をしている。円形部分の壁面や底面が焼成を受けたことにより赤色で硬化しており、方形部分には炭や灰が集中していたことから円形部が焼成部で方形部分が灰原となる。７層の下部が使用面となる。また壁面には構築時と思われる工具痕が確認できた。同様の遺構が宜野湾市の普天間古集落遺跡や普天間後原遺跡等で確認されている。また、朝日新聞社webサイトの「沖縄1935　写真でよみがえる戦前」内に沖縄市古謝集落内の製糖作業の写真があり、この中にサトウキビの搾り汁を煮詰める窯の様子が写されている。写真の窯では平面形状は確認できないが、燃焼部分と灰原部の位置関係や灰原部が半地下式であることから、これに類似するものと考えられる。

遺物は土器や石器が出土している。土器は小破片のため型式は不明である。また石器は輝緑岩性敲磨石が出土しているが７層であることから周辺からの流れ込みと考えられる。

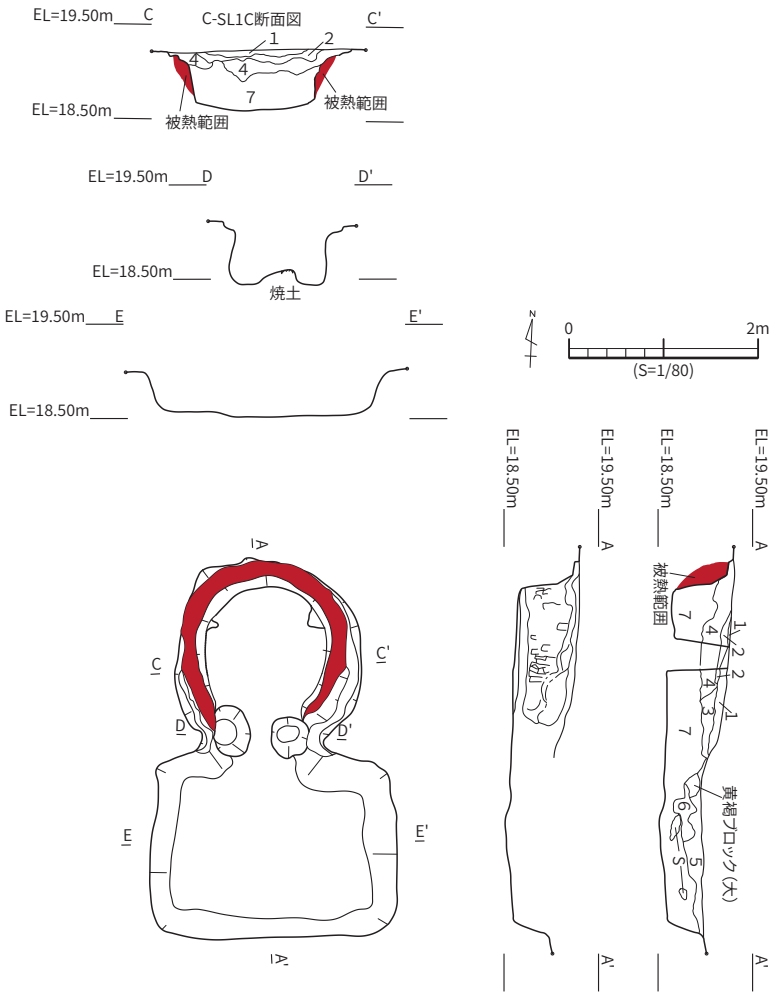


図 53　Ｃ区　SL1 遺構平面・断面図、出土遺物

遺構以外からの出土遺物

Ａ区のⅠ層から宇佐浜式(480)、Ⅲ-１層から中国産青磁Ⅵ類と輝緑岩製の磨製石斧が、Ｂ区のⅠ層から焼成後の穿孔が施される土器や中国産白磁のⅣ類が出土している。

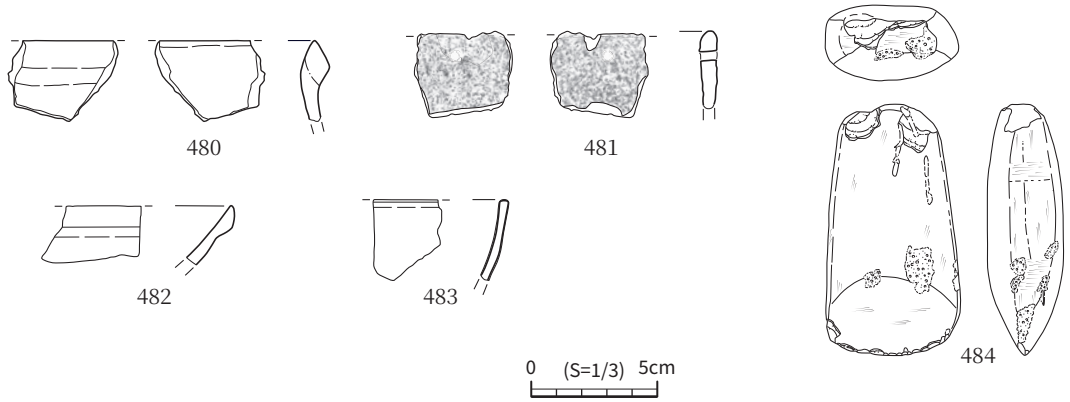


図 54　楚辺親見原遺跡　遺構以外からの出土遺物

表３　楚辺親見原遺跡　遺物観察表１

挿図番号	種類	器種	分類	部位/状態	法量(単位：㎝) ( )は復元値			観察事項	出土地
					口径	器高	底径		
1	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。外反口縁。口唇部を平坦に成形し口縁部端がわずかに膨れる。	SI1 1層
2	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。口縁部断面間延びした三角形状。	SI1 4層
3	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。微弱な外反口縁。薄手で口唇部を平坦に成形。	SI1 4層
4	土器	深鉢	把手	耳	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。横位の耳を貼り付ける。	SI1 4層
5	土器	深鉢	尖底	底部	―	―	1.8	砂質で石英や石灰岩砂粒、黒色粒を含む。底部先端はわずかに窪む。内面に指頭圧痕が残る。	SI1 4層
6	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。外反口縁。口唇部を平坦に成形するが舌状。	SI1 5層
7	土器	鉢	阿波連浦下層式	口縁部	(20.8)	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。口唇部を平坦に成形。口縁部下に弱い「く」の字屈曲と縦位の耳、その上部に焼成前の穿孔を施す。	SI1 5層
8	土器	深鉢	―	耳	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。胴部に断面が三角形状の突帯を貼り付ける。	SI1 5層
9	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。直口口縁。口唇部を平坦に成形し口縁部端が膨らむ。内外面に指頭圧痕残る。	SI1 7層
10	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	(19.5)	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。口唇部を平坦に成形し口縁部端が膨れる。胴部に弱い「く」の字状屈曲と沈線。内面に指頭圧痕残る。	SI1 7層
11	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	(9.0)	―	―	砂質で石英や白色粒を含む。薄手。直口口縁。口唇部を平坦に成形。	SI1 7層
12	土器	壺	型式不明	口縁部	(4.2)	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。微弱な外反口縁。口唇部舌状。	SI1 7層
13	土器	深鉢	把手	耳	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。横位の耳を貼り付ける。	SI1 7層
14	石器	打鏃	―	一部欠損	最大長 3.10	最大幅 2.55	最大厚 0.70	石材：安山岩　加工痕：打剝、押圧剥離　使用痕：なし 重量：6.17ｇ	SI1 7層
15	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。外反口縁。カヤウチバンタ式口縁。口唇部平坦に成形するが舌状。口縁下部は「く」の字状に屈曲。	SI1 8層
16	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。微弱な外反口縁。口唇部を平坦に成形し口縁部端が膨らむ。	SI1 8層
17	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。直口口縁。	SI1 ｻﾌﾞﾄﾚ
18	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。口縁部はカマボコ状。直口口縁。	SI1 ｻﾌﾞﾄﾚ
19	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒含む。宇佐浜式口縁。直口口縁で口唇部舌状。	SI1 ｻﾌﾞﾄﾚ
20	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質粒を含む。外反口縁。口唇部を平坦に成形し口縁部端が膨らむ。	SI1 ｻﾌﾞﾄﾚ
21	土器	鉢	奄美系	耳	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。横位の耳を貼り付ける。	SI1 ｻﾌﾞﾄﾚ
22	石器	台石	―	一部欠損	最大長 (7.85)	最大幅 (7.30)	最大厚 5.90	石材：中粒砂岩　加工痕：なし　使用痕：敲打 重量：331.60ｇ	SI1 ｻﾌﾞﾄﾚ
23	石器	石皿もしくは砥石	―	破片	最大長 (8.4)	最大幅 (19.7)	最大厚 (3.45)	石材：中粒砂岩　加工痕：なし　使用痕：研磨もしくは砥面 重量：580.30ｇ	SI1 ｻﾌﾞﾄﾚ
24	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒含む。三角形状。直口口縁。	SI2 1層
25	土器	深鉢	弧状	耳	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒含む。弧状の耳を貼り付け下部に爪痕のような窪みがある。	SI2 1層
26	土器	深鉢	把手	耳	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。横位の耳を貼り付ける。	SI2 1層
27	石器	磨斧	―	完形	最大長 8.8	最大幅 4.4	最大厚 0.85	石材：緑色片岩　加工痕：打剝、研磨　使用痕：微細剝離、線条痕 重量：横斧、71.70ｇ	SI2 1層
28	石器	磨斧未成品	―	完形	最大長 8.65	最大幅 6.10	最大厚 2.35	石材：緑色片岩　加工痕：打剝　使用痕：なし 重量：199.22ｇ	SI2 1層
29	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒含む。宇佐浜式口縁。直口口縁。口唇部舌状。	SI2 4層
30	土器	深鉢	弧状	耳	―	―	―	砂質で石英を含む。薄手で端部が上向きの弧状の耳を貼り付ける。	SI2 4層
31	土器	浅鉢	奄美系	胴部・耳	―	―	―	砂質で石英や白色粒を含む。横位の空洞を持つ耳を貼り付ける。空洞の上下に溝あり。	SI2 4層
32	石器	敲磨石	―	完形	最大長 5.2	最大幅 4.8	最大厚 3.7	石材：中粒砂岩　加工痕：なし　使用痕：敲打 重量：144.84ｇ	SI3 3層
33	土器	不明	弥生系	口縁部	―	―	―	砂質で石英や赤色粒を含む。内湾口縁。口縁部端に突帯を貼り付ける。	SI4 1層

表４　楚辺親見原遺跡　遺物観察表２

挿図番号	種類	器種	分類	部位/状態	法量(単位：㎝) ( )は復元値			観察事項	出土地
					口径	器高	底径		
34	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。口唇部を平坦に成形し、口縁部端が膨らむ。	SI4 1層
35	土器	不明	型式不明	口縁部	―	―	―	泥質で石英がわずかに混じる。口縁部に沈線による工字文か。	SI4 1層
36	土器	深鉢	平底	底部	―	―	(7.4)	砂質で石英や石灰質砂粒、輝石(？)を含む。	SI4 1層
37	石器	打鏃	―	完形	最大長 2.25	最大幅 1.4	最大厚 0.5	石材：チャート　加工痕：打剝、押圧剥離　使用痕：なし 重量：1.00ｇ	SI4 1層
38	石器	打鏃未成品	―	完形	最大長 1.90	最大横 2.00	最大厚 0.50	石材：チャート　加工痕：打剝　使用痕：なし 重量：1.81ｇ	SI4 1層
39	石器	石核	―	完形	最大長 6.7	最大幅 3.7	最大厚 2.7	石材：黒曜石　加工痕：打剝　使用痕：なし 重量：43.00ｇ	SI4 1層
40	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒含む。直口口縁で口唇部舌状。	SI4 2層
41	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒、赤色粒を含む。薄手。外反口縁。口唇部を平坦に成形。	SI4 2層
42	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質粒を含む。外反口縁。口唇部を平坦に成形し口縁部端が膨らむ。口縁下部は「く」の字状に屈曲か。	SI4 2層
43	土器	深鉢	弧状	耳	―	―	―	泥質で表面アバタ状。石灰質砂粒をわずかに含む。耳は弧状。	SI4 2層
44	土器	深鉢	阿波連浦下層式	耳	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。内外面を研磨。胴部に断面が方形の突帯を貼り付ける。	SI4 2層
45	土器	鉢	奄美系	口縁部	―	―	―	泥質で表面アバタ状。赤色粒や白色粒を含む。微弱な外反口縁。頸部に瘤状の耳を貼り付ける。	SI4 2層
46	土器	不明	大洞系	口縁部	―	―	―	砂質で石英を含む。外面に沈線を施し突帯状の文様を施す。	SI4 2層
47	土器	不明	型式不明	口縁部	―	―	―	砂質で石英や白色粒がわずかに混じる。直口口縁。口唇部に突起。口縁部に沈線による横位と縦位の突帯状の文様を施す。	SI4 2層
48	土器	壺	奄美系	口縁部	―	―	―	泥質で赤色粒を含む。山形口縁か。	SI4 2層
49	石器	打鏃	―	一部欠損	最大長 1.70	最大幅 1.65	最大厚 0.45	石材：緻密質安山岩　加工痕：打剝、押圧剥離　使用痕：なし 重量：0.72ｇ	SI4 2層
50	石器	打鏃未成品	―	完形	最大長 1.85	最大幅 1.40	最大厚 0.60	石材：チャート　加工痕：打剝、押圧剥離　使用痕：なし その他：製作途中に欠損の可能性あり、精製品　重量：1.30ｇ	SI4 2層
51	石器	打斧	―	完形	最大長 9.15	最大幅 6.70	最大厚 1.75	石材：片岩　加工痕：打剝　使用痕：微細剥離 重量：115.26ｇ	SI4 2層
52	石器	スクレイパー	―	一部欠損	最大長 (2.55)	最大幅 (4.5)	最大厚 0.50	石材：緑色片岩　加工痕：打剝　使用痕：微細剥離 重量：8.50ｇ	SI4 2層
53	石器	石皿	―	破片	最大長 (10.5)	最大幅 (7.5)	最大厚 (4.45)	石材：角閃石ひん岩　加工痕：敲打　使用痕：研磨 重量：377.19ｇ	SI4 2層
54	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	泥質で石英をわずかに含む。外反口縁。口唇を平坦に成形。口唇部下に２条、胴部に１条の横捺刻文。口頸部は「く」の字状に屈曲。	SI4 4層
55	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	泥質で石英や石灰岩砂粒、赤色粒をわずかに含む。外反口縁。口唇部に突起。口縁下部に弱い「く」の字状屈曲。	SI4 4層
56	土器	鉢	型式不明	口縁部	―	―	―	泥質で石英や白色粒を含む。口唇部は舌状。	SI4 4層
57	土器	壺	弥生系	口縁部	―	―	―	砂質で石英や片岩を含む。外反口縁。口唇部は平坦に成形され、口縁部端が稜となる。	SI4 4層
58	土器	不明	大洞系	胴部	―	―	―	砂質で石英を含む。外面に横位の耳を貼り付けその下部に横位の沈線文を２状と曲線文を渦巻き状に施す。	SI4 4層
59	土器	深鉢	一条	耳	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。胴部を一周する断面が方形状の突帯を貼り付ける。	SI4 4層
60	土器	鉢	奄美系	胴部	―	―	―	砂質で石英や白色粒をわずかに含む。補修孔のあり。	SI4 4層
61	石器	石核	―	完形	最大長 5.15	最大幅 2.60	最大厚 2.60	石材：石英　加工痕：打剝　使用痕：なし 重量：36.49ｇ	SI4 4層
62	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。直口口縁。薄手。口唇部を平坦に成形し口縁部端が膨らむ。口頸部に弱い「く」の字状屈曲。	SI4 5層
63	土器	壺	―	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒、黒雲母を含む。外反口縁。口唇部を平坦に成形し口縁部端が膨らむ。	SI4 5層
64	石器	砥石	―	一部欠損	最大長 (11.2)	最大幅 (4.4)	最大厚 (3.15)	石材：凝灰岩　加工痕：打剝　使用痕：砥面 重量：218.54ｇ	SI4 5層
65	石器	石器未成品	―	完形	最大長 6.3	最大幅 3.3	最大厚 1.05	石材：緑色千枚岩　加工痕：打剝　使用痕：なし 重量：22.95ｇ	SI4 5層

表５　楚辺親見原遺跡　遺物観察表３

挿図番号	種類	器種	分類	部位/状態	法量(単位：cm) ( )は復元値			観察事項	出土地
					口径	器高	底径		
66	石器	磨斧未成品	―	完形	最大長 7.30	最大幅 5.70	最大厚 2.20	石材：輝緑岩　加工痕：打剝　使用痕：敲打、研磨 その他：転用有、転用前器種(敲磨石)　重量：134.65ｇ	SI4 5層
67	石器	打鏃	―	完形	最大長 1.95	最大幅 1.55	最大厚 0.55	石材：チャート　加工痕：打剝、押圧剝離　使用痕：なし 重量：1.51ｇ	SI4 6層
68	石器	石核	―	完形	最大長 1.8	最大幅 4.9	最大厚 1.8	石材：チャート　加工痕：打剝　使用痕：なし 重量：12.7ｇ	SI4 6層
69	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒、赤色粒を含む。外反口縁。口唇部を平坦に成形し口縁部端がわずかに膨れる。	SI4 8層
70	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒含む。宇佐浜式口縁。口唇部に刺突文か。	SI4 ｻﾌﾞﾄﾚ
71	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。口縁部は断面カマボコ形。	SI4 ｻﾌﾞﾄﾚ
72	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒。外反口縁。口唇部を平坦に成形。	SI4 ｻﾌﾞﾄﾚ
73	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。外反口縁。口唇部舌状。	SI4 ｻﾌﾞﾄﾚ
74	土器	壺	―	口縁部	(3.0)	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒、黒雲母を含む。直口口縁。口唇部舌状。	SI4 ｻﾌﾞﾄﾚ
75	土器	不明	型式不明	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。外反口縁。口縁部が肥厚し山形口縁。	SI4 ｻﾌﾞﾄﾚ
76	土器	甕	弥生系	口縁部	―	―	―	泥質で石英や雲母を含む。口縁部端と胴部に突帯を貼り付ける。胴部は「く」の字に屈曲。	SI4 ｻﾌﾞﾄﾚ
77	土器	不明	大洞系	口縁部	―	―	―	泥質で石英や白色粒をわずかに含む。外面に工字文を施す。	SI4 ｻﾌﾞﾄﾚ
78	土器	不明	型式不明	口縁部	―	―	―	砂質で石英や金雲母を含む。外面に横位、斜位の沈線を２条施す。	SI4 ｻﾌﾞﾄﾚ
79	土器	不明	型式不明	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。口唇部舌状。口縁部に横位の沈線を２条施す。	SI4 ｻﾌﾞﾄﾚ
80	土器	不明	大洞系	胴部	―	―	―	砂質で石英を含む。外面に工字文か。	SI4 ｻﾌﾞﾄﾚ
81	土器	深鉢	型式不明	胴部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒、黒色粒を含む。表面が赤褐色となる。	SI4 ｻﾌﾞﾄﾚ
82	土器	深鉢	型式不明	胴部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。底部が剥がれ落ちている。	SI4 ｻﾌﾞﾄﾚ
83	石器	UF	―	完形	最大長 2.20	最大横 1.60	最大厚 0.70	石材：チャート　加工痕：打剝　使用痕：微細剝離 その他：打鏃未成品の可能性有り　重量：2.62ｇ	SI4
84	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒、赤色粒を含む。外反口縁。カヤウチバンタ式口縁。口唇部は成形されるが舌状。	SI5 1層
85	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒、赤色粒、黒色粒を含む。微弱な外反口縁。厚手。口唇部を平坦に成形し口縁部端が膨らむ。	SI5 1層
86	石器	打鏃未成品	―	完形	最大長 (1.9)	最大幅 (1.35)	最大厚 0.5	石材：チャート　加工痕：打剝、押圧剝離　使用痕：なし 重量：0.7ｇ	SI5 1層
87	石器	スクレイパー	―	一部欠損	最大長 2.50	最大幅 (4.40)	最大厚 0.40	石材：緑色千枚岩　加工痕：打剝　使用痕：微細剝離 重量：4.32ｇ	SI5 1層
88	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を多く含む。宇佐浜式口縁。直口口縁で口唇部舌状。	SI5 4層
89	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を多く含む。口唇部を平坦に成形。口縁部に焼成前に穿孔を施す。	SI5 4層
90	土器	不明	奄美系	底部	―	―	―	砂質で白色粒や赤色粒をわずかに含む。上面は平坦に成形され、畳付は舌状となる。	SI5 6層
91	石器	石皿	―	破片	最大長 (22.8)	最大幅 (13.55)	最大厚 (8.7)	石材：中粒砂岩　加工痕：なし　使用痕：研磨 重量：3200.70ｇ	SI5 7層
92	土器	浅鉢	弥生系	底部	―	―	(11.8)	砂質で石英や片岩を含む。焼成良く硬質。高台に透かし有。	SI5 12層
93	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。外反口縁。口唇部舌状。	SI5
94	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。外反口縁。口唇部を平坦に成形。	SI5
95	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。微弱な外反口縁。口唇部を平坦に成形し口縁部端が膨らむ。	SI5
96	石器	石核	―	完形	最大長 2.4	最大幅 3.4	最大厚 1.5	石材：チャート　加工痕：打剝　使用痕：なし 重量：12.3ｇ	SI5
97	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒、赤色粒を含む。微弱な外反口縁。口唇部を平坦に成形。	SI6 1層
98	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒、赤色粒を含む。直口口縁。口唇部を平坦に成形するが舌状となる。	SI6 1層
99	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	泥質で石英や石灰質砂粒を含む。微弱な外反口縁。口唇部を平坦に成形し口縁部端が膨らむ。口唇部に突起。口縁部に沈線か。	SI6 1層

表６　楚辺親見原遺跡　遺物観察表４

挿図番号	種類	器種	分類	部位/状態	法量(単位：㎝) ( )は復元値			観察事項	出土地
					口径	器高	底径		
100	石器	打鏃未成品	―	完形	最大長 1.95	最大幅 1.50	最大厚 0.55	石材：チャート　加工痕：打剝、押圧剝離　使用痕：なし その他：石鏃未成品　重量：1.11ｇ	SI6 1層
101	石器	打鏃	―	完形	最大長 2.10	最大幅 (1.60)	最大厚 0.55	石材：チャート　加工痕：打剝、押圧剝離　使用痕：なし その他：石鏃未成品　重量：1.65ｇ	SI6 1層
102	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒、赤色粒を含む。外反口縁。カヤウチバンタ式口縁。口唇部舌状。内外面に指頭圧痕が顕著に残る	SI6 2層
103	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。薄手。外反口縁。口唇部舌状。	SI6 2層
104	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	(10.4)	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒、赤色粒を含む。頸部から内湾する。口唇部を平坦に成形し突起。	SI6 2層
105	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒、赤色粒を含む。微弱な外反口縁。口唇部舌状。外面に石灰質砂粒と考えられる白色粒が付着。	SI6
106	土器	浅鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒含む。口縁部は粘土を貼り付け肥厚させ、口唇部から胴部にかけ粘土を貼り付け突帯とする。	SI6
107	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	(11.2)	―	―	泥質で石英や石灰岩砂粒をわずかに含む。口唇部を平坦に成形し口縁部端が稜となる。頸部は「く」の字状に屈曲。内面に指頭圧痕。	SI6
108	土器	深鉢	奄美系	胴部	―	―	―	砂質で石英や黒色粒を含む。内外面に研磨痕が残る。	SI6
109	土器	鉢	奄美系	口縁部	―	―	―	砂質で石英や雲母を含む。山形口縁。頸部に縦耳を貼り付ける。	SI6
110	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英・チャートや石灰質砂粒を含む。頸部は「く」の字状に屈曲か。	SI4･5･6 ｻﾌﾞﾄﾚ3･4
111	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒、金雲母を含む。直口口縁。口唇部舌状。	SI4･5･6 ｻﾌﾞﾄﾚ3･4
112	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂を含む。外反口縁。口唇部を平坦に成形。	SI4･5･6 ｻﾌﾞﾄﾚ3･4
113	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	泥質で赤色粒、雲母を含む。口唇部を平坦に成形し突起。頸部に横捺刻文。その下に沈線を施す。	SI4･5･6 ｻﾌﾞﾄﾚ3･4
114	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒、黒雲母を含む。口唇部を平坦に成形。微弱な外反口縁。頸部に横捺刻文。	SI4･5･6 ｻﾌﾞﾄﾚ3･4
115	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英、石灰質砂粒、赤色粒を含む。外反口縁。口唇部を平坦に成形するが舌状となる。	SI 4･5･6
116	土器	深鉢	不明	口縁部	―	―	―	砂質で石英や白色粒を含む。表面アバタ状。微弱な外反口縁。口縁部は肥厚する。胴部に横位の沈線を施す。	SI4･5･6 ｻﾌﾞﾄﾚ3･4
117	土器	深鉢	型式不明	胴部	―	―	―	泥質で石英や雲母を含む。口唇部を平坦に成形。外面に横捺刻文。	SI4･5･6 ｻﾌﾞﾄﾚ3･4
118	土器	壺	弥生系	頸部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。薄手。頸部に二条の突帯。	SI4･5･6
119	土器	深鉢	丸底	底部	―	―	(0.8)	砂質で石英や石灰岩質砂粒を含む。	SI4･5･6 ｻﾌﾞﾄﾚ3･4
120	土器	深鉢	丸底	底部	―	―	1.4	砂質で石英や雲母を含む。	SI4･5･6 ｻﾌﾞﾄﾚ3･4
121	土製品	―	―	―	―	―	―	円盤状。加工痕：打剝（両）	SI4･5･6
122	石器	打鏃未成品	―	完形	最大長 1.8	最大幅 1.6	最大厚 0.5	石材：チャート　加工痕：打剝、押圧剝離　使用痕：なし 重量：1.03ｇ	SI4･5･6 ｻﾌﾞﾄﾚ3･4
123	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。微弱な外反口縁で口唇部は舌状。	SK3 12層
124	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。口唇部を平坦に成形するが舌状。薄手で内面に指頭圧痕が残る。	SK3 11層
125	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。薄手。微弱な外反口縁。口唇部を平坦に成形	SK3 12層
126	土器	深鉢	把手	耳	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒含む。耳は直線状となり下部に爪痕のような窪みがある。	SK3 11層
127	土器	深鉢	丸底	底部	―	―	0.6	砂質で石英や石灰岩砂粒、赤色粒を含む。	SK3 12層
128	石器	打鏃	―	完形	最大長 1.7	最大幅 1.5	最大厚 0.35	石材：チャート　加工痕：打剝、押圧剥離　使用痕：なし 重量：0.63ｇ	SK3 11層
129	石器	敲磨石	―	一部欠損	最大長 7.8	最大幅 6.3	最大厚 3.0	石材：中粒砂岩　加工痕：なし　使用痕：敲打、研磨 重量：185.31ｇ	SK3 11層
130	土器	不明	型式不明	胴部	―	―	―	内面が剥落している。横位や斜位の沈線。	SK4 1層

表７　楚辺親見原遺跡　遺物観察表５

挿図番号	種類	器種	分類	部位/状態	法量(単位：㎝) ( )は復元値			観察事項	出土地
					口径	器高	底径		
131	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や雲母を含む。外反口縁。カヤウチバンタ式口縁。口唇部舌状。	SK7 1層
132	土器	深鉢	型式不明	胴部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。胴部に横位と斜位の沈線を２条施す。	SK7 7層
133	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒、赤色粒、黒雲母を含む。外反口縁。口唇部舌状。	SK7 11層
134	石器	石核	―	完形	最大長 3.7	最大幅 3.0	最大厚 2.0	石材：石英　加工痕：打剝　使用痕：なし 重量：19.92ｇ	SK7 14層
135	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。口縁部断面三角形状。	SK7 21層
136	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。外反口縁。カヤウチバンタ式口縁。口唇部舌状。口縁部の段に円文か。	SK7 21層
137	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英・チャートや石灰質砂粒を含む。口縁部断面三角形状。	SK7 22層
138	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。肥厚微弱。口縁部断面三角形状。	SK7 26層
139	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	泥質で石英や石灰質砂粒を含む。カマボコ形。	SK7
140	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	泥質で石英を含む。口縁部断面は三角形状で端部は丸い。	SK7
141	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	泥質で石英・チャートや石灰質砂粒を含む。	SK7
142	土器	深鉢	型式不明	口縁部	―	―	―	砂質で石英や金雲母を含む。微弱な外反口縁。口唇部を平坦に成形。口縁部下に段を施す。	SK7
143	土器	深鉢	型式不明	胴部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒、赤色粒を含む。刺突文と思われる文様がみられる。外面ヘラナデ。	SK7
144	土器	不明	高台	底部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。	SK7
145	土器	深鉢	くびれ平底	底部	―	―	3.6	泥質で石英や石灰岩砂粒をわずかに含む。内外面にへら状工具痕が残る。	SK8
146	土器	深鉢	高台	底部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。	SK8 1層
147	石器	打鏃未成品	―	完形	最大長 2.05	最大幅 2.2	最大厚 0.6	石材：チャート　加工痕：打剝、押圧剝離　使用痕：なし 重量：2.34ｇ	SK8 1層
148	石器	石核	―	完形	最大長 5.25	最大幅 3.6	最大厚 1.4	石材：チャート　加工痕：打剝　使用痕：なし 重量：22.03ｇ	SK8 1層
149	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。口縁部断面三角形状。	SK8 2層
150	石器	スクレイパー	―	一部欠損	最大長 6.6	最大幅 3.2	最大厚 1.3	石材：片状砂岩　加工痕：打剝　使用痕：微細剝離 重量：17.90ｇ	SK8 3層
151	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。口縁部断面三角形状。口縁部に単箆工具による縦位の沈線、外面に斜沈線か。	SK8 7層
152	石器	フレイク	―	完形	最大長 3.1	最大幅 5.15	最大厚 1.95	石材：チャート　加工痕：打剝　使用痕：なし 重量：23.7ｇ	SK8 9層
153	石器	台石・石皿	―	破片	最大長 (6.85)	最大幅 (11.7)	最大厚 (2.9)	石材：ひん岩　加工痕：敲打　使用痕：敲打 その他：角閃石黒雲母ひん岩か　重量：356.41ｇ	SK8
154	石器	台石	―	破片	最大長 (16.4)	最大幅 (10.5)	最大厚 (14.0)	石材：中粒砂岩　加工痕：なし　使用痕：敲打、研磨 重量：2943.34ｇ	SK8 8層
155	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒含む。直口口縁。口縁下部は「く」の字状に屈曲。後会陰部を平坦に成形し口縁部端が膨らむ。	SU1 1層
156	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。外反口縁。口唇部を平坦に成形。内面はあまり調整されず指頭圧痕が残る。	SU1 1層
157	土製品	―	―	―	―	―	―	胎土が砂質で石英や石灰岩砂粒を含む土器を加工。平坦部分を細かく刻む。	SU1 1層
158	石器	磨斧	―	完形	最大長 11.85	最大幅 7.25	最大厚 2.9	石材：緑色片岩　加工痕：打剝、敲打、研磨 使用痕：：微細剝離　重量：447.27ｇ	SU1 1層
159	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。三角形状。内面が剥落。	SK1
160	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。宇佐浜式口縁。	SK1
161	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。直口口縁。口唇部舌状。	SK1
162	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。三角形状。	Ⅳ-1層
163	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。宇佐浜式口縁。	Ⅳ-1層
164	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石灰質砂粒を多く含む。カマボコ形。	Ⅳ-1層
165	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒、チャートを含む。外反口縁。口唇部を平坦に成形。内面があまり調整され合ず指頭圧痕が残る。	Ⅳ-1層
166	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。三角形状。口唇部に突起。	Ⅳ-1層
167	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。三角形状。	Ⅳ-1層

表８　楚辺親見原遺跡　遺物観察表６

挿図番号	種類	器種	分類	部位/状態	法量(単位：㎝) ( )は復元値			観察事項	出土地
					口径	器高	底径		
168	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石灰質砂粒を多く含む。	Ⅳ-1層
169	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	泥質で石灰岩砂粒をわずかに含む。直口口縁。口唇部舌状。	Ⅳ-1層
170	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒をわずかに含む。外反口縁。	Ⅳ-1層
171	土器	深鉢	奄美系	口縁部	(28.0)	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。口唇部を平坦に成形。口縁部に沈線を施す。胴部に横耳とみみずばれ突帯を施す。内面指頭痕残る。	Ⅳ-1層
172	土器	深鉢	くびれ平底	底部	―	―	4.7	泥質で石英や石灰岩砂粒をわずかに含む。	Ⅳ-1層
173	土器	深鉢	ｶﾔｳﾁﾊﾞﾝﾀ式	口縁部	(13.0)	―	―	石英や石灰岩砂粒、雲母を含む。口縁部の肥厚は口頸部分が方形に肥厚する。	Ⅳ-2層
174	土器	壺	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。口縁部舌状。カヤウチバンタ式口縁。	Ⅳ-2層
175	土器	深鉢	荻堂式	胴部	―	―	―	泥質で石灰質砂粒を含む。外面に単篦工具による押し引き文（左から）と沈線。頸部。	Ⅴ-1層
176	土器	深鉢	ｶﾔｳﾁﾊﾞﾝﾀ式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。直口口縁。口縁部が方形に肥厚。	Ⅴ-1層
177	土器	深鉢	室川式	口縁部	―	―	―	泥質で石英・雲母や石灰質砂粒を含む。口縁部は丸く肥厚する。外面に斜沈線。	Ⅴ-1層
178	土器	深鉢	室川式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。口縁部は肥厚し平坦となる。外面に斜沈線。	Ⅴ-1層
179	土器	深鉢	室川式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を多く含む。口縁部を屈曲させ疑似肥厚。。口縁部内面に突帯を施す。	Ⅴ-1層
180	土器	深鉢	室川式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を多く含む。口縁部を屈曲させ疑似肥厚。口唇と外面に半截竹管状工具による横捺刻文(右から)。	Ⅴ-1層
181	土器	深鉢	室川式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を多く含む。口縁部を屈曲させ疑似肥厚。口唇と外面に単篦工具による横捺刻文(右から)。	Ⅴ-1層
182	土器	深鉢	室川式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。口縁部を屈折させ疑似肥厚。	Ⅴ-1層
183	土器	深鉢	室川式	口縁部	―	―	―	泥質で石英や石灰質砂粒を含む。外反口縁。肥厚微弱。外面に斜沈線。	Ⅴ-1層
184	土器	深鉢	室川式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。口縁部と胴部に単篦工具による横捺刻文(右から)。	Ⅴ-1層
185	土器	深鉢	室川式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を多く含む。。口唇部に横捺刻文。	Ⅴ-1層
186	土器	深鉢	室川式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。外面に横捺刻文(右から)。	Ⅴ-1層
187	土器	深鉢	室川式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を多く含む。口縁部と頸部に単篦工具による横捺刻文(右から)。	Ⅴ-1層
188	土器	深鉢	室川式	口縁部	―	―	―	泥質で石英や石灰質砂粒を含む。	Ⅴ-1層
189	土器	深鉢	室川式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。	Ⅴ-1層
190	土器	深鉢	室川式	口縁部	(24.8)	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。口縁部断面方形。口唇と外面に横捺刻文。	Ⅴ-1層
191	土器	深鉢	室川式	口縁部	―	―	―	砂質で石灰質砂粒を含む。口縁部断面方形状。口縁部下に縦位の沈線。	Ⅴ-1層
192	土器	深鉢	室川式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を多く含む。口縁部断面方形。外面に単篦工具による横捺刻文(左から)と、刺突の間に縦位の沈線。	Ⅴ-1層
193	土器	深鉢	室川式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。外面に単篦工具による横捺刻文(左から)。	Ⅴ-1層
194	土器	深鉢	室川式	口縁部	(28.0)	―	―	泥質で石灰質砂粒を含む。口縁部断面方形。。口唇部（内側より右から）と口縁部（右から）、口縁部下（右から）に横捺刻文。	Ⅴ-1層
195	土器	深鉢	室川式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂岩を多く含む。口縁部断面方形。口唇部と口縁部、口縁部下に横捺刻文。	Ⅴ-1層
196	土器	深鉢	室川式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。外反口縁。	Ⅴ-1層
197	土器	深鉢	室川式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。口縁部は丸く肥厚し、外反する。	Ⅴ-1層
198	土器	深鉢	室川式	口縁部	―	―	―	砂質で石英・チャートや石灰質砂粒を含む。	Ⅴ-1層
199	土器	深鉢	室川式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を多く含む。口唇部平坦。肥厚微弱。	Ⅴ-1層
200	土器	深鉢	室川式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を多く含む。外反口縁。	Ⅴ-1層
201	土器	深鉢	室川式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を多く含む。外反口縁。	Ⅴ-1層
202	土器	深鉢	室川式	口縁部	―	―	―	泥質で石灰質砂粒を含む。断面方形。口唇部と口縁部（みぎから）に単篦工具による横捺刻文。	Ⅴ-1層
203	土器	深鉢	室川式	口縁部	―	―	―	泥質で表面アバタ状。口縁断面方形。口唇部（内面より右から）及び口縁部（右から）に単篦工具による横捺刻文。	Ⅴ-1層
204	土器	深鉢	室川式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。	Ⅴ-1層
205	土器	深鉢	室川式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を多く含む。	Ⅴ-1層

表９　楚辺親見原遺跡　遺物観察表７

挿図番号	種類	器種	分類	部位/状態	法量(単位：cm) ( )は復元値			観察事項	出土地
					口径	器高	底径		
206	土器	深鉢	室川式	口縁部	―	―	―	砂質で石英を含む。外反口縁。縦位の突帯の左右に単箆工具による連続刺突文。	Ⅴ-1層
207	土器	深鉢	室川式	口縁部	―	―	―	砂質で石英・チャートや石灰質砂粒を多く含む。口縁部断面方形。口縁断面下部に突帯を施す。	Ⅴ-1層
208	土器	深鉢	室川式	胴部	―	―	―	砂質で石英を含む。胴部に斜状工具による横捺刻文。	Ⅴ-1層
209	土器	深鉢	室川式	胴部	―	―	―	砂質で石英を含む。胴部に単箆工具による２条の横捺刻文。	Ⅴ-1層
210	土器	深鉢	室川式	胴部	―	―	―	泥質で石英を含む。胴部に横位の突帯を施し上部に横捺刻文。下部に横捺刻文と縦位の沈線。	Ⅴ-1層
211	土器	深鉢	室川式	胴部	―	―	―	砂質で石英を含む。胴部に単箆工具による横捺刻文。	Ⅴ-1層
212	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石灰質砂粒を多く含む。三角形状。口唇からと外面胴部に縦位の沈線。	Ⅴ-1層
213	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石灰質砂粒を多く含む。三角形状。口唇と外面に２条の横捺刻文(右から)。	Ⅴ-1層
214	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を多く含む。三角形状。外面に叉状工具による横捺刻文（左から）。	Ⅴ-1層
215	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	(22.0)	―	―	泥質で石灰質砂粒を多く含む。三角形状。口唇と外面に横捺刻文(左から)。	Ⅴ-1層
216	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	泥質で石灰質砂粒を含む。三角形状。外面に単箆工具による押し引き文(左から)。	Ⅴ-1層
217	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。三角形状。外面に単箆工具による横捺刻文。	Ⅴ-1層
218	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。三角形状。口唇部に縦位の沈線。	Ⅴ-1層
219	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	泥質で石灰質砂粒を含む。三角形状。	Ⅴ-1層
220	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。カマボコ形。外面に単箆工具による横捺刻文。	Ⅴ-1層
221	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。三角形状。	Ⅴ-1層
222	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英を含む三角形状。	Ⅴ-1層
223	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を多く含む。三角形状。	Ⅴ-1層
224	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を多く含む。三角形状。	Ⅴ-1層
225	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を多く含む。三角形状。	Ⅴ-1層
226	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を多く含む。三角形状。	Ⅴ-1層
227	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を多く含む。三角形状。	Ⅴ-1層
228	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	泥質で石英や石灰質砂粒を含む。三角形状。	Ⅴ-1層
229	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。三角形状。	Ⅴ-1層
230	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を多く含む。外反口縁。三角形状。	Ⅴ-1層
231	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。三角形状。	Ⅴ-1層
232	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。口縁部は肥厚する。	Ⅴ-1層
233	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を多く含む。カマボコ状。	Ⅴ-1層
234	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石灰質砂粒を含む。カマボコ形。厚手。	Ⅴ-1層
235	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を多く含む。カマボコ形。	Ⅴ-1層
236	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を多く含む。カマボコ形。	Ⅴ-1層
237	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。三角形状。	Ⅴ-1層
238	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を多く含む。カマボコ形。	Ⅴ-1層
239	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石灰質砂粒を含む。三角形状。外面に単箆工具による横捺刻文。	Ⅴ-1層
240	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を多く含む。三角形状。外面口縁部から胴部に縦位の沈線。	Ⅴ-1層
241	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を多く含む。三角形状。	Ⅴ-1層
242	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石灰質砂粒を多く含む。三角形状。	Ⅴ-1層
243	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。三角形状。	Ⅴ-1層
244	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	泥質で石灰質砂粒を含む。三角形状。	Ⅴ-1層
245	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を多く含む。三角形状。	Ⅴ-1層
246	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。三角形状。	Ⅴ-1層
247	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。三角形状。	Ⅴ-1層
248	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英やチャート、石灰質砂粒を多く含む。三角形状。	Ⅴ-1層
249	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を多く含む。三角形状。	Ⅴ-1層
250	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石灰質砂粒を含む。カマボコ形。	Ⅴ-1層

表 10　楚辺親見原遺跡　遺物観察表８

挿図番号	種類	器種	分類	部位/状態	法量(単位：㎝) ( )は復元値			観察事項	出土地
					口径	器高	底径		
251	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英・チャートや石灰質砂粒を含む。三角形状。	Ⅴ-1層
252	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。三角形状。	Ⅴ-1層
253	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を多く含む。	Ⅴ-1層
254	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。三角形状。	Ⅴ-1層
255	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を多く含む。三角形状。	Ⅴ-1層
256	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を多く含む。	Ⅴ-1層
257	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。三角状。	Ⅴ-1層
258	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石灰質砂粒を多く含む。カマボコ形。	Ⅴ-1層
259	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を多く含む。宇佐浜式口縁。	Ⅴ-1層
260	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。三角形状。口唇に突起。厚手。	Ⅴ-1層
261	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を多く含む。三角形状。口唇部に突起。	Ⅴ-1層
262	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を多く含む。口縁肥厚。突起が付く。口唇と外面に単箆工具による横捺刻文(右から)。	Ⅴ-1層
263	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石灰質砂粒を含む。三角形状。口縁部に突起。	Ⅴ-1層
264	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。三角状。口縁部から胴部に縦位の沈線。	Ⅴ-1層
265	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒をわずかに含む。宇佐浜式口縁で、直口口縁。	Ⅴ-1層
266	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。直口口縁。宇佐浜式口縁。口唇部舌状。	Ⅴ-1層
267	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。直口口縁。宇佐浜式口縁。	Ⅴ-1層
268	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。直口口縁。宇佐浜式口縁。	Ⅴ-1層
269	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒をわずかに含む。直口口縁。宇佐浜式口縁。	Ⅴ-1層
270	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。宇佐浜式口縁。	Ⅴ-1層
271	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒をわずかに含む。宇佐浜式口縁で外反口縁。	Ⅴ-1層
272	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。灰褐色で薄手。外反口縁。	Ⅴ-1層
273	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。微弱な外反口縁。口唇部舌状。	Ⅴ-1層
274	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。直口口縁。口唇部舌状。	Ⅴ-1層
275	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。直口口縁。胴部内面が弱い「く」の字状屈曲。	Ⅴ-1層
276	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。外反口縁。口唇部を成形するが舌状。	Ⅴ-1層
277	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。直口口縁。カヤウチバンタ式口縁。口唇部舌状。	Ⅴ-1層
278	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。外反口縁。カヤウチバンタ式口縁。口唇部舌状。	Ⅴ-1層
279	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。カヤウチバンタ式口縁で微弱な外反。口唇部は舌状。	Ⅴ-1層
280	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。直口口縁。カヤウチバンタ式口縁。口唇部舌状。	Ⅴ-1層
281	土器	深鉢	仲原式	口縁部	(21.6)	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。カヤウチバンタ式口縁。輪積みの粘土で三角状の段とする。口縁部はやや外反し口唇部は舌状。	Ⅴ-1層
282	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。カヤウチバンタ式口縁で微弱な外反。口唇部成形されるが舌状。	Ⅴ-1層
283	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。カヤウチバンタ式口縁で外反。口唇部は成形されるが舌状。	Ⅴ-1層
284	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	泥質で石英や石灰岩、輝石(？)を含む。カヤウチバンタ式口縁で外反口縁。口唇部舌状。	Ⅴ-1層
285	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。直口口縁。宇佐浜式口縁。口唇部舌状。口縁部に単箆工具による２条の横捺刻文。	Ⅴ-1層
286	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や黒色粒を含む。外反口縁。口唇部を平坦に成形。内面指頭圧痕が残る。	Ⅴ-1層
287	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や黒色粒を含む。外反口縁。口唇部を平坦に成形。	Ⅴ-1層
288	土器	深鉢	弥生系	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。口縁部に２条の突帯を施す。	Ⅴ-1層
289	土器	不明	大洞系	口縁部	―	―	―	砂質で石英を含む。口唇部を平坦に成形。口縁部に２条の沈線。	Ⅴ-1層
290	土器	不明	型式不明	口縁部	―	―	―	砂質で石英を含む。口縁部は肥厚し断面が方形となる。口唇部を平坦に成形し山形の突起を施す。	Ⅴ-1層

表 11　楚辺親見原遺跡　遺物観察表９

挿図番号	種類	器種	分類	部位/状態	法量(単位：cm) ( )は復元値			観察事項	出土地
					口径	器高	底径		
291	土器	鉢	型式不明	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。直口口縁。口唇部。を平坦に成形。	Ⅴ-1層
292	土器	鉢	型式不明	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。口唇部を平坦に成形。縁部下に焼成前の穿孔を施す。	Ⅴ-1層
293	土器	鉢	型式不明	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。直口口縁。口唇部を平坦に成形するが舌状。口縁部端に突帯を貼り付ける。	Ⅴ-1層
294	土器	鉢	型式不明	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒をわずかに含む。直口口縁。口唇部を平坦に成形し口縁部端が膨れる。	Ⅴ-1層
295	土器	壺	型式不明	口縁部	(8.0)	―	―	砂質で石英を含む。外反口縁。口唇部舌状。	Ⅴ-1層
296	土器	深鉢	弧状	耳	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。耳は弧状となる。	Ⅴ-1層
297	土器	深鉢	弧状	耳	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。耳は弧状となる。	Ⅴ-1層
298	土器	深鉢	弧状	耳	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。耳はやや厚手の弧状となる。	Ⅴ-1層
299	土器	深鉢	弧状	耳	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。外耳は厚手での外面が平坦の弧状となる。	Ⅴ-1層
300	土器	深鉢	仲原式	胴部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。カヤウチバンタ式口縁か。	Ⅴ-1層
301	土器	深鉢	型式不明	胴部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。外面に横位の突帯とその上下に沈線。	Ⅴ-1層
302	土器	深鉢	底部	高台	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。端部舌状。	Ⅴ-1層
303	土器	深鉢	平底	底部	―	―	(4.6)	砂質で石英や石英を含む。	Ⅴ-1層
304	土器	深鉢	平底	底部	―	―	2.6	砂質で石英やチャート含む。端部が窪む。	Ⅴ-1層
305	土器	深鉢	平底	底部	―	―	3.6	石英や石灰岩砂粒、赤色粒を含む。底面端部が窪む。	Ⅴ-1層
306	土器	深鉢	平底	底部	―	―	1.8	砂質で石英を含む。	Ⅴ-1層
307	土器	深鉢	尖底	底部	―	―	2.0	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。底面端部が窪む。	Ⅴ-1層
308	土器	深鉢	尖底	底部	―	―	2.3	砂質で石英やチャート含む。端部が窪む。	Ⅴ-1層
309	土器	深鉢	尖底	底部	―	―	1.0	砂質で石英やチャート含む。	Ⅴ-1層
310	土器	深鉢	丸底	底部	―	―	1.0	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。	Ⅴ-1層
311	土器	深鉢	尖底	底部	―	―	0.4	砂質で石英を含む。	Ⅴ-1層
312	土器	深鉢	尖底	底部	―	―	0.4	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。	Ⅴ-1層
313	土器	深鉢	尖底	底部	―	―	0.4	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。	Ⅴ-1層
314	土器	深鉢	尖底	底部	―	―	1.0	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。	Ⅴ-1層
315	土器	深鉢	尖底	底部	―	―	0.8	砂質で石英やチャートを含む。	Ⅴ-1層
316	土器	深鉢	尖底	底部	―	―	0.6	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。	Ⅴ-1層
317	土器	深鉢	尖底	底部	―	―	0.6	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。	Ⅴ-1層
318	土器	深鉢	尖底	底部	―	―	0.4	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。	Ⅴ-1層
319	土器	深鉢	尖底	底部	―	―	1.4	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。底面端部が窪む。	Ⅴ-1層
320	石器	打鏃	―	完形	最大長 2.5	最大幅 2.1	最大厚 0.65	石材：チャート　加工痕：打剥、押圧剥離　使用痕：なし 重量：2.60ｇ	Ⅴ-1層
321	石器	UF	―	完形	最大長 2.75	最大幅 2.15	最大厚 0.45	石材：チャート　加工痕：打剥　使用痕：微細剥離 重量：3.44ｇ	Ⅴ-1層
322	石器	磨斧	―	一部欠損	最大長 9.0	最大幅 4.6	最大厚 2.45	石材：緑色岩　加工痕：打剥、敲打、研磨　使用痕：着柄痕 重量：154.18ｇ	Ⅴ-1層
323	石器	台石	―	破片	最大長 (9.85)	最大幅 (8.7)	最大厚 (7.55)	石材：安山岩　加工痕：研磨　使用痕：敲打 重量：503.58ｇ	Ⅴ-1層
324	土器	深鉢	室川式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。直口口縁。口縁部が方形に肥厚。	Ⅴ-2層
325	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を多く含む。三角形状。	Ⅴ-2層
326	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を多く含む。三角形状。	Ⅴ-2層
327	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石灰質砂粒を多く含む。三角形状。	Ⅴ-2層
328	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。直口口縁。	Ⅴ-2層
329	土器	浅鉢	型式不明	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。直口口縁。口唇部を平坦に成形。118と同一か。	Ⅴ-2層
330	土器	深鉢	尖底	底部	―	―	0.8	砂質で石英や白色粒を含む。	Ⅴ-1層
331	土器	不明	大洞系	胴部	―	―	―	砂質で石英やを含む。外面に縦位の沈線。	Ⅰ層
332	土器	深鉢	尖底	底部	―	―	0.6	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む	Ⅰ層
333	中国産白磁	碗	Ⅳ類	口縁部	―	―	―	玉縁口縁。胎土は灰白色。釉は灰白色。	Ⅰ層
334	中国産青磁	碗	Ⅵ類	底部	―	―	―	胎土は灰色で焼成悪く一部赤褐色。外底面露胎。釉は暗オリーブ色。	Ⅰ層

表 12　楚辺親見原遺跡　遺物観察表 10

挿図番号	種類	器種	分類	部位/状態	法量(単位：㎝) ( )は復元値			観察事項	出土地
					口径	器高	底径		
335	中国産青花	碗	福建・広東系	胴部	―	―	―	外面腰部に漣弁文。内面に二重圏線。	Ⅰ層
336	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。カヤウチバンタ式口縁。微弱な外反口縁。口唇部は舌状。	Ⅲ-1層
337	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。外反口縁。口唇部成形するが舌状。	Ⅲ-1層
338	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。外反口縁。口唇部成形するが舌状。	Ⅲ-1層
339	グスク土器	鍋	第1様式	口縁部	―	―	―	泥質で石英や石灰岩砂粒、赤色粒を含む。口唇部を平坦に成形。	Ⅲ-1層
340	土器	深鉢	くびれ平底	底部	―	―	―	泥質で石英や石灰岩砂粒をわずかに含む。	Ⅲ-1層
341	カムィヤキ	壺	B群	口縁部	(12.7)	―	―	胎土内部赤褐色。軟質。内面に平行線状の当て具痕	Ⅲ-1層
342	石器	打鏃未成品	―	完形	最大長 1.8	最大幅 1.65	最大厚 0.6	石材：チャート　加工痕：打剝、押圧剝離　使用痕：なし 重量：1.30ｇ	Ⅲ-1層
343	石器	磨斧	―	破片	最大長 (7.5)	最大幅 (3.5)	最大厚 (3.3)	石材：輝緑岩　加工痕：敲打、研磨　使用痕：微細剝離・線条痕 その他：柱状片刃石斧の可能性有り　重量：126.33ｇ	Ⅲ-1層
344	石器	磨斧未成品	―	破片	最大長 (9.35)	最大幅 8.05	最大厚 (3.2)	石材：輝緑岩　加工痕：打剝、敲打、研磨　使用痕：なし 重量：303.06ｇ	Ⅲ-1層
345	石器	打斧	―	破片	最大長 (8.1)	最大幅 6.8	最大厚 2.3	石材：緑色片岩　加工痕：打剝　使用痕：微細剝離 重量：165.53ｇ	Ⅲ-1層
346	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を多く含む。外反口縁。宇佐浜式口縁。	Ⅲ-2層
347	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を多く含む。外反口縁。口唇部舌状。	Ⅲ-2層
348	石器	石器未成品	―	完形	最大長 2.6	最大幅 0.95	最大厚 0.55	石材：チャート　加工痕：打剝、押圧剝離　使用痕：なし 重量：1.31ｇ	Ⅲ-2層
349	石製品	分銅形 石製品	―	完形	最大長 3.4	最大幅 2.3	最大厚 1.5	石材：滑石　加工痕：研磨、穿孔、ノミ痕　使用痕：なし その他：転用有、転用前器種(石鍋)　重量：16.7ｇ	Ⅲ-2層
350	土器	深鉢	室川式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。三角形状。	Ⅳ-1層
351	土器	深鉢	室川式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。口縁部断面三角形状。	Ⅳ-1層
352	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。外反口縁。宇佐浜式口縁。	Ⅳ-1層
353	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を多く含む。口縁部断面三角形状。	Ⅳ-1層
354	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒含む。口縁部断面三角形状。	Ⅳ-1層
355	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。直口口縁。宇佐浜式口縁。	Ⅳ-1層
356	土器	深鉢	阿波連浦下層式	耳	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。胴部を１周する断面が方形の突帯を貼り付ける。	Ⅳ-1層
357	土器	不明	高台	底部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。焼成前の穿孔が施される。	Ⅳ-1層
358	土器	深鉢	型式不明	胴部	―	―	―	砂質で石灰岩砂粒や大粒(約6㎜)の石英を含む。	Ⅳ-1層
359	土器	深鉢	奄美系	底部	―	―	8.0	砂質で石英や金雲母を含む。平底。	Ⅳ-1層
360	土製品	―	―	―	―	―	―	円盤状。加工痕：打剥（外）	Ⅳ-1層
361	石器	打鏃	―	完形	最大長 3.15	最大幅 2.15	最大厚 0.50	石材：石英　加工痕：打剝、押圧剥離　使用痕：なし 重量：2.60ｇ	Ⅳ-1層
362	石器	磨斧	―	一部欠損	最大長 (8.05)	最大幅 (4.7)	最大厚 2.0	石材：輝緑岩　加工痕：打剝、敲打　使用痕：着柄痕 重量：114.79ｇ	Ⅳ-1層
363	石器	打斧	―	完形	最大長 (8.55)	最大幅 5.05	最大厚 1.65	石材：緑色片岩　加工痕：打剝　使用痕：微細剝離 重量：103.24ｇ	Ⅳ-1層
364	石器	ﾗｳﾝﾄﾞ・ｽｸﾚｲﾊﾟｰ	―	完形	最大長 5.85	最大幅 5.25	最大厚 2.1	石材：輝緑岩　加工痕：打剝　使用痕：微細剝離 重量：84.34ｇ	Ⅳ-1層
365	石器	石皿	―	破片	最大長 (10.55)	最大幅 (6.2)	最大厚 (4.95)	石材：安山岩　加工痕：なし　使用痕：研磨 重量：356.06ｇ	Ⅳ-1層
366	中国産白磁	碗	Ⅱ類	口縁部	―	―	―	玉縁口縁。玉縁は小ぶり。胎土は白色。釉は灰白色。	Ⅳ-1層
367	中国産白磁	碗	Ⅴ類	胴部	―	―	―	胎土は灰白色。釉は外面胴部下半露胎。外反口縁か。	Ⅳ-1層
368	土器	深鉢	室川式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。口縁部断面方形。	Ⅳ-2層
369	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を多く含む。口縁部断面三角形状。	Ⅳ-2層
370	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。三角形状。口縁部に縦位の沈線か。	Ⅳ-2層
371	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を多く含む。口縁部断面三角形状。	Ⅳ-2層
372	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質粒を含む。口縁断面間延びした三角形状。	Ⅳ-2層
373	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。外反口縁。口唇部舌状。	Ⅳ-2層
374	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。カヤウチバンタ式口縁。直口口縁で口唇部は舌状。	Ⅳ-2層

表 13　楚辺親見原遺跡　遺物観察表 11

挿図番号	種類	器種	分類	部位/状態	法量(単位：cm) ( )は復元値			観察事項	出土地
					口径	器高	底径		
375	土器	深鉢	仲原式	口縁部	(22.0)	―	―	砂質で焼成が悪くニービ（砂岩）状となる。石英や石灰岩砂粒、赤色粒を含む。外反口縁。口唇部を平坦に成形するが舌状となる。	IV-2層
376	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒をわずかに含む。直口口縁。カヤウチバンタ式口縁。口唇部を平坦に成形するが舌状となる。	IV-2層
377	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。微弱な外反口縁。口唇部を平坦に成形し口縁部端が膨らむ。	IV-2層
378	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。口縁部を平坦に成形。外反口縁。	IV-2層
379	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。外反口縁。口唇部成形するが舌状。	IV-2層
380	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。口縁部を平坦に成形。外反口縁。口縁部下に段を施す。	IV-2層
381	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。外反口縁。口唇部を平坦に成形。	IV-2層
382	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。口縁部を平坦に成形。外反口縁。口縁部下に突帯を施す。	IV-2層
383	土器	深鉢	阿波連浦下層式	胴部	―	―	―	泥質で石英や石灰質砂粒、赤色粒を含む。外反口縁。口縁部下に弱い「く」の字状の屈曲。	IV-2層
384	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。口唇部を平坦に成形。微弱な外反口縁。口縁部下は「く」の字状に屈曲と段を施す。	IV-2層
385	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	泥質で石英や石灰質砂粒わずかに含む。水磨を受け表面剥落。口唇部に突起か。口縁部に横捺刻文、その下に沈線を施す。	IV-2層
386	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	泥質で石英や石灰質砂粒をわずかに含む。睡魔を受け表面剥落。口縁部に刺突を「上」字状に配置。口頸部は「く」の字状に屈曲。	IV-2層
387	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	泥質で石英や石灰質砂粒をわずかに含む。直口口縁。口唇部にリボン状突起。その下部に焼成前の穿孔が２箇所施される。	IV-2層
388	土器	鉢	型式不明	口縁部	―	―	―	泥質で石英や石灰岩砂粒を含む。口唇部を平坦に成形し、口縁部端が膨らむ。	IV-2層
389	土器	壺	型式不明	口縁部	(7.4)	―	―	胎土は灰色。砂質で石英や石灰岩砂粒、黒色粒を含む。直口口縁。	IV-2層
390	土器	深鉢	阿波連浦下層式	耳	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。胴部に胴部を１周する断面が方形の突帯を貼り付ける。	IV-2層
391	土器	不明	ピーナッツ	耳	―	―	―	砂質で石英や白色粒を含む。ピーナッツ状の耳を貼り付ける。	IV-2層
392	土器	深鉢	一条	耳	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。胴部を１周する断面突帯か。	IV-2層
393	土器	壺	型式不明	胴部	―	―	―	砂質に石英や石灰岩砂粒、黒色粒を含む。	IV-2層
394	土器	深鉢	丸底	底部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。	IV-2層
395	土器	深鉢	奄美系	口縁部	―	―	―	泥質で赤色粒を含む。	IV-2層
396	土器	鉢	奄美系	口縁部	―	―	―	砂質で石英や白色粒を含む。口縁部は平坦に成形され端部がわずかに膨れる。胴部に横位の耳を貼り付ける。	IV-2層
397	土器	甕	板付式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や白色粒を含む。口縁部は如意口となり口唇部に刻みを施す。	IV-2層
398	土器	不明	大洞系	胴部	―	―	―	泥質で石英や雲母をわずかに含む。横位の耳を貼り付けその下部に沈線を２条施す。	IV-2層
399	石器	磨斧	―	破片	最大長 (7.40)	最大幅 (6.05)	最大厚 (2.60)	石材：輝緑岩　加工痕：敲打、研磨　使用痕：微細剥離 重量：156.44 g	IV-2層
400	石器	UF	―	完形	最大長 2.2	最大幅 2.2	最大厚 0.65	石材：黒曜石　加工痕：打剥　使用痕：微細剥離 重量：2.55 g	IV-2層
401	石器	UF	―	完形	最大長 2.5	最大幅 2.5	最大厚 0.95	石材：チャート　加工痕：打剥　使用痕：微細剥離 重量：4.90 g	IV-2層
402	石器	スクレイパー	―	完形	最大長 4.60	最大幅 8.15	最大厚 1.15	石材：緑色片岩　加工痕：打剥　使用痕：微細剥離 重量：48.44 g	IV-2層
403	石器	石皿もしくは砥石	―	破片	最大長 (7.1)	最大幅 (7.9)	最大厚 (2.8)	石材：中粒砂岩　加工痕：打剥　使用痕：砥面 重量：195.72 g	IV-2層
404	石器	石皿	―	破片	最大長 (12.45)	最大幅 (9.15)	最大厚 (1.9)	石材：中粒砂岩　加工痕：なし　使用痕：研磨 重量：229.81 g	IV-2層
405	石器	石核	―	完形	最大長 3.1	最大幅 5.35	最大厚 2.5	石材：チャート　加工痕：打剥　使用痕：なし 重量：41.31 g	IV-2層

表 14　楚辺親見原遺跡　遺物観察表 12

挿図番号	種類	器種	分類	部位/状態	法量(単位：cm) ( )は復元値			観察事項	出土地
					口径	器高	底径		
406	石製品	不明	―	破片	最大長 (4.4)	最大幅 2.2	最大厚 0.2	石材：片状砂岩　加工痕：研磨　使用痕：なし 重量：4.05 g	Ⅳ-2層
407	土器	深鉢	室川式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を多く含む。口縁部は外反する。口唇と外面に単箆工具による刺突文か。	Ⅴ-1層
408	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を多く含む。三角形状。	Ⅴ-1層
409	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒、黒色粒を含む。直口口縁。宇佐浜式口縁。	Ⅴ-1層
410	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。薄手。直口口縁。口唇部舌状。	Ⅴ-1層
411	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。外反口縁。カヤウチバンタ式口縁。頸部は「く」の字状に屈曲。口唇部舌状。	Ⅴ-1層
412	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒、赤色粒を含む。外反口縁。カヤウチバンタ式口縁。口唇部は平坦に成形されるが舌状。	Ⅴ-1層
413	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。微弱な外反口縁。口唇部を平坦に成形するが舌状。	Ⅴ-1層
414	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。口唇部を平坦に成形。微弱な外反口縁。	Ⅴ-1層
415	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。口唇部を平坦に成形し口縁部端がわずかに膨れる。微弱な外反口縁。	Ⅴ-1層
416	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	泥質で赤色粒や黒雲母を含む。口唇部舌状。口縁部に横捺刻文。	Ⅴ-1層
417	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒、黒雲母を含む。口唇部を平坦に成形。外反口縁。胴部は「く」の字状に屈曲。	Ⅴ-1層
418	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	泥質で石英や石灰岩砂粒を含む。外反口縁。口唇部に突起。内面に指頭圧痕が残る。	Ⅴ-1層
419	土器	深鉢	丸底	底部	―	―	1.0	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。	Ⅴ-1層
420	土器	甕	板付式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や白色粒を含む。口縁部は如意状となり口唇部に刻みを施す。	Ⅴ-1層
421	土器	不明	型式不明	口縁部	―	―	―	砂質で石英や金雲母をわずかに含む。直口口縁。口縁部に沈線を施し突帯状の文様を施す。胎土は奄美系に類似。	Ⅴ-1層
422	土器	不明	大洞系	底部	―	―	―	泥質で石英を含む。高台は断面方形。外面に縦位と横位の幅の広い沈線を施す。	Ⅴ-1層
423	石器	磨斧	―	破片	最大長 (8.65)	最大幅 8.75	最大厚 3.4	石材：緑色岩　加工痕：打剝、敲打、研磨 使用痕：微細剝離、線条痕　その他：大形石斧　重量：357.8 g	Ⅴ-1層
424	石器	敲磨石	―	完形	最大長 6.50	最大幅 6.25	最大厚 3.95	石材：チャート　加工痕：なし　使用痕：敲打、研磨 重量：211.13 g	Ⅴ-1層
425	石器	スクレイパー	―	一部欠損	最大長 9.0	最大幅 14.4	最大厚 2.35	石材：緑色片岩　加工痕：打剝　使用痕：なし その他：水の影響で変色　重量：316.53 g	Ⅴ-1層
426	石器	ドリル	―	完形	最大長 5.65	最大幅 2.85	最大厚 1.95	石材：輝緑岩　加工痕：打剝、研磨　使用痕：なし 重量：33.04 g	Ⅴ-1層
427	石器	石皿	―	破片	最大長 (8.00)	最大幅 (11.90)	最大厚 (4.85)	石材：中粒砂岩　加工痕：研磨　使用痕：研磨 その他：風化　重量：542.05 g	Ⅴ-1層
428	石器	フレイク	―	完形	最大長 2.6	最大幅 2.6	最大厚 1.4	石材：チャート　加工痕：打剝　使用痕：なし 重量：7.98 g	Ⅴ-1層
429	石器	石器砕片	―	完形	最大長 1.9	最大幅 2.6	最大厚 1.0	石材：チャート　加工痕：打剝　使用痕：なし 重量：3.64 g	Ⅴ-1層
430	石材	―	―	完形	最大長 6.75	最大幅 4.90	最大厚 1.70	石材：中粒砂岩　加工痕：なし　使用痕：なし その他：風化、赤色顔料付着　重量：61.04 g	Ⅴ-1層
431	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。外反口縁。口唇部舌状	Ⅲ-1層
432	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を多く含む。三角形状。	Ⅳ-1層
433	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	泥質で石英や石灰質砂粒を含む。三角形状。	Ⅳ-1層
434	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を多く含む。三角形状。	Ⅳ-1層
435	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。直口口縁。宇佐浜式口縁。口唇部舌状。	Ⅳ-1層
436	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。直口口縁。宇佐浜式口縁。	Ⅳ-1層
437	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒をわずかに含む。宇佐浜式口縁で、直口口縁。	Ⅳ-1層
438	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。直口口縁。口唇部舌状。	Ⅳ-1層
439	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。外反口縁。口唇部舌状。	Ⅳ-1層
440	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。外反口縁。口唇部舌状。	Ⅳ-1層

表 15　楚辺親見原遺跡　遺物観察表 13

挿図番号	種類	器種	分類	部位/状態	法量(単位：cm) ( )は復元値			観察事項	出土地
					口径	器高	底径		
441	土器	壺	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。口唇部舌状。	Ⅳ-1層
442	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。外反口縁。口唇部を成形するが舌状。	Ⅳ-1層
443	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。外反口縁。口唇部を成形する舌状。外面に指ナデするが指頭圧痕顕著に残る。	Ⅳ-1層
444	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。外反口縁。口唇部成形するが舌状。	Ⅳ-1層
445	土器	鉢	型式不明	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。口唇部を平坦に成形し、口縁部端が膨れる。内面から外面に向けて焼成前の穿孔が施される。	Ⅳ-1層
446	土器	壺	型式不明	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石化質砂粒を含む。薄手。直口口縁。口唇部舌状。	Ⅳ-1層
447	土器	鉢	奄美系	耳	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。中が空洞の縦位の耳が施される。耳の上下に窪みあり。	Ⅳ-1層
448	土器	深鉢	尖底	底部	―	―	1.5	砂質で石英や白色粒を含む。端部が窪む。	Ⅳ-1層
449	土器	深鉢	くびれ平底	底部	―	―	(5.3)	泥質で石英や石灰岩砂粒をわずかに含む。	Ⅳ-1層
450	石器	敲磨石	―	完形	最大長 8.6	最大幅 5.5	最大厚 2.4	石材：安山岩　加工痕：なし　使用痕：敲打 重量：132.88ｇ	Ⅳ-1層
451	石器	敲磨石	―	完形	最大長 7.0	最大幅 4.8	最大厚 2.5	石材：閃緑岩　加工痕：敲打、研磨　使用痕：敲打、研磨 その他：転用有、転用前器種(磨製石斧)　重量：139.54ｇ	Ⅳ-1層
452	石器	敲磨石	―	破片	最大長 (10.65)	最大幅 (5.7)	最大厚 (4.25)	石材：中粒砂岩　加工痕：なし　使用痕：敲打、研磨 重量：281.61ｇ	Ⅳ-1層
453	石器	砥石	―	一部欠損	最大長 11.2	最大幅 (4.7)	最大厚 (3.95)	石材：中粒砂岩　加工痕：なし　使用痕：砥面 その他：風化　重量：214.16ｇ	Ⅳ-1層
454	石器	磨斧	―	破片	最大長 (7.45)	最大幅 (5.95)	最大厚 (2.0)	石材：輝緑岩　加工痕：打剝、敲打、研磨　使用痕：なし 重量：124.23ｇ	Ⅳ-1層
455	石器	敲磨石	―	破片	最大長 (7.65)	最大幅 (6.3)	最大厚 (3.45)	石材：チャート　加工痕：なし　使用痕：敲打 重量：193.57g	Ⅳ-1層
456	石器	スクレイパー	―	完形	最大長 2.8	最大幅 6.0	最大厚 1.4	石材：緑色片岩　加工痕：なし　使用痕：微細剝離 重量：30.85ｇ	Ⅳ-1層
457	石器	石皿	―	破片	最大長 (9.6)	最大幅 (12.8)	最大厚 (8.3)	石材：安山岩　加工痕：なし　使用痕：研磨 重量：1319.05ｇ	Ⅳ-1層
458	石器	台石	―	破片	最大長 11.8	最大幅 (10.55)	最大厚 (10.80)	石材：中粒砂岩　加工痕：なし　使用痕：敲打、研磨 重量：2074.33ｇ	Ⅳ-1層
459	石器	台石	―	破片	最大長 16.0	最大幅 (10.55)	最大厚 (7.65)	石材：中粒砂岩　加工痕：なし　使用痕：敲打、研磨 重量：1599.15ｇ	Ⅳ-1層
460	石器	RF	―	一部欠損	最大長 0.95	最大幅 2.6	最大厚 0.4	石材：珪質頁岩　加工痕：打剝　使用痕：微細剝離 重量：1.17ｇ	Ⅳ-1層
461	グスク土器	鍋	第1様式	口縁部	―	―	―	泥質で石英や石灰岩砂粒をわずかに含む。内湾口縁。方形状把手。	Ⅲ-1層
462	土器	深鉢	型式不明	胴部	―	―	―	泥質で黒色粒、赤色粒を含む。	Ⅲ-1層
463	グスク土器	鍋	第1様式	口縁部	―	―	―	砂質で滑石粒を多く含む。内湾口縁。口唇部を平坦に成形し口縁部端が膨らむ。	Ⅲ-2層
464	グスク土器	甕	第2様式	口縁部	―	―	―	泥質で石英や石灰岩砂粒をわずかに含む。外面は丁寧なナデ調整。内面胴部は指頭圧痕が残る。	Ⅲ-2層
465	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。口縁部断面間延びした三角形状。	Ⅳ-1層
466	土器	深鉢	把手	耳	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。横位の耳を貼り付ける。	Ⅳ-1層
467	土器	深鉢	仲原式	胴部	―	―	―	砂質で石英や白色粒、金雲母、黒色粒を含む。カヤウチバンタ式口縁か	Ⅳ-1層
468	土器	深鉢	尖底	底部	―	―	(0.4)	砂質で石英や石灰岩砂粒を多く含む。	Ⅳ-1層
469	土器	深鉢	くびれ平底	底部	―	―	(6.1)	砂質で石英や石灰岩砂粒を多く含む。	Ⅳ-1層
470	土器	深鉢	くびれ平底	底部	―	―	(6.5)	砂質で石英や石灰岩砂粒をわずかに含む。	Ⅳ-1層
471	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を多く含む。口縁部断面三角形状。	Ⅳ-1層
472	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や白色流を含む。口縁部断面三角形状。	Ⅳ-1層
473	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。口縁部断面間延びした三角形状。	Ⅳ-1層
474	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。口縁部断面三角形状。	Ⅳ-1層
475	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を多く含む。外反口縁。口唇部舌状。	Ⅳ-1層
476	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。外反口縁。口唇部平坦に成形。	Ⅳ-1層
477	土器	深鉢	弧状	耳	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。外耳は弧状となる。	Ⅳ-1層
478	グスク土器	鍋	第1様式	口縁部	―	―	―	泥質で器面あばた状。石英や石灰岩砂粒、赤色粒をわずかに含む。方形状把手。	Ⅰ層

表 16　楚辺親見原遺跡　遺物観察表 14

挿図番号	種類	器種	分類	部位/状態	法量(単位：㎝) ( )は復元値 口径	器高	底径	観察事項	出土地
479	石器	敲磨石	―	一部欠損	最大長 6.2	最大幅 5.95	最大厚 3.9	石材：輝緑岩　加工痕：なし　使用痕：敲打、研磨 重量：163.97ｇ	SL1 7層
480	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。三角形状。	Ⅰ層
481	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。直口口縁で口唇部舌状。胴部に焼成後と考えられる穿孔あり。	Ⅰ層
482	中国産白磁	碗	Ⅳ類	口縁部	―	―	―	玉縁口縁。胎土は灰白色。釉は灰白色。	Ⅰ層
483	中国産青磁	碗	Ⅵ類	口縁部	―	―	―	胎土は灰色。釉は暗オリーブ色。直口口縁。	Ⅲ-1層
484	石器	磨斧	―	完形	最大長 9.95	最大幅 5.3	最大厚 3.0	石材：はんれい岩　加工痕：敲打、研磨 使用痕：微細剥離、線条痕、着柄痕　重量：271.70ｇ	Ⅲ-1層

表 17　楚辺親見原遺跡　遺物集計表１

遺構出土遺物（土器・土製品）

地区	種類	土器																土製品		土器		合計
	分類	宇佐浜	仲原	阿波連浦	耳				底部						奄美系	弥生系	大洞系	円盤状製品	―	グスク	型式不明	
	遺構			下層	弧状	把手	縦耳	一条	平底	尖底	丸底	高台	くびれ平底	不明						型式不明		
A	SK1																				7	7
	SK2						1														10	11
B	SK1																				1	1
	SK2																				11	11
	SU1		2	2															1		136	141
	SL1																				8	8
	SP2																				1	1
	SP7																				3	3
	SP8																				1	1
	SP11																				2	2
	SP12																				1	1
	SP13																				1	1
	SP14																				5	5
	SP25																				1	1
	SP26																				4	4
	SP28																				2	2
	SP32																				1	1
	SP35																				9	9
C	SK1	1	2															1			73	77
	SK3																				1	1
	SL1																				1	1
D	SP10																			1		1
	SP11																			1		1
	SP12																			2		2
	SP20																				1	1
	SP46																			1		1
R3A	SI1	4	9	53	1	3		3	1	3	2			2	3						524	608
	SI2	1	1		2	2					2				1	1					129	139
	SI3									1											6	7
	SI4	2	6	115	1	1		3	1		2	1		10	24	13	5				1188	1372
	SI5		9	41			1		1		1			1	10	22					356	442
	SI4・SI5															1						1
	SI6	1	7	42				3		1	1				10	6					332	403
	SI4・5・6		4	88		3		3		1	2	1		3	40	8		1			835	989
	SK3		7	33		1					1			2	3						205	252
	SK4														1						13	14
	SK5																				14	14
	SK6					1															19	20
	SK7	7	3	32						3		1		2	7	1					159	215
	SK8	2		5		1						1	1	1	5						75	91
	SB1																			2	2	4
	SP8																				6	6
	SP10																				2	2
	SP15																			3	3	6
	SP21																			1		1
	合計	18	50	411	4	12	2	12	3	9	11	4	1	21	104	52	5	2	1	11	4148	4881

表 18　楚辺親見原遺跡　遺物集計表２

遺構出土遺物（石器）

地区	遺構	種類	石器														
		器種	打鏃				打鏃未成品	スクレイパー				ピエス・エスキーユ	RF	UF		粗割片	
		石質	安山岩	緻密質安山岩	黒曜石	チャート	チャート	片状砂岩	片岩	緑色千枚岩	緑色片岩	チャート	チャート	黒曜石	チャート	安山岩	角閃石ひん岩
B	SU1																
C	SL1																
	SI1		1													1	
	SI2																
	SI3																
	SI4			1	1	6	2		1		1	1	1	1	4		
	SI5						1			1						1	
	SI4・SI5																
	SI6					3	1									2	1
	SI4・5・6						1							1		1	
R3A	SK3					1											1
	SK4																
	SK5																
	SK6																
	SK7																
	SK8						1	2									
	SB1																
	SP13																
	SP15																
	合計		1	1	1	10	6	2	1	1	1	1	1	2	4	5	2

地区	遺構	種類	石器																
		器種	粗割片												フレイク				
		石質	中粒砂岩	片状砂岩	頁岩	緑色凝灰岩	チャート	石英	粘板岩	千枚岩	片岩	緑色千枚岩	緑色片岩	緑色岩	安山岩	ひん	角閃石ひん岩	輝緑岩	黒曜石
B	SU1																		
C	SL1																		
	SI1		14		4				1	1		1							
	SI2		3		2					1	1		5						
	SI3											2							
	SI4		9	3	4	1				3	8	4	3						1
	SI5		16	1	3			1	2	1	7	1	6	1					1
	SI4・SI5																		
	SI6		10		5				4	4	1	2	3				1		1
	SI4・5・6		9	3	11		3		7	4	5	1	3	1	3		3	2	
R3A	SK3		4		5						1	1	1		2				
	SK4																		
	SK5																		
	SK6		2									1							
	SK7		4		2				2		1								
	SK8		13	4	3			1	1		4		1			2			
	SB1																		
	SP13																		
	SP15		1		1														
	合計		85	11	40	1	3	2	17	14	28	13	22	2	5	2	4	2	3

表 19　楚辺親見原遺跡　遺物集計表３

遺構出土遺物（石器）

地区	遺構	種類	石器															
		器種	フレイク									チップ						
		石質	中粒砂岩	片状砂岩	頁岩	チャート	粘板岩	千枚岩	片岩	緑色千枚岩	緑色片岩	安山岩	緻密質安山岩	角閃石ひん岩	輝緑岩	黒曜石	中粒砂岩	片状砂岩
B	SU1																	
C	SL1																	
	SI1		4	6	1		1	2	2	4							8	
	SI2		4	2	3		2		1	3	2						9	
	SI3																	
	SI4		10	3	16	11	1	22	5	17	7		1	2	1	1	39	17
	SI5		2	2	2	2	1		4	1	3						6	2
	SI4・SI5					1												
	SI6		7		4	11	1	2	3		1				3	1	11	3
	SI4・5・6		15	1	11	15	6	7	15	18	1	4		1	4	1	19	1
R3A	SK3		2		2	1			1	3		1					1	
	SK4								1									
	SK5																	
	SK6																	
	SK7																2	
	SK8		4	1	1	4			1							1	2	2
	SB1																2	
	SP13																	
	SP15		1		1													
	合計		49	15	41	45	12	33	33	46	14	5	1	3	8	4	99	25

地区	遺構	種類	石器																
		器種	チップ										石核			磨斧		
		石質	頁岩	古生代石灰岩	緑色凝灰岩	チャート	石英	粘板岩	千枚岩	片岩	緑色千枚岩	緑色片岩	緑色岩	黒曜石	チャート	石英	輝緑岩	緑色片岩	緑色岩
B	SU1																	1	
C	SL1																		
	SI1		1					4	3	1	8	1	1				1		1
	SI2		3			1		2										1	
	SI3								1										
	SI4		16			28	1	1	4	22	12	12	3	1	6	1		1	
	SI5		10		1	1	1	4	6	3	6		1		2		1		1
	SI4・SI5			1															
	SI6		8			10		4	5	1	2	1			1				
	SI4・5・6		24			11	4	8	18	11		4	1		2				
R3A	SK3					2		1		4		1							
	SK4					1	1												
	SK5																		
	SK6																		
	SK7						1									1			
	SK8		2							2		2			1		1		
	SB1																		
	SP13										1								
	SP15																		
	合計		64	1	1	54	8	24	37	44	29	21	6	1	12	2	3	3	2

表 20　楚辺親見原遺跡　遺物集計表４

遺構出土遺物（石器）

地区	遺構	種類	石器														
		器種	磨斧未成品		打斧		敲磨石				石皿			石皿？		石皿もしくは砥石	台石/石皿
		石質	輝緑岩	緑色片岩	中粒砂岩	片岩	輝緑岩	中粒砂岩	緑色千枚岩	緑色岩	安山岩	角閃石ひん岩	中粒砂岩	中粒砂岩	細粒砂岩	中粒砂岩	ひん
B	SU1																
C	SL1						1										
	SI1						1							1	1	1	
	SI2			1													
	SI3							1								1	
	SI4		1			1	1	13				1	1				
	SI5							4					1				
	SI4・SI5																
	SI6							3									
	SI4・5・6						1	4		1							
R3A	SK3						1	5			1						
	SK4																
	SK5								1								
	SK6																
	SK7							3									
	SK8							6		1							1
	SB1																
	SP13														1		
	SP15				1			1									
	合計		1	1	1	1	5	40	1	2	1	1	2	1	2	2	1

地区	遺構	種類	石器															
		器種	台石	台石？	砥石		磨面の有する石器片					石器未成品			石器破片			
		石質	中粒砂岩	角閃石ひん岩	中粒砂岩	凝灰岩	輝緑岩	中粒砂岩	緑色千枚岩	緑色片岩	緑色岩	チャート	緑色千枚岩	緑色岩	安山岩	緻密質安山岩	ひん	石英斑岩
B	SU1																	
C	SL1																	
	SI1		1	1			1				3							
	SI2																	
	SI3																	
	SI4		1			1		4	1				1			1		1
	SI5									1		1					1	
	SI4・SI5																	
	SI6							1				1			1			
	SI4・5・6				1		1	1			1	2		1				
R3A	SK3						1	1				1			2			
	SK4																	
	SK5																	
	SK6						1											
	SK7				1													
	SK8		1		1													
	SB1																	
	SP13																	
	SP15																	
	合計		3	1	3	1	4	7	1	1	4	5	1	1	3	1	1	1

表 21　楚辺親見原遺跡　遺物集計表５

遺構出土遺物（石器）

地区	遺構	種類	石器															合計
		器種	石器破片														不明	
		石質	輝緑岩	黒曜石	中粒砂岩	片状砂岩	頁岩	チャート	石英	粘板岩	千枚岩	片岩	緑色千枚岩	緑色片岩	緑色岩	不明	緑色岩	
B	SU1																	1
C	SL1																	1
	SI1		1		7	2	4			2	1	1	2		1			103
	SI2				7		5	1	1	2		1	1	5				69
	SI3												2					7
	SI4			1	2	1	7	15	1		3	3	4	3				384
	SI5				10	1	5	7	1	1	1	3	3	3		1		149
	SI4・SI5																	2
	SI6				49	4	3	8			5		5	2				199
	SI4・5・6		1		16	2	13	24		9	3	8	3	5				357
R3A	SK3				6	3	1	1	2	1	1							62
	SK4																	3
	SK5																	1
	SK6				2												1	7
	SK7				3													20
	SK8				7		2					1		1	1			78
	SB1				2			1										5
	SP13																	2
	SP15																	6
	合計		2	1	111	13	40	57	5	15	14	17	20	19	2	1	1	1456

遺構出土遺物（石材）

地区	遺構	種類	石材												
		石質	安山岩	角閃石ひん岩	石英斑岩	輝緑岩	細粒砂岩	マンガンノジュール	中粒砂岩	中粒砂岩？	片状砂岩	石灰質砂岩	頁岩	琉球石灰岩	凝灰岩
	SI1						6121.27		1111.18				2.84	0.15	
	SI2						1821.73		69.53		11.08	0.88			42.99
	SI3		2.64				1619.57		8.42						
	SI4		0.36	149.16	527	24.19	15166.11	13.26	2392.23		610.26		131.8	58.01	
	SI5						5354.77		140.32				0.46	179.2	
	SI6						3646.65		445.09				31.96	60.95	
	SI4・5・6						505.24		213.54					2804.75	4.69
	SK3						1120.36		99.53		82.13			7.61	
	SK4								1.59						
R3A	SK6			11.9											
	SK7			230.43			723.79	1.4	20.62	28.24	46.83		194.7		
	SK8		129.63	172.34			833.08		448.23			9.49		485.2	
	SB1								120.18				2.77		
	SP8			1.1			22.58		1.1						
	SP11								1.63						
	SP13						1.63								
	SP14														
	SP15											17.73			
	SP22								19.15						
	合計		132.63	564.93	527	24.19	36936.78	14.66	5092.34	28.24	750.3	28.1	364.5	3595.87	47.68

表 22　楚辺親見原遺　遺物跡集計表６

遺構出土遺物（石材）

地区	種類 / 石質 / 遺構	石材												合計 (g)
		緑色凝灰岩	軽石	礫岩	チャート	石英	粘板岩	千枚岩	片岩	緑色千枚岩	緑色片岩	緑色岩	不明	
R3A	SI1		7			42.44				17.23				7302.11
	SI2	3.2	1.04			2.77		3.62						1956.84
	SI3					3.69								1634.32
	SI4	0.31	25.03	434.34		27.93	3.24	20.48	42.97	69.39	66.63	93.07	13.86	19869.6
	SI5					20.55			36.57	3.13	5.79			5740.79
	SI6		18.79			24.74			2.25					4230.43
	SI4・5・6	3.6				12.99	7.25							3552.06
	SK3		16.89			719.08		69.1				194.02		2308.72
	SK4													1.59
	SK6								1.53					13.43
	SK7		0.92		21.01	58.18	3.4	112.04		414.33	113.49		128.44	2097.85
	SK8	14.29	9.7			10.75				1.11				2113.82
	SB1					4.04								126.99
	SP8													24.78
	SP11													1.63
	SP13													1.63
	SP14								1.95					1.95
	SP15					12.42								30.15
	SP22													19.15
	合計	21.4	79.37	434.34	21.01	939.58	13.89	205.24	85.27	505.19	185.91	287.09	142.3	51027.84

遺物包含層出土遺物（土器・土製品・カムィヤキ・中国産陶磁器・沖縄産陶器・羽口）

地区	種類 / 分類 / 層序	土器																		奄美系
		カヤウチバンタ	荻堂	室川	宇佐浜	仲原	阿波連浦下層	耳							底部					
								弧状	把手	縦耳	一条	こぶ状	ピーナッツ状	一	平底	尖底	丸底	高台	くびれ平底	
A	III-1層																			
	III-2層					1		1								1				
	IV-1層			4	18	75	12		3			1			2	3			1	1
	IV-2層	1				2														
	V-1層	2	1	105	191	209	25	12	2		2	1			23	29	3	2		
	V-2層			3	4	10			1							1				
B	III-1層					5		1												
	IV-1層	1		12	8	52	13	4	7		1	1		1	1	5			1	
	IV-2層					4					1									
D	III-1層				1	1														
	III-2層					2	2													
	IV-1層				11	8	3	1	1							1			2	
	IV-2層				1	1			1							1				
R3A	III-1層					7	1		1						2				1	
	III-2層					2														
	IV-1層			2	4	16	10	1	1		1					6		1	1	1
	IV-2層			3	13	59	76	10	17	2	14	2	1			5	15	1		3
	V-1層			2	6	40	28	2	10		4					4	1		1	2
	合計	4	1	131	257	494	170	32	44	2	23	5	1	1	28	56	19	4	7	7

地区	種類 / 分類 / 層序	土器			土製品		土器				カムィヤキ		中国産白磁				中国産青磁	その他 中国産陶磁器	沖縄産 無釉 陶器	羽口	合計
		弥生系	板付式	大洞系	円盤状製品	一	グスク			型式不明	A類	B群	II類	IV類	V類	C群	VI類	褐釉			
							第1	第2	型式不明												
A	III-1層									1							1				2
	III-2層																				3
	IV-1層									2											122
	IV-2層									2											5
	V-1層	1		1						14											623
	V-2層									2											21
B	III-1層									1											7
	IV-1層									12											119
	IV-2層																				5
D	III-1層	1				1	1			1											6
	III-2層						1	1	2		1									1	10
	IV-1層									1										1	29
	IV-2層																				4
R3A	III-1層						1			3		1		1		1			1		20
	III-2層								1	11				1							15
	IV-1層				1	1				2			1		1			1			51
	IV-2層		1	1	2					23											248
	V-1層	2	1	1	2	1				12											119
	合計	4	2	3	5	3	3	1	3	87	1	1	1	2	1	1	1	1	1	2	1409

表 23　楚辺親見原遺跡　遺物集計表７

遺物包含層出土遺物（石器）

地区	層序	石器															
種類		石器															
器種		打鏃			打鏃未成品	スクレイパー		ラウンド・スクレイパー	ドリル	RF	UF		粗割片				
石質		チャート	石英	片岩	チャート	中粒砂岩	緑色片岩	輝緑岩	輝緑岩	珪質頁岩	黒曜石	チャート	角閃石ひん岩	輝緑岩	流紋岩	中粒砂岩	片状砂岩
A	Ⅲ-1層																
	Ⅴ-1層	1										1					
B	Ⅳ-1層						1			1							
R3A	Ⅲ-1層				1									1		11	6
	Ⅲ-2層															1	
	Ⅳ-1層	2	1	1		1		1				2				3	1
	Ⅳ-2層	1			1		1				2	3	1	1		26	3
	Ⅴ-1層						1		1		1	1			1	4	1
	合計	4	1	1	2	1	3	1	1	1	3	7	1	2	1	45	11

地区	層序	石器																	
種類		石器																	
器種		粗割片							フレイク										
石質		頁岩	チャート	粘板岩	千枚岩	片岩	緑色千枚岩	緑色片岩	緻密質安山岩	輝緑岩	中粒砂岩	黒曜石	片状砂岩	頁岩	チャート	石英	粘板岩	千枚岩
A	Ⅲ-1層																		
	Ⅴ-1層																		
B	Ⅳ-1層																		
R3A	Ⅲ-1層	4		2	4	2	1	3		1	4		1	5	4	1	2	7
	Ⅲ-2層	1			1	1	1				1				2		2	
	Ⅳ-1層			3	3	9	2	1			3			2	3	1	7	10
	Ⅳ-2層	8	2	2	3	59	2	34	1		3			2	18			
	Ⅴ-1層	6		6	25	16	7	3		2	2	1		4	6		8	14
	合計	19	2	13	36	87	13	41	1	3	13	1	1	13	33	2	19	31

地区	層序	石器															
種類		石器															
器種		フレイク			チップ										石核		磨斧
石質		片岩	緑色千枚岩	緑色片岩	緻密質安山岩	輝緑岩	黒曜石	片状砂岩	頁岩	チャート	粘板岩	千枚岩	緑色千枚岩	緑色片岩	チャート	石英	輝緑岩
A	Ⅲ-1層																
	Ⅴ-1層																
B	Ⅳ-1層																1
R3A	Ⅲ-1層	3	7	1		1		1		4	1		1		1		2
	Ⅲ-2層			1						1				1	2	1	
	Ⅳ-1層	1		1				1		1	1		1	1	1		3
	Ⅳ-2層	47		17	1		1			6					8	1	6
	Ⅴ-1層	7	4	11					7	1	1	17	1		2		3
	合計	58	11	31	1	1	1	2	7	13	3	17	3	2	14	2	15

地区	層序	石器														
種類		石器														
器種		磨斧			磨斧未成品			打斧	敲磨石							
石質		はんれい岩	緑色片岩	緑色岩	輝緑岩	閃緑岩	緑色片岩	緑色片岩	安山岩	角閃石ひん岩	輝緑岩	閃緑岩	中粒砂岩	中粒砂岩, 石英	礫質砂岩	チャート
A	Ⅲ-1層	1														
	Ⅴ-1層			1												
B	Ⅳ-1層								1			1	1			1
R3A	Ⅲ-1層			1	2			1			1		4			
	Ⅲ-2層				1								4		1	
	Ⅳ-1層		1	1				1	1				8			
	Ⅳ-2層			1			1				3		35	1		1
	Ⅴ-1層		1	2		1				1			13			1
	合計	1	2	6	3	1	1	2	2	1	4	1	65	1	1	3

表 24　楚辺親見原遺跡　遺物集計表８

遺物包含層出土遺物（石器・石材）

地区	種類	石器														
	器種	敲磨石		石皿			石皿？			石皿もしくは砥石			台石		砥石	砥石？
	石質															
	層序	緑色片岩	緑色岩	安山岩	中粒砂岩	石灰質砂岩	角閃石ひん岩	細粒砂岩	中粒砂岩	輝緑岩	中粒砂岩	片状砂岩	安山岩	中粒砂岩	中粒砂岩	中粒砂岩
A	Ⅲ-1層															
	Ⅴ-1層												1			
B	Ⅳ-1層			1										2	1	
R3A	Ⅲ-1層					1									3	
	Ⅲ-2層						1									
	Ⅳ-1層		1	3											1	
	Ⅳ-2層		2		3					1	1				6	1
	Ⅴ-1層	1	1		2			1	1			1	2			
	合計	1	4	4	5	1	1	1	1	1	1	1	3	2	11	1

地区	種類	石器														
	器種	磨面の有する石器片					石器未成品				石器破片					
	石質															
	層序	輝緑岩	中粒砂岩	緑色凝灰岩	緑色片岩	緑色岩	緑色凝灰岩	チャート	粘板岩	緑色千枚岩	緻密質安山岩	輝緑岩	中粒砂岩	頁岩	緑色凝灰岩	チャート
A	Ⅲ-1層															
	Ⅴ-1層															
B	Ⅳ-1層															
R3A	Ⅲ-1層	3	1			1		1	1			1	7	2		2
	Ⅲ-2層	1	1	1	1			1		1						3
	Ⅳ-1層	2			1			2				2				1
	Ⅳ-2層	5	4	1	1	3		1			1		21	19	1	19
	Ⅴ-1層	3	2		1	1	1					1	1	6		5
	合計	14	8	2	4	5	1	5	1	1	1	4	29	27	1	30

地区	種類	石器								石製品			合計
	器種	石器破片						不明		石鍋	分銅形石製品	不明	
	石質												
	層序	粘板岩	千枚岩	片岩	緑色千枚岩	緑色片岩	緑色岩	安山岩	不明	滑石	滑石	片状砂岩	
A	Ⅲ-1層												1
	Ⅴ-1層												4
B	Ⅳ-1層												11
R3A	Ⅲ-1層	5	10		2	3				1			135
	Ⅲ-2層			1	1				1		1		36
	Ⅳ-1層		4	1		3				1			101
	Ⅳ-2層	3	20	101	12	13	2	2				1	546
	Ⅴ-1層	6	27	15	1	1							263
	合計	14	61	118	16	20	2	2	1	2	1	1	1097

地区	種類	石材													
	石質														
	層序	安山岩	ひん	角閃石ひん岩	石英斑岩	輝緑岩	閃緑岩	深成岩類	細粒砂岩	中粒砂岩	片状砂岩	石灰質砂岩	礫質砂岩	泥岩	頁岩
R3A	Ⅲ-1層	1360.43	193.3	4.35	48.14	0.68			353.41	3550.27	71.99	1478.08	40.14		293.14
	Ⅲ-2層	457.59	81.42			2.35		30.19	438.7	2877.59	138.83		14.27		415
	Ⅳ-1層	466.89	156.71	73.67	2.63	20.56		22.1	153.28	4880.1	633.38	31.51	129.97	40.5	401.37
	Ⅳ-2層	419.59	94.04	1567.11		346.78	36.41		930.49	18413.54	451.1	28.93			1089.08
	Ⅴ-1層	1056		212.19	398.41	588.13			2728.69	8477.57	444.39	99.07	5.18	367.21	494.21
	合計	3760.5	525.47	1857.32	449.18	958.5	36.41	52.29	4604.57	38199.07	1739.69	1637.59	189.56	407.71	2692.8

地区	種類	石材											
	石質												
	層序	琉球石灰岩	古生代石灰岩	凝灰岩	凝灰岩？	緑色凝灰岩	軽石	礫岩	チャート	石英	粘板岩	千枚岩	片岩
R3A	Ⅲ-1層	311.61	6.24				197.36		254.87	270.22	112.05	236.3	61.01
	Ⅲ-2層								0.3	143.11	117.63	586.067	48.96
	Ⅳ-1層		13.89	4.25		1.26		46.15	6.63	436.26	435.85	1761.43	191.67
	Ⅳ-2層	499.03		276.74	24.33	0.48	6.38	883.14	175.63	445.57	1252.79	1267.92	447.44
	Ⅴ-1層	32.32		1.49		12.11	34.14	27.03		125.89	64.26	263.34	
	合計	842.96	20.13	282.48	24.33	13.85	237.88	956.32	437.43	1421.05	1982.58	4115.057	749.08

地区	種類	石材							合計
	石質								(g)
	層序	砂質片岩	石英片岩	緑色千枚岩	緑色千枚岩？	緑色片岩	緑色岩	不明	
R3A	Ⅲ-1層		135.68	927.48		8.29	153.38	155.18	10223.6
	Ⅲ-2層			815.31		122.58	159.92		6449.817
	Ⅳ-1層			642.33		805.84	203.71	2.92	11564.86
	Ⅳ-2層	2.58		456.87	118.95	2824.12	587.38	100.42	32746.84
	Ⅴ-1層			388.54		246.21			16066.38
	合計	2.58	135.68	3230.53	118.95	4007.04	1104.39	258.52	77051.50

２　楚辺徳地原遺跡

楚辺徳地原遺跡Ｂ･Ｃ･Ｄ･Ｅ･Ｆ･Ｇでは、基本層序のⅠ・Ⅱ層、Ⅵ・Ⅶ層が分布し、迫地形でⅢ層からⅤ層を確認した。

各調査区では弥生並行期及びグスク時代、近世から近代の遺構を検出した。近世から近代、戦後の耕作、基地造成によりそれ以前の遺物包含層はほとんど消失していたことから、遺構はⅠ及びⅡ層掘削後にⅥ層またはⅦ層上面から検出した。

迫地形が確認できた部分ではⅢからⅤ層が確認でき、Ⅲ-1 層掘削後にⅢ-2 層上面でグスク時代の遺構を確認した。

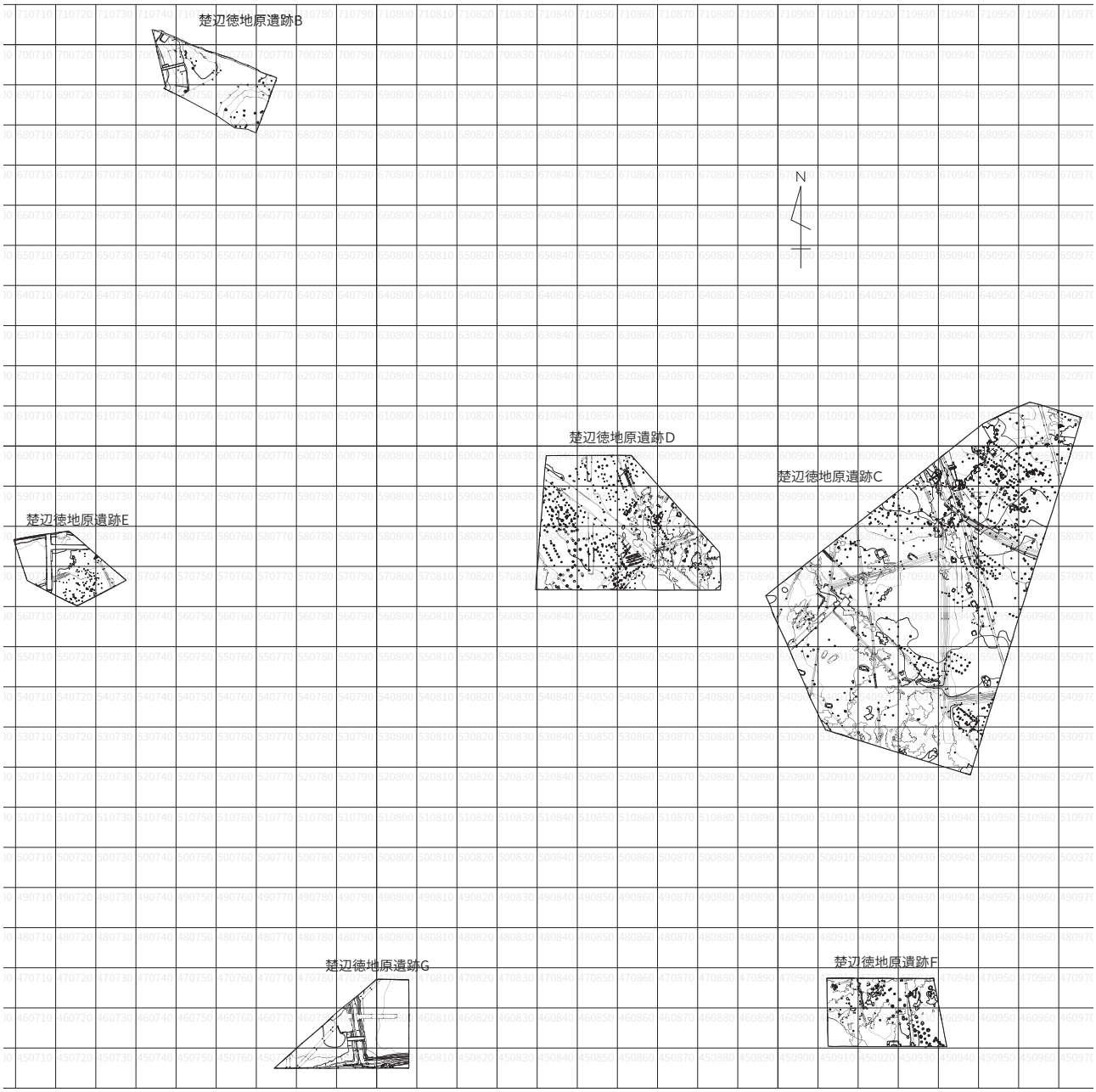


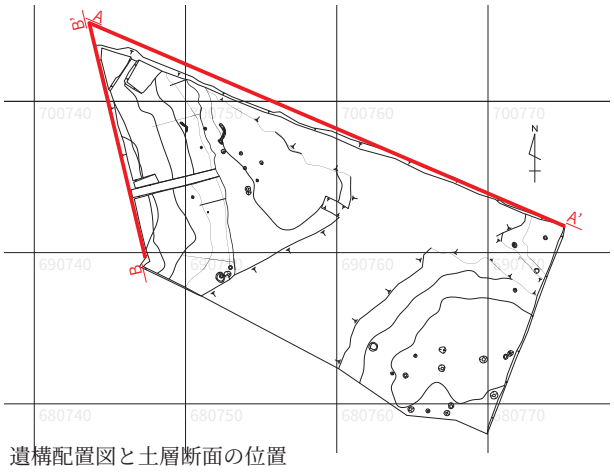
図 55 楚辺徳地原遺跡　平面図

楚辺徳地原遺跡 B 区

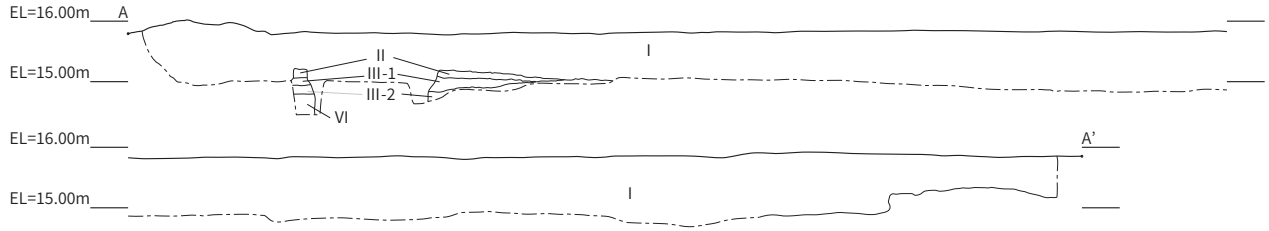
楚辺徳地原遺跡 B 区では、基本層序の Ⅰ 層と迫地堆積のⅢからⅤ層を確認した。遺跡は基地造成に伴う影響を受けており、多くの部分で遺構が確認できなかった。

遺構はⅢ -2 層上面よりグスク時代のピット及び円弧状遺構を検出した。

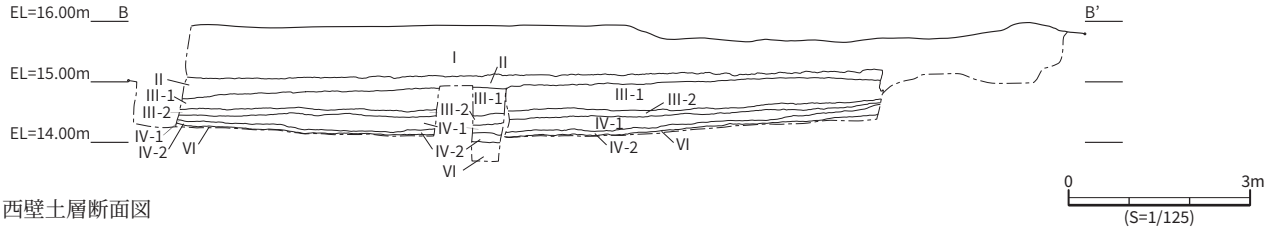
遺物は迫地形から縄文時代後・晩期の室川式や弥生並行期の仲原式、阿波連浦下層式、くびれ平底の底部、グスク土器、須恵器、石器・石材が遺構や迫地形から出土している。



遺構配置図と土層断面の位置



北壁土層断面図



西壁土層断面図

図 56　B 区　土層断面図

楚辺徳地原遺跡 C 区

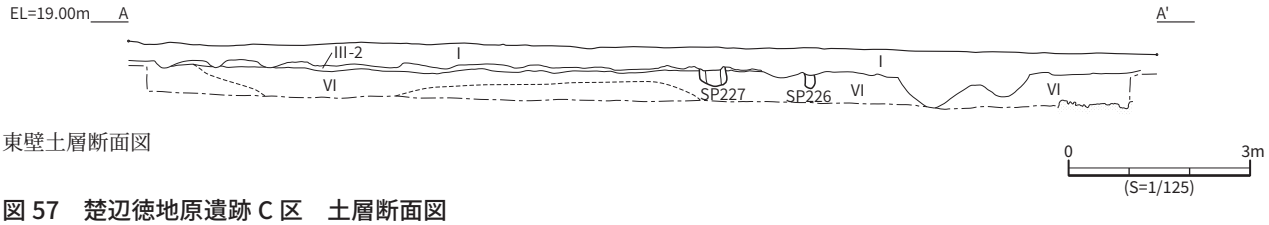
楚辺徳地原遺跡 C 区では、基本層序の Ⅰ・Ⅱ 層を確認した。

遺構はⅥ層とⅦ層上面で弥生平行期の遺構を、Ⅵ層上面でグスク時代のピットを検出した。

グスク時代のピットは掘立柱建物跡に伴うものと考えられ、建物のプランを 76 棟分確認した。

遺物は、縄文時代後・晩期の室川式や宇佐浜式、弥生並行期の仲原式や阿波連浦下層式、奄美系、弥生系、アカジャンガー式、フェンサ下層式、グスク土器、カムィヤキ、中国産白磁、石器・石材が遺構内から出土している。

遺構配置図と土層断面の位置



東壁土層断面図

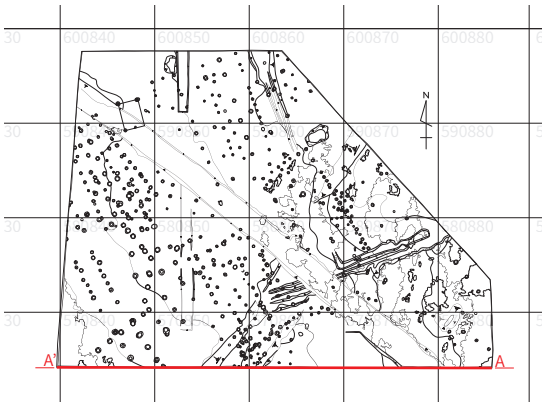
図 57　楚辺徳地原遺跡 C 区　土層断面図

楚辺徳地原遺跡 D 区

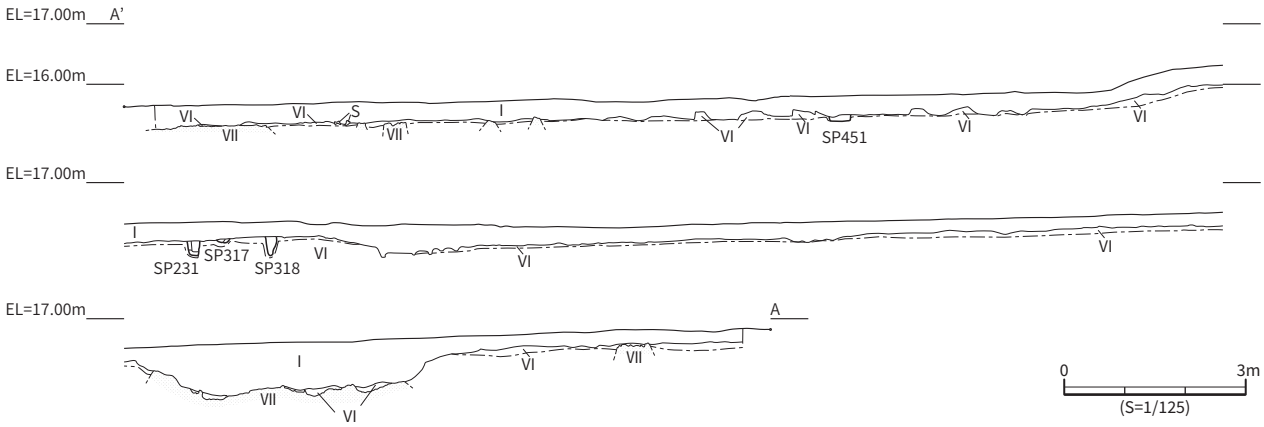
楚辺徳地原遺跡 D 区では、基本層序の Ⅰ 層を確認した。

遺構はⅥ層とⅦ層上面でグスク時代のピットを検出した。ピットは掘立柱建物跡に伴うものと考えられ、プランを 34 棟分確認した。

遺物は弥生並行期の阿波連浦下層式、グスク土器、カムィヤキ、中国産磁器、羽口、中世須恵器と考えられる陶器、石器・石材が遺構内から出土している。



遺構配置図と土層断面の位置



南壁土層断面図

図 58　楚辺徳地原遺跡 D 区　土層断面図

楚辺徳地原遺跡 E 区

楚辺徳地原遺跡 E 区では、基本層序の Ⅰ からⅢ層を確認した。

遺構はⅥ層上面でグスク時代と考えられるピットを検出した。ピットは柱痕が確認できるものは少なく、単層のものが多かった。

遺物は平安並行期のくびれ平底の底部、グスク土器、沖縄産陶器、本土産近代磁器、石器・石材が遺構や包含層から出土した。なお、一部の遺構で検出時には近世・近代の遺構としたが、調査の過程で現代遺物の出土が確認されたことから戦後の耕作に伴うものと判断して遺構として取り扱わないこととした。

遺構配置図と土層断面の位置

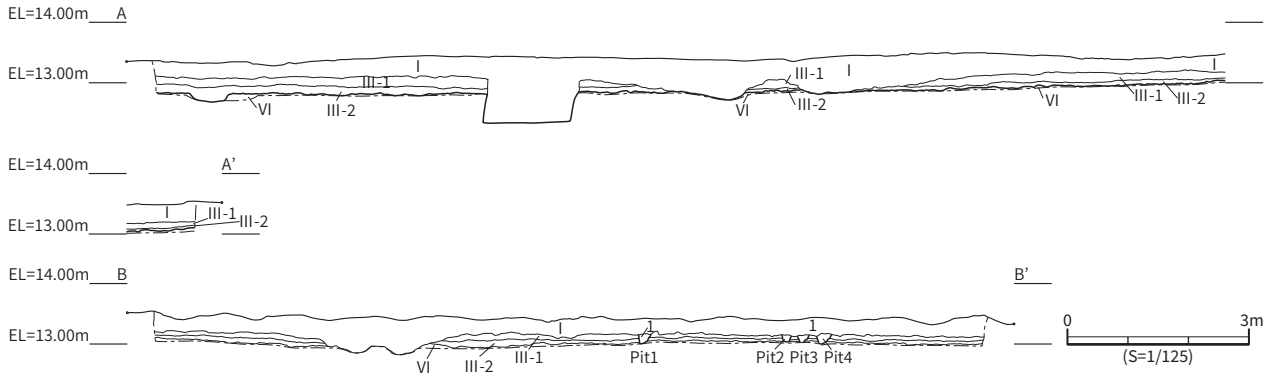


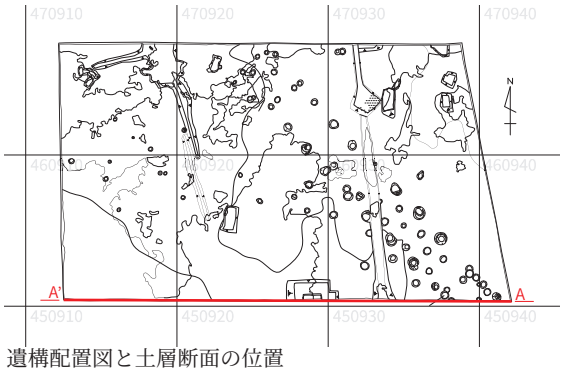
図 59　楚辺徳地原遺跡 E 区　土層断面図

楚辺徳地原遺跡Ｆ区

楚辺徳地原遺跡Ｆ区では、基本層序のⅠ・Ⅱ層を確認した。

遺構はⅥ層とⅦ層上面でグスク時代のピットを検出した。ピットは掘立柱建物跡に伴うものと考えられ、プランを 16 棟分確認した。

遺物はグスク時代の土器や中国産陶磁器、石器・石材が遺構内から出土している。



遺構配置図と土層断面の位置

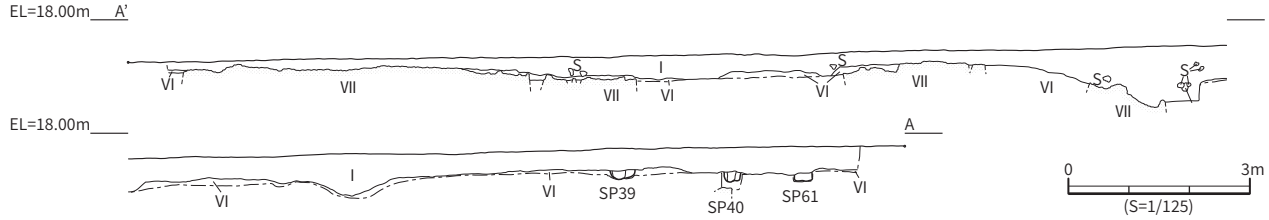


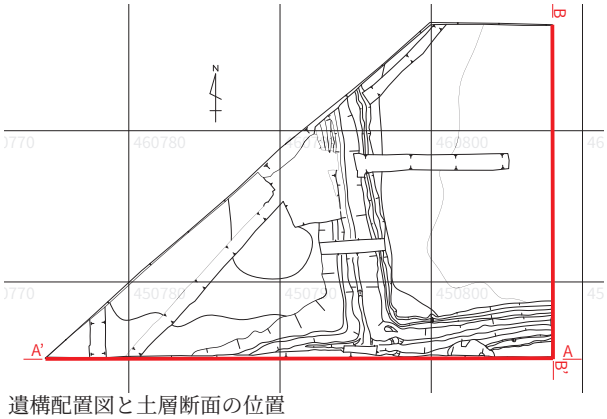
図 60　楚辺徳地原遺跡Ｆ区　土層断面図

楚辺徳地原遺跡Ｇ区

楚辺徳地原Ｇ区は、基本層序のⅠ・Ⅱ層を確認した。調査区は戦後の造成時に東側の高所を削平し、その土砂を西側に埋め平坦にしたと考えられる。

遺構は近世・近代の溝状遺構を確認した。

遺物はカムイヤキや中国産磁器、本土産陶磁器、沖縄産陶器が遺構内から出土した。



遺構配置図と土層断面の位置

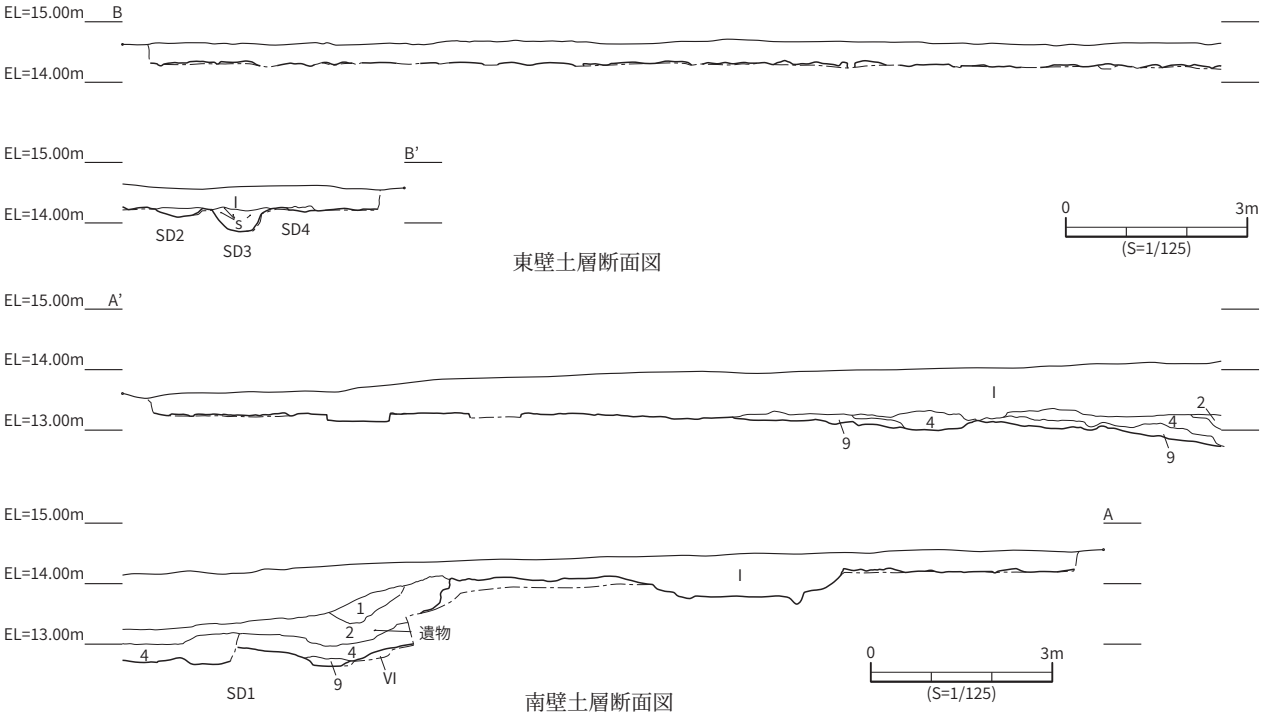


図 61　楚辺親見原遺跡Ｇ区　土層断面図

時期ごとの遺構の概要

先史時代（縄文晩期～弥生並行期）

楚辺徳地原遺跡Ｃ区で弥生並行期の竪穴住居跡を５基、土坑を５基を検出した。

遺構はⅡ層掘削後のⅥ層またはⅦ層上面で検出した。竪穴住居跡は 600940、590940、600950 に集中しており、一部が石灰岩の岩盤であるⅦ層上面に構築されている。

各遺構からはグスク土器が出土しているが、消失してしまったグスク時代包含層からの混入とみられる。

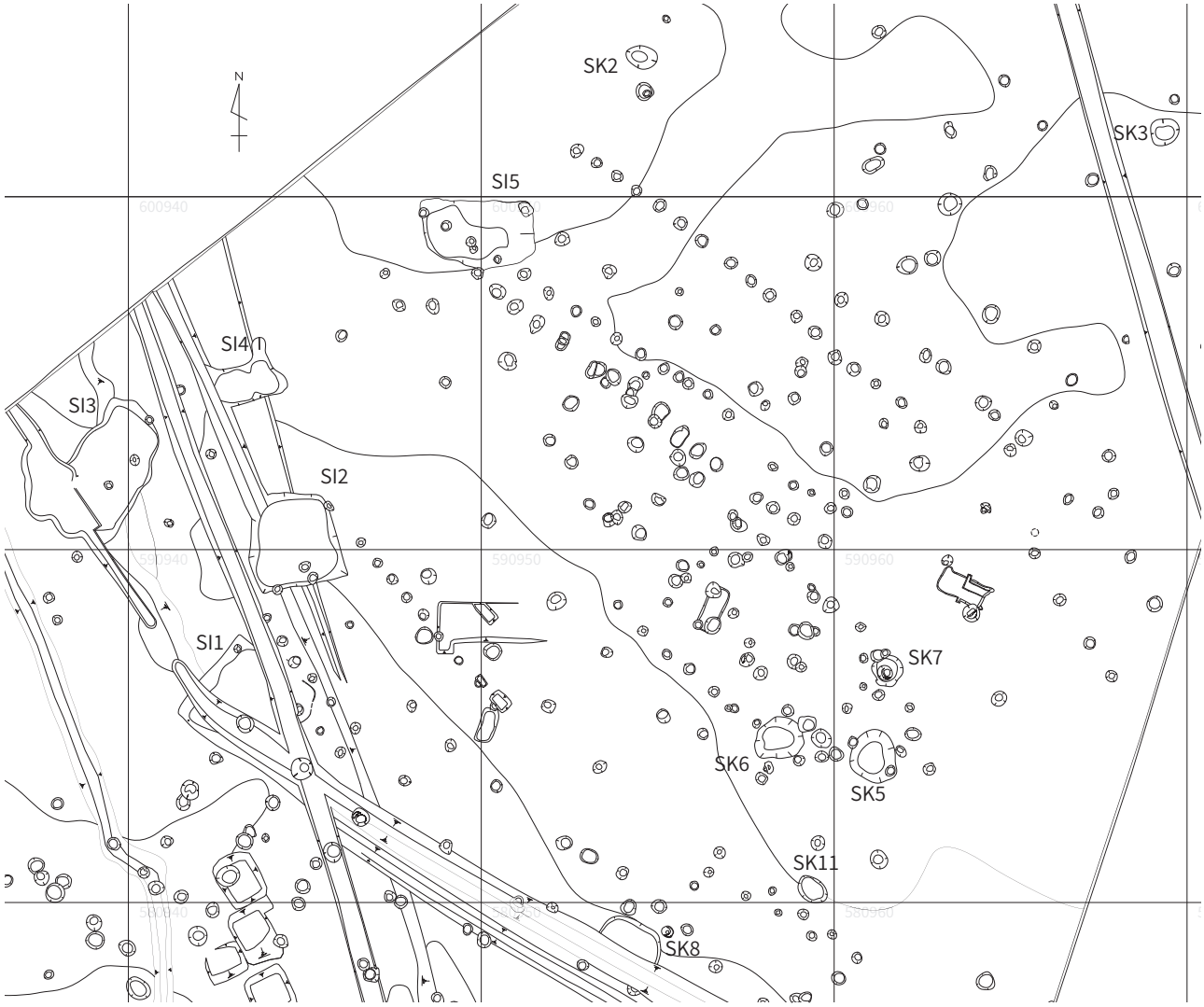


図 62　Ｃ区　縄文時代の遺構配置図

SI1は580940に位置し、Ⅵ層及びⅦ層上面で検出した。長軸３m、短軸２.５mとなる。平面形は方形になると考えられるが、後世の造成等により上部及び西側半分が削平されており判然としない。遺構の覆土は褐色（7.5YR4/4）または暗褐色（7.5YR3/4）のシルトが主体である。

住居跡の構築面は２層及び３層にあたり、２層上面が使用面となる。１層に土器や石器等の遺物や獣骨、骨製品、焼土などが多く堆積していることから、竪穴住居廃絶後は廃棄土坑として利用されたと考えられる。また１層と２層の境目に炭・焼土が集中していたが、炉跡などは確認できなかった。

遺物は土器、石器・石材、骨製品が出土している。土器は阿波連浦下層式が最も多く、他に室川式、宇佐浜式、仲原式、奄美系、弥生系が出土している。（490）は阿波連浦下層式の深鉢で、口縁部に縦位の耳を貼り付け頸部がゆるい「く」の字状に屈曲する。（497）は弥生系で口唇部のやや上部に突帯を貼り付け刻みを施す。（498）は骨製品で骨錘としては小型のため、装飾品の可能性もある。

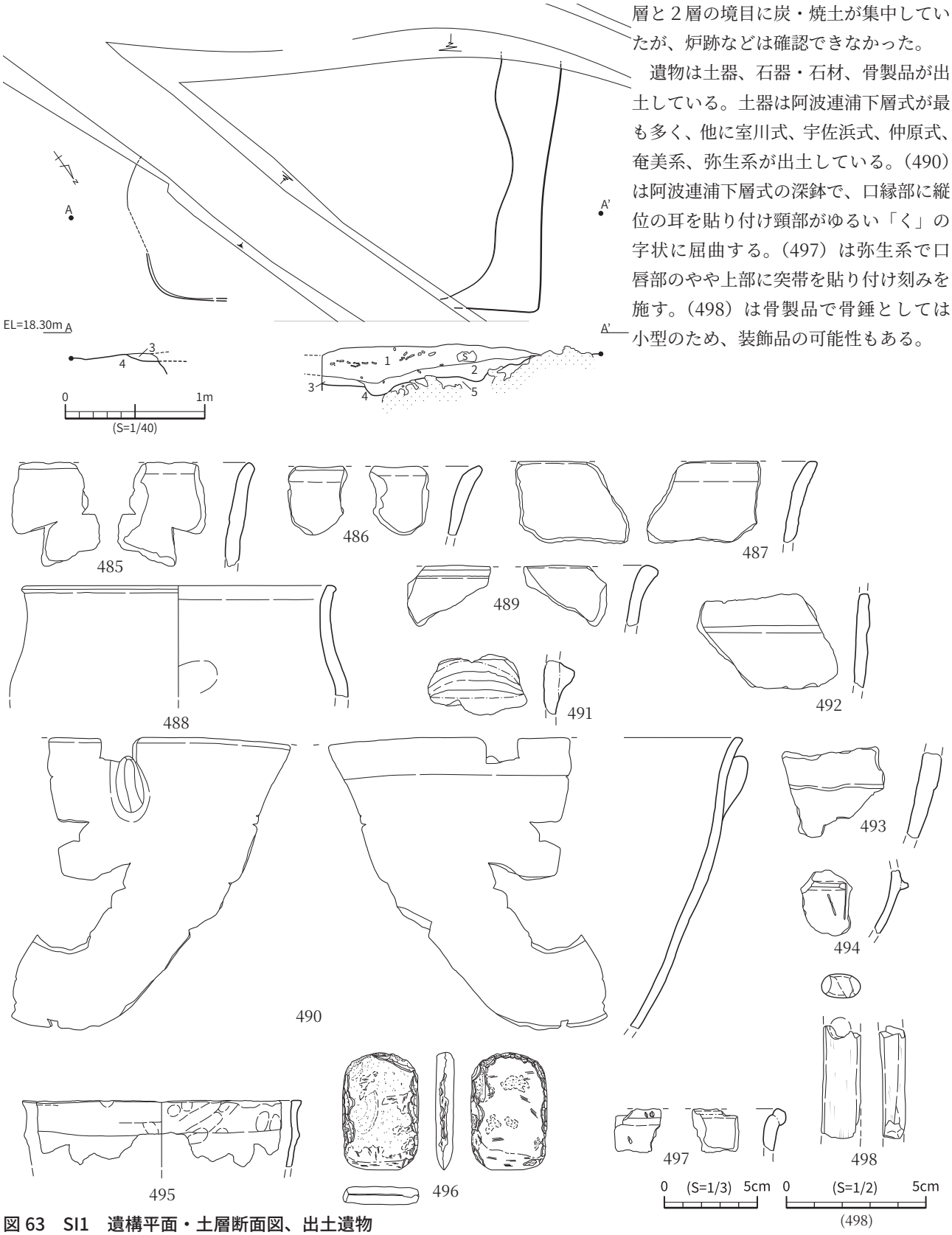
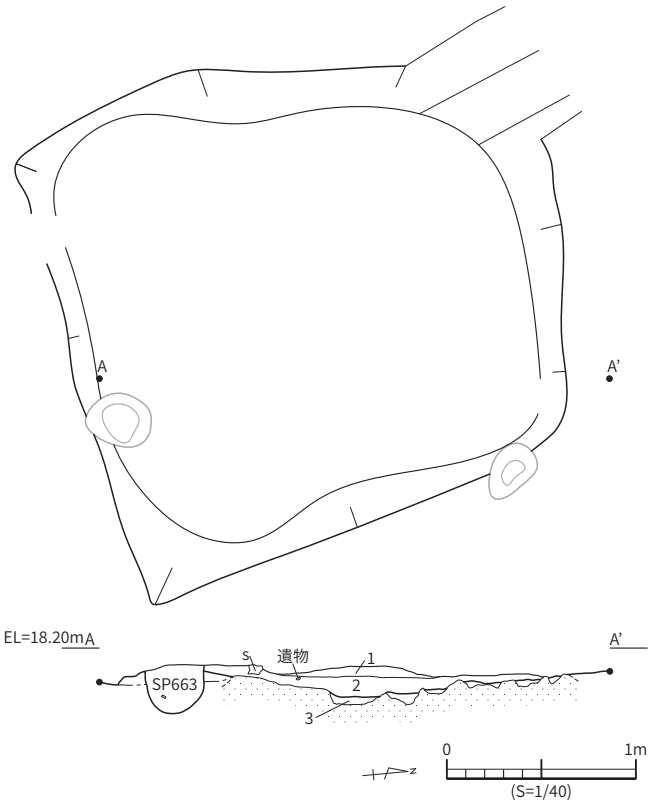


図 63　SI1　遺構平面・土層断面図、出土遺物

SI2 は 590940 に位置しⅥ層及びⅦ層上面で検出した。遺構は方形で、長軸 2.4 m、短軸 2 mとなる。北西部分はⅦ層を掘り込んで形成されている。後世の造成等より遺構の大部分が削平されている。遺構の覆土は暗褐色（7.5YR3/3）のシルト～極細砂が主体である。

住居の構築面は２層にあたり、上面が使用面となっている。１層からは土器や石器、獣魚骨、炭、焼土が出土することから、住居廃絶後は廃棄土坑となったと考えられる。

遺物は土器、石器・石材、獣骨が出土している。土器は阿波連浦下層式がもっと多く、他に室川式、宇佐浜式、仲原式が出土している。（500）は阿波連浦下層式の深鉢で、仲原式のカヤウチバンタ式口縁の特徴を持つが、口唇部を平坦に成形し、口頸部が屈曲することから阿波連浦下層式とした。出土した獣骨については、P90 に詳細を記載する。



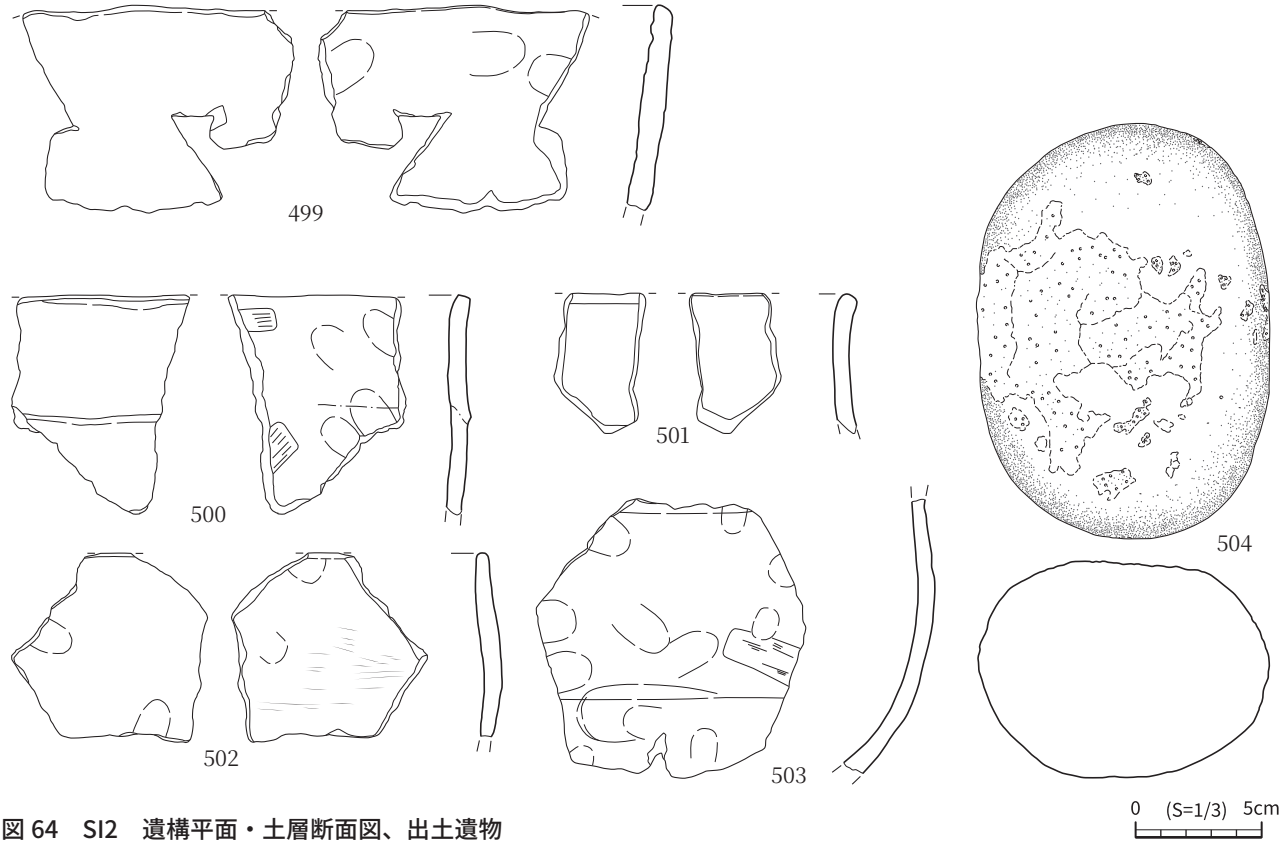
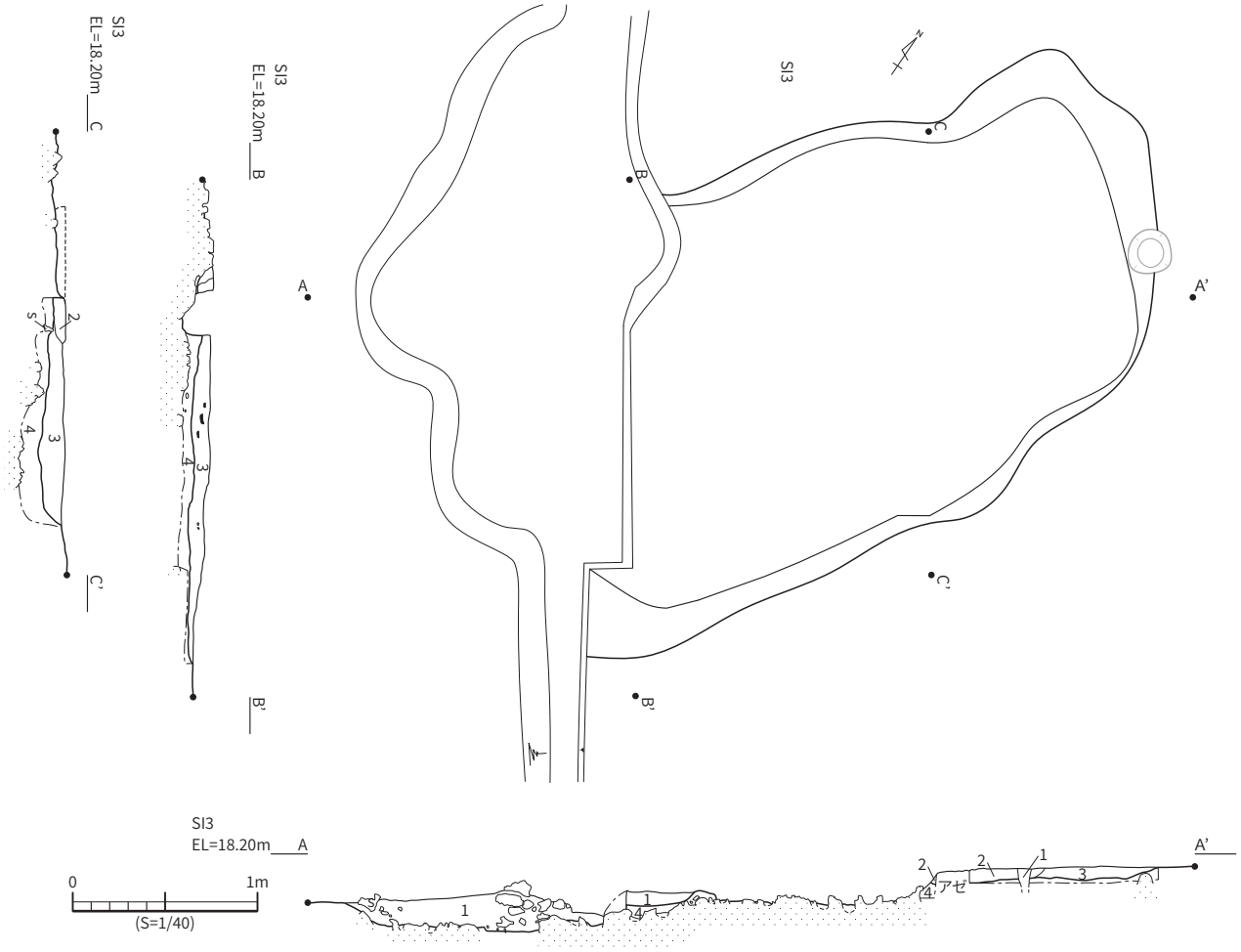


図 64　SI2　遺構平面・土層断面図、出土遺物

SI3 は 590930 に位置し、Ⅵ層及びⅦ層の上面で検出した。長軸 3.8 m、短軸２mとなる。平面形は方形になると考えられるが、後世の造成等により上部及び南西側半分が削平されており判然としない。北西部分はⅦ層を掘り込んで形成されている。遺構覆土褐色(7.5YR4/3)の粘土～シルトが主体である。

遺構は２層が全面的に赤色に変色していることから被熱の可能性があるが、後世の削平により堆積のほとんどが消失しているため詳細は不明である。

遺物は土器や石器が出土している。土器は小破片のため型式は不明である。(505)は中粒砂岩製の敲磨石である。



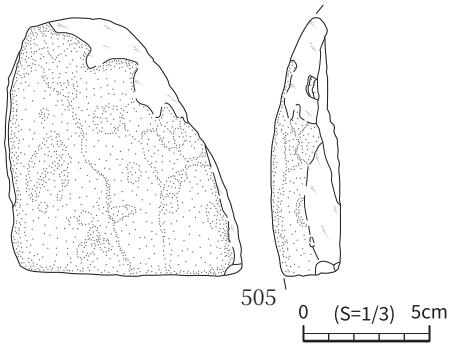


図 65　SI3　遺構平面・土層断面図、出土遺物

SI4 は 590940 に位置しⅥ層及びⅦ層上面で検出した。長軸は 1.8 m、短軸は１mとなる。遺構は方形になると考えられるが後世の造成等により上面及び西側が削平されているため判然としない。遺構覆土は暗褐色(7.5YR4/3)のシルト～極細砂が主体である。

住居の構築面は２層にあたり上面が使用面となる。

遺物は土器が出土しており、仲原式の深鉢と壺、阿波連浦下層式、グスク土器の底部が出土している。(506)は仲原式の深鉢で、口縁部は内湾気味に直行し、口唇部は成形されるが平坦とはならず波状となる。(507)は壺で胎土や口唇部等の特徴から仲原式とした。グスク土器が数点出土しているが上部からの混入と考えられる。

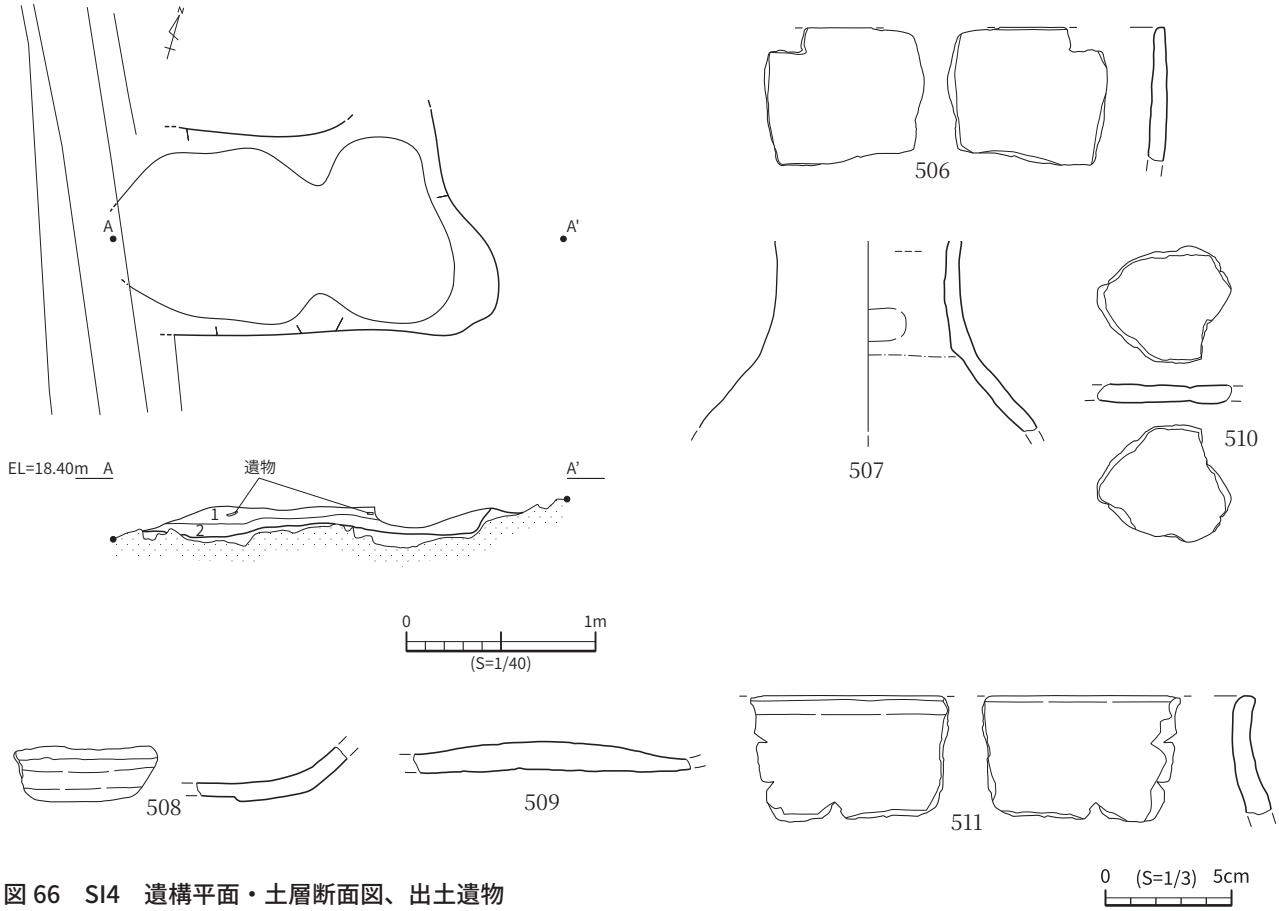


図 66　SI4　遺構平面・土層断面図、出土遺物

SI5 は 600940 に位置し、Ⅶ層上面で検出した。長軸は３m、短軸は 1.8 mとなる。遺構は方形になると考えられるが後世の造成等により上面が削平されているため判然としない。遺構覆土は暗褐色(7.5YR3/4)のシルト～極細砂が主体である。

住居跡の構築面は１層と考えられるが小破片の土器や焼土が出土することから廃絶後の廃棄土層の可能性もある。遺物は阿波連浦下層式土器が出土するが、その他の土器は小破片のため型式は不明である。

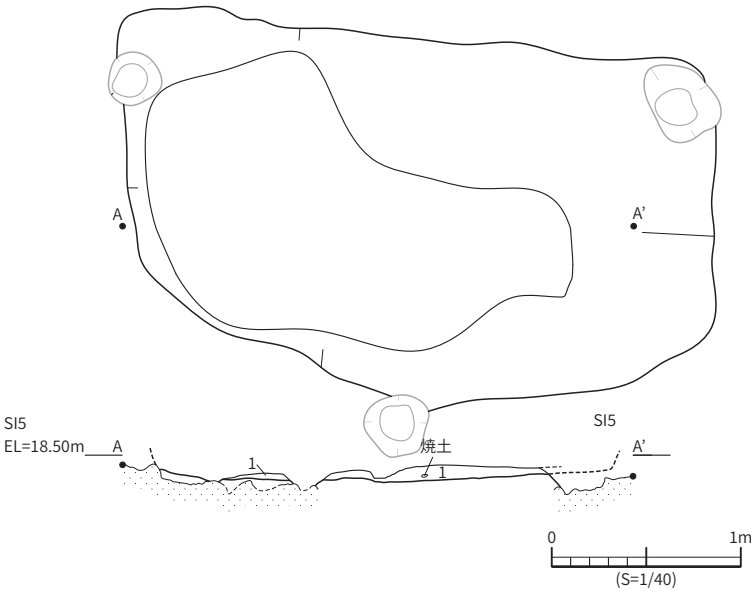


図 67　SI5　遺構平面・土層断面図、出土遺物

竪穴住居跡から出土した獣魚骨

徳地原Ｃ遺跡のSI １、SI ２、SI ４から出土した魚類は、メジロザメ、ハリセンボン、ハタ科、ナンヨウブダイ、モンガラカワハギ科、フエフキダイ科の魚類であった。特に、ハリセンボンは現生標本と比べるとその大きさは歴然としており、大型のものが多く出土している。宮城弘樹、樋泉岳二らは貝塚時代前３期～後２期をサンゴ礁と深く結びついたライフスタイルである「ウミアッチャー世」と表現しており（宮城 2008、樋泉 2011）徳地原Ｃ遺跡においても、内湾礁池に多いフエフキダイやハリセンボンが多く採取されていることを鑑みると、サンゴ礁域に依存した生活であったことが考えられる。

また、陸上動物としてイノシシが出土しており、同時代の遺跡と同様の傾向を示しているが、出土したイノシシの大半が火熱を受けた痕が認められた。その内、肩甲骨、上腕骨、脛骨？は、骨の色調が黒色または黒褐色で、縦位方向への裂開がみられ焼骨の特徴を有する。これらは、骨になった後に火熱を受けて焼骨になったものである。一方、別破片の上腕骨については、骨の色調が白色で横位方向への細かいひび割れが入る火葬骨の特徴を有する。火葬骨は、骨に軟部組織（水分）が残った状態で火熱を受けると生じるため、この上腕骨は軟部組織がついた状態で火熱を受けたと考えられる。

火熱を受けたイノシシについては、この他に伊江島の阿良貝塚での出土が２点報告されている。徳地原Ｃ遺跡、阿良貝塚ともに検出時の状況が不明であるため、詳細な検討を加えることが困難である。そのため、獣骨に火熱を加えることの真意は不明であるが、今後の資料増加を待ちつつ検討課題としたい。

表 25　SI1、SI2、SI4 の魚骨・獣骨集計表

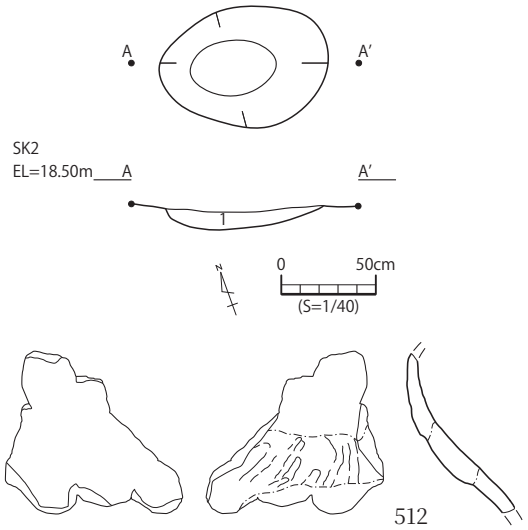
遺構	分類	部位	残存状況	成長	左右	数	計
SI1 1層	サメ類(メジロ)	歯	―	―	不明	1	1
SI1 2層	ハリセンボン科	歯骨	―	―	―	1	1
SI2 1層	イノシシ	上腕骨	遠位部(滑車付近)	火熱	不明	1	18
		大腿骨	遠位骨端のみ？	―	不明	1	
	ハタ科	角骨	―	―	R	1	
		方骨	―	―	R	1	
	ブダイ科(ナンヨウブダイ)	下咽頭骨	―	―	―	2	
		歯骨	―	―	R	1	
		上咽頭骨	―	―	R	2	
		前上顎骨	―	―	L	2	
	ブダイ科	歯	―	―	不明	3	
		主鰓蓋骨	―	―	L	1	
		前上顎骨	―	―	L	1	
		方骨	―	―	L	1	
	モンガラカワハギ科	尾舌骨	―	―	―	1	
SI2 2層	イノシシ	肩甲骨	骨幹部～遠位端	火熱	L	1	26
		上腕骨	遠位骨端のみ	火熱	L	1	
			骨幹部	火熱	不明	1	
		大腿骨	近位部	火熱	R	1	
		脛骨？	骨幹部	火熱	不明	1	
		中足骨	第2	火熱	L	1	
	ブダイ科(イロブダイ)	歯骨	―	―	L	1	
	ハリセンボン科	棘	―	―	―	19	
SI4 2層	イノシシ	中手骨(II)	近位端～遠位部	―	R	1	3
	フエフキダイ科	主上顎骨	―	―	L	2	

土坑は５基検出した。

SK2は610960に位置しVI層上面で検出した。長軸0.7 m、短軸は0.6 mの円形で、深さは0.4 mとなる。遺構覆土は暗褐色（7.5YR3/3）の粘土～シルトが主体である。

１層及び２層からは土器や石器に交じり炭や獣魚骨が出土していることから、廃棄土坑と考えられる。

遺物は土器と石器・石材が出土している。土器は阿波連浦下層式、型式不明の壺が出土している。（512）は胎土に金雲母を含む。石器は輝緑岩製の敲磨石（513）が出土している。



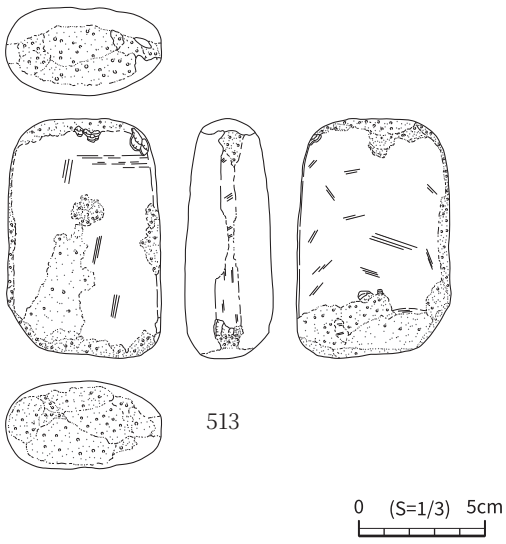
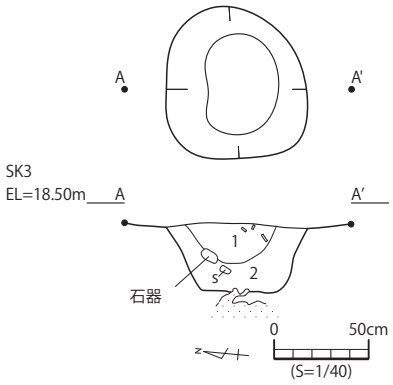


図 68　SK2　遺構平面・土層断面図、出土遺物

SK3 は 610950 に位置し、VI層上面で検出した。長軸は 0.8 m、短軸は 0.6 mの円形となり、深さは 0.9 mとなる。遺構覆土は褐色(7.5YR4/3)の粘土～シルトが主体である。１層に焼土や小破片の土器を含むことから廃棄土坑の可能性がある。

遺物は阿波連浦下層式(514)や丸底の底部(516)、グスク土器(515)が出土しているが、グスク土器は上層からの混入と考えられる。



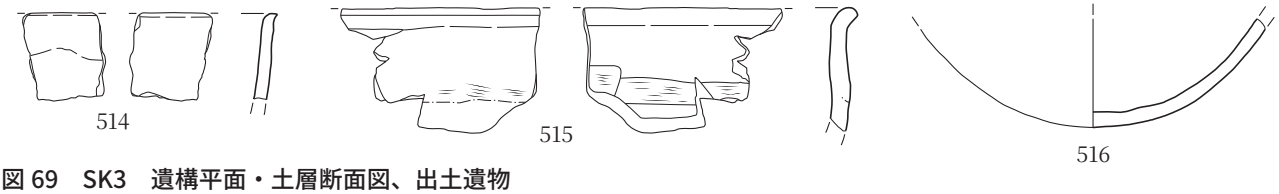
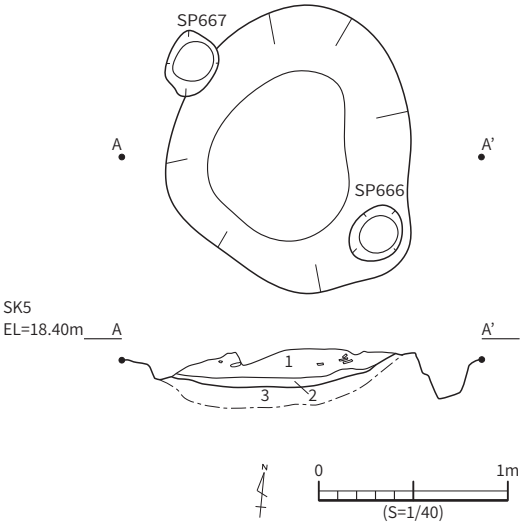


図 69　SK3　遺構平面・土層断面図、出土遺物

SK5 は 590960 に位置しVI層上面で検出した。長軸 0.7 m、短軸は 0.7 mの円形となる。遺構覆土は暗褐色(7.5YR3/3)のシルト～極細砂が主体である。１層に焼土や小破片の土器を含むことから廃棄土坑の可能性がある。

遺物は土器や石器・石材が出土している。土器は仲原式や阿波連浦下層式が出土している。(517)は阿波連浦下層式で口唇部を平坦に成形し内部はあまり調整されず指頭圧痕が残る。



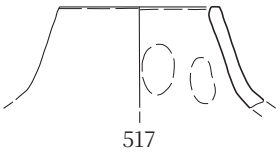
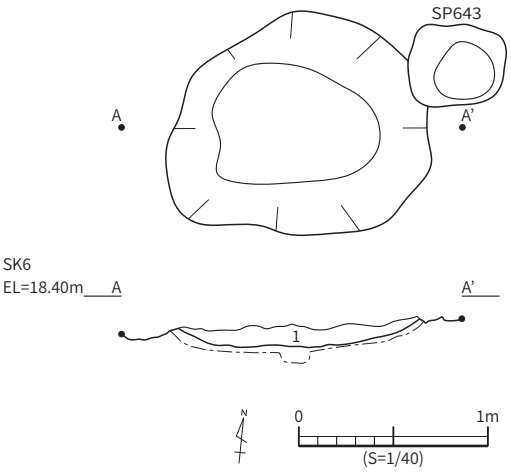


図 70　SK5　遺構平面・土層断面図、出土遺物

SK6 は 590950 に位置し、VI層上面で検出した。遺構は長軸は 1.5 m、短軸は 1.2 mとなる。平面形は方形になると考えられるが、後世の造成等により上面が削平されているため判然としない。遺構覆土は褐色(7.5YR4/3)のシルト～極細砂が主体である。

遺物は土器や石器・石材が出土している。土器は宇佐浜式の深鉢の口縁部(518)が出土している。



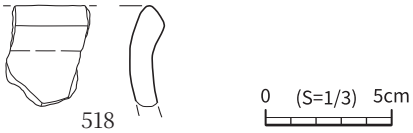
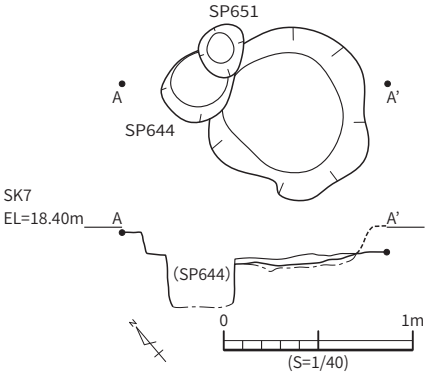


図 71　SK6　遺構平面・土層断面図、出土遺物

SK7 は 590960 に位置しⅥ層上面で検出した。長軸は 0.8 m、短軸は 0.8 mとなる。遺構は後世の造成等により上面及び西側が削平されているため平面形は判然としない。遺構覆土は褐色(10YR4/4)のシルト～極細砂が主体である。

遺物は土器や石器が出土している。土器は尖底の底部が出土している(519)が、その他は小破片のため型式は不明である。



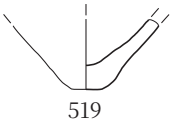
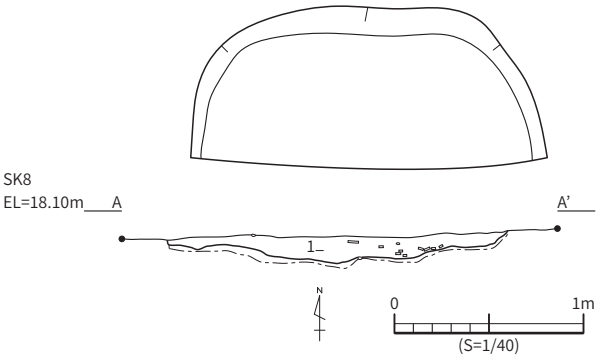


図 72　SK7　遺構平面・土層断面図、出土遺物

SK8 は 580950 に位置し、Ⅵ層上面で検出した。長軸は 1.8 m、短軸は 0.8 mとなる。平面形は長方形になると考えられるが、後世の造成等により上面及び南側が削平されているため判然としない。遺構覆土は褐色(7.5YR4/4)のシルト～極細砂が主体である。

遺物は土器や石器・石材が出土している。土器は仲原式や阿波連浦下層式(523・524)、耳(525)が出土している。仲原式はカヤウチバンタ式口縁の口縁部(520)や胴部と考えられるもの(521・522)が出土している。



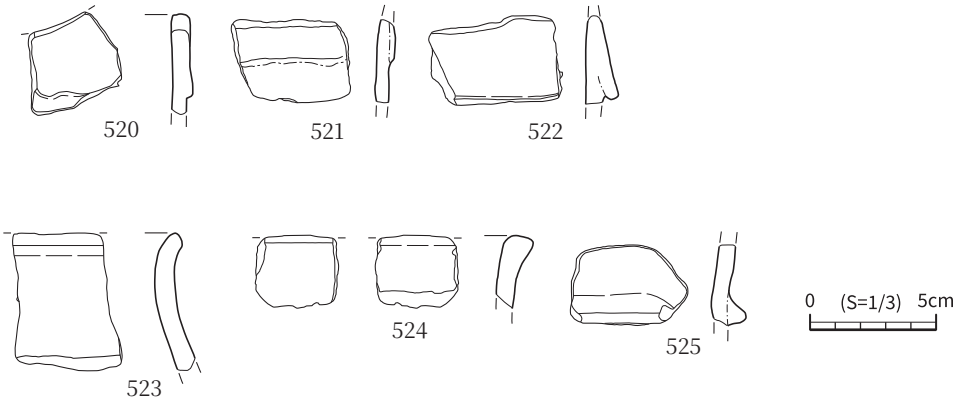
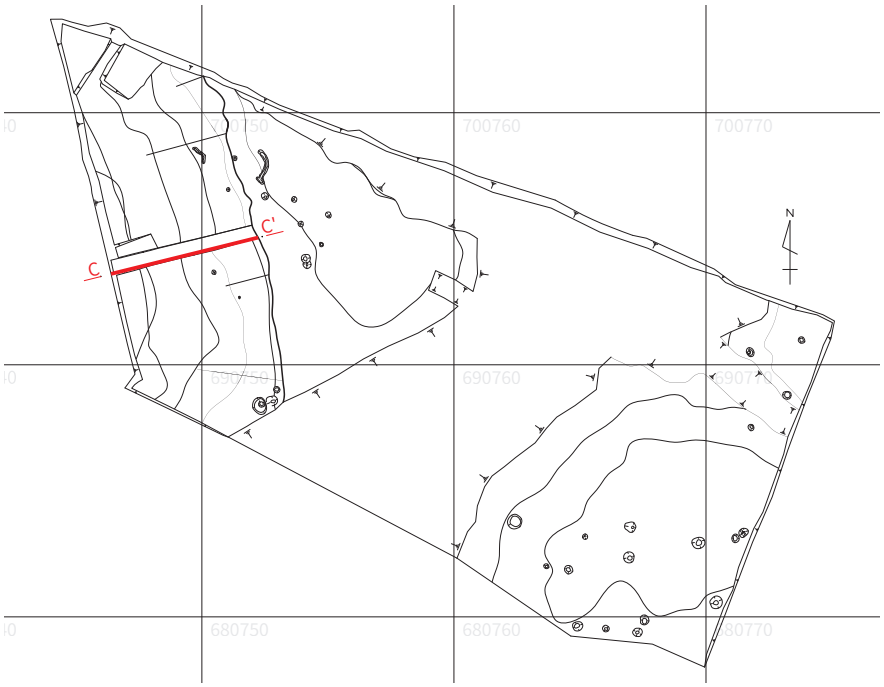
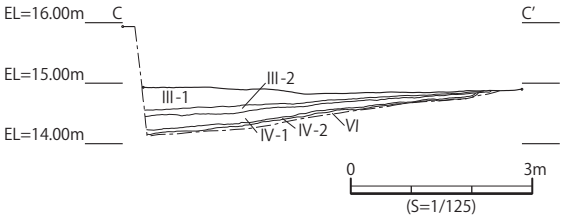


図 73　SK8　遺構平面・土層断面図、出土遺物

迫地形　迫地形はＢ区の西側で確認でき、東から西に向けて深くなっている。土層堆積はⅢ･Ⅳ層が確認でき、Ⅲ層は水平堆積、Ⅳ層はレンズ状堆積となっている。

遺物は各層から土器、須恵器、石器・石材が出土している。土器は室川式、仲原式、阿波連浦下層式、くびれ平底の底部（527）、グスク土器が出土している。室川式は口唇部の平坦を意識し肥厚させるもので、口縁部と外面に施文されるもの（526）が出土している。（529）は頸部が「く」の字状に屈曲し口唇部に成形がみられるが徹底されず舌状となることから仲原式とした。





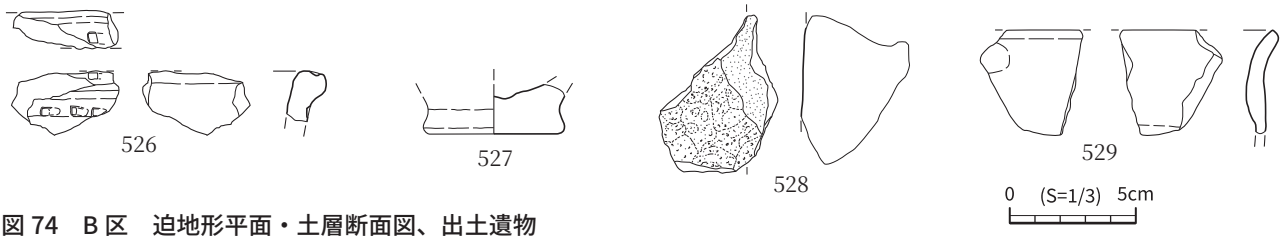


図 74　Ｂ区　迫地形平面・土層断面図、出土遺物

表 26　楚辺徳地原遺跡Ｂ区　遺物集計表

地区	遺構・層序	種類	土器							須恵器	合計
		分類	室川	仲原	底部			グスク	型式不明		
					平底	尖底	くびれ平底	型式不明			
B	SX2								1		1
	SP2								1		1
	SP19							1			1
	SP24							1			1
	SP35								2		2
	SP36							2	1		3
	Ⅲ-1層		1	5	3	2	2	2			15
	Ⅲ-2層			1	2	1		1		1	6
	Ⅳ-1層		1			2					3
	Ⅳ-2層						1				1
	合計		2	6	5	5	3	7	5	1	34

グスク時代

Ｂから Ｆ 区で掘立柱建物跡に伴うピットや植栽痕、円弧状遺構を検出した。特に掘立柱建物跡のプランを多く確認した。プランは他の調査事例から主屋と高床式倉庫を想定し、それぞれ A 群・B 群とした。さらに平面形や中柱等の特徴が確認できるものについては遺構プランを次のように分類した。

A 群（主屋）

A1　柱筋が整い、桁行（長軸）が７m以上、中柱が３本以上となり、両端を梁行と共有するもの。

A2　柱筋が整い、桁行（長軸）が７m以上、中柱が３本以上となり、両端を梁行と共有しないもの。

A3　柱筋が整い、桁行（長軸）が７m以下、中柱が２本となり、両端を梁行と共有するもの。

A4　柱筋が整い、桁行（長軸）が７m以下、中柱が２本となり、両端を梁行と共有しないもの。

A5　柱筋が整い、間仕切りがあるもの。

A6　柱筋が整わないもの。

B 群（高床式倉庫）

B1　４本柱建物

B2　６本柱建物

B3　９本柱建物

B4　８本柱建物

なお、調査時にピットでないと判断したものやプランを確認できなかったものは記録を行っていない。また、資料整理時にあらためて図面類を確認し、プランが復元可能なものについては、平面図や断面図に一点鎖線で示したが、それ以外のものは記載していない。

楚辺徳地原遺跡 B 区

楚辺徳地原遺跡 B 区でピットや円弧状遺構を検出した。遺構はⅡ層及びⅢ-1 層掘削後のⅥ層上面で検出した。ピットは掘立柱建物跡のプランに伴うものでプランは２棟確認した。また、ピットは１つピットに複数の柱痕が確認できるものがあり、建て替えや柱の位置を微調整したことによるものと考えられる。

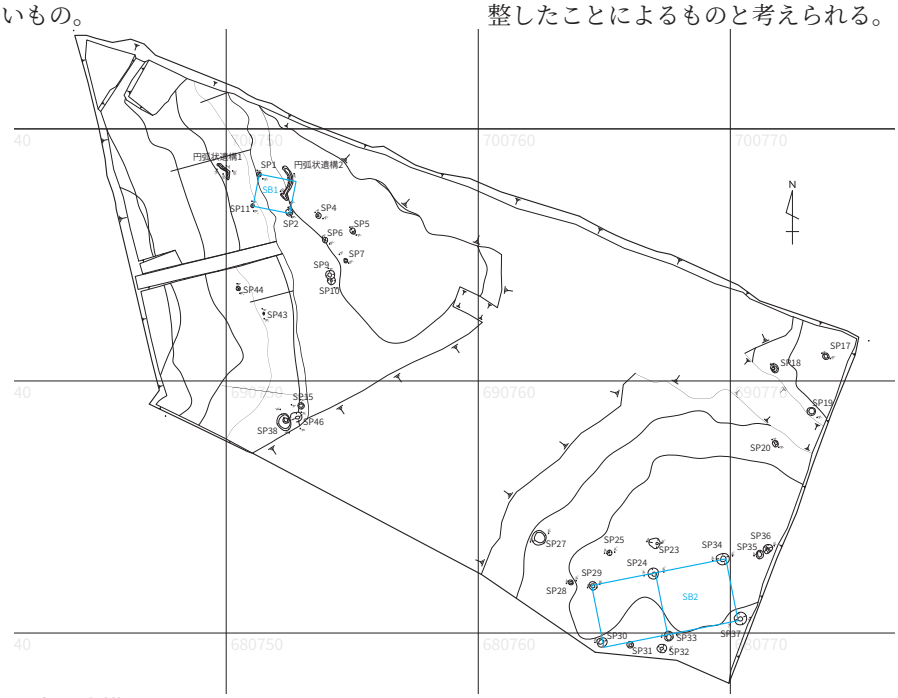


図 75　B 区　グスク時代遺構配置図

SB1 は 7007500 に位置し、Ⅵ層上面で検出した。プラン分類は B1 で長軸 1.5 m、短軸 1.3 mの方形となり、東－西を軸とする。

遺構覆土は暗褐色（10YR3/4）のシルト～極細砂が主体である。

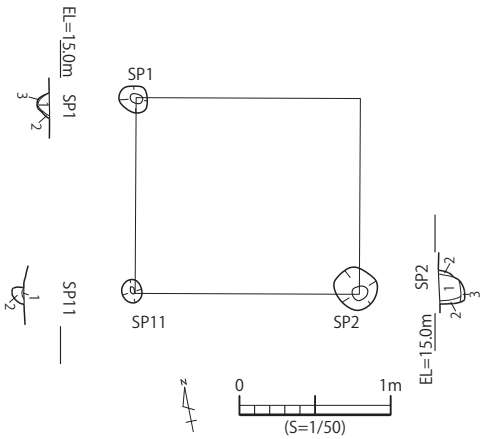


図 76　SB1　遺構平面・土層断面図

SB2 は 690760 に位置しⅢ -1 層掘削後にⅥ層上面で検出した。プラン分類は B2 で長軸 5.4 m、短軸 2.5 m の長方形となり北東－南西を軸とする。遺構覆土は暗褐色(10YR3/3)のシルト～極細砂主体である。

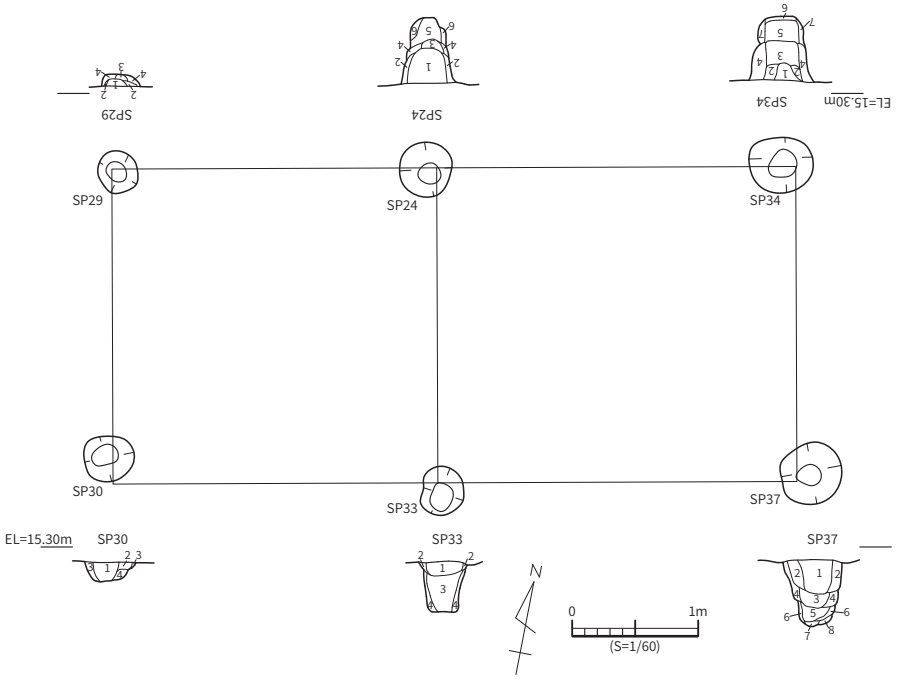


図 77　SB2　遺構平面・土層断面図

円弧状遺構 1 は 700740 に位置しⅢ -1 層掘削後にⅥ層上面で検出した。遺構は円形状の周溝と考えられるが判然としない。遺物は出土しなかった。

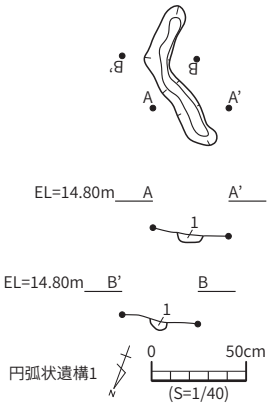


図 78　円弧状遺構１　遺構平面・土層断面図

円弧状遺構 2 は 700750 に位置しⅢ -1 層掘削後Ⅵ層上面で検出した。遺構は円形状の周溝と考えられるが判然としない。遺物は出土しなかった。

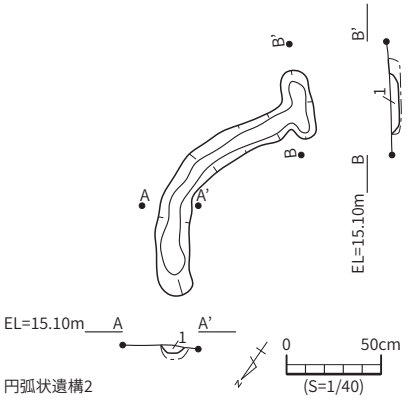


図 79　円弧状遺構２　遺構平面・土層断面図

楚辺徳地原遺跡Ｃ区

楚辺徳地原遺跡Ｃ区ではピットや土坑を検出した。ピットはⅥ層とⅦ層上面で検出した。掘立柱建物跡のプランに伴うものでプランは 76 棟確認できた。土坑はⅥ層上面で４基検出した。

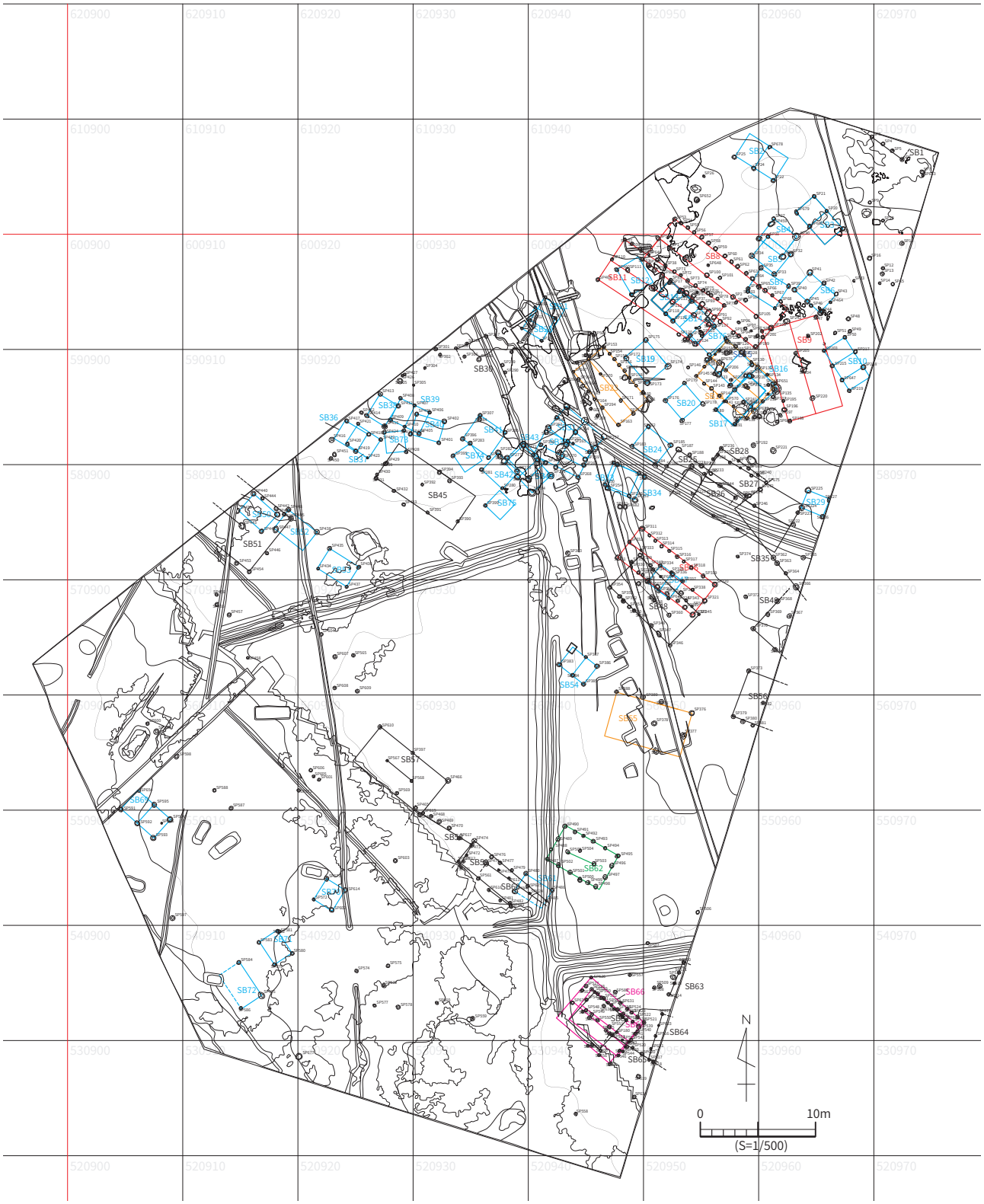


図 80　Ｃ区　グスク時代遺構配置図

表 27　C 区　遺構プラン一覧表１

遺構名	ピット	掲載	分類	外枠		中柱
				長軸(m)	短軸(m)	本数
SB1	SP3,4,5,6	―	A	―	―	―
SB2	SP22,24,25,678	―	B2	4	2.3	―
SB3	SP19,20,21,679,680	○	B2	3.8	2.1	―
SB4	SP27,28,29,30,459	○	B1	2.5	2.2	―
SB5	SP31,34,33,32	―	B1	2.5	2.2	―
SB6	SP41,40,45,44,43,42	○	B2	3	2	―
SB7	SP35,{102,103},243,39	―	B1	2.9	2.3	―
SB8	SP461,298,80,81,83,84,{37,87},89,90,91,92,93,94,95,199,106,69,68,67,66,65,64,63,62,61,60,59,58,57,56,55,54,53,566,1,99,100,2,105	○	A1	12.5	4.5	5
SB9	SP52,201,195,196,198,47,242,205,204,220	○	A1	8.2	4.9	3
SB10	SP218,217,50,203,215,647,219	○	B4	4.1	2.1	―
SB11	SP462,120,{121,122},124,116,79,78,77,76,75,74,73,72,71,38,70,646,{202,109},108,107,110,111,112,113,114	○	A1	10.4	4.2	4
SB12	SP460,463	―	B1	2.6	2.2	―
SB13	SP119,86,18,{17,82}	○	B2	2.6	2.4	―
SB14	SP118,124,117,659,{85,36}	―	B2	3.8	2.4	―
SB15	SP148,133,213,131,129,658	○	B2	3	2.6	―
SB16	SP214,639,135,132　※214はSB17と重複する	―	B1	2.8	2.5	―
SB17	SP189,191,643,{210,649,209},214	―	B2	4.1	2.1	―
SB18	SP145,144,143,142,{141,570},140,139,138,651,134,130,128,126,125,151,150,149,147,206,{211,212}	○	A3	5.7	4.1	2＋
SB19	SP172,173,174,175	○	B1	3	2.4	―
SB20	SP176,177,178,179	―	B1	2.3	2.2	―
SB21	SP660,202	―	B1	2.3	2.1	―
SB22	SP295,297,661,296	○	B1	2.2	2	―
SB23	SP167,166,664,165,164,294,163,162,161,160,159,158,157,156,155,154,153,169,170,171	○	A3	6	3.4	2
SB24	SP183,184,185,182	―	B1	2.6	2.1	―
SB25	SP186,187,188,232,233,673	○	A	7.1	―	―
SB26	SP228,231,230,244,245	○	A	4.7	―	―
SB27	SP229,638,398,361,222,223,675,239,238,237,235,246	○	A	8.5	4.8	1
SB28	SP234,236,670,669,240	―	A	―	―	―
SB29	SP225,224,226,227	○	B1	2	1.6	―
SB30	SP300,299,287,289,290,286	―	A	―	2.9	1
SB31	SP263,260,259,258,257,256,255,640,264	○	B3	4.2	2.4	―
SB32	SP655,269,268,267,266,261,262,308,270	○	B3	4.4	2.4	―
SB33	SP250,249,248,247	○	B1	2.4	2	―
SB34	SP254,253,252,251	○	B1	2.6	2.2	―
SB35	SP672,674,362,363,364,366,365	―	A	―	―	1
SB36	SP416,419,418,417	―	B1	2.3	1.8	―
SB37	SP420,423,422,421	―	B1	2.4	2	―
SB38	SP414,415,412,413	―	B1	2.2	1.8	―
SB39	SP409,410,405,406,407,408	―	B2	2.8	2.1	―
SB40	SP404,401,402,403	―	B1	2.5	1.8	―
SB41	SP396,310,285,307,284	―	B1	2.8	2.6	―
SB42	SP281,280,279,{278,282}	―	B1	2.4	2.1	―
SB43	SP277,637,309	○	B1	2.6	2	―
SB44	SP276,275,274,273,272,271	○	B2	3.5	2.2	―
SB45	SP430,431,432,391,390,393,394,{429,635},392	―	A	8.1	3.6	1
SB46	SP331,330,329,328,326,325,324,323,322,321,320,319,318,317,316,315,314,313,312,311,332,333,335,338	○	A1	8.2	3.3	3
SB47	SP656,359,641,337,336,334	○	B2	2.4	1.9	―
SB48	SP354,353,352,351,350,349,348,347,346,345,344,343,342,657,341,340,339,355,356,357,358,360	○	A	7.2	3.7	4
SB49	SP368,369,370,371,367	―	A	―	―	1
SB50	SP439,441,449,440	―	B1	2.7	2	―
SB51	SP453,454,446,445,618,442,444,443	―	A	―	5.8	1
SB52	SP447,448,438	―	B1	3.2	2	―
SB53	SP434,437,436,435	○	B1	3	2	―
SB54	SP383,384,385,386,387	○	B2	2.7	2	―
SB55	SP388,389,375,376,377,590,378	―	A3	6.8	3.9	1
SB56	SP373,379,380,381,382	―	A	―	4.2	1
SB57	SP610,397,466,467,569,567,568	―	A	7.5	3.8	2
SB58	SP465,615,468,469,470,617,473,472,612,471	―	A	5.9	―	―
SB59	SP485,625,479,477,476,474,613,561,482	―	A	―	―	2
SB60	SP624,611,478,475,616,481,483	―	A	―	―	3
SB61	SP484,480,486	―	B1	2.7	1.8	―
SB62	SP487,502,501,500,499,498,497,496,495,494,493,492,491,490,489,488,505,503	○	A4	5.3	3.4	2

表 28　C 区　遺構プラン一覧表２

遺構名	ピット	掲載	分類	外枠		中柱
				長軸(m)	短軸(m)	本数
SB63	SP510,511,513,514	―	A	―	3.1	―
SB64	SP**515**,623,516,621,517	―	A	―	4.2	―
SB65	SP**626**,**552**,520,620,518	―	A	―	―	―
SB66	SP633,553,**554**,525,**563**,562,527,526,631,524,523,**522**,**521**,**540**,542,629,**546**,619,556,**555**	○	A2	6	4.7	4
SB67	SP622,**400**,628,537,627,535,533,531,529,547	○	A	3.7	3.4	―
SB68	SP**544**,**543**,541,**539**,**538**,**632**,536,534,532,530,528,548,**549**,**551**,**180**	○	A2	5.3	3.3	4
SB69	SP**591**,592,**593**,**594**,**595**,654	○	B2	3.8	2.2	―
SB70	SP**572**,602,614,**573**	○	B1	2.1	1.9	―
SB71	SP583,579,580,{582,**581**}	―	B1	2.4	1.8	―
SB72	SP**584**,**585**,**586**	―	B1	3.5	2.1	―
SB73	SP**424**,411,**428**	―	B1	1.8	1.7	―
SB74	SP**395**,**283**	○	B1	1.8	1.8	―
SB75	SP**399**	―	B1	1.8	1.8	―
SB76	SP**123**,**152**,**127**,**115**	○	B1	2.4	2	―

SB3 は 600960 に位置し、Ⅵ層及びⅦ層上面で検出した。プラン分類は B2 で、長軸 3.8 m、短軸 2.1 mの長方形となり、北西－南東を軸とする。

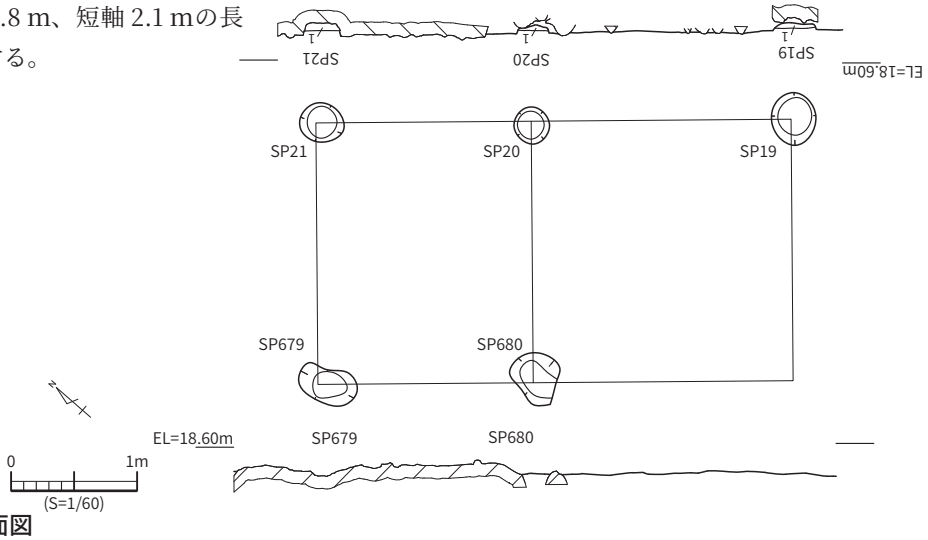


図 81　SB3　遺構平面・土層断面図

SB4 は 60090・59060 に位置し、Ⅵ層及びⅦ層上面で検出した。プラン分類は B1 で長軸 2.5 m、短軸 2.2 mの方形となり、北西－南東を軸とする。SB 5 とプランは重なるが、遺構の切り合いは確認できなかった。

遺物は SP459 から中粒砂岩製の敲磨石（530）が出土している。

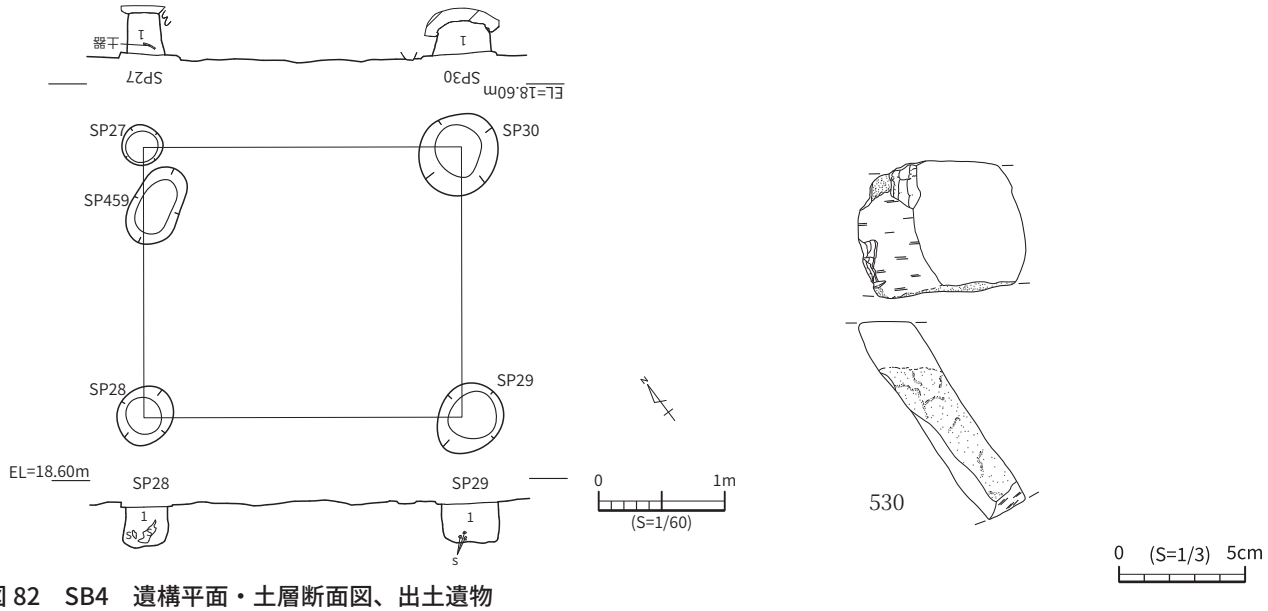


図 82　SB4　遺構平面・土層断面図、出土遺物

SB8 は 600950・590950・590960 に位置し、Ⅵ層及びⅦ層上面で検出した。プラン分類は A1 で、長軸 12.5 m、短軸 4.5 mの長方形となり、北西－南東を軸とする。SB ７・９・11・13・14 とプランと重なる。SB8 の遺構は SB13・14 に切られていることから、SB13・14 より古いことが確認できた。また、SB ７・９・11 とは遺構の切り合いは確認できなかった。プランは SB11 と類似する。

遺物は土器、中国産白磁、羽口（537 ～ 539）、石器・石製品が出土した。土器は仲原式（531、533）とグスク土器第１様式の甕（532）が出土している。中国産白磁は大宰府編年Ⅳ類の口縁部（534・535）とⅣ -1 類の底部(536)が出土している。石製品は滑石製の石鍋(542)が出土しており、側面や底面に穿孔がされている。仲原式は周辺にある SI5 からの混入と考えられる。

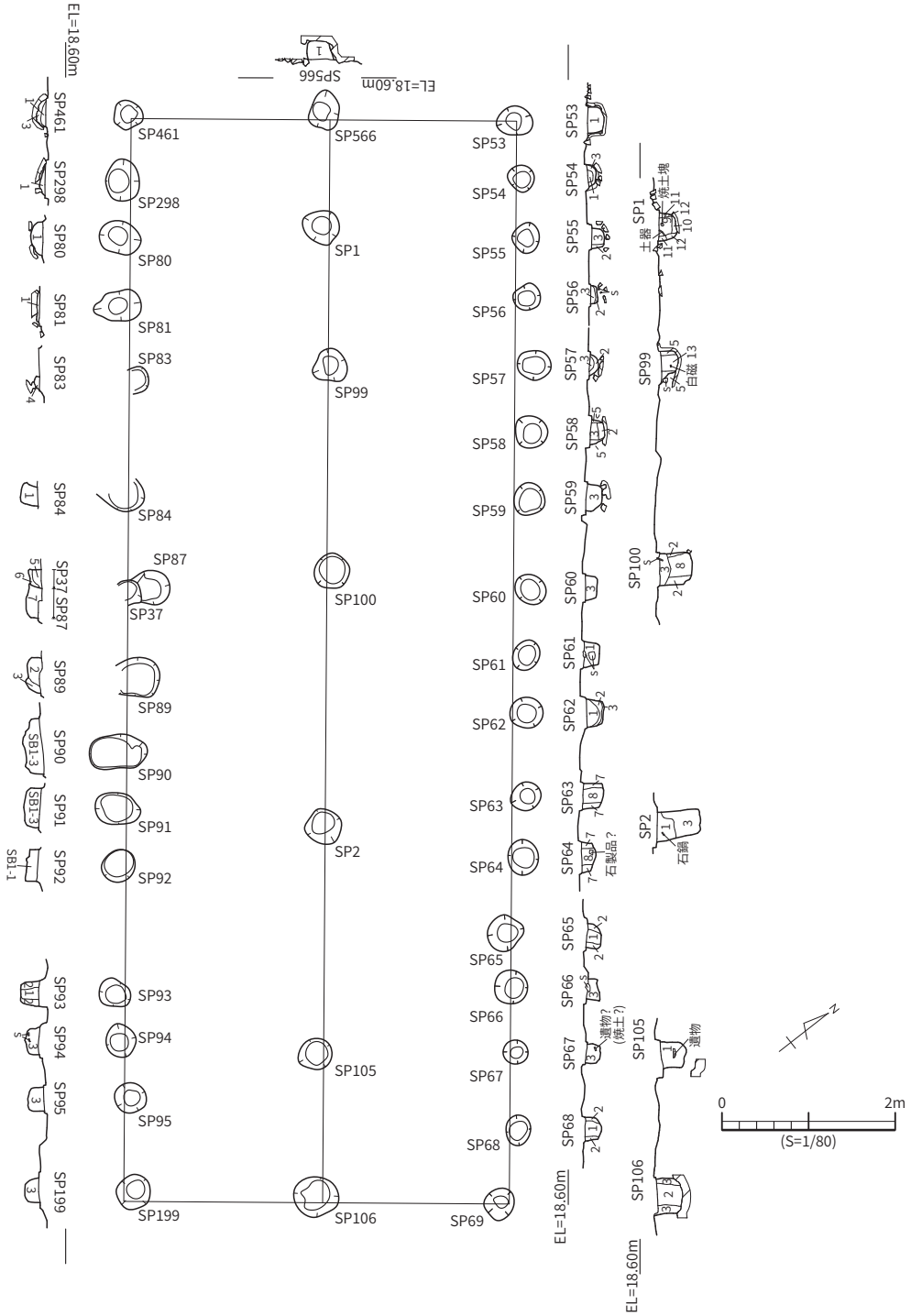


図 83　SB8　遺構平面・土層断面図

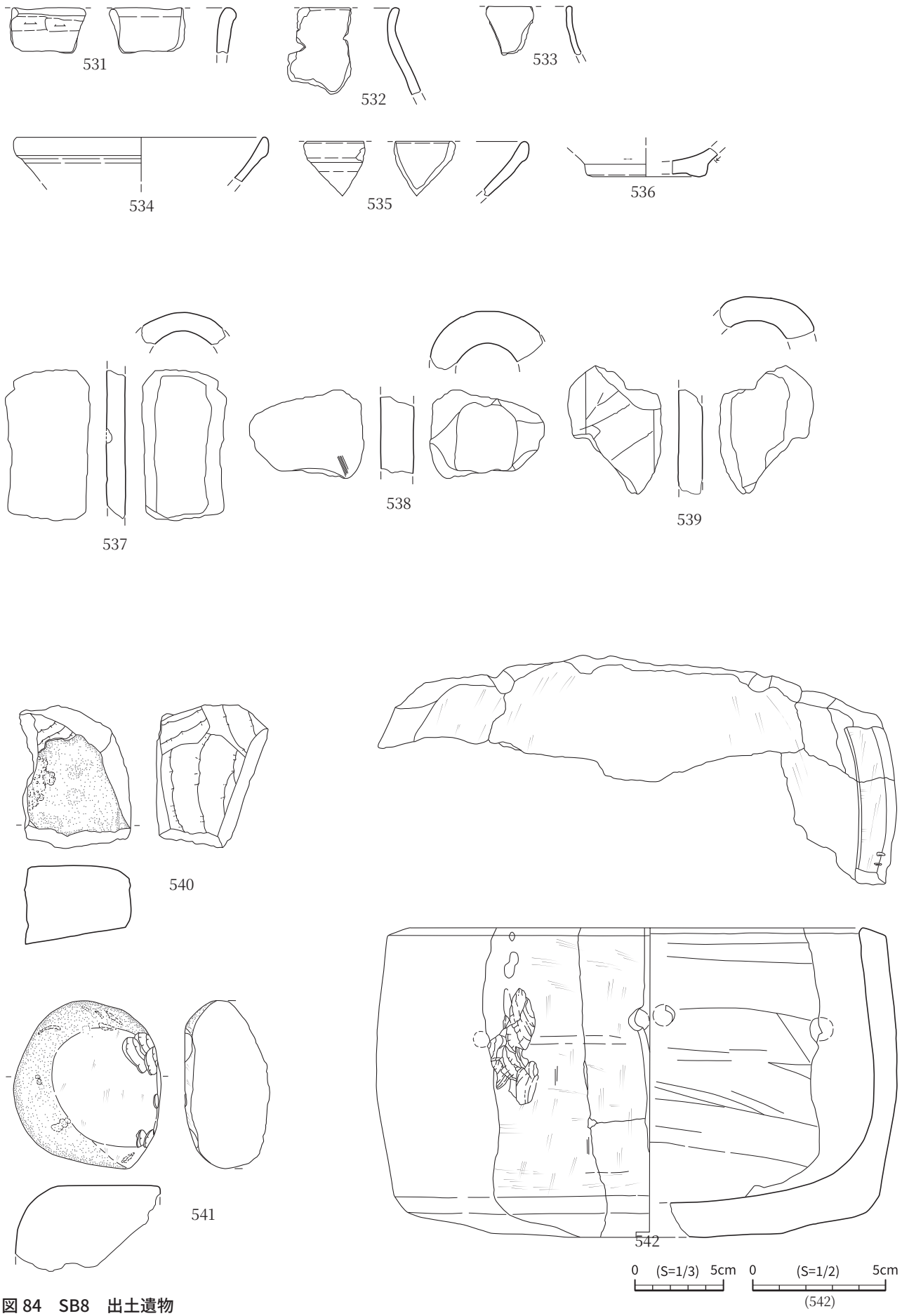

531
532
533
534
535
536
537
538
539
540
541
542
0 (S=1/3) 5cm
0 (S=1/2) 5cm
(542)

図 84　SB8　出土遺物

SB 6は590960に位置し、Ⅵ層及びⅦ層上面で検出した。プラン分類はB2で、長軸３m、短軸２mの長方形となり、北西－南東を軸とする。

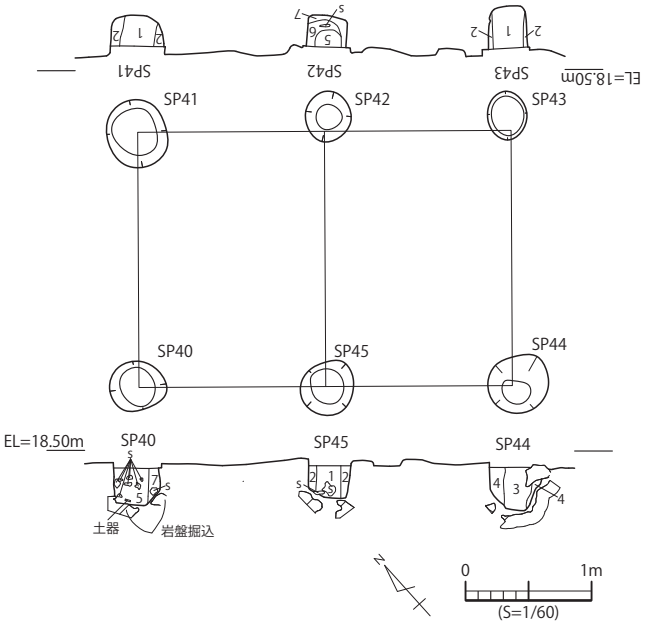


図 85　SB6　遺構平面・土層断面図

SB10は590960・580960に位置し、Ⅵ層上面で検出した。プラン分類はB4で、長軸4.1 m、短軸2.1 mの長方形となり、北西－南東を軸とする。SB9のプランと重なるが、遺構の切り合いは確認できなかった。

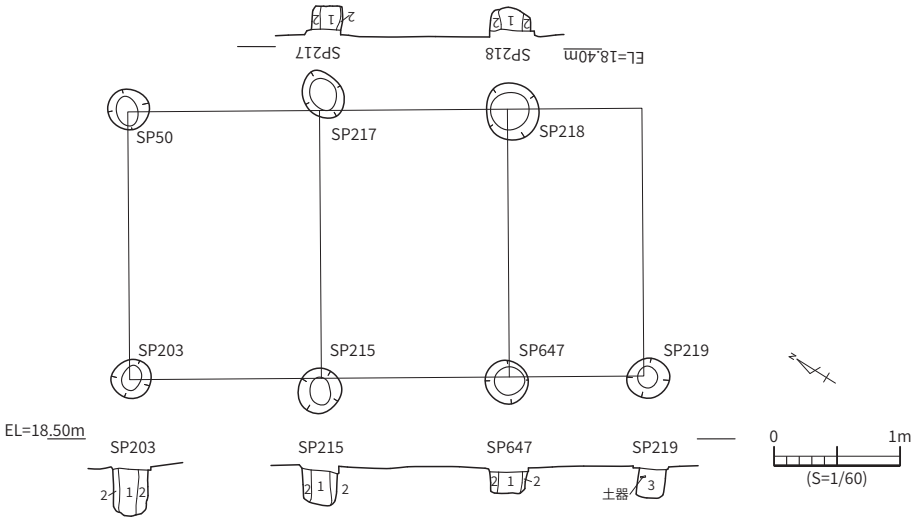


図 86　SB10　遺構平面・土層断面図

SB ９は 590960・580960 に位置し、Ⅵ層及びⅦ層上面で検出した。プラン分類は A1 で、長軸 8.2 m、短軸 4.9 mの長方形となり、北西－南東を軸とする。プランは SB ８・10 と重なるが、遺構の切り合いは確認できない。

遺物は仲原式（543 ～ 545）と弥生並行期の耳 (546) が出土している。これらは周辺にある SK7 からの混入と考えられる。

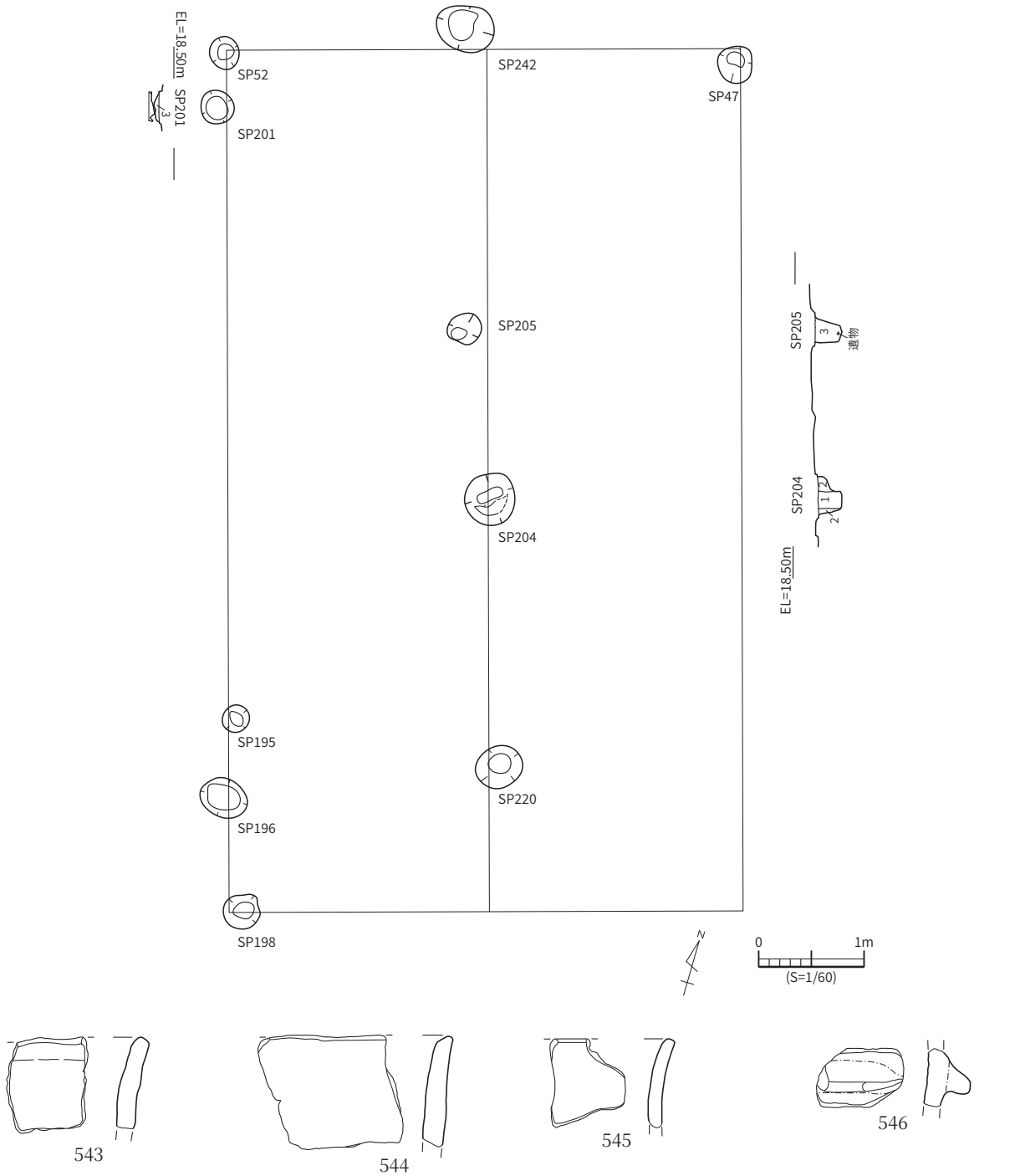


図 87　SB9　遺構平面・土層断面図、出土遺物

SB11は590940・590940に位置し、Ⅵ及びⅦ層上面で検出した。プラン分類はA1で、長軸10.4 m、短軸4.2 mの長方形となり、北西－南東を軸とする。南側にもピットを検出したが、浅かったため遺構とせず記録はとらなかった。しかし、資料整理時にあらためてプランを確認したところ、柱筋が揃うことからプランに含まれると考え、一点鎖線で表示した。

プランはSB ８・12・13・14・76と重なるが、遺構の切り合いは確認できない。またSB14とはSP124が重なり切り合う可能性があるが、上面が削平されていることから確認することができなかった。

遺物は中国産白磁の大宰府編年Ⅳ類（547）と緑色片岩製の砥石（548）が出土している。

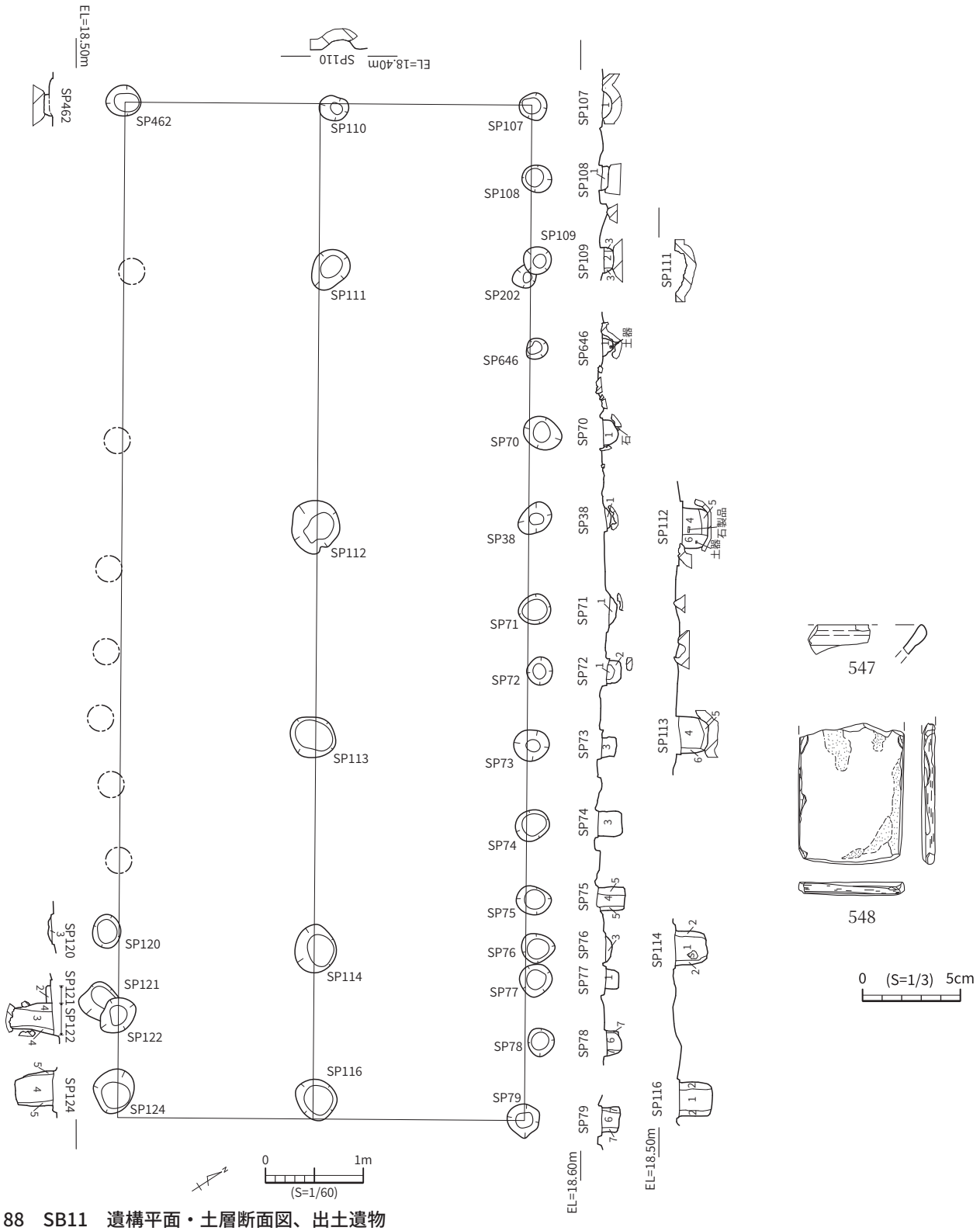


図 88　SB11　遺構平面・土層断面図、出土遺物

SB13は590950に位置し、VI及びVII層上面で検出した。プラン分類はB2で、長軸2.6 m、短軸2.4 mのやや長方形となり、北西－南東を軸とする。プランはSB 8・SB11・SB14と重なり、SB8のピットを切るが、SB11・SB14とは切り合わない。

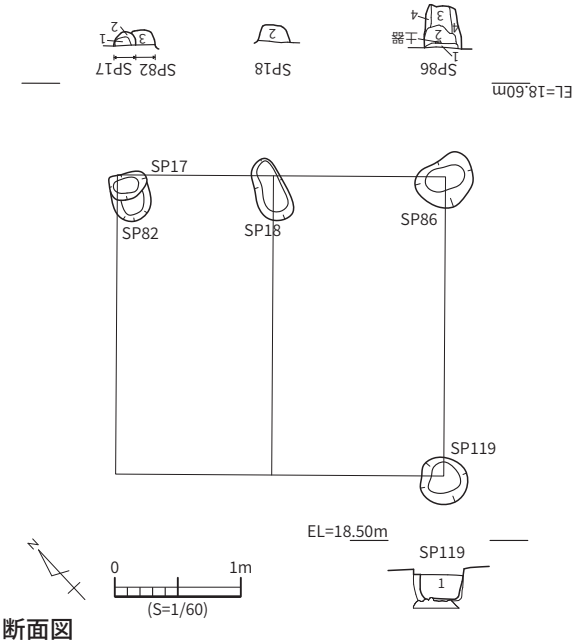


図 89　SB13　遺構平面・土層断面図

SB14は590950に位置し、VI層上面で検出した。プラン分類はB2で、長軸3.8 m、短軸2.4 mの長方形となり、北西－南東を軸とする。プランはSB 8のピットを切る。

遺物は仲原式（549）が出土しているが、SI5などからの混入と考えられる。

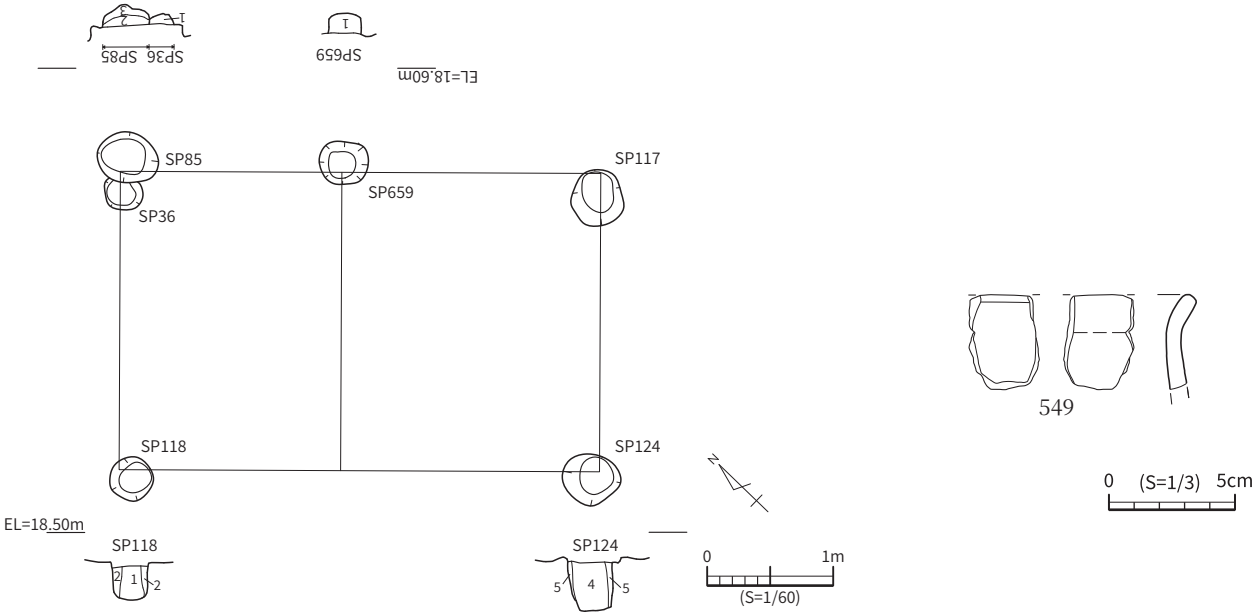


図 90　SB14　遺構平面・土層断面図、出土遺物

SB76 は 590950・580950 に位置し、Ⅵ層及びⅦ層上面で検出した。プラン分類は B1 で、長軸 2.4 m、短軸２mのやや長方形となり、北西－南東を軸とする。プランは SB11・14・15・18 と重なり、SB15 の遺構を切る。

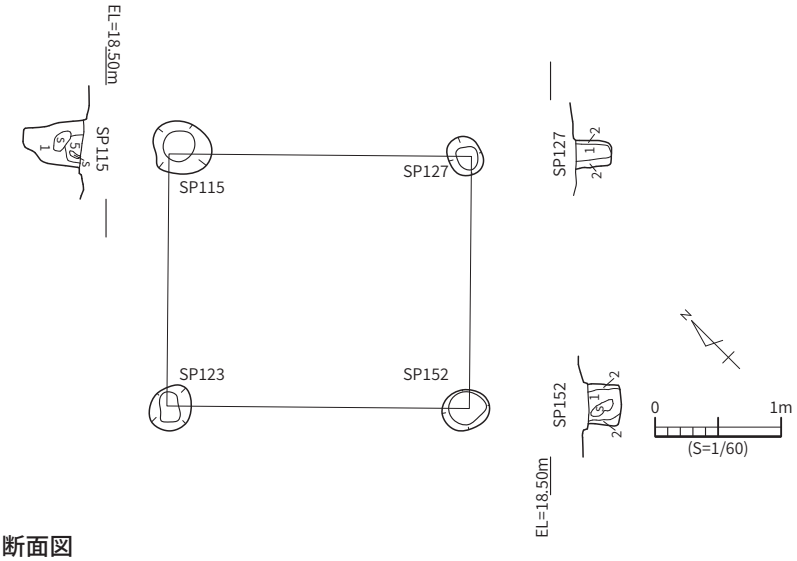


図 91　SB76　遺構平面・土層断面図

SB15 は 590950・580950 に位置し、Ⅵ層上面で検出した。プラン分類は B2 で、長軸３m、短軸 2.6 mの方形となり、北西－南東を軸とする。プランは SB18・76 と重なり、SB18 と SB76 の遺構に切られる。

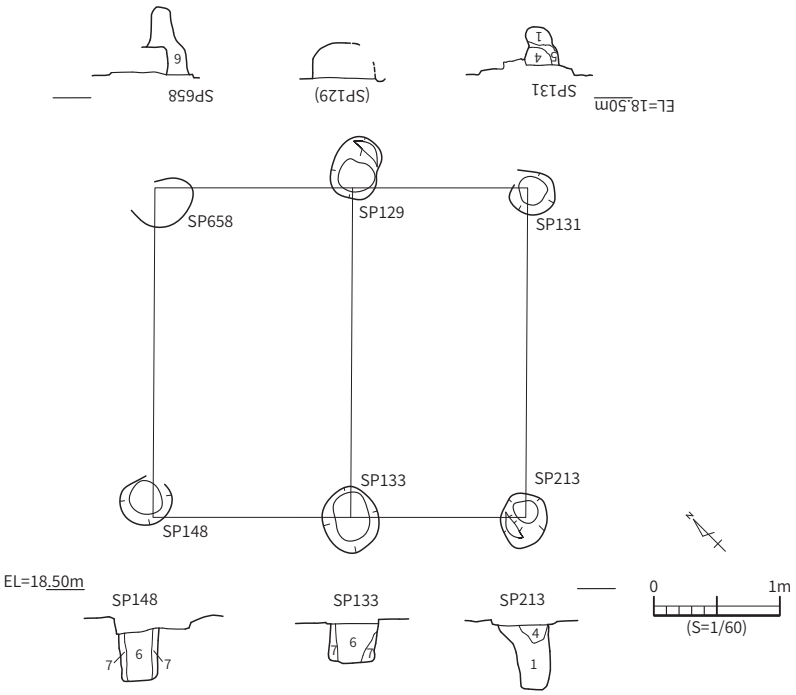


図 92　SB15　遺構平面・土層断面図

SB18 は 590950・580950・580960 に位置し、Ⅵ層上面で検出した。プラン分類は A3 で、長軸 5.7 m、短軸 4.1 mの長方形となり、北西－南東を軸とする。プランは SB76・15・16・17 と重なり、SB15・SB16 のピットを切り、SB17 と SB76 の遺構に切られる。

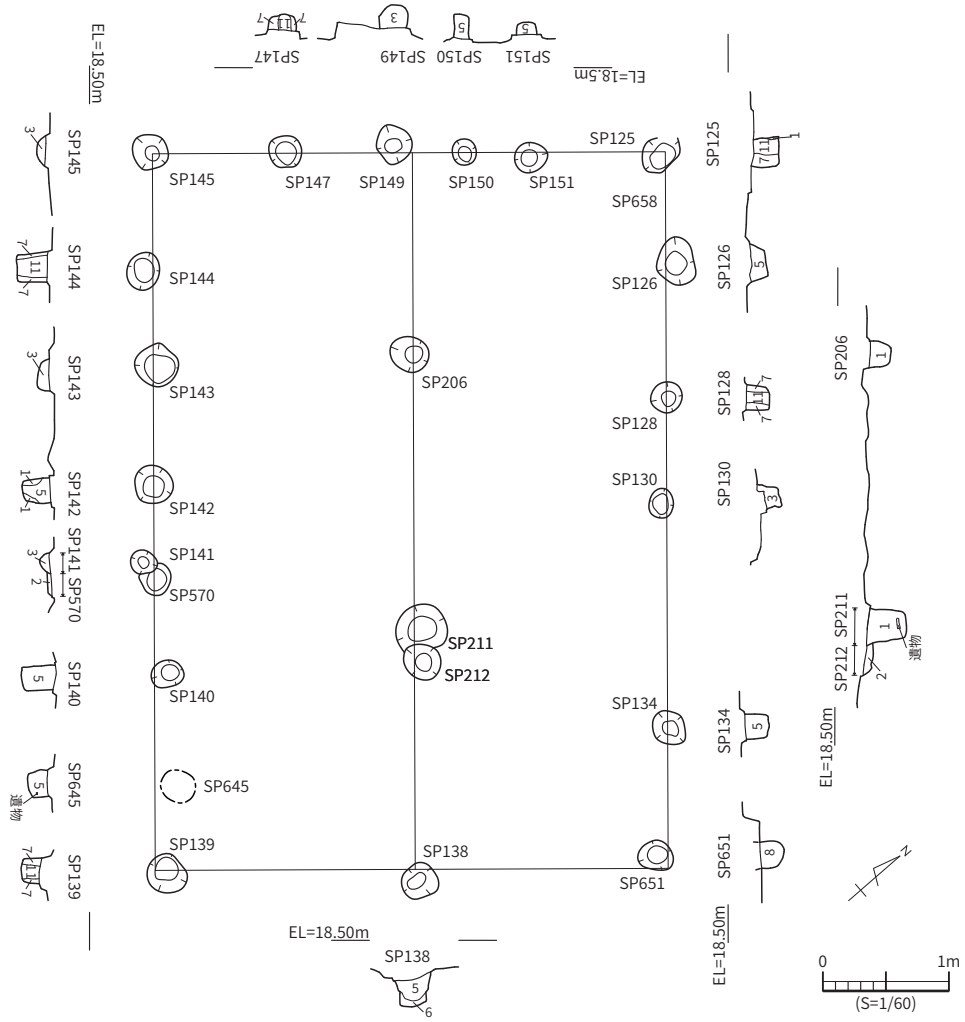


図 93　SB18　遺構平面・土層断面図

SB8・SB13・SB14 と SB13・14・15・16・17・18・76 はプランが重なっており、新旧関係がある。

各遺構の切り合いの状況から、SB8 → SB13・SB14、SB15 → SB16 → SB18 → SB17・SB76 の順に新しくなることが確認できた。

SB19 は 590950・580940・580950 に位置し、Ⅵ層及びⅦ層上面で検出した。プラン分類はB1で、長軸３m、短軸 2.4 mの方形となり、北西－南東を軸とする。

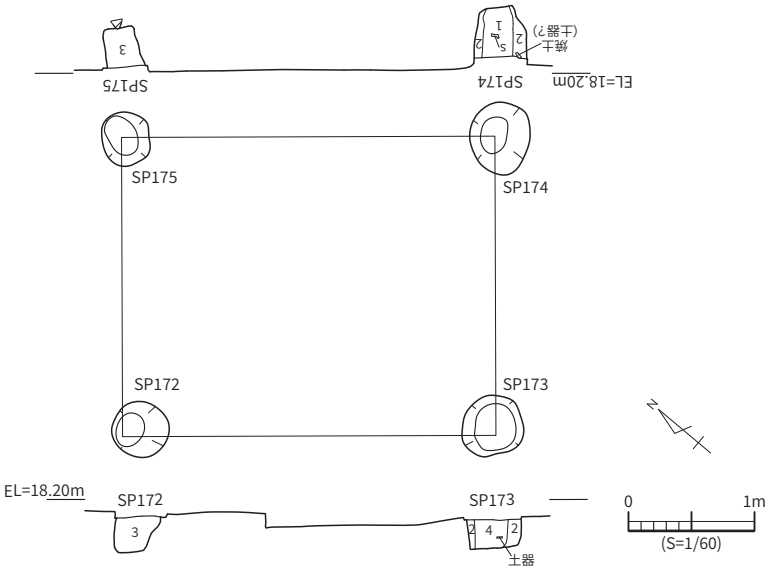


図 94　SB19　遺構平面・土層断面図

SB22 は 590930・590940 に位置し、Ⅵ層及びⅦ層上面で検出した。プラン分類は B1 で、長軸 2.2 m、短軸２mの方形となり、北西－南東を軸とする。SB21 とプランが重なるが、遺構の切り合いは確認できない。

遺物は SP295 から阿波連浦下層式（550・551）が出土しているが、SI3 を掘り込むため混入と考えられる

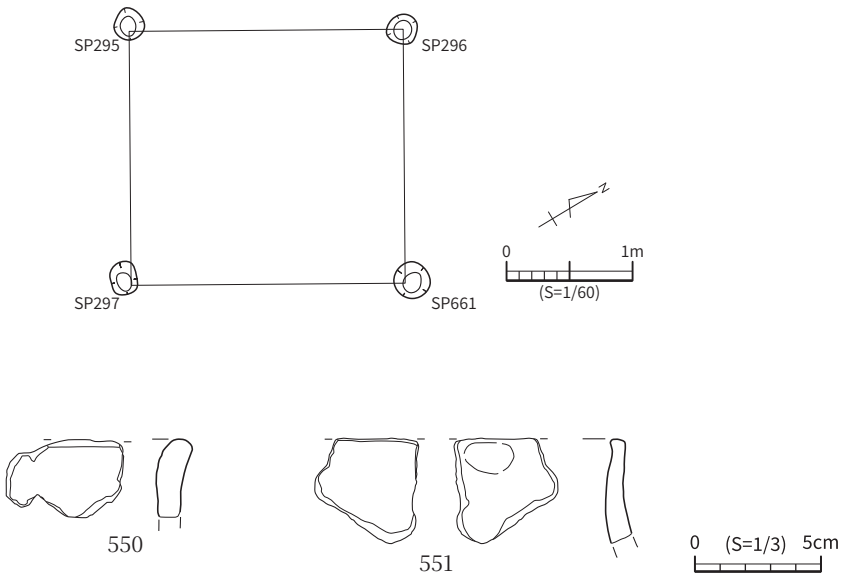


図 95　SB22　遺構平面・土層断面図、出土遺物

SB23 は、590940・580940・580950 に位置し、Ⅵ及びⅦ層上面で検出した。プラン分類は A3 で、長軸６m、短軸 3.4 mの長方形となり、北西－南東を軸とする。

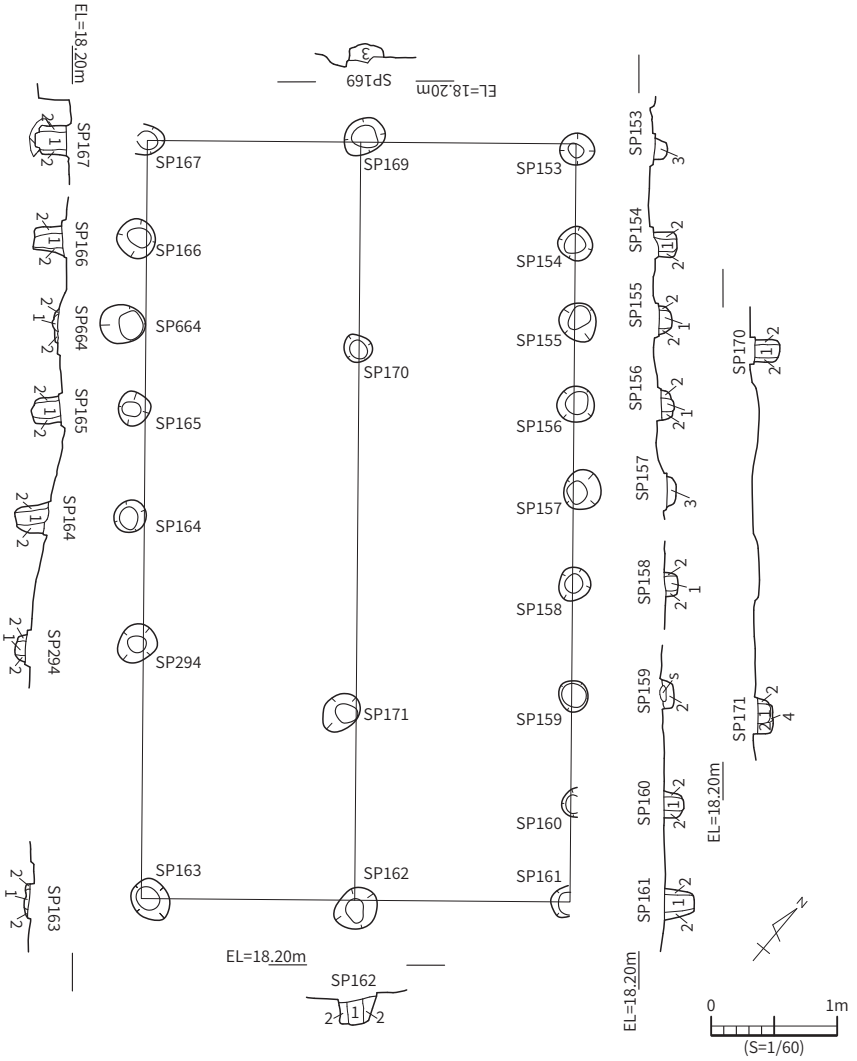


図 96　SB23　遺構平面・土層断面図

SB25 は 580950・570950 に位置し、Ⅵ層上面で検出した。プラン分類は A で、長軸 7.1 m長方形と考えられ、北西－南東を軸とする。遺構の南側は残存せず、全形は不明である。

遺物は SP673 から仲原式（552）が出土しているが、SK8 の周辺にあるため混入と考えられる

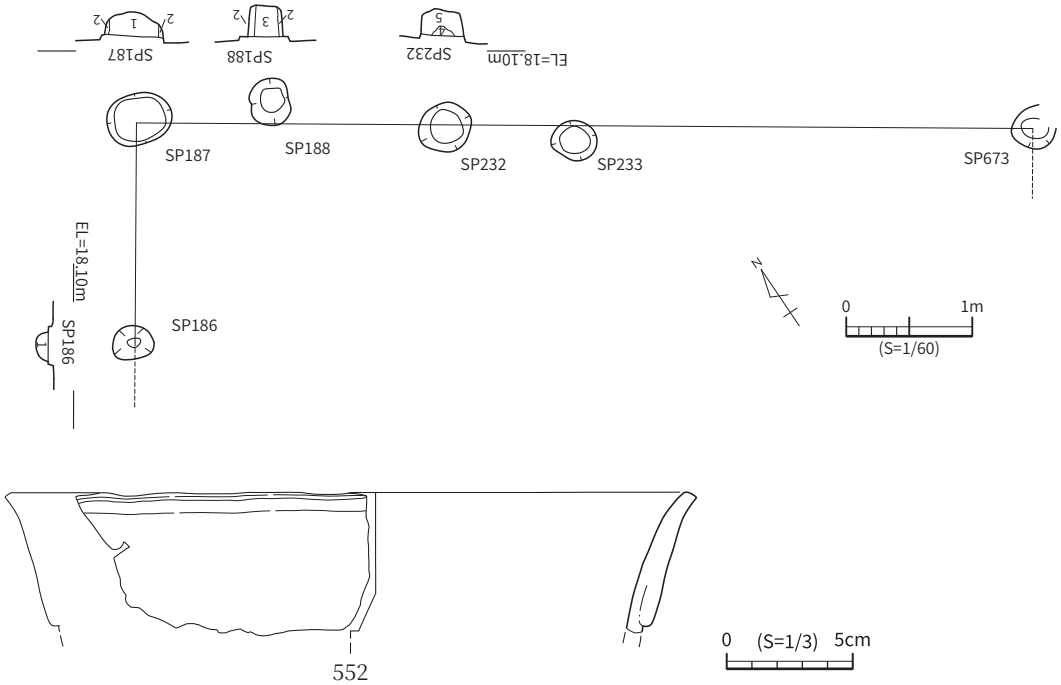


図 97　SB25　遺構平面・土層断面図、出土遺物

SB26 は 570950 に位置し、Ⅵ層上面で検出した。プラン分類は A で長軸 4.7 mの長方形で、北西－南東を軸とする。南側を大きく欠いているため全形は不明である。

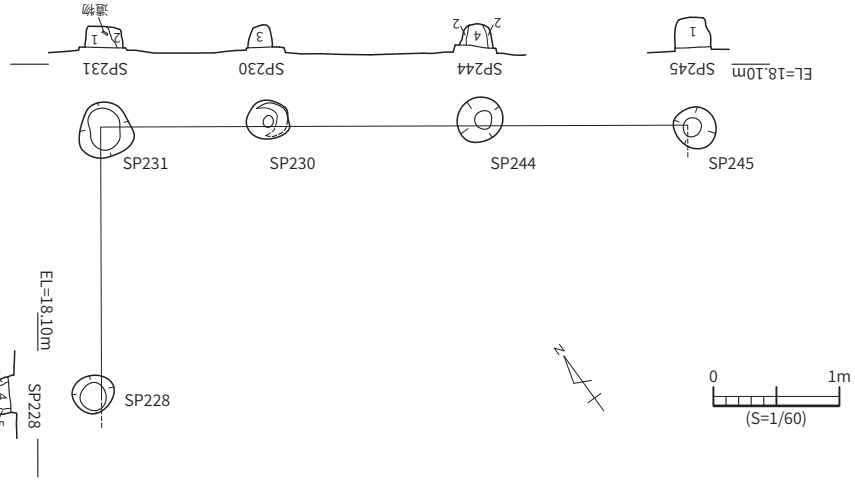


図 98　SB26　遺構平面・土層断面図

SB27 は 570950・570960・560960 に位置し、Ⅵ層上面で検出した。プラン分類は A で、長軸 8.5 m、短軸 4.8 mの長方形となり、北西－南東を軸とする。

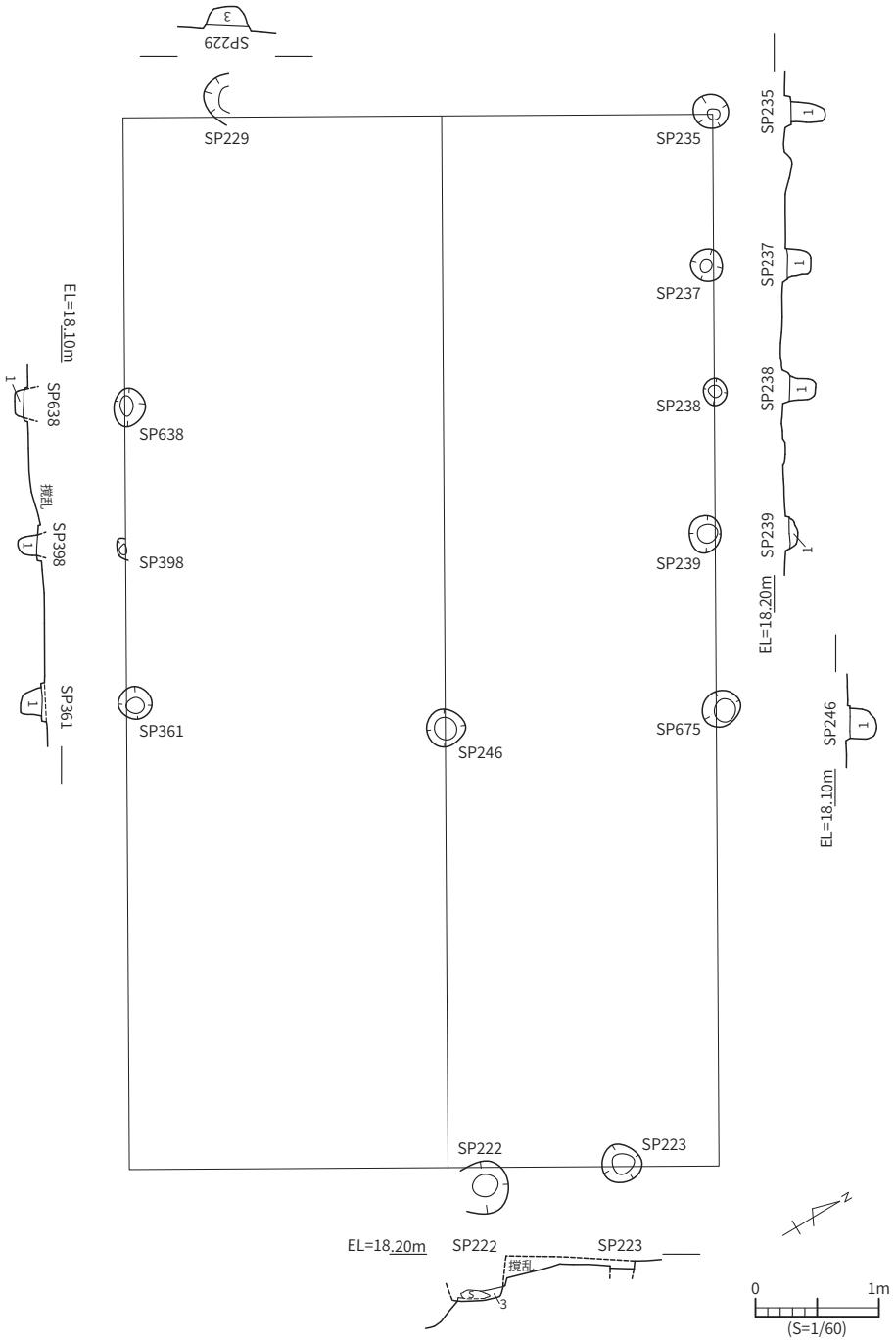


図 99　SB27　遺構平面・土層断面図

SB31 は 580940 に位置し、Ⅵ層及びⅦ層上面で検出した。プラン分類は B3 で、長軸 4.2 m、短軸 2.4 mの長方形となり、北西－南東を軸とする。

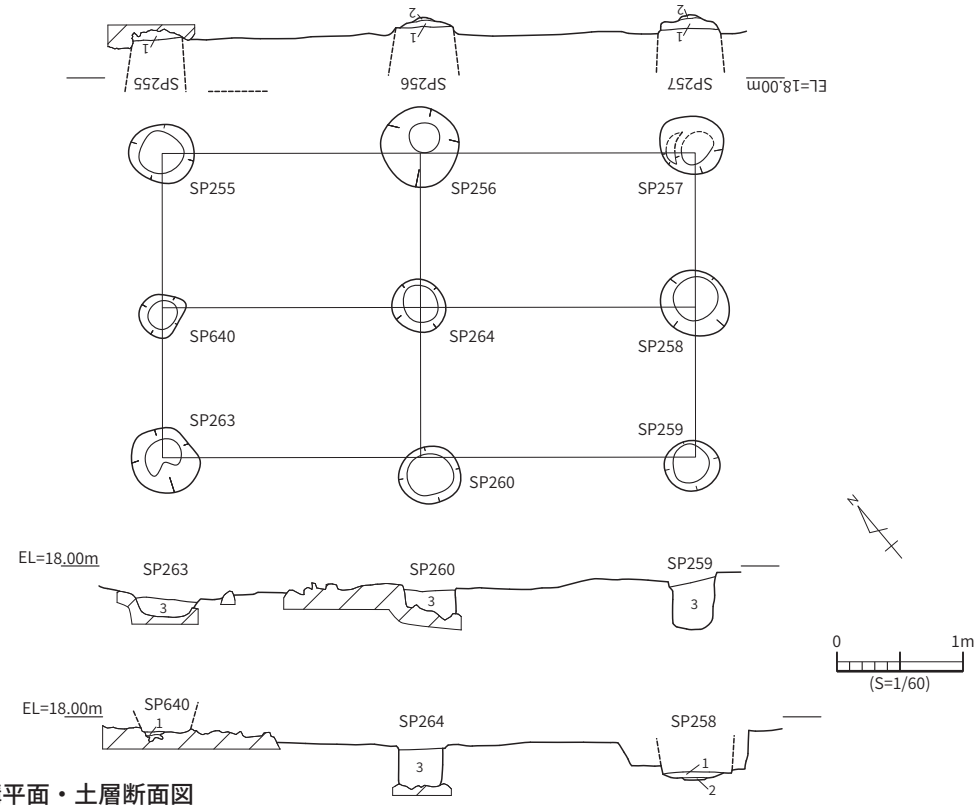


図 100　SB31　遺構平面・土層断面図

SB32 は 580940・570940 に位置し、Ⅵ層及びⅦ層上面で検出した。プラン分類は B3 で、長軸 4.4 m、短軸 2.4 mの長方形となり、北西－南東を軸とする。

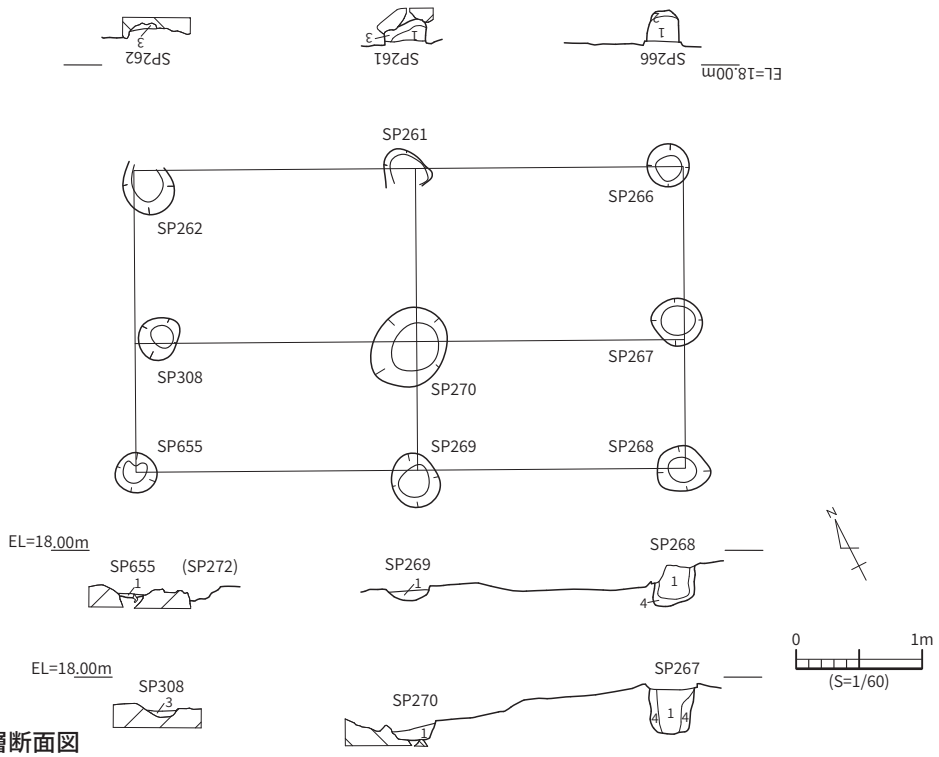


図 101　SB32　遺構平面・土層断面図

SB29 は 570960 に位置し、VI層上面で検出した。プラン分類は B1 で、長軸２m、短軸 1.6 mのやや方形となり、北西－南東を軸とする。

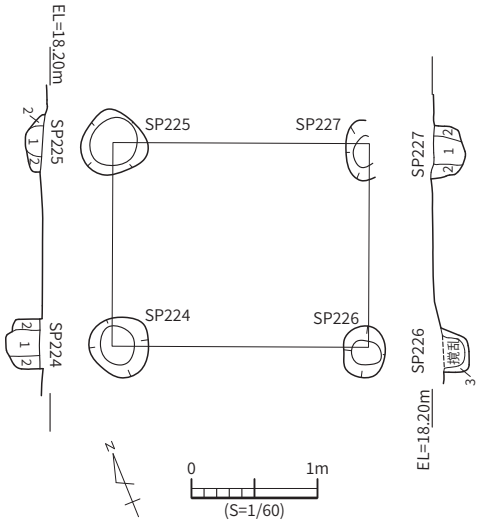


図 102　SB29　遺構平面・土層断面図

SB33 は 570940 に位置し、VI層上面で検出した。プラン分類は B1 で、長軸 2.4 m、短軸２mの正方形となり、北西－南東を軸とする。

遺物は SP249 から阿波連浦下層式（553）が出土している。

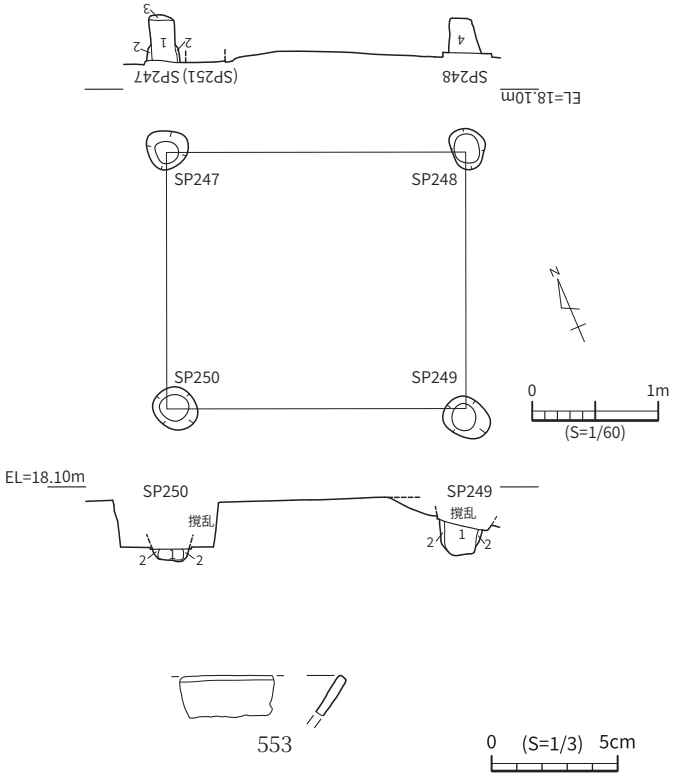


図 103　SB33　遺構平面・土層断面図、出土遺物

SB34 は 570940 に位置し、VI層上面で検出した。プラン分類は B1 で、長軸 2.6 m、短軸 2.2 mのやや長方形となり、北西－南東を軸とする。

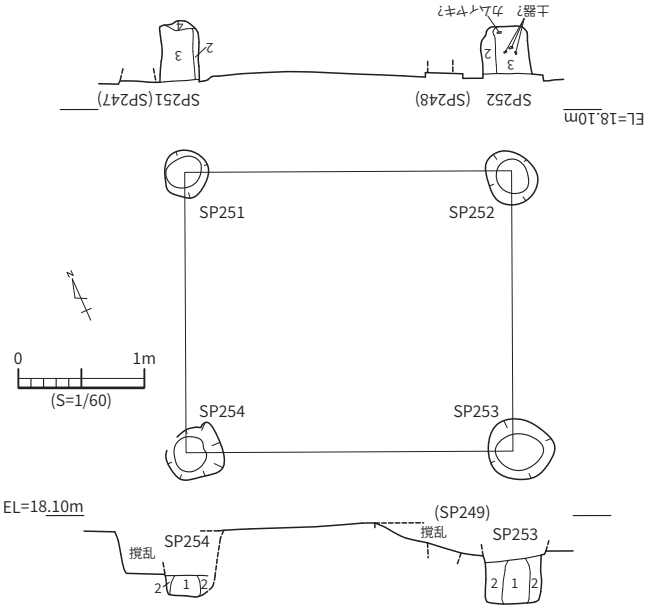


図 104　SB34　遺構平面・土層断面図

SB43 は 580930・580940・570930・570940 に位置し、VI層及びVII層上面で検出した。プラン分類は B1 で、長軸 4.6 m、短軸２mのやほぼ方形となり、北西－南東を軸とする。

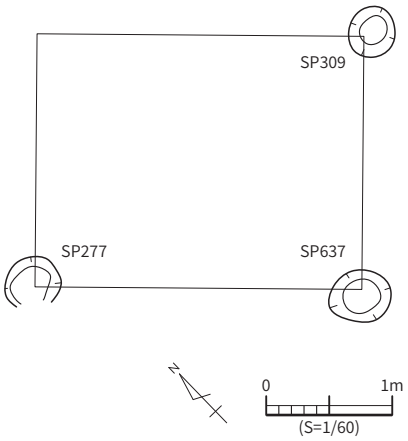


図 105　SB43　遺構平面・土層断面図

SB44 は 580930・580940・570930・570940 に位置し、VI層及びVII層上面で検出した。プラン分類は B2 で、長軸 3.5 m、短軸 2.2 mの長方形となり、北西－南東を軸とする。

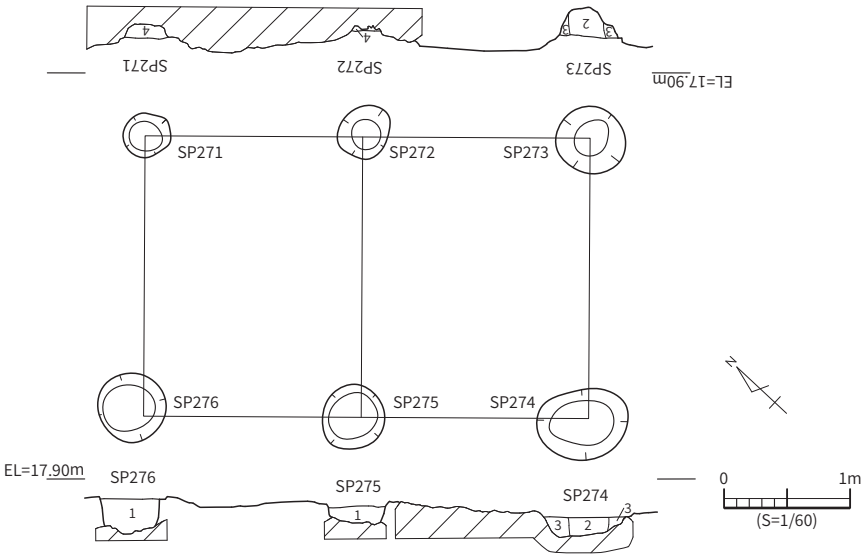


図 106　SB44　遺構平面・土層断面図

SB47 は 570950・560950 に位置し、VI層上面で検出した。プラン分類は B2 で、長軸 2.4 m、短軸 1.9 mのやや長方形となり、北西－南東を軸とする。

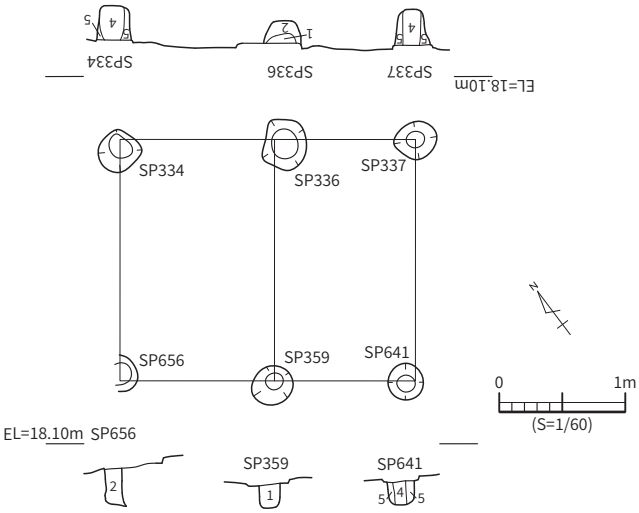


図 107　SB47　遺構平面・土層断面図

SB46 は 570940・570950・560950 に位置し、Ⅵ層上面で検出した。プラン分類は A1 で、長軸 8.2 m、短軸 3.3 mの長方形となり、北西－南東を軸とする。

遺物は SP331 から中国産白磁の大宰府分類Ⅳ類（554）が出土している。

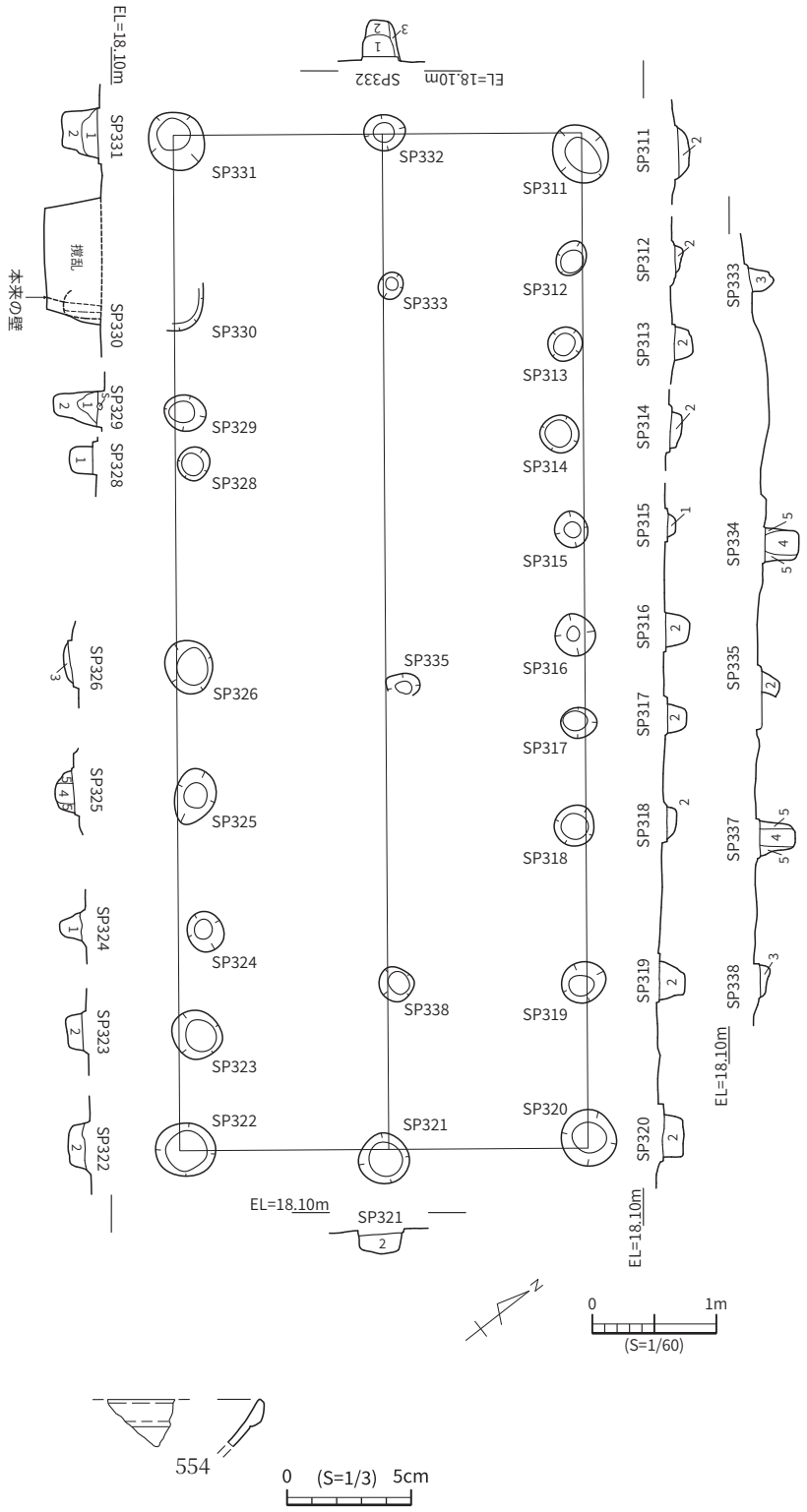


図 108　SB46　遺構平面・土層断面図、出土遺物

SB48 は 570940・570950・560940・560950 に位置し、Ⅵ層上面で検出した。プラン分類は A で、長軸 7.2 m、短軸 3.7 mの長方形となり、北西－南東を軸とする。なお、中柱の状況からプラン分類 A4 の建物跡が２棟重なっている可能性もある。

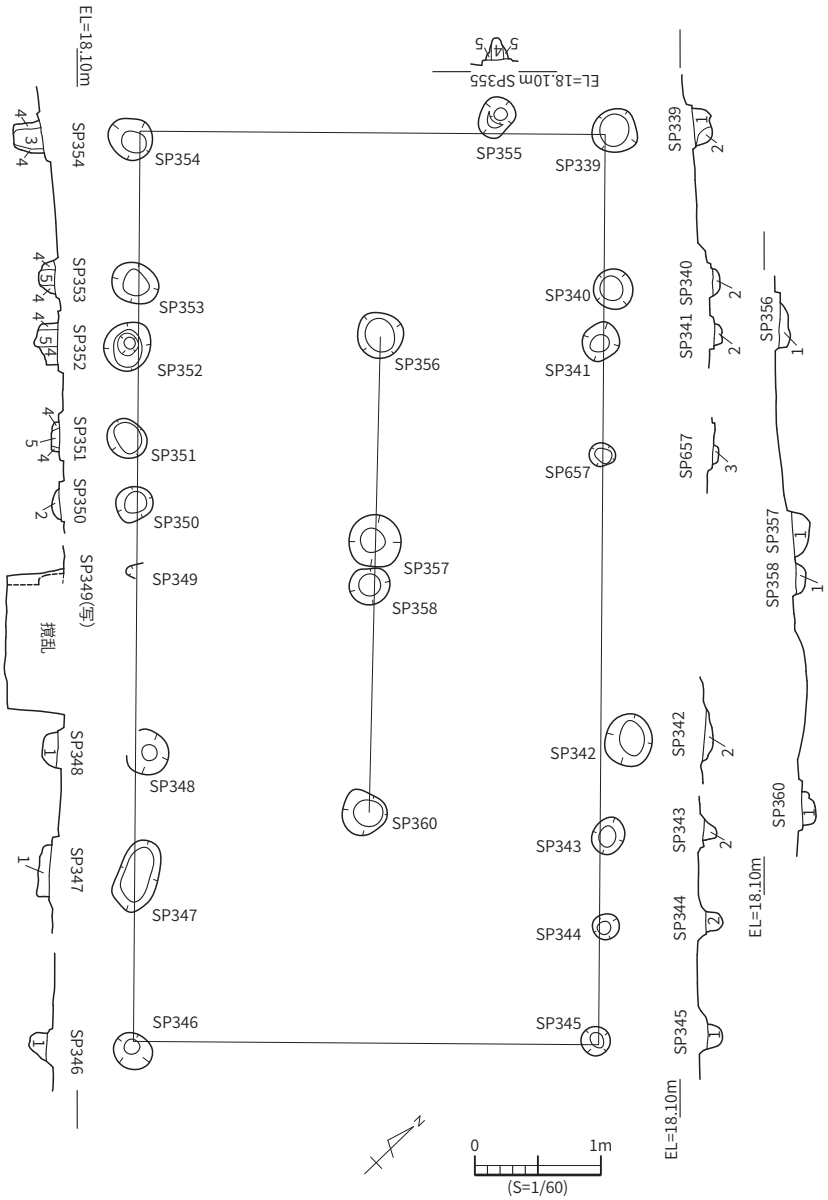


図 109　SB48　遺構平面・土層断面図

SB53 は 570920・560920 に位置し、Ⅵ層及びⅦ層上面から検出した。プラン分類は B1 を想定しているが、柱間が長いことから６本柱の可能性もある。長軸３m、短軸２mの長方形をとなり、北西－南東を軸とする。

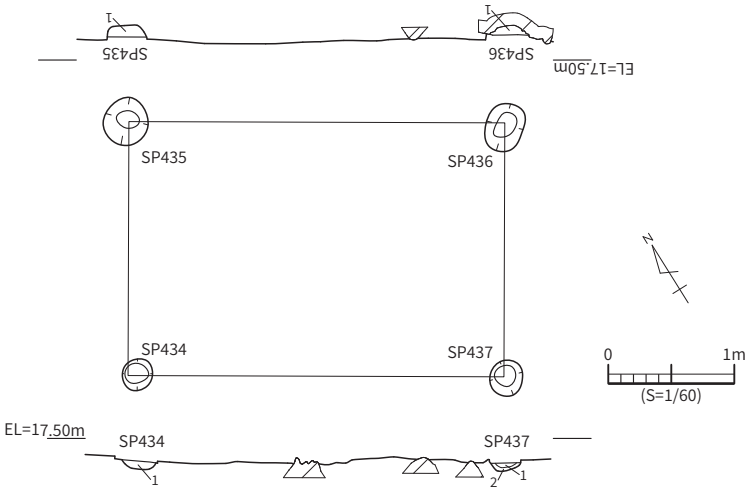


図 110　SB53　遺構平面・土層断面図

SB54 は 560940 に位置し、Ⅵ層上面から検出した。プラン分類は B2 で、長軸 2.7 m、短軸２mの長方形となり、北西－南東を軸とする。

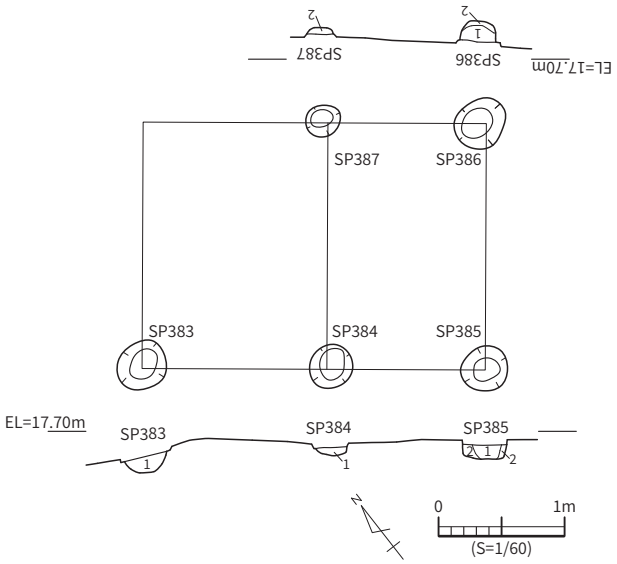


図 111　SB54　遺構平面・土層断面図

SB62 は 540940 に位置し、Ⅵ層上面から検出した。プラン分類は A4 で、長軸 5.3 m、短軸 3.4 mの長方形となり、北西－南東を軸とする。

遺物は SP503 からグスク土器第１様式の甕（555）が、SP500・SP505 からグスク土器第２様式の甕が出土している（556 ～ 558）。また、（558）は SP499・SP501・SP502・SP503 から出土したものが接合されたものである。

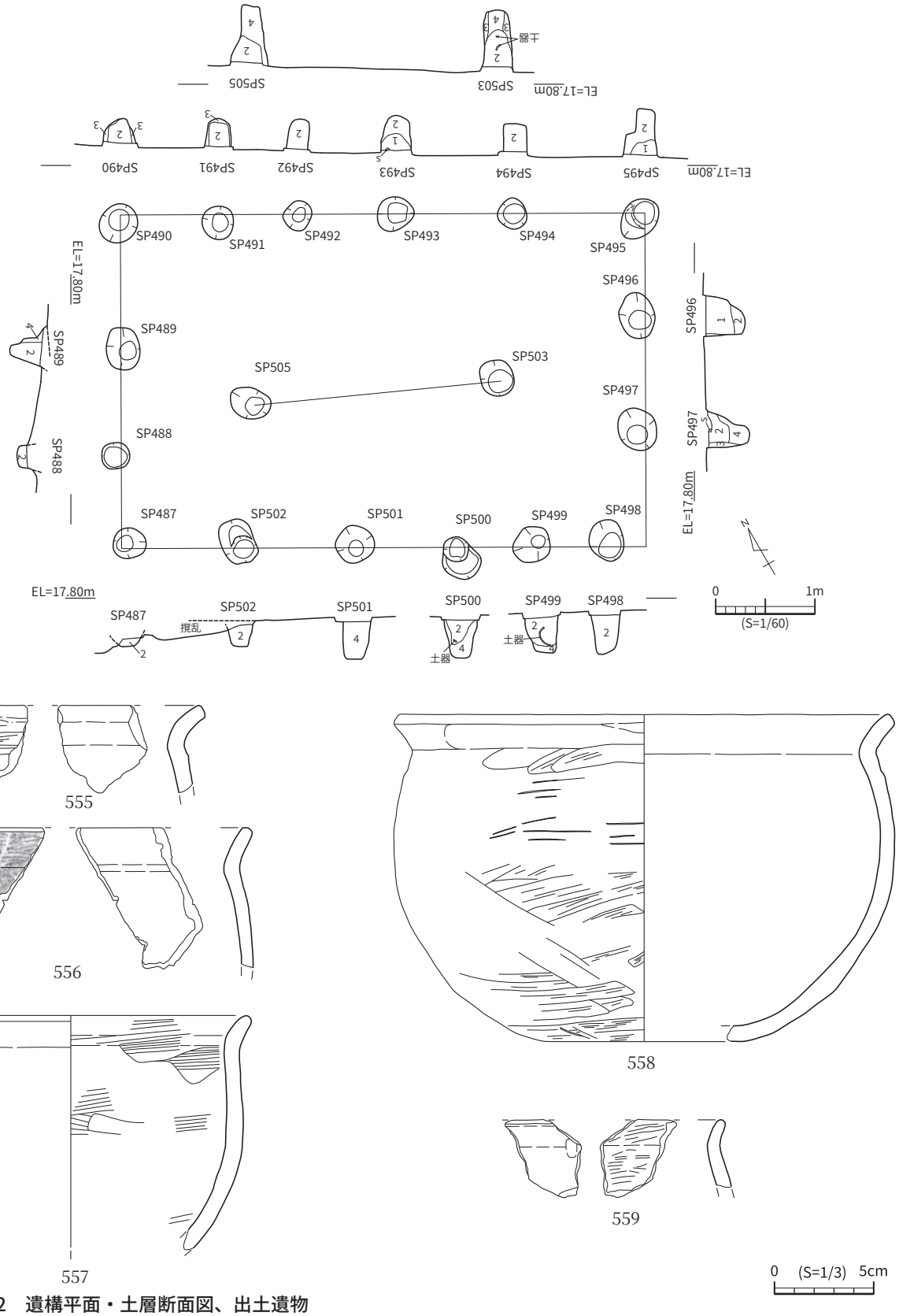


図 112　SB62　遺構平面・土層断面図、出土遺物

SB66 は 530940・520940 に位置し、Ⅵ層上面から検出した。プラン分類は A2 で、長軸 6 m、短軸 4.7 mの長方形となり、北西－南東を軸とする。中柱がプランの中心から南西にずれるが、中柱と梁行はピットを共有する。

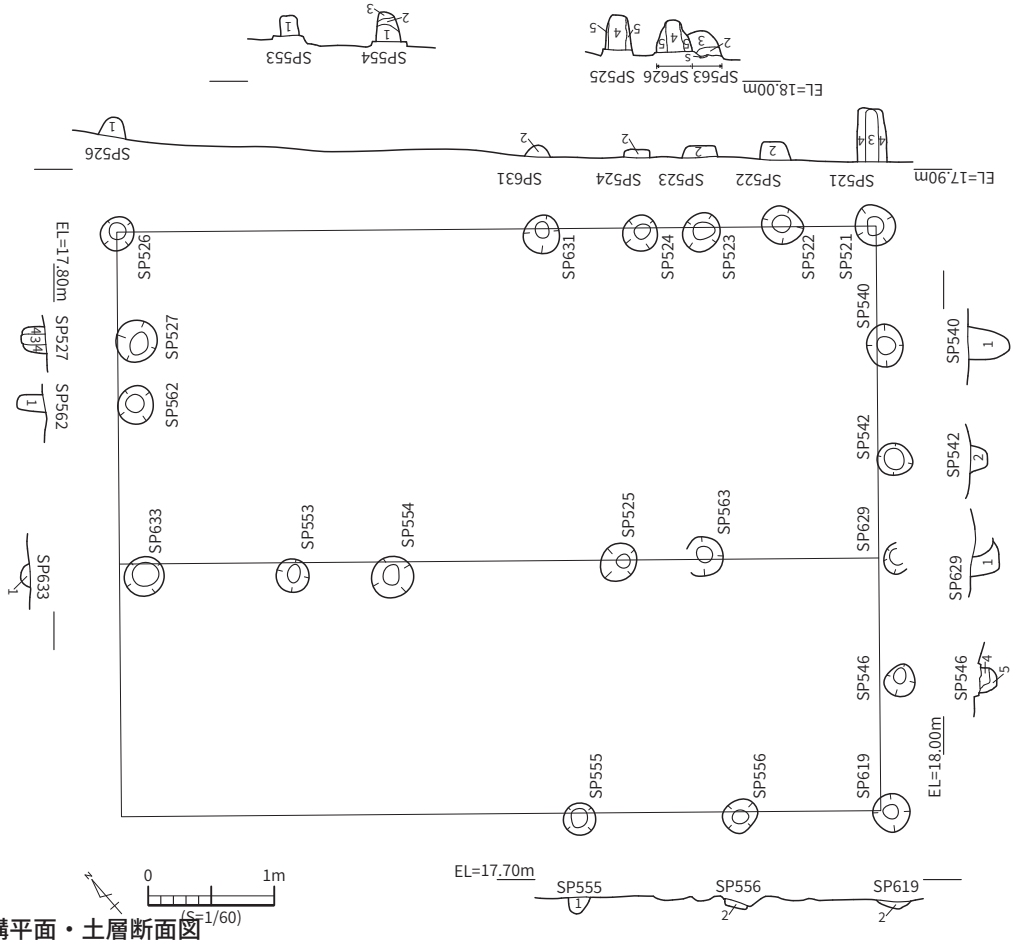


図 113　SB66　遺構平面・土層断面図

SB67 は 530940・520940 に位置し、Ⅵ層上面から検出した。プラン分類は A で長軸 3.7 m、短軸 3.4 mのやや正方形となり、北西－南東を軸とする。

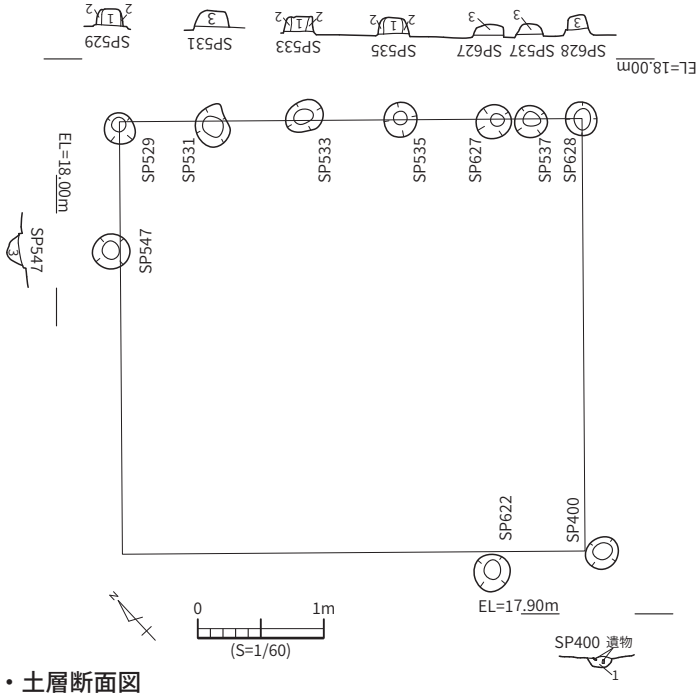


図 114　SB67　遺構平面・土層断面図

SB68 は 530940・520940 に位置し、Ⅵ層上面から検出した。プラン分類は A2 で、長軸 5.3 m、短軸 3.3 m の長方形となり、北西－南東を軸とする。

遺物は SP180 から閃緑岩製の磨斧が出土している。

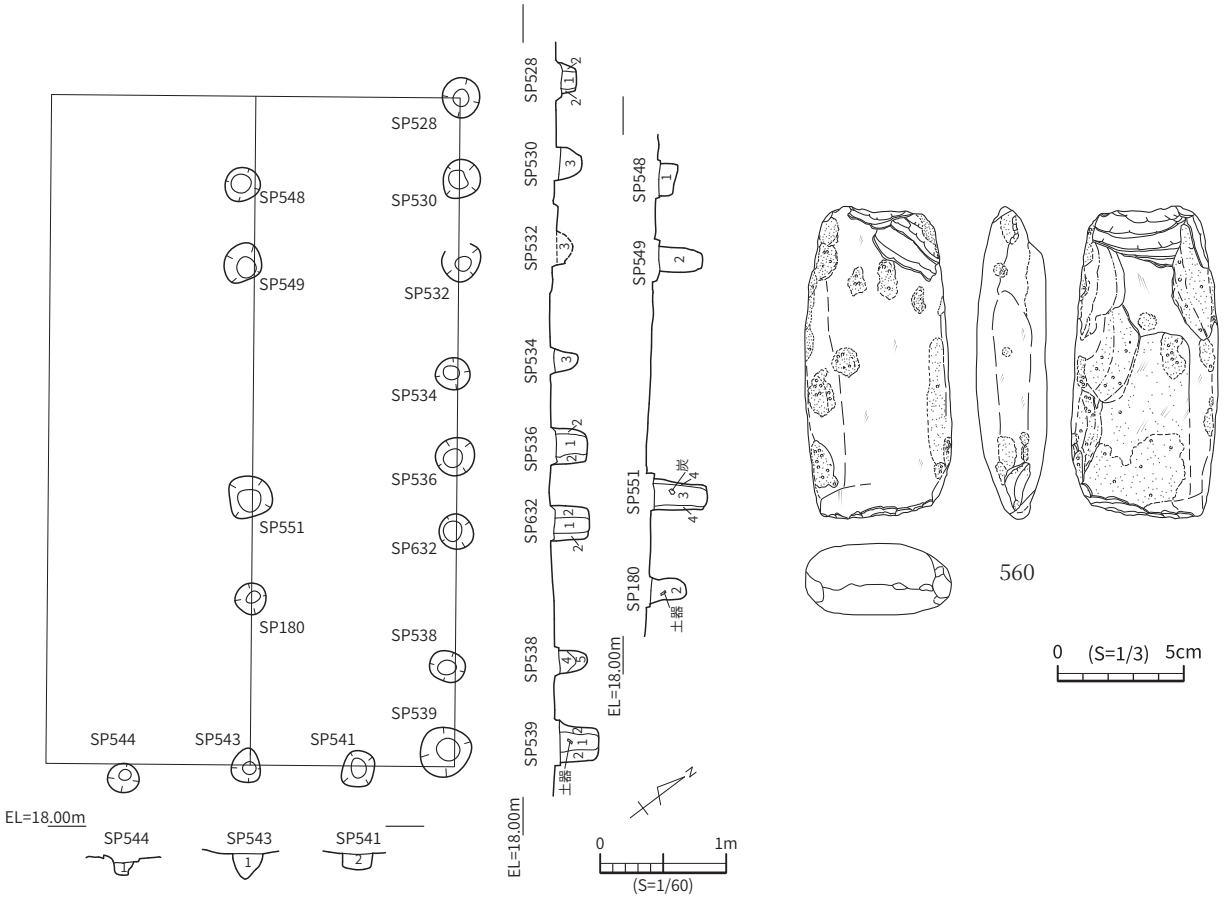


図 115　SB68　遺構平面・土層断面図、出土遺物

表 29　楚辺徳地原遺跡 C 区　遺物集計表１

地区	種類	土器																	羽口	骨製品	合計
	分類	室川	宇佐浜	仲原	阿波連浦下層	耳			底部					奄美系	弥生系	グスク		型式不明			
	遺構・層序					弧状	把手	こぶ状	平底	尖底	丸底	高台	不明			第2	型式不明				
C	SI1	2	1	21	51	3	2	1		1		1	1	1	1		158	1682		1	1927
	SI2	3	1	5	10		1										8	312			340
	SI3																1	28	1		30
	SI4			3	3				3								8	236			253
	SI5				1												1	21			23
	SK2				4						1					1	8	78			92
	SK3	1		1	1													77			80
	SK4																1	30			31
	SK5			5	3	1	1										51	263			324
	SK6		1															13			14
	SK7									1								7			8
	SK8	1		5	9		1										10	227			253
	SK9																	6			6
	SK10																	35			35
	SK11									1								22			23
	Ⅲ-1層			1																	1
	合計	7	3	41	82	4	5	1	3	3	1	1	1	1	1	1	246	3037	1	1	3440

表 30　楚辺徳地原遺跡 C 区　遺物集計表 2

地区	遺構・層序	種類	土器										合計
		分類	仲原	阿波連浦下層	耳	アカジャンガー	フェンサ下層	グスク				型式不明	
					把手			第1	第2	第3	型式不明		
	SB2										1	5	6
	SB3											4	4
	SB4							1			7	18	26
	SB5							1			3		4
	SB6										7	34	41
	SB7											51	51
	SB8		2					1			22	211	236
	SB9		4	1	1						7	147	160
	SB10											19	19
	SB11										1	96	97
	SB12											5	5
	SB13		1								1	19	21
	SB14		1									27	28
	SB15		1								14	68	83
	SB16			1							19	142	162
	SB17		5	1	1						5	60	72
	SB18										3	35	38
	SB19										8	55	63
	SB20										1	14	15
	SB22			2								15	17
	SB23											16	16
	SB24										3	24	27
	SB25		2								4	27	33
	SB26											12	12
	SB27										2	10	12
	SB28										2	17	19
	SB29										1	4	5
	SB30										5	14	19
	SB31										1	25	26
	SB32											3	3
	SB33			1								11	12
	SB34											13	13
	SB35										1	7	8
	SB36										6	4	10
	SB37										1	5	6
	SB38										5		5
C	SB39										4		4
	SB40		1								5	2	8
	SB41											8	8
	SB42										1	6	7
	SB43											6	6
	SB44											12	12
	SB45											5	5
	SB46											8	8
	SB47										1	3	4
	SB48											3	3
	SB49											3	3
	SB50										5	5	10
	SB51										15	4	19
	SB52											1	1
	SB53										1	2	3
	SB54										1	1	2
	SB55										5	14	19
	SB56										10		10
	SB57										17	1	18
	SB58										1		1
	SB59										6		6
	SB60										1	2	3
	SB61										5	1	6
	SB62		1					3	2	5	35	9	55
	SB64							1					1
	SB65										4		4
	SB66										6	2	8
	SB67							1			10		11
	SB68										8	5	13
	SB69										13	2	15
	SB70										2		2
	SB71										1	1	2
	SB72										7		7
	SB73					2					2	4	8
	SB74				1							7	8
	SB75					1					1		2
	SB76		1								2	10	13
	合計		19	6	2	1	3	8	2	5	299	1344	1689

表 31　楚辺徳地原遺跡 C 区　遺物集計表 3

地区	遺構・層序	種類 / 分類	カムィヤキ	中国産白磁			羽口	合計
			A群	IV類	IV-1類	分類不明		
C	SB8		1	2	1		24	28
	SB11		1	1			3	5
	SB15			1				1
	SB24					1		1
	SB34		1					1
	SB46			1				1
	SB62						1	1
	合計		3	5	1	1	28	38

掲載プラン及びプラン以外の出土の遺物

遺物は仲原式（562・563）が SP663 と SB17 の SP210 から、阿波連浦下層式（564・565）が SB16 の SP135 と SP211 から出土しているが、周辺に弥生並行期の遺構があることから混入と考えられる。（566・567）はフェンサ下層式と考えられるもので SB73 の SP424 から出土しており同一個体と考えられる。（568）は SB75 の SP399 から出土している。（571）はグスク土器の角状の耳で SB61 の SP484 から出土している。（569・570）はグスク土器で、胎土に滑石は混入されないが、器面にのみ確認できるもので、（569）は SP7、（570）は SB24 の SP182 から出土している。（572）は中粒砂岩製の敲磨石で SB35 の SP362 から出土している。

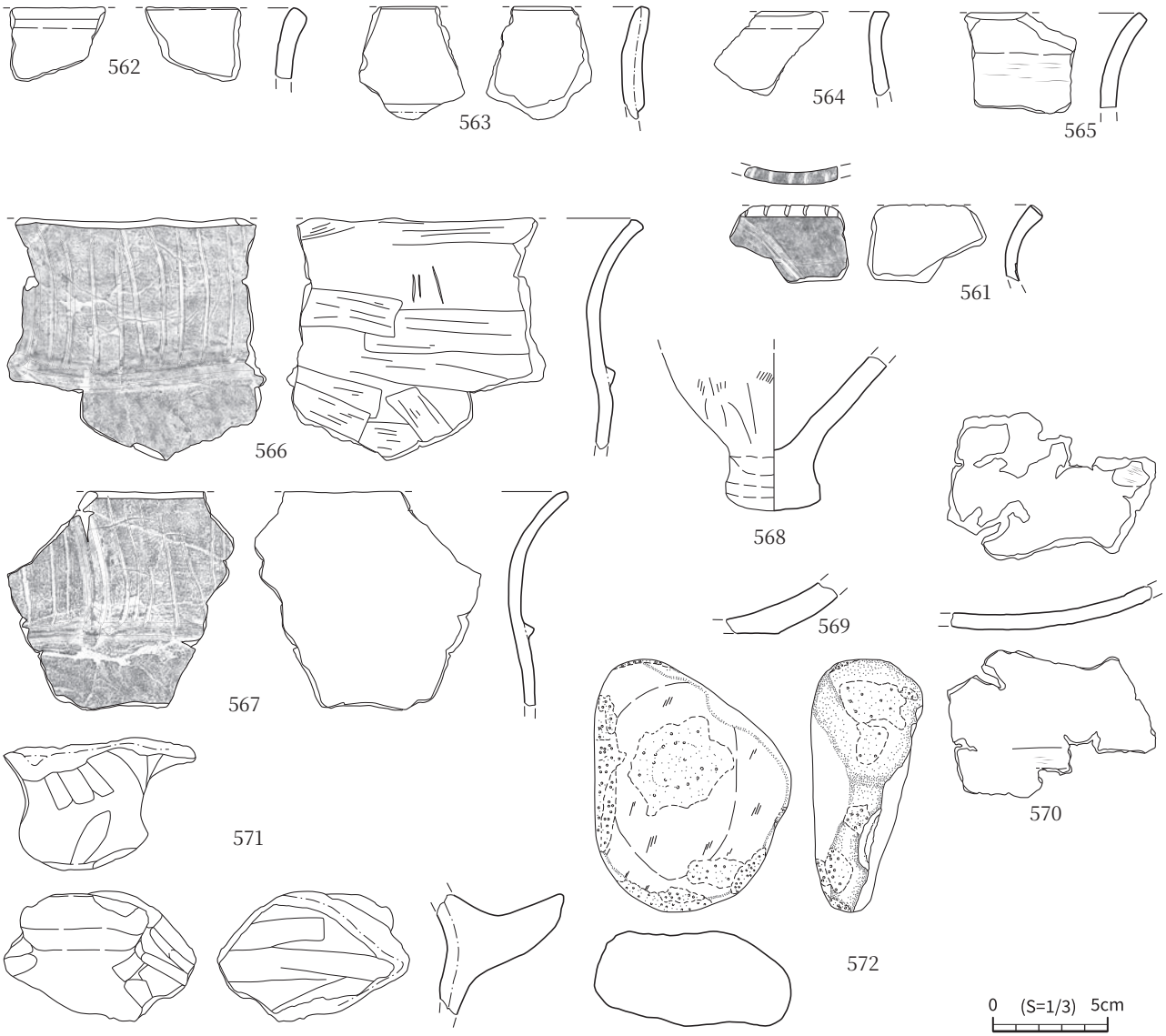


図 116　掲載プラン及びプラン以外の出土遺物

SK4 は 590960 に位置し、Ⅱ層掘削後のⅥ層上面で検出した。遺構上面は後世の影響により削平されている。平面形は長軸 1.37 m、短軸 0.6 m、深さ 0.1 mの長方形となり北西―南東を軸とする。遺構覆土は１層が褐色（10YR4/4）シルト～極細砂、２層が暗褐色（10YR3/3）のシルト～極細、３層が褐色（10YR4/4）のシルト～極細砂となる。

遺構はグスク時代の木棺を伴う土坑墓を想定しているが、上部が削平されているため、１層が遺構使用後の埋土か使用時の堆積層かは確認できなかった。１層の周囲に５から６㎝幅の２層があり、木棺の木枠痕と考えれる。２層中に木片等は確認できなかったことから後に撤去された可能性がある。南東部の両端が突起状になっており、木枠の設置または撤去の際の掘方と考えられる。３層が遺構構築層となる

遺構からは人骨は確認できなかったが、移動または削平により消失してしまったのかは不明である。

遺物はグスク時代のものと考えられるものは１点で小破片のため型式は不明である。

１層の年代測定及び微細物分析を実施しており、974 ± 21BP の値を得た。また、微細物分析では炭化物等の種子や木材は確認できなかった。

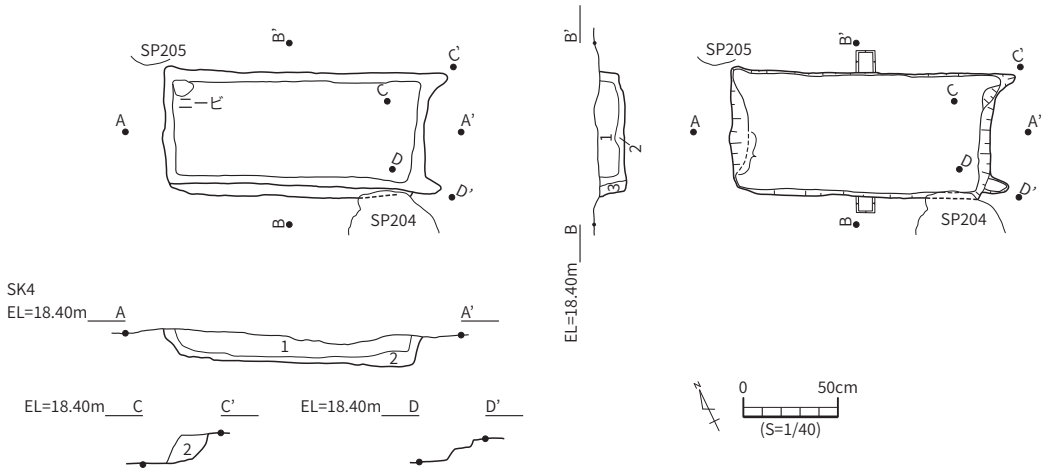


図 117　SK 4 遺構平面・土層断面図

SK9 は 590950 に位置し、Ⅱ層掘削後のⅥ層上面で検出した。平面形は長軸 1.4 m、短軸 0.5 mの長方形となり北東―南西を軸とする。SK4 と同様のグスク時代の土坑墓を想定しているが、SK4 のように１層の周囲に木枠痕のような痕跡は確認できず、人骨及びグスク時代の遺物も確認できなかった。

SK10 は 590950 に位置し、Ⅱ層掘削後のⅥ層上面で検出した。遺構平面は長軸１m、短軸 0.5 mの長方形となり北東―南西を軸とする。SK4 と同様のグスク時代の土坑墓を想定しているが、SK9 と同様に１層の周囲に木枠痕のような痕跡は確認できず、人骨及びグスク時代の遺物も確認できなかった。

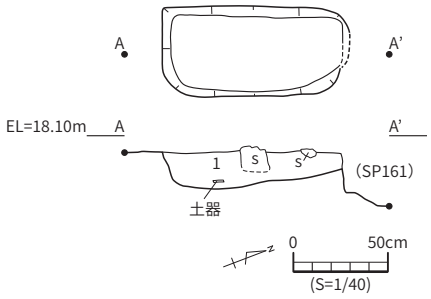


図 118　SK 9　遺構平面・土層断面図

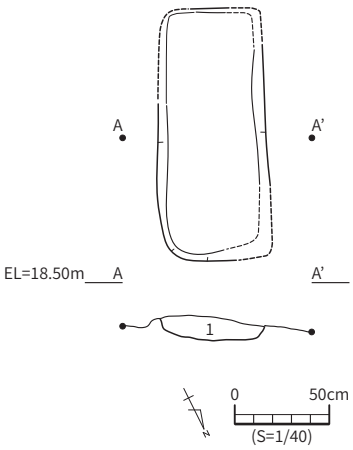


図 119　SK10　遺構平面・土層断面図

楚辺徳地原遺跡Ｄ区

楚辺徳地原遺跡Ｄ区ではグスク時代のピットを検出した。ピットはⅥ層とⅦ層上面で検出した。

ピットは掘立柱建物跡に伴うもので、プランを 34 棟分確認した。

図 120　Ｄ区　グスク時代遺構配置図

表 32　Ｄ区　遺構プラン一覧表

遺構名	ピット	掲載	分類	外枠		中柱
				長軸(m)	短軸(m)	本数
SB 1	SP403,**404**,405	—	B2	3.3	2.3	—
SB 2	SP430,**401**,371	—	B1	3.3	2.4	—
SB 3	SP370,368,393,{392,391},{400,**399**}	—	B1	2.3	2	—
SB 4	SP412,360,431,355,433,376,**346**,366,365,389,390,448	○	A3	6.5	5.4	2
SB 5	SP**458**,{**418**,419},350,354	○	B1	2.1	1.6	—
SB 6	SP384,**375**,**395**,348,378,349	○	B4	3.1	1.8	—
SB 7	SP**339**,340,**49**,434,341,435,342,408,410,414,415,**449**,367,429,**343**,344,**2**,**3**,**345**,**4**,**5**,**6**,411,380,381,{382,**383**},**7**,353,352,351,**388**,363,**364**,{385,**386**},416,417	○	A1	13.4	5.6	5
SB 8	SP361,387,250,**8**,**407**,406	○	B2	3.3	2.2	—
SB 9	SP357,436,{**9**,**356**},**338**	—	B1	3	2.6	—
SB10	SP306,{326,325},{**358**,359}	—	B1	2.2	2	—
SB11	SP289,**300**,301,302,303,304,322,323,305,309,308,307,459,420,**437**,294,295,296,**11**,286,**285**,284,446,**438**,299,298,**10**	○	A1	10.8	3.7	4
SB12	SP279,**264**,265,266,267,268,269,288,**291**,**292**,**293**,**13**,**12**,283,282,297,**287**,**14**	○	A1	10.3	3.7	3
SB13	SP**270**,271,272,278,277,276,275,273,**274**	—	A1	—	2.4	2
SB14	SP**53**,**241**,187,173,**186**,184,169,158,164,447,163,{242,**243**,**244**},**26**,**25**,{**423**,**24**},422,**220**,**321**,**252**,**251**,234,**50**,259,236,238,235,**1**,{257,258},239,191,240,**52**,**53**,**216**,**256**	○	A2	10.9	5.6	2
SB15	SP**214**,198,**157**,156,165,**28**,167,{310,311},{**315**,**314**},**27**,**23**,**421**,**281**,**280**,**254**,{**16**,255},**17**,232,**193**,**18**,233,**19**,**221**	○	A1	9.1	4.2	1
SB16	SP115,140,199,**29**,**245**,**20**,**21**,166,**445**,**196**,228	○	A	7.5	4.1	—
SB17	SP**22**,197,**189**,**188**	○	B1	2.2	1.8	—
SB18	SP**162**,185,**170**,138,137,**128**	○	B2	3.3	2.1	—
SB19	SP**136**,183,168,139,**441**,**182**	○	B2	3.6	2.1	—
SB20	SP**67**,**68**,**69**,{**89**,**90**},{103,**104**},**91**	○	B2	3.3	2.2	—
SB21	SP**78**,**77**,**57**,**56**,**54**,**76**	—	B2	3.2	2.1	—
SB22	SP**88**,**33**,**96**,**442**,**30**,**95**,**31**,{**32**,**81**},**82**	○	B3	4.9	2.8	—
SB23	SP150,**146**,**131**,**93**,**453**,{**108**,**107**},**119**,177,**113**	○	B3	4.7	2.9	—
SB24	SP**123**,**124**,**125**,126,**127**,**215**,**147**,205,98,99,**439**,100	—	A	8.6	4.1	—
SB25	SP129,454,{247,**248**}	—	B1	2.9	2.1	—
SB26	SP**43**,118,**42**,116,**117**,**41**,114,144,**94**,142,**143**,**37**,174,**34**,152,**35**,{**111**,**112**},121,**122**,**178**,**237**,180,**133**,135,**218**,**161**,440,{148,**149**}	○	A1	10.3	3.8	3
SB27	SP**36**,**38**,**179**,**40**,159,**217**,120,452,**175**,101,130,**44**,{**45**,92},**84**,83,153,**46**,97,106,155,154,160,**51**,134,**109**,145	○	A1	9.2	4.4	3
SB28	SP**47**,**55**,58,59	○	B1	2.2	2	—
SB29	SP63,**60**,64,**71**	○	B1	3.1	2.1	—
SB30	SP**73**,61,65,**70**	○	B1	2.2	2.1	—
SB31	SP72,**62**,66,**48**	○	B1	2.1	2	—
SB32	SP**86**,87,**80**,324	—	B	—	—	—
SB33	SP85,**79**	—	B	—	—	—
SB34	SP317,261,249,427,**444**,443,211	—	A	—	—	—

SB ４は 580860・580870・570870 に位置し、Ⅵ層及びⅦ層上面で検出した。プラン分類はA3で、長軸6.5ｍ、短軸 5.4 ｍの北西－南東を軸とする。SB ５・６・７とプランが重なる。SB ５・７とはピットの切り合いは確認できないが、SB ４の遺構が SB6 の遺構を切っていることから、SB ４は SB ６以前に建てられたと考えられる。

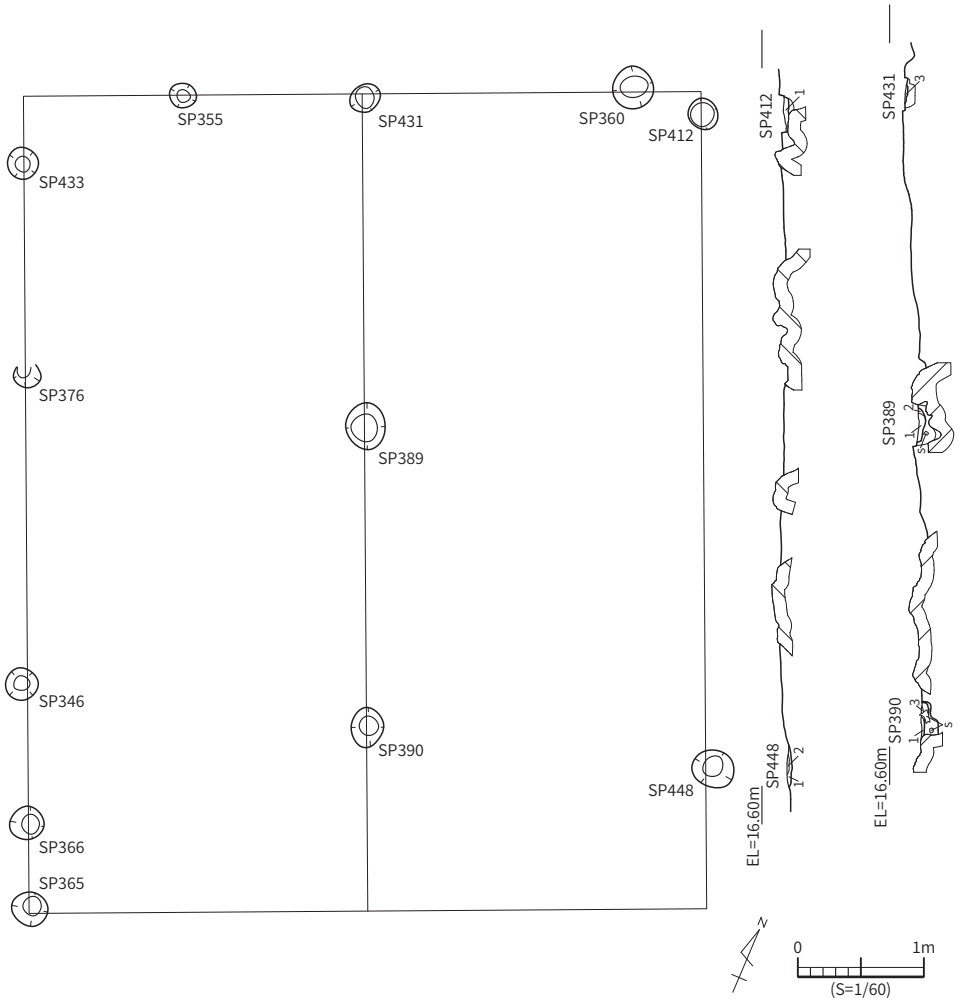


図 121　SB4　遺構平面・土層断面図

SB ５は 580860・580870 に位置し、Ⅵ層及びⅦ層上面で検出した。プラン分類は B1 で、長軸 2.1 m、短軸 1.6 mの長方形となり、北西－南東を軸とする。他の分類 B2 の規模と比べると小さい。

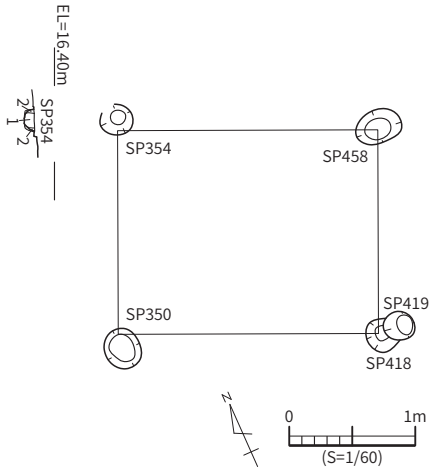


図 122　SB5　遺構平面・土層断面図

SB ８は 580860 に位置し、Ⅵ層及びⅦ層上面で検出した。プラン分類は B2 で、長軸 3.3 m、短軸 2.2 mの長方形となり、北西－南東を軸とする。

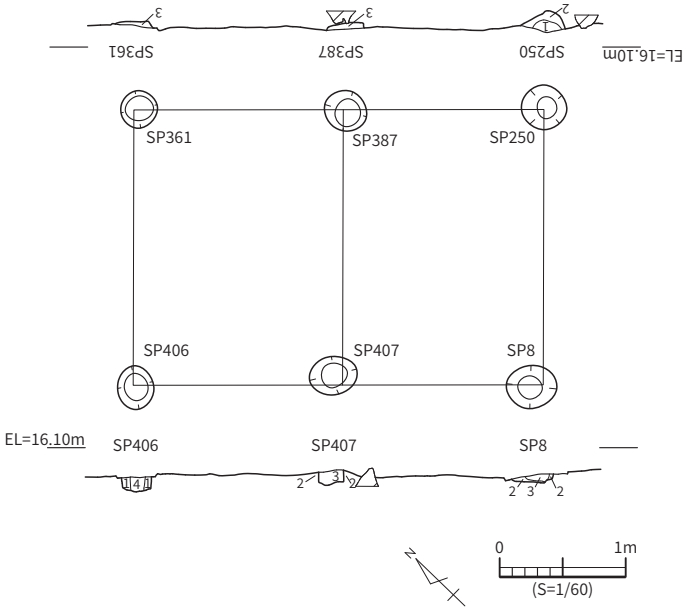


図 123　SB8　遺構平面・土層断面図

SB ６は 580860・580870・570860 に位置し、Ⅵ層及びⅦ層上面で検出した。プラン分類は B4 で、長軸 3.1 m、短軸 1.8 mの長方形となり、北西－南東を軸とする。

遺物は SP395 からチャートの粗割片（573）と SP375 から緑色片岩の磨製石斧（574）が出土している。

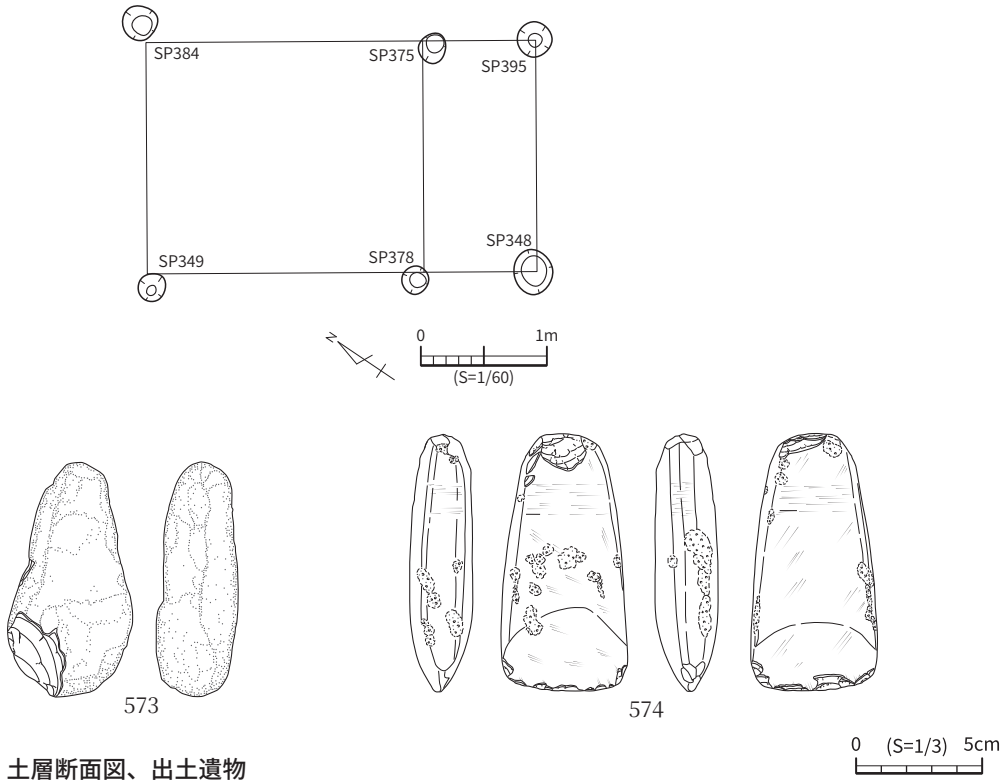


図 124　SB6　遺構平面・土層断面図、出土遺物

SB7 は 580860・580870・570860・570870 に位置し、VI層及びVII層上面で検出した。プラン分類は A2 で、長軸 13.4 m、短軸 5.6 mの長方形となり、北西－南東を軸とする。

遺物は SP383 から加工痕を有する滑石片が出土している。

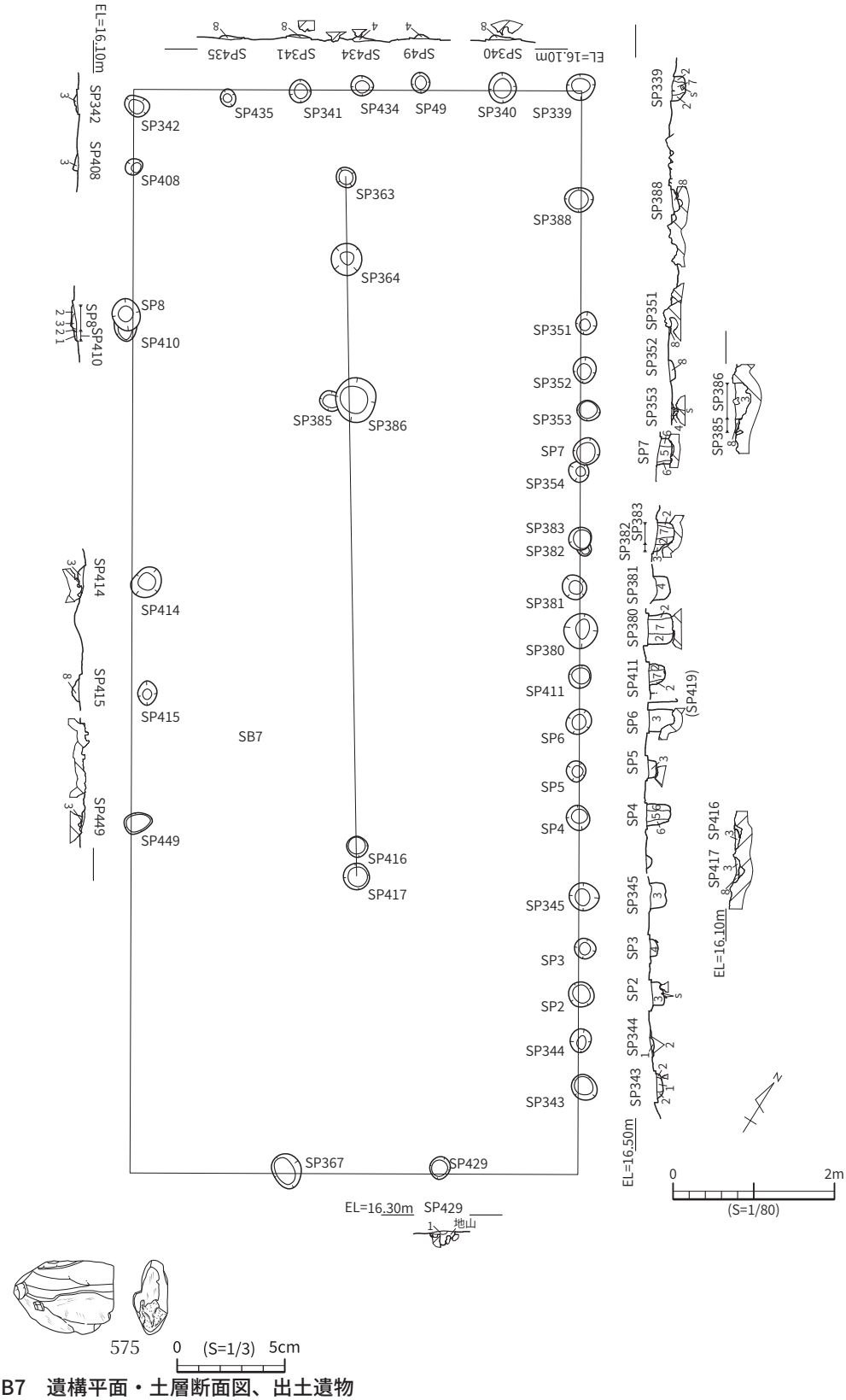


図 125　SB7　遺構平面・土層断面図、出土遺物

SB11 は 590850・590860・580850・580860 に位置し、VI層上面で検出した。プラン分類は A1 で、長軸 10.8 m、短軸 3.7 mの長方形となり、北西－南東を軸とする。

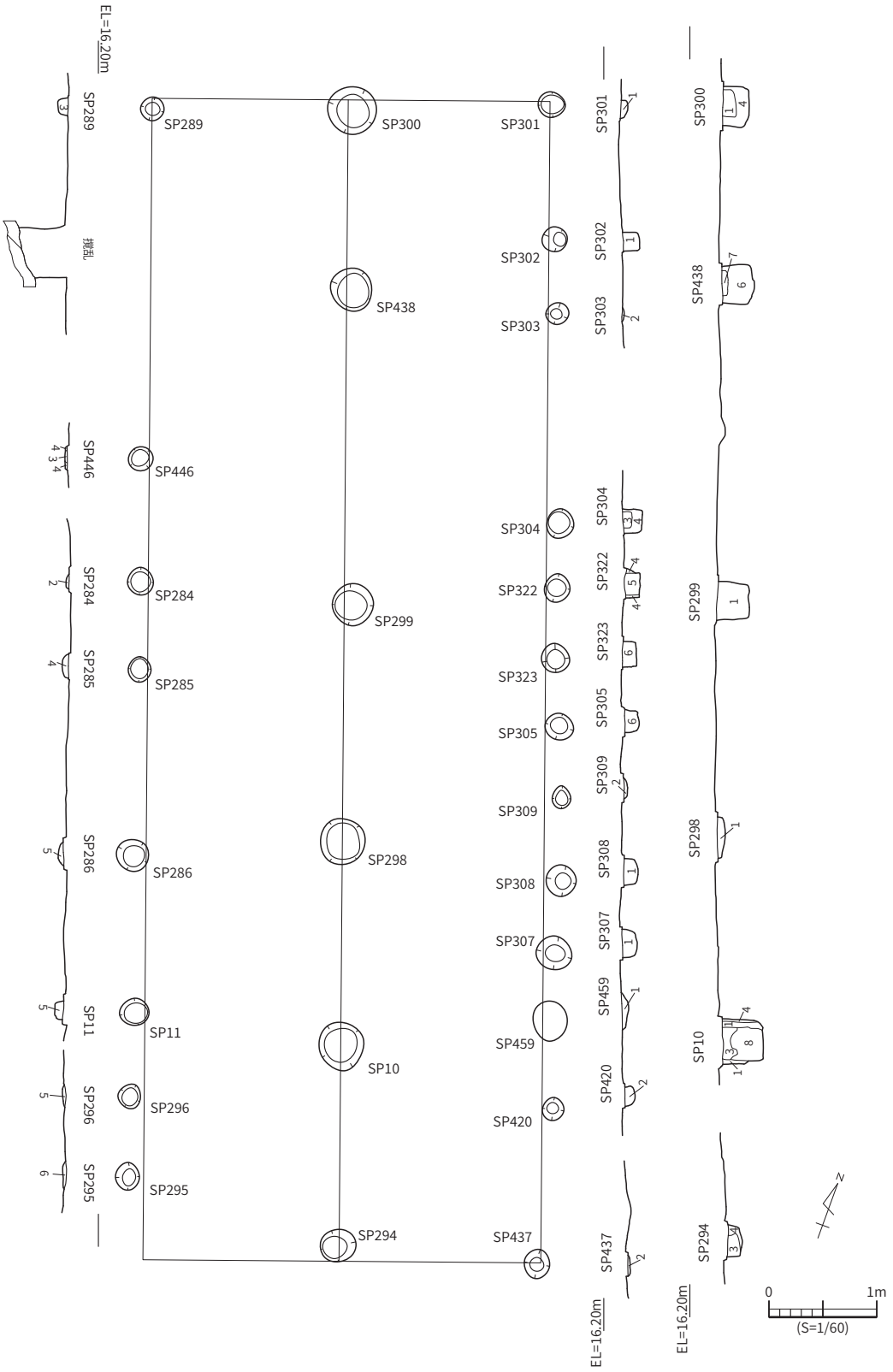


図 126　SB11　遺構平面・土層断面図

SB12 は 590850・580850 に位置し、Ⅵ層上面で検出した。プラン分類は A1 で、長軸 10.3 m、短軸 3.7 mの長方形となり、北西－南東を軸とする。

遺物は SP12 から須恵器と考えられる（576）が出土している。

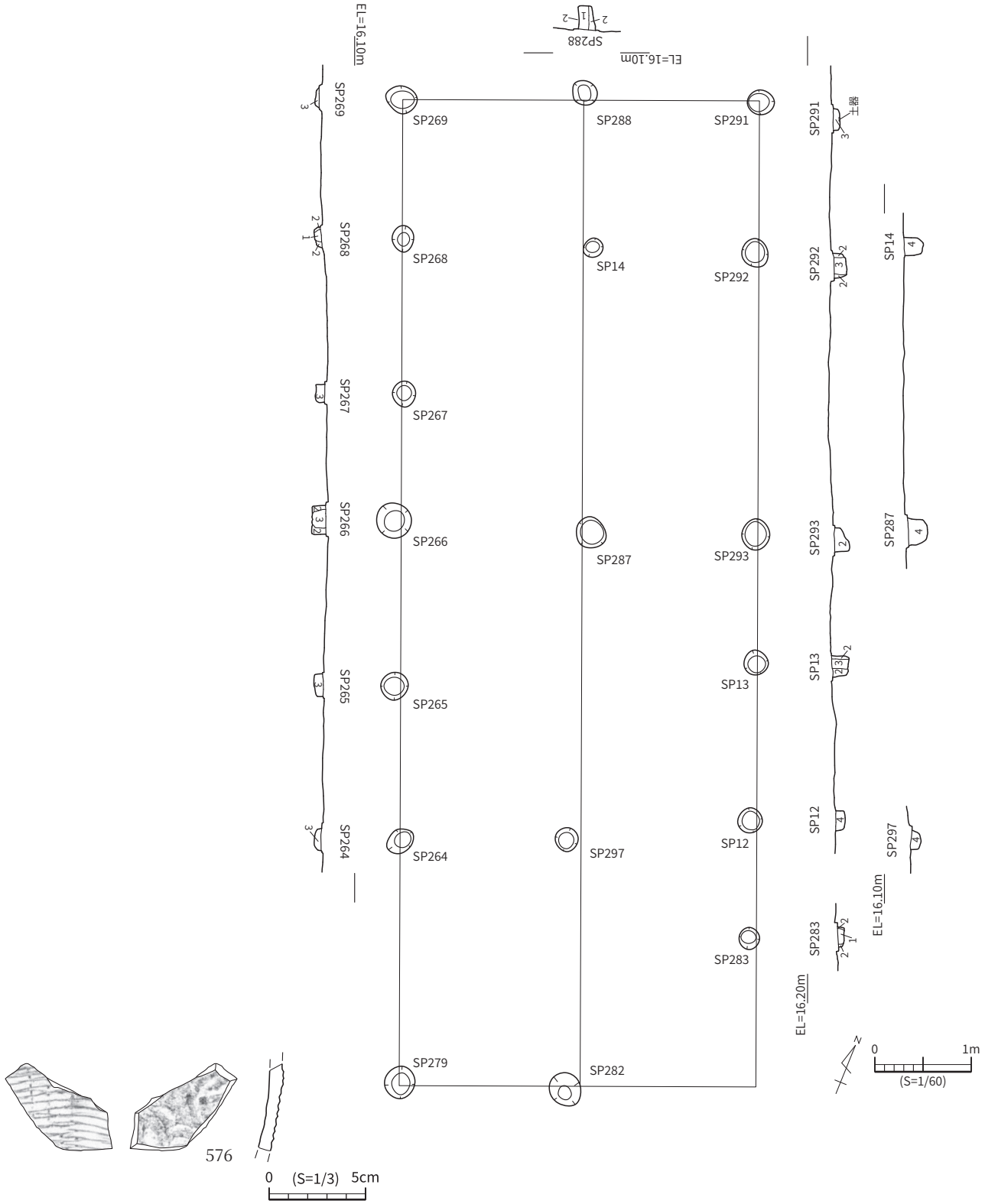


図 127　SB12　遺構平面・土層断面図、出土遺物

SB14 は 570850・570860・560850・560860 に位置し、Ⅵ層及びⅦ層上面で検出した。プラン分類は A2 で、長軸 10.9 m、短軸 5.6 mの長方形となり、北西－南東を軸とする。

遺物は SP220 からくびれ平底の底部（577）が、SP24 からグスク土器の胴部（578）が、SP1 から中国産白磁の大宰府編年のⅣ類（579）が出土している。

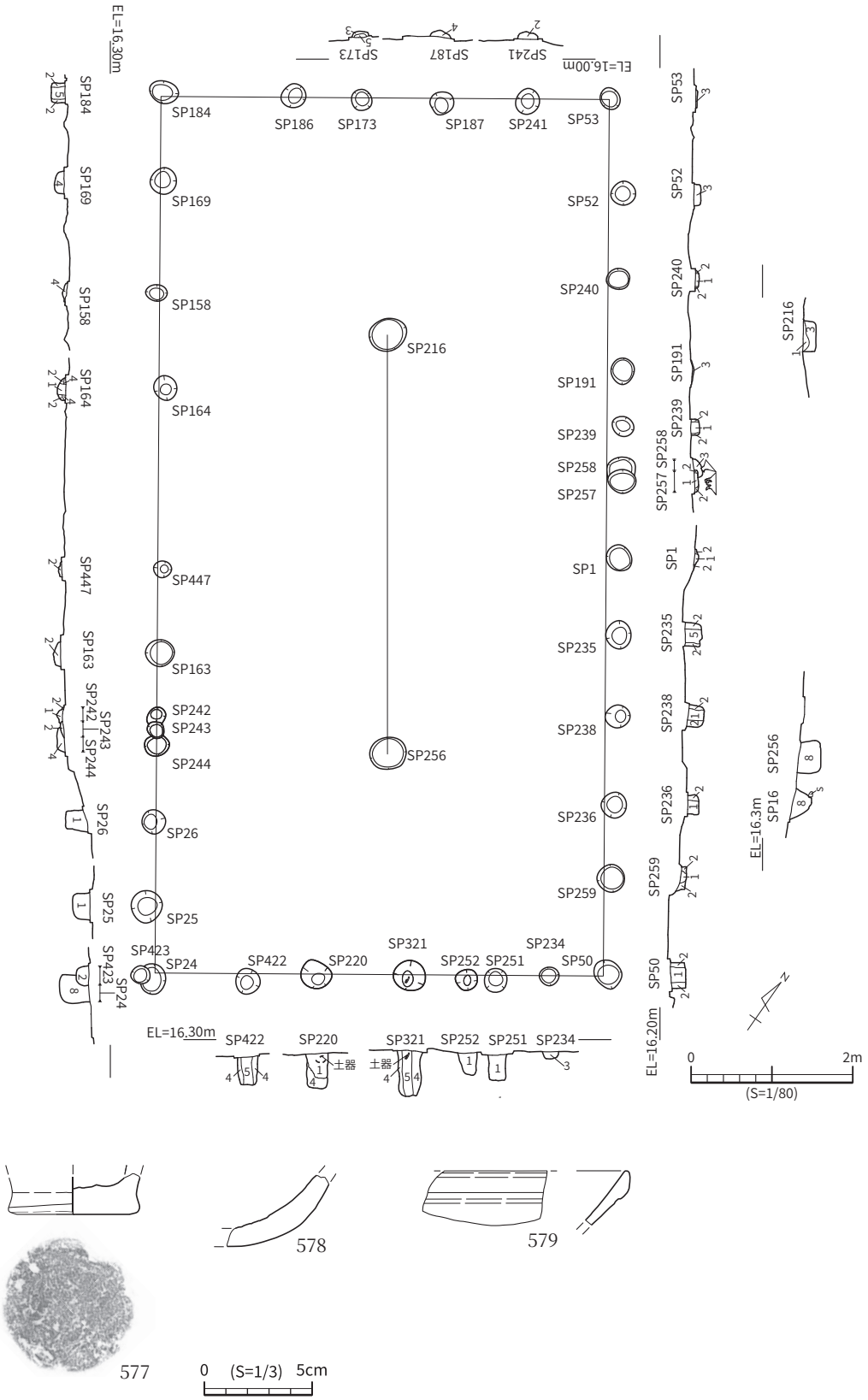


図 128　SB14　遺構平面・土層断面図、出土遺物

SB15 は 570850・570860・560850・560860 に位置し、Ⅵ層上面で検出した。プラン分類は A1 で、長長軸 9.1 m、短軸 4.2 mの方形となり、北西－南東を軸とする。

遺物はグスク土器や石器が出土している。グスク土器は第１様式の鍋（580 ～ 585）と甕（586）、底部（587 ～ 591）が SP280（588）、SP281（582）・SP23（581・584・586・590・591）・SP421（583・587）・SP254（589）から出土している。（580）は SP280 と SP281、（585）は SP23 と SP24 の接合資料である。このうち（580・587）は胎土に滑石を混入するものである。

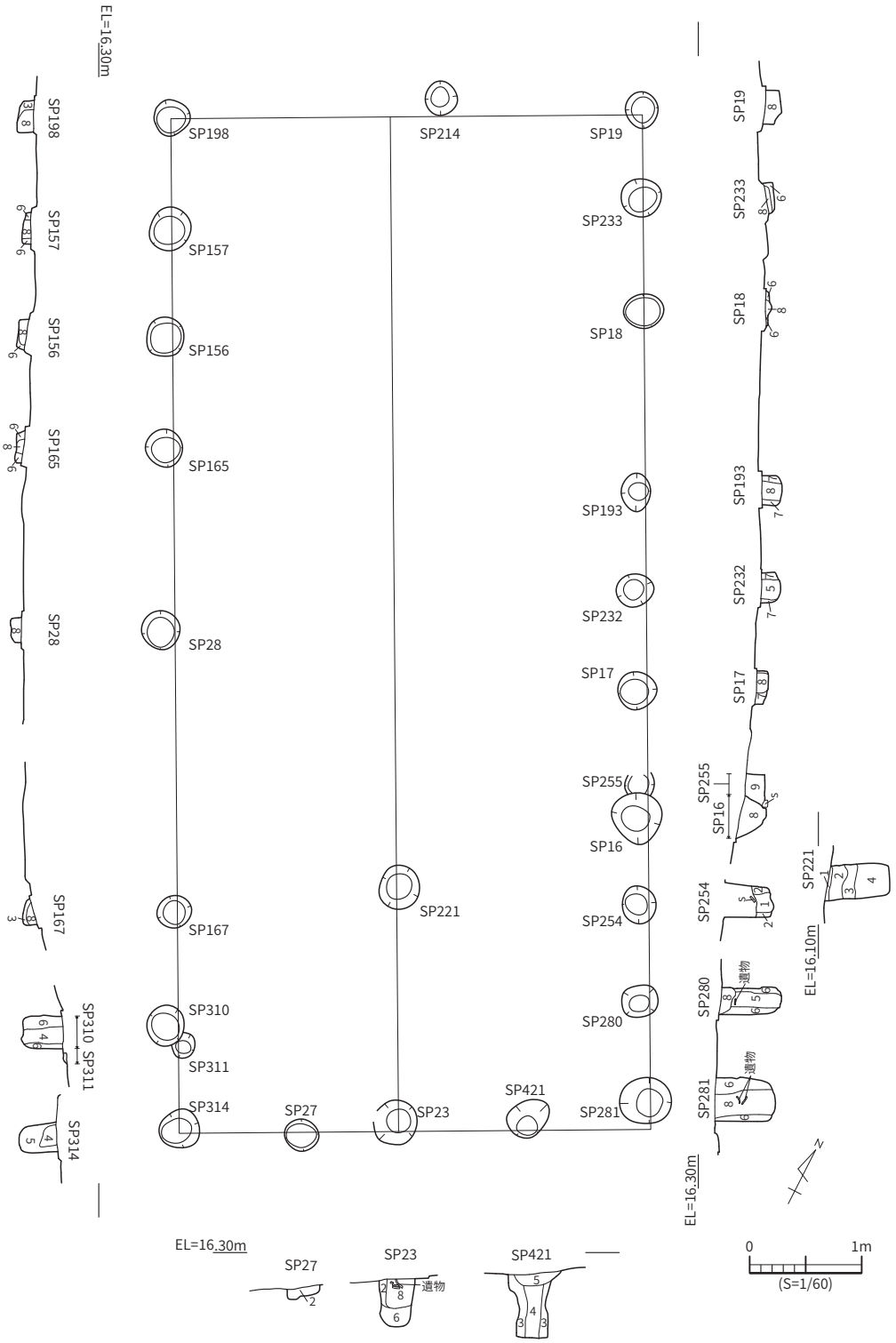


図 129　SB15　遺構平面・土層断面図

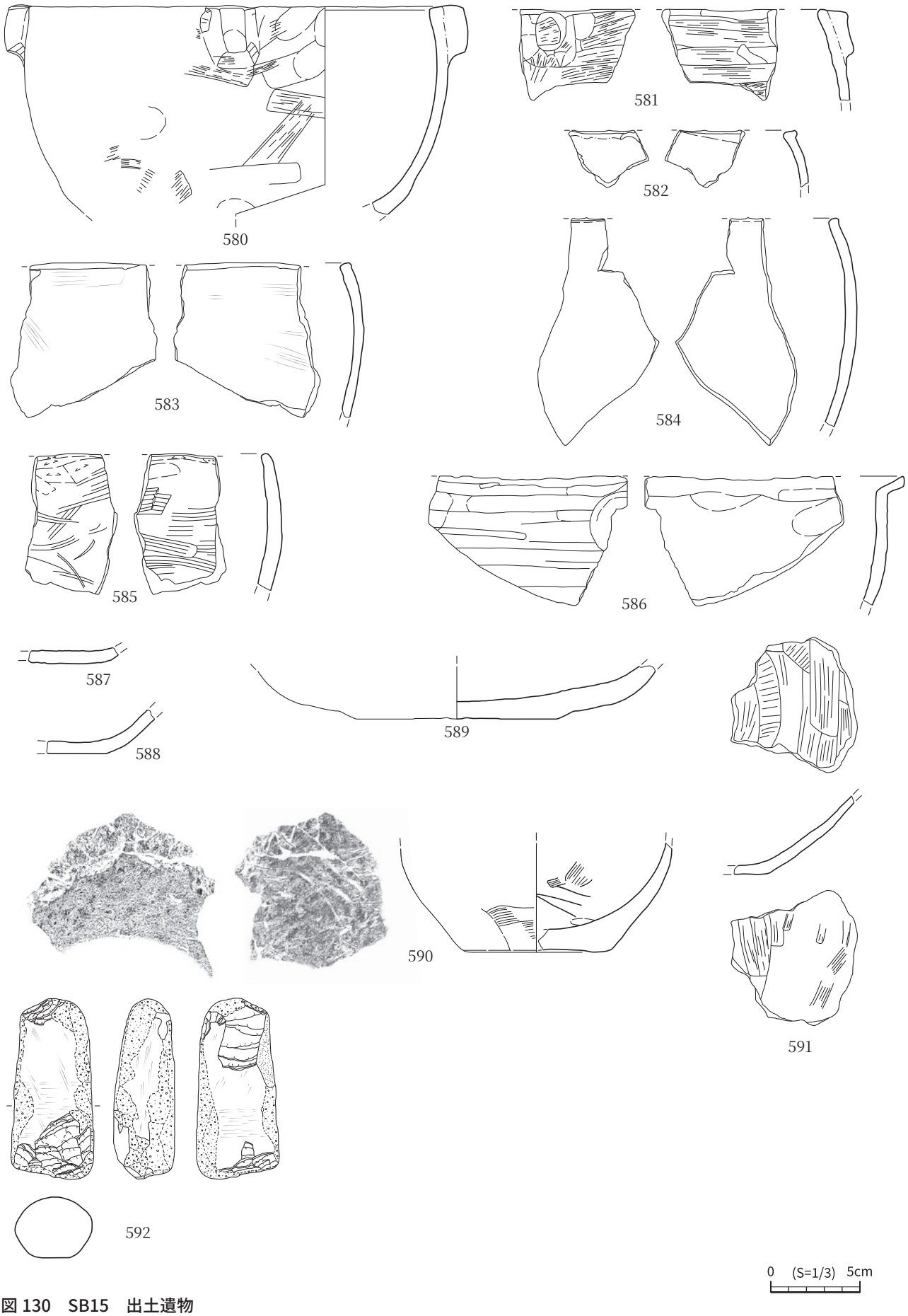


図 130　SB15　出土遺物

SB16 は 570850・560850・560860 に位置し、VI層上面で検出した。プラン分類は A で、長軸 7.5 m、短軸 4.1 mの長方形となり、北西－南東を軸とする。

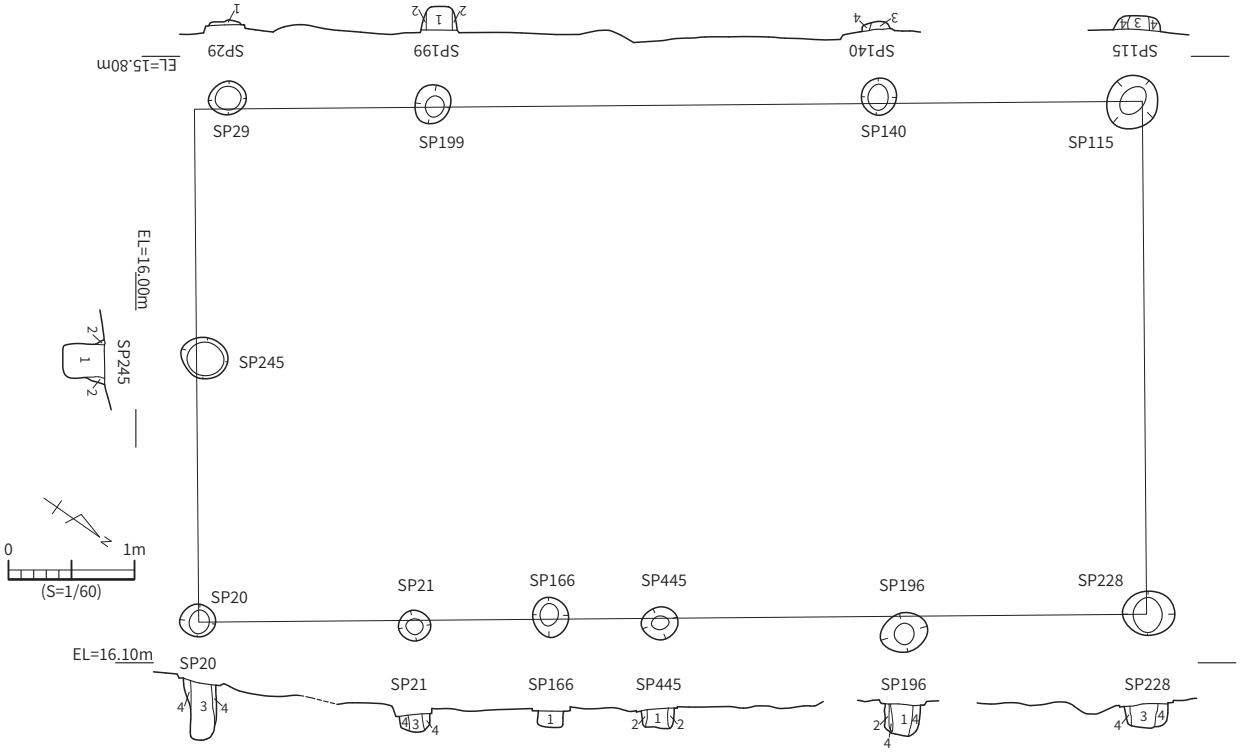


図 131　SB16　遺構平面・土層断面図

SB17 は 570850 に位置し、VI層上面で検出した。ププラン分類は A1 で、長軸 2.2 m、短軸 1.8 mのやや長方形となり、北西－南東を軸とする。

遺物は SP188 からグスク土器第３様式の甕（593）が出土している。

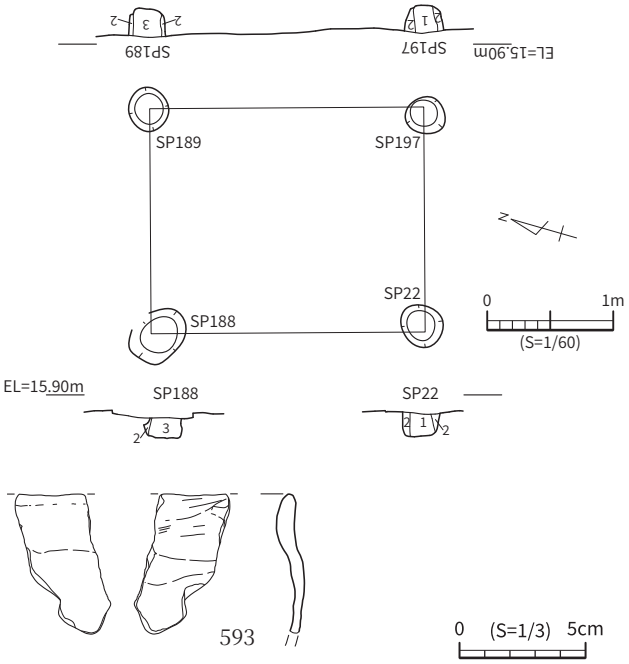


図 132　SB17　遺構平面・土層断面図、出土遺物

SB18 は 570850 に位置し、VI層上面で検出した。プラン分類は B2 で、長軸 3.3 m、短軸 2.1 mの長方形となり、北西－南東を軸とする。

遺物は SP162 からグスク土器第１様式の鍋（594）が出土している。

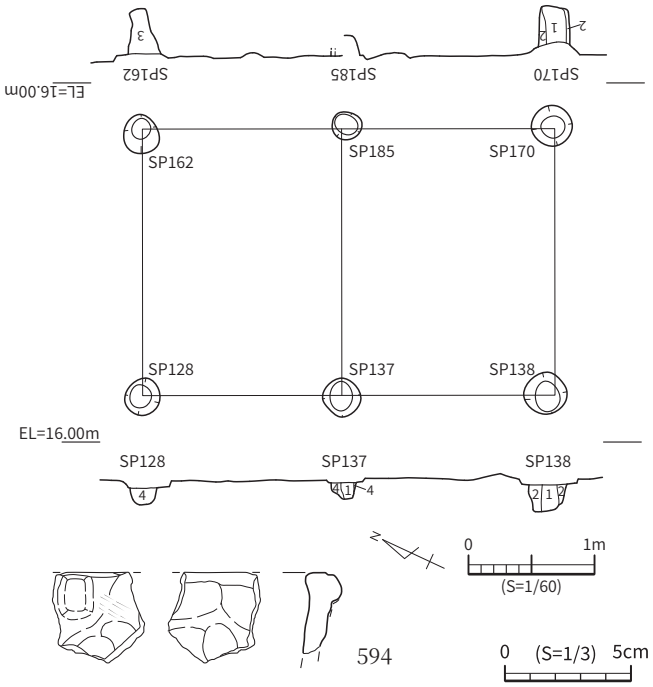


図 133　SB18　遺構平面・土層断面図、出土遺物

SB19 は 570850 に位置し、Ⅵ層及びⅦ層上面で検出した。プラン分類は B2 で、長軸 3.6 m、短軸 2.1 mの方形となり、北西－南東を軸とする。

遺物は SP182 からグスク土器の底部（595・596）が出土している。

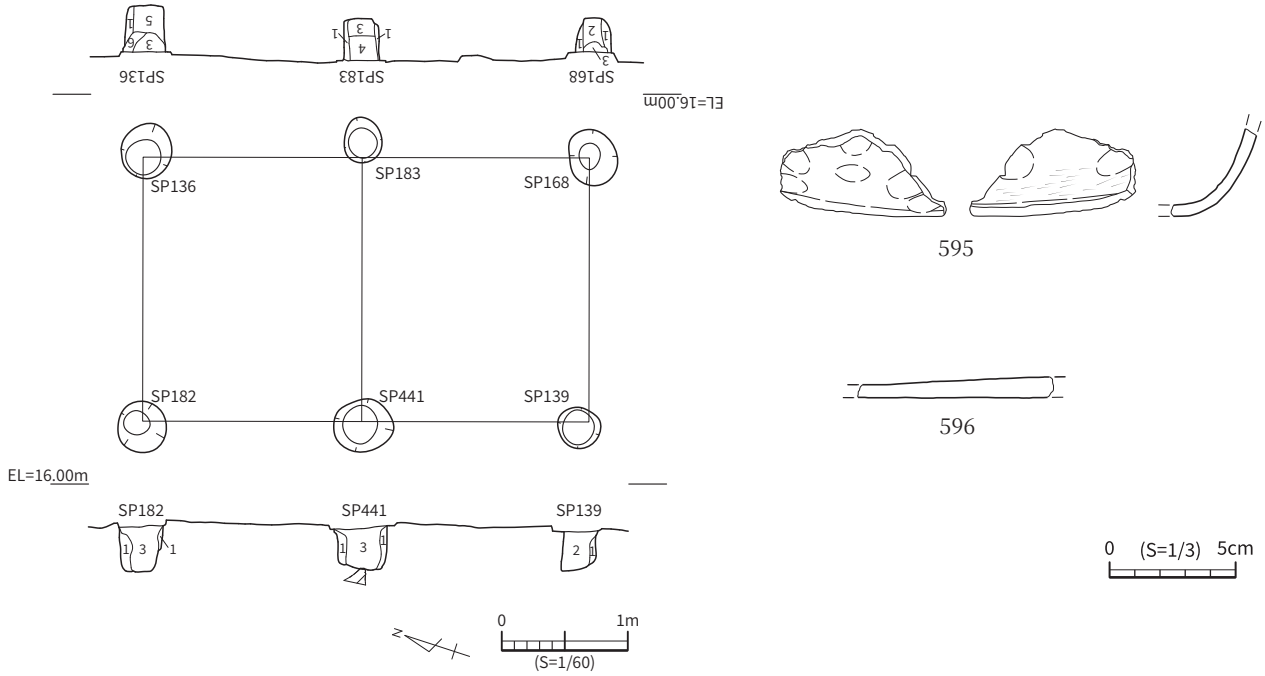


図 134　SB19　遺構平面・土層断面図、出土遺物

SB20 は 560840 に位置し、Ⅵ層及びⅦ層上面で検出した。プラン分類は B2 で、長軸 3.3 m、短軸 2.2 mの長方形となり、北西－南東を軸とする。

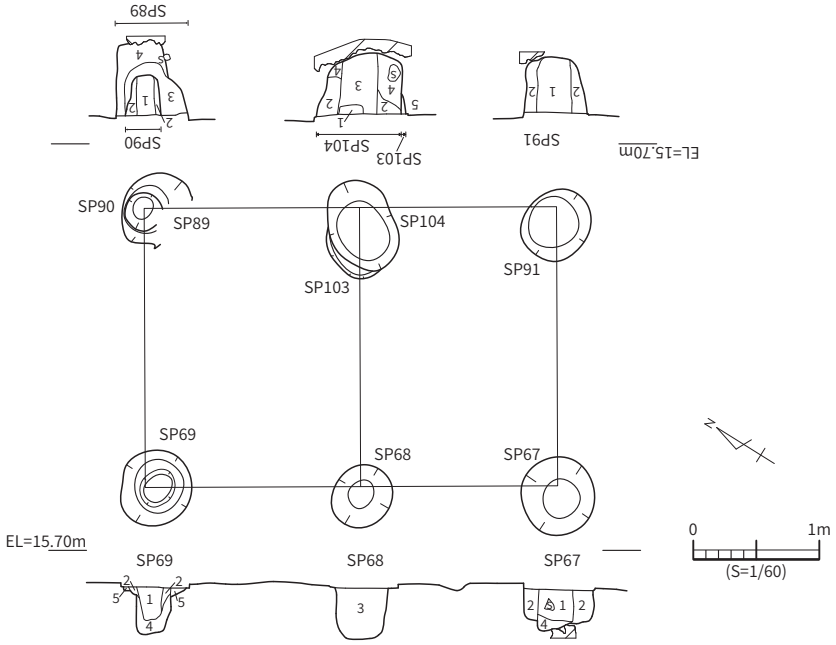
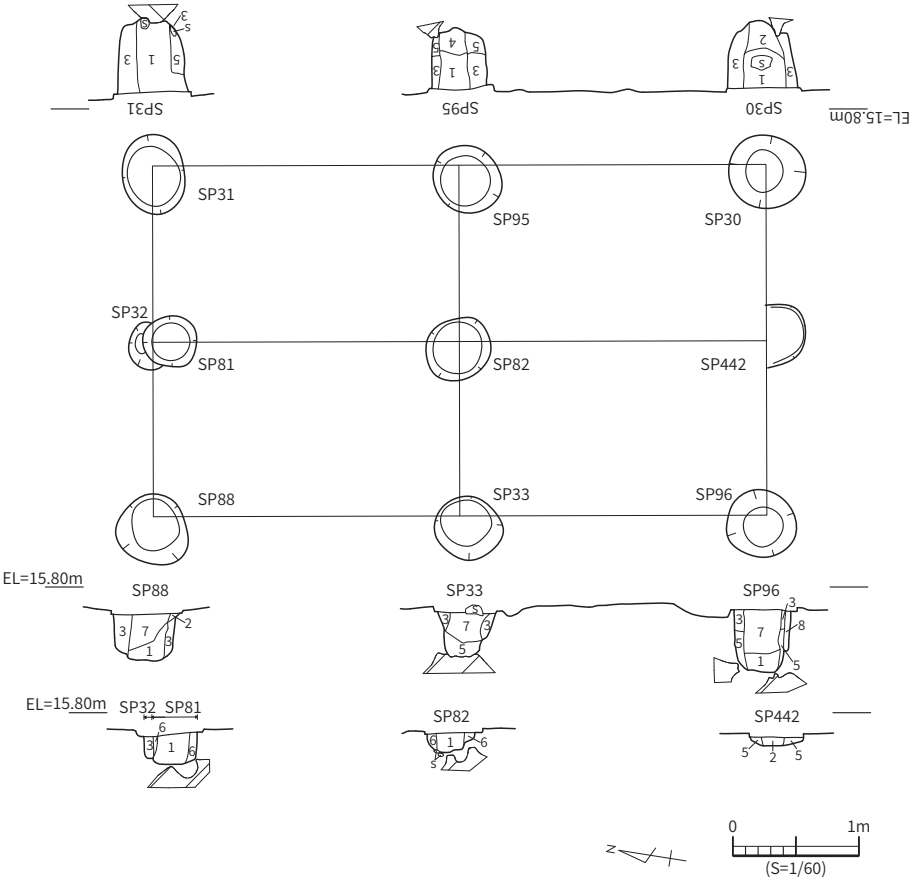


図 135　SB20　遺構平面・土層断面図

SB22 は 570840・570850 に位置し、Ⅵ層及びⅦ層上面から検出した。プラン分類は B3 で、長軸 4.9 m、短軸 2.8 mの長方形となり、北西－南東を軸とする。

遺物は SP30 からグスク土器第１様式の鍋（597）が出土している。



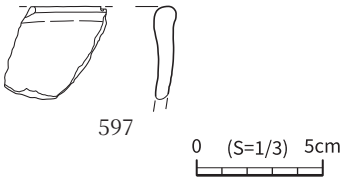
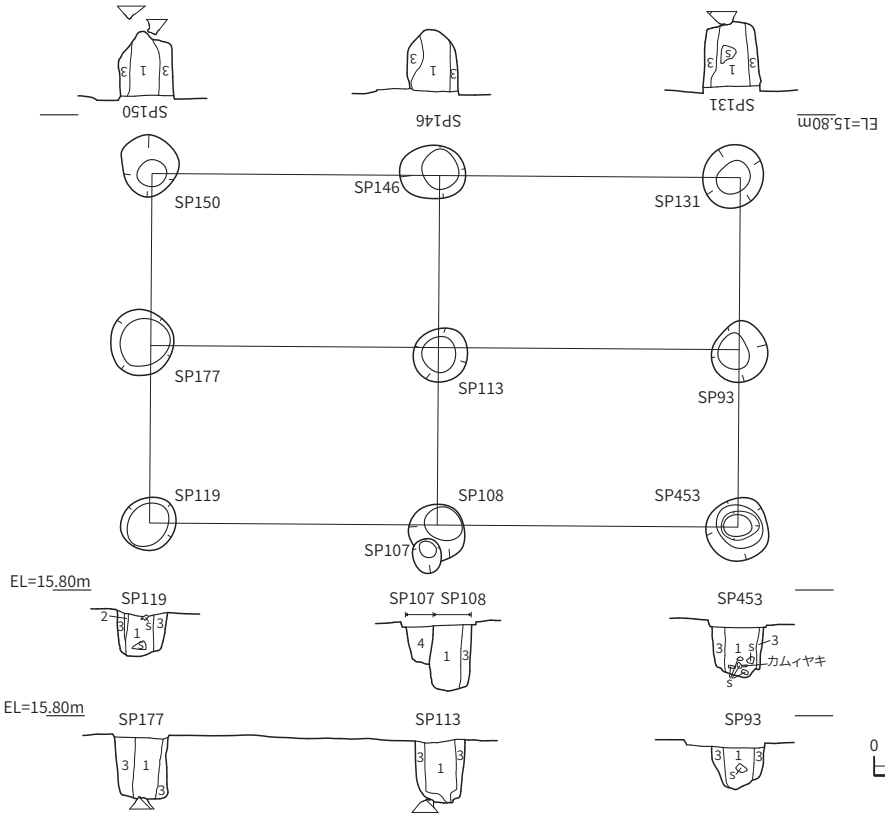
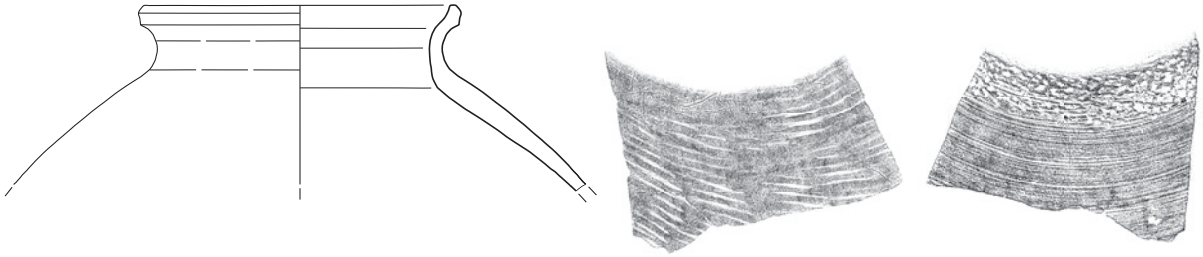


図 136　SB22　遺構平面・土層断面図、出土遺物

SB23 は 580840・570840 に位置し、Ⅵ層及びⅦ層上面から検出した。プラン分類は B3 で、長軸 4.7 m、短軸 2.9 mの長方形となり、北東－南西を軸とする。

遺物は SP453 からカムィヤキ A 群の壺（598）が出土しいる。





598

0　(S=1/3)　5cm

図 137　SB23　遺構平面・土層断面図、出土遺物

SB26 は 580840 に位置し、Ⅵ層及びⅦ層上面から検出した。プラン分類は A1 で、長軸 10.3 m、短軸 3.8 m の長方形となり、北西－南東を軸とする。

遺物はグスク土器や土製品が出土している。SP37 からグスク土器の甕の口縁部（599）と底部（600・602）、胴部（605）、土製品（606）が、SP178 からグスク土器の底部（601）が出土している。これらのグスク土器の底部の胎土には、滑石が多く混入されている。

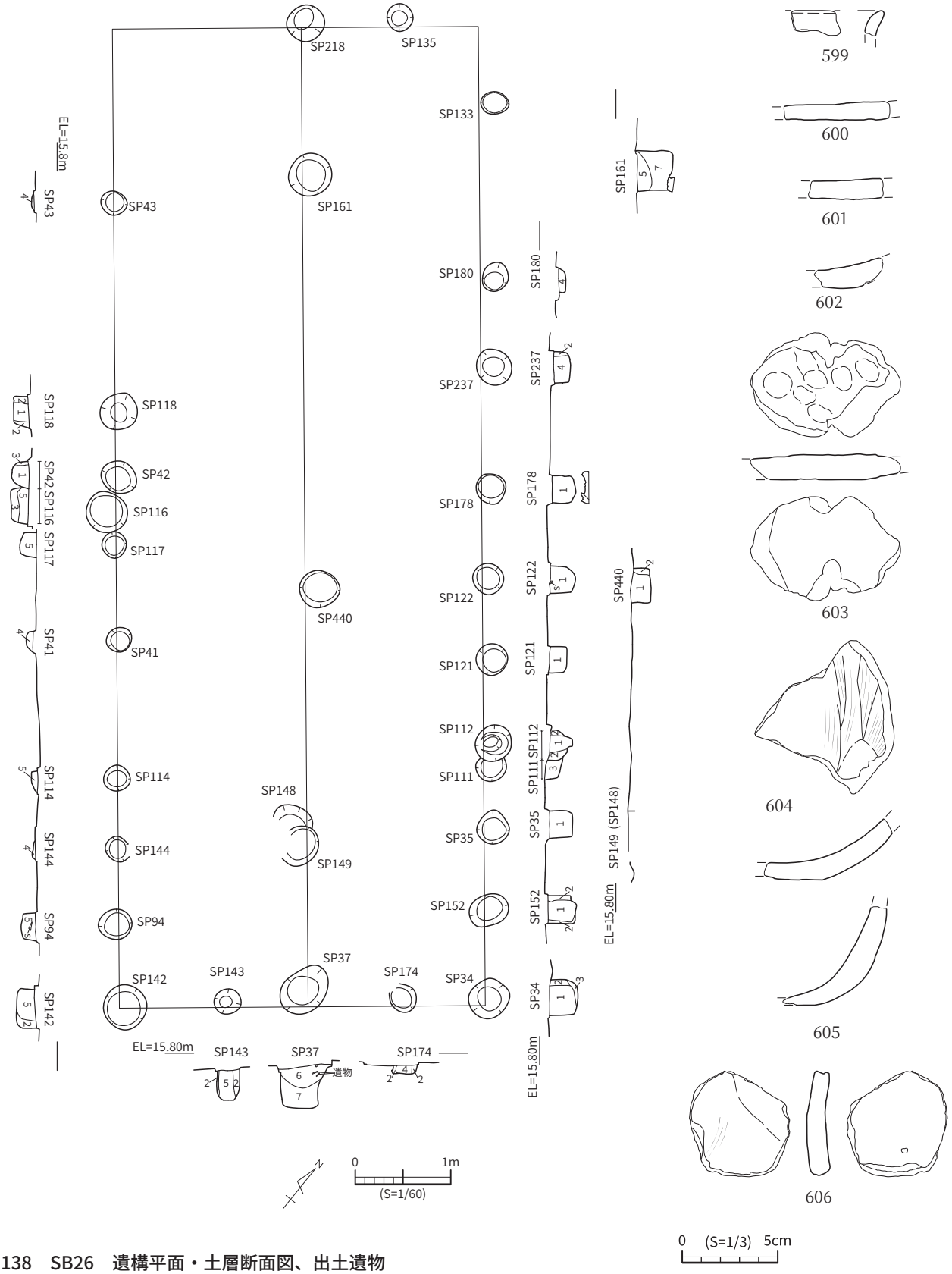


図 138　SB26　遺構平面・土層断面図、出土遺物

SB27 は 580840・570840 に位置し、Ⅵ層及びⅦ層上面から検出した。プラン分類は A1 で、長軸 9.2 m、短軸 4.4 mの長方形となり、北西－南東を軸とする。

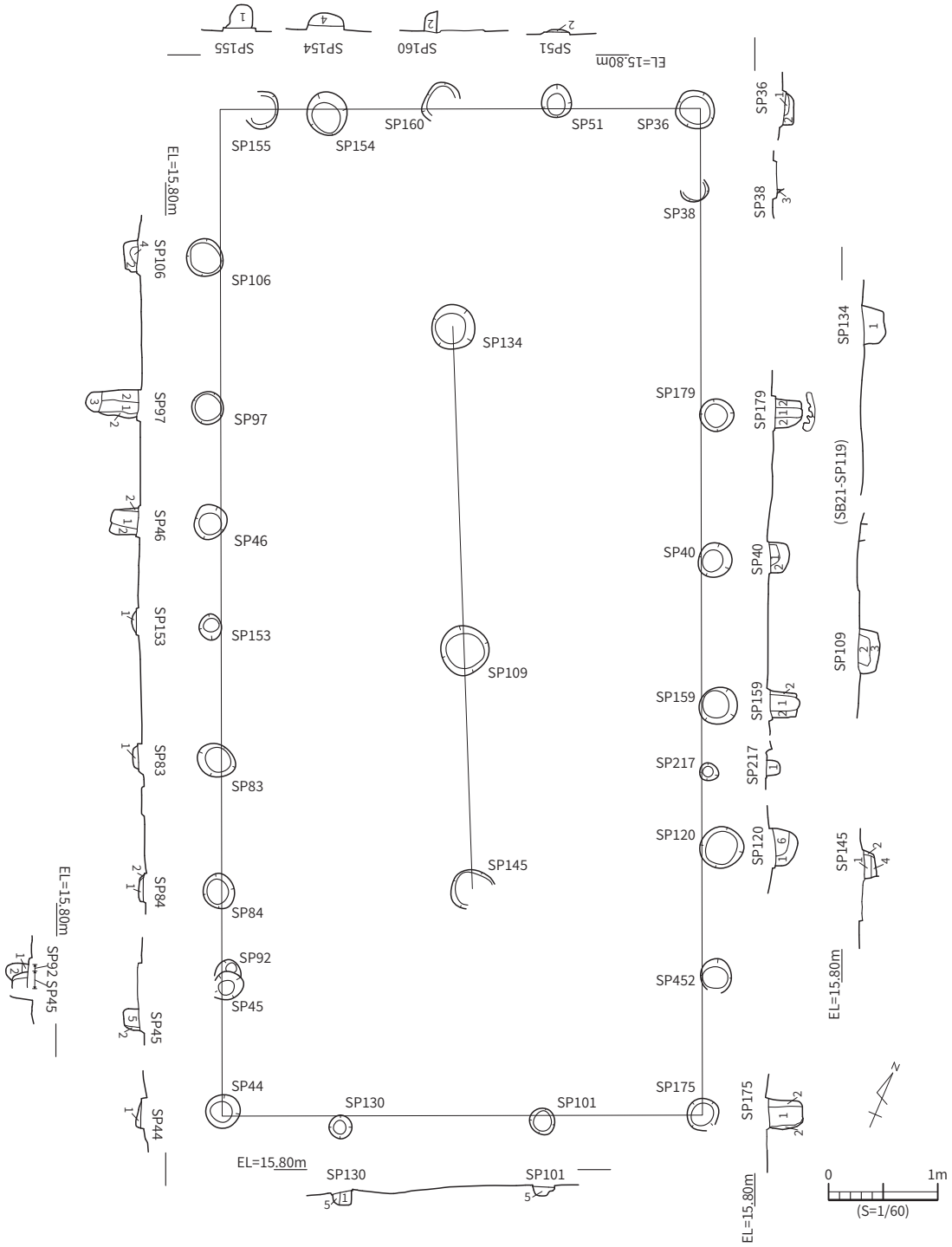


図 139　SB27　遺構平面・土層断面図

SB28 は 570840 に位置し、Ⅵ層上面から検出した。プラン分類は B1 で、長軸 2.2 m、短軸 2 mのほぼ正方形となり、北西－南東を軸とする。

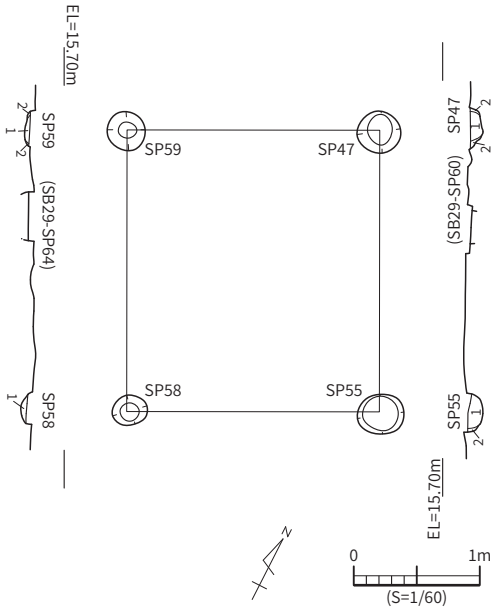


図 140　SB28　遺構平面・土層断面図

SB29 は 570840 に位置し、Ⅵ層上面から検出した。プラン分類は B1 で、長軸 3.1 m、短軸 2.1 mの長方形となり、北西－南東を軸とする。

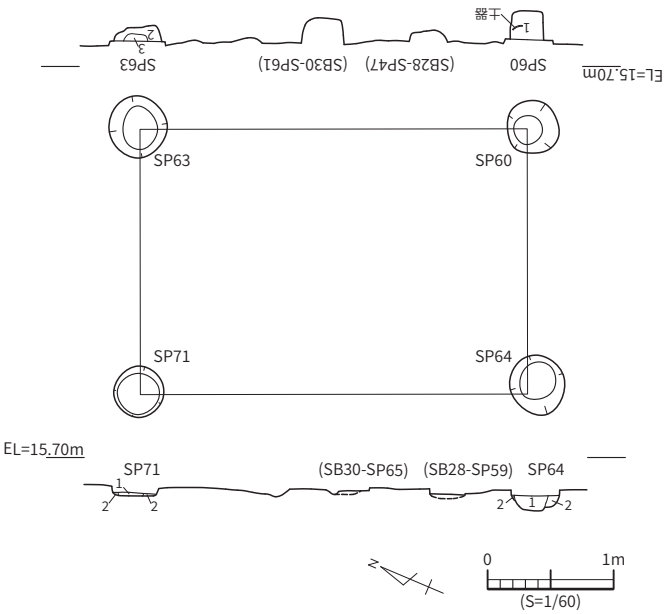


図 141　SB29　遺構平面・土層断面図

SB30 は 570840 に位置し、Ⅵ層上面から検出した。プラン分類は B1 で、長軸 2.2 m、短軸 2.1 mのほぼ正方形となり、北西－南東を軸とする。

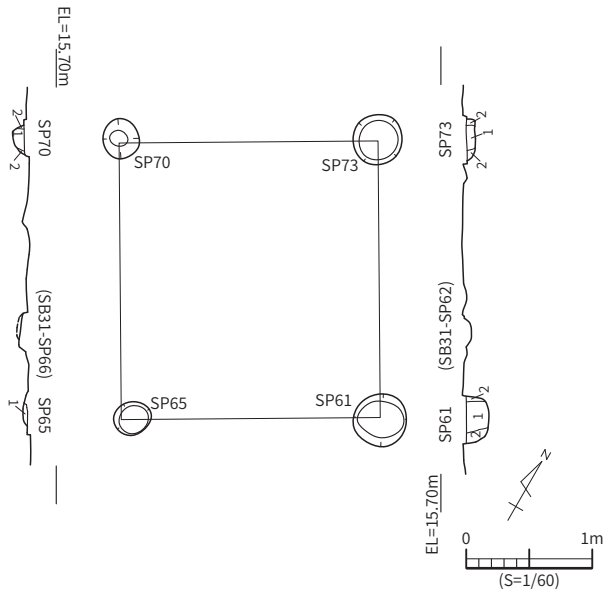


図 142　SB30　遺構平面・土層断面図

SB31 は 570840 に位置し、Ⅵ層上面から検出した。プラン分類は B1 で、長軸 2.1 m、短軸 2 mのほぼ正方形となり、北西－南東を軸とする。

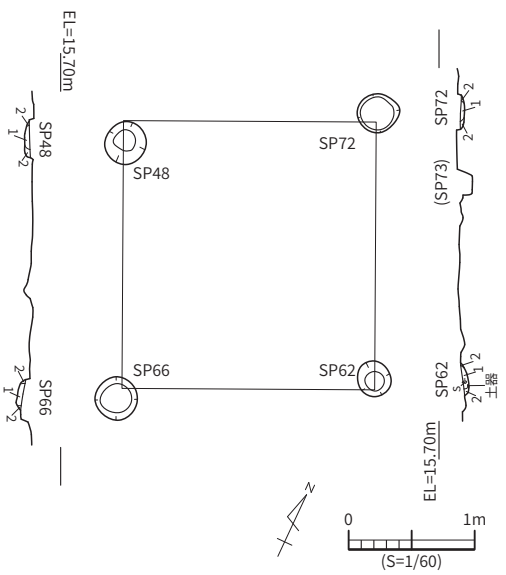
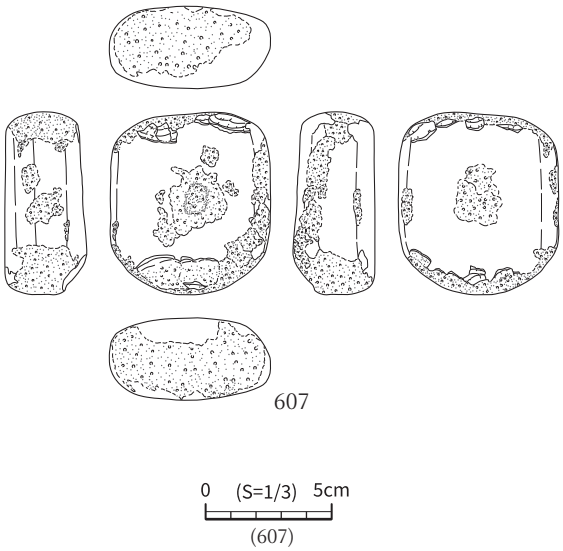


図 143　SB31　遺構平面・土層断面図

掲載プラン以外からの出土遺物

607 は輝緑岩製の敲磨石で、SB24 の SP127 から出土している。

608 は滑石製品で SB24 の SP125 から出土している。滑石製石鍋の転用品で、形状は剣菱状となる。類似資料が山口県下関市の河原他遺跡から出土している（小林 2009）。



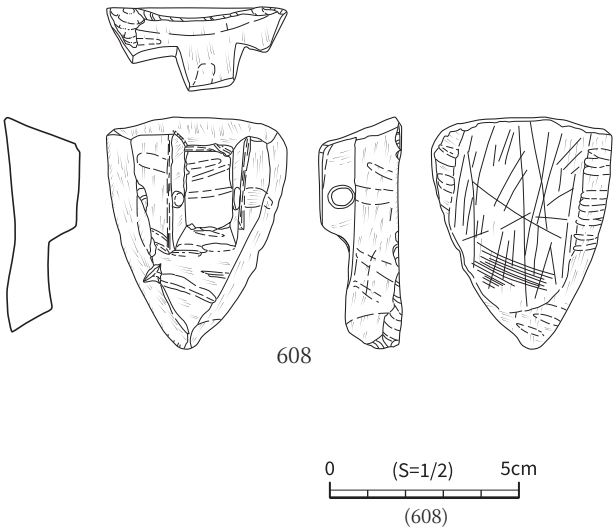


図 144　掲載プラン以外からの出土遺物

表 33　楚辺徳地原遺跡 D 区　遺物集計表

地区	遺構・層序	土器 阿波連浦 下層	土器 底部 くぼれ平底	土製品 円盤状製品	土器 グスク 第1	土器 グスク 第3	土器 グスク 型式不明	土器 型式不明	須恵器	カムィヤキ A群	中国産白磁 Ⅳ類	中国産青花 分類不明	羽口	合計
D	SB2						1							1
	SB4						1							1
	SB5						4							4
	SB7						16	3						19
	SB9							1						1
	SB11						7	1						8
	SB12						5	2	1					8
	SB13							1					1	2
	SB14		1		5		40	7			1	1		55
	SB15				16		54	7					2	79
	SB16	1					10	1						12
	SB17					1	5	1						7
	SB18				1		2	1						4
	SB19						11							11
	SB20						6	2						8
	SB21						17							17
	SB22				3		42	4					1	50
	SB23						10	2		1			1	14
	SB24						5							5
	SB26			1	8		63	5						77
	SB27				1		15	2						18
	SB28						2							2
	SB29						5							5
	SB30						2	1						3
	SB31				1		1							2
	SB32						3							3
	SB33						2							2
	合計	1	1	1	35	1	329	41	1	1	1	1	5	418

楚辺徳地原遺跡Ｅ区

楚辺徳地原遺跡Ｅ区では、Ⅲ-1 層掘削後にピットを検出した。ピットは調査区の南東側で多く確認でき、調査区外へと広がっている。ピット半截後の断面を確認したところ北側のピットのほとんどに柱痕が確認できず、断面は「v」字状の単層となるもの（図 146 左）が多く、掘立柱建物のプランや柵列のような配置を確認することはできなかった。また、南側の一部のピットでは柱痕（図 146 右）を確認できたが、掘立柱建物跡のプランは確認できなかった。

遺物は遺構からほとんど出土しなかったが、SP38 からはくびれ平底の底部（609）が出土している。

図 145　Ｅ区　グスク時代遺構配置図

図 146　SP30　SP108　土層断面

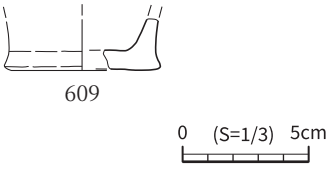


図 147　SP38 出土遺物

表 34　楚辺徳地原遺跡Ｅ区　遺物集計表

地区	遺構・層序	種類	土器		本土産近代磁器	沖縄産施釉陶器	合計
		分類	底部	グスク	C類		
			くびれ平底	型式不明			
E	SP38		1				1
	SP89			2			2
	Ⅲ層				1	1	2
	合計		1	2	1	1	5

楚辺徳地原遺跡Ｆ区

楚辺徳地原遺跡Ｆ区では、グスク時代のピットを検出した。ピットはⅥ層とⅦ層上面で検出した。ピットは掘立柱建物跡に伴うもので、プランを 16 棟分確認した。

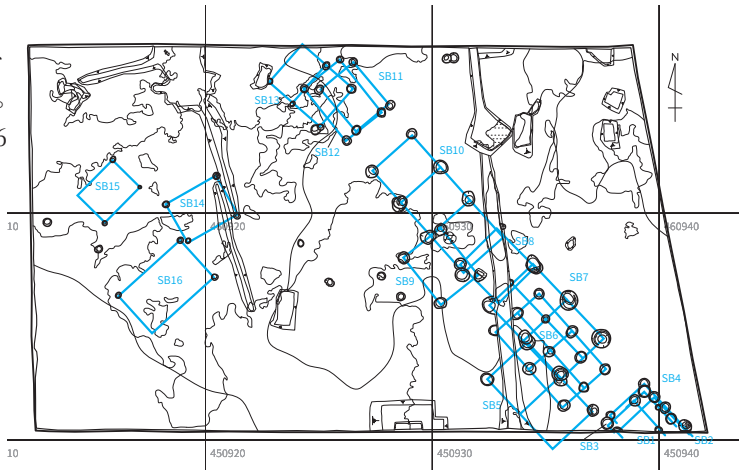


図 148　Ｆ区　グスク時代の遺構配置図

表 35　Ｆ区　遺構プラン一覧表

遺構名	ピット	掲載	分類	外枠		中柱
				長軸(m)	短軸(m)	本数
SB 1	SP48,**40**	―	B	―	―	―
SB 2	SP39,**14**,60	―	B	―	2.2	―
SB 3	SP38,47,62	―	B	―	2.2	―
SB 4	SP37,46,{**41**,42},**61**	―	B	―	2.1	―
SB 5	SP35,50,82,36	○	B2	4.2	2.4	―
SB 6	SP**63**,**3**,**1**,19,**20**,**4**,**22**,51,**21**	○	B3	4.4	2.6	―
SB 7	SP75,**49**,**2**,23,**59**,81,**74**,80,**17**	○	B3	4.5	2.6	―
SB 8	SP**30**,34,73,75	○	B1	2.4	2.3	―
SB 9	SP18,**5**,13,**29**	―	B1	2.7	2.1	―
SB10	SP12,{**8**,**7**},**6**,**31**,**16**,**15**,**32**	○	B4	6	2.3	―
SB11	SP67,70,33,68	―	B1	2.4	1.9	―
SB12	SP**10**,**27**,**28**,**77**	○	B1	3	2	―
SB13	SP79,26,{24,25},**9**,78	―	B2	3	2.2	―
SB14	SP53,54,52,**11**	○	B1	2.5	2	―
SB15	SP57,66,**58**	―	B1	2.2	1.7	―
SB16	SP**55**,64,**56**	○	B1	3.7	2.2	―

SB 5 は 450390 に位置し、Ⅵ層上面で検出した。プラン分類は B2 で、長軸 4.2 m、短軸 2.4 mの長方形となり、北東―南西を軸とする。

SB5 は SB6 と SB7 と重なり、SB5 の遺構が SB7 の遺構を切る。SB6 と切り合いは確認できなかった。

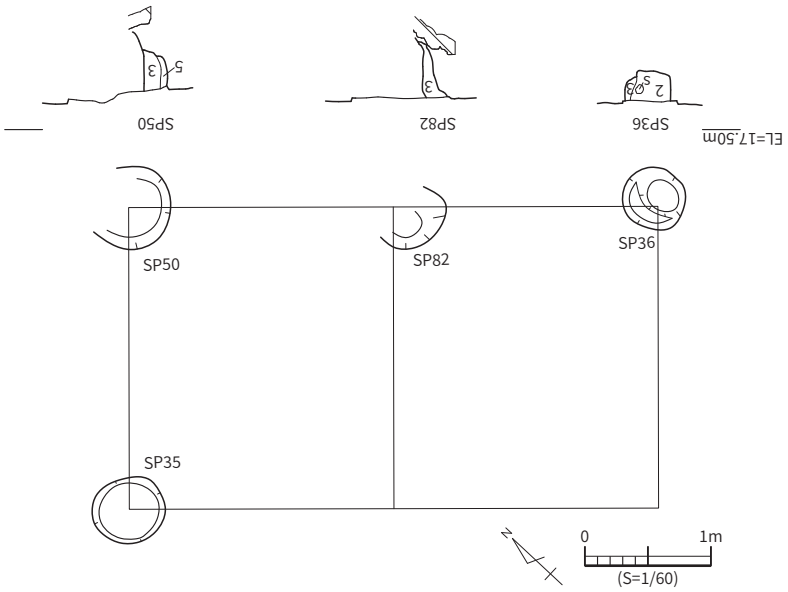


図 149　SB5　遺構平面・土層断面図

SB7 は 453030 に位置しⅥ層上面で検出した。プラン分類は B3 で、長軸 4.5 m、短軸 2.6 mの長方形となり、北西―南東を軸とする。

SB7 は SB5 と SB6、SB8 と重なる。切り合いは SB8 とで確認でき、SB8 の遺構が SB7 の遺構を切る。

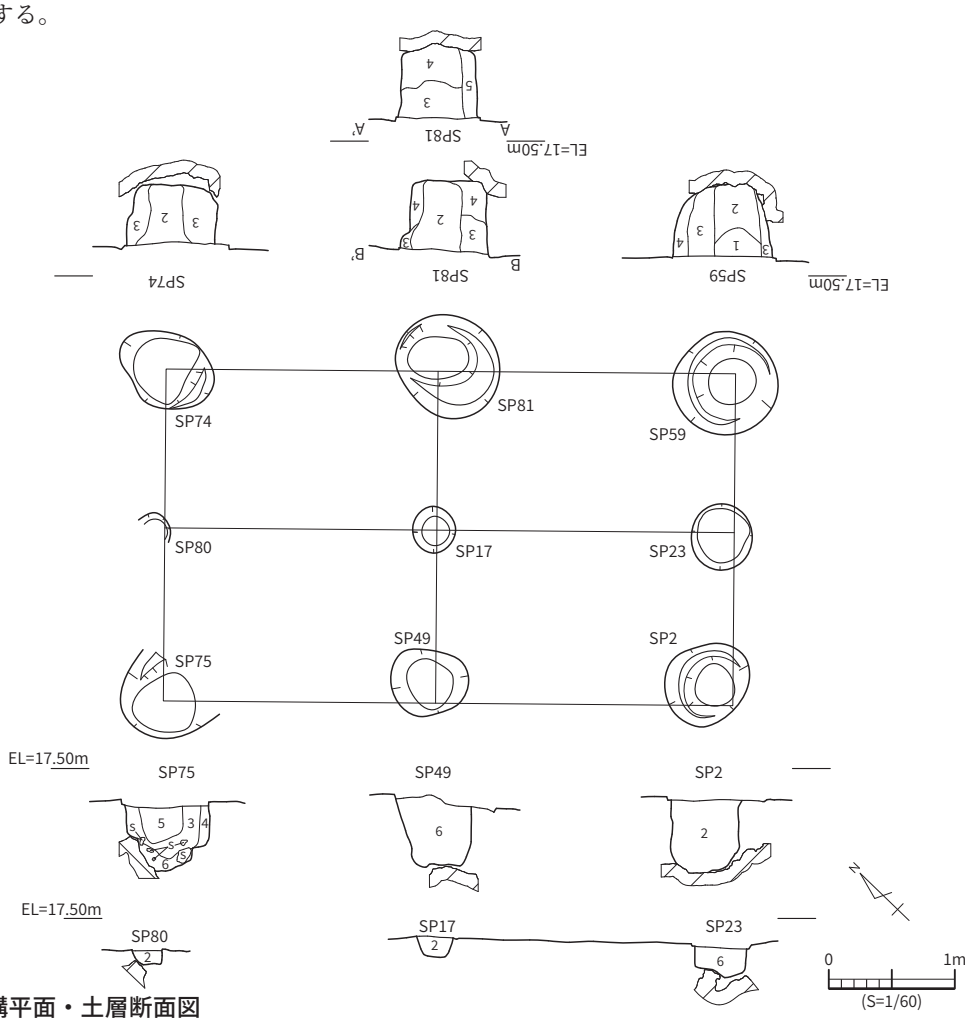


図 150　SB7　遺構平面・土層断面図

SB 8 は 450390 に位置し、Ⅵ層上面で検出した。プラン分類は B1 で、長軸 2.4 m、短軸 2.3 mのほぼ正方形となり、北西―南東を軸とする。

SB8 は SB7 と SB9、SB10 と重なる。切り合いは SB10 と確認でき、SB8 の遺構が SB10 の遺構を切る。

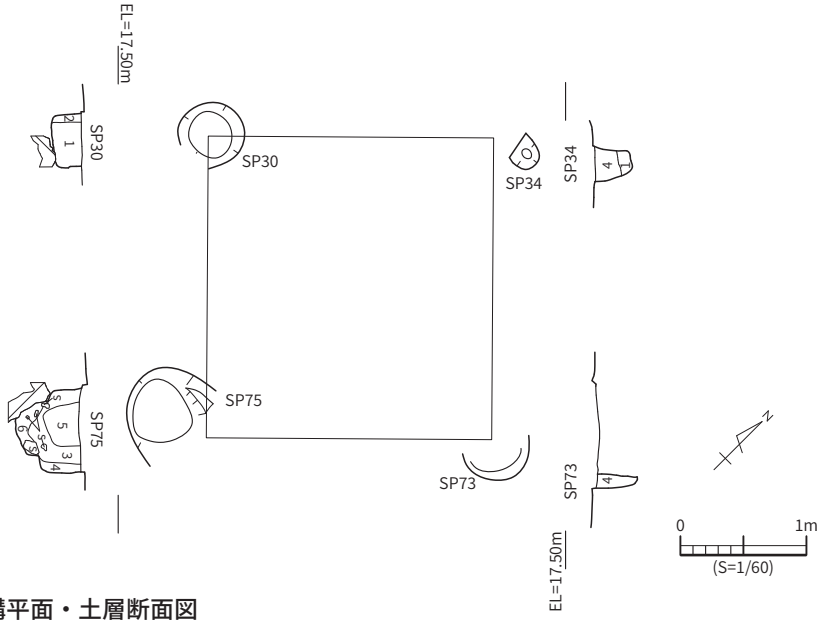


図 151　SB8　遺構平面・土層断面図

SB10 は 460390・450930 に位置しⅥ層上面で検出した。プラン分類は B4 で、長軸６m、短軸 2.3 mの長方形となり、北西―南東を軸とする。

SB10 は SB8 及び SB9 と重なる。切り合い関係は SB8 に切られる。

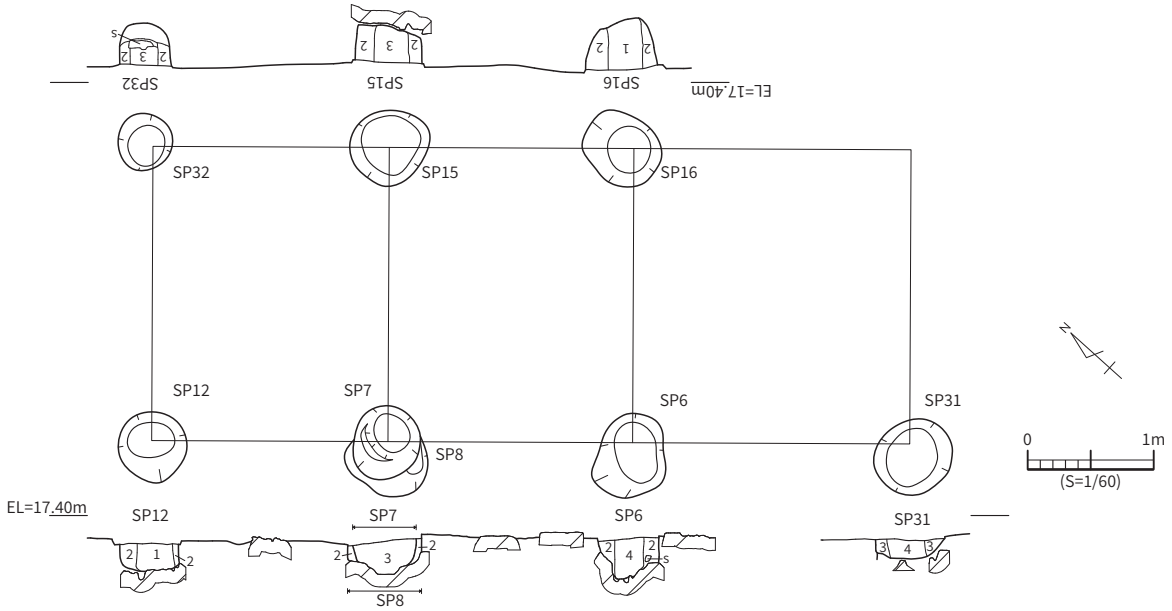
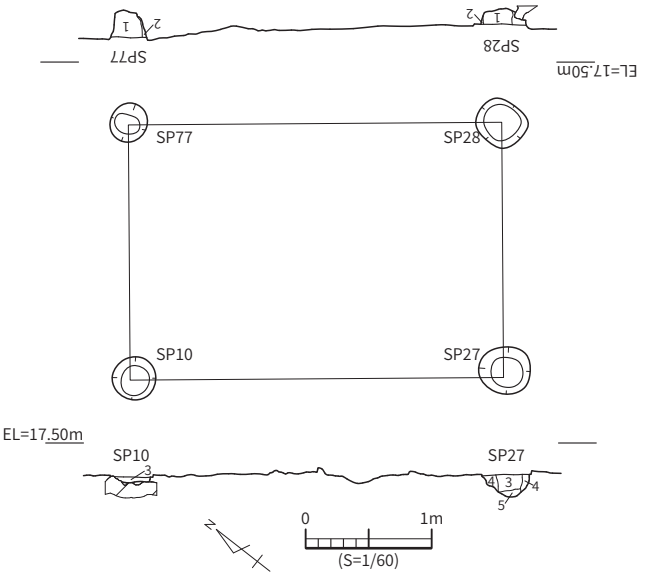


図 152　SB10　遺構平面・土層断面図

SB5、SB7、SB8、SB10 はプランの新旧関係が確認できた。SB7 は SB5 と SB8 に切られることから、これらより古くなる。また、SB10 は SB8 に遺構が切られることから、SB10 が古くなることが確認できた。

SB12 は 460920 に位置し、Ⅵ層及びⅦ層上面で検出した。プラン分類は B1 で、長軸３m、短軸２mのやや長方形となり、北西―南東を軸とする。SB12 は SB11 及び SB13 とがそれぞれの遺構で切り合い等は確認できなかった。遺物は SP10 で沖縄産陶質土器とグスク土器が１点ずつ、SP27、SP28、SP77 でグスク土器が１点ずつ出土している。(610)はグスク土器第１様式の鍋で、口縁部は内湾し口唇部は平坦に成形される。



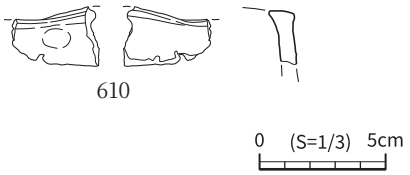


図 153　SB12　遺構平面・土層断面図、出土遺物

SB ６は 450930 に位置し、Ⅵ層上面で検出した。プラン分類は B3 で、長軸 4.4 m、短軸 2.6 mの長方形となり、北西―南東を軸となる。

SB ５及び SB ７とプランが重なるが、遺構の切り合いは確認できなかった。

遺物はグスク土器、カムィヤキ、中国産白磁、石製品が出土している。グスク土器は SP3 から第１様式(611)、第３様式（612・613）と胴部（614）、底部（615）が出土している。カムィヤキは SP63 から A 群の壺(617)が、中国産白磁は大宰府編年Ⅳ -1 類（616）が SP4 から出土している。SP20 から出土した石造物（618）は、中央が窪んでおり、また出土状況もピットの底面から出土していることから根固め石の可能性がある。

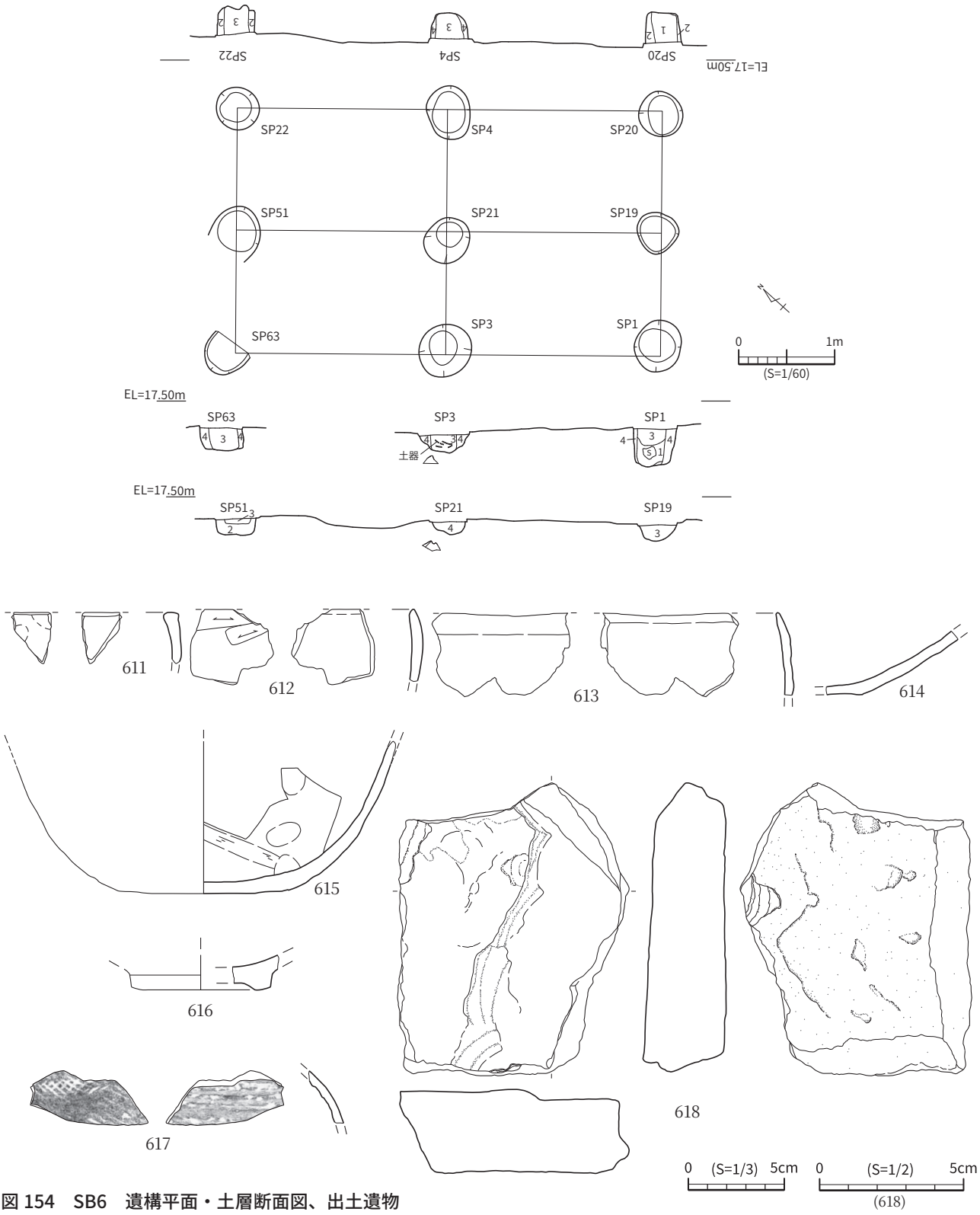


図 154　SB6　遺構平面・土層断面図、出土遺物

SB14 は 460910 に位置し、Ⅵ層及びⅦ層の上面で検出した。プラン分類は B1 で長軸 2.5 m、短軸 2 mのやや長方形となり、北東―南西を軸とする。

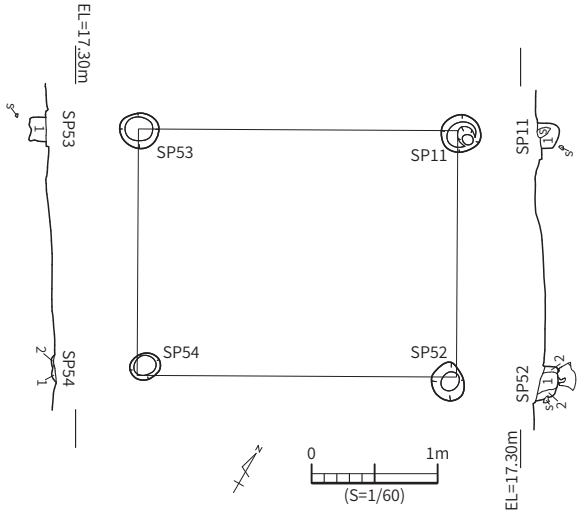
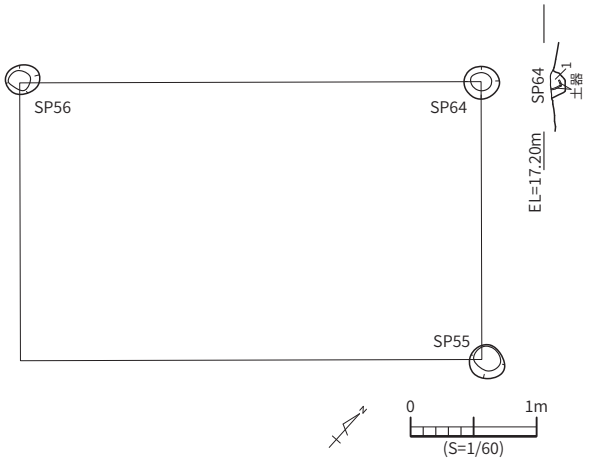


図 155　SB14　遺構平面・土層断面図

SB16 は 450910・450920 に位置しており、Ⅵ層及びⅦ層上面で検出した。プラン分類は B1 で、長軸 3.7 m、短軸 2.2 mの長方形となり、北東―南西を軸とする。プランは桁行が長いことから分類 B2 の可能性がある。

遺物は SP64 からグスク土器第 1 様式の鍋（619）が出土している。



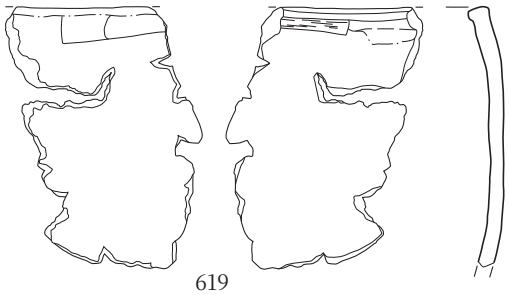
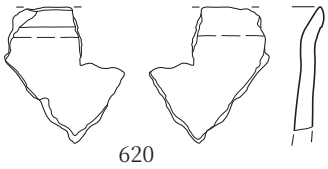


図 156　SB16　遺構平面・土層断面図、出土遺物

掲載プラン以外からの出土遺物

（620）はグスク土器第 2 様式の甕で、SB4 の SP61 から出土している。



0　(S=1/3)　5cm

図 157　掲載プラン以外からの出土遺物

表 36　楚辺徳地原遺跡 F 区　遺物集計表

地区	遺構・層序	種類	土器					カムィヤキ	中国産白磁	合計
		分類	グスク				型式不明	A群	Ⅳ-1類	
			第1	第2	第3	型式不明				
F	SB1					1				1
	SB2						3			3
	SB4			1		1	1			3
	SB6		1		4	32	1	1	2	41
	SB7		1			3	3	1		8
	SB9					2				2
	SB10		7			7	2			16
	SB12		1			5				6
	SB14					2				2
	SB15					2				2
	SB16		3			5				8
	合計		13	1	4	60	10	2	2	92

近世・近代

近世・近代の遺構は、C 区と G 区で遺物集中を 1 基、溝状遺構を 3 基、土坑を 1 基検出した。

SU1 は C 区の 570960 に位置し、Ⅰ層掘削後にⅥ層上面で検出した。遺構は西壁の外に広がっており遺構の規模や形状は不明である。戦前の廃棄土坑の可能性がある。

遺物は沖縄産陶器が出土している。（621 ～ 623）

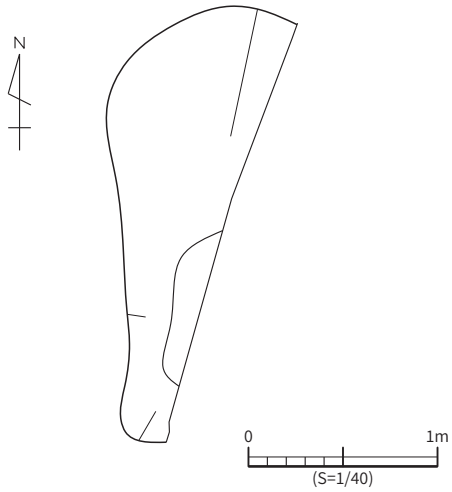
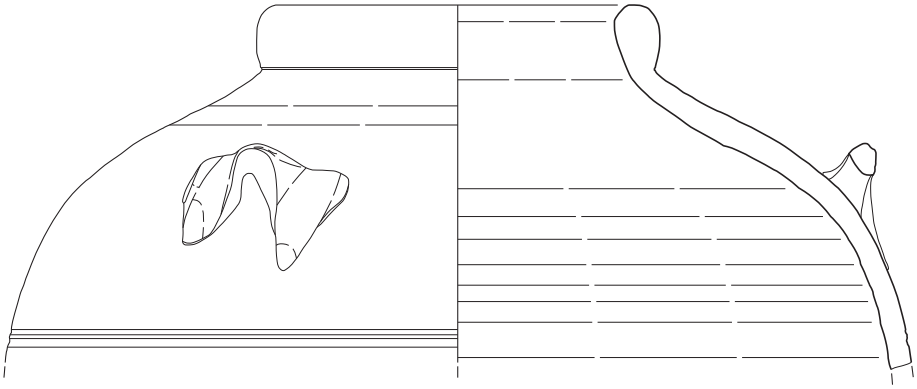
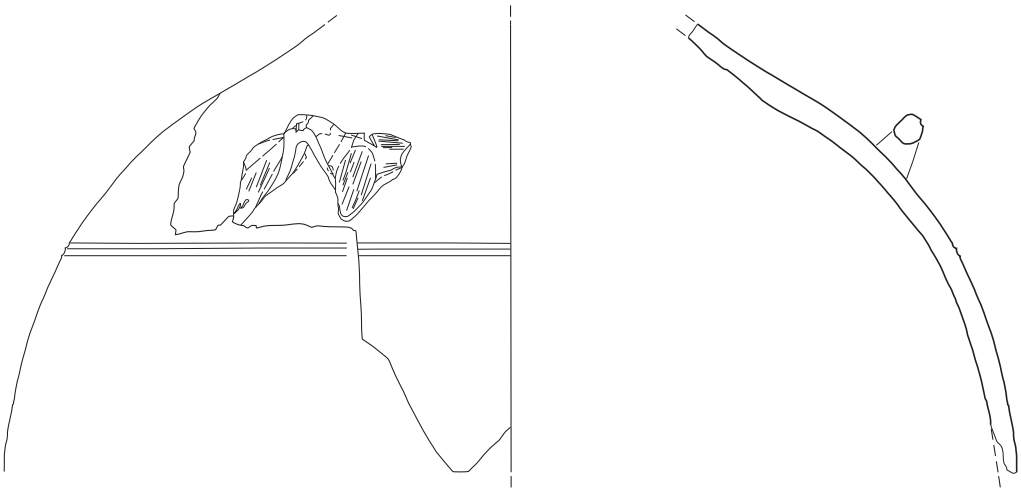


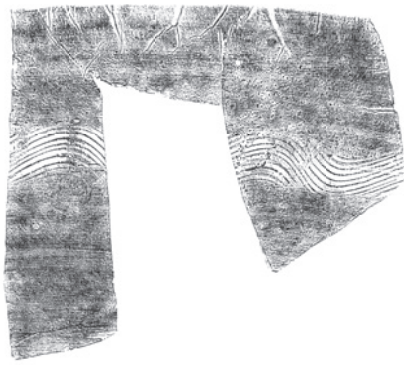
図 158　SU1　遺構配置・平面・土層断面図

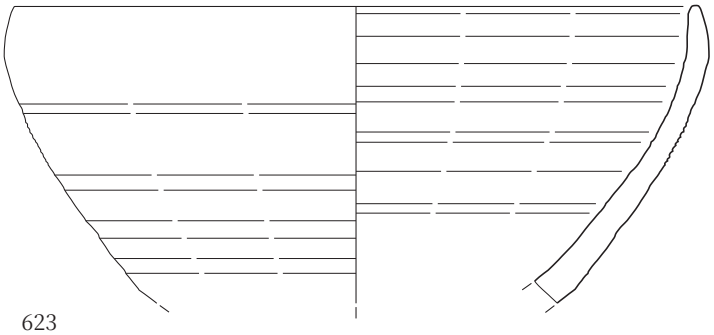


621



622



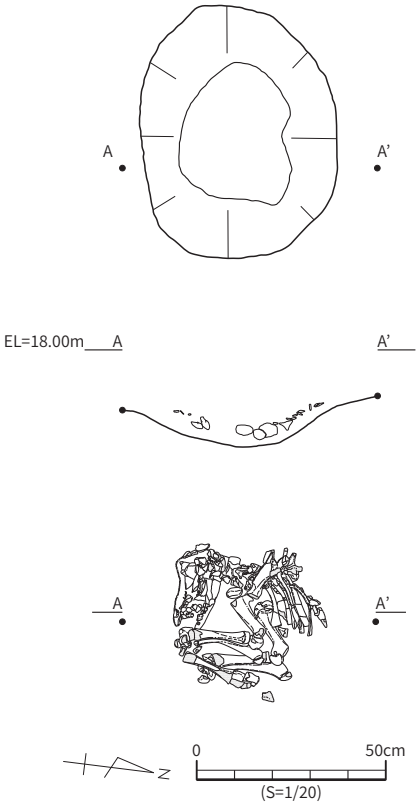


623

0　(S=1/3)　5cm

図 159　SU1 出土遺物

SK1は590950に位置し、Ⅱ層掘削後にⅥ層上面で検出した。長軸0.4ｍ、短軸0.3ｍの円形となっている。遺構覆土はにぶい黄褐（10YR4/3）で、シルト～極細砂が主体である。遺構南側は上面が基地造成及び耕作の影響により削平されており、遺構は本来南へ広がっていた可能性がある。



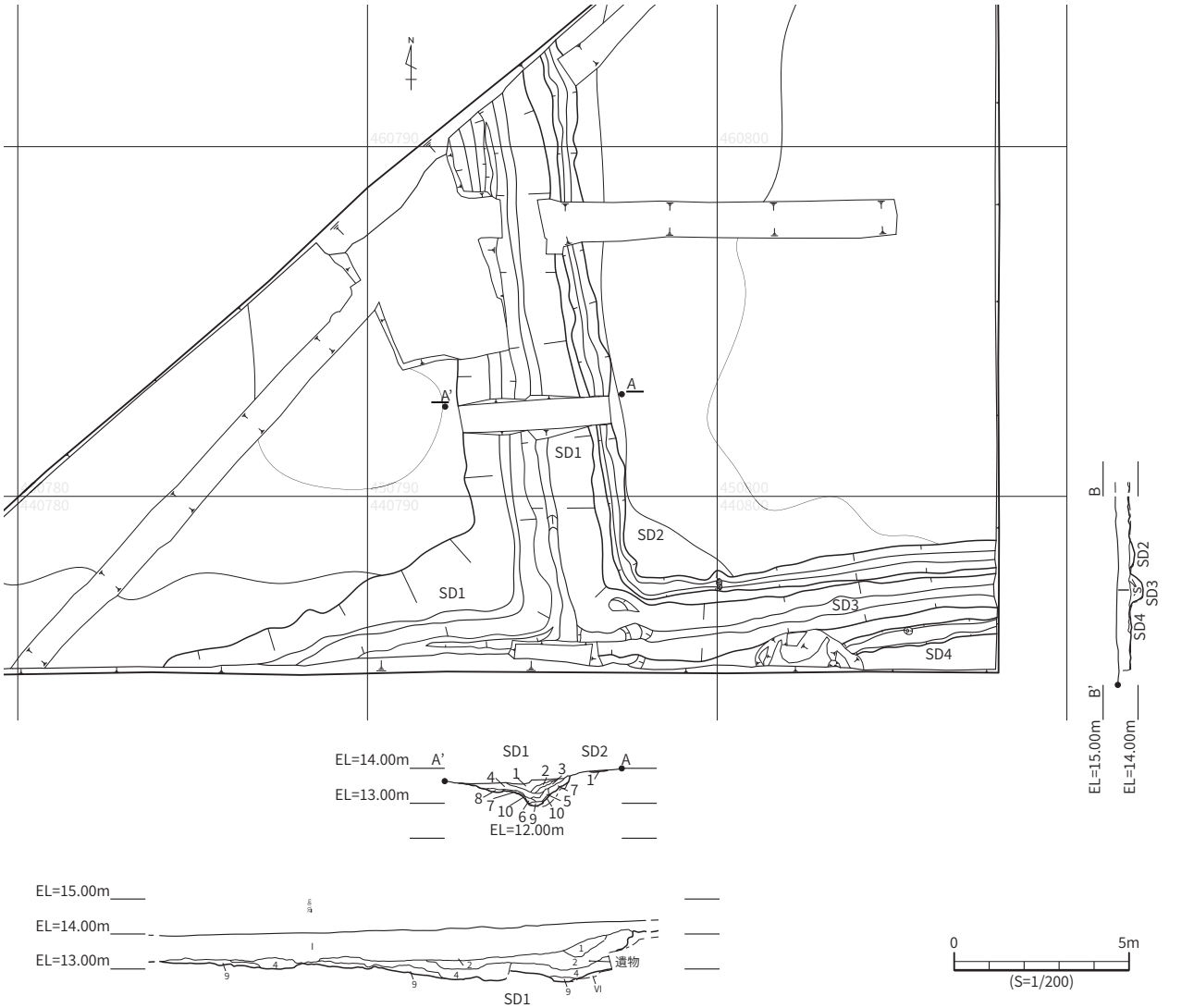
遺構から遺物は出土しなかったが、獣骨（ウシ）が出土した。獣骨は上半身のみの出土で、遺構南側が削平されたことにより、下半身は消失した可能性がある。

表 37　SK1 の獣骨集計表

遺構	分類	部位	残存状況	成長	左右	数	計
SK1	ウシ	頭蓋骨	前頭骨	—	—	1	73
			後頭骨(蝶形骨体)	—	—	1	
			後頭骨(後頭顆)	—	L	1	
					R	1	
			側頭骨(錐体)	—	L	1	
					R	1	
			破片	—	不明	1	
		遊離歯(上顎)	dP2	—	L	1	
					R	1	
			dP3	—	L	1	
					R	1	
			dP4	—	L	1	
					R	1	
		下顎骨	下顎枝(下顎孔)	—	L	1	
					不明	1	
			下顎体(dP2.dP3.dP4)	—	L	1	
					R	1	
		遊離歯(下顎)	I 1. I 2. I 3	—	L	3	
			I 1. I 2	—	R	1	
			C↓	—	L	1	
					R	1	
		椎骨(環椎)	ほぼ完形	—	—	1	
		椎骨(軸椎)	ほぼ完形	—	—	1	
		椎骨(頸椎3～7)	ほぼ完形	—	—	5	
		椎骨(胸椎4番目迄)	ほぼ完形	—	—	4	
		椎骨	椎体骨端	—	—	9	
		肋骨	近位部～遠位部	未癒合	L	2	
					R	2	
			近位部～骨幹部	未癒合	L	2	
				—	R	3	
			骨幹部～遠位部	未癒合	L	1	
					不明	1	
			遠位部	—	不明	2	
		舌骨	破片	—	L	1	
		肩甲骨	骨幹部～遠位部	未癒合	L	1	
					R	1	
		上腕骨	完形	未癒合	R	1	
			ほぼ完形	未癒合	L	1	
		橈骨	完形	未癒合	L	1	
					R	1	
		尺骨	近位端～遠位部	未癒合	L	1	
					R	1	
		中手骨	近位部～遠位端	未癒合	L	1	
		手根骨(中間)	一部欠損	—	L	1	
			ほぼ完形	—	R	1	
		手根骨(橈側)	完形	—	R	1	
			ほぼ完形	—	L	1	
		手根骨(尺側)	完形	—	R	1	
		手根骨(第4)	完形	—	R	1	
		指骨(基節骨)	完形	未癒合	L	1	

図 160　SK1　遺構平面・土層断面・獣骨検出平面図

溝状遺構はＧ区で確認した。南北を軸とするSD1、SD1の東側とSD3の北側を並行するSD2、東西を軸として調査区の南側でSD1と交差するSD3、SD3の南側を並行するSD4がある。SD1及びSD3は土層堆積にラミナがみられることから雨水の排水に利用されたと考えられる。また、SD1とSD3の交差する部分ではSD1の１層とSD3の４層の状況が類似することや、出土遺物の時期に差がなく接合する遺物もあることから、前後関係があるわけではなく同時期に利用されたと考えられる。またSD2はSD1とSD3に並行し、交差する箇所ではＬ字に曲がることから区画または畔に伴うものと考えらる。SD4についてもSD2と同様のものと考えられるが、大半が調査区外になることから判然しなかった。



遺物は主に沖縄産陶器や本土産磁器など近世から近代の遺物が主体となるが中国産の白磁（625）や青磁（632）、青花（630）も少数であるが出土している。

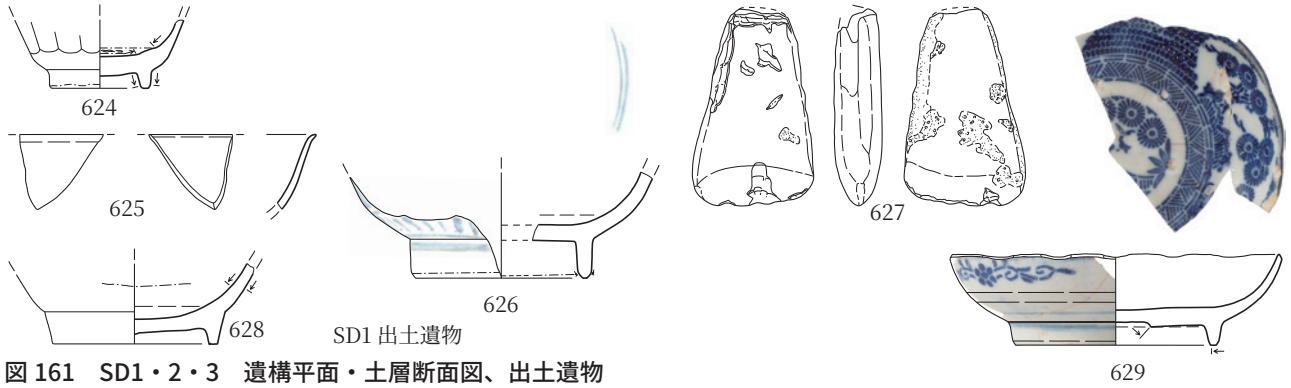
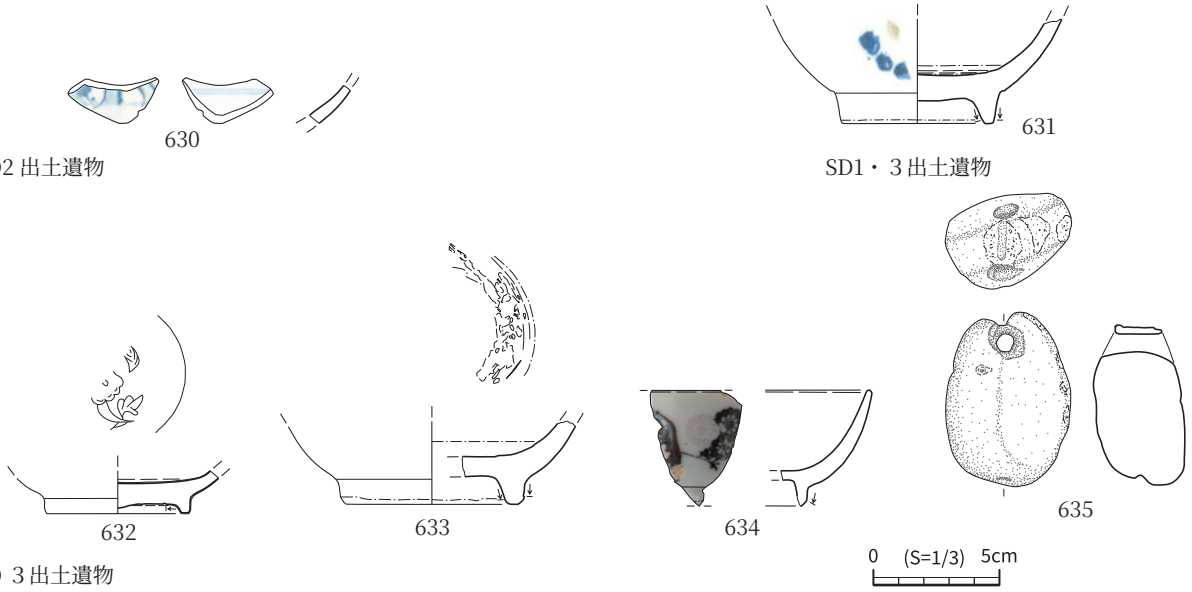


図 161　SD1・2・3　遺構平面・土層断面図、出土遺物



SD2 出土遺物

SD1・３出土遺物

SD ３出土遺物

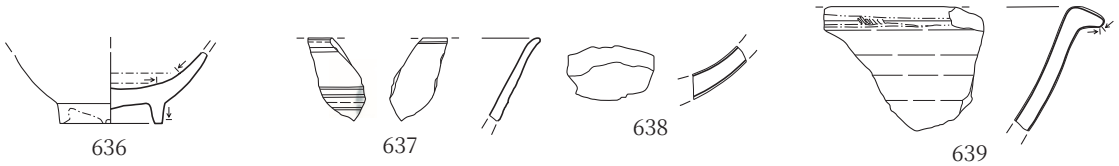
図 162　SD　出土遺物

表 38　楚辺徳地原遺跡 G 区　遺物集計表

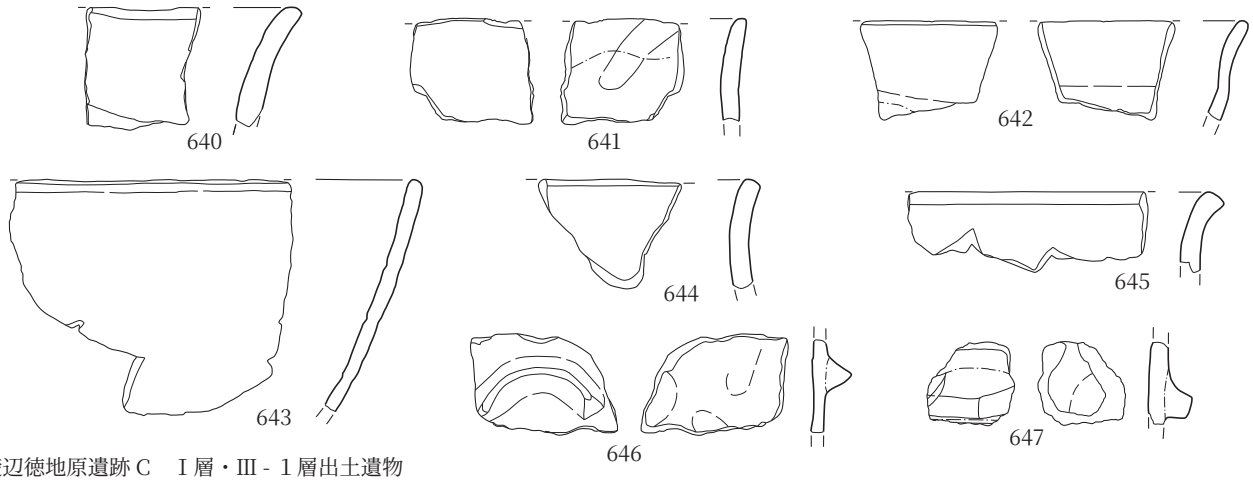
地区	遺構・層序	種類 / 分類	カムィヤキ	中国産青磁		中国産白磁	中国産青花		本土産近代磁器					本土産	沖縄産	沖縄産	沖縄産	明朝系瓦	合計
			A群	B類	VI類	徳化窯	徳化窯	景徳鎮	A類	C類	D類	E類	F類	施釉陶器	施釉陶器	無釉陶器	陶質土器		
G	SD1		1	1		3	1		4	1			1	1	24	28	4	6	75
	SD2							1			1				2				4
	SD3				1				2	1		1			12	16	1	3	37
	合計		1	1	1	3	1	1	6	2	1	1	1	1	38	44	5	9	116

遺構以外からの出土遺物

651 は奄美系の壺で、頸部に断面三角形状の突帯を施す。660 は中世須恵器と考えられるもので、外面に平行タタキ目がみられる。

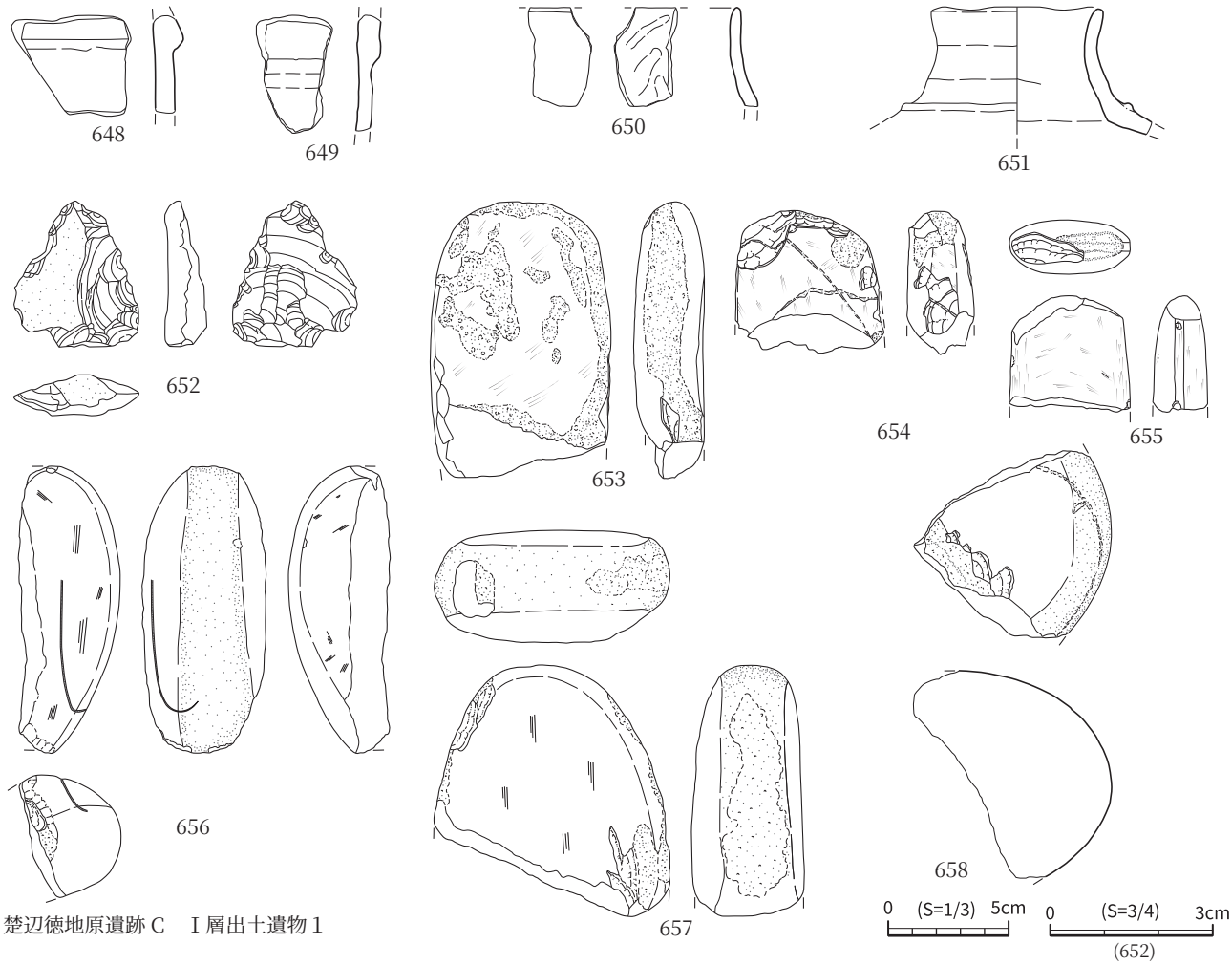


楚辺徳地原遺跡 B　Ⅰ層出土遺物

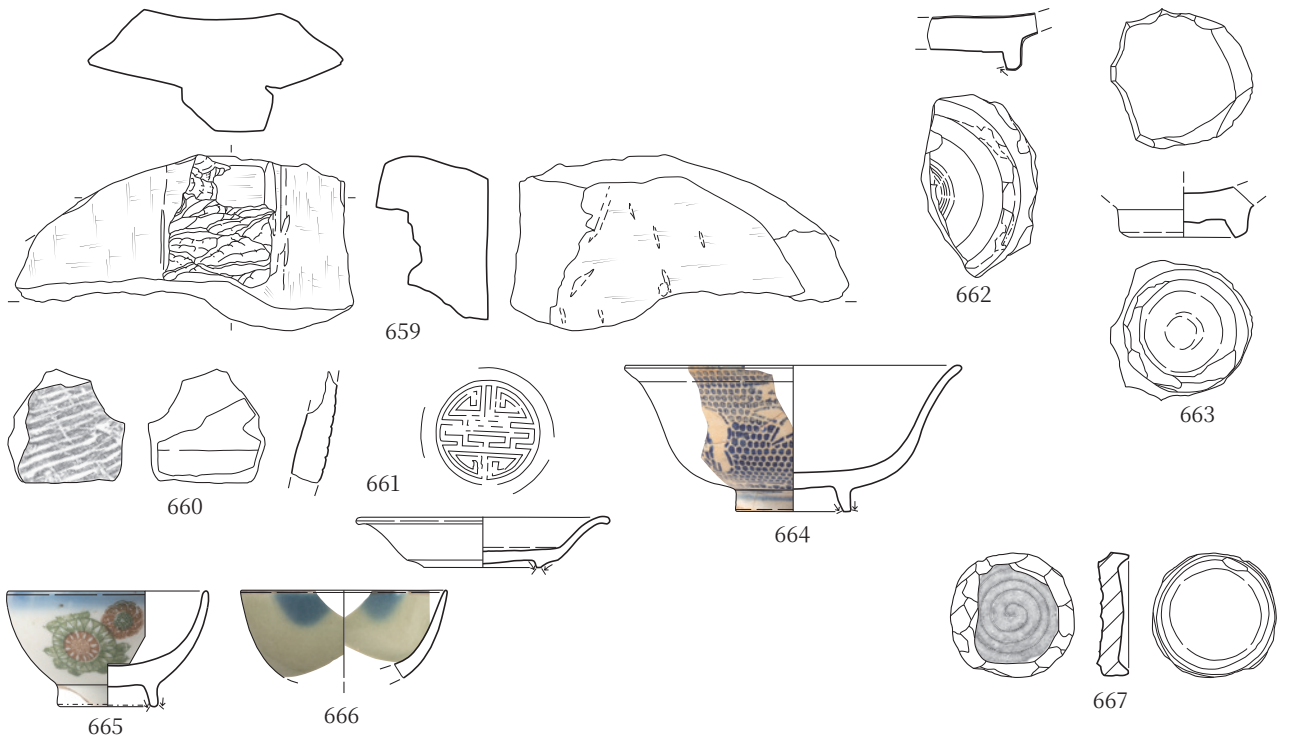


楚辺徳地原遺跡 C　Ⅰ層・Ⅲ - １層出土遺物

図 163　遺構以外からの出土遺物１

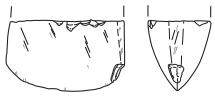


楚辺徳地原遺跡Ｃ　Ⅰ層出土遺物１

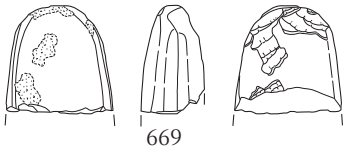


楚辺徳地原遺跡Ｃ　Ⅰ層出土遺物２

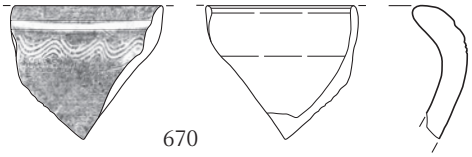
図 164　遺構以外からの出土遺物２



668

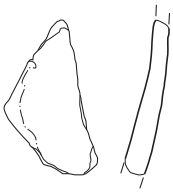


669



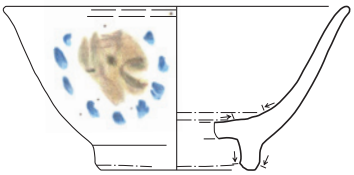
670

楚辺徳地原遺跡Ｅ　Ⅰ層上出土遺物



671

672



673

楚辺徳地原遺跡Ｆ　Ⅰ層上出土遺物　　楚辺徳地原遺跡Ｇ　Ⅰ層上出土遺物

図 165　遺構以外からの出土遺物３

0　(S=1/3)　5cm　0　(S=1/2)　5cm

(659)

表 39　楚辺徳地原遺跡　遺物集計表

地区	遺構・層序	石器												石製品			石造物	合計
	種類																	
	器種	粗割片	フレイク	磨斧				敲磨石				砥石	砥石？	滑石製品	加工された滑石片	石錘	礎石？	
	石質	チャート	緑色片岩	閃緑岩	緑色千枚岩	緑色片岩	緑色岩	輝緑岩	はんれい岩	中粒砂岩	緑色岩	緑色片岩	角閃石ひん岩	滑石	滑石	サンゴ石	中粒砂岩	
B	III-1層	1						1			1		1					4
	IV-1層		1															1
C	SI1				1													1
	SI2									1								1
	SI3									1								1
	SK3							1										1
	SB4									1								1
	SB8							1		1				1				3
	SB11											1						1
	SB35									1								1
	SB68			1														1
D	SB6	1				1												2
	SB7														1			1
	SB15								1									1
	SB24							1						1				2
F	SB6																1	1
G	SD1						1											1
	SD3															1		1
	合計	2	1	1	1	1	1	4	1	5	1	1	1	2	1	1	1	25

地区	遺構・層序	石材																合計 (g)
	種類																	
	石質	安山岩	角閃石ひん岩	石英斑岩	輝緑岩	細粒砂岩	中粒砂岩	頁岩	琉球石灰岩	古生代石灰岩	緑色凝灰岩	軽石	石英	粘板岩	千枚岩	緑色片岩	緑色岩	
B	III-1層	22.65	78.02	80.32	97.77	5.17	586.98	2.32	36.82	4.01	21.35		5.88	2.75	68.07	23.72		1035.83
	III-2層											2.97		5.83				8.8
	IV-1層				43.65		133.33						4.31					181.29
	IV-2層						144.61							38.18			41.57	224.36
G	SD1					766.62		15.69	48.08								32.8	863.19
	SD2								2.98									2.98
	SD3						31.47		65.25						47.92			144.64
	合計	22.65	78.02	80.32	141.42	771.79	896.39	18.01	153.13	4.01	21.35	2.97	10.19	46.76	115.99	23.72	74.37	2461.09

表 40　楚辺徳地原遺跡　遺物観察表１

挿図番号	種類	器種	分類	部位/状態	法量(単位：cm) ( )は復元値			観察事項	出土地
					口径	器高	底径		
485	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。微弱な外反口縁。口唇部舌状。口唇部に刻みか。	SI1 1層
486	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。口縁部は口唇下部を外側に曲げ微弱な外反となる。口唇部舌状。	SI1 1層
487	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英を含む。外反口縁。口唇部成形するが舌状。	SI1 1層
488	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	(16.9)	―	―	砂質で石英を含む。外反口縁。口唇部平坦に成形し端部が膨れる。	SI1 1層
489	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や片岩を含む。外反口縁。口唇部を平坦に成形。	SI1 1層
490	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。口唇部を平坦に成形。微弱な外反口縁。口縁部に縦位の耳を施す。	SI1 1層
491	土器	深鉢	弧状	耳	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を多く含む。円弧状の耳を貼り付ける。	SI1 1層
492	土器	深鉢	仲原式	胴部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒、黒色粒を含む。カヤウチバンタ式口縁か。	SI1 1層
493	土器	深鉢	仲原式	胴部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。カヤウチバンタ式口縁か。	SI1 1層
494	土器	鉢	奄美系	胴部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。横位の耳を貼り付け刻み目を、また胴部に縦位の沈線を施す。	SI1 1層
495	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	(30.0)	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。外反口縁。口唇部を平坦に成形し、口縁部端が膨れる。頸部は「く」の字状に屈曲。	SI1 2層
496	石器	磨斧	―	完形	最大長 6.3	最大幅 4.1	最大厚 0.95	石材：緑色千枚岩　加工痕：敲打、研磨 使用痕：微細剥離、線条痕　重量：51.57 g	SI1 2層
497	土器	甕	弥生系	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。口唇部から口縁端部にかけて突帯を貼り付け刻み目を施す。	SI1
498	骨製品	骨錐	―	肋骨	残存 4.05	残存 1.4	残存 0.9	摩耗により判然としないが全面研磨か。両面から穿孔。下部断面に被熱痕？	SI1 1層
499	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。直口口縁。口唇部は平坦に成形されるが舌状。内外面、特に内面に指頭圧痕が残る。	SI2 1層
500	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。口唇部を平坦に成形。微弱な外反口縁。口縁部下に段あり。	SI2 1層
501	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。微弱な外反口縁。口唇部舌状。	SI2 1層
502	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。口唇部を平坦に成形がするが舌状となる。微弱な外反口縁。	SI2 1層
503	土器	深鉢	型式不明	胴部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。内外面に指頭圧痕が残る。	SI2 1層
504	石器	敲磨石	―	完形	最大長 16.45	最大幅 11.55	最大厚 8.6	石材：中粒砂岩　加工痕：なし　使用痕：敲打 重量：2529.09 g	SI2 1層
505	石器	敲磨石	―	破片	最大長 (10.25)	最大幅 (9.4)	最大厚 (2.75)	石材：中粒砂岩　加工痕：なし　使用痕：研磨 重量：313.75 g	SI3 2層
506	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を多く含む。直口口縁。口唇部を平坦に成形するが舌状となる部分がある。	SI4 1層
507	土器	壺	仲原式	口縁部	(7.4)	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。直口口縁。口唇部舌状。	SI4 1層
508	土器	深鉢	型式不明	胴部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。底部は剥落している。	SI4 1層
509	土器	―	平底	底部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒、赤色粒を多く含む。	SI4 1層
510	土器	深鉢	平底	底部	―	―	厚さ0.7	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。	SI4 1層
511	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英を含む。外反口縁。口唇部を平坦に成形。	SI4 2層
512	土器	壺	型式不明	口縁部	―	―	―	砂質で石英やチャート、石灰岩砂粒、雲母を含む。	SK3 2層
513	石器	敲磨石	―	完形	最大長 9.5	最大幅 6.15	最大厚 3.5	石材：輝緑岩　加工痕：敲打、研磨　使用痕：敲打 その他：転用有、転用前器種(磨製石斧)　重量：374.94 g	SK3 1層
514	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英を含む。直口口縁。口唇部平坦に成形し端部が膨れる。	SK2
515	グスク土器	甕	第2様式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。外反口縁。口唇部舌状。	SK2
516	土器	深鉢	丸底	底部	―	―	0.8	砂質で石英や石灰岩砂粒、赤色粒、黒色粒を含む。	SK2
517	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	(6.4)	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。口唇部を平坦に成形。内面に指頭圧痕残る。	SK5
518	土器	深鉢	宇佐浜式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。外反口縁。口縁断面三角形状。	SK6
519	土器	深鉢	尖底	底部	―	―	1.2	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。	SK7
520	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒、チャートを含む。直口口縁。カヤウチバンタ式口縁。口唇部舌状。	SK8

表 41　楚辺徳地原遺跡　遺物観察表 2

挿図番号	種類	器種	分類	部位/状態	法量(単位：㎝) ( )は復元値			観察事項	出土地
					口径	器高	底径		
521	土器	深鉢	仲原式	胴部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。カヤウチバンタ式口縁か。	SK8
522	土器	深鉢	仲原式	胴部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。カヤウチバンタ式口縁か。	SK8
523	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	薄手、砂質で石英や石灰質砂粒を含む。外反口縁。口唇部を平坦に成形。	SK8
524	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。外反口縁。口唇部平坦に成形。	SK8
525	土器	深鉢	把手	耳	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。横位の耳を貼り付ける。	SK8
526	土器	深鉢	室川式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。口唇部と外面に単篦工具による押引き文(左から)。肥厚する。	Ⅲ- 1 層
527	土器	深鉢	くびれ平底	底部	―	―	5.6	泥質で石英や石灰岩砂粒をわずかに含む。	Ⅲ- 1 層
528	石器	敲磨石	―	破片	最大長 (6.25)	最大幅 (4.7)	最大厚 (4.3)	石材：緑色岩　加工痕：なし　使用痕：敲打 重量：120.60 g	Ⅲ- 1 層
529	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。口唇部を平坦にする成形がみられるが舌状となる。外反口縁。口縁下部は「く」の字状に屈曲。	Ⅲ- 2 層
530	石器	敲磨石	―	破片	最大長 (5.45)	最大幅 (6.65)	最大厚 (7.85)	石材：中粒砂岩　加工痕：なし　使用痕：研磨 重量：163.62 g	SB4 SP459
531	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。直口口縁。宇佐浜式口縁。	SB8 SP80
532	グスク土器	甕	第1様式	口縁部	―	―	―	泥質で石英をわずかに含む。	SB8 SP106
533	土器	壺	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩粒を含む。直口口縁。口唇部舌状。	SB8 SP106
534	中国産白磁	碗	Ⅳ類	口縁部	(14.4)	―	―	玉縁口縁。胎土白色。釉は灰白色でやや青みがかる。	SB8 SP99
535	中国産白磁	碗	Ⅳ類	口縁部	―	―	―	玉縁口縁。胎土は白色。釉は灰拍色。	SB8 SP67
536	中国産白磁	碗	Ⅳ-1類	底部	―	―	高台径 (6.7)	釉は灰白色。外面高台付近から外底面は露胎。高台は内面の刳り浅い。	SB8 SP99
537	羽口	―	―	―	―	―	―	胎土は砂質で赤褐色。石英や白色粒が混じる。	SB8 SP1
538	羽口	―	―	―	―	―	―	胎土は砂質で赤褐色。厚手。石英や白色粒が混じる。	SB8 SP1
539	羽口	―	―	―	―	―	―	胎土は砂質で赤褐色。石英や白色粒が混じる。	SB8 SP1
540	石器	敲磨石	―	破片	最大長 (8.05)	最大幅 (6.0)	最大厚 (6.1)	石材：中粒砂岩　加工痕：なし　使用痕：敲打 重量：438.76 g	SB8 SP67
541	石器	敲磨石	―	破片	最大長 (9.5)	最大幅 (8.35)	最大厚 (4.8)	石材：輝緑岩　加工痕：なし　使用痕：敲打、研磨 重量：551.80 g	SB8 SP66
542	石製品	滑石製品	―	破片	最大長 11.7	最大幅 17.3	―	石材：滑石　加工痕：研磨、穿孔　使用痕：なし　その他：転用有 転用前器種(石鍋)、外底にスス付着穿孔部にサビ付着、重量423.8 g	SB8 SP2 +SP105
543	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。口唇部を平坦に成形するが舌状。微弱な外反口縁。	SB9 SP196
544	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。口唇部を平坦に成形するが舌状。微弱な外反口縁。	SB9 SP205
545	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒、黒色粒を含む。外反口縁。口唇部は平坦に成形されるが舌状。	SB9 SP242
546	土器	深鉢	把手	耳	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。横位の耳を貼り付ける。	SB9 SP204
547	中国産白磁	碗	Ⅳ類	口縁部	―	―	―	玉縁口縁。胎土は白色。釉は乳白色。	SB11 SP114
548	石器	砥石	―	破片	最大長 (7.2)	最大幅 (5.4)	最大厚 (0.7)	石材：緑色片岩　加工痕：研磨　使用痕：砥面 重量：61.76 g	SB11 SP112
549	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。口唇部を平坦にする成形がみられるが舌状となる。外反口縁。	SB14 SP117
550	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英やチャート、石灰岩砂粒、赤色粒を含む。外反口縁。口唇部を平坦に成形。	SB22 SP295
551	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。口唇部を平坦に成形。外反口縁。	SB22 SP295
552	土器	深鉢	仲原式	口縁部	(27.4)	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。カヤウチバンタ式口縁。微弱な外反口縁。口唇部は平坦に成形されるが舌状。	SB25 SP673
553	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。直口口縁。口唇部を平坦に成形。	SB33 SP249
554	中国産白磁	碗	Ⅳ類	口縁部	―	―	―	玉縁口縁。胎土は白色。釉は灰白色。	SB46 SP331
555	グスク土器	甕	第1様式	口縁部	―	―	―	泥質で石英や赤色粒を含む。口唇部が平坦に成形され断面が方形となる。内外面にナデ調整がみられる。	SB62SP500+ SP503
556	グスク土器	甕	第2様式	口縁部	―	―	―	泥質で石英わずかに含む。口唇断面が方形となる。滑石は胎土に確認できないが内外の器面にのみ確認できる。	SB62 SP505

表 42　楚辺徳地原遺跡　遺物観察表３

挿図番号	種類	器種	分類	部位/状態	法量(単位：cm) ( )は復元値			観察事項	出土地
					口径	器高	底径		
557	グスク土器	甕	第3様式	口縁部	(18.2)	―	―	泥質で石英や白色粒をわずかに含む。口唇部舌状。内面に刷毛目状調整を施しナデ消すが徹底されず調整痕が残る。	SB62 SP500
558	グスク土器	甕	第2様式	口縁部～底部	(25.2)	16.5	(10.0)	泥質で石英や石灰岩砂粒を含む。口唇部が平坦に成形され断面が方形となる。外面頸部下と内面頸部に工具による調整痕が残る。	SB62SP499+SP501~SP503
559	グスク土器	甕	第3様式	口縁部	―	―	―	泥質で石英や白色粒をわずかに含む。口唇部舌状。内面に刷毛目状調整を施しナデ消すが徹底されず調整痕が残る。	SB62 SP500
560	石器	磨斧	―	一部欠損	最大長 12.4	最大幅 5.85	最大厚 2.8	石材：閃緑岩　加工痕：打剝、敲打、研磨　使用痕：微細剝離 重量：354.85ｇ	SB68 SP180
561	土器	甕	アカジャンガー式	口縁部	―	―	―	泥質で黒雲母を含む。外反口縁。口縁部に刻み、頸部に沈線が施される。	SB74 SP395
562	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英を含む。外反口縁。宇佐浜式口縁。口唇部舌状。	SP663
563	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。カヤウチバンタ式口縁。口唇部を平坦にする成形がみられるが舌状となる。外反口縁。	SB17 SP210
564	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や黒色粒を含む。外反口縁。口唇部を平坦に成形。	SB16 SP135
565	土器	深鉢	阿波連浦下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。外反口縁。口唇部を平坦に成形。	SP221
566	土器	甕	フェンサ下層式	口縁部	―	―	―	泥質で石英や赤色粒を含む。外反口縁。外面に縦位及び横位の突帯文とその内側の口縁部端から頸部にかけて縦位の沈線を施す。	SB73 SP424
567	土器	甕	フェンサ下層式	口縁部	―	―	―	泥質で石英や赤色粒を含む。外反口縁。外面に縦位及び横位の突帯文とその内側の口縁部端から頸部にかけて縦位の沈線を施す。	SB73 SP424
568	土器	甕	フェンサ下層式	底部	―	―	4.1	泥質で石英や石灰岩砂粒、赤色粒、黒色粒を含む。底部側面端部が稜となる。	SB75 SP399
569	グスク土器	鍋・甕	―	底部	―	―	―	泥質で石英をわずかに含む。滑石は胎土中に確認できないが内外の器面にのみ確認できる。	SP7
570	グスク土器	鍋・甕	―	胴部	―	―	―	泥質で器面アバタ状。石英や石灰岩砂粒をわずかに含む。滑石は胎土中に確認できないが内外の器面にのみ確認できる。	SB24 SP182
571	グスク土器	鍋	―	胴部	―	―	―	泥質で表面がアバタ。石英をわずかに含む。胴部に角状の耳を貼り付ける。	SB61 SP484
572	石器	敲磨石	―	完形	最大長 11.0	最大幅 8.6	最大厚 4.9	石材：中粒砂岩　加工痕：なし　使用痕：敲打、研磨 重量：505.91ｇ	SB35 SP362
573	石器	粗割片	―	完形	最大長 9.3	最大幅 5.0	最大厚 3.25	石材：チャート　加工痕：打剝　使用痕：なし 重量：160.18ｇ	SB6 SP395
574	石器	磨斧	―	完形	最大長 10.2	最大幅 5.0	最大厚 2.5	石材：緑色片岩　加工痕：敲打、研磨 使用痕：微細剝離、線条痕、着柄痕　重量：232.3ｇ	SB6 SP375
575	石製品	加工された滑石片	―	一部欠損	最大長 (3.4)	最大幅 (4.65)	最大厚 (1.6)	石材：滑石　加工痕：研磨、擦切　使用痕：なし 重量：28.65ｇ	SB7 SP383
576	須恵器	甕	―	胴部	―	―	―	胎土は灰色でやや軟質。外面に平行のタタキ、内面に同心円当具痕。	SB12 SP12
577	土器	深鉢	くびれ平底	底部	―	―	6.1	泥質で石英や石灰岩砂粒をわずかに含む。	SB14 SP220
578	グスク土器	鍋・甕	―	胴部	―	―	―	泥質で石英や石灰岩砂粒、赤色粒を含む。	SB14 SP24
579	中国産白磁	碗	Ⅳ類	口縁部	―	―	―	玉縁口縁。胎土は白色。釉は灰白色。	SB14 SP1
580	グスク土器	鍋	第1様式	口縁部～胴部	(23.0)	―	―	泥質で石英を含む。滑石粒を含むが底部に多く、底部上部の輪積み部分から上部は少なくなる。口唇部は平坦に成形される。	SB15 SP281+SP280
581	グスク土器	鍋	第1様式	口縁部	―	―	―	泥質で石英をわずかに含む。口唇部は平坦に成形される。内外面に刷毛目調整痕が残る。方形把手はやや形が崩れる。	SB15 SP23
582	グスク土器	鍋	第1様式	口縁部	―	―	―	泥質で石英や石灰岩砂粒をわずかに含む。口縁部は内湾し、口唇部は平坦に成形され口縁部端が膨れる。	SB15 SP281
583	グスク土器	鍋	第1様式	口縁部	―	―	―	泥質で石英をわずかに含む。口縁部は内湾し、口唇部は平坦に成形される。	SB15 SP421
584	グスク土器	鍋	第1様式	口縁部	―	―	―	泥質で石英をわずかに含む。口縁部は内湾し口唇部は平坦に成形される。	SB15 SP23
585	グスク土器	鍋	第1様式	口縁部	―	―	―	泥質で石英や石灰岩砂粒をわずかに含む。口唇部平坦に成形される。内外面とも頸部下に刷毛目調整痕が残る。	SB15 SP23+SP24
586	グスク土器	甕	第1様式	口縁部	―	―	―	泥質で石英や石灰岩砂粒・赤色粒をわずかに含む。口唇部は平坦に成形されやや三角形状となる。外面に工具調整痕が残る。	SB15 SP23
587	グスク土器	鍋・甕	―	底部	―	―	―	滑石粒を多く含む。	SB15 SP421
588	グスク土器	鍋・甕	―	底部	―	―	―	泥質で石英や石灰岩砂粒、赤色粒を含む。	SB15 SP280

表 43　楚辺徳地原遺跡　遺物観察表４

挿図番号	種類	器種	分類	部位/状態	法量(単位：㎝) ( )は復元値			観察事項	出土地
					口径	器高	底径		
589	グスク土器	鍋・甕	―	底部	―	―	(11.2)	泥質で石英や石灰岩砂粒をわずかに含む。	SB15 SP254
590	グスク土器	鍋・甕	―	底部	―	―	(8.2)	泥質で石英や石灰岩砂粒をわずかに含む。	SB15 SP23
591	グスク土器	鍋・甕	―	底部	―	―	―	泥質で石英や石灰岩砂粒を含む。薄手。	SB15 SP23
592	石器	敲磨石	―	完形	最大長 10.1	最大幅 4.65	最大厚 3.4	石材：はんれい岩　加工痕：敲打、研磨　使用痕：敲打、着柄痕 その他：転用有、転用前器種(磨斧)　重量：289.36ｇ	SB15 SP314
593	グスク土器	甕	第3様式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒をわずかに含む。頸部は「く」の字に屈曲し口縁部は直口する。	SB17 SP188
594	グスク土器	鍋	第1様式	口縁部	―	―	―	泥質で石英や石灰岩砂粒をわずかに含む。口縁部は内湾し、口唇部は平坦に成形される。口縁部に幅の小さい方形把手が施される。	SB18 SP162
595	グスク土器	鍋・甕	―	底部	―	―	―	泥質で石英や石灰岩砂粒を含む。滑石粒を含むが底部に多く、底部上部の輪積み部分から上部は少なくなる。	SB19 SP182
596	グスク土器	鍋・甕	―	底部	―	―	―	滑石粒を多く含む。	SB19 SP182
597	グスク土器	鍋	第1様式	口縁部	―	―	―	泥質で石英や石灰岩砂粒をわずかに含む。口縁部は内湾し、口唇部は平坦に成形されるが徹底されず舌状となる。	SB22 SP30
598	カムィヤキ	壺	A群	口縁部	(12.8)	―	―	胎土灰色で硬質。外面綾杉状、内面に格子目状当具痕。	SB23 SP453
599	グスク土器	甕	型式不明	口縁部	―	―	―	砂質で石英や滑石粒を含む。口唇部は舌状となる。	SB26 SP37
600	グスク土器	鍋・甕	―	底部	―	―	―	滑石粒を多く含むほか石英や赤色粒も含む。	SB26 SP37
601	グスク土器	鍋・甕	―	底部	―	―	―	滑石粒を多く含むほか石英をわずかに含む。	SB26 SP178
602	グスク土器	鍋・甕	―	底部	―	―	―	滑石粒を多く含むほか赤色粒を含む。	SB26 SP37
603	グスク土器	鍋・甕	―	底部	―	―	―	厚手で、滑石粒及び赤色粒を多く含む。	SB26 SP37
604	グスク土器	鍋・甕	―	底部	―	―	―	泥質で石英や石灰岩砂粒をわずかに含む。内面に刷毛目調整痕が残る。	SB26 SP37
605	グスク土器	鍋・甕	―	胴部	―	―	―	泥質で石英や石灰岩砂粒、赤色粒を含む。	SB26 SP37
606	土製品	―	―	―	―	―	―	円盤状。加工痕：打剥（両）	SB26 SP37
607	石器	敲磨石	―	完形	最大長 7.25	最大幅 6.4	最大厚 3.25	石材：輝緑岩　加工痕：なし　使用痕：敲打、研磨 その他：転用有、転用前器種(磨斧)　重量：304.55ｇ	SB24 SP127
608	石製品	滑石製品	―	完形	最大長 6.1	最大幅 4.8	最大厚 2.2	石材：滑石　加工痕：研磨、穿孔、ノミ痕　使用痕：線条痕、研磨 その他：転用有、転用前器種(滑石製石鍋)　重量：65.7ｇ	SB24 SP125
609	土器	深鉢	くびれ平底	底部	―	―	(6.2)	泥質で石英や石灰岩砂粒をわずかに含む。	SP38 1層
610	グスク土器	鍋	第1様式	口縁部	―	―	―	泥質で石英や石灰岩砂粒を含む。口唇部を平坦に成形し口縁部内外の端がやや膨らむ。	SB12 SP10
611	グスク土器	鍋	第1様式	口縁部	―	―	―	泥質で器面アバタ状。石英や石灰岩砂粒をわずかに含む。口縁部は内湾し、口唇部は平坦に成形される。	SB6 SP3
612	グスク土器	鍋	第3様式	口縁部	―	―	―	泥質で器面アバタ状。石英や石灰岩砂粒をわずかに含む。口縁部は内湾し、口唇部は舌状となる。	SB6 SP3
613	グスク土器	鍋	第3様式	口縁部	―	―	―	泥質で器面アバタ状。石英や石灰岩砂粒をわずかに含む。口縁部は内湾し口縁部は舌状となる。	SB6 SP3
614	グスク土器	鍋	第3様式	胴部	―	―	―	泥質で器面アバタ状。石灰岩砂粒をわずかに含む。底部が剥落している。	SB6 SP3
615	グスク土器	鍋	―	胴部～ 底部(平)	―	―	5.4	泥質で器面アバタ状。石灰岩砂粒をわずかに含む。	SB6 SP3
616	中国産 白磁	碗	Ⅳ-1類	底部	―	―	高台径 （7.4）	胎土は白色。釉は灰白色。外面露胎。高台内刳り浅い。	SB6 SP4
617	カムィヤキ	壺	A群	胴部	―	―	―	外面に綾杉文、内面に格子状の当て具痕。薄手で硬質。	SB6 SP63
618	石造物	礎石？	―	一部欠損	最大長 25.4	最大幅 20.1	最大厚 7.25	石材：中粒砂岩　加工痕：打剥、研磨　使用痕：なし 重量：6020.0ｇ	SB6 SP20
619	グスク土器	鍋	第1様式	口縁部	―	―	―	泥質で器面アバタ状。石英や石灰岩砂粒をわずかに含む。口縁部は内湾し口唇部は平坦に成形される。	SB16 SP64
620	グスク土器	甕	第2様式	口縁部	―	―	―	泥質で石英や石灰岩砂粒をわずかに含む。頸部の屈曲が弱く口唇部が舌状となる。	SB4 SP61
621	沖縄産 無釉陶器	壺	―	口縁部	(16.0)	―	―	胎土は赤褐色。外面は灰白色。肩部に横耳を貼り付ける。	SU1
622	沖縄産 無釉陶器	壺	―	胴部	―	―	―	胎土は赤褐色。肩部に横耳を貼り付ける。	SU1
623	沖縄産 無釉陶器	鉢	―	口縁部	(27.2)	―	―	胎土は暗褐色。内湾口縁。外面に茶褐色の釉を施釉。外面胴部に波状文。	SU1
624	沖縄産 施釉陶器	小碗	―	胴～底部	―	―	高台径 4.3	胎土灰褐色。白化粧後、内外面に透明釉。内底面蛇の目釉剥ぎ。畳着け釉剥ぎ。	SD1 1層

表 44　楚辺徳地原遺跡　遺物観察表５

挿図番号	種類	器種	分類	部位/状態	法量(単位：cm) ( )は復元値			観察事項	出土地
					口径	器高	底径		
625	中国産白磁	杯	徳化窯	口縁部	―	―	―	胎土は白色。端反口縁。	SD1 1層
626	中国産青花	碗	徳化窯	底部	―	―	高台径（7.3）	胎土は灰白色。畳着を釉剥ぎ。外面腰部に漣弁文と草花文か。高台の基部や内外面器面に素地の割れあり。	SD1 1層
627	石器	磨斧	―	完形	最大長 (7.8)	最大幅 4.8	最大厚 1.9	石材：緑色岩　加工痕：打剝、敲打、研磨　使用痕：微細剝離 その他：風化　重量：116.75ｇ	SD1 1層
628	沖縄産 施釉陶器	碗	―	底部	―	―	高台径（7.2）	胎土は灰色。内外面胴部に灰釉を施釉。	SD1 7層
629	本土産 近代磁器	皿	A類	口～底部	(13.2)	3.6	高台径 8.6	胎土は白色。輪花口縁。高台内面釉剥ぎ。見込みに目痕あり。型紙絵付け。	SD1 1層
630	中国産青花	碗	景徳鎮	胴部	―	―	―	胎土は灰白色。内面に二重圏線。	SD2 1層
631	沖縄産 施釉陶器	碗	―	底部	―	―	高台径 6.6	胎土灰白色。内外面の胴部まで灰釉を施釉。胴部下半露胎。	SD1 1層 +SD3 4層
632	中国産青磁	皿	Ⅵ類	底部	―	―	高台径（5.8）	胎土は灰色。釉は明緑色。外底面は全面施釉されず一部露胎。見込みに印花文。	SD3 4層
633	沖縄産 施釉陶器	碗	―	底部	―	―	高台径（7.6）	胎土暗灰色。。内外面に白化粧後透明釉。見込み蛇の目釉剥ぎ。畳着け釉剥ぎ。見込みにアルミナ。	SD3 4層
634	本土産 近代磁器	碗	B類	胴～底部	―	―	―	胎土白色。外面に銅板転写による梅の花文。	SD3 4層
635	石製品	石錘	―	完形	最大長 6.9	最大幅 4.95	最大厚 3.5	石材：サンゴ石　加工痕：研磨、穿孔　使用痕：紐ずれ痕 重量：98.7ｇ	SD3 4層
636	沖縄産 施釉陶器	小碗	―	胴～底部	―	―	高台径 4.3	内外面に白化粧。見込みを蛇の目釉剥ぎ。畳付釉剥ぎ。	Ⅰ層
637	中国産青花	碗	福建・ 広東系	口～胴部	―	―	―	胎土は灰白色。外面に呉須で草花文か。	Ⅰ層
638	中国産青磁	碗	Ⅴ類	底部	―	―	―	胎土は灰白色。釉は明緑色で厚く施釉される。ガラス質で貫入あり。	Ⅰ層
639	沖縄産 施釉陶器	鉢	―	口縁部	―	―	―	胎土は灰白色。外面に黒釉を施釉後内面から口唇部に白化粧を施釉。その後口唇部に黒釉を施釉。	Ⅰ層
640	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒、黒色粒を含む。外反口縁。カヤウチバンタ式口縁。口唇部舌状。	Ⅰ層
641	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。外反口縁。口唇部舌状。	Ⅰ層
642	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。外反口縁。口唇部を平坦に成形するが舌状。口縁下部は「く」の字状に屈曲。	Ⅰ層
643	土器	深鉢	仲原式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒をわずかに含む。直口口縁。口唇部舌状。	Ⅲ-1層
644	土器	深鉢	阿波連浦 下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。口唇部を平坦に成形。微弱な外反口縁。	Ⅰ層
645	土器	深鉢	阿波連浦 下層式	口縁部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。外反口縁。口唇部を平坦に成形し、口縁部端が膨れる。	Ⅰ層
646	土器	深鉢	弧状	耳	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を多く含む。円弧状の耳を貼り付ける。	Ⅰ層
647	土器	深鉢	把手	耳	―	―	―	砂質で石英や石灰質砂粒を含む。胴部に断面方形状。	Ⅰ層
648	土器	深鉢	仲原式	胴部	―	―	―	泥質で石英や白色粒、雲母を含む。カヤウチバンタ式口縁か。	Ⅰ層
649	土器	深鉢	仲原式	胴部	―	―	―	砂質で石英や石灰岩砂粒を含む。カヤウチバンタ式口縁か。	Ⅰ層
650	土器	壺	仲原式	口縁部	―	―	―	小型壺。砂質で石英や黒色粒を含む。直口口縁。口唇部舌状。	Ⅰ層
651	土器	壺	奄美系	口縁部	(7.1)	―	―	砂質で石英や白色粒を含む。微弱な外反口縁。口唇部舌状。頸部に断面三角形の突帯を施す。	Ⅰ層
652	石器	打鏃未成品	―	完形	最大長 2.7	最大幅 2.3	最大厚 0.75	石材：黒曜石　加工痕：打剝、押圧剥離　使用痕：なし 重量：3.60ｇ	Ⅰ層
653	石器	磨斧	―	破片	最大長 (11.45)	最大幅 (7.55)	最大厚 (2.95)	石材：輝緑岩　加工痕：敲打、研磨　使用痕：なし 重量：454.34ｇ	Ⅰ層
654	石器	磨斧	―	破片	最大長 (5.95)	最大幅 (6.20)	最大厚 (2.8)	石材：緑色岩　加工痕：敲打、研磨　使用痕：なし 重量：161.00ｇ	Ⅰ層
655	石器	磨斧	―	破片	最大長 (4.85)	最大幅 (5.0)	最大厚 (2.3)	石材：輝緑岩　加工痕：敲打、研磨　使用痕：なし 重量：93.09ｇ	Ⅰ層
656	石器	敲磨石	―	破片	最大長 11.9	最大幅 (4.25)	最大厚 5.15	石材：緑色岩　加工痕：なし　使用痕：敲打、研磨 その他：石灰付着　重量：362.42ｇ	Ⅰ層
657	石器	敲磨石	―	破片	最大長 (10.4)	最大幅 (9.8)	最大厚 4.7	石材：中粒砂岩　加工痕：なし　使用痕：打剝、研磨 重量：632.78ｇ	Ⅰ層

表 45　楚辺徳地原遺跡　遺物観察表６

挿図番号	種類	器種	分類	部位/状態	法量(単位：㎝) ( )は復元値			観察事項	出土地
					口径	器高	底径		
658	石器	敲磨石	―	破片	最大長 (7.75)	最大幅 (8.2)	最大厚 (8.2)	石材：中粒砂岩　加工痕：なし　使用痕：敲打、研磨 重量：502.35ｇ	Ⅰ層
659	石製品	滑石製品	―	完形	最大長 4.6	最大幅 8.95	最大厚 (2.95)	石材：滑石　加工痕：研磨、穿孔　使用痕：なし　その他：転用有 転用前器種(石鍋)石鍋外耳折り取りか　重量：123.0ｇ	Ⅰ層
660	須恵器	甕	―	胴部	―	―	―	胎土は灰色で軟質。外面に並行タタキ、内面ナデ調整。	Ⅰ層
661	本土産白磁	皿	―	口～底部	10.1	2.1	高台径 5.3	腰折れ皿。胎土は白色。釉は灰白色。畳着け釉剥ぎ。見込みに印花文。	Ⅰ層
662	中国産青磁	碗	Ⅵ類	底部	―	―	―	胎土は灰白色。釉は緑色で薄く施釉。外底面露胎。	Ⅰ層
663	中国産青磁	碗	Ⅵ類	底部	―	―	高台径 (5.3)	胎土は灰色。釉は暗緑色で貫入あり。畳付及び外底面露胎。	Ⅰ層
664	本土産 近代磁器	碗	A類	口～底部	(13.4)	5.8	高台径 4.6	いわゆるスンカンマカイ。畳着けを釉剥ぎ。見込みに目痕有。	Ⅰ層
665	本土産 近代磁器	小碗	B類	口～底部	8.0	4.6	高台径 4.0	胎土白色。畳付釉剥ぎ。外面に銅板転写の文様。	Ⅰ層
666	本土産 近代磁器	碗	D類	口～胴部	(8.2)	―	―	クロム青磁。胎土は白色。口縁部口錆。口縁部に丸文。	Ⅰ層
667	円盤状製品	―	―	―	最大長 4.9	最大幅 4.9	最大厚 1.25	沖縄産陶器の底部を使用。内側から打剥。	Ⅰ層
668	石器	磨斧	―	破片	最大長 (2.8)	最大幅 (4.75)	最大厚 (2.5)	石材：輝緑岩　加工痕：研磨　使用痕：微細剥離 重量：49.35ｇ	Ⅰ層
669	石器	磨斧	―	破片	最大長 (4.3)	最大幅 (4.2)	最大厚 (2.5)	石材：輝緑岩　加工痕：敲打、研磨　使用痕：なし 重量：69.0ｇ	Ⅰ層
670	沖縄産 無釉陶器	鉢	―	口縁部	―	―	―	胎土は赤褐色。内湾口縁。外面に圏線とその下に３条の波状文。	Ⅰ層
671	グスク土器	鍋・甕	―	胴部	―	―	―	泥質で石英や石灰岩砂粒をわずかに含む。滑石は胎土に確認できないが 内外の器面にのみ確認できる。	Ⅰ層
672	その他 中国産陶磁器	壺	5類	口縁部	―	―	―	胎土は灰色。口縁部断面方形状。	Ⅰ層
673	沖縄産 施釉陶器	碗	―	口～底部	(13.8)	6.5	高台径 (6.8)	胎土灰色。内外面に白化粧後透明釉。見込み蛇の目釉剥ぎ。畳着け釉剥 ぎ。外面に花文。見込みにアルミナ。	Ⅰ層
674	貝製品	貝睡	―	―	―	―	―	シャコガイ科シラミナ。外面より穿孔。	Ⅰ層
675	貝製品	―	―	―	―	―	―	シャコガイ科。外面より穿孔２箇所。	Ⅰ層

３　渡具知後原遺跡Ａ

渡具知後原遺跡Ａは、トリイ通信施設内の南西に位置しており、現在は基地の周回道路や耕作地が広がっている。

基本層序はⅠ・Ⅱ層を確認し、迫地形でⅢ層を確認した。調査区の現在の地形は北から南に向けてやや傾斜しているが、ほぼ平坦である。

遺構はグスク時代のピットを検出した。また、調査区の南側で迫地形を確認した。

グスク時代

調査区の北西部分でⅡ層掘削後にⅥ層の上面でピットを検出した。遺構は柱痕が確認できたことから掘立柱建物に伴うものと考えられるが、調査区全体が後世の耕作や基地造成による攪乱を受けており、プランを確認する

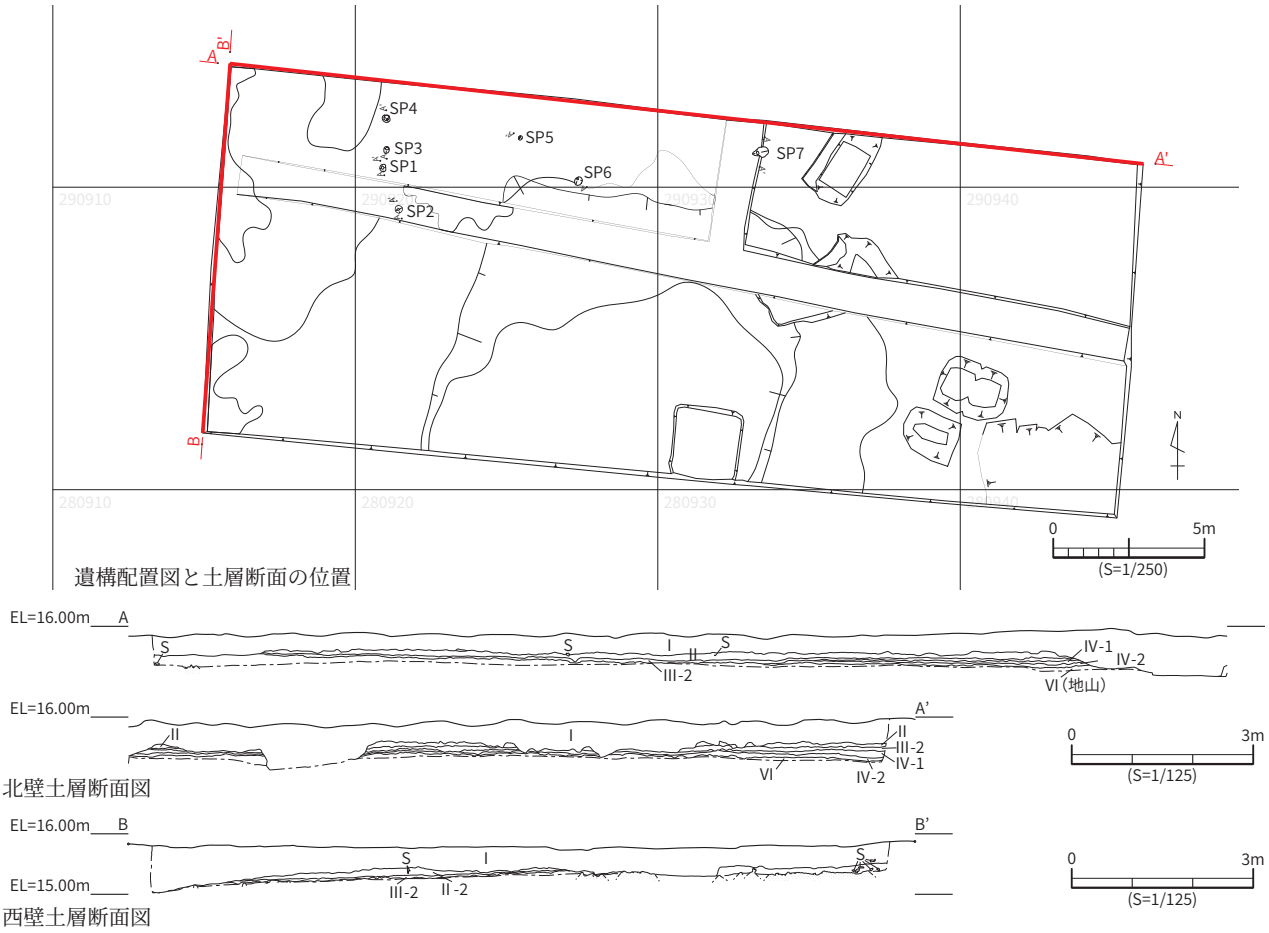


図 166　調査区平面・土層断面図

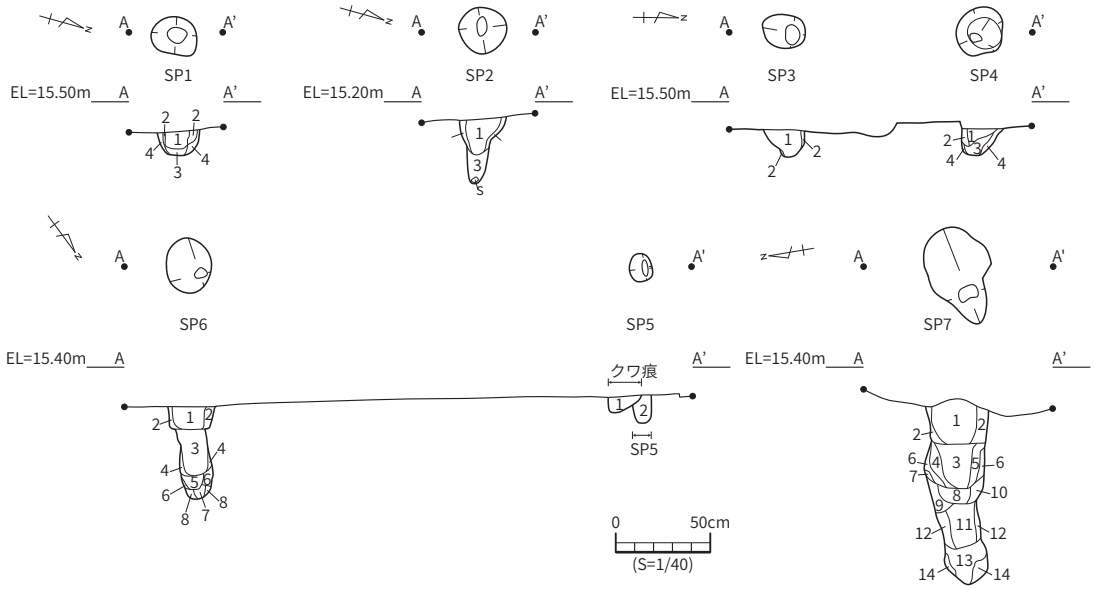


図 167　遺構平面・土層断面図

ことができなかった。

遺構はSP2より土器が出土しているが小破片で型式は不明である。

迫地形　迫地形は調査区の南側で北東から南西を軸としており、東西から傾斜し始め調査区の中央が最も低くなる。

遺物は土器や石材、中国産白磁、中国産褐釉陶器が出土した。土器は小破片で水磨を受けており型式を特定することはできなかった。中国産白磁はＥ０群の碗（676）が出土している。中国産褐釉陶器（677）は壺の口縁部が出土しているが、水磨を受けており釉薬が剥げ落ちている。

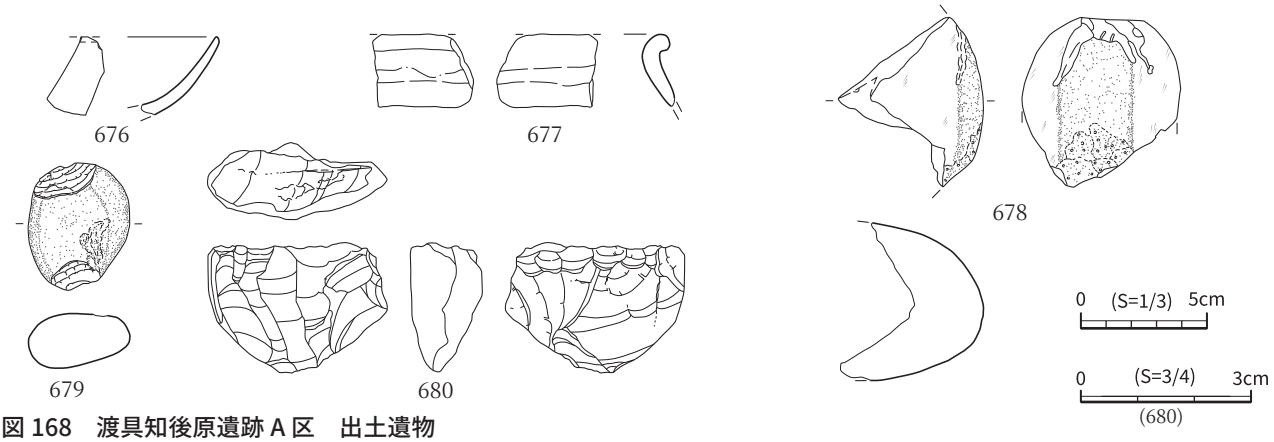


図 168　渡具知後原遺跡Ａ区　出土遺物

表 46　渡具知後原遺跡　遺物集計表

遺構・層序	土器 室川	土器 仲原	土器 型式不明	中国産白磁 ＥO群	沖縄産施釉陶器	合計
SP7			1			1
Ⅲ層	1	1		1	1	4
合計	1	1	1	1	1	5

種類 器種 石質 / 遺構・層序	石器 フレイク チャート	石器 チップ チャート	石器 石核 チャート	石器 磨斧 輝緑岩	石器 敲磨石 輝緑岩	石器 敲磨石 石英	石器 石器破片 千枚岩	合計
Ⅲ層	2	1	1	1	2	1		8
Ⅳ層							3	3
合計	2	1	1	1	2	1	3	11

種類 石質 / 遺構・層序	石材 角閃石ひん岩	輝緑岩	細粒砂岩	中粒砂岩	頁岩	頁岩・緑色千枚岩	緑色凝灰岩	礫岩	チャート	石英	粘板岩	千枚岩	片岩	緑色千枚岩	緑色岩	合計(g)
SP2				152.73												152.73
Ⅲ層	122.91		68.86	1288.36	134.7	68.04	1.83	56.11	2.38	54.96	114.92	284.19		117.34	149.52	2464.1
Ⅳ層		119.18		37.13	28.36					1.19		98	356.1		28.77	668.69
合計	122.91	119.18	68.86	1478.22	163	68.04	1.83	56.11	2.38	56.15	114.92	382.19	356.1	117.34	178.29	3285.52

表 47　渡具知後原遺跡　遺物観察表

挿図番号	種類	器種	分類	部位/状態	法量(単位：cm) ( )は復元値 口径	器高	底径	観察事項	出土地
676	中国産白磁	碗	E0群	口～胴部	―	―	―	胎土は灰色。釉は青みのある灰色。	Ⅲ層
677	その他 中国産陶磁器	壺	―	口縁部	―	―	―	釉は暗オリーブ色だが水磨を受けておりほとんど剥落している。短頸壺。	Ⅰ層
678	石器	敲磨石	―	破片	最大長 (6.7)	最大幅 (5.8)	最大厚 (6.3)	石材：輝緑岩　加工痕：なし　使用痕：敲打、研磨 重量：179.19ｇ	Ⅲ層
679	石器	敲磨石	―	完形	最大長 5.05	最大幅 4.0	最大厚 2.15	石材：石英　加工痕：なし　使用痕：敲打 重量：53.71ｇ	Ⅲ層
680	石器	石核	―	完形	最大長 2.3	最大幅 3.15	最大厚 1.25	石材：チャート　加工痕：打剥、押圧剥離　使用痕：なし 重量：9.23ｇ	Ⅲ層

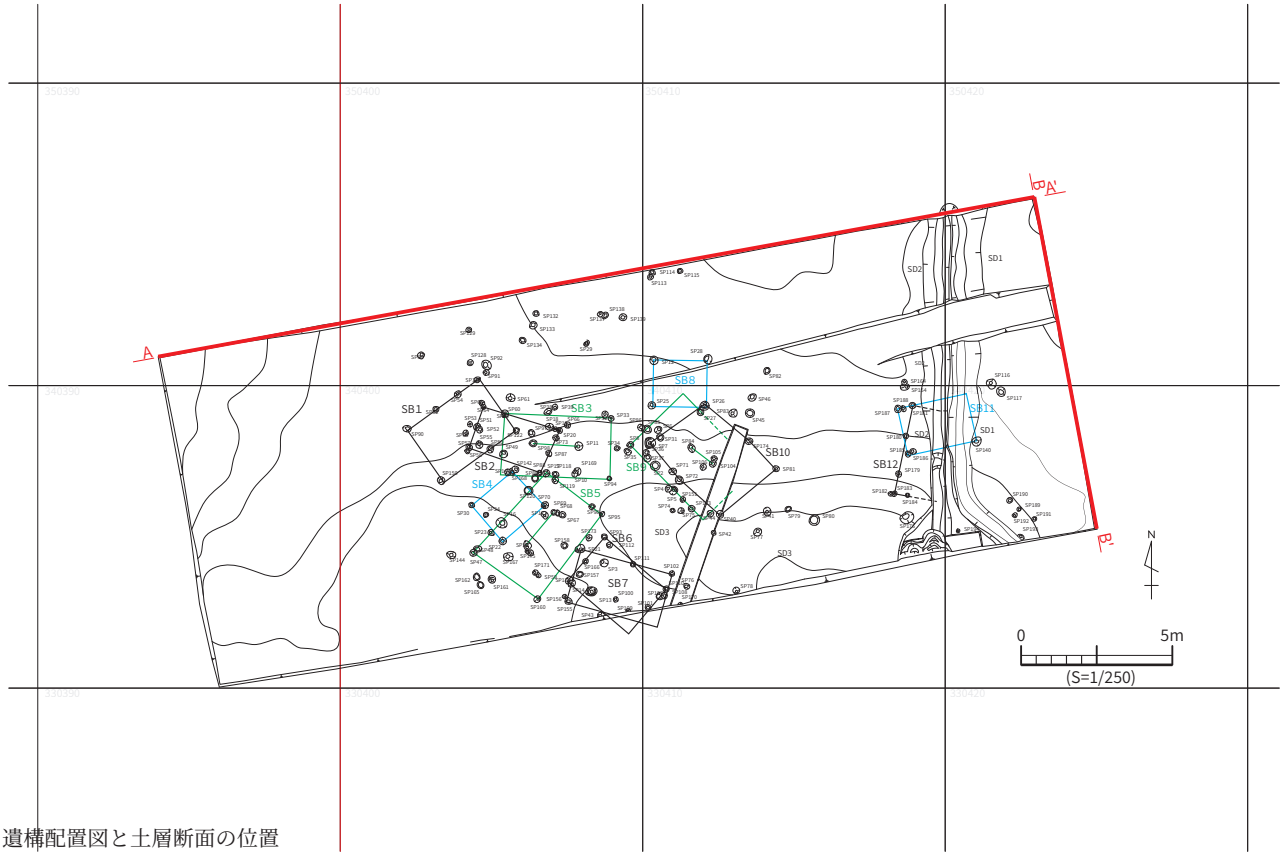
４　古堅通地原遺跡Ａ

古堅通地原遺跡Ａはトリイ通信施設内の南東に位置しており、現在は基地の周回道路や耕作地が広がっている。

基本層序はⅠ・Ⅱ層を確認し、迫地形でⅢ層を確認した。

調査区の現在の地形は北から南に向けてやや傾斜しているが、ほぼ平坦である。

遺構は近世・近代、グスク時代の遺構を検出した。また、調査区の中央では迫地形を確認した。



遺構配置図と土層断面の位置

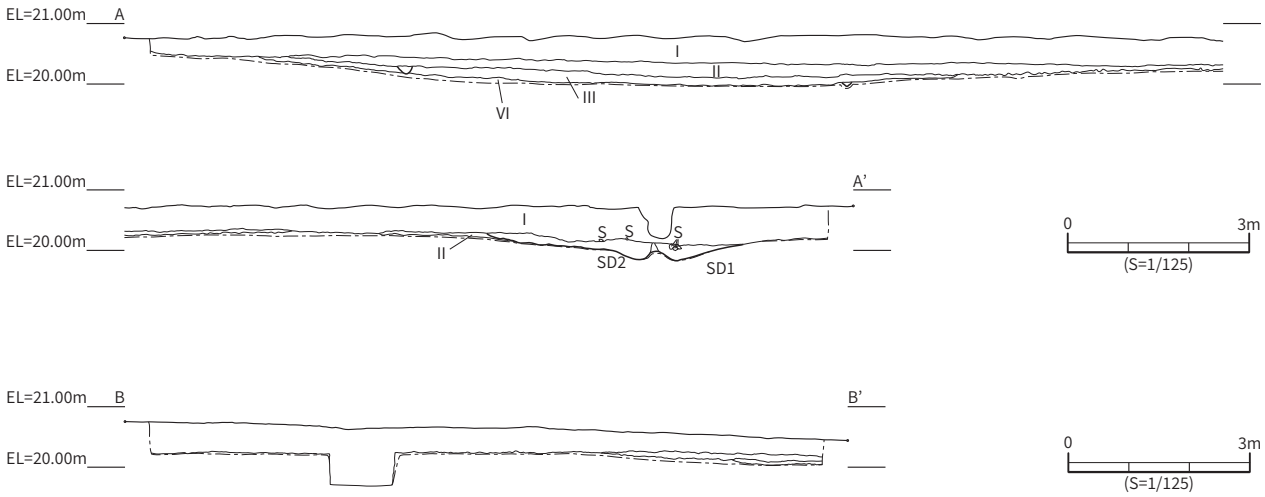


図 169　調査区平面・土層断面図

グスク時代

グスク時代の遺構はピットを検出した。ピットは掘立柱建物跡に伴うものでプランを 12 棟分確認した。遺構は上部を後世の影響により削平されている。

表 48　古堅通地原遺跡 A　遺構プラン一覧表

遺構名	ピット	掲載	分類	外枠		中柱
				長軸(m)	短軸(m)	本数
SB 1	SP**90**,150,50,122,99,127,54,62	―	A	2.9	2.1	―
SB 2	SP64,51,57,88,87,73,20	―	A	2.6	1.4	―
SB 3	SP49,143,89,118,10,94,33,38,60,98,11	○	A4	3.5	2	2
SB 4	SP30,22,70,168	○	B1	1.8	1.6	―
SB 5	SP48,160,173,95,96,119,17,120,16,15,69	○	A4	3.6	2.6	2
SB 6	SP93,166,172,101,110	―	A	2.7	1.9	―
SB 7	SP21,14,172,155,43,108,102,111,21	―	A	3.1	1.8	―
SB 8	SP12,25,26,28	○	B1	1.8	1.5	―
SB 9	SP85,8,37,2,5,151,103,44,27,84,104	○	A4	3.4	2.4	―
SB10	SP7,71,72,40,81,174,26,31	―	A	3.3	2.4	―
SB11	SP187,185,140	○	B1	2.3	1.6	―
SB12	SP181,180,179,183,184	○	A	3	―	―

SB3 は 640400 に位置し、Ⅵ層の上面で検出した。プラン分類は A4 で、長軸 3.5 m、短軸２mの長方形となり、東―西を軸とする。SB1 と SB2、SB4、SB5 と重なるが遺構の切り合いは確認できなかった。

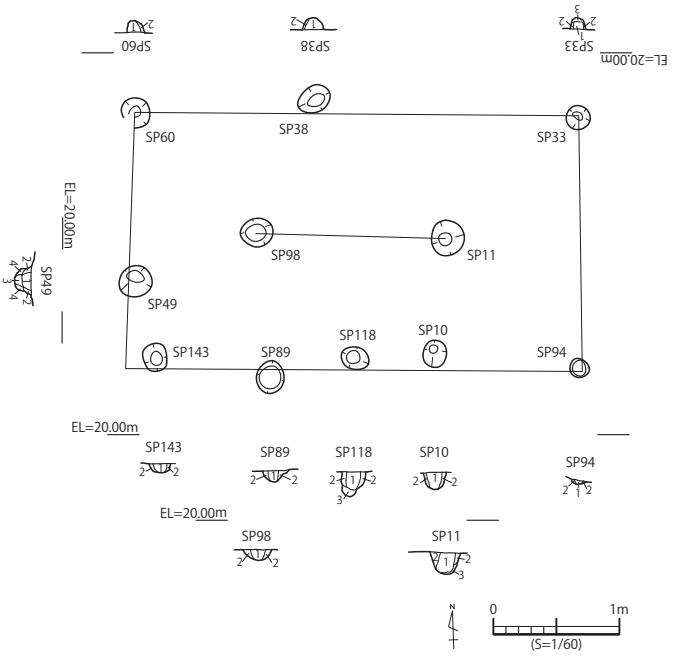


図 170　SB 3　遺構平面・土層断面図

SB5 は 340400 に位置しⅥ層上面で検出した。プラン分類は A4 で、長軸 3.6 m、短軸 2.6 mの長方形となり、北東―南西を軸とする。

SB4 と SB7 と重なるが、遺構の切り合いは確認できなかった。

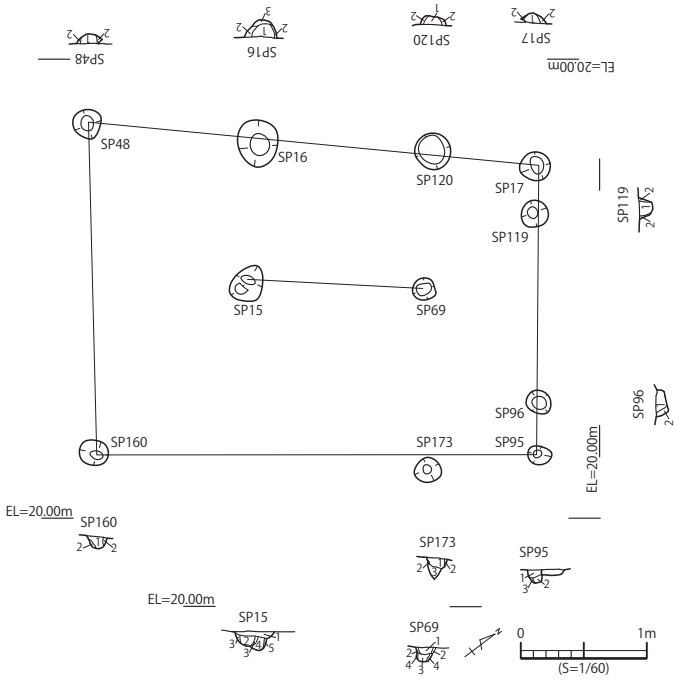


図 171　SB 5　遺構平面・土層断面図

SB4 は 340400 に位置し、Ⅵ層上面で検出した。プラン分類は B1 で、長軸 1.8 m、短軸 1.6 mの方形となり、北東―南西を軸とする。

SB3 と SB5 と重なるが、遺構の切り合いは確認できなかった。

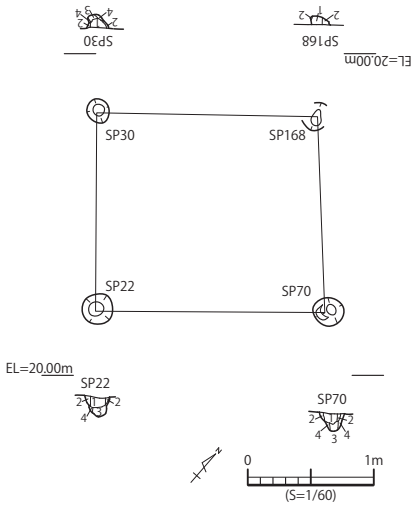


図 172　SB 4　遺構平面・土層断面図

SB8 は 350410 から 340410 に位置し、Ⅵ層上面で検出した。プラン分類は B1 で、長軸 1.8 m、短軸 1.5 m の方形となり、北―南を軸とする。

SB9 と SB10 と重なる。また、SB10 とは SP26 が重なるが、上部を削平されているため切り合いについては確認できなかった。

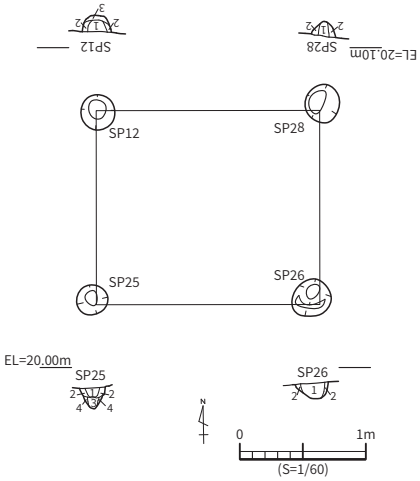


図 173　SB 8　遺構平面・土層断面図

SB9 は 340410 に位置し、VI層上面で検出した。プラン分類は A4 で、長軸 3.4 m、短軸 2.4 mの長方形となり、北西―南東を軸とする。

SB8 と SB10 は重なるが、遺構の切り合いは確認できなかった。

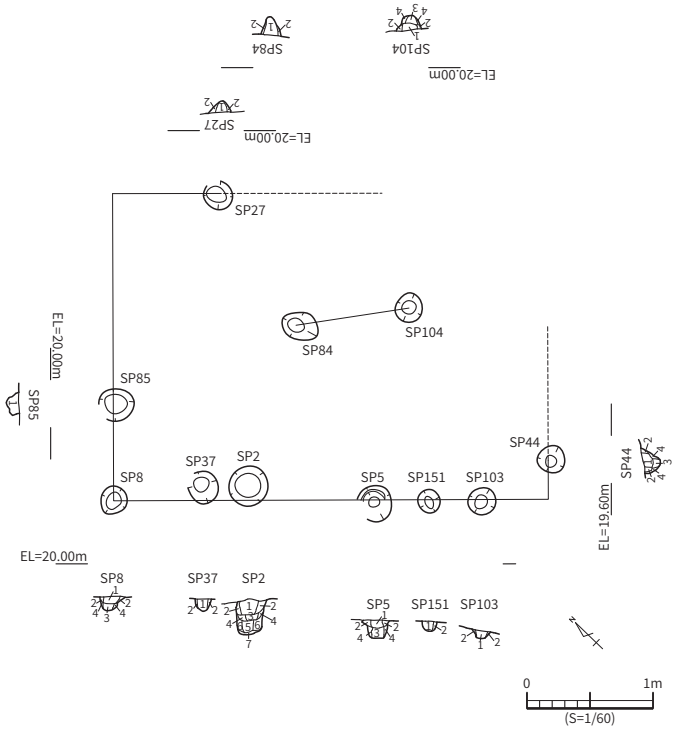


図 174　SB 9　遺構平面・土層断面図

SB11 は 340410 から 340420 に位置し、VI層上面で検出した。プラン分類は B1 で、長軸 2.3 m、短軸 1.6 m の長方形となり、北東―南西を軸とする。

SB12 と重なるが、遺構の切り合いは確認できなかった。

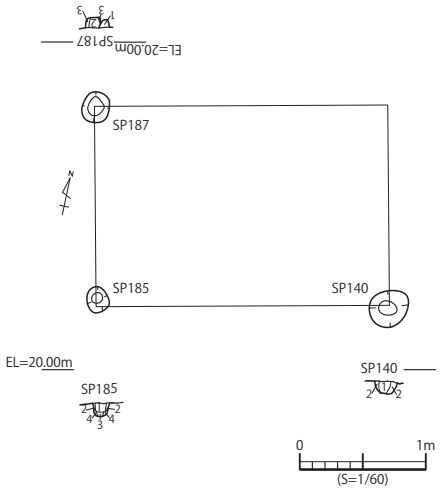


図 175　SB11　遺構平面・土層断面図

SB12 は 340410 に位置し、VI層上面で検出した。プラン分類は A で、長軸 3 mの長方形と考えられる。北東―南西を軸とする。

SB11 と重なるが、遺構の切り合いは確認できなかった。

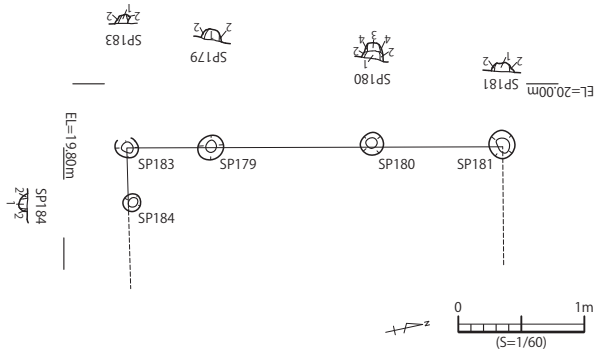
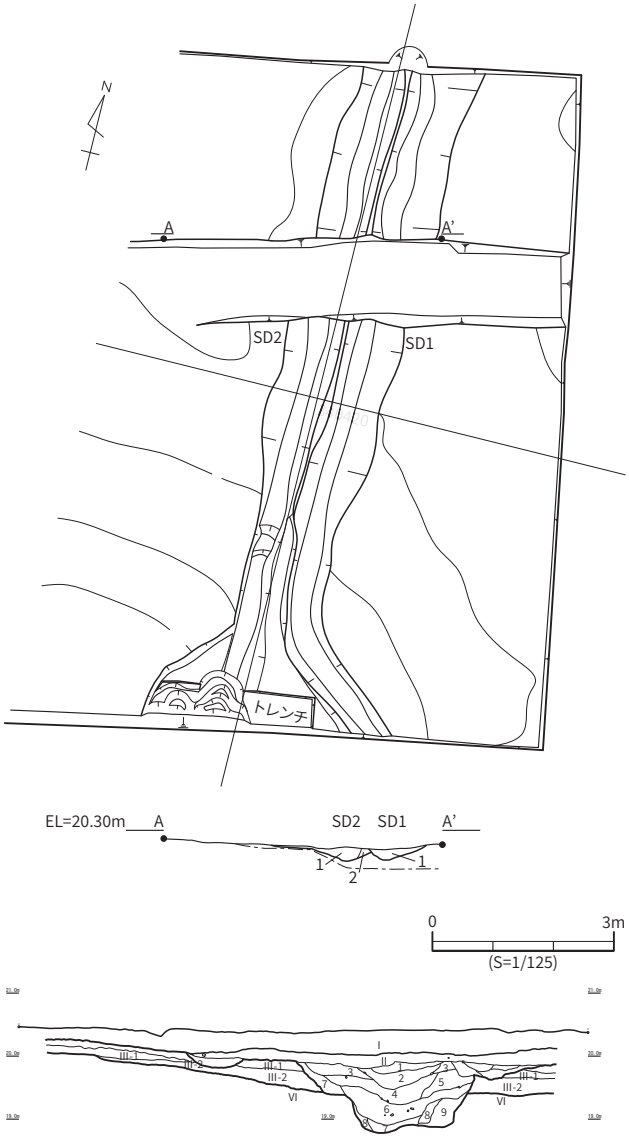


図 176　SB12　遺構平面・土層断面図

近世・近代

遺構は溝状遺構を２基確認した。遺構は南北を軸として並行する SD1 と SD2 を検出した。SD2 は南壁側付近で１段深くなる。遺構覆土は褐色（10YR4/4）の極細砂～シルトが主体である。SD2 では堆積中にラミナがみられることから排水に関する遺構と考えられる。SD1 はその上部に位置し、並行することから区画または道に関する遺構と考えられる。



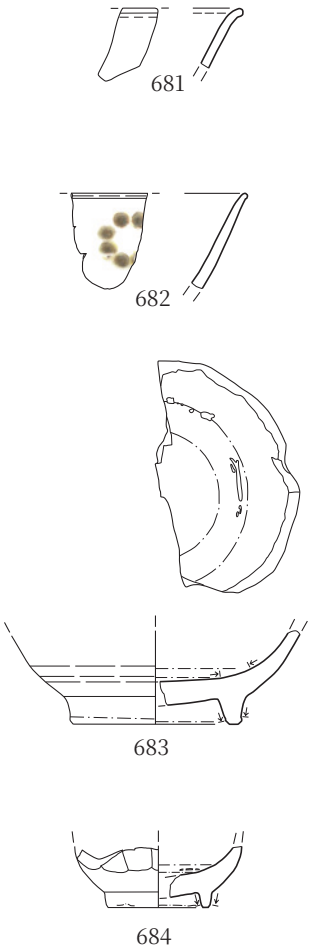


図 177　SD　遺構平面・土層断面図、出土遺物

表 49　古堅通地原遺跡　遺物集計表

種類 / 分類 / 遺構・層序	中国産青花		本土産近代磁器	沖縄産施釉陶器	沖縄産無釉陶器	沖縄産陶質土器	明朝系瓦	合計
	徳化窯	福建・広東系	C類					
SD1				1				1
SD2	1	2	1	7	4	1	1	17
III-1層				1				1
合計	1	2	1	9	4	1	1	19

種類 / 器種 / 石質 / 遺構・層序	石器			合計
	粗割片	打斧	敲磨石	
	石英	緑色片岩	中粒砂岩	
SD2	1			1
III-1層		1	1	2
合計	1	1	1	3

迫地形　迫地形は調査区の南側で確認でき、南に向けて深くなる。堆積は基本層のⅢ層を確認し、堆積はレンズ状をしている。Ⅲ層掘削後はピットを検出した。

遺物は土器や石器、沖縄産陶器が出土している。土器は小破片で水磨を受けており型式は確認できなかった。また沖縄産陶器は上層から混じったものと考えられる。

遺構以外からの遺物

Ⅰ層から本土産磁器のＡ類（685）出土している。

図 178　迫地形遺構配置図

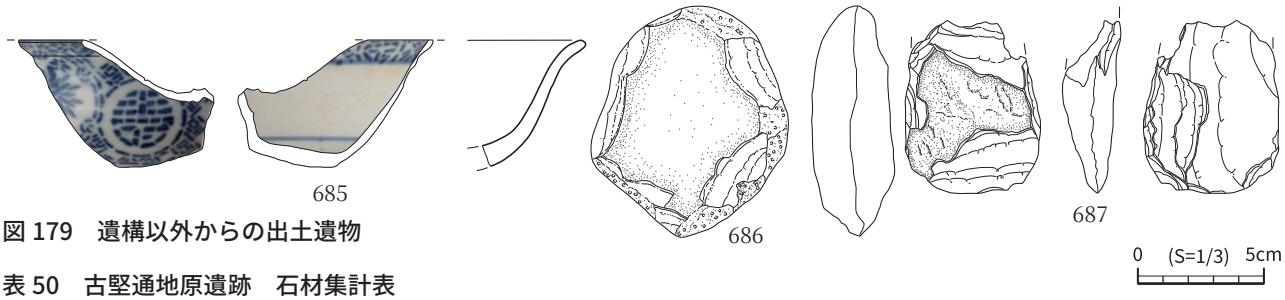


図 179　遺構以外からの出土遺物

表 50　古堅通地原遺跡　石材集計表

種類 石質 遺構・層序	石材											合計 (g)
	角閃石ひん岩	輝石ひん岩	中粒砂岩	石灰質砂岩	頁岩	琉球石灰岩	軽石	粘板岩	片岩	緑色千枚岩	緑色岩	
SD2		85.35			19.74	29.66		51.91	33.05		101.69	321.4
Ⅲ-1層	287.69		320.99	6.06	13.09		5.55			141.94		775.32
合計	287.69	85.35	320.99	6.06	32.83	29.66	5.55	51.91	33.05	141.94	101.69	1096.72

表 51　古堅通地原遺跡　遺物観察表

挿図番号	種類	器種	分類	部位/状態	法量(単位：㎝) ( )は復元値			観察事項	出土地
					口径	器高	底径		
681	中国産青花	碗	福建・ 広東系	口～胴部	―	―	―	胎土は灰白色。	SD2 1層
682	沖縄産 施釉陶器	碗	―	口縁部	―	―	―	白化粧後、内外面に透明釉。外面に鉄釉の丸文。	SD2 1層
683	沖縄産 施釉陶器	碗	―	底部	―	―	高台径 (7.2)	白化粧後、内外面に透明釉。内底面蛇の目釉剥ぎ。畳着け釉剥ぎ。	SD2 1層
684	沖縄産 施釉陶器	小碗	―	底部	―	―	高台径 (4.3)	白化粧後、内外面に透明釉。内底面蛇の目釉剥ぎ。畳着け釉剥ぎ。	SD2 12層
685	本土産 近代磁器	碗	A類	口～胴部	―	―	―	胎土は白色。外反口縁。紙型絵付け。	Ⅰ層
686	石器	敲磨石	―	完形	最大長 9.15	最大幅 7.85	最大厚 3.20	石材：中粒砂岩　加工痕：なし　使用痕：敲打 重量：280.60 g	Ⅲ-1層
687	石器	打斧	―	破片	最大長 (6.85)	最大幅 (5.4)	最大厚 (2.3)	石材：緑色片岩　加工痕：打剝　使用痕：微細剝離 重量：79.69 g	Ⅲ-1層

５　大湾親見原遺跡Ａ

大湾親見原遺跡Ａは、トリイ通信施設内の東に位置しており、現在は耕作地が広がっている。

基本層序のⅠ・Ⅱ層を確認し、迫地形でⅢ・Ⅳ層を確認した。

遺構はグスク時代のピットを検出した。また、調査区の西側で迫地堆積を確認した。

グスク時代

グスク時代の遺構は、Ⅱ層及びⅢ層掘削後にピットを検出した。ピットは掘立柱建物跡に伴うもので、掘立柱建物のプランは５棟確認した。

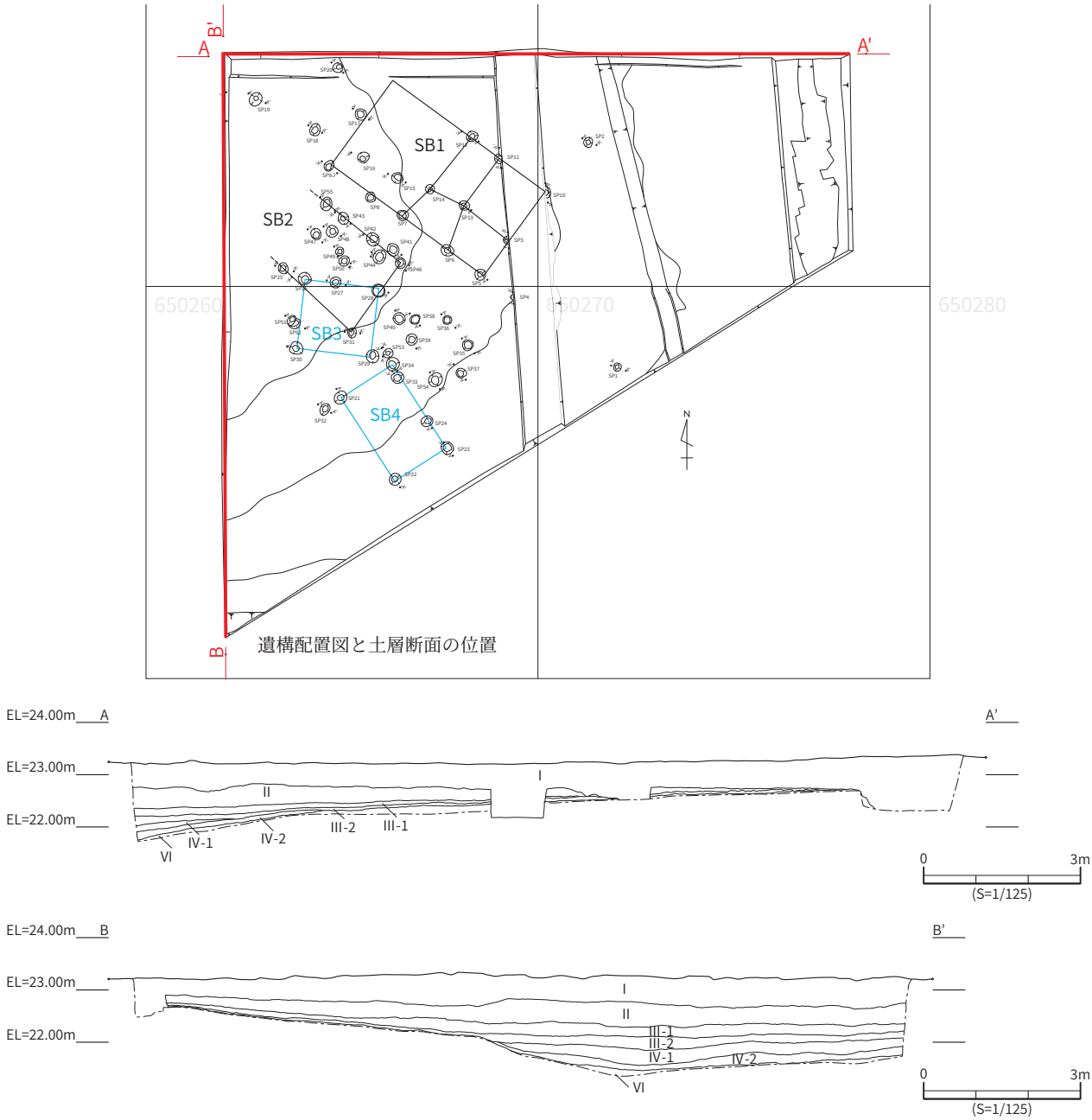


図 180　調査区平面・土層断面図

表 52　大湾親見原遺跡Ａ　遺構プラン一覧表

遺構名	ピット	掲載	分類	外枠		中柱
				長軸(m)	短軸(m)	本数
SB１	SP17,9,8,7,6,5,3,10,11,12,14,13	○	A5	4.8	2.7	―
SB２	SP25,31,46,42,55	○	A	―	2.2	―
SB３	SP26,30,29,28,27	○	B2	1.9	1.8	―
SB４	SP34,21,22,23,24	○	B	2.5	1.6	―

SB1 は 660260 に位置し、Ⅳ層上面で検出した。プラン分類は A5 で、長軸 4.8 m、短軸 2.7 mの長方形となり、北西―南東を軸とする。

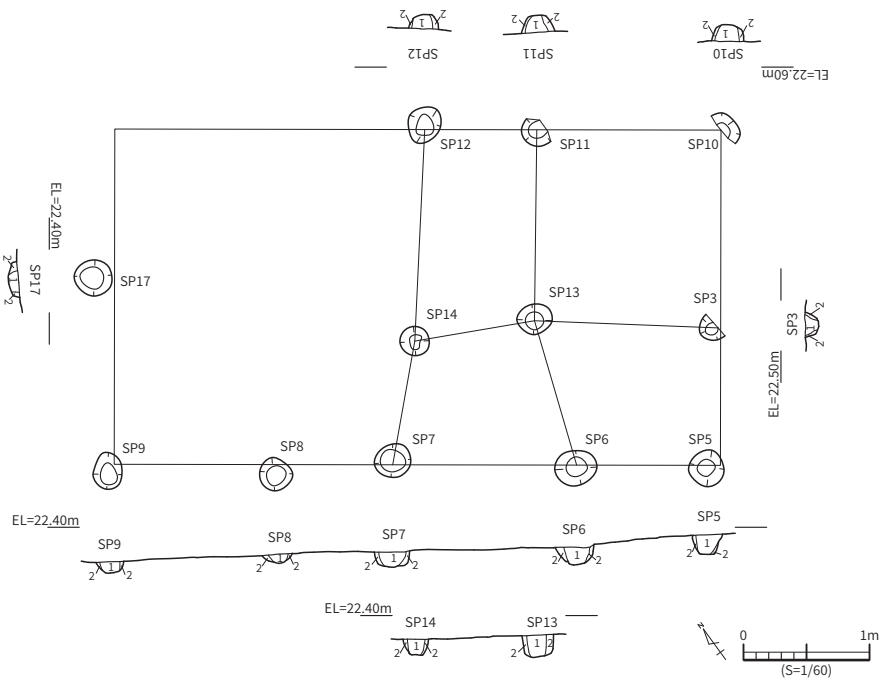


図 181　SB1　遺構平面・土層断面図

SB2 は 660260 から 650260 に位置し、Ⅳ層上面で検出した。プラン分類は A で、短軸 2.2 mの長方形となると考えられ、北西―南東を軸とする。SB3 と重なるが遺構の切り合いは確認できなかった。

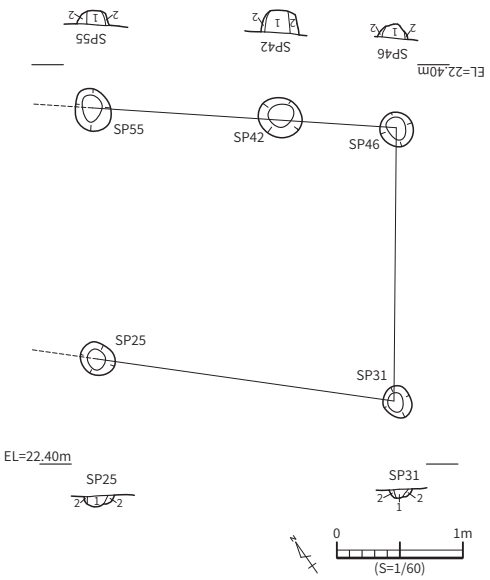


図 182　SB2　遺構平面・土層断面図

SB3 は 660260 から 650260 に位置し、Ⅳ層上面で検出した。プラン分類は B2 で、長軸 1.9 m、短軸 1.8 m の長方形となり、北西―南東を軸とする。SB2 が重なるが、遺構の切り合いは確認できなかった。

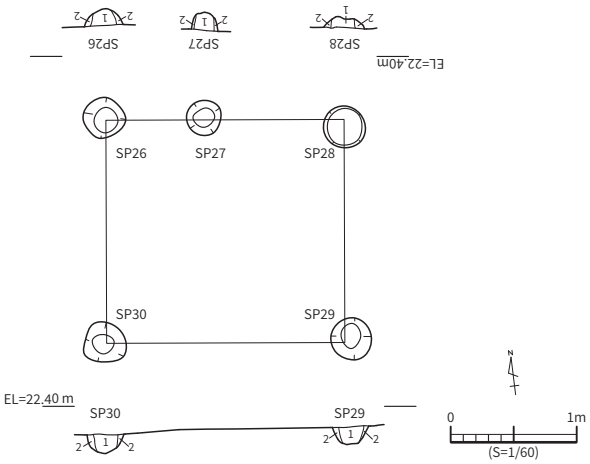


図 183　SB3　遺構平面・土層断面図

SB4 は 650260 に位置し、Ⅳ層上面で検出した。プラン分類は B2 で、長軸 2.5 m、短軸 1.6 mの長方形となり、北西―南東を軸とする。

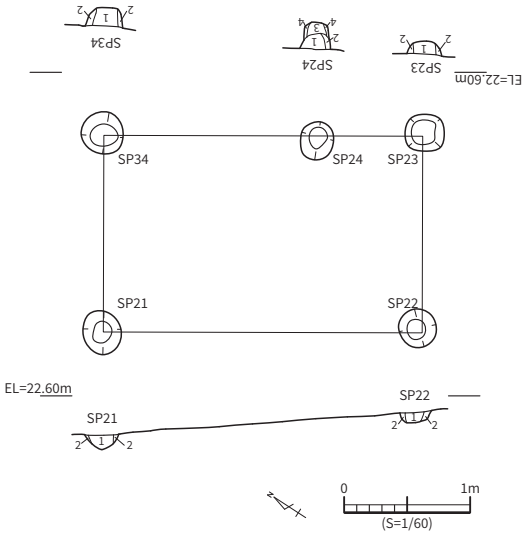
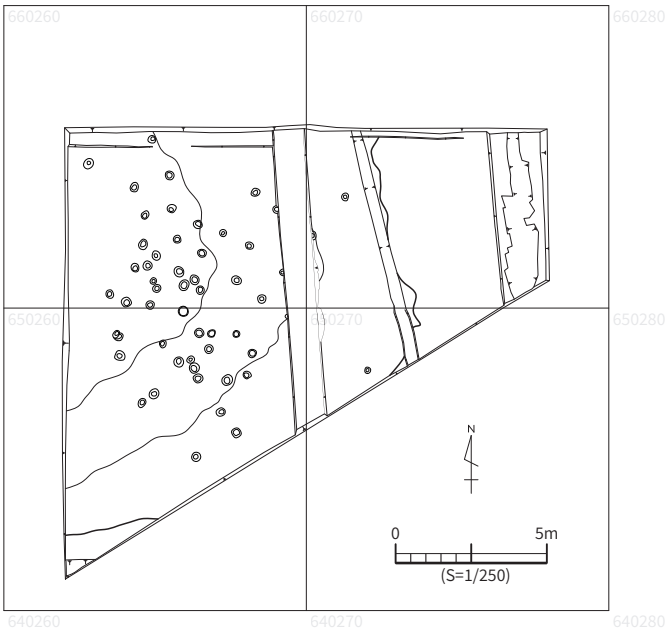


図 184　SB4　遺構平面・土層断面図

迫地形　迫地形は調査区の東側に位置しており、東に向けて深くなる。土層堆積はⅢ・Ⅳ層を確認した。堆積はⅢ層が黒褐色（10YR2/3）のシルト～極細砂主体、Ⅳ層が黒褐色（7.5YR2/2）のシルト～極細砂主体となっている。堆積はⅢ層が水平堆積、Ⅳ層がレンズ状堆積となっている。

遺物は土器や中国産青磁、沖縄産陶器・石器が出土している。土器は小破片であったため型式は不明である。中国産青磁（690）はⅡ層からの出土でⅤ-1類の外面にヘラ描きの漣弁文が施されるものが出土している。Ⅲ-1層から沖縄産陶器（689）が出土しているが上層からの混入と考えられる。



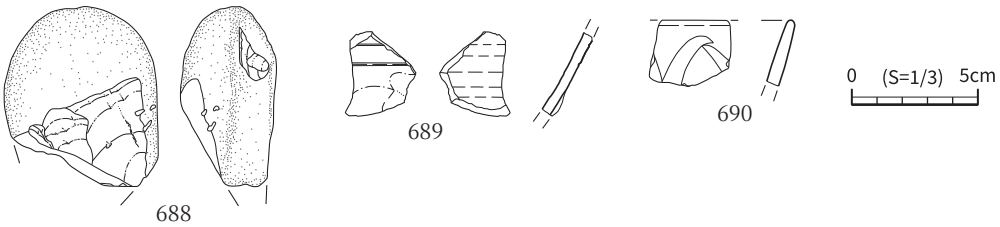


図 185　迫地形　平面図、出土遺物

表 53　大湾親見原遺跡　遺物観察表

挿図番号	種類	器種	分類	部位/状態	法量(単位：cm) ( )は復元値			観察事項	出土地
					口径	器高	底径		
688	石器	敲磨石	―	一部欠損	最大長 (7.15)	最大幅 6.1	最大厚 3.8	石材：緑色岩　加工痕：なし　使用痕：敲打 重量：181.85 g	Ⅰ層
689	沖縄産 施釉陶器	碗	―	胴部	―	―	―	内外面に灰釉を施釉し、一部が厚い。焼成悪く胎土は赤褐色。釉が厚い部部分のみ灰色。	Ⅲ-1層
690	中国産青磁	碗	Ⅴ-1類	口縁部	―	―	―	胎土は灰白色。釉を厚い。直口口縁。外面にヘラ描きの漣弁文。	Ⅱ層

表 54　大湾親見原遺跡　遺物集計表

遺構・層序	中国産青磁 Ⅴ-1類	沖縄産施釉陶器	合計
Ⅱ層	1		1
Ⅲ-1層		1	1
合計	1	1	2

遺構・層序	種類 石質 片岩	合計(g)
Ⅳ-2層	3.34	3.34
合計	3.34	3.34

6　大湾糸蒲原遺跡Ａ

大湾糸蒲原遺跡Ａはトリイ通信施設内の東側に位置しており、現在は耕作地が広がっている。

基本層序のⅠ・Ⅱ層を、迫地形でⅢ・Ⅳ・Ⅴ層を確認した。

遺構はグスク時代のピットを検出した。また、調査区の南側で迫地堆積を確認した。

遺構配置図と土層断面の位置

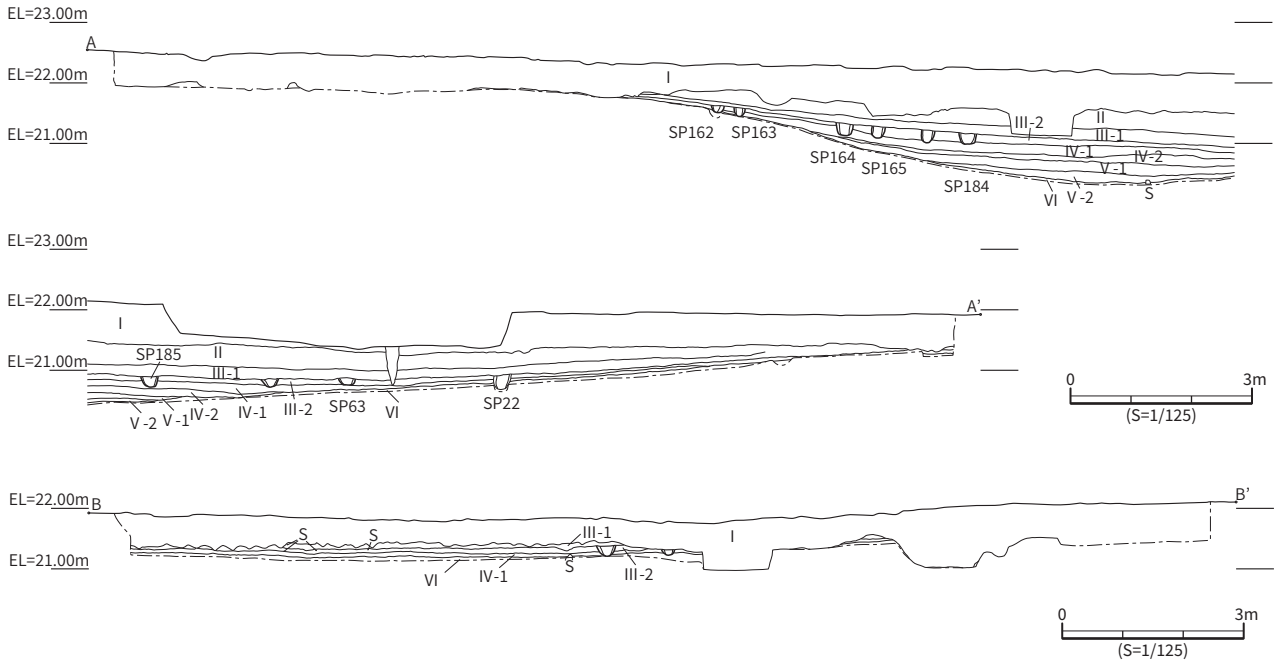


図 186　調査区平面・土層断面図

グスク時代

グスク時代の遺構は、Ⅱ層及びⅢ層掘削後にピットを検出した。ピットは掘立柱建物跡に伴うもので、プランを８棟分確認した。

表 55　大湾糸蒲原遺跡 A　遺構プラン一覧表

遺構名	ピット	掲載	分類	外枠		中柱
				長軸(m)	短軸(m)	本数
SB 1	SP3,4,42,10,43,58,19,18,**17**	○	A	4.6	2	―
SB 2	SP25,31,36,38,133,113,109,47,49,57,135,114,131	○	A6	4.9	3.1	―
SB 3	SP130,127,95,105,132	○	B2	2.3	2.1	―
SB 4	SP122,102,100,99,84,83,34,33,32,74,104	○	A5	4.5	2.5	―
SB 5	SP12,15,63,64	―	B	2.3	1.9	―
SB 6	SP67,14,59,61,70,66,81,76,75,52,13,68,62,69,85	○	A5	2.9	1.8	―
SB 7	SP176,173,159,161,153,152,150,149	―	A	3.2	2.4	―
SB 8	SP180,155,182,157,147	―	B2	2	2	―

SB1 は 610390SB に位置し、Ⅵ層上面で検出した。プラン分類は A で、長軸 4.6 m、短軸２mの長方形となり、北東―南西を軸とする。

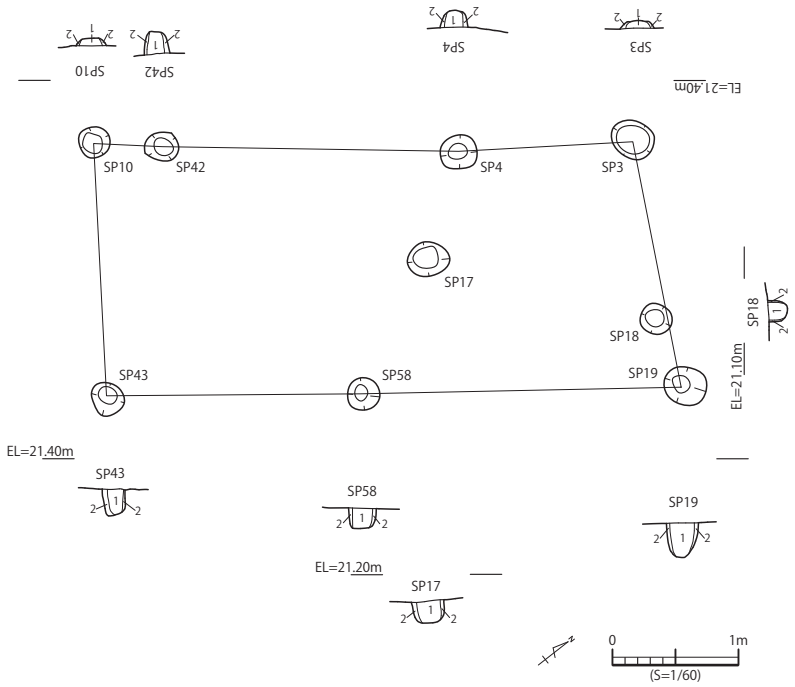


図 187　SB1　遺構平面・土層断面図

SB3 は 620400 に位置し、Ⅳ層上面で検出した。プラン分類は B2 で、長軸 2.3 m、短軸 2.1 mの方形となり、北東―南西を軸とする。

SB2 と重なるが、遺構の切り合いは確認できなかった。

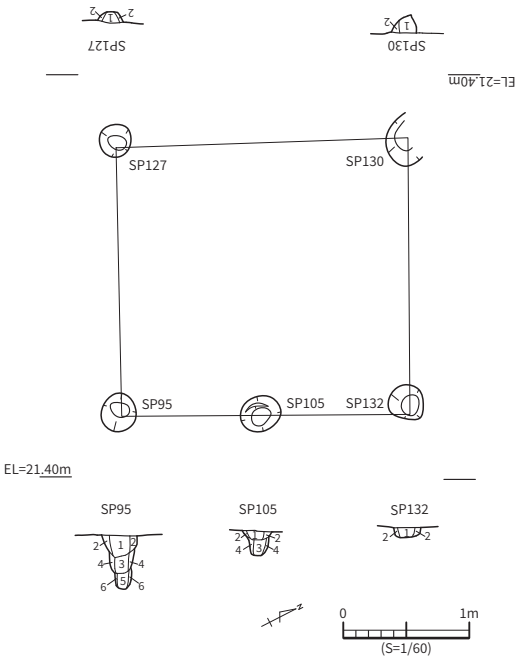


図 188　SB3　遺構平面・土層断面図

SB2 は 620400 に位置し、Ⅳ層上面で検出した。プラン分類は A6 で、長軸 4.9 m、短軸 3.1 mの長方形となり、東―西を軸とする。

SB3 と重なるが、遺構の切り合いは確認できなかった。

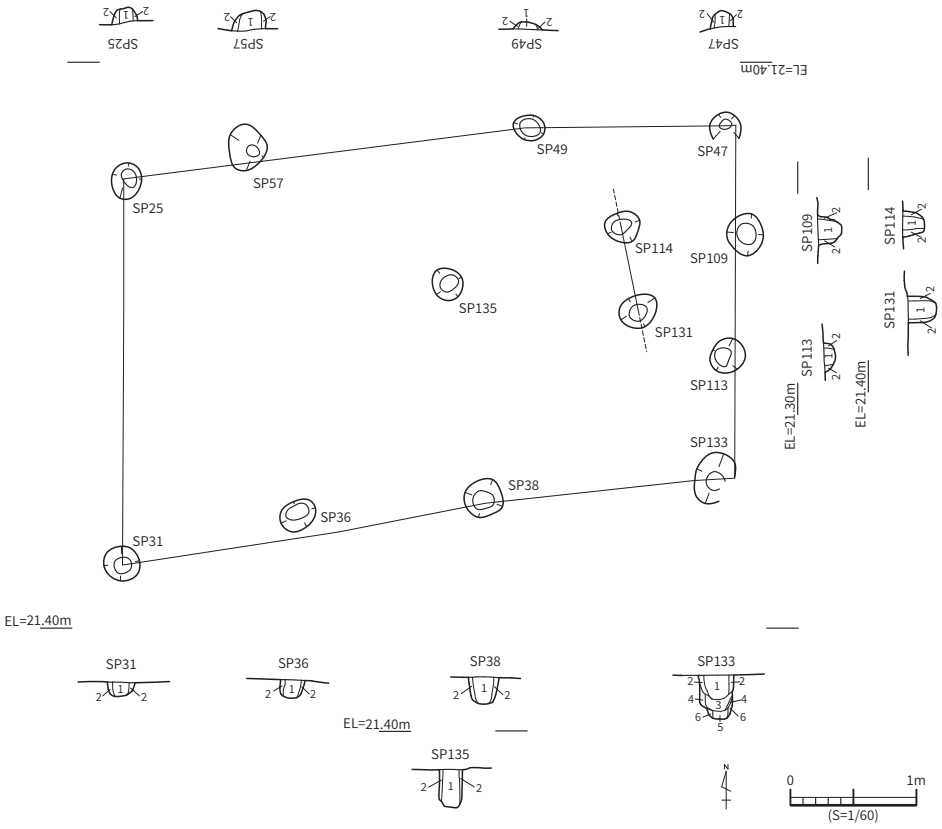


図 189　SB2　遺構平面・土層断面図

SB4 は 610400 に位置し、Ⅳ層上面で検出した。プラン分類は A5 で、長軸 4.5 m、短軸 2.5 mの長方形となり、北西―南東を軸とする。

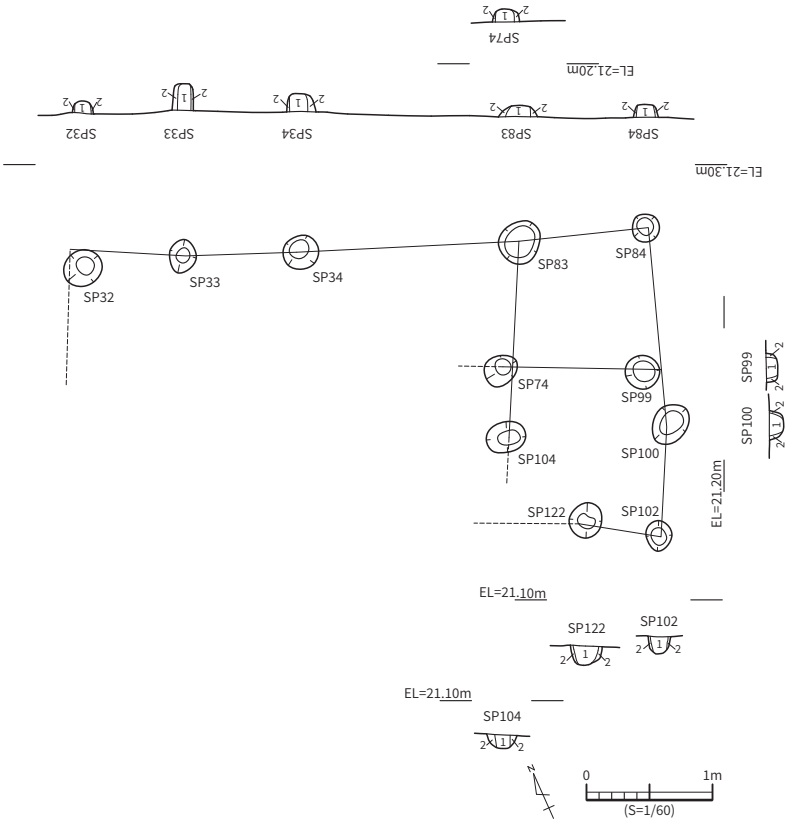


図 190　SB4　遺構平面・土層断面図

SB6 は 610400 に位置し、Ⅳ層上面で検出した。プラン分類は A5 で、長軸 2.9 m、短軸 1.8 mの長方形となり、北東―南西を軸とする。

SB5 と重なるが、遺構の切り合いは確認できなかった。

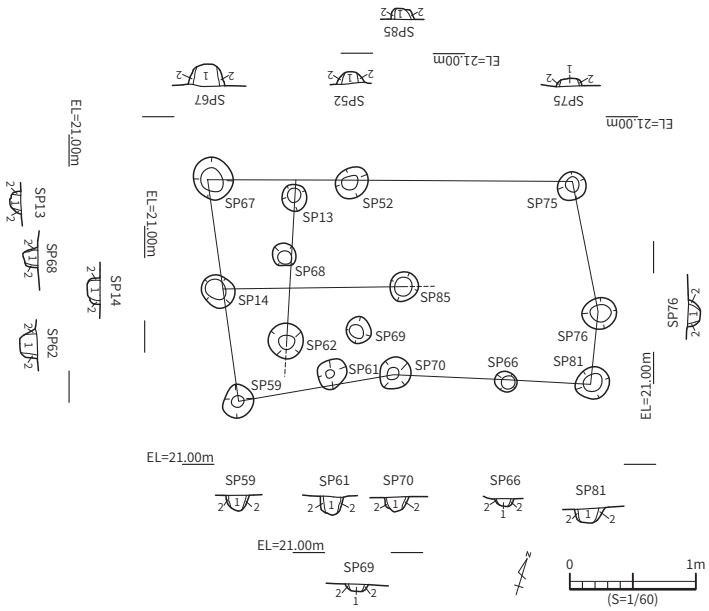


図 191　SB6　遺構平面・土層断面図

迫地形　迫地形は調査区の南側で確認でき、610400 がもっとも深くなる。堆積はⅢからⅤ層が確認でき、Ⅲ層が黒褐色（10YR2/3）のシルト～極細砂が主体、Ⅳ層が暗褐色（10YR3/4）のシルト～極細砂が主体、Ⅴ層が暗褐色（10YR3/4）のシルト～極細砂が主体となりⅢからⅤ層はレンズ上堆積となる。

遺物はⅣ-1 層から土器や中国産青花、沖縄産陶器が出土し、Ⅴ-2 層から土器が出土している。土器は小破片のため型式は不明である。中国産青花や沖縄産陶器は上層からの混入と考えられる。

Ⅳ-2 層とⅤ-1 層は年代測定を実施しており、Ⅳ-2 層が 2210 ± 20BP、Ⅴ層が 1000 ± 20BP の値を得ているが、層位と年代が逆転しており、サンプルを採集した箇所は土層が入り混じる地点だった可能性がある。

図 192　迫地形遺構配置図

表 56　大湾糸蒲原遺跡　遺物観察表

挿図番号	種類	器種	分類	部位/状態	法量(単位：cm) ( )は復元値			観察事項	出土地
					口径	器高	底径		
691	中国産 青花	碗	福建・ 広東系	口縁部	—	—	—	外面に寿字文。内面口唇部下に圏線。	Ⅰ層
692	沖縄産 施釉陶器	碗	—	口縁部	—	—	—	白化粧碗後内外面に透明釉。外面に菊花文か。	Ⅰ層
693	本土産 陶器	火鉢	染付	胴部	—	—	—	胎土は白色で軟質。白色の釉を外面に施釉。筆書きの唐草文。	Ⅰ層
694	本土産 近代磁器	皿	A類	底部	—	—	高台径 5.3	畳付を釉剥ぎ。見込みに印花文。見込みに重焼き痕あり。	Ⅰ層
695	沖縄産 無釉陶器	壺	—	底部	—	—	(33.6)	胎土は赤褐色で、一部暗灰色。外面は暗褐色で外底面は明褐色。	Ⅰ層
696	明朝系瓦	丸瓦	—	玉縁部 ～筒部	—	—	—	玉縁部と筒部の境には横位に、筒部には縦位のナデがみられる。玉縁部の裏側は面取り。凹部全体に布目痕が残る。	Ⅰ層
697	石器	石皿	—	破片	最大長 (24.6)	最大幅 (11.15)	最大厚 (4.3)	石材：中粒砂岩　加工痕：研磨　使用痕：研磨 重量：1301.47 g	Ⅰ層
698	沖縄産 施釉陶器	火炉	—	底部	—	—	高台径 (8.3)	外面に黒釉。底面露胎。	Ⅱ層

遺構以外からの遺物

Ⅰ層から中国産青花（691）、本土陶磁器（693・694）、沖縄産施釉陶器（692・698）沖縄産無釉陶器（695）、瓦（696）、石器（697）が出土している。

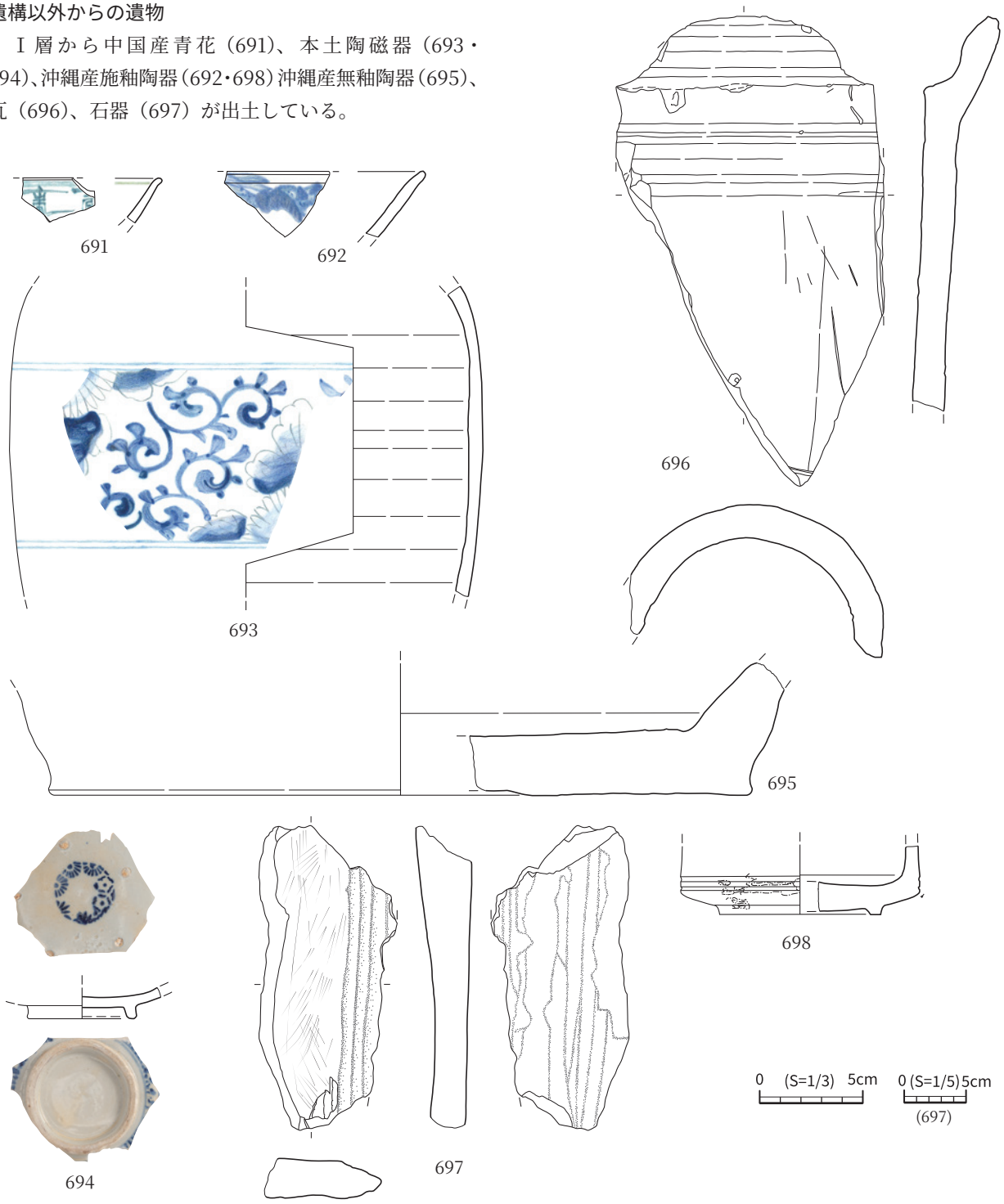


図 193　遺構以外からの出土遺物

表 57　大湾糸蒲原遺跡　遺物集計表

遺構・層序	土器 平底	中国産青花 徳化窯	本土産近代磁器 E類	沖縄産施釉陶器	合計
Ⅳ-1層		1	1	2	4
Ⅳ-2層	1			1	2
合計	1	1	1	3	6

遺構・層序	石器 敲磨石 輝緑岩	合計
Ⅳ-2層	1	1
合計	1	1

遺構・層序	石材 中粒砂岩	頁岩	石英	合計 (g)
Ⅳ-1層	3.34	316.17	0.36	319.87
Ⅴ-2層	1443.32		30.03	1473.35
合計	1446.66	316.17	30.39	1793.22

第４章　人骨

はじめに

楚辺親見原遺跡Ａ区 SP6 の１層中から微細な炭化物と共に、火熱を受けた人骨が出土した。同柱穴の３層中には炭化物や焼土が多く含まれており、年代測定を実施したところ 950 ± 25BP の値が得られ、グスク時代初頭の人骨であることが判明した。
グスク時代の葬法として焼骨再葬墓が知られるが、沖縄島においては小堀原遺跡でのみ確認されており、本例はグスク時代の葬墓制を考えるうえで重要な事例となり得る。ここでは、本遺跡出土の火熱人骨について若干の検討を行ったので、その結果を報告する。

火熱人骨の総重量、同定部位

１層中より出土した火熱人骨の総重量は 204.2g と少量であった。火熱人骨の大半は、火葬骨の様相を呈しているが、部位によって焼骨の様相を呈するものもみられる。また、火熱によるひび割れ、変形、小片化が著しく原形を保つ部位はほとんど認められなかった。幸いにして、いくつかの部位は同定することができたため表 58 に記す。

上腕骨、橈骨、尺骨、脛骨は焼骨の様相を呈し、色調は黒色または黒褐色で骨の長軸方向に裂開がみられる。その他部位については､骨の色調が白色または灰白色で、骨の横位方向へ細かいひび割れが確認できる。火葬骨は骨表面から内側まで白色のものと、骨表面のみ白色または灰白色で内側は灰白色の二つに分けられるため、十分に燃焼した部分とそうでない部分があるといえる。

年齢、性別、被葬人数

残存する大腿骨、上腕骨、乳様突起の厚み大きさを鑑みると成人であるといえるが、頭蓋骨の厚さは比較的薄い特徴が認められた。性別については、判定に有効となる部位が確認できなかったため不明である。
検出した人骨には、焼骨と火葬骨の様相がみられた。焼骨と火葬骨には燃焼温度の違いがあることから、複数人の被葬者が葬られている可能性も完全には否定できないが、人骨のサイズや質感に大差はみられないこと、同定部位の重複が認められないことを踏まえると、SP6 の被葬者は１人であると想定した。

考察

火熱人骨は直径約 50㎝の柱穴から出土した。柱穴内から炭化物や焼土は検出されたが、遺構規模や人骨が土坑底面でなく上部で検出されたことを考えると、同遺構での火葬行為は行っておらず、１次葬の土坑等からの再葬であるといえる。それを裏付けるかのように、SP6 の南約 67 ｍの位置からは、方形の土坑を４基検出した。中でも、SK ４は土坑の隅が丸く突出しており木棺の木枠痕と考えられる形状を成していた。また、他の土坑についても遺物等の出土はほとんどなかったが、規模や形状から土坑墓であったことが想定できる。
今回検出した火熱人骨は、埋葬後の比較的早い段階で被葬者を掘り起こして､火葬を行ったと推測される。また、肉体の腐敗過程に差異が生じたことが要因となり、結果として焼骨と火葬骨の両様相を呈することになったといえるだろう。

表 58　出土人骨集計表

遺構	Dot	部位	左右	残存	年齢	葬法	重量（g）
SP6	1	橈骨	不明	骨幹部	成人	火葬骨	5.1
	2	上腕骨	右	骨幹部	成人	焼骨	8.5
	3	不明	―	小破片	―	火葬骨	4.1
	4	大腿骨	右	遠位部	成人	火葬骨	16.3
	5	橈骨	右	近位部	成人	焼骨	2.5
	6	不明	―	小破片	―	火葬骨	0.4
	7	尺骨	左	遠位部	成人	焼骨	2.2
	8	腓骨	右	骨幹部	成人	火葬骨	6.8
	9	舟状骨	右	完存	成人	火葬骨	3.7
	10	椎骨	―	小破片	―	火葬骨	3.1
	11	側頭骨	右	破片	成人	火葬骨	2.8
		脛骨	不明	近位端	成人	焼骨	3.7
		不明	―	小破片	―	火葬骨	1.3
	12	腓骨	右	骨幹部	成人	火葬骨	6.8※
	13	大腿骨	左	骨幹部	成人	火葬骨	10.9
	14	不明	―	小破片	―	火葬骨	1.2
	15	後頭骨	―	破片	成人	火葬骨	11
	16	頭蓋骨	―	破片	成人	火葬骨	10.5
	17	大腿骨	左	近位部	成人	火葬骨	6.9
	18	後頭骨	―	破片	成人	火葬骨	5.3
		乳様突起	右	破片	成人	火葬骨	6.2
		不明	―	小破片	―	火葬骨	2.3
	19	頭蓋骨	―	小破片	成人	火葬骨	11.6
	20	後頭骨	―	小破片	成人	火葬骨	12
	一括取り上げ	頭蓋骨	―	破片	成人	火葬骨	32.7
		肩峰	左	破片	成人	火葬骨	3.1
		椎骨	―	破片	―	火葬骨	6.3
		不明	―	小破片	―	火葬骨	23.7
総重量（g）							204.2

※Dot. 8 と接合したため、Dot.8と同一重量記載

第５章　自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

本報告では、令和元年度から令和３年度のトリイ通信施設内発掘調査において採集された土壌資料及び石器を対象に令和２年度、令和４年度、令和５年度に分析調査を行った。

分析調査は、基本層序や遺構の年代観、植物利用、周辺植生などに関する情報及び石器に用いられた石材及び産地の情報を得ることを目的として、放射性炭素年代測定、微細分析、樹種同定、黒曜石産地同定、岩石肉眼鑑定、蛍光Ｘ線分析を行った。

１. 試料

令和２年度の分析調査分の試料は楚辺親見原遺跡Ｄ区から基本層序Ⅲ-1 層、Ⅲ-2 層、Ⅳ-1 層、Ⅳ-2 の４点、楚辺徳地原遺跡Ｃ区から SP105、SK4 の２点、楚辺徳地原遺跡Ｄ区から SP310 のものを使用し放射性炭素年代測定を７点、楚辺徳地原遺跡Ｃ区 SK-4 と、Ｄ区 SP310 の試料を使用し微細分析を２点を実施した。

令和４年度の分析調査の試料は楚辺親見原遺跡Ａの SP3、SP6 の３層、基本層序Ⅳ - １層、Ⅴ層、SI1 の６層、SI4 の１層、SI5 の 21 層、SK3 の 12 層、SK7 の 25 層のものを利用し放射性炭素年代測定を 10 点、SP6 の３層、SI1 の６層の炭化物を使用し炭化材同定を５点実施した。

令和５年度は分析調査の試料は楚辺親見原遺跡Ａから基本層序のⅣ―2、SI4 の２層、SI5 の２層と 16 層、楚辺徳地原遺跡Ｂから SP34 の５層、古堅通通原遺跡Ａの SP2 の５層、大湾糸蒲原遺跡Ａの基本層序Ⅳ-2 層、Ⅴ層、SP22 の５層のものを使用し放射性炭素年代測定９点及び楚辺親見原遺跡Ａの基本層序Ⅳ-2 層、Ⅴ層、SI4・5・6 のサブトレ、SI4 の１層、２層、６層、SI ５の１層、SI ６の１層、楚辺徳地原遺跡Ｃの基本層序のⅠ層から出土したものの黒曜石産地同定、楚辺親見原遺跡Ａの SI4 の２層、６層、基本層序のⅣ―1 層、Ⅳ-2 層、Ⅴ層、SI １の７層のものを使用し岩石鑑定を実施した。なお、岩石鑑定については比較資料として久米島の北原貝塚の表採、基本層序のⅡ層、Ⅲａ層で出土のものを使用した。

２. 分析方法

(1) 放射性炭素年代測定

分析試料は AMS 法で実施する。炭化材試料は、試料表面の汚れや付着物をピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。次に塩酸 (HCl) により炭酸塩等酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム (NaOH) により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、塩酸によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する (酸・アルカリ・酸処理 AAA:Acid Alkali Acid)。濃度は塩酸、水酸化ナトリウム共に 1mol/L である (AAA と記載) が、試料が脆弱な場合や少ない場合は、アルカリの濃度を調整して試料の損耗を防ぐ (AaA と記載)。試料がさらに少ない場合、アルカリ処理を行うと測定に必要な炭素が得られなくなるため、1mol/L の塩酸処理のみにとどめている (HCl と記載)。試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化 (鉄を触媒とし水素で還元する) は Elementar 社の vario ISOTOPE cube と Ionplus 社の AGE3 を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を NEC 社製のハンドプレス機を用いて内径 1mm の孔にプレスし、測定試料とする。

測定はタンデム加速器をベースとした 14C-AMS 専用装置 (NEC 社製) を用いて、14C の計数、13C 濃度 (13C/12C)、14C 濃度 (14C/12C) を測定する。AMS 測定時に、米国国立標準局 (NIST) から提供される標準試料 (HOX- Ⅱ)、国際原子力機関から提供される標準試料 (IAEA-C6 等)、バックグラウンド試料 (IAEA-C1) の測定も行う。

δ 13C は試料炭素の 13C 濃度 (13C/12C) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表したものである。放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした年代 (BP) であり、誤差は標準偏差 (One Sigma;68%) に相当する年代である。測定年代の表示方法は、令和２年度は将来的な較正曲線ならびにソフトウエアの更新に伴う再計算ができるようにするため、表には丸めない値 (1 年単位) を記し、令和４年度と令和５年度は国際学会での勧告 (Stuiver & Polach,1977) に従い丸めた値と暦年較正用に丸めない値 (1 年単位) も記す。暦年較正は、大気中の 14C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の 14C 濃度の変動、その後訂正された半減期 (14C の半減期 5730 ± 40 年) を較正することによって、暦年代に近づける手法である。暦年較正に用いるソフトウエアは、令和２年度が Oxcal4.4(Bronk,2009)、令和４年度及び令和５年度が OxCal4.4 (Bronk,2009) である。較正曲線は令和２年度が Intcal13(Reimer et al.,2013)、令和４年度が IntCal20 (Reimer et al.,2020)、Bomb21　NH2(Hua et. al.,2021)、令和５年度が Intcal20 (Reimer et al.,2020) を用いる。

(2) 微細物分析

試料を常温乾燥後、水を満たした容器内に投入し、容器を傾けて浮いた炭化物を粒径 0.5mm の篩に回収する。容器内の残土に水を入れて軽く攪拌し、容器を傾けて炭化物を回収する作業を炭化物が浮かなくなるまで繰り返す（約 20 回)。残土を粒径 0.5mm の篩を通して水洗する。水洗後、水に浮いた試料 (炭化物主体) と水に沈んだ試料 (砂礫主体) を、粒径別に常温乾燥させる。水洗・乾燥後の炭化物主体試料・砂礫主体試料を、大きな粒径から順に双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて、同定が可能な炭化種実の他、主に径 2mm 以上の炭化材などの遺物を抽出する。

炭化種実の同定は、現生標本や中山ほか (2010)、鈴木ほか (2018) 等を参考に実施し、部位・状態別の個数を数えて、結果を一覧表で示す。また、各分類群の写真を添付して同定根拠とする。炭化材は重量と最大径、炭化材主体、岩片主体は重量、炭化していない種実は個数を一覧表に併記する。分析後は、抽出物と残渣を容器に入れて保管する。水洗後、水に浮いた試料 (炭化物主体) と水に沈んだ試料 (砂礫主体) を、粒径別に常温乾燥させる。水洗・乾燥後の炭化物主体試料・砂礫主体試料を、大きな粒径から順に双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて、同定が可能な炭　化種実の他、主に径 2mm 以上の炭化材などの遺物を抽出する。

炭化種実の同定は、現生標本や中山ほか (2010)、鈴木ほか (2018) 等を参考に実施し、部位・状態別の個数を数えて、結果を一覧表で示す。また、各分類群の写真を添付して同定根拠とする。炭化材は重量と最大径、炭化材主体、岩片主体は重量、炭化していない種実は個数を一覧表に併記する。分析後は、抽出物と残渣を容器に入れて保管する。

(3) 炭化材同定

炭化材同定は、木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の各割片を作成し、双眼実体顕微鏡や電子顕微鏡で観察する。木材組織の種類や配列の特徴を、現生標本や独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類 (分類群) を同定する。なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東 (1982)、Wheeler 他 (1998)、Richter 他 (2006) を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林 (1991) や伊東 (1995,1996,1997,1998,1999) を参考にする。

(4) 黒曜石産地推定

ア エネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置（EDX）による測定

本分析の特徴は、試料の非破壊による測定が可能であり、かつ多元素を同時に分析できることが利点として挙げられる。一方、非破壊分析である以上、測定は試料表面のみが対象となることから、表面が汚れた試料や風化してしまっている試料については試料の洗浄あるいは測定面の選択が必要となる。本分析では試料が貴重な遺物であることから、汚れが少なく、風化が進んでいない面を選択して測定を行っている。ただし、表面の風化、汚れが目立つ場合は、メラミンスポンジを用いて洗浄したあと分析を実施している。

本分析で使用した装置は、セイコーインスツルメンツ製エネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置（SEA2120L）であり、Ｘ線管球はロジウム（Rh)、検出器は Si（Li）半導体検出器である。測定条件は、励起電圧 50kV、管電流自動設定（μ A)、測定時間 600 秒、コリメータ（照射径）φ 10.0mm、フィルターなし、測定室雰囲気は真空である。測定元素は、Al（アルミニウム)、Si（ケイ素)、K（カリウム)、Ca（カルシウム)、Ti（チタン)、Mn（マンガン)、Fe（鉄)、Rb（ルビジウム)、Sr（ストロンチウム)、Y（イットリウム)、Zr（ジルコニウム）の 11 元素であり、測定試料全てにおいてマイラー膜（PE,2.5 μ m；ケンプレックス製 CatNo107）を介して元素Ｘ線強度（cps）を測定した。

イ 産地推定方法

産地推定は、望月（2004 など）による方法に従い、測定結果（元素Ｘ線強度（cps))から、5 つの判別指標値を求める。5 つの判別指標値は、Rb 分率 {Rb × 100/（Rb ＋ Sr ＋ Y ＋ Zr）}、Sr 分率 {Sr × 100/（Rb ＋ Sr ＋ Y ＋ Zr）}、Zr 分率 {Zr × 100/（Rb ＋ Sr ＋ Y ＋ Zr）}、Mn × 100/Fe、Log（Fe/K）である。

一方、産地推定に必要な原産地の資料に関しては、望月（2004）で用いられている原産地試料の分析データーを使い、原産地判定用資料を作成する。今回産地推定に用いた黒曜石原産地を図 2 に示す。

原産地試料のデーターを、Rb 分率と Mn × 100/Fe、Sr 分率と Log（Fe/K）についてグラフ化する。また、グラフを元に作成した二次元正規密度分布、ならびに判別指標値から作成した多次元密度分布の結果から、原産地を元にした判別群を設定する。その名称ならびに判別群と原産地との関係を表 4 に示す。

Rb 分率と Mn × 100/Fe、Sr 分率と Log（Fe/K）のグラフ中に、各判別群の重心より 2 σ (約 95%) の範囲を示す楕円を書く (原産地試料の各分析データーは図が煩雑になるため割愛する)。これに、遺跡出土試料の分析結果を重ね合わせることにより、産地推定の指標の一つとなる。

一方、各判別群の 5 つの判別指標値について、それぞれの基本統計量 (平均値や分散、共分散など) を求め

る。この値をもとに、遺跡出土試料と各判別群とのマハラノビス平方距離を計算する。マハラノビス平方距離による判別は、先に述べた５つの判別指標値を使う方法 (望月 ,2004 など) と、基本的に Zr 分率を除くグラフに使った４つの判別指標値を使うが、群間の判別が難しい場合に Zr 分率を加える方法 (明治大学古文化財研究所 ,2009,2011; 明治大学文学部 ,2014a,b) がある。今回は、4 成分、5 成分双方の結果を掲載する。測定試料と各判別群全てについて、4 成分、5 成分のマハラノビス平方距離を求め、測定試料に近いものから 3 判別群を表に示す。これらについてカイ二乗検定を行い、99.5% の範囲に入った場合を「True」、入らなかった場合を「False」とする。

(5) 岩石肉眼鑑定

岩石肉眼鑑定は、野外用ルーペを用いて行い、岩石表面の鉱物や組織を観察し、五十嵐 (2006) の分類基準に基づき、肉眼で鑑定できる範囲の岩石名を付した。なお、正確な岩石名の決定には、破壊分析の岩石薄片作成観察や蛍光 X 線分析および X 線回折分析などを併用するが、今回は一部試料について非破壊の蛍光 X 線分析を行っているに過ぎないことから、鑑定された岩石名は概査的な岩石名である点に留意されたい。

(6) 岩石蛍光 X 線分析

日本電子 (株) 製エネルギー分散型蛍光 X 線分析装置 (JSX-1000S) を利用した非破壊分析により、化学組成を求めた。なお、本装置は下面照射型装置であるため、試料保持のために薄膜（プロレンフィルム ,4 μm(chemplex CatNo.426)）を用いて測定を実施した。測定条件は、管電圧 50kV，管電流（自動），測定時間 300 秒(live time), コリメーター 9mmφないし 2mmφ, 真空雰囲気とした。

得られた特性 X 線スペクトルは元素定性を実施した後、FP 法 (ファンダメンタルパラメーター法) による定量演算を行い、相対含有率 (ms%) を求めた。なお、算出された結果はあくまでも半定量的なものであることに留意する必要がある。

３. 結果

(1) 放射性炭素年代測定

令和２年度の結果を表 55 に示す。試料の測定年代 (補正年代) は、楚辺親見原遺跡 D 区のⅢ -1 層が 880 ± 20BP、Ⅲ -2 層が 900 ± 20BP、Ⅳ -1 層が 1010 ± 20BP、Ⅳ -2（深掘）が 3080 ± 20BP、楚辺徳地原遺跡 C 区の SP105 が 930 ± 20BP、SK4（1 層 ） が 970 ± 20BP、楚辺徳地原遺跡 D 区の SP310 が 990 ± 20BP の値を示した。

測定誤差を 2 σとして計算させた結果、楚辺親見原遺跡 D 区のⅢ -1 層が calAD1052-1220、Ⅲ -2 層が calAD995-1152、Ⅳ -1 層が calAD992-1119、Ⅳ -2 層が calBC1413-1271、楚辺徳地原遺跡 C 区の SP105 が calAD1036-1168、SK4 1 層が calAD1023-1155、楚辺徳地原遺跡 D 区 SP310 は calAD995-1152 の値を示す。

令和４年度の結果を表 54 に示す。同位体補正を行った値は、SP3 1 層が 1025 ± 25BP、SP-6 3 層が 950 ± 25BP、ベルト Ⅳ -1 層が 1310 ± 25BP、ベルト Ⅴ層が 3130 ± 25BP、SI-1 6 層が 2540 ± 25BP、SI-6 1 層が 2485 ± 25BP、SI-4 1 層が 1905 ± 25BP、SI-5 21 層が 2530 ± 25BP、SK-3 12 層右が 2505 ± 25BP、SK-7 25 層が 2935 ± 25BP である。

暦年較正年代はは、2 σの値は、SP3 1 層が calAD979 ～ 1115、SP-6 3 層が calAD1031 ～ 1158、ベルト Ⅳ -1 層が calAD659 ～ 775、ベルト Ⅴ層が calBC1494 ～ 1304、SI-1 2-6 層が calBC794 ～ 550、SI-6 1 層が calBC773 ～ 517、SI-4 1 層 が calAD70 ～ 212、SI-5 21 層が calBC791 ～ 549、SK-3 12 層右が calBC776 ～ 543、SK-7 25 層が calBC1221 ～ 1021 である。

令和５年度の結果を表 54、表 55 に示す。測定を実施した試料の年代 (補正年代) は、楚辺親見原遺跡 A の SI4 2 層 が 2500 ± 20yrBP、SI5 16 層が 2900 ± 20yrBP、SI6 2 層が 2560 ± 20yrBP、Ⅳ -2 層が 1440 ± 20yrBP、楚辺徳地原遺跡 B の SP34 5 層が 1100 ± 20yrBP、古堅通地原遺跡 A の SP2 6 層が 1510 ± 20、大湾糸蒲原遺跡 A のⅣ -2 層が 2210 ± 20yrBP、Ⅴ -1 層が 1000 ± 20yrBP、SP22 1 層が 620 ± 20yrBP の値を示す。

暦年較正は、大気中の 14C 濃度が一定で半減期が 5,568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の 14C 濃度の変動、及び半減期の違い (14C の半減期 5,730 ± 40 年) を較正することによって、暦年代に近づける手法である。暦年較正年代は、測定誤差を 2 σとして計算させた結果、楚辺親見原遺跡 A の SI4 2 層が CalBC775 ～ 544、SI5 16 層 が CalBC1200 ～ 1006、SI6 2 層 が CalBC802 ～ 571、Ⅳ -2 層が CalAD596 ～ 652、楚辺徳地原遺跡 B の SP34 5 層が CalAD891 ～ 1012、古堅通地原遺跡 A の SP2 6 層が CalAD537 ～ 635、大湾糸蒲原遺跡 A の Ⅳ -2 層 が CalBC371 ～ 197、Ⅴ -1 層 が CalAD993 ～ 1151、SP22 1 層が CalAD1300 ～ 1399、である。

(2) 微細物分析（R2）

結果を表 56 に示す。また、炭化種実の写真を図 197 に示して同定根拠とする。

表 59　放射性炭素年代測定結果一覧表１

試料番号	地区	層位等	処理方法	暦年較正用(BP)	δ13C (‰)	暦年較正年代(cal)												確率%	Code No.
1	楚辺親見原遺跡A	ベルトIV-1層	AAA	1310±25 (1308±24)	-26.74 ±0.43	σ	cal	AD	665	-	cal	AD	688	1285	-	1263	calBP	28.4	IAAA-222100
							cal	AD	742	-	cal	AD	772	1208	-	1178	calBP	39.9	
						2σ	cal	AD	659	-	cal	AD	708	1292	-	1242	calBP	46.9	
							cal	AD	725	-	cal	AD	775	1226	-	1176	calBP	48.5	
2		ベルトIV-2層	AaA	1440±20 (1435±21)	-26.93 ±0.17	σ	cal	AD	605	-	cal	AD	645	1345	-	1306	calBP	68.3	IAAA-231993
						2σ	cal	AD	596	-	cal	AD	652	1355	-	1298	calBP	95.4	
3		ベルトV層	AaA	3130±25 (3132±25)	-26.62 ±0.33	σ	cal	BC	1439	-	cal	BC	1391	3388	-	3340	calBP	58.3	IAAA-222101
							cal	BC	1335	-	cal	BC	1323	3284	-	3272	calBP	9.9	
						2σ	cal	BC	1494	-	cal	BC	1478	3443	-	3427	calBP	3.5	
							cal	BC	1455	-	cal	BC	1376	3404	-	3325	calBP	71.2	
							cal	BC	1347	-	cal	BC	1304	3296	-	3253	calBP	20.7	
4		SI1 6層	AaA	2540±25 (2538±25)	-26.42 ±0.44	σ	cal	BC	789	-	cal	BC	752	2738	-	2701	calBP	34.5	IAAA-222102
							cal	BC	684	-	cal	BC	668	2633	-	2617	calBP	12.4	
							cal	BC	633	-	cal	BC	622	2582	-	2571	calBP	5.9	
							cal	BC	613	-	cal	BC	591	2562	-	2540	calBP	15.4	
						2σ	cal	BC	794	-	cal	BC	746	2743	-	2695	calBP	38.5	
							cal	BC	690	-	cal	BC	664	2639	-	2613	calBP	15.6	
							cal	BC	645	-	cal	BC	550	2594	-	2499	calBP	41.4	
5		SI4 1層	AaA	1905±25 (1904±24)	-32.17 ±0.32	σ	cal	AD	85	-	cal	AD	95	1866	-	1856	calBP	7.7	IAAA-222104
							cal	AD	117	-	cal	AD	172	1834	-	1778	calBP	44.6	
							cal	AD	182	-	cal	AD	203	1769	-	1747	calBP	16.1	
						2σ	cal	AD	70	-	cal	AD	212	1881	-	1738	calBP	95.4	
6		SI4 2層	AAA	2500±20 (2504±23)	-27.57 ±0.20	σ	cal	BC	766	-	cal	BC	749	2715	-	2698	calBP	10.7	IAAA-231994
							cal	BC	687	-	cal	BC	666	2636	-	2615	calBP	13.1	
							cal	BC	641	-	cal	BC	569	2590	-	2518	calBP	44.5	
						2σ	cal	BC	775	-	cal	BC	725	2724	-	2674	calBP	20.0	
							cal	BC	706	-	cal	BC	662	2655	-	2611	calBP	19.0	
							cal	BC	651	-	cal	BC	544	2600	-	2493	calBP	56.5	
7		SI5 1層	AAA	2485±25 (2487±25)	-26.15 ±0.36	σ	cal	BC	757	-	cal	BC	734	2706	-	2683	calBP	10.7	IAAA-222103
							cal	BC	696	-	cal	BC	679	2645	-	2628	calBP	8.0	
							cal	BC	671	-	cal	BC	664	2620	-	2613	calBP	3.2	
							cal	BC	650	-	cal	BC	606	2599	-	2555	calBP	21.1	
							cal	BC	597	-	cal	BC	546	2546	-	2495	calBP	25.2	
						2σ	cal	BC	773	-	cal	BC	517	2722	-	2466	calBP	95.4	
8		SI5 16層	AaA	2900±20 (2896±24)	-25.93 ±0.18	σ	cal	BC	1119	-	cal	BC	1045	3068	-	2994	calBP	60.1	IAAA-231991
							cal	BC	1031	-	cal	BC	1019	2980	-	2968	calBP	8.2	
						2σ	cal	BC	1200	-	cal	BC	1142	3149	-	3091	calBP	11.2	
							cal	BC	1131	-	cal	BC	1006	3080	-	2955	calBP	84.2	
9		SI5 21層	AaA	2530±25 (2532±25)	-23.20 ±0.39	σ	cal	BC	781	-	cal	BC	751	2730	-	2700	calBP	26.2	IAAA-222105
							cal	BC	685	-	cal	BC	667	2634	-	2616	calBP	13.2	
							cal	BC	635	-	cal	BC	589	2584	-	2538	calBP	27.5	
							cal	BC	577	-	cal	BC	574	2526	-	2523	calBP	1.4	
						2σ	cal	BC	791	-	cal	BC	743	2740	-	2692	calBP	32.6	
							cal	BC	692	-	cal	BC	663	2641	-	2612	calBP	16.7	
							cal	BC	646	-	cal	BC	549	2595	-	2498	calBP	46.1	
10		SI6 2層	AaA	2560±20 (2558±23)	-27.49 ±0.20	σ	cal	BC	795	-	cal	BC	760	2744	-	2709	calBP	68.3	IAAA-231992
						2σ	cal	BC	802	-	cal	BC	750	2751	-	2699	calBP	72.0	
							cal	BC	685	-	cal	BC	667	2634	-	2616	calBP	8.0	
							cal	BC	636	-	cal	BC	587	2585	-	2536	calBP	14.0	
							cal	BC	581	-	cal	BC	571	2530	-	2520	calBP	1.4	
11		SK3 12層	AAA	2505±25 (2507±25)	-29.82 ±0.44	σ	cal	BC	768	-	cal	BC	749	2717	-	2698	calBP	12.0	IAAA-222106
							cal	BC	687	-	cal	BC	666	2636	-	2615	calBP	12.8	
							cal	BC	641	-	cal	BC	569	2590	-	2518	calBP	43.4	
						2σ	cal	BC	776	-	cal	BC	722	2725	-	2671	calBP	21.2	
							cal	BC	707	-	cal	BC	662	2656	-	2611	calBP	19.1	
							cal	BC	652	-	cal	BC	543	2601	-	2492	calBP	55.2	
12		SK7 25層	AAA	2935±25 (2935±25)	-27.24 ±0.29	σ	cal	BC	1208	-	cal	BC	1111	3157	-	3060	calBP	68.3	IAAA-222107
						2σ	cal	BC	1221	-	cal	BC	1047	3170	-	2996	calBP	94.5	
							cal	BC	1028	-	cal	BC	1021	2977	-	2970	calBP	0.9	
13		SB1 P3 1層	AAA	1025±25 (1026±24)	-10.84 ±0.26	σ	cal	AD	995	-	cal	AD	1008	955	-	943	calBP	34.3	IAAA-222098
							cal	AD	1014	-	cal	AD	1027	936	-	924	calBP	33.9	
						2σ	cal	AD	979	-	cal	AD	1042	972	-	909	calBP	94.7	
							cal	AD	1108	-	cal	AD	1115	843	-	835	calBP	0.8	
14		SP6 3層	AaA	950±25 (952±23)	-29.00 ±0.40	σ	cal	AD	1039	-	cal	AD	1048	911	-	903	calBP	8.0	IAAA-222099
							cal	AD	1083	-	cal	AD	1151	867	-	800	calBP	60.3	
						2σ	cal	AD	1031	-	cal	AD	1158	919	-	792	calBP	95.4	

表 60　放射性炭素年代測定結果一覧表２

15	楚辺親見原遺跡D区	Ⅲ-1層	AaA	882±21	-24.25 ±0.22	σ	cal	AD	1,162	-	cal	AD	1,181	788	-	769	calBP	44.2	IAAA-201959
							cal	AD	1,186	-	cal	AD	1,213	764	-	737	calBP	55.8	
						2σ	cal	AD	1,052	-	cal	AD	1,078	898	-	872	calBP	11.3	
							cal	AD	1,155		cal	AD	1,220	795	-	730	calBP	88.7	
16		Ⅲ-2層	AaA	993±21	-24.33 ±0.23	σ	cal	AD	996	-	cal	AD	1,002	954	-	948	calBP	66.0	IAAA-201960
							cal	AD	1,020	-	cal	AD	1,044	930	-	906	calBP	66.0	
							cal	AD	1,086	-	cal	AD	1,093	864	-	857	calBP	86.0	
							cal	AD	1,105	-	cal	AD	1,118	845	-	832	calBP	18.9	
						2σ	cal	AD	995	-	cal	AD	1,006	955	-	944	calBP	77.0	
							cal	AD	1,016	-	cal	AD	1,049	934	-	901	calBP	50.8	
							cal	AD	1,081	-	cal	AD	1,134	869	-	816	calBP	34.7	
							cal	AD	1,137	-	cal	AD	1,152	813	-	798	calBP	68.0	
17		Ⅳ-1層	AaA	1012±21	-13.79 ±0.22	σ	cal	AD	995	-	cal	AD	1,005	955	-	945	calBP	36.1	IAAA-201961
							cal	AD	1,017	-	cal	AD	1,033	933	-	917	calBP	63.9	
						2σ	cal	AD	992	-	cal	AD	1,045	958	-	905	calBP	94.8	
							cal	AD	1,085	-	cal	AD	1,093	865	-	857	calBP	15.0	
							cal	AD	1,105	-	cal	AD	1,119	845	-	831	calBP	37.0	
18		Ⅳ-2層	AaA	3077±24	-24.95 ±0.22	σ	cal	BC	1,401	-	cal	BC	1,372	3,350	-	3,321	calBP	32.3	IAAA-201962
							cal	BC	1,354	-	cal	BC	1,298	3,303	-	3,247	calBP	67.7	
						2σ	cal	BC	1,413	-	cal	BC	1,271	3,362	-	3,220	calBP	100.0	
19	楚辺徳地原遺跡B	SP34 5層	AaA	1100±20 (1095±22)	-25.5 ±0.21	σ	cal	AD	898	-	cal	AD	920	1052	-	1030	calBP	26	IAAA-231990
							cal	AD	956	-	cal	AD	992	994	-	958	calBP	42.3	
						2σ	cal	AD	891	-	cal	AD	995	1059	-	955	calBP	94.8	
							cal	AD	1009	-	cal	AD	1012	941	-	939	calBP	0.6	
20	楚辺徳地原遺跡C区	SP105	AAA	926±21	-23.19 ±0.26	σ	cal	AD	1,047	-	cal	AD	1,083	903	-	867	calBP	53.4	IAAA-201963
							cal	AD	1,095	-	cal	AD	1,103	855	-	847	calBP	88.0	
							cal	AD	1,124	-	cal	AD	1,141	826	-	809	calBP	20.2	
							cal	AD	1,147	-	cal	AD	1,161	803	-	789	calBP	17.7	
						2σ	cal	AD	1,036	-	cal	AD	1,168	914	-	782	calBP	100.0	
21		SK4 1層	AaA	974±21	-27.07 ±0.23	σ	cal	AD	1,028	-	cal	AD	1,047	922	-	903	calBP	36.7	IAAA-201964
							cal	AD	1,083	-	cal	AD	1,095	867	-	855	calBP	17.6	
							cal	AD	1,102	-	cal	AD	1,125	848	-	825	calBP	36.5	
							cal	AD	1,141	-	cal	AD	1,148	809	-	802	calBP	92.0	
						2σ	cal	AD	1,023	-	cal	AD	1,052	927	-	898	calBP	30.6	
							cal	AD	1,078	-	cal	AD	1,155	872	-	795	calBP	69.4	
22	楚辺徳地原遺跡D区	SP310	AAA	993±21	-26.80 ±0.25	σ	cal	AD	996	-	cal	AD	1,002	954	-	948	calBP	66.0	IAAA-201965
							cal	AD	1,020	-	cal	AD	1,044	930	-	906	calBP	66.0	
							cal	AD	1,086	-	cal	AD	1,093	864	-	857	calBP	86.0	
							cal	AD	1,105	-	cal	AD	1,118	845	-	832	calBP	18.9	
						2σ	cal	AD	995	-	cal	AD	1,006	955	-	944	calBP	77.0	
							cal	AD	1,016		cal	AD	1,049	934	-	901	calBP	50.8	
							cal	AD	1,081		cal	AD	1,134	869	-	816	calBP	34.7	
							cal	AD	1,137	-	cal	AD	1,152	813	-	798	calBP	68.0	
23	古堅通事原遺跡A区	SP2 6層	AaA	1510±20 (1511±22)	-22.01 ±0.22	σ	cal	AD	554	-	cal	AD	590	1396	-	1360	calBP	68.3	IAAA-231986
						2σ	cal	AD	537	-	cal	AD	606	1413	-	1344	calBP	94.4	
							cal	AD	627	-	cal	AD	635	1324	-	1316	calBP	1.1	
24	大湾糸蒲原遺跡A区	壁面 Ⅳ-2層	AaA	2210±20 (2210±23)	-27.17 ±0.23	σ	cal	BC	357	-	cal	BC	345	2306	-	2294	calBP	8.8	IAAA-231988
							cal	BC	318	-	cal	BC	279	2267	-	2228	calBP	30.2	
							cal	BC	257	-	cal	BC	247	2206	-	2196	calBP	6.6	
							cal	BC	233	-	cal	BC	204	2182	-	2153	calBP	22.6	
						2σ	cal	BC	371	-	cal	BC	197	2320	-	2146	calBP	95.4	
25	大湾糸蒲原遺跡A区	壁面 Ⅴ-1層	AaA	1000±20 (995±21)	-8.05 ±21	σ	cal	AD	997	-	cal	AD	1004	954	-	947	calBP	5.7	IAAA-231987
							cal	AD	1018	-	cal	AD	1045	932	-	906	calBP	45.9	
							cal	AD	1086	-	cal	AD	1093	864	-	858	calBP	4.4	
							cal	AD	1105	-	cal	AD	1120	846	-	830	calBP	12.3	
						2σ	cal	AD	993	-	cal	AD	1049	957	-	902	calBP	61.2	
							cal	AD	1082	-	cal	AD	1131	869	-	820	calBP	28.8	
							cal	AD	1137	-	cal	AD	1151	814	-	799	calBP	5.5	
26	大湾糸蒲原遺跡A区	SP22 1層	AAA	620±20 (617±21)	-10.28 ±0.18	σ	cal	AD	1304	-	cal	AD	1327	646	-	624	calBP	32.1	IAAA-231989
							cal	AD	1351	-	cal	AD	1366	599	-	584	calBP	20.0	
							cal	AD	1382	-	cal	AD	1394	568	-	556	calBP	16.2	
						2σ	cal	AD	1300	-	cal	AD	1372	650	-	579	calBP	73.4	
							cal	AD	1377	-	cal	AD	1399	574	-	552	calBP	22.1	

1)年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
2)BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
3)付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の68.2%が入る範囲）を年代値に換算した値。
4)AAAは、酸・アルカリ・酸処理を示す。AaAはアルカリ濃度を薄めて処理したことを示す。
5)暦年の計算には、15・16・17・18・20・21・22はRADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV8.2を、それ以外はOxcal v4.4を使用
6)暦年の計算には1桁目まで示した年代値を使用
7)較正データーセットは、15・16・17・18・20・21・22はIntcal13を、Intcal20を使用。
8)較正曲線や較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
9)統計的に真の値が入る確率は、σが68.2%、2σが95.4%である

楚辺徳地原遺跡 C 区 SK-4 1 層は、試料 400g を洗い出した結果、炭化材主体 0.01g 未満、岩片主体 6.2g(非炭化植物片含む) が確認されるのみで、炭化種実は検出されなかった。

楚辺徳地原遺跡 D 区 SP310 は、試料 400g を洗い出した結果、炭化種実は、栽培植物のオオムギ 1 個、コムギ 1 個の、計 2 個が同定された他、不明炭化物 2 個、炭化材 0.16g(最大 9.4mm)、炭化材主体 0.24g、岩片主体 (非炭化植物片含む)2.5g が確認された。

炭化種実の保存状態は、比較的良好である。以下、形態的特徴を記す。

・オオムギ (Hordeum valgare L.)　イネ科オオムギ属　図版 197-1

穎果は炭化しており黒色、長さ 5.02mm、幅 2.84mm、厚さ 2.03mm のやや偏平な紡錘状長楕円体で両端は尖る。腹面正中線上にやや太く深い縦溝があり、背面は基部正中線上に胚の痕跡があり、長さ 1.5mm の紡錘状に窪む。表面は粗面で微細な縦筋がある。

・コムギ (Triticum aestivum L.)　イネ科コムギ属　図版 197-2

穎果は炭化しており黒色、長さ 3.24mm、幅 2.21mm、厚さ 1.93mm を測り、オオムギより小型で丸みを帯びた楕円体を呈す。腹面正中線上にやや太く深い縦溝があり、背面は基部正中線上に胚の痕跡があり径 1mm の円形に窪む。表面はやや平滑で、微細な粒状模様がある。

考察

遺構の用途と植物利用について、微細物分析・炭化種実同定の結果、木棺墓の可能性がある SK4(1 層) からは遺構の用途を示すような成果は得られなかった。一方、楚辺徳地原遺跡 D 区の SP310 より、栽培植物のオオムギ、コムギの炭化種実が確認された。穀類のオオムギ、コムギは、近辺で栽培されていたか、持ち込まれたかは不明であるが、当時利用された植物質食糧と示唆され、火を受け炭化したとみなされる。

(3) 微細物分析（R4）

結果を表 57 に示す。4 試料合計 2.2kg を洗い出した結果、種実 8 個 (ヤンバルアカメガシワ、不明)、不明炭化物、炭化材、岩片・土粒 (一部骨貝片含む) が確認された。以下、試料別検出状況を記す。

・SP6 3 層

試料 800g より、不明種実の破片 6 個 0.01g 未満、炭化材 0.03g(最大 5.5mm)、炭化材主体 0.08g、岩片・

表 61　微細物分析・種実同定結果（令和２年度）

			楚辺徳地原遺跡		
			C区	D区	
			SK−4	SP310	
分類群	部位･状態･粒径		1層		備考
炭化種実					
オオムギ	穎果	完形	−	1	(個),長さ5.02,幅2.84,厚さ2.03mm
コムギ	穎果	完形	−	1	(個),長さ3.24,幅2.21,厚さ1.93mm
不明炭化物			−	2	(個)
炭化材	>4mm		−	0.03	乾重(g),最大9.44mm
	4−2mm		−	0.12	乾重(g)
炭化材主体	2−1mm		−	0.13	乾重(g)
	1−0.5mm		<0.01	0.11	乾重(g)
岩片主体	4−2mm		4.60	1.01	乾重(g)
	2−1mm		0.60	0.51	乾重(g),非炭化植物片含む
	1−0.5mm		1.03	1.02	乾重(g),非炭化植物片含む
分析量			400	500	乾重(g)

表 62　微細物分析・種実同定結果（令和４年度）

			遺跡名	楚辺親見原遺跡A				
			グリッド	650960				
			遺構名	SP7			SI1	
			層位	3層	Ⅳ−1層	Ⅴ層	2−6層	
分類群･部位･状態･粒径			資料No.	2	3	4	5	備考
木本種実								
ヤンバルアカメガシワ	種子	破片		−	−	−	2	(個),0.01g未満,残存径1.7mm
不明種実	核?	破片	炭化?	6	−	−	−	(個),0.01g未満,残存径1.9mm,同分類群?
不明炭化物				−	−	−	26	(個),0.04g,最大3.6mm
炭化材				5.46	5.76	−	9.77	最大径(mm)
	>4mm			−	−	−	0.17	乾重(g)
	4−2mm			0.03	0.04	−	1.22	乾重(g)
炭化材主体	2−1mm			0.01	<0.001	−	1.62	乾重(g)
	1−0.5mm			0.08	0.01	0.003	1.79	乾重(g)
岩片･土粒主体	>4mm			−	−	−	5.42	乾重(g)
	4−2mm			4.39	0.20	0.97	1.43	乾重(g),SP7骨貝片含む
	2−1mm			1.24	0.28	0.43	1.33	乾重(g),SP7骨貝片含む,SI1貝片含む
	1−0.5mm			1.35	0.33	0.41	1.94	乾重(g),SP7骨貝片含む,SI1貝片含む
分析量				800	200	200	1000	湿重(g)

土粒主体 (骨貝片含む)7.0g が検出された。不明種実は黒色、残存径 1.9mm を測り、同分類群の核 (内果皮) の可能性がある。発掘調査所見によれば、炭化物集中層とされることから、不明種実は炭化している可能性が高い。

・Ⅳ -1 層

試料 200g より、炭化材 0.04g(最大 5.8mm)、炭化材主体 0.01g、岩片・土粒主体 0.8g が検出されるのみで、種実は確認されなかった。

・Ⅴ層

試料 200g より、炭化材主体 0.003g、岩片・土粒主体 1.8g が検出されるのみで、種実は確認されなかった。

・SI1 6 層

試料 1000g より、落葉広葉樹のヤンバルアカメガシワの種子の破片 2 個 0.01g 未満が同定された他、不明炭化物 26 個 0.04g(最大 3.6mm)、炭化材 1.38g(最大 9.8mm)、炭化材主体 3.41g、岩片・土粒主体 (貝片含む)10.1g が検出された。以下、ヤンバルアカメガシワの形態的特徴を記す。

・ヤンバルアカメガシワ (Melanolepis multiglandulosa (Blume) Rchb.f. & Zoll.)

トウダイグサ科ヤンバルアカメガシワ属

種子は黒色、残存径 1.7mm を測る。完形ならば径 4 ～ 5mm の歪な球体で基部にＹ字形の稜がある。種皮は厚く硬く、表面は平滑で径が不規則で円形の深い窪みが散在する。断面は柵状で内側では湾曲する。

(2) 炭化材同定

分析の結果、炭化材 SP6　3 層からマキ属が 1 点、SI1　6 層からマツ属複維管束亜属が 5 点検出された。以下に検出された種類の植物解剖学的所見を述べる。

・マキ属（Podocarpus）　マキ科

仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか。放射組織の柔細胞の壁は滑らか、分野壁孔はヒノキ型で 1 ～ 2 個。放射組織は単列で 1 ～ 5 細胞高。

・マツ属複維管束亜属（Pinus subgen. Diploxylon）　マツ科

仮道管の早材部から晩材部への移行はやや緩やかで、垂直樹脂道が晩材部に認められる。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁には鋸歯状の突起が認められる。放射組織は単列、1 ～ 15 細胞高。

2. 黒曜石産地推定

(3) 結果および考察

各試料の詳細および元素Ｘ線強度（cps）および判別指標値を表 59 に示す。また、Rb 分率と Mn × 100/Fe、Sr 分率－ Log（Fe/K）について、原産地試料の重心から 2σ (95%) の範囲を記したグラフに、各試料の結果を重ね合わせた図を、図 194、195 に記す。表 60 には、測定試料に近いものから 3 原産地分のマハラノビス平方距離を示し、これらについてカイ二乗検定を行なった結果を示す。

図 194、195 をみてわかるように、北松浦地区の北松浦 1 群、有田地区の腰岳、佐世保地区の針尾 1 群は互いに組成が近く、確率を示す楕円がほとんど重なっている。今回分析を行った試料 17 点はこの範囲に入っている。一方、表 60 に示すように、今回測定した黒曜石は、第一、第二、第三候補ともに北松浦 1 群、有田地区の腰岳、佐世保地区の針尾 1 群とマハラノビス平方距離近く、統計学的にはほぼ「True」となる。今のところ、これらの 3 つの産地を判別することは難しいので、「北松浦―佐世保―腰岳群」と判定しておく。エネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置を用いて産地推定を行っている報文の原産地のデーターや判別基準をみると、「北松浦」、「腰岳」、「針尾島」原石の一部の値は近接もしくは、重なっているものが多い (杉原 ,2011; 片多 ,2015 など)。また、原産地から採取した黒曜石のデーターをみると、北松浦や針尾島はばらつきが大きく、複数の群に分かれる。このことは、先述したものを含む複数の文献で指摘されている。一部の文献では、質が良く、かつ大きな原石が得られる試料に絞ってばらつきを小さくし、これら 3 地点の判別を行っている報告もみられる。しかしながら、過去には良質で大きな破片も得られたが、現在枯渇している可能性もあるため、本報告では小規模な黒曜石産地から得られた黒曜石や小型の黒曜石も対象とし、判別図を作成している。その結果、「北松浦―佐世保―腰岳群」と大きな括りになる。ただし、今後の現地調査やデーター数を増やしていけば、絞り込みを行える可能性は十分にある。現在の黒曜石原石の産状からみれば、他の 2 つの産地に比べて腰岳産が、良質で規模も大きいことから、今回得られた黒曜石の産地は、3 地点の中では腰岳の可能性が高いと思われる。なお、判定方法は異なるが、琉球列島出土黒曜石はいずれも腰岳産であるとする報告もある (小畑ほか ,2004)。

3. 岩石肉眼鑑定

(3) 結果

岩石肉眼鑑定結果を表 61 に示す。火山岩類の緻密質安山岩 5 点、輝石安山岩 3 点、安山岩 1 点、流紋岩 1 点、鉱物の石英 1 点に鑑定された。

(4) 考察

楚辺親見原 A 遺跡が立地する沖縄県読谷村周辺は、中江ほか (2010) によれば、後期白亜紀の名護層の泥質千枚岩および粘板岩が分布しており、それらを貫いて岩脈のトーナル岩が小規模な岩体として分布する。また、

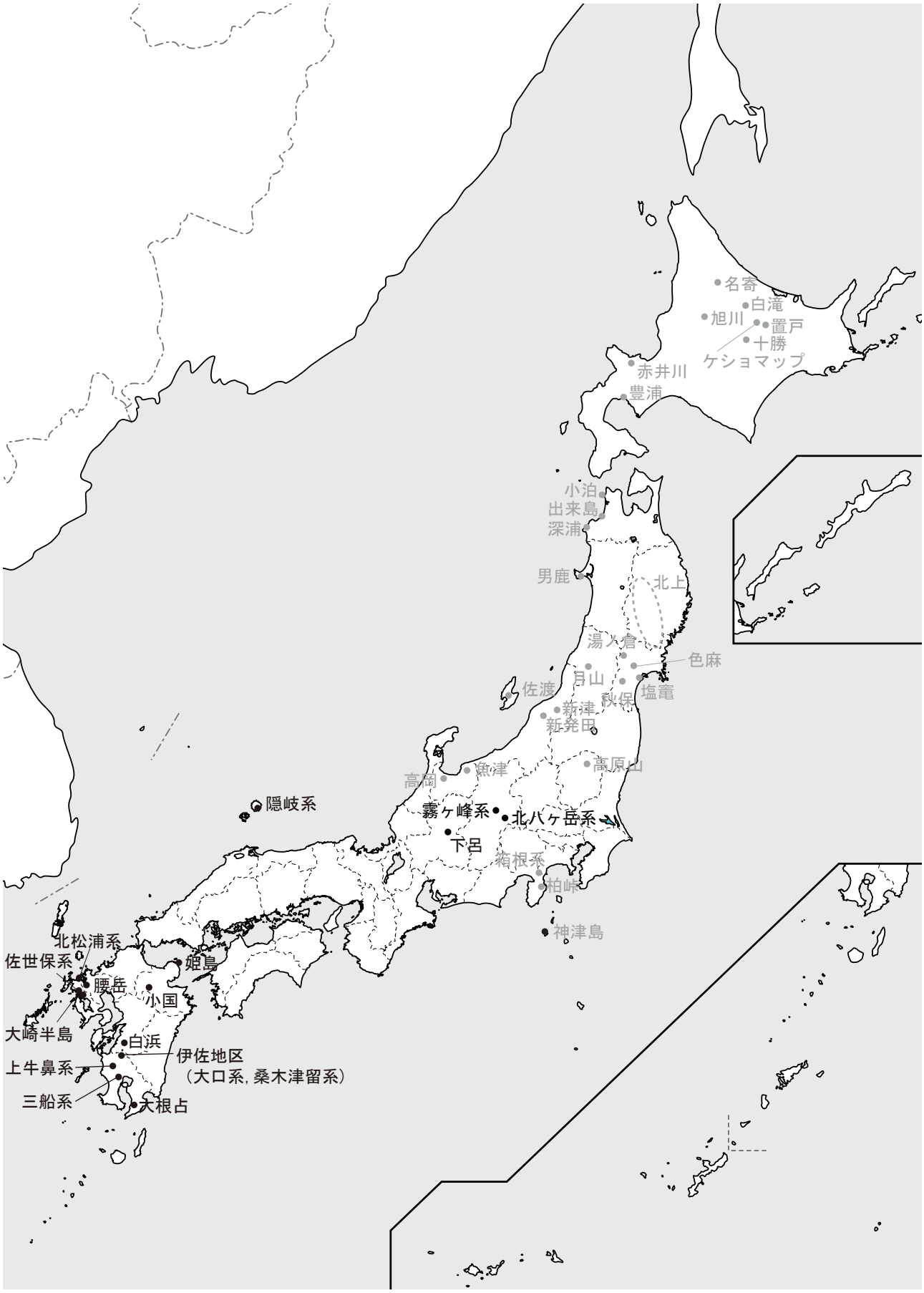


図 194　黒曜石産地一覧（漢字は今回原産地として対象としていない地点）

表 63　黒曜石産地試料一覧

大分類	中分類	判別群	記号	該当する原産地
信州	霧ヶ峰	男女倉1群	男女1	ぶどう沢、牧ヶ沢、高松沢、本沢下
信州	霧ヶ峰	男女倉2群	男女2	ぶどう沢、牧ヶ沢
信州	霧ヶ峰	男女倉3群	男女3	ぶどう沢、牧ヶ沢、高松沢、本沢下
信州	霧ヶ峰	鷹山系	鷹山	星糞峠、鷹山
信州	霧ヶ峰	西霧ヶ峰系	星ヶ塔	星ヶ塔、星ヶ台
信州	霧ヶ峰	和田峠1群	和田1	古峠、土屋橋北
信州	霧ヶ峰	和田峠2群	和田2	丁子御領、芙蓉パーライト、鷲ヶ峰
信州	霧ヶ峰	和田峠3群	和田3	小深沢、芙蓉パーライト、新和田トンネル、土屋橋北、土屋橋東、18地点、24地点、26地点、丁子御領、鷲ヶ峰
信州	霧ヶ峰	和田峠4群	和田4	小深沢、芙蓉パーライト、新和田トンネル、土屋橋北、土屋橋西、土屋橋東、18地点、24地点、26地点、丁子御領、鷲ヶ峰
信州	霧ヶ峰	和田峠5群	和田5	24地点、25地点、26地点、小深沢
信州	霧ヶ峰	和田峠6群	和田6	小深沢、芙蓉パーライト、24地点、25地点、26地点、土屋橋西、土屋橋東
信州	霧ヶ峰	和田峠7群	和田7	東餅屋、芙蓉パーライト、古峠、丁子御領、鷲ヶ峰、土屋橋北
信州	霧ヶ峰	和田峠8群	和田8	25地点、26地点、土屋橋東
信州	北八ヶ岳	横岳系双子池	双子池	双子池
信州	北八ヶ岳	横岳系亀甲池	亀甲池	亀甲池　擂鉢池
信州	北八ヶ岳	冷山・麦草系	麦草系	冷山、麦草峠、双子池、渋ノ湯、八ヶ岳7、八ヶ岳9、長門美しの森
信州	北八ヶ岳	中ツ原	中ツ原	中ツ原(遺跡試料)
東海・北陸	岐阜	下呂市	下呂	湯ヶ峰
中国・四国	隠岐	久見	久見	久見
中国・四国	隠岐	岬地区	岬地区	隠岐岬
中国・四国	隠岐	箕浦系	箕浦系	箕浦、加茂赤土、岸浜
九州	有田	腰岳	腰岳	腰岳
九州	伊佐地区	大口	大口	五女木、猩猩、日東
九州	伊佐地区	桑木津留	桑木	桑木津留
九州	三船	三船	三船	三船
九州	串木野東	上牛鼻系	上牛鼻	樋脇上牛鼻
九州	串木野東	上牛鼻系	平木場	平木場
九州	西小国	西小国	西小国	西小国
九州	大崎半島	大崎半島	大崎	大崎半島
九州	姫島	姫島	姫島	姫島
九州	佐世保	針尾1群	針尾1	針尾中町、針尾古里、針尾田ノ上
九州	佐世保	針尾2群	針尾2	針尾中町、針尾田ノ上、針尾古里、針尾通信塔
九州	佐世保	針尾3群	針尾3	針尾古里、針尾田ノ上
九州	佐世保	針尾4群	針尾4	針尾田ノ上、針尾通信塔、針尾古里
九州	佐世保	針尾5群	針尾5	針尾田ノ上、針尾通信塔
九州	佐世保	針尾6群	針尾6	針尾田ノ上
九州	佐世保	針尾7群	針尾7	針尾中町、針尾田ノ上
九州	佐世保	針尾8群	針尾8	針尾中町
九州	佐世保	針尾・淀姫1群	淀姫1	針尾土器田、、針尾古里、針尾大崎、針尾通信塔、淀姫
九州	佐世保	針尾・淀姫2群	淀姫2	針尾通信塔、淀姫
九州	大根占	大根占	大根占	大根占
九州	球磨	白浜	白浜	白浜
九州	北松浦地区	北松浦1群	松浦1	大崎免、岳崎免、松浦牟田
九州	北松浦地区	北松浦2群	松浦2	大崎免、岳崎免
九州	北松浦地区	北松浦3群	松浦3	大崎免、岳崎免、松浦牟田

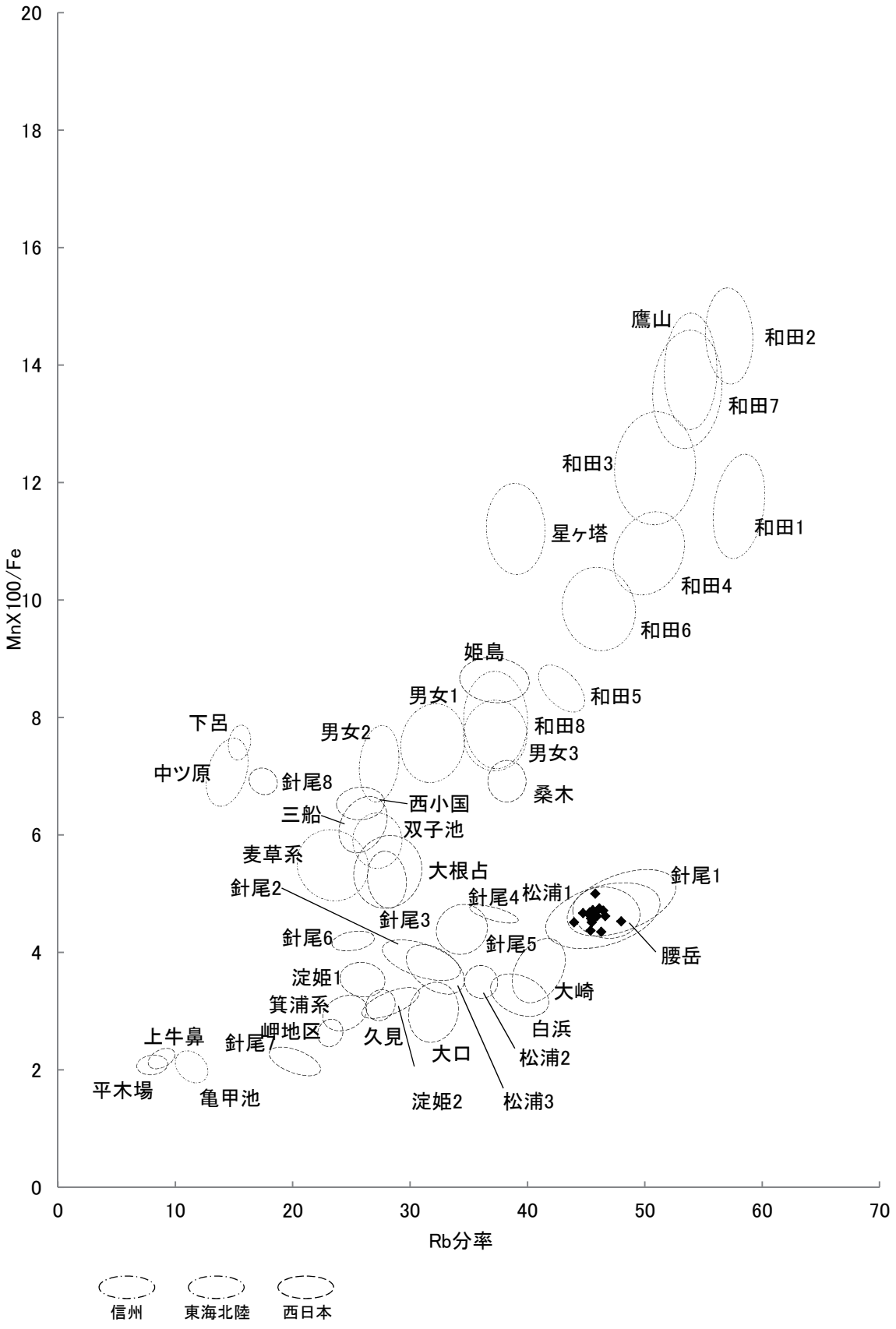


図 195　黒曜石産地推定結果（１）

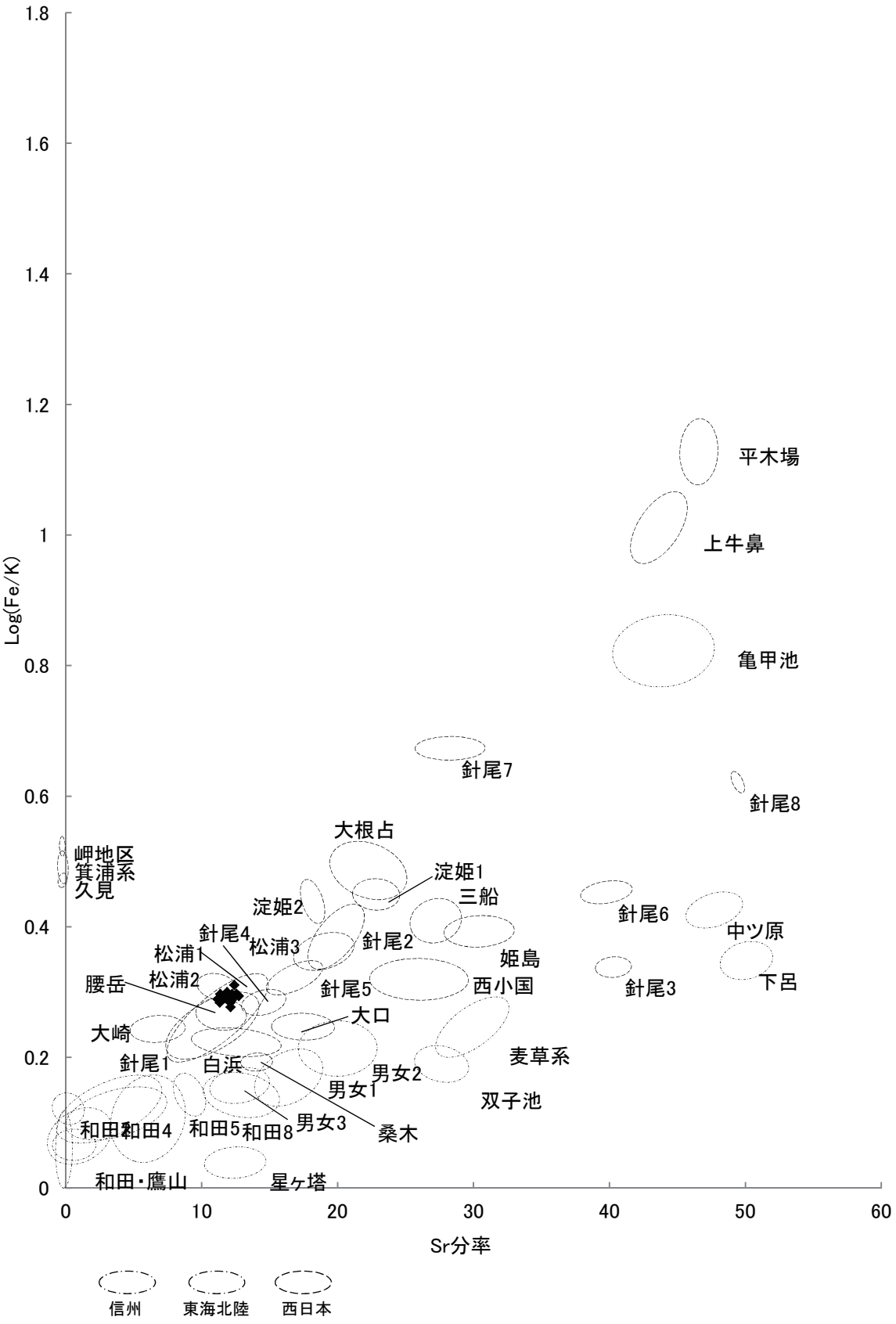


図 196　黒曜石産地推定結果（２）

表 64　スペクトル強度と判別指標値

No.	強度(cps)											判別指標				
	Al	Si	K	Ca	Ti	Mn	Fe	Rb	Sr	Y	Zr	Rb 分率	Sr 分率	Zr 分率	Mn* 100/Fe	log (Fe/K)
1	61.70	472.65	61.13	18.58	1.23	5.13	117.47	17.62	4.40	6.85	9.97	45.38	11.33	25.67	4.37	0.28
2	62.01	475.13	59.83	19.00	1.18	5.42	116.52	16.81	4.12	6.55	9.34	45.65	11.18	25.38	4.65	0.29
3	64.43	492.67	68.58	21.78	1.49	6.22	131.89	20.69	5.39	7.45	11.02	46.45	12.10	24.74	4.71	0.28
4	68.67	546.38	68.30	21.54	1.76	6.16	136.42	18.97	5.11	8.01	11.03	43.98	11.86	25.59	4.51	0.30
5	66.96	516.54	66.45	21.45	1.60	5.99	131.80	18.43	5.08	7.24	9.73	45.53	12.56	24.03	4.55	0.30
6	60.88	476.81	60.10	18.60	1.27	5.88	117.70	17.38	4.54	6.43	9.62	45.78	11.96	25.33	5.00	0.29
7	73.79	576.51	70.91	22.49	1.54	6.38	134.10	19.08	5.01	7.46	9.82	46.12	12.12	23.73	4.75	0.28
8	65.24	519.02	65.69	21.37	1.19	6.03	129.02	18.12	4.99	7.07	10.34	44.73	12.31	25.51	4.67	0.29
9	63.09	475.83	61.69	19.89	1.53	5.24	120.50	18.74	4.56	7.15	10.04	46.28	11.27	24.80	4.35	0.29

表 65　黒曜石判定結果

No.	4成分									5成分								
	第1候補			第2候補			第3候補			第1候補			第2候補			第3候補		
	原産地	距離	判定	原産地	距離	判定	原産地	距離	判定	原産地	距離	判定	原産地	距離	判定	原産地	距離	判定
1	松浦1	3.2	TRUE	針尾1	5.5	TRUE	腰岳	7.4	TRUE	松浦1	4.0	TRUE	針尾1	5.7	TRUE	腰岳	7.4	TRUE
2	松浦1	2.6	TRUE	針尾1	4.3	TRUE	腰岳	4.9	TRUE	松浦1	2.6	TRUE	針尾1	4.5	TRUE	腰岳	5.0	TRUE
3	松浦1	0.7	TRUE	腰岳	2.1	TRUE	針尾1	3.0	TRUE	松浦1	1.4	TRUE	腰岳	2.2	TRUE	針尾1	3.1	TRUE
4	松浦1	4.3	TRUE	針尾1	6.8	TRUE	腰岳	15.9	FALSE	松浦1	6.6	TRUE	針尾1	9.1	TRUE	腰岳	16.7	FALSE
5	松浦1	1.8	TRUE	針尾1	5.0	TRUE	腰岳	10.0	TRUE	松浦1	2.7	TRUE	針尾1	7.0	TRUE	腰岳	12.0	TRUE
6	松浦1	4.0	TRUE	腰岳	7.5	TRUE	針尾1	10.3	TRUE	松浦1	6.6	TRUE	腰岳	7.7	TRUE	針尾1	10.6	TRUE
7	松浦1	0.5	TRUE	腰岳	0.9	TRUE	針尾1	1.5	TRUE	松浦1	1.0	TRUE	腰岳	2.6	TRUE	針尾1	2.6	TRUE
8	松浦1	1.4	TRUE	針尾1	4.2	TRUE	腰岳	7.8	TRUE	松浦1	1.4	TRUE	針尾1	4.3	TRUE	腰岳	7.8	TRUE
9	松浦1	5.4	TRUE	針尾1	6.2	TRUE	腰岳	8.8	TRUE	松浦1	6.3	TRUE	針尾1	6.7	TRUE	腰岳	9.7	TRUE
10	松浦1	1.5	TRUE	針尾1	3.9	TRUE	腰岳	5.9	TRUE	松浦1	1.6	TRUE	針尾1	4.3	TRUE	腰岳	6.2	TRUE
11	松浦1	1.5	TRUE	針尾1	4.6	TRUE	腰岳	9.4	TRUE	松浦1	2.9	TRUE	針尾1	5.2	TRUE	腰岳	10.7	TRUE
12	松浦1	6.5	TRUE	腰岳	9.1	TRUE	針尾1	12.3	TRUE	松浦1	7.9	TRUE	腰岳	9.3	TRUE	針尾1	12.5	TRUE
13	松浦1	1.7	TRUE	針尾1	5.5	TRUE	腰岳	8.5	TRUE	松浦1	1.8	TRUE	針尾1	5.6	TRUE	腰岳	8.5	TRUE
14	松浦1	4.7	TRUE	針尾1	10.3	TRUE	腰岳	20.1	FALSE	松浦1	4.7	TRUE	針尾1	11.0	TRUE	腰岳	20.6	FALSE
15	松浦1	1.4	TRUE	針尾1	5.1	TRUE	腰岳	8.2	TRUE	松浦1	1.5	TRUE	針尾1	5.3	TRUE	腰岳	8.3	TRUE
16	松浦1	1.4	TRUE	腰岳	4.0	TRUE	針尾1	4.2	TRUE	松浦1	1.4	TRUE	針尾1	4.5	TRUE	腰岳	4.8	TRUE
17	松浦1	1.8	TRUE	針尾1	4.5	TRUE	腰岳	4.8	TRUE	松浦1	3.8	TRUE	針尾1	8.1	TRUE	腰岳	9.3	TRUE

距離:マハラノビス平方距離　判定はχ二乗検定(3σ)の結果

通し番号 19、23、24 が採取された北原貝塚は、久米島に位置している。久米島は、鮮新世～中新世の火山岩類から構成される。

通し番号 15 ～ 18 および通し番号 28 の緻密質安山岩は、表面が風化を被っており、破断面は黒色を呈する。輝石と推定される黒色鉱物が径 1 mm 以下できわめて微量程度散含する。斜長石斑晶が 1mm 以下できわめて微量含まれる。通し番号 19 は、久米島の北原貝塚から採取された礫で、輝石安山岩に鑑定された。石基は灰色を示し、径 1 ～ 5mm 輝石斑晶が少量程度散在する岩相を示す。通し番号 23 ～ 24 も、類似する岩相を示す輝石安山岩である。通し番号 20 の安山岩は、緑色を帯びる安山岩である。沖縄本島では恩納村に岩脈として分布がある程度で、沖縄本島外では、新第三紀の安山岩が久米島などに分布が知られている。本試料の岩相は、通し番号 24 に類似しており、楚辺親見原 A 遺跡への搬入品の可能性が指摘される。岩石薄片作製鑑定や蛍光 X 線分析などによる比較検討が望まれる。通し番号 21 は、白色を帯びる緻密質の石英である。各所の地質の晶洞部に分布する鉱物であるため、産地の推定は難しい。通し番号 22 は、流紋岩である。流紋岩の分布は、沖縄本島において認められない。各所の名護層に貫入する石英斑岩に伴う急冷部や小岩脈で流紋岩の岩相を示すものがある。それらの露頭近傍から採取された可能性がある。

4. 岩石蛍光 X 線分析

蛍光 X 線スペクトルを図 196 に掲げ、分析結果を表 62 に示す。

SiO_2 が 57.85 ～ 62.13 ms　%、Al_2O_3 が 15.56 ～ 21.09 ms%、Fe_2O_3 が、4.76 ～ 6.32 ms%、CaO が 3.66 ～ 7.71 ms%、の組成を示す。

(4) 考察

通し番号 15 ～ 18、28 は、岩相が相互に類似し、岩石肉眼鑑定では緻密質安山岩に鑑定される。(狭義の) サヌカイトは無斑晶質安山岩の一種であり、薄片作成による鉱物鑑定や破壊分析による蛍光 X 線分析の結果によって同定され、奈良県の二上山と香川県の五色台に分布する。緻密質安山岩は、ガラス質安山岩、無斑晶質安山岩などと呼ばれ、日本各地で石器原材料として使われているが、しばしばサヌカイトと混同して用いられる。

その産地は関東～北九州地方の調査地で約 70 ヶ所にも及ぶ (杉原・小林 ,2006)。今回の結果は非破壊の半定量分析のため、(狭義の) サヌカイトの元素組成と単純に比較できないが、(狭義の) サヌカイトと比べ SiO_2 の割合が高く、アルカリ・アルカリ土類金属の割合が低い (特に Mg) ことから、(狭義の) サヌカイトではなく、日本各地に分布する緻密質安山岩の類だと思われる。なお、久米島に分布する鮮新世～中新世の阿良岳層を構成する溶岩には、岩石薄片の観察や全岩化学組成の結果から、無斑晶質安山岩が確認されている (新城・加藤 ,1988)。久米島に産する無斑晶質安山岩と今回の緻密質安山岩が同じかどうかを厳密に調べるには、破壊分析による元素分析や薄片作成観察などが必要であるが、岩石肉眼鑑定と非破壊の蛍光 X 線分析の結果をみる限りでは類似するため、分析を行った石器は、久米島に分布する無斑晶質安山岩火山岩類の構成岩類の可能性がある。なお、通し番号 19 は、北原貝塚より採取された円礫で、岩相は他の試料とは異なる。化学組成では、主要元素のうち、Fe_2O_3、MnO、MgO、CaO が最も高く、TiO_2、Al_2O_3 および Na_2O がもっとも低い。本試料も久

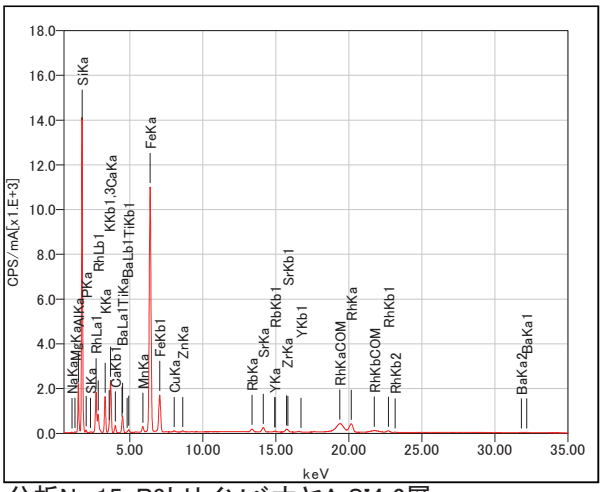
表 66　岩石肉眼鑑定結果

通し番号	器種	注記　地区　グリット　遺構　層序	岩石名	備考
15	打鏃	R3トリイ親見原A 打鏃 R3トリイソベオヤA SI4 2層	緻密質安山岩	蛍光X線
16	砕片	R3トリイ親見原A 砕片 R3トリイソベオヤA SI4 サブトレ	緻密質安山岩	蛍光X線
17	フレイク	R3トリイ親見原A フレイク R3トリイソベオヤA Ⅳ-2層	緻密質安山岩	蛍光X線
18	チップ	R3トリイ親見原AチップR3トリイソベオヤA SI4 6層	緻密質安山岩	蛍光X線
19		北原貝塚 表採	輝石安山岩	蛍光X線
20	打鏃	R3トリイ親見原A 打鏃 ソベオヤA SI1 7層	安山岩	
21	打鏃	R3トリイ親見原A 打鏃 R3トリイソベオヤA Ⅳ-1層	石英	
22	粗割片	R3トリイ親見原A 粗割片 R3トリイソベオヤA ソベオヤA Ⅴ層	流紋岩	
23		北原貝塚C-6 Ⅱ層（白砂層）	輝石安山岩	
24		北原sm D-4 Ⅲa層 C-48	輝石安山岩	
28	チップ	R3トリイ親見原A ソベオヤA Ⅳ-2層	緻密質安山岩	蛍光X線

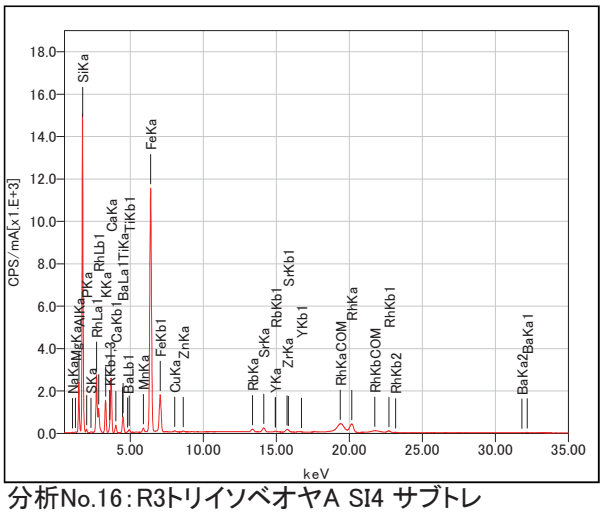
表 67　蛍光 X 線分析結果

分析No.		15	16	17	18	19	28
半定量分析値(ms%)	SiO_2	61.07	61.09	63.79	57.85	60.79	62.13
	TiO_2	1.01	0.97	0.94	0.91	0.76	0.98
	Al_2O_3	19.62	19.89	19.07	20.56	15.56	21.09
	Fe_2O_3	5.76	5.62	4.76	5.91	6.32	5.05
	MnO	0.15	0.10	0.09	0.13	0.15	0.13
	MgO	1.00	1.05	0.86	1.16	2.83	0.79
	CaO	4.29	4.41	3.66	5.31	7.71	3.59
	Na_2O	3.00	3.00	2.82	2.62	1.45	2.22
	K_2O	3.51	3.12	3.60	3.01	3.64	3.42
	P_2O_5	0.45	0.60	0.24	2.37	0.48	0.39
	S	0.0316	0.0360	0.0552	0.0529	0.1562	0.0585
	Cu	0.0115	0.0121	0.0111	0.0187	0.0137	0.0122
	Zn	0.0117	0.0092	0.0083	0.0113	0.0117	0.0085
	Rb	0.0173	0.0161	0.0157	0.0182	0.0154	0.0164
	Sr	0.0254	0.0237	0.0225	0.0268	0.0388	0.0233
	Y	0.0017	0.0015	0.0013	0.0020	0.0038	0.0015
	Zr	0.0136	0.0127	0.0124	0.0148	0.0295	0.0133
	Ba	0.0453	0.0389	0.0457	0.0355	0.0375	0.0572

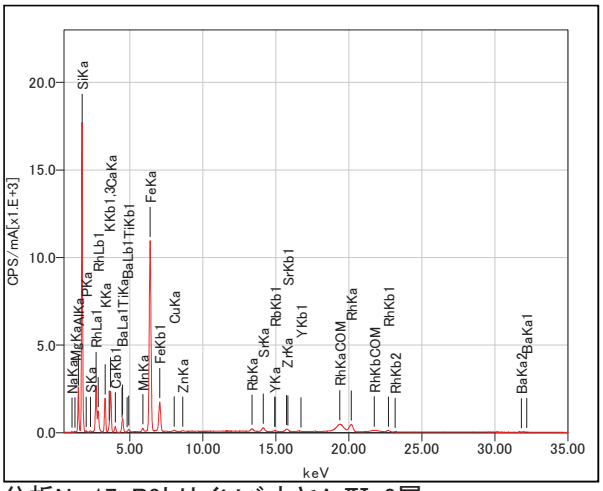
米島を構成する新第三系に由来する岩石と考えるが、緻密質安山岩とは組成が異なっており、由来となる地質が異なるものと考えられる。



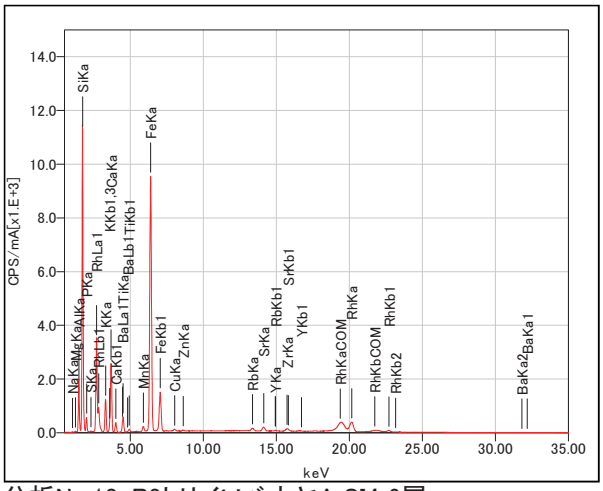
分析No.15：R3トリイソベオヤA SI4 2層



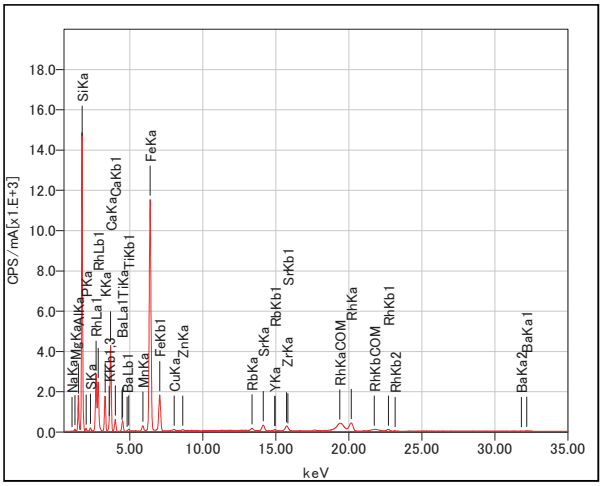
分析No.16：R3トリイソベオヤA SI4 サブトレ



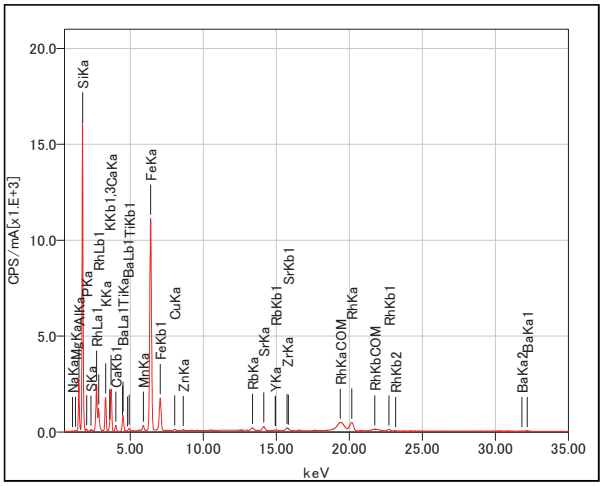
分析No.17：R3トリイソベオヤA Ⅳ-2層



分析No.18：R3トリイソベオヤA SI4 6層

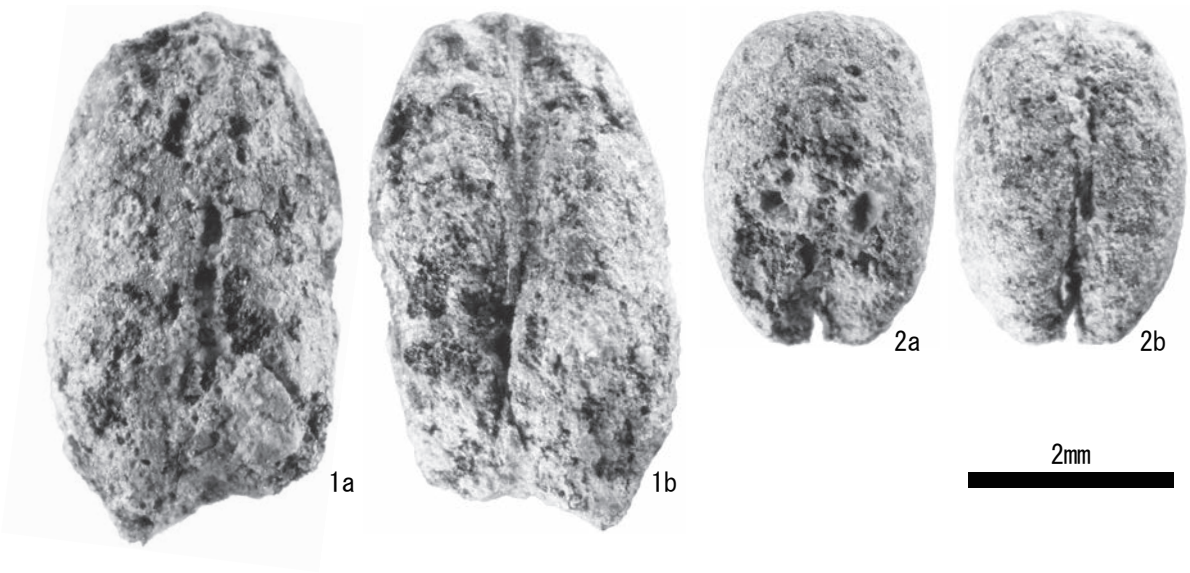


分析No.19：北原貝塚表採



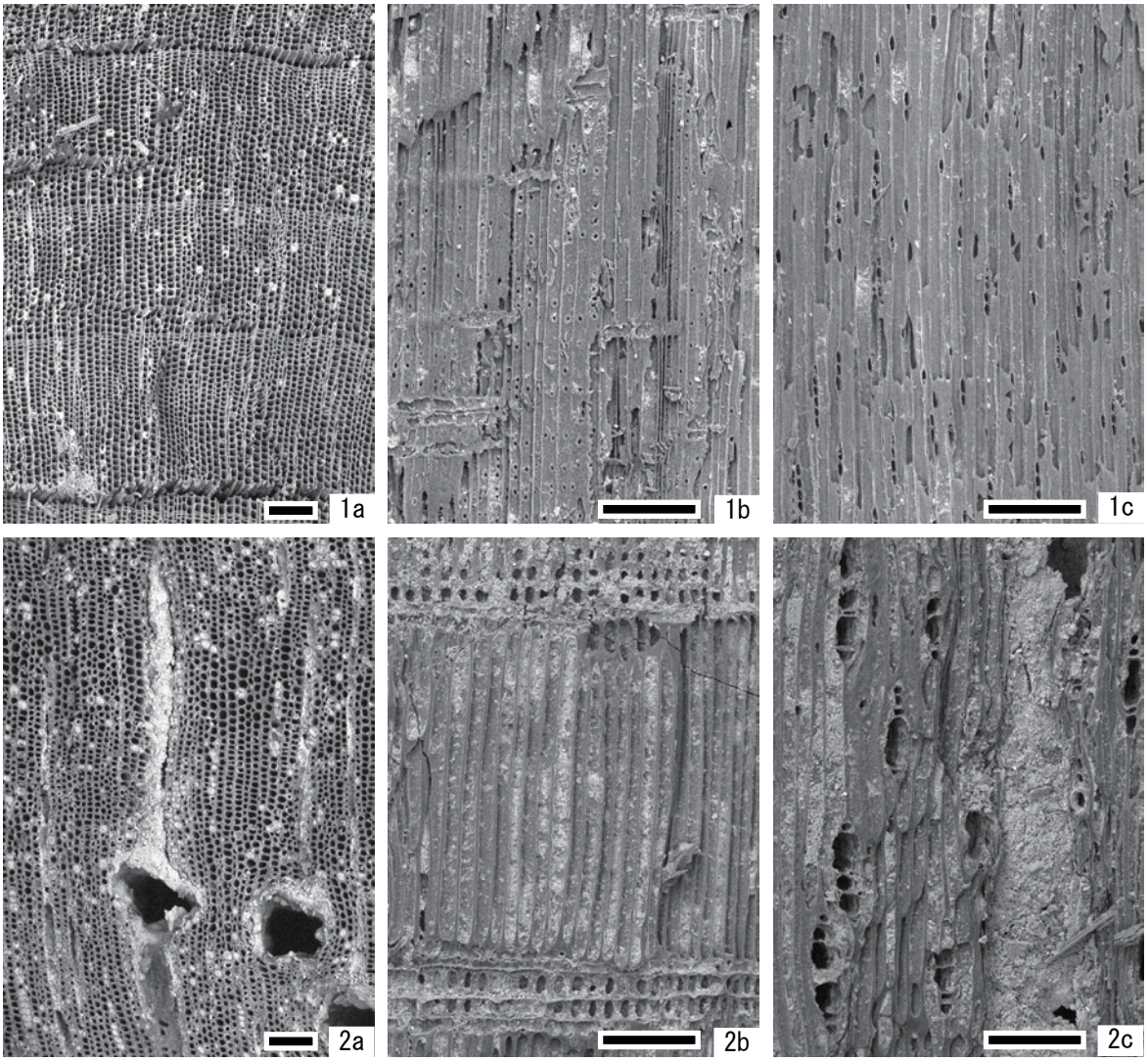
分析No.28：ソベオヤA Ⅳ-2層

図 197　蛍光 X 線スペクトル



1. オオムギ 穎果(SP310)　　2. コムギ 穎果(SP310)

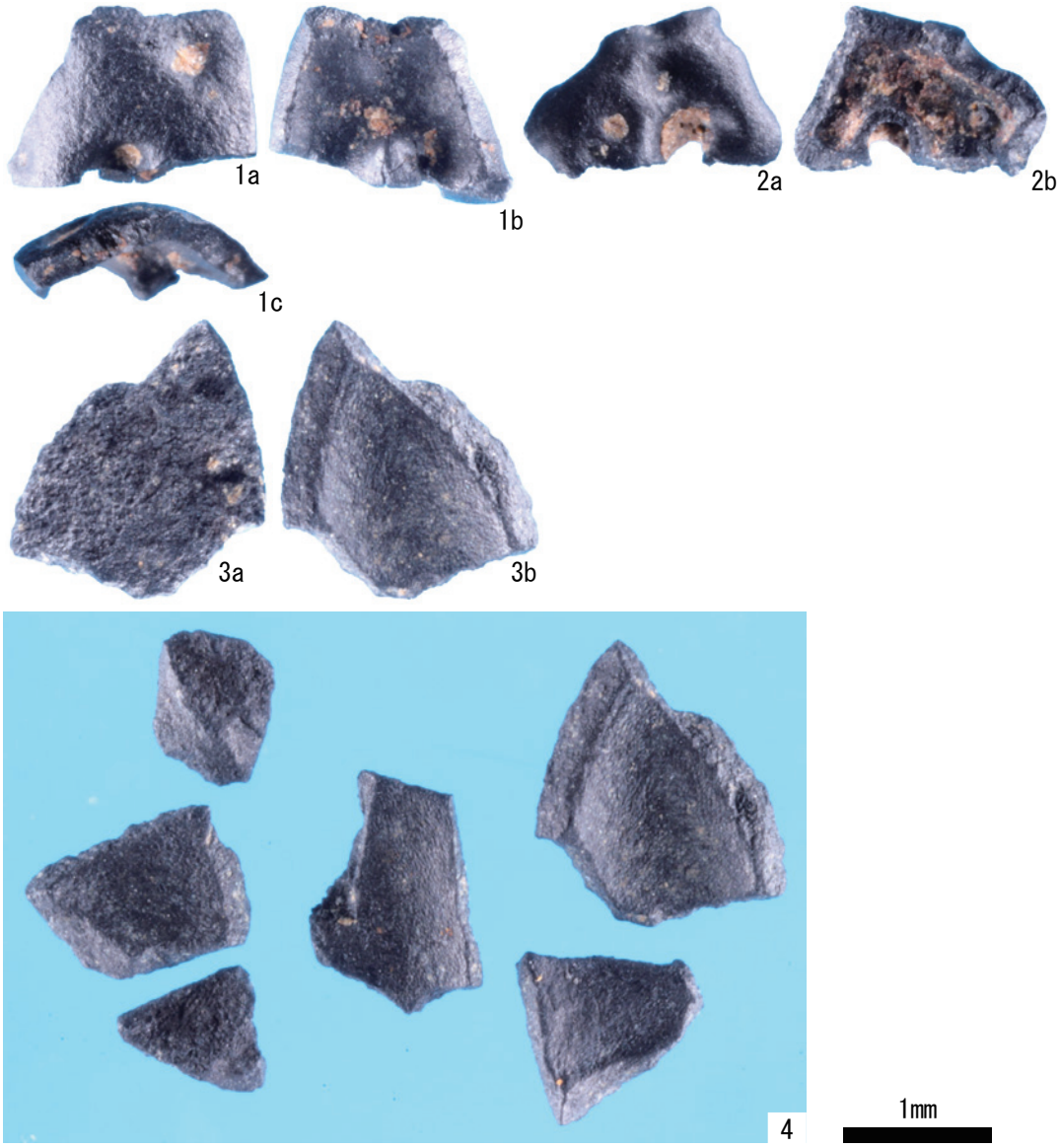
図 198　炭化種実（令和２年度）



1. マキ属(3層)
2. マツ属複維管束亜属(2-6層)

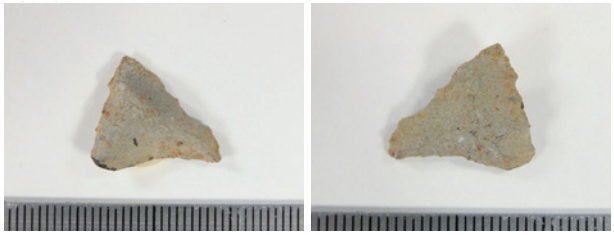
a:木口　b:柾目 c:板目
スケールは100μm

図 199　炭化材（令和４年度）

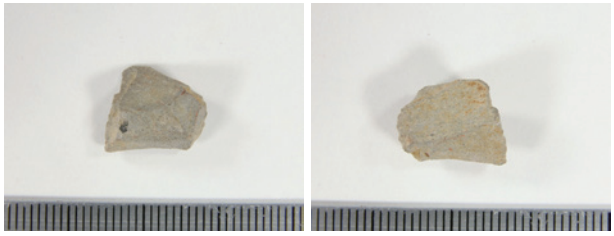


1. ヤンバルアカメガシワ　種子(SI1 2-6層;資料No.5)
2. ヤンバルアカメガシワ　種子(SI1 2-6層;資料No.5)
3. 不明種実(SP7 3層;資料No.2)
4. 不明種実(SP7 3層;資料No.2)

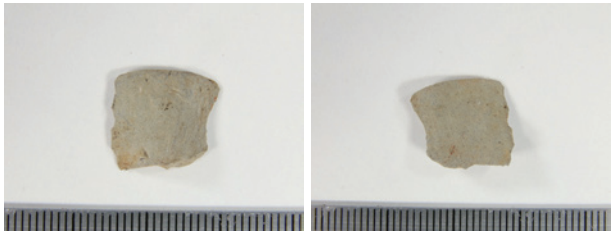
図 200　種実遺体



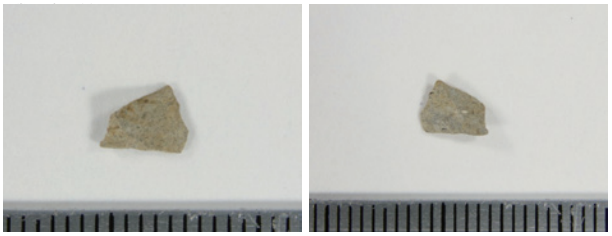
1. 15 R3トリイ親見原A 打鐵 R3トリイソベオヤA SI4 1層 344



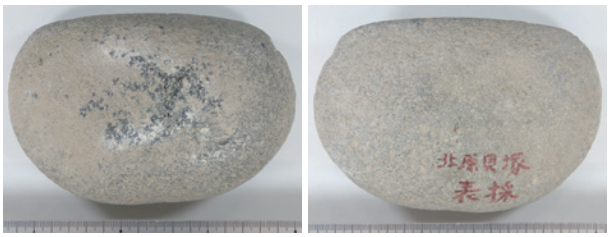
2. 16 R3トリイ親見原A 砕片 R3トリイソベオヤA SI4 サブトレ1018



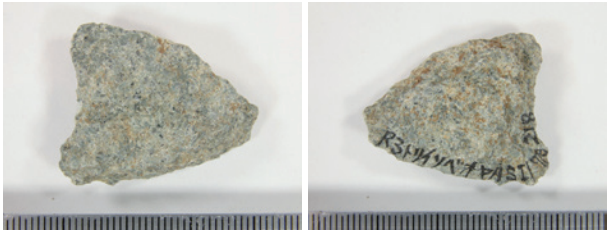
3. 17 R3トリイ親見原A フレイク R3トリイソベオヤA Ⅳ-2層 1151



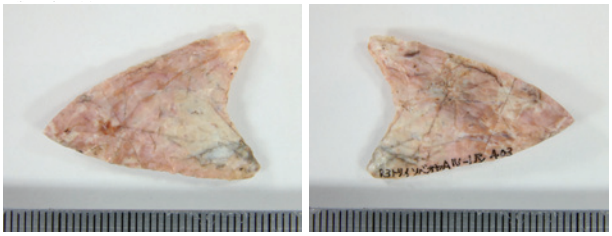
4. 18 R3トリイ親見原AチップR3トリイソベオヤA SI4 6層 1231



5. 19 北原貝塚 表採



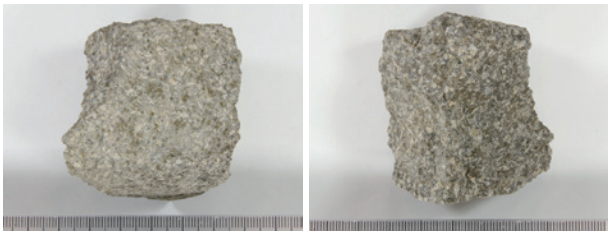
6. 20 R3トリイ親見原A 打鐵 ソベオヤA SI1 7層 218



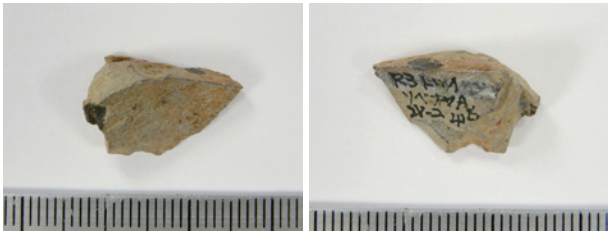
7. 21 R3トリイ親見原A 打鐵 R3トリイソベオヤA Ⅳ-1層 403

8. 22 R3トリイ親見原A 粗割片 R3トリイソベオヤA ソベオヤA Ⅴ層 429

9. 23 北原貝塚C-6 Ⅱ層（白砂層）



10. 24 北原sm D-4 Ⅲa層 C-48



11. 28 R3トリイ親見原A ソベオヤA Ⅳ 2層416

図 201　岩石

引用文献

Bronk, R. C.,2009,Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon,51,337-360.

中山至大・井之口希秀・南谷忠志 ,2010, 日本植物種子図鑑 (2010 年改訂版). 東北大学出版会 ,678p.

Reimer, P. J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J. W., Blackwell, P. G., Bronk Ramsey, C., Grootes, P. M., Guilderson, T. P., Haflidason, H., Hajdas, I., Hatté, C., Heaton, T. J., Hoffmann, D. L., Hogg, A. G., Hughen, K. A., Kaiser, K. F., Kromer, B., Manning, S. W., Niu, M., Reimer, R. W., Richards, D. A., Scott, E. M., Southon, J. R., Staff, R. A., Turney, C. S. M., and van der Plicht, J.,2013,IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP. Radiocarbon,55,1869–1887.

Stuiver, M., and Polach, H. A.,1977,Discussion Reporting of 14C Data. Radiocarbon ,19, 355-363.

鈴木庸夫・高橋　冬・安延尚文 ,2018, 草木の種子と果実－形態や大きさが一目でわかる 734 種　増補改訂－ . ネイチャーウォッチングガイドブック , 誠文堂新光社 ,303p.

林　昭三 ,1991, 日本産木材顕微鏡写真集 . 京都大学木質科学研究所 .

伊東隆夫 ,1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ . 木材研究・資料 ,31, 京都大学木質科学研究所 ,81-181.

伊東隆夫 ,1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ . 木材研究・資料 ,32, 京都大学木質科学研究所 .66-176.

伊東隆夫 ,1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ . 木材研究・資料 ,33, 京都大学木質科学研究所 ,83-201.

伊東隆夫 ,1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ . 木材研究・資料 ,34, 京都大学木質科学研究所 ,30-166.

伊東隆夫 ,1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ . 木材研究・資料 ,35, 京都大学木質科学研究所 ,47-216.

Reimer P., Austin W., Bard E., Bayliss A., Blackwell P., Bronk Ramsey, C., Butzin M., Cheng H., Edwards R., Friedrich M., Grootes P., Guilderson T., Hajdas I., Heaton T., Hogg A., Hughen K., Kromer B., Manning S., Muscheler R., Palmer J., Pearson C., van der Plicht J., Reimer R., Richards D., Scott E., Southon, J. Turney, C. Wacker, L. Adolphi, F. Buentgen U., Capano M., Fahrni S., Fogtmann-Schulz A., Friedrich R., Koehler P., Kudsk S., Miyake F., Olsen J., Reinig F., Sakamoto M., Sookdeo A., & Talamo S.,2020, The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0–55 cal kBP). Radiocarbon, 62,1-33..

Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（編）,2006, 針葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト . 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部　久・内海泰弘（日本語版監修）, 海青社 ,70p.［Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(2004)IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification］.

中山至大・井之口希秀・南谷忠志 ,2010, 日本植物種子図鑑 (2010 年改訂版). 東北大学出版会 ,678p.

Stuiver M., & Polach AH., 1977, Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of 14C Data. Radiocarbon, 19, 355-363.

鈴木庸夫・高橋　冬・安延尚文 ,2018, 草木の種子と果実－形態や大きさが一目でわかる 734 種　増補改訂－ . ネイチャーウォッチングガイドブック , 誠文堂新光社 ,303p.

島地　謙・伊東隆夫 ,1982, 図説木材組織 . 地球社 ,176p.

Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（ 編 ）,1998, 広葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト . 伊東隆夫・藤井智之・佐伯　浩（日本語版監修）, 海青社 ,122p.［Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification］.

片多雅樹，2015，判別図法を用いた黒曜石の産地推定～原産地データーの蓄積～ . 長崎県埋蔵文化財センター研究紀要 ,5,35-39

明治大学古文化財研究所 ,2009, 蛍光 X 線分析装置による黒曜石製遺物の原産地推定　- 基礎データー集 1-. 明治大学古文化財研究所 ,294p.

明治大学古文化財研究所 ,2011, 蛍光 X 線分析装置による黒曜石製遺物の原産地推定　- 基礎データー集 2-. 明治大学古文化財研究所 ,294p.

明治大学文学部 ,2014a, 蛍光 X 線分析装置による黒曜石製遺物の原産地推定　- 基礎データー集 3-, 杉原重夫編 , 森 義勝監修 , 明治大学文学部 ,170p.

明治大学文学部 ,2014b, 日本における黒曜石の産状と理化学分析 - 資料集 -,75, 杉原重夫編 , 森 義勝監修 , 明治大学文学部 ,170p.

望月明彦 ,2004, 第 5 節　和野Ⅰ遺跡出土黒曜石製石鏃の石材原産地分析 , 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 452 集　和野Ⅰ遺跡発掘調査報告書 ,476-480.

小畑弘己・盛本　勲・角縁　進 ,2004, 琉球列島出土の黒曜石製石器の化学分析による産地推定とその意

義 . 石器産地研究会会誌 ,4,101-136.
杉原重夫，2011，九州腰岳，平沢良遺跡・鈴桶遺跡出土黒曜石製遺物の原産地推定．駿台史学，142，111 － 137.
五十嵐俊雄 ,2006, 考古資料の岩石学 . パリノ･サーヴェイ株式会社 ,194p.
中江　訓・兼子尚知・宮崎一博・大野哲二・駒澤正夫 , 2010, 20 万分の 1 地質図幅「与論島及び那覇」. 産業技術総合研究所 , 地質調査総合センター .
佐藤善男・駒澤正夫 ,1993, 20 万分の 1 地質図幅「久米島」. 地質調査所
新城竜一・加藤祐三 , 1988, 琉球列島久米島 , 阿良岳層の記載岩石学 . 岩鉱 ,83,472-485.
杉原重夫・小林三郎 ,2006, 文化財の自然科学的分析による文化圏の研究 - ガラス質安山岩産出地データベース . 明治大学人文科学研究所紀要 ,59,43-94.
Bronk RC., 2009, Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon,51,337-360.
Reimer PJ., Bard E., Bayliss A., Beck JW., Blackwell PG., Bronk RC., Buck CE., Cheng H., Edwards RL., Friedrich M., Grootes PM., Guilderson TP., Haflidason H., Hajdas I., Hatté C., Heaton TJ., Hoffmann DL., Hogg AG., Hughen KA., Kaiser KF., Kromer B., Manning SW., Niu M., Reimer RW., Richards DA., Scott EM., Southon JR., Staff RA., Turney CSM., van der Plicht J., 2013, IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves 0–50,000 years cal BP. Radiocarbon, 55, 1869–1887.
Stuiver, M., and Polach, H. A.,1977,Discussion Reporting of 14C Data. Radiocarbon ,19, 355-363.

第６章　総括

本章では調査対象とした各遺跡の調査成果について整理し、本報告の総括とする。

第１節　楚辺親見原遺跡Ａ～Ｄ

１　縄文時代後・晩期から弥生～平安並行期

各調査区で、縄文時代後・晩期から弥生並行期の遺構と遺物を確認した。

遺構として、Ａ区東側及びＢ区では、竪穴住居跡と土坑が迫地形の周辺に集中している。竪穴住居跡は６基検出した。特にSI4・SI5・SI6は互いに切り合う状況が確認でき、SI6・SI5・SI4の順に新しくなり、出土遺物はSI6やSI5で仲原式が多いが、SI4では阿波連浦下層式が仲原式より多く出土した。また､SI5からは獣骨（イヌ）がまとまって出土している。カットマーク等が確認できなかったことから埋葬の可能性があるが、解剖学的位置になく分散して出土することから、どのように埋められたかは不明である。

遺物として、土器は縄文時代後・晩期から弥生・平安並行期の荻堂式、室川式、宇佐浜式、仲原式、阿波連浦下層式、奄美系、弥生系、弥生土器、くびれ平底が竪穴住居跡や土坑、迫地形の堆積層から出土している。これらの土器は、迫地形１では室川式、宇佐浜式が主体となり、迫地形２及び迫地形３では仲原式、阿波連浦下層式が主体となっいる。

石器は剥片石器を除いた点数組成比では敲石磨石類が約40%を占めるが、打製石鏃やスクレイパー類、石核、磨製石斧、石皿台石類もそれぞれ10%前後の比率となるなど、多様な器種組成となっている。この器種組成から当時は、狩猟採集を主生業とし、さらに敲石磨石類と石皿の組み合わせからは、植物資源の利用や定住をうかがわせる。

一方で、剥片石器を加えた点数組成比では、フレイク・チップが約55%、粗割片が28%と石器製作に伴う石器が多数を占めることが確認できる。石材も多量に出土していることから、この遺跡では石器石材を遺跡内に持ち込み、同地で加工して使用し、廃棄まで行われていたことが推測される。特に集計表で明らかなように、SI ４・５・６において顕著にその傾向を示しており、これらの遺構が石器製作の作業場であった可能性がある。

２　グスク時代

各調査区で、掘立柱建物跡のプランや耕作に伴う植栽痕、二次葬に伴うと考えられる遺構を確認した。

植栽痕は迫地形やその周辺で、Ⅲ-1層掘削後に確認でき、特にＡ区では列状ピット群を確認した。掘立柱建物跡は分類Ｂ２を１棟確認した。またＡ区のSP6で火葬骨や焼骨が混じる状態で人骨が出土した。二次葬に伴う遺構の可能性がある。年代測定の結果は、それぞれ1025 ± 25BPと950 ± 25の値を得ており、楚辺徳地原遺跡Ｃの年代と近いことから、同時期の遺構の可能性がある。

遺物は中国産白磁のⅡ・Ⅳ・Ⅴ類、Ｃ群や中国産褐釉陶器、カムィヤキ、グスク土器が出土しており、年代測定の結果と概ね一致する。

３　近世・近代

Ｃ区で窯跡を確認した。周辺で本遺構以外は確認できなかったが、昭和20年の航空写真や古写真などから製糖に伴うものと考えられる。

第２節　楚辺徳地原遺跡Ｂ～Ｇ

１　縄文時代後・晩期から弥生～平安並行期

Ｃ区で弥生並行期の遺構と遺物を確認した。遺構は竪穴住居跡を５基、土坑を５基確認した。竪穴住居跡は石灰岩の岩盤及び、その周辺で検出した。遺構上面は基地造成や耕作による削平を受けており、当初の形状や使用面などが確認できるものは少なかったが、SI1やSI2では住居廃絶後に廃棄土坑として使用されたと考えられる堆積を確認した。

遺物は、遺構内から阿波連浦下層式が多く出土しており、室川式、宇佐浜式、仲原式、奄美系、弥生系も出土している。

石器については、剥片石器を除いた点数組成比では敲石磨石類が約55%を占め、次いで磨製石斧が約25%、砥石や滑石製品が約10%の比率となる。剥片石器も加えた点数組成比では、剥片石器を除いた石器が約87%を占め、粗割片が９%、フレイク・チップは４%に留まることから、この遺跡では石器の製作はほとんど行われず、製作された石器を使用・廃棄する場であったと目される。

２　グスク時代

ＢからＦ区において、掘立柱建物跡のプランや土坑、円弧状遺構を検出した。

掘立柱建物跡のプランはＢ区で２棟、Ｃ区で76棟、Ｄ区で34棟､Ｆ区で16棟の計128棟を確認した。また、方形土坑を４基検出した。これらは当初土坑墓を想定していたが、人工遺物や人骨などが出土しなかったことから性格は不明である。

遺物は掘立柱建物跡に伴うピットから、滑石製石鍋や中国産白磁のⅣ類、カムィヤキ、グスク土器の第１から３様式などが出土した｡また､ピットからアカジャンガー式やフェンサ下層式､くびれ平底の底部が出土している。

これらのグスク時代直前とされる遺物が主体となる遺構は今回確認できなかったが、周辺に所在していた可能性がある。

３　近世・近代

Ｇ区で溝状遺構を確認した。遺構は区画や排水に伴うもので、基地建設により削平・造成されていた。遺物は清代の中国産白磁や青花、本土産陶磁器、沖縄産陶器の他、カムィヤキや中国産青磁碗のＶ-1類や盤が出土している。今回は確認するに至らなかったが、周辺にこれらの遺物を伴う遺跡が存在する可能性がある。

第３節　渡具知後原遺跡

遺構は掘立柱建物に伴うピットを確認した。プランは確認できなかった。調査区の南側で迫地形を確認した。迫地形から室川式や宇佐浜式、中国産白磁のＥ０群が出土したことから、周辺にこれらの遺物を伴う遺構が存在する可能性がある。

第４節　古堅通地原遺跡

１　グスク時代

掘立柱建物跡のプランを12棟確認し、プランはA4とB1に分類できた。確認できたプランの遺構から遺物は出土しなかった。

２　近世・近代

遺構は溝状遺構を確認した。遺構は区画や排水に伴うもので、清代の中国産青花や本土産近代磁器、沖縄産陶器が出土している。

第５節　大湾親見原遺跡

遺構はグスク時代の掘立柱建物跡のプランを４棟（分類内訳　A：１棟、A5：１棟、B：１棟、B2：１棟）を確認した。また、調査区の東側で迫地形を確認した。

遺物はⅡ層から中国産青磁のⅤ類と沖縄産陶器が出土している。

第６節　大湾糸蒲原遺跡

遺構はグスク時代の掘立柱建物跡のプランを８棟（分類内訳　A：２棟、A5：２棟、A6：１棟、B：１棟、B2：２棟）を確認した。また、調査区の南側で迫地形を確認した。

遺物はⅣ層から清代の中国産青花や本土産近代磁器、沖縄産陶器が出土している。

第７節　まとめ

１　縄文後・晩期から弥生～平安並行期

楚辺親見原遺跡Ａ～Ｄと楚辺徳地原遺跡Ｃでは、竪穴住居跡や土坑、そして迫地形を確認した。これらの遺構は遺跡により立地が異なり、また、出土遺物の種別に特徴がある。

出土する土器からみると、室川式や宇佐浜式は迫地形１に多く、楚辺親見原Ａ～Ｄや楚辺徳地原Ｃの遺構、迫地形２～４では少ない傾向にある。また、阿波連浦下層式は、楚辺親見原遺跡のSI4やSK3、楚辺徳地原遺跡ＣのSI1～SI4で仲原式より多く出土している。奄美系や弥生系、弥生土器は楚辺親見原遺跡のSI1やSI4で多く出土しており、楚辺徳地原遺跡ＣのSI1～SI5では少なかった。

石器は、組成が楚辺親見原遺跡Ａの遺構から製作に伴うフレイク・チップ、粗割片が多く出土したが、楚辺徳地原遺跡Ｃの遺構では少なかった。

竪穴住居跡は、楚辺親見原遺跡Ａにおいては迫地形の周辺に位置していが、楚辺徳地原遺跡Ｃでは石灰岩の岩盤であるⅦ層が広がる範囲に位置していた。

これらの特徴から、縄文後・晩期までの遺跡は迫地形１より北側に、阿波連浦下層式が主体となる弥生並行期以降の遺跡は楚辺親見原遺跡Ｂの南側及び、楚辺徳地原遺跡Ｃの西側に広がる可能性がある。また、楚辺親見原遺跡Ａと楚辺徳地原遺跡Ｃでは奄美系、弥生系、弥生土器、石器・石材の出土状況が異なることから、時期や集落の性格が異なる可能性がある。

２　グスク時代

掘立柱建物跡のプランを153棟分確認し、分類を行った。内訳は、Ａ群：58（主屋　A：32、A1：11、A2：3、A3：4、A4：4、A5：3、A6：1）、Ｂ群：95（B:8、B1：53、B2：25、B3：6、B4：3）となる。各プランでグスク時代の遺物が確認された状況を示すと、A1は楚辺徳地原遺跡ＣのSB8で滑石製石鍋、中国産白磁Ⅳ類が出土し、年代測定で926±21BPの値を得ている。楚辺徳地原遺跡ＤではSB15でグスク土器の第１様式の鍋・甕形が出土しており、年代測定で993±21BPの数値を得ている。A2は楚辺徳地原遺跡ＤのSB14で、中国産白磁のⅣ類が出土している。A4は楚辺徳地原遺跡ＣのSB62で、グスク土器第１様式と第２様式が出土している。これらの様子からA1とA2の時期差はあまりなく、A1・A2とA4については時期差を有する可能性がある。A3とA5、A6からは遺物は出土しなかった。

Ｂ群では、B1は徳地原遺跡ＤのSB17でグスク土器第３様式の甕形が、B2は楚辺徳地原遺跡ＤのSB18でグスク土器第１様式の鍋形が、B3は楚辺徳地原遺跡ＤのSB22でグスク土器第１様式が、SB23でカムィヤキＡ群の壺が、楚辺徳地原遺跡ＦのSB6でグスク土器第

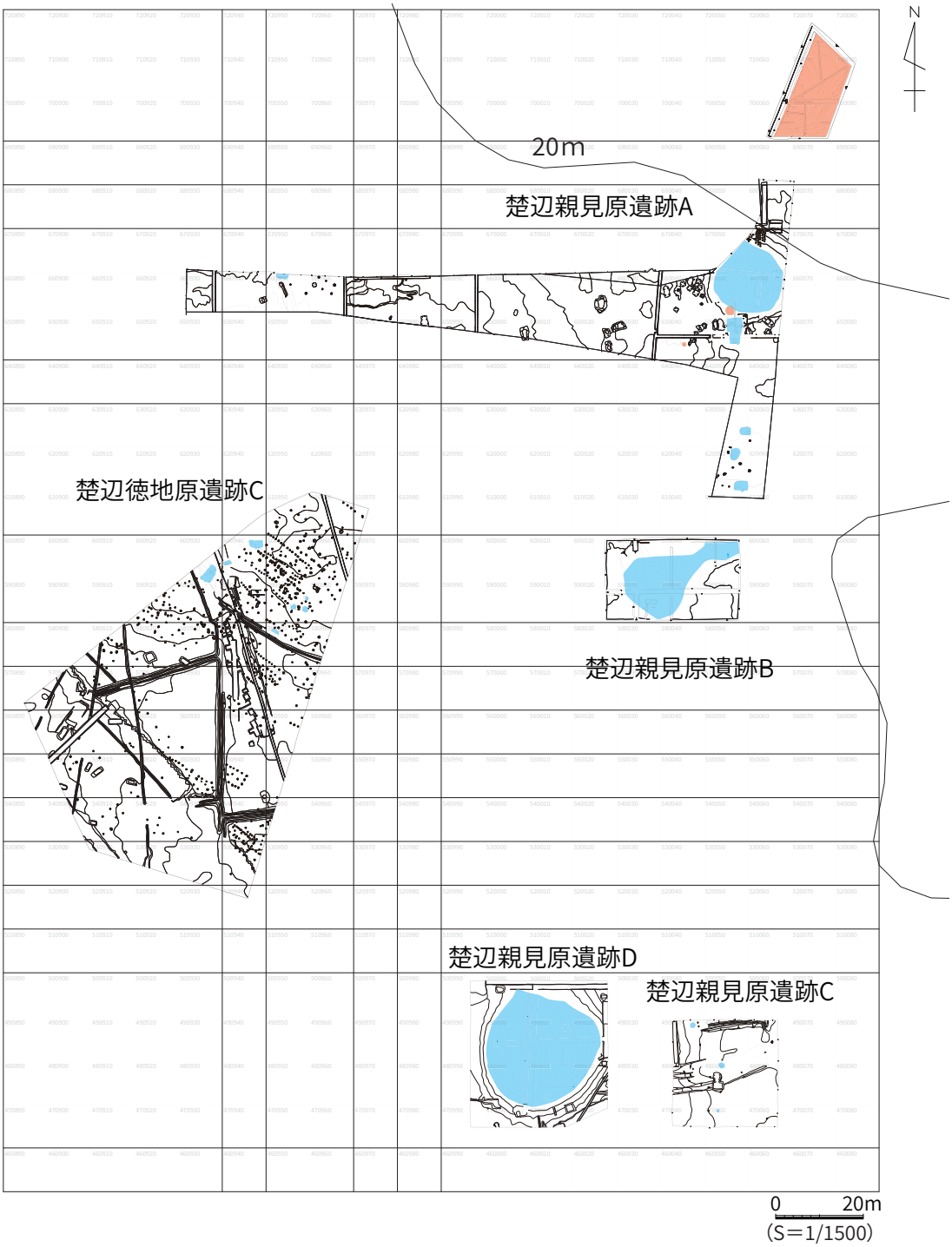


図 202　縄文後・晩期、弥生並行期　遺構・迫地形分布図（赤：縄文後・晩期　水色：弥生並行期）

１様式と第３様式の鍋形、カムィヤキＡ群の壺、中国産白磁のⅣ-1 類が出土している。また年代測定の結果、B2 は楚辺親見原遺跡 A の SB1 において 1025 ± 25Bp、楚辺徳地原遺跡 B の SB2 において 1100 ± 20BP の値を得ている。B 群は楚辺徳地原遺跡 F で B3 → B2 → B1 の順に切り合いがみられるが、遺物や年代測定の結果から時期差は確認できなかった。

楚辺徳地原遺跡 C では、方形の土坑を４基確認した。土坑墓を想定しているが、人骨や副葬品などの遺物は確認できなかった。年代測定の結果、SK4 の１層で 974 ± 21BP の値を得ており、SK4 は SB9 に切られ、SK9 は SB23、SK10 は SB15 の遺構に切られていることから、これらの遺構より古くなると考えられる。

グスク時代の遺跡は主に 11 ～ 12 世紀頃で、楚辺徳地原遺跡 C を中心に広がっており、楚辺親見原原遺跡 A の北側や楚辺徳地原遺跡 F の南側へ広がる可能性がある。特に楚辺親見原遺跡Ａの北側にはタシーモー北方遺跡が所在することから、その可能性は高い。また、G 区では今回の調査ではグスク時代の遺構が確認されなかったが、溝状遺構よりカムィヤキや青磁碗・盤が出土していることから、周辺にグスク時代の遺構が所在する可能性がある。

３　近世・近代

近世・近代の遺構は楚辺徳地原遺跡 G や古堅通地原遺跡 A で区画や排水に伴う溝状遺構を検出し、楚辺親見原遺跡 C では製糖に伴う窯跡を確認した。昭和 20 年の航空写真等では耕作地が広がっている状況が確認できることから、これらの遺構はこれに伴うものと考えられ、さらに周辺に広がる可能性がある。

４　結語

今回のトリイ通信施設内の発掘調査では、縄文後・晩期から近世・近代までの広い時代幅で多くの遺構や遺物を確認した。このことは、当該地域が古くから人々の生活の場であったことをうかがわせている。特に弥生並行期やグスク時代に島外から人や文化が伝来した可能性があることを示す遺物が出土していることや、従来海岸沿いに分布するとされていた弥生並行期の遺跡が内陸部で確認されることが特徴的である。

最後に、今回の調査では想定を超える多くの遺構や遺物を確認したため、すべての情報を報告することができず、主要なものについて報告を行った。特に、各遺跡毎の遺構や遺物の情報を詳細に比較・検討することができなかったが、広範囲で複数の遺跡を同時に調査し、比較検討を行うことは、当該地域の土地の履歴や文化を知るとともに、考古学的にも重要な情報になるとかんがえられることから、今後の類例の調査や研究の進展に期待したい。

表 68　遺跡ごとの掘立柱建物跡集計表

	A群　58 棟							B群　95 棟					合計
	A	A1	A2	A3	A4	A5	A6	B	B1	B2	B3	B4	
楚辺親見原遺跡A										1			1
楚辺徳地原遺跡B									1	1			2
楚辺徳地原遺跡C	20	4	2	3	1				31	12	2	1	76
楚辺徳地原遺跡D	3	7	1	1				2	11	6	2	1	34
楚辺徳地原遺跡F								4	7	2	2	1	16
古堅通地原遺跡A	6				3				3				12
大湾親見原遺跡A	1					1		1		1			4
大湾糸蒲原遺跡A	2					2	1	1		2			8
計	32	11	3	4	4	3	1	8	53	25	6	3	153

引用・参考文献

安座間充 2000「琉球弧からみた弥生時代併行期の九州と交易様相―当該期搬入土器群および「弥生系土器」の再検証を中心に―」『地域文化論叢』第３号、P1-46 沖縄国際大学大学院地域文化研究科

安座間充 2004『沖縄編年後期・土器整理ノート（１）―弥生・古墳時代併行期の在地土器文様―』地域文化論叢第６号、P43-70、沖縄国際大学大学院地域文化研究科

安座間充 2014「貝塚時代後１期・沖縄諸島の土器動態」『琉球列島の土器・石器・貝製品・骨製品文化』琉球列島先史・原史時代における環境と文化の変遷に関する実証的研究第１集、P157-172、六一書房

新垣力 2003「沖縄出土の清朝陶磁」『沖縄埋文研究』１、P73-88、沖縄県立埋蔵文化財センター

新垣力 2018「琉球王国における近世陶磁器の流通」『琉球王国の近世陶磁器流通』第８回近世陶磁研究会資料、P1-24、近世陶磁研究会

伊藤慎二 2000『琉球縄文文化の基礎的研究』小林達雄監修、未完成考古学叢書 1

上原静・當眞嗣一「仲原式土器の提唱について」『紀要』第１号、P1-12

大堀皓平 2012「沖縄諸島出土打製石鏃の基礎的研究」『南島考古』第 31 号、P31-40、沖縄考古学会

大堀皓平 2014「琉球列島の石器・石器石材」『琉球列島の土器・石器・貝製品・骨製品文化』琉球列島先史・原史時代における環境と文化の変遷に関する実証的研究第１集、P263-276、六一書房

大堀皓平 2017「沖縄・奄美諸島における黒曜石研究の現状」『南島考古』第 36 号、P125-134、沖縄考古学会

小畑弘己・盛本勲・角縁進 2004「琉球列島出土の黒曜石製石器の化学分析による産地推定とその意義」『Stone Sources』No.4、P101-136、石器原産地研究会

小野正敏 1982「15、16 世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究』№２、P71-87、日本貿易陶磁研究会

片桐千亜紀・小橋川剛・島袋利恵子・土肥直美 2007「具志川島岩立遺跡出土人骨の再整理－焼けた骨の存在から見た葬法に焦点をあてて－」『沖縄埋文研究』５、P1-24、沖縄県立埋蔵文化財センター

川口雅之・野崎拓司・安田未来・輿嶺友紀也 2023「貝塚時代前４・５期の研究」『奄美考古』第 10 号、P19-37、奄美考古学会

具志堅亮 2014「グスク土器の変遷」『琉球列島の土器・石器・貝製品・骨製品文化』琉球列島先史・原史時代における環境と文化の変遷に関する実証的研究第１集、P215-226、六一書房

小橋川剛 2014「先史土器文化の終焉過程―沖縄諸島の様相―」『琉球列島の土器・石器・貝製品・骨製品文化』琉球列島先史・原史時代における環境と文化の変遷に関する実証的研究第１集、P187-198、六一書房

小林善也 2009「河原田遺跡出土の滑石製石鍋転用品について―資料紹介―」『研究紀要』第４号、P59-66、土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム

新里亮人 2003a「琉球列島における窯業生産の成立と展開」『考古学研究』第 49 巻第４号（通巻 196 号）、P75-95、考古学研究会

新里亮人 2003b「徳之島カムィヤキ古窯産製品の流通とその特質」『先史学・考古学論究Ⅳ』、PP.387-413、龍田考古会

新里亮人 2004「カムィヤキ古窯の技術系譜と成立背景」『グスク文化を考える』、P325-352、今帰仁村教育委員会

新里亮人 2018『琉球国成立前夜の考古学』、同成社

新里貴之 1999「南西諸島の弥生並行期の土器」『人類学研究』11、P75-106

新里貴之 2004「沖縄諸島の土器」高宮廣衛・知念勇編『考古資料大観 12　貝塚後期文化』P203-212、小学館

新里貴之 2008「琉球縄文土器後期」小林達雄編『総覧縄文土器』P827-829、アム・プロモーション

新里貴之・北野堪重郎 2014「奄美諸島・貝塚時代後１期の土器文化」『琉球列島の土器・石器・貝製品・骨製品文化』琉球列島先史・原史時代における環境と文化の変遷に関する実証的研究第１集、P145-156、六一書房

新里貴之・鼎丈太郎 2013「瀬戸内町安脚場遺跡採集土器（阿波連浦下層式土器）」『奄美考古第７号、P44-60、奄美考古学会

瀬戸哲也・仁王浩司・玉城靖・宮城弘樹・安座間充・松原哲志 2007「沖縄における貿易陶磁研究－ 14 ～ 16 世紀を中心に－」『沖縄埋文研究』５、P55-76、沖縄県立埋蔵文化財センター

瀬戸哲也 2014「室川式・室川上層式および関連土器の群の再検討」『琉球列島の土器・石器・貝製品・骨製品文化』琉球列島先史・原史時代における環境と文化の変遷に関する実証的研究第１集、P101-118、六一書房

樋泉岳二 2011「琉球先史時代と動物資源利用―脊椎動物遺体を中心に―」『先史・原史時代の琉球列島～ヒトと景観』、P109-133、六一書房

森田太樹 2014「奄美諸島における前５期の土器につ

いて」『琉球列島の土器・石器・貝製品・骨製品文化』琉球列島先史・原史時代における環境と文化の変遷に関する実証的研究第１集、P119-130、六一書房
宮城弘樹 2006「沖縄諸島におけるグスク時代建物跡の分類」『廣友会誌』第２号、P13-24、廣友会
宮城弘樹 2008「ウミアッチャーとハルサー」『沖縄タイムス』2028 7月 22 日掲載記事
宮城弘樹 2014「貿易陶磁出現期の琉球列島における土器文化」『琉球列島の土器・石器・貝製品・骨製品文化』琉球列島先史・原史時代における環境と文化の変遷に関する実証的研究第１集、P199-214、六一書房
宮城弘樹 2019「グスク時代初期の土坑墓－喜界島城久遺跡群の土坑墓との比較を中心として－」『地域研究』45 号、P1-14、沖縄国際大学南島文化研究所編
宮城弘樹 2013「貝塚時代後期土器の研究（Ⅴ）―アカジャンガー式土器の概念整理―」『廣友会誌』、第６号、P11-20、廣友会
宮城弘樹 2014a「貿易陶磁出現期の琉球列島における土器文化」『琉球列島の土器・石器・貝製品・骨製品文化』琉球列島先史・原史時代における環境と文化の変遷に関する実証的研究第１集、P199-214、六一書房
宮城弘樹 2014b「貝塚時代後期土器の研究（Ⅵ）―フェンサ下層式土器の概念整理―」『廣友会誌』、第７号、P8-19、廣友会
宮城弘樹・具志堅亮 2007「中世並行期における南西諸島の在地土器の様相」『廣友会誌』第３号、PP.2-16、廣友会
山崎真治 2013「沖縄・先島諸島の石器石材の流通とその評価」『考古学ジャーナル』638 P25-29　ニューサイエンス社
伊仙町教育委員会 2005『カムィヤキ古窯跡群Ⅳ』第 12 集
浦添市教育委員会 1993『嘉門貝塚 B』第 21 集
沖縄県教育委員会 1985『シヌグ堂遺跡』第 67 集
沖縄県教育委員会 1986『地荒原遺跡』第 75 集
沖縄県立埋蔵文化財センター 2006『西長浜遺跡』第 39 集
沖縄県立埋蔵文化財センター 2017『キャンプ瑞慶覧内病院地区に係る文化財発掘調査報告書４－普天間古集落遺跡・普天間後原第二遺跡－』第 90 集
沖縄国際大学文学部考古学研究室 1999『渡嘉敷村阿波連浦貝塚発掘調査報告書』沖国第考古第 12 号
鹿児島県立埋蔵文化財センター 2022『中津野遺跡　低地部・低湿地部編』217
鹿児島県立埋蔵文化財センター 2024『高橋貝塚１（発掘調査記録写真集）』226
鹿児島県教育委員会公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財センター 2023『北山遺跡１』51
宜野湾市教育委員会 1991『ヌバタキ』
宜野湾市教育委員会 2016『瑞慶覧基地内病院地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書１』第 51 集
宜野湾市教育委員会 2017『瑞慶覧基地内病院地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書２』第 52 集
喜界町教育委員会 2006『城久遺跡群山田中西遺跡Ⅰ』8
喜界町教育委員会 2008『城久遺跡群―山田中西遺跡Ⅱ』9
喜界町教育委員会 2009『城久遺跡群山田半田遺跡（山田半田Ａ遺跡・山田半田Ｂ遺跡）』10
喜界町教育委員会 2011『城久遺跡群―前畑遺跡・小ハネ遺跡』11
喜界町教育委員会 2013a『城久遺跡群―大ウフ遺跡・半田遺跡』12
喜界町教育委員会 2013b『城久遺跡群―半田口遺跡』13
喜界町教育委員会 2018「崩リ遺跡Ⅰ第２分冊中世遺構・図版編』16
熊本大学文学部考古学研究室 1986『手広遺跡（概報）』研究室活動報告 20
大宰府市教育委員会 2000『大宰府条坊跡ＸＶ－陶磁器分類編－』第 49 集
龍郷町教育委員会 1986『手広遺跡』
龍郷町教育委員会 2002『ウフタⅢ遺跡』２
北谷町教育委員会 2003『後兼久原遺跡』第 21 集
北谷町教育委員会 2007『伊礼原遺跡』第 21 集
北谷町教育委員会 2012『小堀原遺跡』第 34 集
北谷町教育委員会 2015『平安山原Ｂ遺跡』第 37 集
北谷町教育委員会 2016a『平安山原Ａ遺跡』第 38 集
北谷町教育委員会 2016b『平安山原Ｂ・Ｃ遺跡』第 40 集
知名町教育委員会 2009『友留遺跡』11
読谷村役場 1988『読谷村史』　第三巻資料２
読谷村役場 1990『読谷村関係資料　読谷村山の由来記』
読谷村教育委員会 1977『渡具知東原』第３集
読谷村教育委員会 1978『木綿原遺跡』第５集
読谷村教育委員会 1990『吹出原遺跡』第９集
読谷村教育委員会 2001『タシーモー北方遺跡』第 10 集
読谷村教育委員会 2003『ウガンヒラー北方遺跡』
読谷村教育委員会 2023『楚辺徳地原遺跡Ａ・Ｂ―キャンプ瑞慶覧及び牧港補給地区の一部返還に伴う陸軍関連施設移設事業の緊急発掘調査報告書―』第 19 集